

仙台市文化財調査報告書第512集

長町駅東遺跡第14次調査(1)

— 総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書 —

[第1分冊]

2024年 3 月

仙台市教育委員会

株式会社 ヤマダホールディングス

序 文

仙台市の文化財保護行政につきまして、日ごろから多大なご協力を賜り、感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世に至るまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちが残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら市民の宝として次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことであると考えております。

本報告書は、多賀城造営以前の陸奥国府と考えられ、国の史跡指定を受けた「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」の西側に位置する、あすと長町地区で実施された長町駅東遺跡第14次発掘調査の成果をまとめたものです。

あすと長町土地区画整理事業に伴う発掘調査は平成10年から開始され、古墳時代後期から奈良時代としては、東北地方でも最大級の集落が事業地内にあったことが明らかになり、郡山遺跡に営まれた官衙との関係が考えられております。今回の調査は長町駅東遺跡の中心部で行われ、竪穴住居跡が150軒以上密集して確認されたほか、貴重な遺物が多く出土したことにより、集落内での居住空間の変遷が明らかになりました。

ここに報告する調査成果が地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び報告書の刊行に際しまして、特に事業者様には発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言を賜りましたことに深く感謝申し上げます、刊行の序といたします。

令和6年3月

仙台市教育委員会
教育長 福田 洋之

例 言

1. 本書は、総合店舗建設に伴い令和元年度から令和2年度にかけて実施した長町駅東遺跡第14次発掘調査のうち、令和元年度分の調査成果を収録したものである。
2. 発掘調査および本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサル東北支店が実施した。
3. 本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課、三浦 一樹、工藤 信一郎の監理の下、株式会社シン技術コンサル東北支店が、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業を担当した。
4. 本書の執筆・図版作製は、第1章第1節を三浦 一樹、第1章第2節・第2章～第4章・第7章を吉澤 学（以下、株式会社シン技術コンサル東北支店）が担当した。また、第5章の担当は下記の通りであり、全体の編集は山田 あゆみ・大和 尚子の協力を得て、吉澤が担当した。
第5章 遺構事実記載 第1・2節(1)～(3)：吉澤 第2節(4)～(7)：安生 素明
同 遺物事実記載 第1・2節 土師器・須恵器：竹越 亜希子 土器以外：渡邊 瑛彦・横山 志穂
第3節 弥生・縄文土器：三和 春香 石器類：渡邊 ※出土状況の事実記載：吉澤
5. 第6章「自然科学分析」の執筆は第1節をパリノ・サーヴェイ株式会社、第2節を株式会社加速器分析研究所へ委託し、吉澤がその一部を編集して掲載した。
6. 実測図を含む遺物図版の点検は、土師器・須恵器を工藤が、それ以外を三浦が担当した。遺構図版は、住居跡を工藤が、それ以外を三浦が担当した。
7. 石器・石製品の石材の同定は、小川 長導、重留 康宏（株式会社シン技術コンサル東北支店）が行ったほか、観察表中に(●)を付した石材については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託して行った。また、石材の名称は各々の同定結果をそのまま掲載した。
8. 第254図と写真図版384のPEAKIT画像については、株式会社ラングおよび株式会社Koikeの協力を得た。
9. 本書の成果は、これまでに宮城県考古学会等で内容の一部が紹介されているが、本書の記載内容がそれらに優先する。
10. 調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

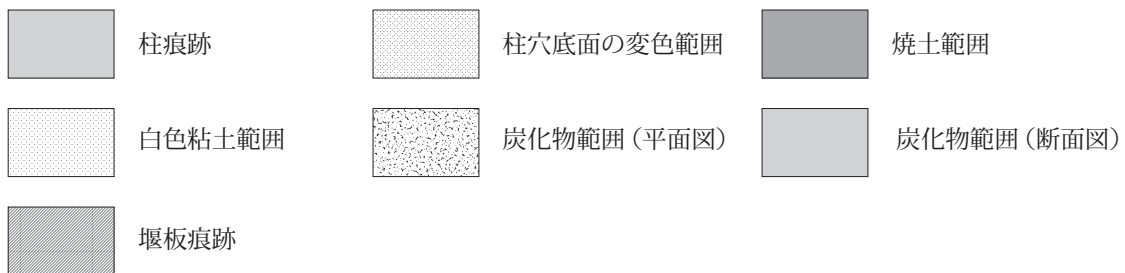
1. 第1図・第2図の地形図は、それぞれ国土地理院発行「長町」1：10,000、「仙台」1：25,000を使用し作製した。
2. 遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第X系」を基準とした。図中および本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。
3. 本書中の土色の記載には、『新版 標準土色帖』2018年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。
4. 断面図中の数値は、海拔高度（T・P）を示す。
5. 調査で検出した遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとにアラビア数字を付した。
SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：竪穴状遺構・竪穴住居跡 SK：土坑 Pit：ピット SX：性格不明遺構
6. 竪穴住居跡における主軸方位の算出および壁面呼称の基準は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（仙台市教育委員会2010）に準じた。

7. 本文中における竪穴住居跡カマドの袖形態については、以下の基準で分類した。

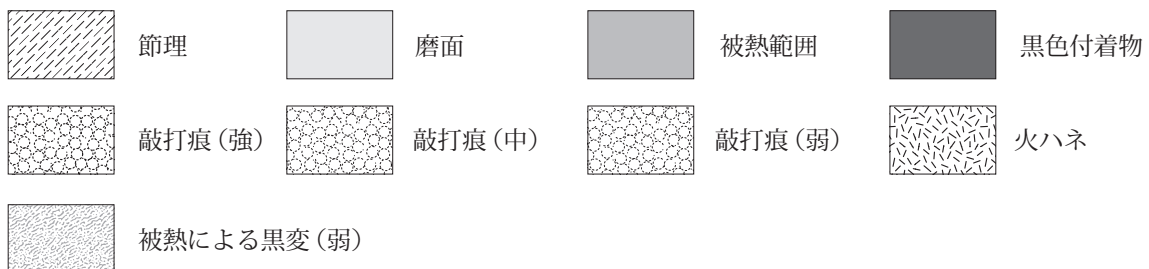


8. 竪穴住居跡の床面施設（柱穴・その他の施設）については、調査当時の記号をそのまま用いた。よって、貯蔵穴やカマド関連土坑の一部にPの記号を付した例がある。

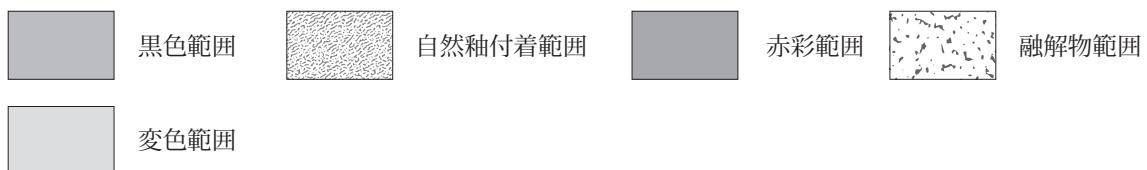
9. 遺構図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



10. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



11. 土器・土製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。



12. 本文中の「灰白色火山灰」(山田・庄子1980)は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰(To-a)」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄1980「宮城県に分布する灰白色火山灰」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1979』

仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題—十和田aと白頭山(長白山)を中心に—」

『日本律令の展開』吉川弘文館

13. 本文中の遺構事実記載における放射性炭素年代(AMS測定)の値は、暦年較正年代(1σ)を表記した。

14. 出土遺物の登録は以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器はKの後ろに小文字アルファベットを付し、それを分類種別とした。

A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（非ロクロ調整） D：土師器（ロクロ調整） E：須恵器 I：陶器
Ka：打製石器 Kb：磨製石器 Kc：礫石器 Kd：石製品 N：金属製品 O：自然遺物 P：土製品

15. 遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

16. 土器類の器種・部位呼称、計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。

17. 石器・石製品の实測図における計測位置は、『西台畑遺跡第1・2次調査』（前掲）に準じた。

18. 金属製品の最大幅と厚さは、機能部位ごとに計測した。

19. 遺構・遺物の観察表内における（ ）付きの計測値は、土器類の各径については推定、それ以外については残存値を示す。

20. 掲載した遺物写真の縮尺は、基本的に遺物実測図に準じているが、異なるものについては縮尺率を付した。

21. 当該期における在地の土師器坏と異なり、内面に黒色処理が施されず、ナデ調整主体の土師器坏を関東系土師器とした。器形や調整、色調、胎土の違いから、以下のように分類し記載した。なお、各分類の中には調整や胎土などにおいて在地の特徴をあわせ持つものも認められる。

・鬼高系土師器

関東地方東部の須恵器模倣坏に類似するもの。内面は主にナデ調整が施され、黒色処理は認められない。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように緻密で混入物が少ない。基本的に内外面に漆仕上げが施される。『郡山遺跡 総括編』（仙台市教委2005）の「坏CⅢ類」、『沼向遺跡第4～34次調査』（同2010）の「南小泉型関東系土器」に相当する。

・北武蔵型土師器

関東地方北西部の北武蔵型暗文坏に類似するもの。半球形を呈し、口縁部が「S」字状を呈する。内面の黒色処理は認められない。このほか、口縁部が小さく内屈または内湾する北武蔵型坏がある。『郡山遺跡 総括編』（仙台市教委2005）の「坏B類」の一部、『沼向遺跡第4～34次調査』（同2010）の「清水型関東系土器」に相当する。

・有段口縁坏

関東地方北西部の有段口縁坏に器形が類似するもの。内面は主にナデ調整が施され、黒色処理は認められない。

・その他の関東系土師器

器形・胎土・調整が関東系土師器の特徴をもつが、上記の分類に含まれず主に薄手で精巧なつくりをしているもの。

津野仁 1995「栃木県における6・7世紀の土器編年と地域的特徴」『東国土器研究』第4号 東国土器研究会

仙台市教育委員会 2005『郡山遺跡発掘調査報告書—総括編(1)—』仙台市文化財調査報告書第283集

仙台市教育委員会 2010『沼向遺跡第4～34次調査 第9分冊』仙台市文化財調査報告書第360集

仙台市教育委員会 2011『西台畑遺跡第3次調査』仙台市文化財調査報告書第388集

鶴間正昭 2019『律令国家成立期の土器様相』六一書房

22. 外面最終調整がヘラケズリのための土師器甕は、以下のように本文で書き分けることとした。

弱いヘラケズリ……ヘラナデのような痕跡を持つ単位が不明瞭なもの。

ヘラケズリ……砂粒が動いているもの。

強いヘラケズリ……面を持ち、単位が明瞭なもの。

23. 胎土と色調は、在地産と異なるものや特徴的なものを本文または観察表に記載した。
24. 報告書作成に際し、土師器・須恵器の一部については安達 訓仁・石本 弘・佐藤 敏幸・菅原 祥夫・津野 仁村田 晃一の各氏にご教示頂き、線刻文字については三上 喜孝氏に鑑定して頂いた。記して感謝の意を表す次第である。
25. 本書で用いる時期区分は、『長町駅東遺跡第13次調査』（仙台市教育委員会2014）を参考にし、以下の通りに再設定した。

- 1期：5世紀後半（古墳時代中期）
- 2期：6世紀代（古墳時代後期）
- 3期：6世紀末頃～7世紀前半（囲郭集落出現期）
- 4期：7世紀中頃～後半（郡山Ⅰ期官衙期）
- 5期：7世紀末頃～8世紀初頭（郡山Ⅱ期官衙期）
- 6期：8世紀前半（多賀城創建期）
- 7期：8世紀中頃～後半

なお、竪穴住居跡の時期決定には床面および床面施設出土の遺物を優先し、堆積土出土の遺物は住居跡同士の重複が著しいため参考程度に留めた。

第1分冊 目次

序文		
例言		
凡例		
第1章	調査に至る経過	1
	第1節 調査事由	1
	第2節 調査要項	1
	(1) 調査体制	1
	(2) 調査報告書作成体制	2
第2章	遺跡の位置と環境	3
	第1節 長町駅東遺跡の立地と地形	3
	第2節 周辺の遺跡と歴史的環境	3
第3章	調査の方法と概要	6
	第1節 調査区と区割の設定	6
	第2節 調査概要	6
	(1) 調査経過	6
	(2) 測量基準・図面の作製	7
	(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作製	8
	(4) 遺構登録番号	8
	(5) 調査報告書作成作業	8
第4章	基本層序	8
	第1節 基本層序	8
第5章	検出遺構と出土遺物	11
	第1節 平安時代以降の遺構と遺物	11
	(1) 円形周溝状遺構	11
	(2) 溝跡	14
	(3) 土坑	34
	(4) ピット	49
	(5) 性格不明遺構	71
	第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物	72
	(1) 竪穴住居跡	72

第2分冊 目次

第5章 検出遺構と出土遺物	323
第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物	323
(1) 竪穴住居跡	323
(2) 鍛冶関連遺構	494
(3) 掘立柱建物跡	510
(4) 溝跡	523
(5) 土坑	563
(6) ピット	570
(7) 性格不明遺構	570
(8) 遺構外出土遺物	582
第3節 弥生時代以前の遺構と遺物	588
(1) 弥生時代包含層調査の概要	588
(2) IV・V層出土遺物	588
(3) 包含層外出土遺物	601
(4) 接合資料	628
(5) 縄文土器	636
(6) 下層トレンチ調査	636
第6章 自然科学分析	641
第1節 長町駅東遺跡第14次調査の花粉分析	641
(1) 試料	641
(2) 分析方法	641
(3) 結果	644
(4) 考察	644
第2節 長町駅東遺跡第14次調査における放射性炭素年代(AMS測定)	647
(1) 測定対象試料	647
(2) 測定の意義	647
(3) 化学処理工程	649
(4) 測定方法	649
(5) 算出方法	649
(6) 測定結果	650
第7章 まとめ	654
引用・参考文献	

第3分冊 目次

写真図版
報告書抄録

第1分冊 挿図目次

<p>第 1 図 長町駅東遺跡位置図 …………… 2</p> <p>第 2 図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡 …………… 5</p> <p>第 3 図 第14次調査区区割配置図 …………… 7</p> <p>第 4 図 基本層序 …………… 9</p> <p>第 5 図 平安時代以降の遺構配置図 …………… 12</p> <p>第 6 図 SX40・48円形周溝状遺構 …………… 13</p> <p>第 7 図 SD290 溝跡 …………… 15</p> <p>第 8 図 SD290 溝跡出土遺物 …………… 16</p> <p>第 9 図 SD300 溝跡・同出土遺物 …………… 17</p> <p>第 10 図 SD305 溝跡 …………… 18</p> <p>第 11 図 SD305 溝跡出土遺物 …………… 19</p> <p>第 12 図 SD307 溝跡 …………… 20</p> <p>第 13 図 SD307 溝跡出土遺物(1) …………… 21</p> <p>第 14 図 SD307 溝跡出土遺物(2) …………… 22</p> <p>第 15 図 SD307 溝跡出土遺物(3) …………… 23</p> <p>第 16 図 SD307 溝跡出土遺物(4) …………… 24</p> <p>第 17 図 SD307 溝跡出土遺物(5) …………… 25</p> <p>第 18 図 SD307 溝跡出土遺物(6) …………… 26</p> <p>第 19 図 SD307 溝跡出土遺物(7) …………… 27</p> <p>第 20 図 SD307 溝跡出土遺物(8) …………… 28</p> <p>第 21 図 SD307 溝跡出土遺物(9) …………… 29</p> <p>第 22 図 SD307 溝跡出土遺物(10) …………… 30</p> <p>第 23 図 SD307 溝跡出土遺物(11) …………… 31</p> <p>第 24 図 SD307 溝跡出土遺物(12) …………… 32</p> <p>第 25 図 SD316 溝跡 …………… 33</p> <p>第 26 図 平安時代以降土坑出土遺物 …………… 35</p> <p>第 27 図 平安時代以降土坑(1) …………… 36</p> <p>第 28 図 平安時代以降土坑(2) …………… 37</p> <p>第 29 図 平安時代以降土坑(3) …………… 38</p> <p>第 30 図 平安時代以降土坑(4) …………… 39</p> <p>第 31 図 平安時代以降土坑(5) …………… 40</p> <p>第 32 図 平安時代以降土坑(6) …………… 41</p> <p>第 33 図 平安時代以降土坑(7) …………… 42</p> <p>第 34 図 平安時代以降土坑(8) …………… 43</p> <p>第 35 図 平安時代以降土坑(9) …………… 44</p> <p>第 36 図 平安時代以降土坑(10) …………… 45</p> <p>第 37 図 平安時代以降ピット配置図(1) …… 50</p>	<p>第 38 図 平安時代以降ピット配置図(2) …… 51</p> <p>第 39 図 平安時代以降ピット配置図(3) …… 52</p> <p>第 40 図 平安時代以降ピット配置図(4) …… 53</p> <p>第 41 図 平安時代以降ピット配置図(5) …… 54</p> <p>第 42 図 平安時代以降ピット配置図(6) …… 55</p> <p>第 43 図 Pit41・846・1157・1508・1557 出土遺物 …………… 70</p> <p>第 44 図 平安時代以降性格不明遺構 …………… 71</p> <p>第 45 図 古墳時代～奈良時代の遺構配置図 … 73</p> <p>第 46 図 SI384 竪穴住居跡(1) …………… 75</p> <p>第 47 図 SI384 竪穴住居跡(2) …………… 76</p> <p>第 48 図 SI384 竪穴住居跡出土遺物 …………… 78</p> <p>第 49 図 SI385 竪穴住居跡(1) …………… 79</p> <p>第 50 図 SI385 竪穴住居跡(2) …………… 80</p> <p>第 51 図 SI385 竪穴住居跡出土遺物 …………… 81</p> <p>第 52 図 SI386 竪穴住居跡 …………… 82</p> <p>第 53 図 SI387 竪穴住居跡(1) …………… 84</p> <p>第 54 図 SI387 竪穴住居跡(2) …………… 85</p> <p>第 55 図 SI387 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 86</p> <p>第 56 図 SI387 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 87</p> <p>第 57 図 SI388 竪穴住居跡 …………… 88</p> <p>第 58 図 SI388 竪穴住居跡出土遺物 …………… 90</p> <p>第 59 図 SI389 竪穴住居跡 …………… 92</p> <p>第 60 図 SI389 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 94</p> <p>第 61 図 SI389 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 95</p> <p>第 62 図 SI390 竪穴住居跡 …………… 96</p> <p>第 63 図 SI391 竪穴住居跡 …………… 98</p> <p>第 64 図 SI391 竪穴住居跡出土遺物 …………… 100</p> <p>第 65 図 SI392 竪穴住居跡(1) …………… 101</p> <p>第 66 図 SI392 竪穴住居跡(2) …………… 102</p> <p>第 67 図 SI392 竪穴住居跡出土遺物(1) …… 103</p> <p>第 68 図 SI392 竪穴住居跡出土遺物(2) …… 104</p> <p>第 69 図 SI393 竪穴住居跡 …………… 105</p> <p>第 70 図 SI394 竪穴住居跡・同出土遺物 …… 106</p> <p>第 71 図 SI395 竪穴住居跡 …………… 108</p> <p>第 72 図 SI395 竪穴住居跡出土遺物 …………… 110</p> <p>第 73 図 SI396 竪穴住居跡出土遺物 …………… 111</p>
---	--

第 74 図	SI396 竪穴住居跡	112	第 113 図	SI410 竪穴住居跡	162
第 75 図	SI397 竪穴住居跡	113	第 114 図	SI410 竪穴住居跡出土遺物	163
第 76 図	SI398 竪穴住居跡	115	第 115 図	SI411 竪穴住居跡	164
第 77 図	SI399 竪穴住居跡(1)	117	第 116 図	SI411 竪穴住居跡出土遺物	165
第 78 図	SI399 竪穴住居跡(2)	118	第 117 図	SI412 竪穴住居跡・同出土遺物	166
第 79 図	SI399 竪穴住居跡出土遺物	119	第 118 図	SI413 竪穴住居跡(1)	169
第 80 図	SI400 竪穴住居跡(1)	121	第 119 図	SI413 竪穴住居跡(2)	171
第 81 図	SI400 竪穴住居跡(2)	122	第 120 図	SI413 竪穴住居跡出土遺物(1)	172
第 82 図	SI400 竪穴住居跡出土遺物(1)	123	第 121 図	SI413 竪穴住居跡出土遺物(2)	173
第 83 図	SI400 竪穴住居跡出土遺物(2)	124	第 122 図	SI413 竪穴住居跡出土遺物(3)	174
第 84 図	SI402 竪穴住居跡・同出土遺物	126	第 123 図	SI414 竪穴住居跡	175
第 85 図	SI403 竪穴住居跡(1)	128	第 124 図	SI414 竪穴住居跡出土遺物	177
第 86 図	SI403 竪穴住居跡(2)	129	第 125 図	SI415 竪穴住居跡(1)	178
第 87 図	SI403 竪穴住居跡出土遺物	130	第 126 図	SI415 竪穴住居跡(2)	179
第 88 図	SI404 竪穴住居跡(1)	132	第 127 図	SI415 竪穴住居跡出土遺物	180
第 89 図	SI404 竪穴住居跡(2)	133	第 128 図	SI416 竪穴住居跡(1)	182
第 90 図	SI404 竪穴住居跡(3)	134	第 129 図	SI416 竪穴住居跡(2)	183
第 91 図	SI404 竪穴住居跡出土遺物(1)	135	第 130 図	SI416 竪穴住居跡出土遺物	184
第 92 図	SI404 竪穴住居跡出土遺物(2)	136	第 131 図	SI417 竪穴住居跡(1)	186
第 93 図	SI404 竪穴住居跡出土遺物(3)	137	第 132 図	SI417 竪穴住居跡(2)	187
第 94 図	SI404 竪穴住居跡出土遺物(4)	138	第 133 図	SI418 竪穴住居跡	189
第 95 図	SI405 竪穴住居跡(1)	139	第 134 図	SI419 竪穴住居跡・同出土遺物	191
第 96 図	SI405 竪穴住居跡(2)	140	第 135 図	SI420 竪穴住居跡	192
第 97 図	SI405 竪穴住居跡出土遺物(1)	141	第 136 図	SI420 竪穴住居跡出土遺物	193
第 98 図	SI405 竪穴住居跡出土遺物(2)	142	第 137 図	SI421 竪穴住居跡・同出土遺物	194
第 99 図	SI406 竪穴住居跡	143	第 138 図	SI422 竪穴住居跡・同出土遺物	195
第 100 図	SI406 竪穴住居跡出土遺物	144	第 139 図	SI423A 竪穴住居跡	197
第 101 図	SI407 竪穴住居跡	146	第 140 図	SI423A 竪穴住居跡出土遺物	198
第 102 図	SI407 竪穴住居跡出土遺物	147	第 141 図	SI423B 竪穴住居跡	200
第 103 図	SI408A 竪穴住居跡(1)	148	第 142 図	SI423B 竪穴住居跡出土遺物	201
第 104 図	SI408A 竪穴住居跡(2)	149	第 143 図	SI424 竪穴住居跡	202
第 105 図	SI408A 竪穴住居跡出土遺物(1)	151	第 144 図	SI424 竪穴住居跡出土遺物(1)	204
第 106 図	SI408A 竪穴住居跡出土遺物(2)	152	第 145 図	SI424 竪穴住居跡出土遺物(2)	205
第 107 図	SI408B 竪穴住居跡(1)	154	第 146 図	SI425A 竪穴住居跡(1)	207
第 108 図	SI408B 竪穴住居跡(2)	156	第 147 図	SI425A 竪穴住居跡(2)	208
第 109 図	SI408B 竪穴住居跡出土遺物	156	第 148 図	SI425A 竪穴住居跡出土遺物	209
第 110 図	SI409 竪穴住居跡(1)	157	第 149 図	SI425B 竪穴住居跡	211
第 111 図	SI409 竪穴住居跡(2)	158	第 150 図	SI426 竪穴住居跡	212
第 112 図	SI409 竪穴住居跡出土遺物	160	第 151 図	SI427 竪穴住居跡	213

第 152 図	SI428 豎穴住居跡	214	第 191 図	SI446 豎穴住居跡出土遺物(1)	269
第 153 図	SI429 豎穴住居跡	214	第 192 図	SI446 豎穴住居跡出土遺物(2)	270
第 154 図	SI430 豎穴住居跡(1)	216	第 193 図	SI447 豎穴住居跡	271
第 155 図	SI430 豎穴住居跡(2)	217	第 194 図	SI447 豎穴住居跡出土遺物	273
第 156 図	SI430 豎穴住居跡出土遺物	218	第 195 図	SI448 豎穴住居跡	274
第 157 図	SI431 豎穴住居跡(1)	219	第 196 図	SI448 豎穴住居跡出土遺物	276
第 158 図	SI431 豎穴住居跡(2)	220	第 197 図	SI449 豎穴住居跡	278
第 159 図	SI431 豎穴住居跡出土遺物(1)	223	第 198 図	SI450 豎穴住居跡・同出土遺物	279
第 160 図	SI431 豎穴住居跡出土遺物(2)	224	第 199 図	SI451 豎穴住居跡	281
第 161 図	SI432 豎穴住居跡	225	第 200 図	SI451 豎穴住居跡出土遺物(1)	283
第 162 図	SI432 豎穴住居跡出土遺物	227	第 201 図	SI451 豎穴住居跡出土遺物(2)	284
第 163 図	SI433 豎穴住居跡	228	第 202 図	SI452 豎穴住居跡	285
第 164 図	SI433 豎穴住居跡出土遺物	229	第 203 図	SI453 豎穴住居跡	286
第 165 図	SI434 豎穴住居跡(1)	230	第 204 図	SI453 豎穴住居跡出土遺物	287
第 166 図	SI434 豎穴住居跡(2)	231	第 205 図	SI454 豎穴住居跡	289
第 167 図	SI434 豎穴住居跡出土遺物	233	第 206 図	SI455 豎穴住居跡	290
第 168 図	SI435A 豎穴住居跡(1)	235	第 207 図	SI455 豎穴住居跡出土遺物(1)	292
第 169 図	SI435A 豎穴住居跡(2)	236	第 208 図	SI455 豎穴住居跡出土遺物(2)	293
第 170 図	SI435A 豎穴住居跡出土遺物(1)	237	第 209 図	SI455 豎穴住居跡出土遺物(3)	294
第 171 図	SI435A 豎穴住居跡出土遺物(2)	238	第 210 図	SI456 豎穴住居跡	294
第 172 図	SI435A 豎穴住居跡出土遺物(3)	239	第 211 図	SI457 豎穴住居跡	295
第 173 図	SI435B 豎穴住居跡・同出土遺物	241	第 212 図	SI458 豎穴住居跡(1)	296
第 174 図	SI436 豎穴住居跡	243	第 213 図	SI458 豎穴住居跡(2)	297
第 175 図	SI436 豎穴住居跡出土遺物(1)	244	第 214 図	SI459 豎穴住居跡	299
第 176 図	SI436 豎穴住居跡出土遺物(2)	245	第 215 図	SI460 豎穴住居跡	300
第 177 図	SI437 豎穴住居跡(1)	246	第 216 図	SI461 豎穴住居跡(1)	302
第 178 図	SI437 豎穴住居跡(2)	247	第 217 図	SI461 豎穴住居跡(2)	
第 179 図	SI437 豎穴住居跡出土遺物	248		・同出土遺物	304
第 180 図	SI438 豎穴住居跡・同出土遺物	250	第 218 図	SI462 豎穴住居跡	306
第 181 図	SI439 豎穴住居跡	252	第 219 図	SI463 豎穴住居跡(1)	308
第 182 図	SI440 豎穴住居跡(1)	255・256	第 220 図	SI463 豎穴住居跡(2)	309
第 183 図	SI440 豎穴住居跡(2)	257・258	第 221 図	SI463 豎穴住居跡出土遺物	310
第 184 図	SI440 豎穴住居跡出土遺物(1)	259	第 222 図	SI464 豎穴住居跡	312
第 185 図	SI440 豎穴住居跡出土遺物(2)	260	第 223 図	SI464 豎穴住居跡出土遺物	314
第 186 図	SI441 豎穴住居跡	261	第 224 図	SI465 豎穴住居跡	315
第 187 図	SI443 豎穴住居跡・同出土遺物	262	第 225 図	SI465 豎穴住居跡出土遺物	316
第 188 図	SI445 豎穴住居跡	265	第 226 図	SI466 豎穴住居跡	318
第 189 図	SI445 豎穴住居跡出土遺物	266	第 227 図	SI467 豎穴住居跡	319
第 190 図	SI446 豎穴住居跡	267	第 228 図	SI468 豎穴住居跡	320

第1分冊 挿表目次

第1表	円形周溝状遺構 観察表	11	第12表	ピット(平安時代以降) 観察表(6)	61
第2表	溝跡(平安時代以降) 観察表	34	第13表	ピット(平安時代以降) 観察表(7)	62
第3表	土坑(平安時代以降) 観察表(1)	46	第14表	ピット(平安時代以降) 観察表(8)	63
第4表	土坑(平安時代以降) 観察表(2)	47	第15表	ピット(平安時代以降) 観察表(9)	64
第5表	土坑(平安時代以降) 観察表(3)	48	第16表	ピット(平安時代以降) 観察表(10)	65
第6表	土坑(平安時代以降) 観察表(4)	49	第17表	ピット(平安時代以降) 観察表(11)	66
第7表	ピット(平安時代以降) 観察表(1)	56	第18表	ピット(平安時代以降) 観察表(12)	67
第8表	ピット(平安時代以降) 観察表(2)	57	第19表	ピット(平安時代以降) 観察表(13)	68
第9表	ピット(平安時代以降) 観察表(3)	58	第20表	ピット(平安時代以降) 観察表(14)	69
第10表	ピット(平安時代以降) 観察表(4)	59	第21表	ピット(平安時代以降) 観察表(15)	70
第11表	ピット(平安時代以降) 観察表(5)	60	第22表	性格不明遺構(平安時代以降) 観察表	71

第1章 調査に至る経過

第1節 調査事由(第1図)

長町駅東遺跡は、仙台市南部の太白区长町地区に計画された「仙台市あすと長町土地区画整理事業」(旧「仙台市長町副都心土地区画整理事業」)に伴い実施された確認調査により、所在が明らかになった遺跡である。

同事業に伴い、長町駅東遺跡およびその北東から東に隣接する西台畑遺跡と郡山遺跡の一部において、発掘調査が平成10年から継続的に実施された結果、竪穴住居跡が900軒程度発見された。これらの多くは、陸奥国府である多賀城に先行し、郡山遺跡で発見されている郡山Ⅰ・Ⅱ期官衙の造営・運営に携わった人々が生活した集落跡と考えられている。

長町駅東遺跡の調査は平成13年から開始され、これまでに350軒程度の竪穴住居跡が確認されている。また、集落の北部を区画する施設と考えられる材木列1列や一本柱列4列、通路状遺構を伴う大溝跡が、第3・4次調査(平成15・16年)で確認され、区画施設の変遷と集落の様相が明らかになってきた。

今回の長町駅東遺跡第14次調査は、あすと長町事業地内38街区に位置する。本街区は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災者用仮設住宅(あすと長町仮設住宅)が、2016年まで設置されていた区域である。

仙台市教育委員会は、本街区において株式会社ヤマダ電機(現 株式会社ヤマダホールディングス)が計画する総合店舗建設に伴い、文化財保護法第93条に基づき平成31年2月27日付で提出された「埋蔵文化財の取り扱いについて(協議)」へ対応するため、発掘調査を実施することとした。

今回の発掘調査区は、先述した古代の集落の中心部にあたることから多量の遺構・遺物が想定され、野外調査から報告書刊行まで長期間を要すると考えられた。そのため発掘調査の開始に際して、事業者と仙台市教育委員会の間で「あすと長町3丁目総合店舗建設計画に伴う長町駅東遺跡発掘調査に関する協定書」を令和元年5月31日付で締結した。また、同日に令和元年度の発掘調査委託契約も締結した。これ以降、事業者と年度毎に委託契約を締結し、発掘調査を継続した。各年度における発掘調査の体制や工程は、次節に記載する通りである。

第2節 調査要項

遺跡名：長町駅東遺跡(宮城県遺跡番号01449・仙台市文化財登録番号C-317)

所在地：宮城県仙台市太白区あすと長町3丁目1-2

調査原因：総合店舗建設計画

(1) 調査体制

令和元年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 澤目 雄大 三浦 一樹

調査組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 小川 長導 調査員 細野 高伯 中里 正憲 重留 康宏(令和2年2月17日～3月25日)

調査補助員 安生 素明 北村 和穂(令和元年7月24日～12月26日) 桑宮 慶一(令和2年1月6日～3月25日)

調査期間：2019年(令和元年)6月17日～2020年(令和2年)3月26日

調査面積：遺構調査5,423㎡ 下層調査506㎡

令和2年度

調査主体：仙台市教育委員会

調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 三浦 一樹

調査組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 細野 高伯 菊池 康一郎

調査補助員 安生 素明 桑宮 慶一

調査期間：2020年（令和2年）5月7日～2021年（令和3年）3月26日

調査面積：遺構調査4,243㎡ 下層調査807㎡

（2）調査報告書作成体制

令和3年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

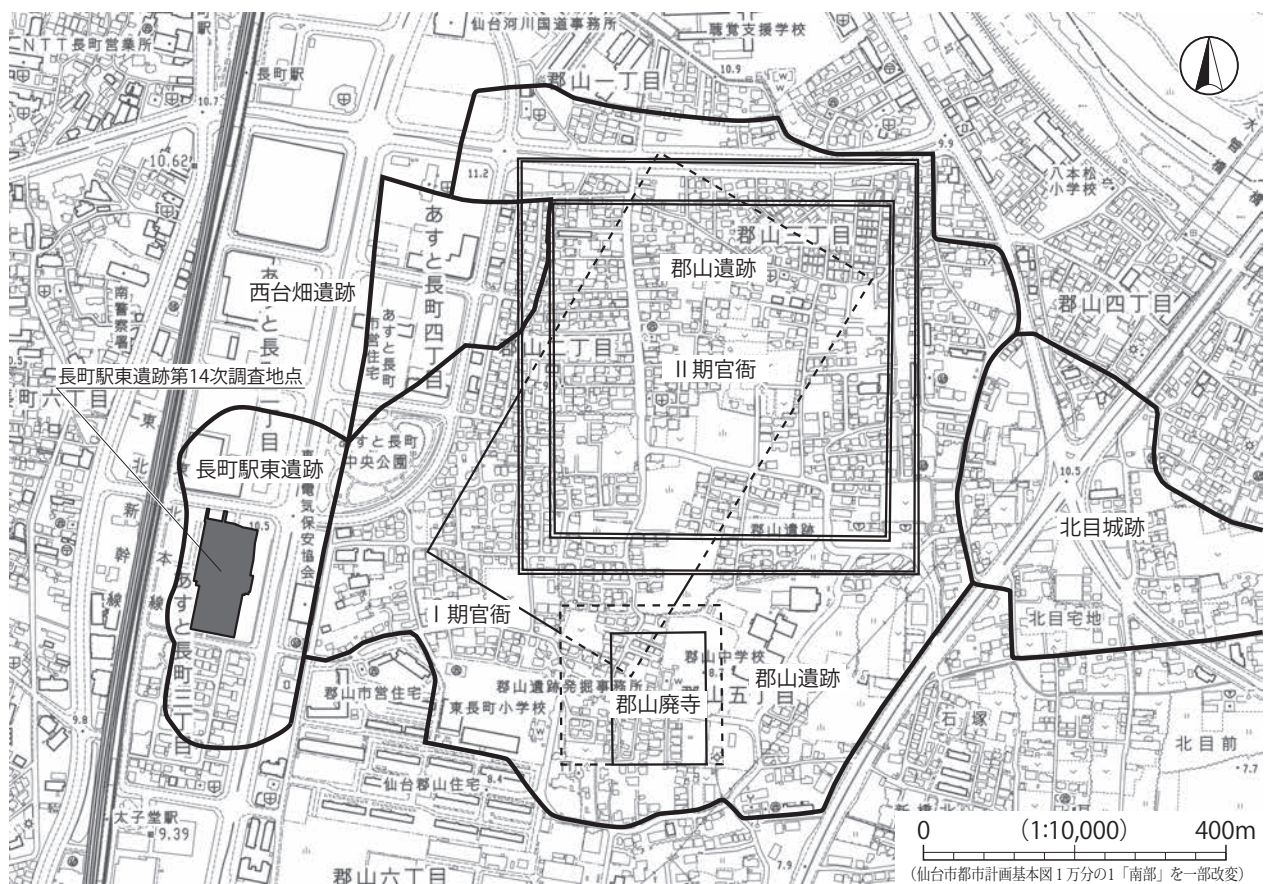
工藤 信一郎 三浦 一樹

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 小川 長導 桑宮 慶一

調査補助員 安生 素明 竹越 亜希子

整理期間：2021年（令和3年）5月10日～2022年（令和4年）3月25日



第1図 長町駅東遺跡位置図

令和4年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

工藤 信一郎 三浦 一樹

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 安生 素明 重留 康宏

調査補助員 竹越 亜希子 倉石 広太

整理期間：2022年（令和4年）5月9日～2023年（令和5年）3月24日

令和5年度

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係

三浦 一樹 工藤 信一郎

整理組織：株式会社シン技術コンサル東北支店

主任調査員 吉澤 学 調査員 安生 素明 重留 康宏

調査補助員 竹越 亜希子

整理期間：2023年（令和5年）5月8日～2024年（令和6年）3月22日

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 長町駅東遺跡の立地と地形（第1・2図）

長町駅東遺跡（第1・2図、以下同じ）は仙台市の南東部に位置し、太白区あすと長町3丁目付近に広がる遺跡である。遺跡の範囲は東西約200m、南北約480mで、総面積は90,000㎡におよぶ。現況はJR東北本線の東側に隣接し、長町駅から太子堂駅の中間に位置している。

長町駅東遺跡の北側には広瀬川、南側には名取川が流下し、両河川は遺跡から南東へ約2.5km離れた地点で合流する。この合流点から西方の青葉山丘陵に至るまでの両河川間は「郡山低地」と称され、標高5～21m前後を測る扇状地性の沖積面が広がる。同低地内には太白山麓に源を発する笹川をはじめ複数の中小河川が分岐・曲流し、その変流や浸食作用により自然堤防と後背湿地が複雑に入り組む微地形が発達している。長町駅東遺跡はこの郡山低地の中央からやや東寄り、標高10m前後の自然堤防と後背湿地に立地する。遺跡の東側には平成18年7月に「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国史跡の指定を受けた郡山遺跡(2)、北東側には西台畑遺跡(3)が隣接し、今回の第14次調査は遺跡範囲のほぼ中央に位置する。

第2節 周辺の遺跡と歴史的環境（第2図）

長町駅東遺跡周辺には、旧石器時代から近代にかけての遺跡が多数存在する。このうち主要な遺跡について時代ごとの概要を記載する。

旧石器時代 富沢遺跡(5)で約2万年前（後期旧石器時代）の湿地林や、焚火跡、石器ブロックが確認されている。氷河時代の自然環境と人類の生活痕跡が同時に発見された例であり、世界的にも希少である。現在は「仙台市富沢遺跡保存館（地底の森ミュージアム）」として保存・公開されている。

縄文時代 下ノ内浦遺跡(8)で早期前半の竪穴住居跡が確認され、押型文土器が出土した。富沢遺跡では早期後半の遺物包含層が確認されている。遺跡数は、前期から中期にかけて富沢地区一帯の沼湿地化により減少するが、六反田遺跡(12)で中期中葉の竪穴住居跡が2軒確認されている。青葉山丘陵東端部の三神峯遺跡(図外)では前期初頭～中期初頭の竪穴住居跡や土坑群が確認され、長期間にわたる集落の存続が推定される。中期末から後期になる

と郡山低地の土地利用が本格化し、遺跡数も増加する。六反田遺跡では中期末～後期初頭の竪穴住居跡が、下ノ内遺跡(13)では中期末の複式炉を伴う敷石住居跡が、下ノ内浦遺跡・大野田遺跡(10)では後期前半の配石遺構などが確認された。後期後半から晩期にかけては低地への進出が一段と進み、郡山遺跡では土坑状の遺構と後期後葉の土器が出土した。川前遺跡(17)では後期末～晩期初頭の竪穴住居跡が確認されたほか、遺物包含層から晩期のイモ貝形石製品、岩偶、岩版、石刀などが出土した。

弥生時代 前期は調査事例がほとんどなく、詳細は不明である。中期は郡山低地内の後背湿地を利用した水田や、自然堤防上の集落などが出現する。長町駅東遺跡では中期中葉の水田跡や水路、竪穴住居跡、土器埋設遺構、土壙墓などが調査され、当時の生活様式を知る上で貴重な情報が得られている。富沢遺跡では中期～後期の水田跡から木製農耕具が出土し、泉崎浦遺跡(6)・山口遺跡(7)・元袋遺跡(9)では後期の水田跡が確認された。下ノ内浦遺跡では後期の土壙墓と土器埋設遺構が確認されている。

古墳時代 前期古墳は郡山低地で確認されていないが、本遺跡から北東へ約6km離れた、広瀬川左岸の自然堤防上に遠見塚古墳(28)が築造される。仙台市内最大の前方後円墳(主軸長約110m)であり、後円部に併設された2基の粘土^か柵を埋葬施設とする。その周囲には南小泉遺跡(29)が広がり、前期から終末期にまで継続する大規模な集落跡が確認されている。郡山低地でも下ノ内遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡(14)など塩釜式期の集落跡のほか、下ノ内浦遺跡では弥生時代後期から続く水田跡が調査された。中期後半には主軸長75mの帆立貝形古墳である兜塚古墳(33)が郡山低地北西縁に築造され、それ以降、後期前半にかけて郡山低地では造墓活動が活発化する。青葉山丘陵東麓には一塚古墳(34)、二塚古墳(35)、砂押古墳(36)などの地域首長墓に相当する古墳が次々に築造され、このうち一塚古墳、二塚古墳は東北地方でも数少ない^{くりぬきしきせつかん}剝板式石棺を埋葬施設に採用している。同時期に群集墳も成立し、笹川左岸の自然堤防上には大野田古墳群(15)が築造される。同古墳群は、主軸長37mの前方後円墳である鳥居塚古墳、直径32mの円墳である春日社古墳を筆頭に、直径20m前後の小円墳を主体に構成される。春日社古墳は2基の竪穴系埋葬施設をもち、平成19年の調査ではその1基から東北地方で初の発見となる革盾が出土した。集落遺跡としては下ノ内遺跡で南小泉式期の竪穴住居跡が確認され、長町駅東遺跡でも引田式期の竪穴住居跡が確認されている。後期後半～終末期には、青葉山丘陵東端部の斜面地で須恵器窯の土手内窯跡(37)が操業され、後述する郡山遺跡のⅠ期官衙への須恵器供給が推定されている。また下ノ内遺跡、六反田遺跡では栗園式期の竪穴住居跡が、富沢遺跡では後期～終末期の水田跡が確認された。終末期の7世紀中頃には、本遺跡の東側隣接地に郡山遺跡Ⅰ期官衙が成立し、その造営に伴い長町駅東遺跡と西台畑遺跡の集落が拡大する。このⅠ期官衙は7世紀末葉まで存続し、古代陸奥国の建国に関わった重要な柵跡と位置付けられている。墓域は青葉山丘陵東端部に愛宕山(38)・宗禅寺(40)・茂ヶ崎(41)の各横穴墓群が築造され、宮城県内最大級とされる向山横穴墓群の一端を構成している。また、広瀬川左岸の自然堤防上には直径55mの円墳である法領塚古墳(31)が築造され、副室構造の横穴式石室を埋葬施設とした東北地方最大の終末期古墳として知られる。

古代 7世紀末葉に郡山遺跡のⅡ期官衙が成立し、8世紀前葉まで存続する。Ⅱ期官衙は多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられ、東西428m×南北422m四方の外郭を有し、さらにその50m外方に外溝を巡らせており、藤原宮のほぼ四分の一に相当する規模とされる。またⅡ期官衙と密接な関係が指摘される大野田官衙遺跡(43)では、幅3～4mの区画溝や、大型の掘立柱建物跡などが確認されている。神柵遺跡(26)でも公的施設の一部とみられる掘立柱建物跡群や一本柱跡などが確認された。山口遺跡、元袋遺跡、六反田遺跡などの集落遺跡数は増加し、長町駅東遺跡、西台畑遺跡の集落も古墳時代終末期から同等規模で存続する。富沢遺跡では真北方向を基準とした畦畔を伴う水田跡が確認され、条里制地割との関係が推定される。昭和27年撮影の『航空写真』では、富沢地区を中心に条里制地割の名残とみられる方眼状の地割が広い範囲で視認できる。

中世 郡山低地では、大規模な屋敷や城館が交通の要衝とみられる場所に造営される。富沢館跡(44)は三ないし



No	遺跡名	種別	立地	時代	No	遺跡名	種別	立地	時代
1	長町駅東遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	23	矢来遺跡	散布地	自然堤防	古墳・古代
2	郡山遺跡	官衙跡・寺院跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	24	砂押Ⅱ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
3	西台畑遺跡	官衙関連・集落跡	自然堤防	縄文～中世	25	中欄西遺跡	包含地	自然堤防	弥生～平安
4	北日城跡	城館・集落跡	自然堤防	縄文～近世	26	神欄遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安
5	富沢遺跡	集落跡・水田跡	後背湿地	旧石器～近世	27	砂押Ⅰ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安
6	泉崎浦遺跡	包含地	自然堤防	縄文・奈良・平安	28	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
7	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安	29	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	弥生～中世
8	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	30	若林城跡	城館	自然堤防	中世・近世
9	元袋遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	31	法領塚古墳	円墳	自然堤防	古墳
10	大野田遺跡	墓域	自然堤防	縄文・弥生	32	茂ヶ崎城跡	城館	丘陵	中世
11	袋前遺跡	集落跡・官衙	自然堤防	縄文～平安	33	兜塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
12	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	34	一塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
13	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	35	二塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
14	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～平安	36	砂押古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳
15	大野田古墳群	古墳	自然堤防	古墳	37	土手内窯跡	窯跡・横穴古墳	丘陵斜面	古墳
16	王ノ塚遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防・後背湿地	縄文～中世	38	菱川横穴群B・C地点	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
17	川前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文	39	大年寺山横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
18	的場遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	40	宗禅寺横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
19	籠ノ瀬遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	41	茂ヶ崎横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳・古代
20	欠ノ上Ⅰ遺跡	水田跡	自然堤防	平安～中世	42	二ツ沢横穴墓群	横穴古墳	丘陵斜面	古墳
21	欠ノ上Ⅱ遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	43	大野田官衙遺跡	官衙関連	自然堤防	古墳～奈良
22	欠ノ上Ⅲ遺跡	包含地	自然堤防	古墳～平安	44	富沢館跡	城館跡・集落跡	自然堤防	縄文・平安～近世

第2図 長町駅東遺跡と周辺の遺跡

四重の堀割や土塁で区画された平城で、縄張りの全体規模は東西約400m×南北約300mにもおよぶ。造営時期の詳細は不明だが、平成26年の調査では13世紀後葉から14世紀前葉に比定される在地産の陶器甕や、15世紀代とみられる常滑産の甕などが出土している。王ノ壇遺跡(16)では、一辺50mと推定される堀割で区画された鎌倉時代の屋敷跡や塚墓・火葬墓・土葬墓などの墓跡、墳墓堂と推定される遺構が確認された。また波板状遺構や側溝を伴う路面幅2.8～4.2mの道路跡が確認され、中世の幹線道路である「奥大道」の可能性が指摘されている。富沢遺跡では、13～17世紀初頭の堀割を伴う屋敷跡や水田跡が確認され、「三斗三升」と書かれた木簡や烏帽子状の漆製品が出土した。広瀬川右岸の自然堤防上に位置する北目城跡(4)は、戦国時代に仙台市南東部から名取市北部を治めた粟野大善の居城であり、関ヶ原合戦の頃には伊達政宗が拠点としたことで知られる。

近世以降 奥州街道が整備され、その69番目の宿駅として長町が機能した。『文政村絵図』などによれば長町周辺は屋敷地が点在する水田地帯であり、富沢遺跡、山口遺跡、下ノ内浦遺跡、元袋遺跡などで屋敷跡や水田跡が確認されている。広瀬川左岸に位置する若林城跡(30)は、伊達政宗が隠居所として築城し晩年を過ごしたとされる平城である。その城下町として整備された武家屋敷跡と考えられる遺構が、南小泉遺跡で確認されている。明治29年には東北本線の長町駅が開業し、その後貨車の操作場が併設された。操作場は昭和59年に廃止され、現在の「あすと長町」として再開発された。

第3章 調査の方法と概要

第1節 調査区と区割の設定(第3図)

第14次調査は、令和元年度・令和2年度の2カ年にわたり実施した。調査区は、店舗建設範囲の東西約75m×南北約143mの範囲に設定し、令和元年度の調査はその北半分に相当する5,423㎡を対象とした。東側には第1～3次調査区、北側には第4次調査区、南側には第5・6次調査区が隣接し、第14次調査区は遺跡範囲のほぼ中央に位置する。調査対象地は、平成28年まで東日本大震災被災者用の仮設住宅用地として利用され、調査前は雑草が繁茂する更地となっていた。

区割は、東西10m×南北5mの方眼を組み、調査範囲を網羅するように設定した。区名は、測量基準とした区割配置図の番号をそのまま用いた。当初は1～226の区割を設定したが、令和2年度に給排水管理設部分の調査区が北側に追加されたため、区割の再設定と区名の振り直しを行い、最終的に1～241の区割を設定した。

第2節 調査概要

(1) 調査経過

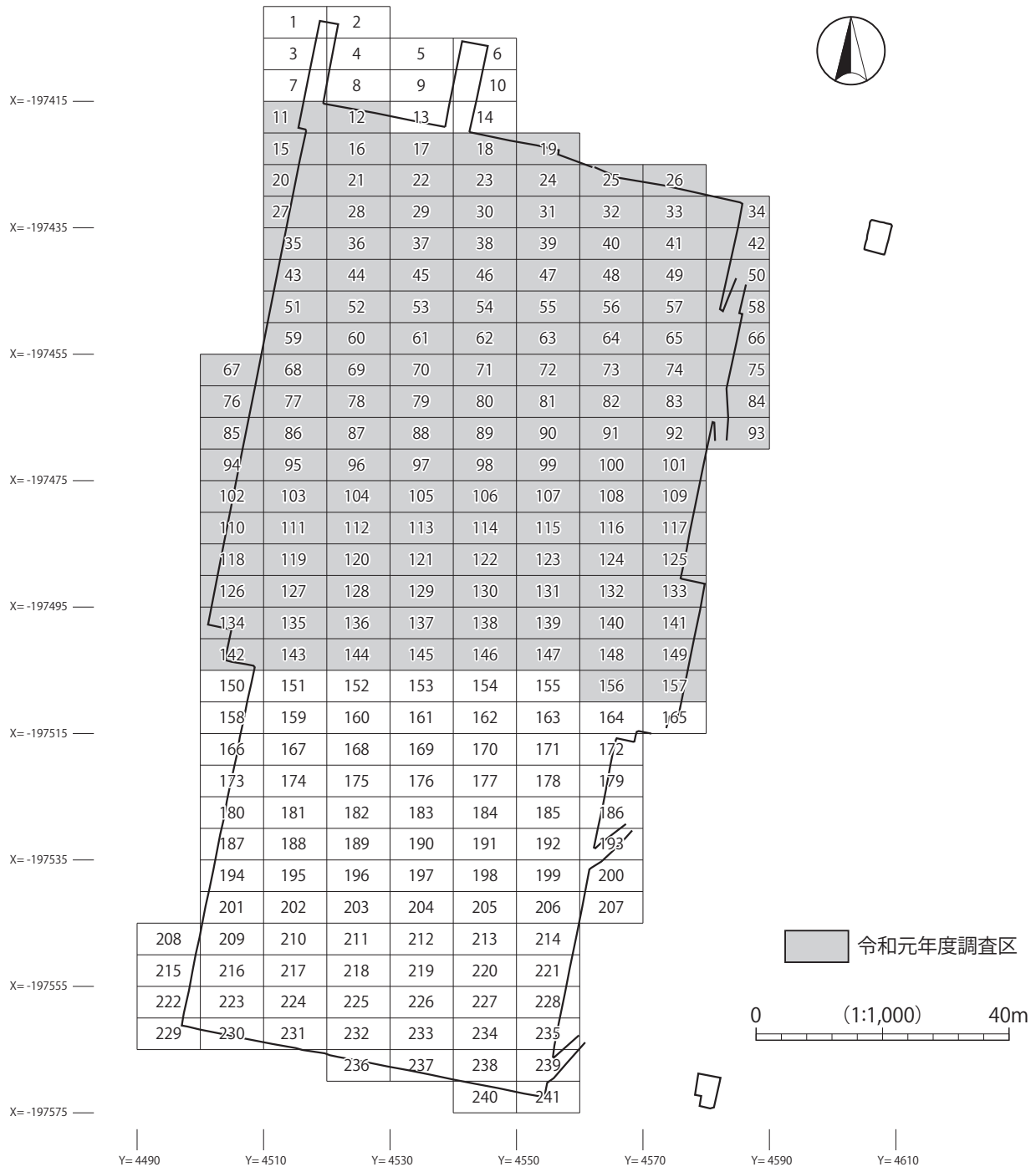
発掘調査は、重機による表土除去から開始した。重機はバックホウ(バケツ容量0.7㎡)3台、キャリアダンプ(積載量10t)2台を稼働させ、調査区北東端部を起点に、南側と西側に向かって掘削を行った。また、表土除去と並行して人力により基本層IV層上面の遺構確認作業も着手し、各遺構の平面形や新旧関係を確認した。遺構調査は、検出状況の写真撮影と遺構配置図を作成した後、重複の新しいものから逐次着手した。

遺構調査の終盤からは、弥生時代の遺物を含む基本層IV・V層の調査に着手した。5箇所(調査区A～E区)を調査区南側の遺構調査が終了した地点から段階的に設定し、古代以降の遺構間に残る基本層IV・V層を人力により精査を行い、弥生土器や石器などの遺物を確認した。また、この調査と並行してバックホウ(バケツ容量0.25㎡)によるトレンチ調査(下層調査)を行った。トレンチは調査区西西部に3箇所(TR1・4・5)、北東部に2箇所(TR2・3)を設定し、重機により約1～2mの掘下げを行った。その結果、全てのトレンチで砂・礫層などの河川堆積層が検出され、2m以上堆積していることを確認した。このため、弥生時代以前の遺物包含層などは残存していなかった。

(2) 測量基準・図面の作製(第3図)

測量は、「平面直角座標系第X系」を基準に行った。また、5×10mを単位とする区割配置図の作製に伴い、令和2年度の追加調査部分を含む北西端部を1とし、南東端部の241まで連番を付した。この番号は、既述の通り、そのまま区名としても用いたため、本文中における遺構の位置を示す。

平面図・断面図の作製はトータルステーションによる機械実測を基本とし、基本層やトレンチの断面図および遺物微細図は写真実測を併用した。



第3図 第14次調査区区割配置図

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作製

遺構確認作業時に出土した遺物は、その区名ごとにまとめ、一括資料として取り上げた。遺構内出土遺物は、特に必要と認められた遺物のみ出土状況図を作製し、位置と標高を記録して取り上げた。それ以外の出土遺物は可能な限り層位ごとに分類し、また竪穴状遺構・竪穴住居跡は遺構内を平面的に四分割して遺物を取り上げた。

整理事業時には、各遺構の観察カードを作製し、事実記載および調査時の所見を記録した。

(4) 遺構登録番号

遺構登録番号は、基本的に第13次調査(平成25年度実施)からの通し番号とした。このため、竪穴状遺構・竪穴住居跡はSI384から、掘立柱建物跡はSB45から、溝跡はSD284から、土坑はSK327から、性格不明はSX37から付番した。遺構数の多いピットは、新規でPit1から付番した。

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成・刊行に伴う整理事業は、委託業務として株式会社シン技術コンサル東北支店が実施した。出土遺物の基礎整理のうち遺物水洗作業やバインダー処理、注記などは、その大部分を令和2年度の野外作業と並行して現場事務所で実施した。令和3年度以降は、株式会社シン技術コンサル東北支店を作業所として、残りの基礎整理および報告書作成に向けた各作業を実施した。出土遺物の注記や、接合・復元、登録、実測図・トレース図作成のほか、遺物図版・遺構図版・写真図版、遺構観察表・遺物観察表の作製および原稿執筆・編集等を行い、その間必要に応じて仙台市教育委員会と整理事業内容の確認・協議を行った。これら遺物実測図およびデジタルトレースを含む作製資料については、仙台市野村文化財収蔵庫内の整理室にて随時点検を行った。

第4章 基本層序

第1節 基本層序(第4図)

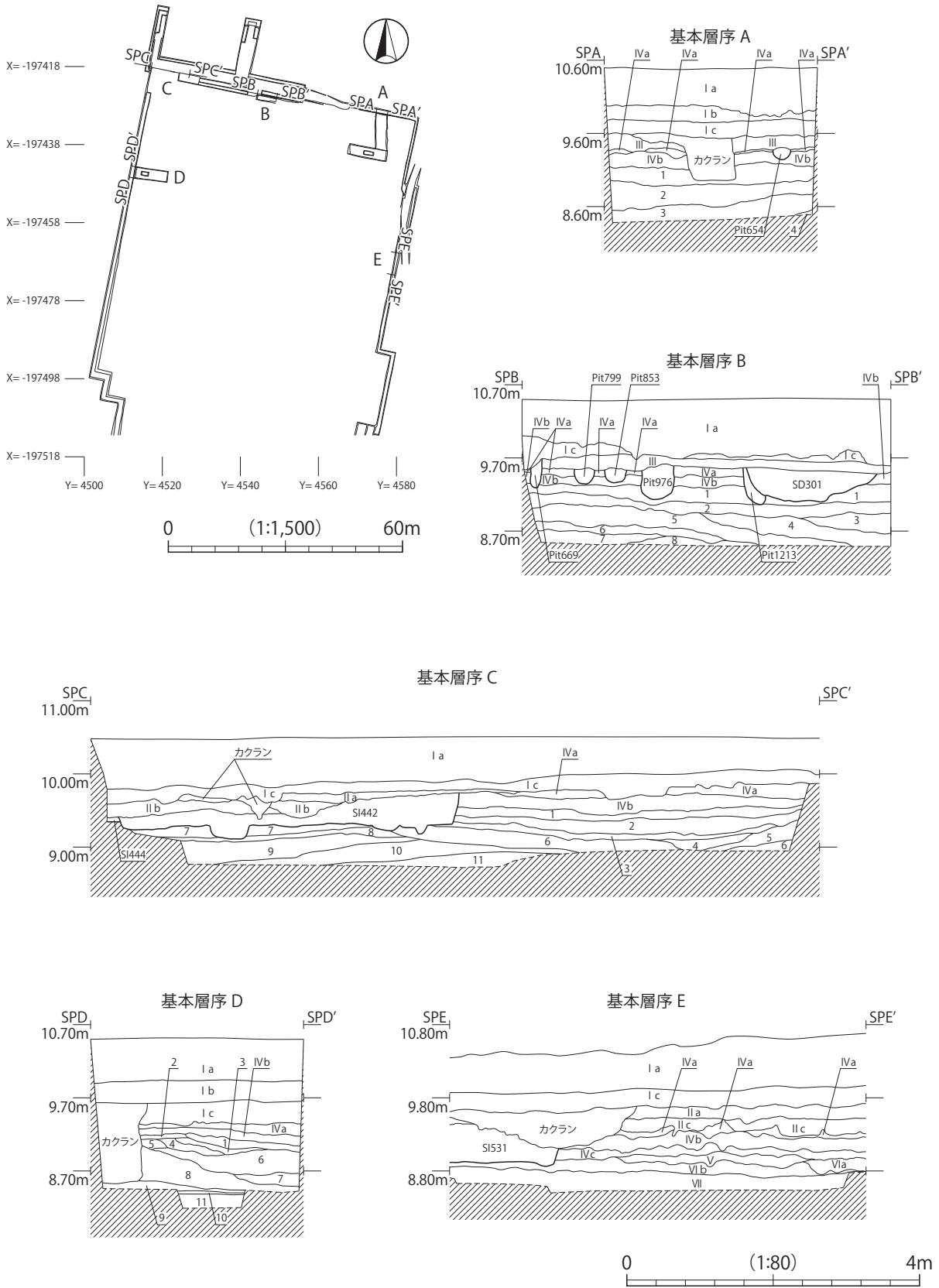
基本層序は、既存の調査成果に基づいて分層・付番した。今回の調査では調査区の北壁に3箇所(A～C地点)、西壁・東壁に各1箇所(D・E地点)の観察範囲を設定し、それぞれ任意の幅・深さでサブトレンチを重機(バケツト容量0.25m³)により設定し、遺構検出面より下層の状況を観察した。その結果、第I～VII層を確認したが、E地点以外では第V層以下は残存せず、全て河川堆積層であった。以下には、今回観察された基本層の概要を記す。

第I層 近・現代の盛土および整地層で、a～cの3層に細別した。第I a層は砂利層で、仮設住宅地造成に伴う整地層である。第I b・I c層は旧国鉄時代の整地層で、それぞれ炭ガラ・暗褐色粘土質シルトを主体とする硬質の層である。

第II層 褐灰色のシルト層である。全体的にきめ細かく、硬く締まる。旧国鉄用地造成以前の盛土とみられ、a～cの3層に細別した。本層は調査区の北部と西部において地点的に残存し、直下からは当時の耕作関連の痕跡とみられる小溝状の攪乱が多数検出された。調査区北西端部付近では遺構確認面(IV層)が大きく削り取られ、本層が厚く堆積していた。

第III層 暗褐色のシルト層である。堆積範囲は地点的で、調査区北東部を中心に残存する。古代の遺物包含層で、一部の遺構は本層上面から掘り込まれている。

第IV層 黄色系統のシルトおよび砂質シルト層である。今回の調査では、本層上面を遺構確認面とした。a～cの3層に細別し、調査区西半部で漸移的に砂質化する。第IV a層は第III層との漸移層的な様相を呈し、植物育成痕の影響が中層の第IV b層までみられる。南側では弥生時代中期を中心とする遺物が含まれる。



第4図 基本層序

第V層 ぶい黄褐色の砂質シルトである。弥生時代中期の包含層に相当する。本層は調査区南半部に地点的に分布し、以下の層も同様である。

第VI層 黄色系統の砂質シルト層である。色調によりa・bの2層に細別した。

第VII層 浅黄橙色のシルト層である。酸化鉄を斑状に含む。

なお、A～D地点で観察された河川堆積層は、地点により堆積状況が異なるため、各層位の対比は極めて困難であった。

基本層序A～E註記表

層位	土色	土性	備考	
基本層序 A-A'～E-E'共通	I	a	砂利層。大小円礫を多量含み、硬く締まる。	
		b	炭ガラク層。締りなし。	
		c	暗褐色粘土質シルト層。レンガ片・円礫などを含み、硬く締まる。	
	II	a	10YR5/1 褐灰色	シルト IV層土ブロック(10mm程度)・酸化鉄粒少量含む。
		b	10YR4/1 褐灰色	シルト IV層土ブロック(10～30mm程度)・酸化鉄粒少量含む。
		c	10YR3/2 黒褐色	シルト 炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	III	10YR3/4 暗褐色	シルト IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
	IV	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト 暗褐色シルトブロック(5～40mm程度)多量・炭化物粒微量含む。
		b	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト 植物痕多量、白色粒子微量含む。
		c	10YR6/6 明褐色	砂質シルト 明黄褐色シルト斑状に含む。
	V	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト 灰黄褐色シルト斑状に含む。	
	VI	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト 灰白色シルト斑状に含む。
		b	10YR7/4 にぶい黄橙色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。
VII	10YR8/4 浅黄橙色	シルト 酸化鉄斑状に含む。		
河川堆積層 A-A'	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト 褐色シルト斑状に含む。	
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂	
河川堆積層 B-B'	1	10YR4/6 褐色	シルト 黄褐色シルト斑状に含む。	
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト 細砂部分的に含み、酸化鉄斑状に含む。	
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト 細砂・酸化鉄斑状に含む。	
	7	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	8	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
河川堆積層 C-C'	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト 細砂部分的に含む。	
	2	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト マンガン粒微量含む。	
	3	10YR5/2 灰黄褐色	細砂 褐色細砂ラミナ状に含む。	
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト 細砂部分的に含む。	
	5	10YR4/4 褐色	細砂	
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂 黒褐色細砂ラミナ状に含む。	
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	
	8	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	
	9	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト にぶい黄褐色砂質シルトとの互層。マンガン粒微量含む。	
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂 黒褐色細砂・黄褐色シルトラミナ状に含む。	
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト 酸化鉄斑状に含む。	
河川堆積層 D-D'	1	10YR4/6 褐色	砂質シルト	
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/6 褐色	砂質シルト にぶい黄褐色砂質シルト斑状に含む。	
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粗砂	
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	6	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	8	10YR4/4 褐色	砂質シルト 細砂との互層。酸化鉄斑状に含む。	
	9	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト 酸化鉄斑状に含む。	
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	
	11	N/7 灰白色	砂礫 粗砂・円礫(5～150mm程度)で形成され、酸化鉄多量凝固。	

第5章 検出遺構と出土遺物

今回の調査で確認された遺構は、概ね平安時代以降の可能性のあるもの（以後、平安時代以降として記載する）と古墳時代～奈良時代の2時期に分けられる。これらの時代区分は出土遺物や重複遺構の新旧関係などを基に行った。なお、遺構確認は同一面上で行ったため、時期区分を層位的に判別できていない。以下には、これらの遺構について時期ごとに詳細を記す。

第1節 平安時代以降の遺構と遺物（第5～44図、第1～22表）

該当する遺構は、円形周溝状遺構2基（SX40・48）、溝跡5条（SD290・300・305・307・316）、土坑92基（第3～6表）、ピット1,506基（第7～21表）、性格不明遺構2基（SX38・45）である。

以下には、平安時代以降の遺構を円形周溝状遺構、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。なお重複関係は、同時代の遺構を中心に記載する。

(1) 円形周溝状遺構（第5・6図、第1表）

円形周溝状遺構は、2基（SX40・48）検出した。調査区の南西端部にSX40が、南端部にSX48が位置する。付属施設とみられる遺構は、周溝により区画された内部で確認できなかった。

SX40円形周溝状遺構（第6図、第1表）

調査区南西端部の126・127・134・135区に位置する。周溝は攪乱により部分的に失われているが、円形にめぐるとみられる。重複遺構はない。

確認された規模は周溝外径456cm、内径353cmを測り、平面形は不整な円形を呈する。周溝は上端幅52～67cm、下端幅21～56cm、深さ11～27cmを測る。断面形はU字形ないし台形を呈する。堆積土は2層に分層した。灰黄褐色砂質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は、土師器・須恵器、磁器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX48円形周溝状遺構（第6図、第1表）

調査区南端部の129・130・137・138区に位置する。攪乱で中央部が、重複遺構の同時調査によって南西部が失われている。SK506・508、Pit1673より新しい。

確認された規模は周溝外径617cm、内径411cmを測り、平面形は均整のとれた円形を呈するとみられる。周溝は上端幅73～117cm、下端幅32～66cm、深さ21～38cmを測る。断面形はU字形ないし台形を呈する。堆積土は3層に分層した。暗褐色ないし黒褐色粘土質シルトを主体とする自然堆積である。

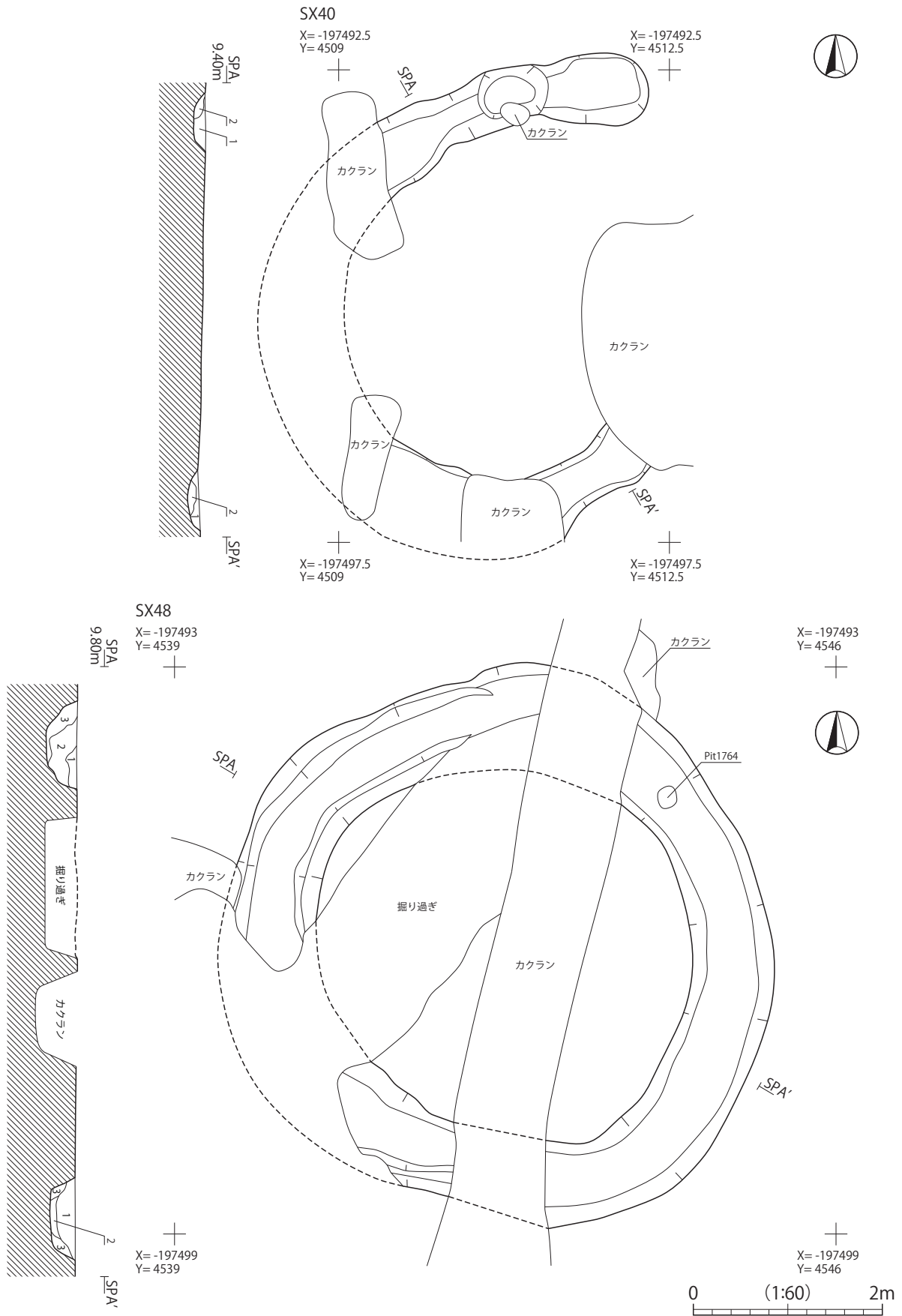
遺物は、土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

第1表 円形周溝状遺構 観察表

遺構名	区割	方向 (N°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SX40	126 127 134 135	—	外径 456 内径 353	52～ 67	21～ 56	11～ 27	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							2	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SX48	129 130 137 138	—	外径 617 内径 411	73～ 117	32～ 66	21～ 38	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	SK506・508、Pit1673より新しい。
							2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	



第5図 平安時代以降の遺構配置図(ピットを除く)



第6図 SX40・48円形周溝状遺構

(2) 溝跡(第5・7～25図、第2表)

溝跡は、5条(SD290・300・305・307・316)検出した。方位と形状は様々で、SD300・305・316は直線的、SD290は東西から南北へ屈曲する「L」字状、SD307は南に開く「コ」字状を呈する。SD305・316は先端部がSD290と重複し、同溝跡との関連性が考えられる。

SD290 溝跡(第7・8図、第2表)

調査区東半部の39・47～49・55・57・58・62・63・71・72・80・81・89・98・106・113・114・121・122・129・137区に位置する。東端部は調査区外へ延び、南端部は攪乱により失われている。SK478、Pit202～205・407・410・416・471・1094・1691・1695・1696より古く、SD305・307・316、SK345・481、Pit173・238・450・451・570～572・578・863・883・1009・1041・1093・1450・1524・1562～1564・1572～1574・1581・1619・1702・1703・1721・1722・1724・1725より新しい。

方位は西辺がN-15～34°-E、北辺がN-69～78°-Wで、「L」字状の平面形を呈し、西辺の北端部で東側へ屈曲する。各辺とも直線的に延びるが、わずかに蛇行する。確認された規模は長さ91.43m、上端幅84～187cm、下端幅19～101cm、深さ14～51cmを測る。断面形は全体的に台形を呈するが、一部箱形やU字形を呈する。底面は著しく起伏し、西辺では北に向かって35cm程度傾斜して下がる。堆積土は5層に分層した。褐灰色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

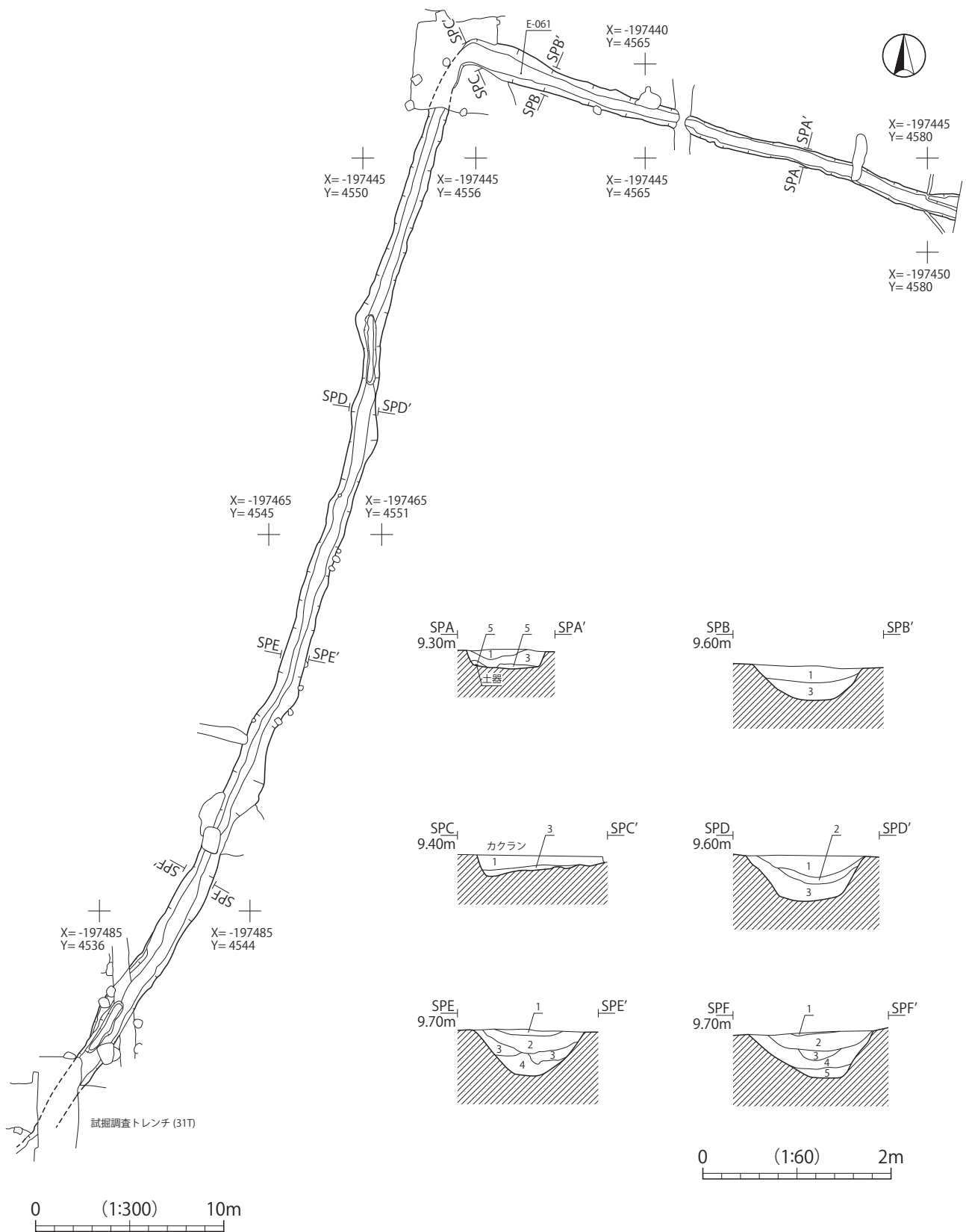
遺物は土師器・須恵器、礫石器、鉄滓などが出土し、土師器坏2点、須恵器蓋2点・壺1点を掲載した(第8図)。1・2は土師器坏で、1は丸底、2は平底と考えられる。1の口縁部は外反気味に外傾、2は短く直立する。1は口縁部と体部の境に内外面の稜を持つ。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は須恵器蓋で、3は比較的小型で、4は接合しない天井部と口縁部の破片である。3のツマミは扁平な擬宝珠形、4の端部は剥離しているがボタン状と考えられる。天井部上半はともに丸みを持ち、3は天井部下半から口縁部に向かって直角に屈曲する。断面三角形を呈する口縁部は垂下する。4の天井部内面には、使用痕と考えられる平滑面がみられる。ともに天井部外面に回転ヘラケズリによる再調整が施されている。3の色調は灰色、4は外面が暗紫灰色、内面がにぶい赤褐色を呈する。胎土はともにやや粗く、多量の砂粒を含み、3は少量の黒色粒子が認められる。5は口縁部が欠損しているが小型短頸壺と考えられる。扁平な球状の体部で、体部下半から底部にかけて手持ちヘラケズリによる再調整が施されている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で砂粒を含む。

SD300 溝跡(第9図、第2表)

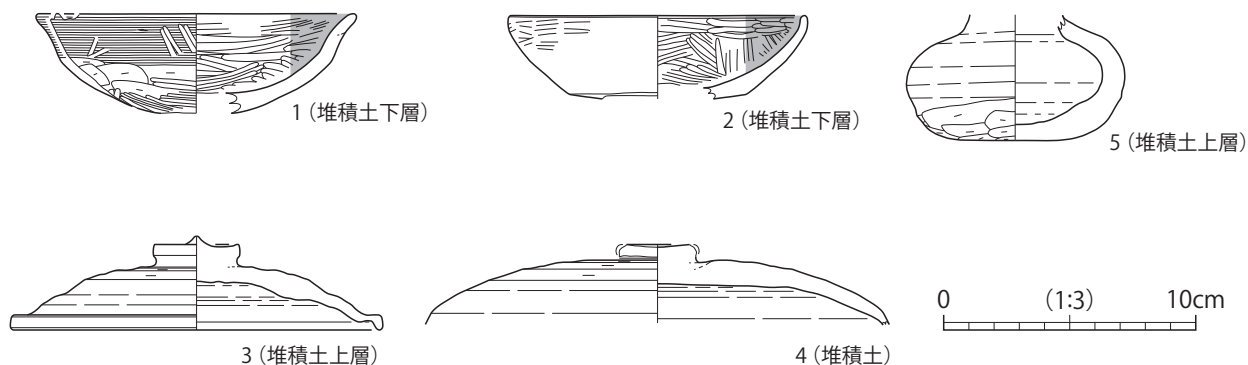
調査区南東端部に位置し、全体の南半部が令和2年度調査区に延びる。このため、規模や形状については両年度の調査成果を併せて記載する。125・132・133・139・140・147・154・155・161・162区に位置し、北東端部は調査区外へ延びる。南西端部は攪乱により失われている。令和元年度調査部分ではPit755・756・1700より古く、SD307、Pit762・1640～1644・1652～1654・1696～1699・1745より新しい。

方位はN-47～53°-Eで、北東から南西方向へ直線的に延び、わずかに蛇行する。確認された規模は長さ45.87m、上端幅71～158cm、下端幅26～76cm、深さ11～48cmを測る。断面形は台形を呈する。底面はわずかに起伏し、北東に向かって19cm程度傾斜して下がる。堆積土は3層に分層した。黒色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏1点、土製品1点を掲載した(第9図)。1は土師器坏で、体部は半球形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境に外面は緩やかな段、内面は凹みを持つ。内面に黒色処理が施されている。2は土製の紡錘車で、断面形は台形を呈し、両面ともにヘラミガキが施されている。



第7図 SD290 溝跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-617	SD290	堆積土下層	土師器	环	(12.6)	—	(3.4)	口縁：ヨチテ→ヘラミガキ 体部：ヘラスリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理	305
2	C-616	SD290	堆積土下層	土師器	环	(11.7)	—	(3.3)	口縁～体部：ヘラスリ→ヘラミガキ 底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面やや摩滅	305
3	E-059	SD290	堆積土上層	須恵器	蓋	(14.6)	—	3.7	口縁～天井下半：叩調整 天井上半：回転ヘラスリ ツمامミ部：叩調整によるツمامミ貼付	叩調整	外面口縁部重ね焼き痕	305
4	E-060	SD290	堆積土	須恵器	蓋	—	—	(3.2)	口縁～天井下位：叩調整 天井中位～上位：回転ヘラスリ ツمامミ部：叩調整によるツمامミ貼付	叩調整	角閃石微量含む 内面口縁部重ね焼き痕 天井部内面使用痕(磨)あり	305
5	E-061	SD290	堆積土上層	須恵器	壺	3.6	3.7	5.0	体上半：叩調整 体下半：手持ヘラスリ	叩調整		305

第8図 SD290溝跡出土遺物

SD305溝跡(第10・11図、第2表)

調査区西部北寄りの43・44・52・53・60～62区に位置する。東端部はSD290と重複し、西端部は調査区西壁の3m程手前で途切れる。SD290、Pit1364より古く、Pit1225・1338・1372・1385・1503・1548・1553より新しい。

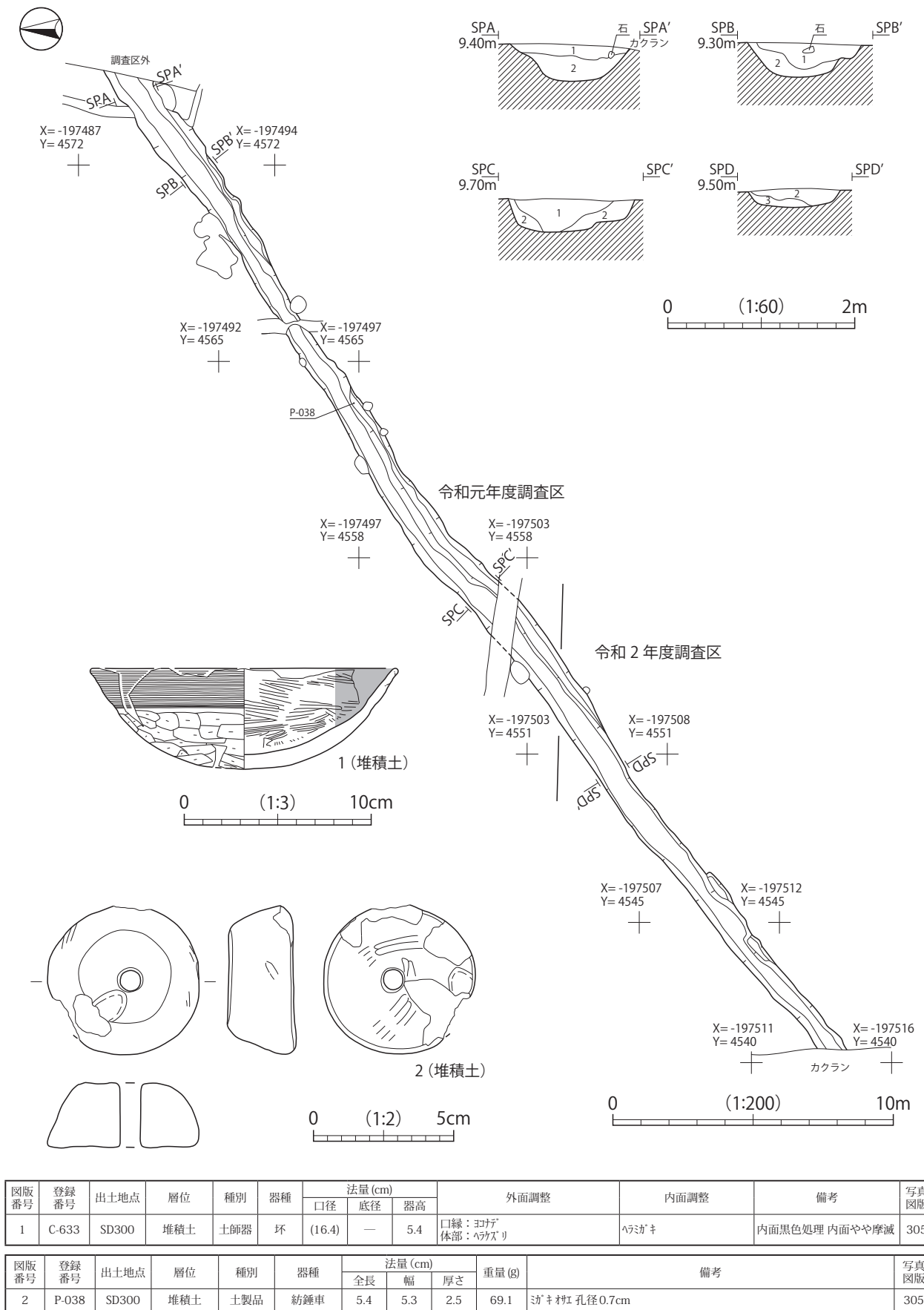
方位はN-60～79°-Wで、東西方向へ直線的に伸びるが、西半部はわずかに北側へ湾曲する。確認された規模は長さ35.79m、上端幅82～137cm、下端幅21～82cm、深さ5～53cmを測る。断面形は全体的に台形を呈するが、一部U字形を呈する。底面は著しく起伏し、東に向かって41cm程度傾斜して下がる。堆積土は大別で4層に分層し、2層をa・bに細別した。灰黄褐色ないし褐灰色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器、礫石器などが出土し、ロクロ土師器環1点・甕1点、須恵器環1点・甕1点、灰釉陶器壺1点を掲載した(第11図)。

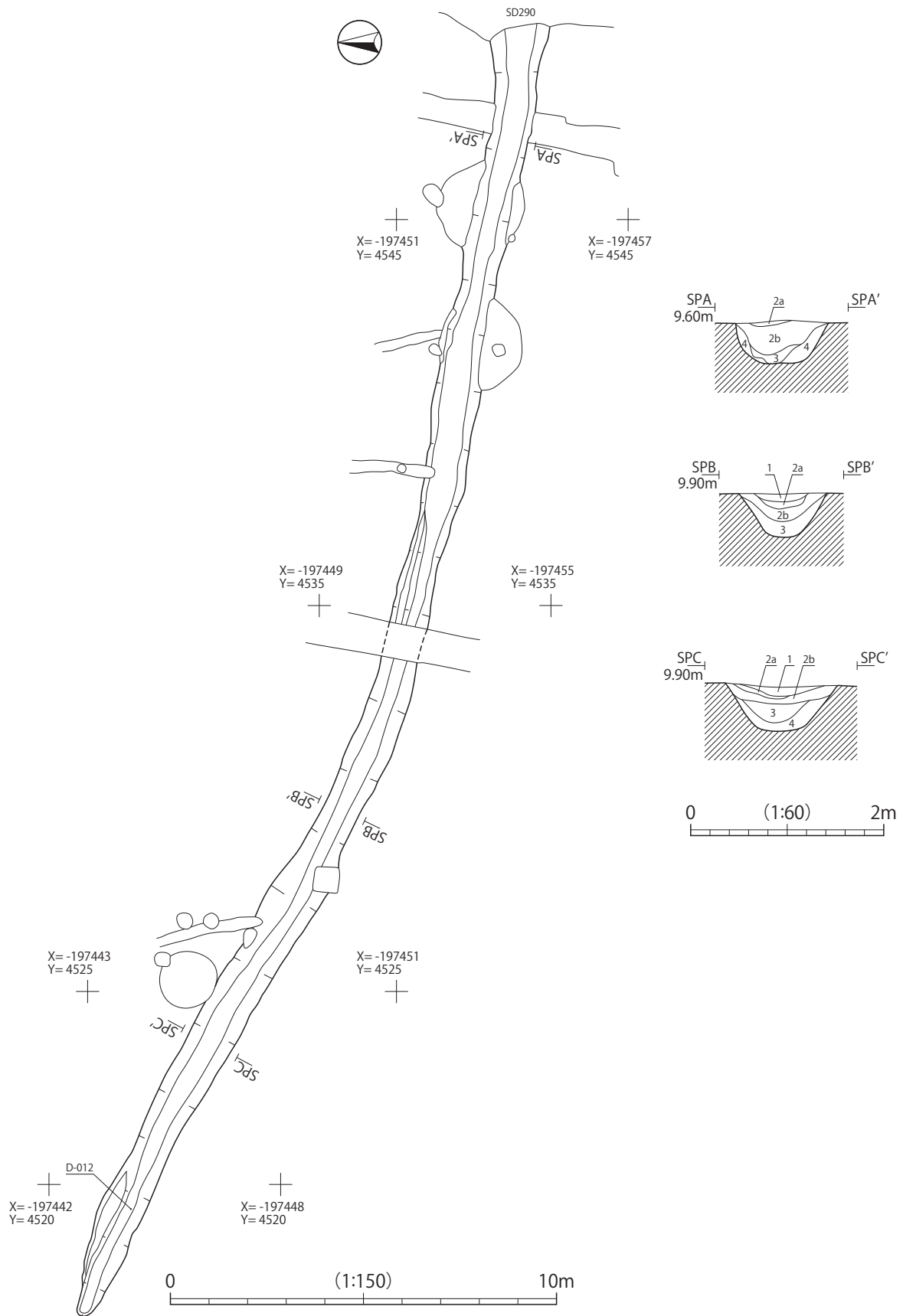
1はロクロ土師器環で、平底からやや外反して立ち上がり、体部は緩やかに内湾しながら口縁部に至る。底部の切り離しは回転糸切りで、再調整は認められない。内面に黒色処理が施されている。2はロクロ土師器甕で、口縁部は強く外反し、端部は上方につまみ出される。

3は須恵器高台付環で、断面台形の高台が底部端部のやや内側に「ハ」字状に付される。体部から口縁部に向かって直線的に外傾し、口縁端部でわずかに外反する。底部の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整のため不明である。色調は灰色～青灰色を呈し、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と白色粒子、海綿骨針かいめんこっしんを含む。4は須恵器甕で、頸部が「く」字状に屈曲する。口縁部は外反気味に外傾、端部は垂下する。色調は暗灰色～灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

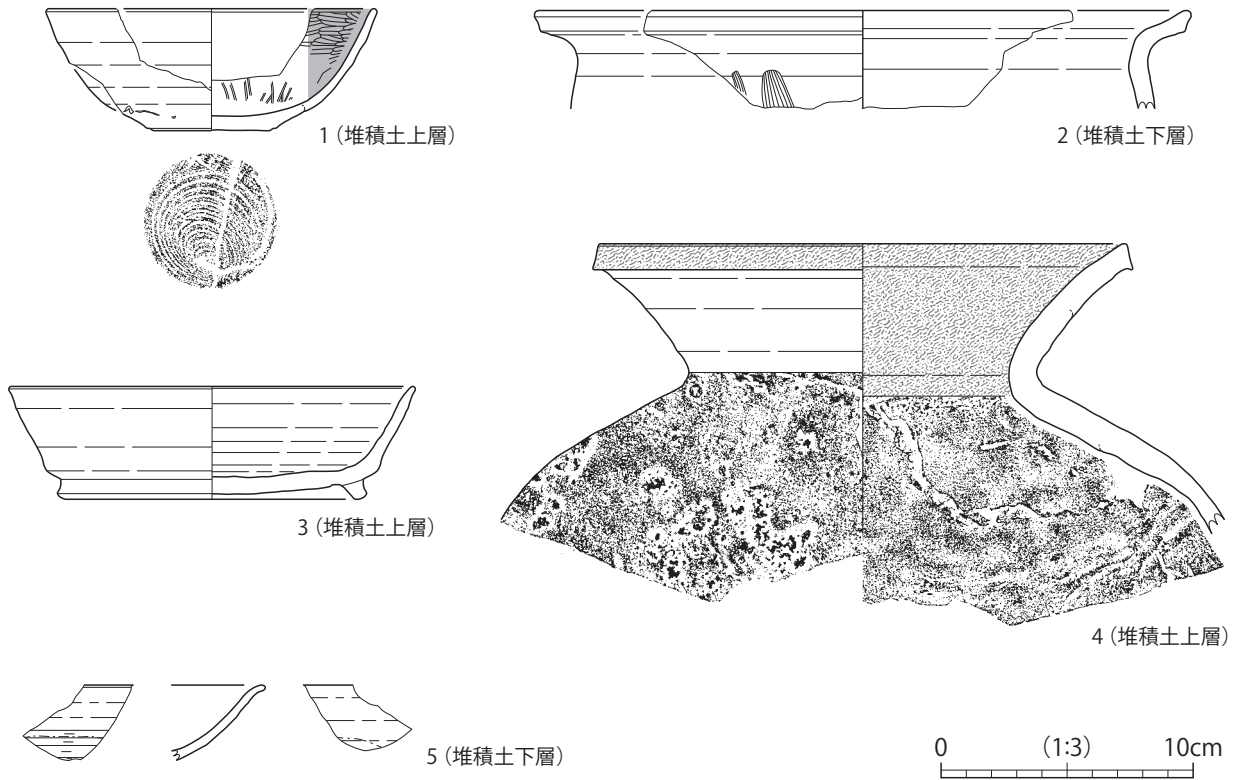
5は灰釉陶器壺で、体部から口縁部に向かって内湾気味に大きく開き、端部は外反する。灰釉が内外面の体部下端から口縁部まで漬け掛けされている。色調は灰白色を呈し、胎土は緻密である。焼成は良好で、薄手で精巧なつくりである。



第9図 SD300 溝跡・同出土遺物



第10図 SD305 溝跡



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	D-012	SD305	堆積土上層	ロクロ土師器	坏	(13.0)	(4.6)	(4.8)	叩調整 底部：回転糸切	ヘリミキ 底部：ヘリミキ(放射状)	内面黒色処理	305
2	D-013	SD305	堆積土下層	ロクロ土師器	甃	(25.8)	—	(3.9)	叩調整→ヘリミキ	叩調整	角閃石微量含む	305
3	E-063	SD305	堆積土上層	須恵器	高台付 坏	16.0	11.8	4.5	叩調整 底部：回転ヘリミキ→叩調整による 高台貼付	叩調整	骨針中量含む	305
4	E-064	SD305	堆積土上層	須恵器	甃	(20.8)	—	(11.5)	口縁：叩調整 胴部：平行効	口縁：叩調整 胴上位：北ヘリ 胴中位：刃具痕	外面口唇部・胴部・内面口 縁部自然釉付着 骨針少量含 む	305
5	I-001	SD305	堆積土下層	灰釉 陶器	埴	—	—	(3.0)	叩調整 体下位：回転ヘリミキ	叩調整	内外面灰釉	305

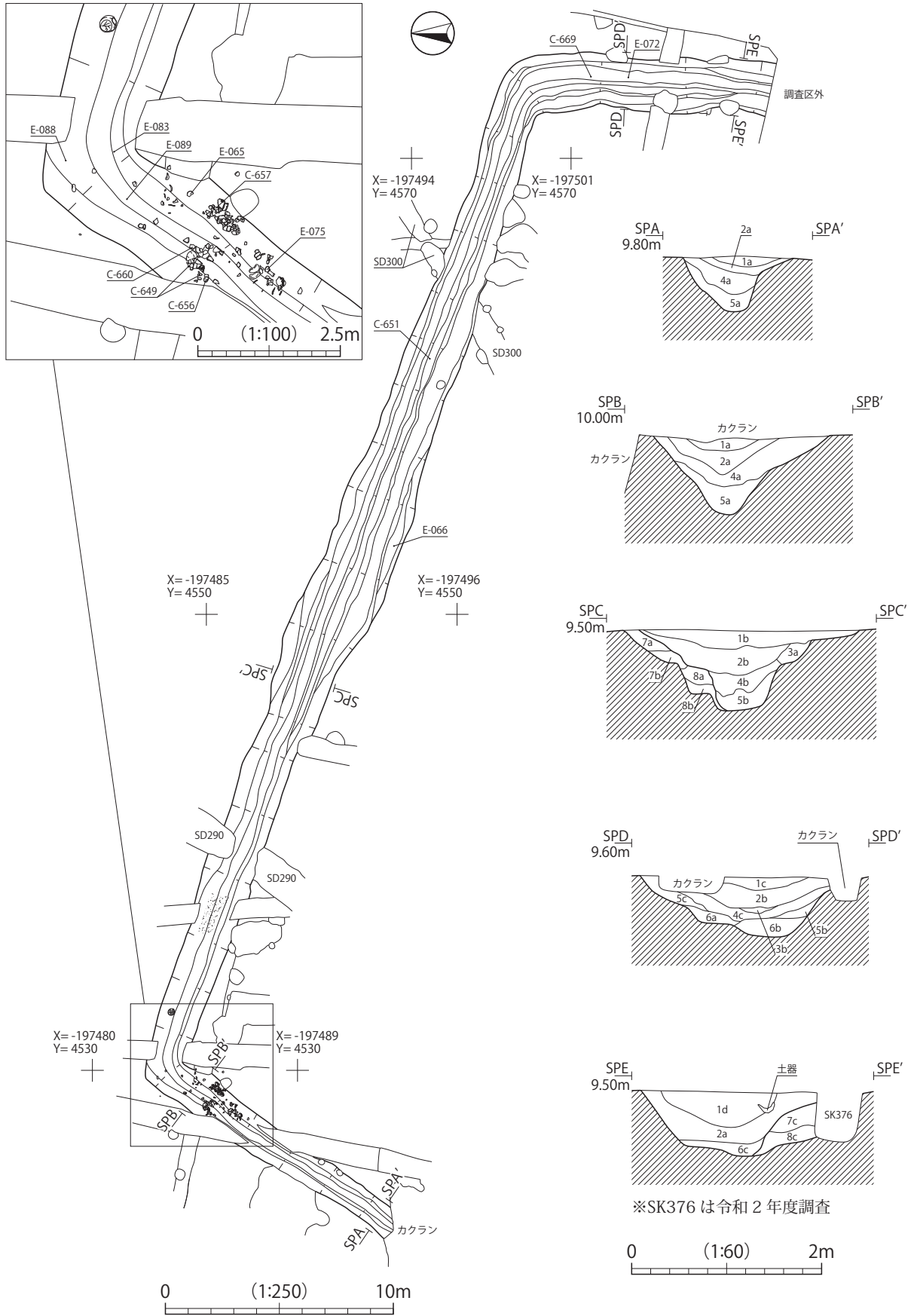
第11図 SD305溝跡出土遺物

SD307溝跡(第12～24図、第2表)

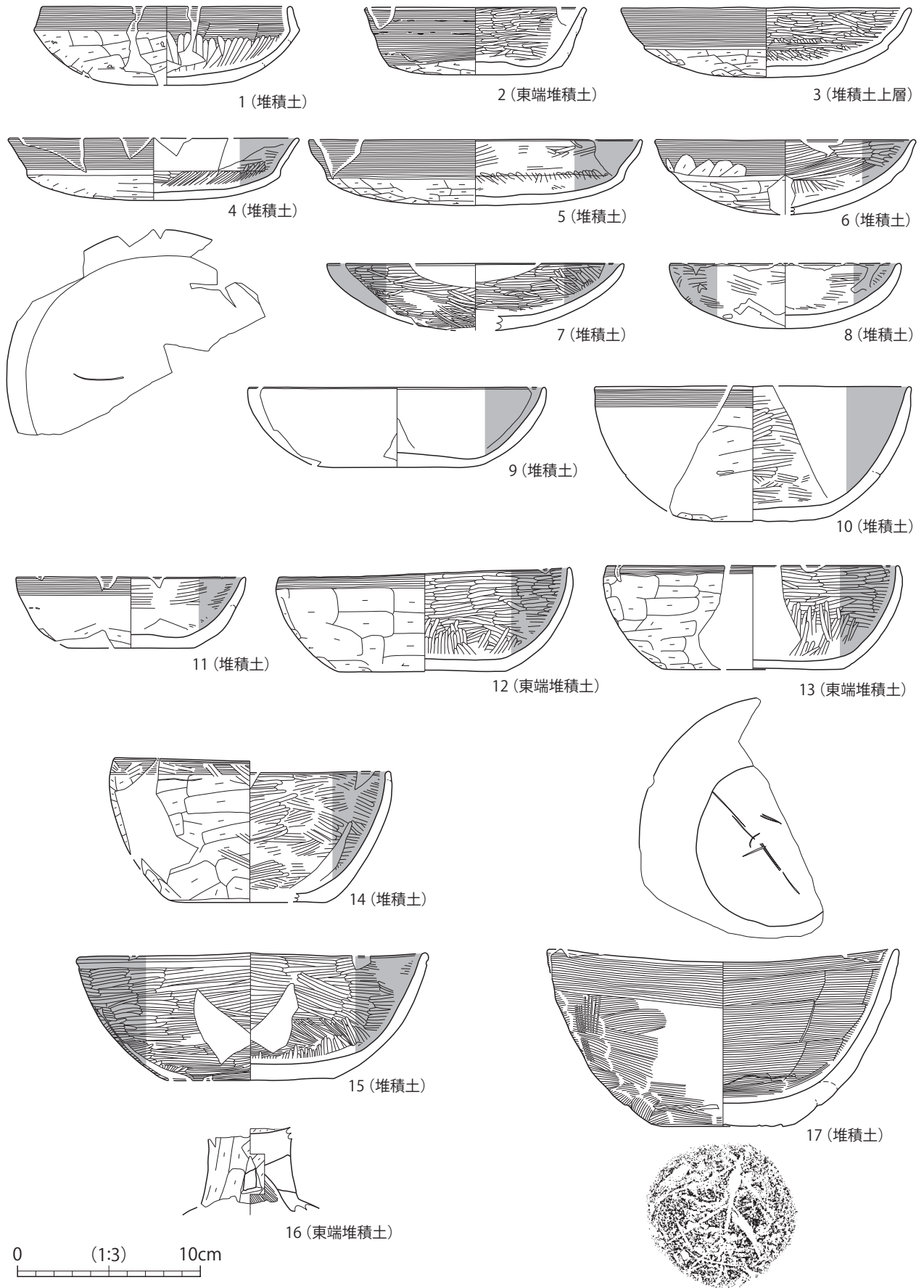
調査区南端部の112・113・120～123・128・130～132・139～141・149・157区に位置する。東辺端部は調査区外へ延び、西辺端部は攪乱により失われている。SD290・300、Pit194・762・763・767・770・781～783・786・801・1388・1635・1640・1641・1691より古く、Pit1675・1710・1722～1727、SX45より新しい。

方位は東辺がN-0°-E、北辺がN-70°-W、西辺がN-35°-Eで、平面形は「コ」字状を呈し、北辺の両端部で南側へ屈曲する。各辺とも直線的に延びる。確認された規模は長さ68.74m、上端幅97～322cm、下端幅22～64cm、深さ52～97cmを測る。断面形は台形を呈し、全体的に壁の上部が大きく開く。北辺の中央部付近から東壁にかけてテラス状の段差を伴う。底面は概ね平坦で、北辺では東に向かって46cm程度傾斜して下がり、北に向かって東辺では16cm程度、西辺では20cm程度傾斜して下がる。

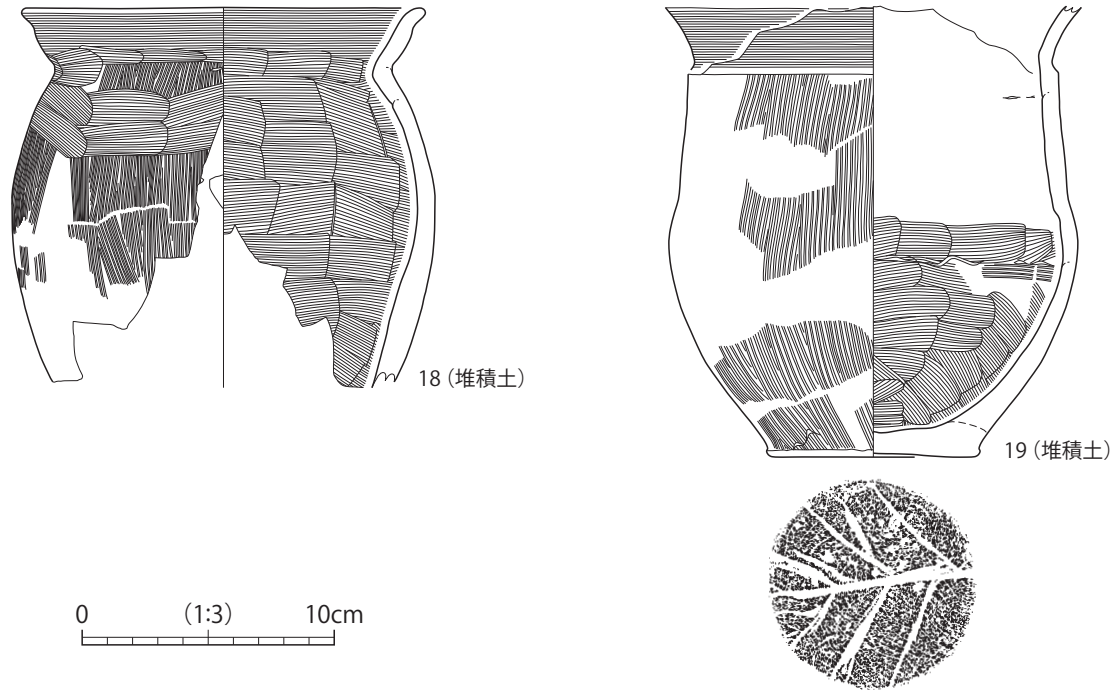
堆積土は大別で8層に分層し、1層はa～d、2・3層はa・b、4～8層はa～cに細別した。暗褐色ないし黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。北辺中央部付近のC-C'と東端部のE-E'では、掘り直しの痕跡が確認された。



第12図 SD307 溝跡

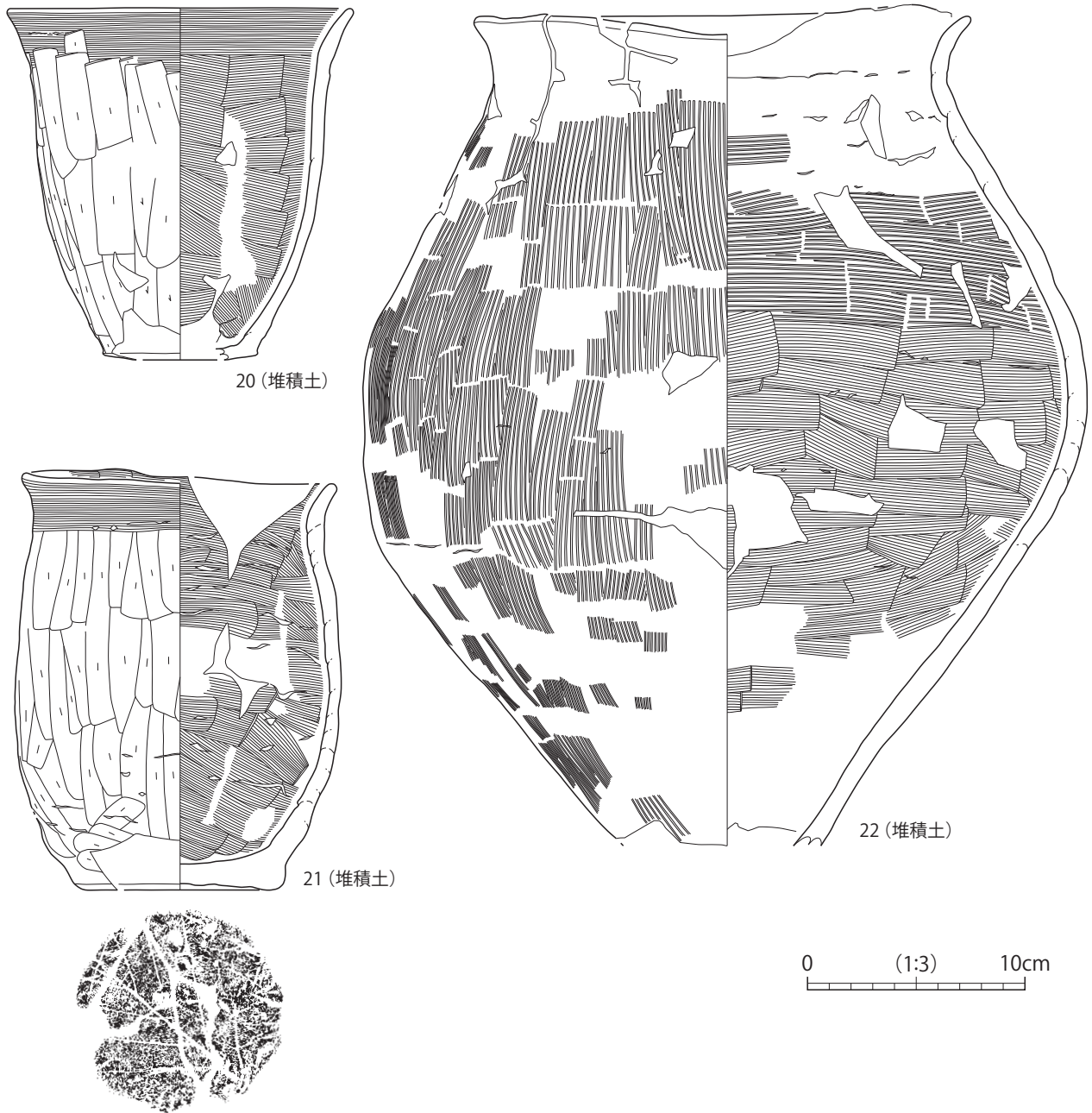


第13図 SD307 溝跡出土遺物 (1)



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-658	SD307	堆積土	土師器	环	(13.6)	—	(4.3)	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコナテ→ヘラナテ 体～底部：ヘラナテ→ヘラミガキ (放射状)	関東系	305
2	C-650	SD307 東端	堆積土	土師器	环	(11.9)	—	3.7	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ		305
3	C-651	SD307	堆積土上層	土師器	环	(15.7)	—	3.8	口縁：ヨコナテ 体部：ヘラズリ	ヘラミガキ		305
4	C-656	SD307	堆積土	土師器	环	(15.8)	—	(3.4)	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面やや摩滅 外面底部線刻か	305
5	C-653	SD307	堆積土	土師器	环	(18.2)	—	(3.6)	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	305
6	C-652	SD307	堆積土	土師器	环	(14.2)	—	(4.1)	口縁：ヨコナテ 体部：ヘラズリ 体～底部：ヘラズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理	305
7	C-655	SD307	堆積土	土師器	环	(16.2)	—	(3.7)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理	305
8	C-654	SD307	堆積土	土師器	环	(12.5)	—	3.5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理・摩滅	305
9	C-657	SD307	堆積土	土師器	环	(16.2)	(8.0)	(4.4)	不明	不明	内面黒色処理か 内外面摩滅	305
10	C-660	SD307	堆積土	土師器	环	(17.2)	(6.0)	7.4	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	305
11	C-661	SD307	堆積土	土師器	环	(12.5)	(7.0)	3.9	口縁：ヨコナテ 体部：ヘラズリ 底部：不明	ヘラミガキ	内面黒色処理・火傷痕 外面 摩滅	305
12	C-648	SD307 東端	堆積土	土師器	环	15.9	9.2	5.7	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内面底部摩滅	305
13	C-659	SD307 東端	堆積土	土師器	环	(15.9)	(10.0)	5.7	口縁：ヨコナテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 底部線刻か (金属器・刃物類による)	306
14	C-664	SD307	堆積土	土師器	环	15.0	7.7	7.9	口縁：ヨコナテ 体部：ヘラズリ 体～底部：ヘラズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理	306
15	C-649	SD307	堆積土	土師器	环	19.0	9.4	7.0	口縁：沈線 体～底部：ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理・火傷痕	306
16	C-665	SD307 東端	堆積土	土師器	高环	—	—	(4.8)	脚部：ヘラズリ	环部：ヘラミガキ 脚部：ヘラナテ	透孔(三角形)3方向 环部内 面黒色処理	306
17	C-666	SD307	堆積土	土師器	鉢	(19.1)	(7.9)	9.7	口縁：ヨコナテ 体部：ウケメ→北ナテ	口縁：ヨコナテ 体上半：ヘラナテ 体下半：北ナテ	底部木葉痕	306
18	C-671	SD307	堆積土	土師器	甕	(15.6)	—	(15.1)	口縁：ヨコナテ→ヘラナテ 胴上半：ウケメ→ヘラナテ 胴下半：ウケメ	口縁：ヨコナテ→ヘラナテ 胴部：ヘラナテ		306
19	C-669	SD307	堆積土	土師器	甕	—	(8.2)	(17.9)	口縁：ヨコナテ 胴部：ウケメ	口縁～胴上位：不明 胴中位：ウケメ→ヘラナテ 胴下位：ヘラナテ	底部木葉痕 内面口縁～胴上 半摩滅	306

第14図 SD307 溝跡出土遺物 (2)



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
20	C-670	SD307	堆積土	土師器	甕	(15.8)	(7.2)	(16.2)	口縁：ヨナデ→ハカズリ 胴～底部：ハカズリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハナデ	骨針中量含む	306
21	C-668	SD307	堆積土	土師器	甕	14.3	8.7	19.4	口縁：ヨナデ 胴部：ハカズリ	ハナデ	底部木葉痕	306
22	C-667	SD307	堆積土	土師器	甕	22.5	—	(39.4)	口縁：不明 胴部：ハメ(2種類の工具使用)	口縁：不明 胴上半：ハメ 胴下半：ハナデ	角閃石少量含む 内外面口縁部摩擦 内面胴部下半焼付着 外面胴部下半二次被熱による赤色化	307

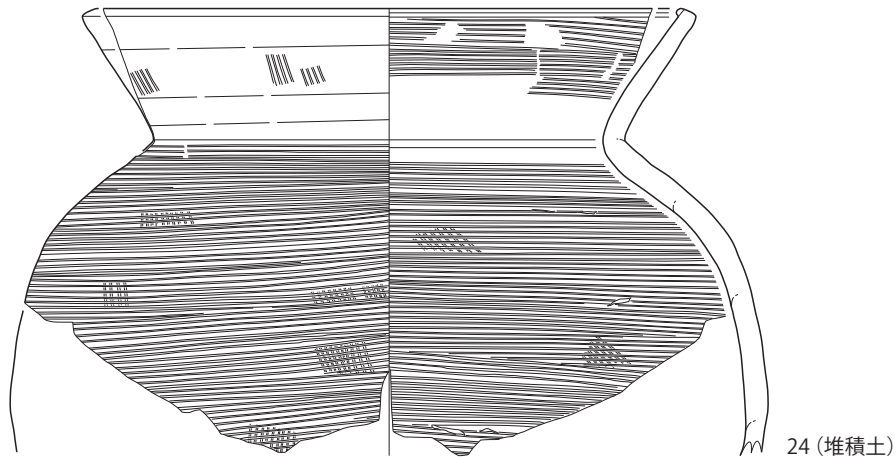
第15図 SD307溝跡出土遺物(3)

遺物は土師器・須恵器、瓦、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土した。土師器杯15点・高杯1点・鉢1点・甕6点、ロクロ土師器甕1点、須恵器杯6点・蓋1点・盤2点・壺もしくは瓶類8点・甕10点、礫石器1点、石製品1点、金属製品1点、土製品3点を掲載した(第13～24図)。これらは堆積土上層でまとまって出土したことから、埋没途中で人為的に廃棄されたものと考えられる。

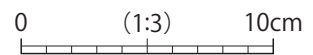
1～15は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。扁平な丸底で、口縁部は短く内傾する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。体部内面はナデ調整後、体部から底部にかけて放射状に幅の広いヘラミガキが施されている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と微量の赤色粒子を含む。2は平底風丸底の底部から体部が稜を持って屈曲し、口縁部で直線的に外傾する。内面に黒色処理は認められない。色調は淡橙色～灰白色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と2mm以下の多量の赤色礫を含み、在地産土師器の色調や胎土とは様相が異なる。3～6の口縁部と体部の境は、段もしくは沈線状の段を持つ。いずれも内面に黒色処理が施されている。7・8は底部から口縁部に向かって内湾し、内外面に黒色処理が施されている。9～15は壙形で、これらのうち10・14・15



23 (堆積土)



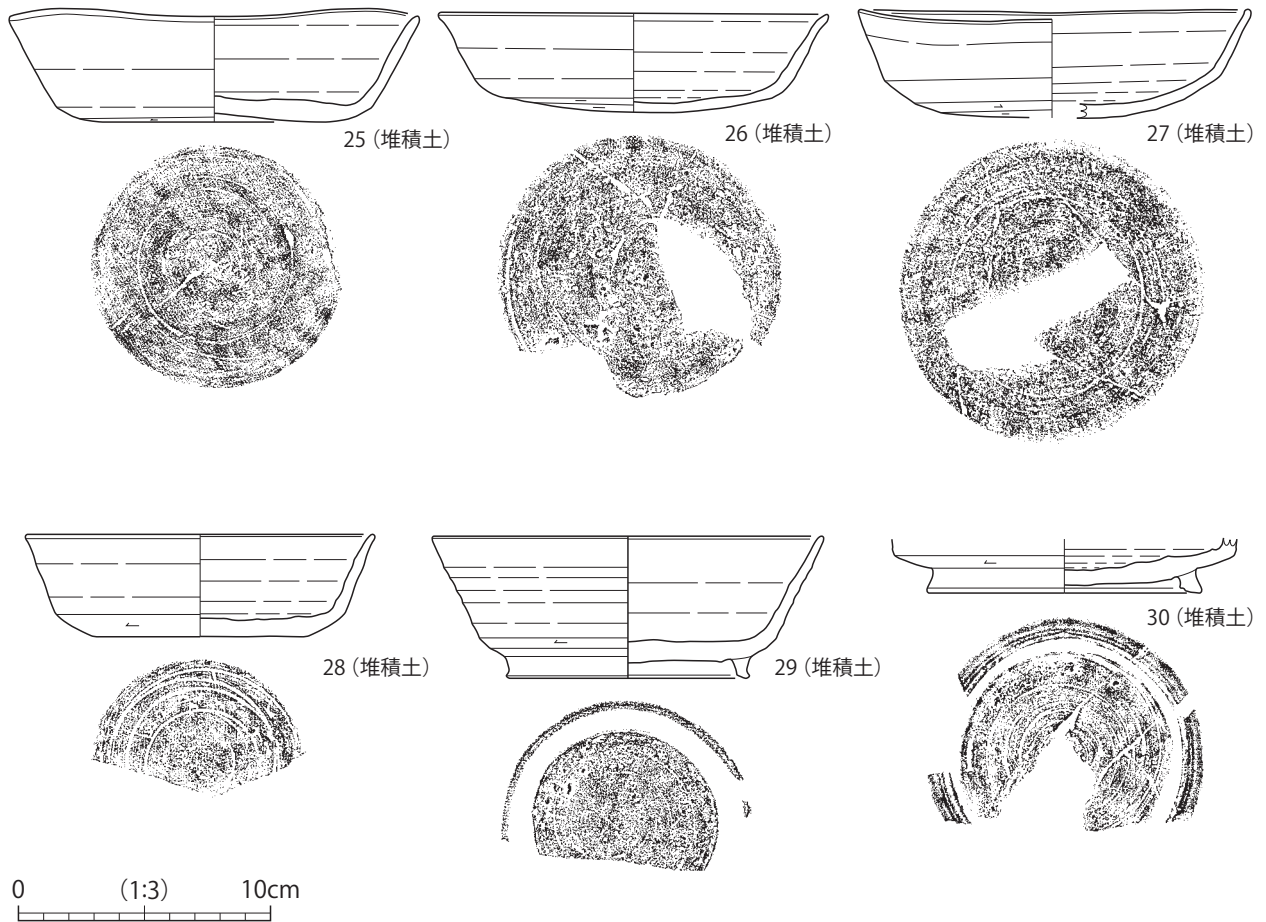
24 (堆積土)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
23	C-672	SD307	堆積土	土師器	甗	(19.4)	—	(20.7)	口縁：ヨナデ 胴上位：ヘナデ 胴中位：不明 胴下位：ヘナメリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘナデ	内外面やや摩滅	306
24	D-014	SD307	堆積土	ロクロ土師器	甗	(23.2)	—	(17.7)	口縁：ハマ→ロ加調整 胴部：ハマ→回転ハマ	口縁：回転ハマ 胴部：ハマ→回転ハマ	骨針中量、角閃石微量含む	307

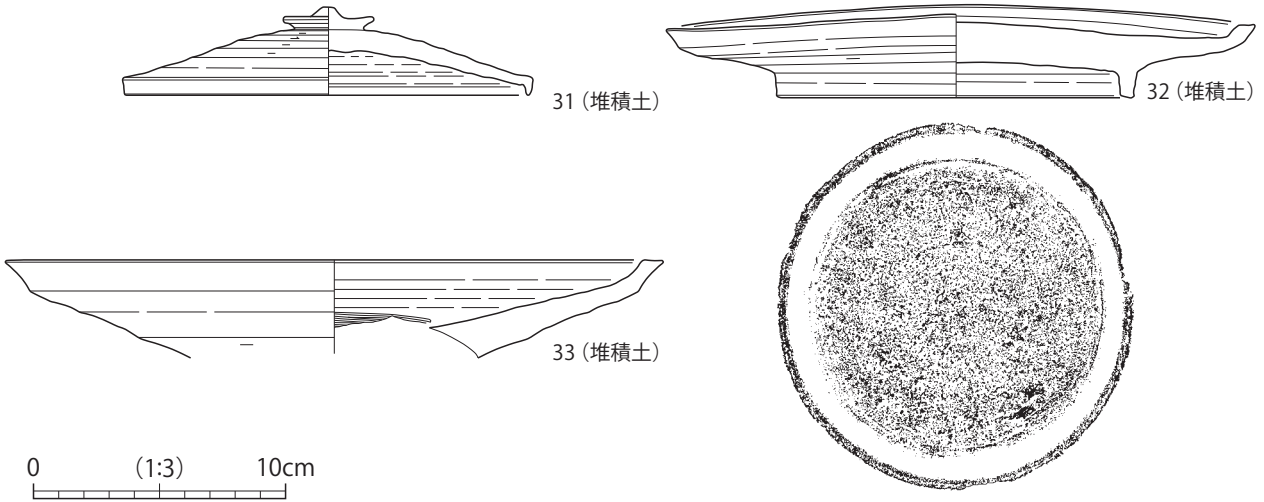
第16図 SD307 溝跡出土遺物 (4)

は深身である。9・10は丸底風平底、11～15は平底を呈する。いずれも体部から口縁部に向かって内湾し、10・11の口縁端部はわずかに外反する。15は口縁部外面に沈線がめぐり、内外面のヘラミガキは密で丁寧に施されている。15は内外面に、それ以外は内面に黒色処理が施されている。16は土師器高坏の脚部である。中空で、裾部は「ハ」字状に開くものと考えられる。三角形の透かし孔が3方向認められる。坏部内面に黒色処理が施されている。18～23は土師器甕である。18～21は中型品で、22は器高が40cm近い大型品である。22は胴部中位に最大径が位置する張りの強い算盤玉形で、口縁部は緩やかに外反する。23は胴部中位に最大径が位置する張りの強い球形で、口縁部は直線的に外傾する。外面は20が強いヘラケズリ、21は弱いヘラケズリが縦方向に施されている。22は胴部上半が幅の広いハケメ、下半には幅の細かいハケメで、複数の工具が使用されている。20の色調は橙色を呈し、胎土はやや粗く、黒色粒が混じる砂粒、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
25	E-068	SD307	堆積土	須恵器	环	(16.2)	9.4	4.5	口調整 底部：回転ヘラズリ	口調整	骨針中量含む 器形歪みあり	307
26	E-069	SD307	堆積土	須恵器	环	15.4	—	4.0	口調整 底部：回転ヘラズリ	口調整		307
27	E-077	SD307	堆積土	須恵器	环	15.4	—	4.3	口縁～体上位：口調整 体下位～底部：回転ヘラズリ	口調整	内面外面口縁部灰かぶり 骨針少量含む 器形歪みあり	307
28	E-067	SD307	堆積土	須恵器	环	(13.8)	(8.4)	4.1	口縁～体中位：口調整 体下位～底部：回転ヘラズリ	口調整	角閃石微量含む	307
29	E-065	SD307	堆積土	須恵器	高台付 环	(15.4)	(9.4)	(5.7)	口調整 体下位：回転ヘラズリ 底部：回転ヘラズリ→口調整による 高台貼付	口調整	骨針多量含む	307
30	E-070	SD307	堆積土	須恵器	高台付 环	—	(10.8)	(2.2)	体中位：口調整 体下位：回転ヘラズリ 底部：回転ヘラズリ→口調整による 高台貼付	口調整		307

第17図 SD307 溝跡出土遺物 (5)



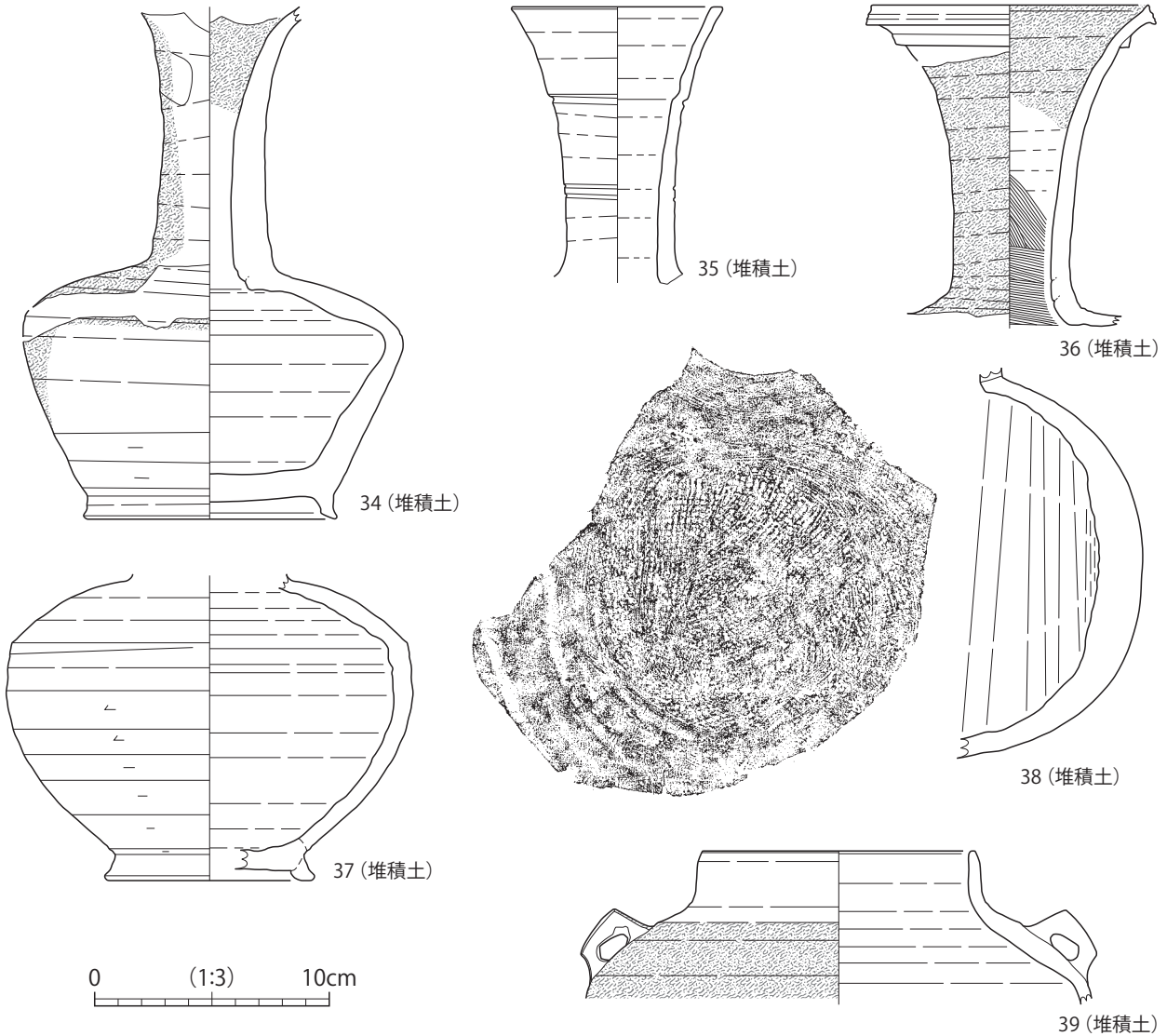
図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
31	E-080	SD307	堆積土	須恵器	蓋	16.1	—	3.5	口縁～天井下位：叩調整 天井中位～上位：回転ヘラズリ ツマミ部：叩調整によるツマミ貼付	叩調整	角閃石微量含む 内面口縁部～天井部下位二次被熱による変色	308
32	E-072	SD307	堆積土	須恵器	盤	23.2	13.8	3.9	口縁：叩調整 体～底部：回転ヘラズリ→叩調整による高台貼付	叩調整→ヘラテ	骨針多量含む	308
33	E-073	SD307	堆積土	須恵器	盤	(26.0)	—	(3.7)	口縁～体上位：叩調整 体下位：回転ヘラズリ	口縁～体上位：叩調整 体下位：ヘラテ	骨針多量含む	308

第18図 SD307 溝跡出土遺物 (6)

24はロクロ土師器である。胴部は球胴形とみられ、口縁部は直線的に外傾し端部が内側に折り返されている。胴部は内外面ともに縦方向のハケメ後、丁寧な回転ハケメが施されている。色調は橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と海綿骨針を含む。

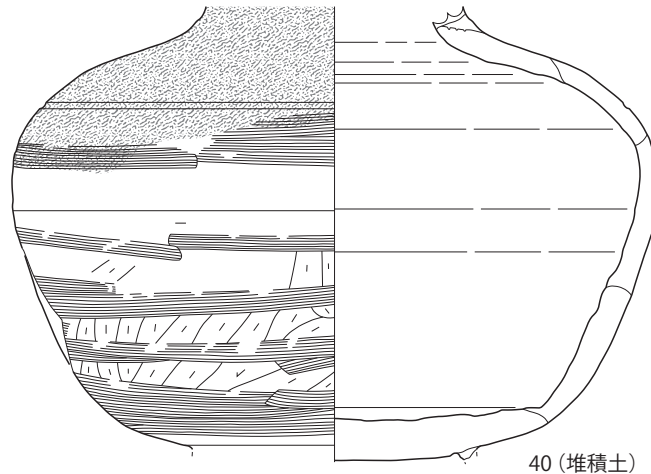
25～28は須恵器坏で、これらのうち25・28は平底、26・27は扁平な丸底を呈する。25・26・28の口縁部はわずかに外反し、27は短く直立する。いずれも回転ヘラケズリによる再調整が施されており、底部の切り離しは不明である。25の色調は青灰色、26が灰色、27が暗灰色～暗紫灰色、28が灰白色を呈する。胎土はいずれもやや精良で、砂粒と黒色粒子を含み、また海綿骨針を25は中量、27は少量含む。27の焼成は良好で、硬く締まる。29・30は高台付坏である。29の高台は底部端部に直立、30は底部端部からやや内側に入った箇所「ハ」字状に付されている。ともに回転ヘラケズリによる再調整が施されており、底部の切り離しは不明である。29の色調は外面がにぶい褐色、内面が灰色、30は暗灰色～橙色を呈する。胎土はともに精良で砂粒を含み、29は多量の黒色粒子と海綿骨針を含み、30は赤色粒子を含む。30の焼成はやや不良で、土師器の質感を持つ。31は須恵器蓋で、擬宝珠形のツマミを持つ。天井部は扁平な笠形で、断面三角形を呈する口縁部は垂下する。色調は灰白色を呈し、胎土はやや粗く砂粒を含む。内面の口縁部から天井部下位にかけて二次被熱による変色が見られる。32・33は須恵器高台付盤で、ともに厚手の底部を持つ。32の口縁部は短く外傾、33は短く外反する。口縁端部はともに水平である。32は長めの高台が直立して付されている。色調はともに青灰色を呈し、32の胎土は粗く、5mm以下の砂礫と海綿骨針を多量、黒色粒子を含む。33は精良で砂粒と多量の海綿骨針を含む。34～37は須恵器長頸瓶で、34は厚手で重量感のあるつくりに対し、そのほかのものは薄手で軽量感のあるつくりである。34と37の高台は底部の端部に付されている。34は体部上位に最大径が位置し、丸みを持って肩部が屈曲する。37は体部上位に最大径が位置し、肩部は稜を持って屈曲する。35は頸部上位の外面に段、内面に稜を持ち、細い沈線が下位に2条粗くめぐる。口縁端部は水平である。36は頸部上端に断面三角形の突帯がめぐる。口縁端部で上下方向につまみ出され、口唇部に緩い凸面を持つ。34の色調は灰色、35・37は暗灰色、36は灰白色を呈する。胎土はいずれも精良で、砂粒を含み、34・36は

多量の黒色粒子を、34・35・37は白色粒子を含む。36は湖西窯跡産と考えられる。38はフラスコ形長頸瓶の頸部下端から底部と考えられ、外面には格子状タタキが認められる。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、微量の海綿骨針を含む。39は耳付短頸壺で、把手は面取りされ断面は方形を呈する。肩部に自然釉の境が水平に認められ、蓋などの重ね焼きが行われたものと考えられる。色調は紫灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と黒色粒子を含む。

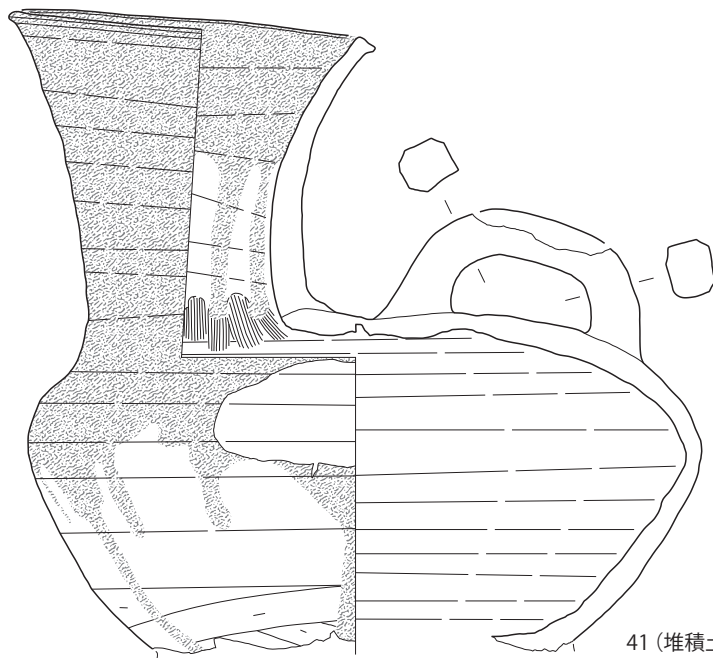


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
34	E-075	SD307	堆積土	須恵器	高台付長頸瓶	—	(10.6)	(21.5)	口縁～体中位：叩調整 体下位：回転ヘカスリ 底部：叩調整による高台貼付	叩調整	2段構成 外面頸～体部上半・内面頸部上半自然釉付着	308
35	E-074	SD307	堆積土	須恵器	長頸瓶	9.0	—	(11.8)	叩調整→沈線	叩調整	内外面灰かぶり	308
36	E-114	SD307	堆積土	須恵器	長頸瓶	(11.8)	—	(13.9)	叩調整 頸上端：突帯貼付	口縁～頸上半：叩調整 頸下半：北子 体部：叩調整	2段構成か 内外面口縁部自然釉付着 湖西窯跡産か	308
37	E-076	SD307	堆積土	須恵器	高台付長頸瓶	—	(8.7)	(13.1)	体上位：叩調整 体下位：回転ヘカスリ 底部：回転ヘカスリ→叩調整による高台貼付	叩調整	外面体部上半・高台部灰かぶり	308
38	E-084	SD307	堆積土	須恵器	フラスコ形長頸瓶	—	—	(16.3)	頸部：舂メ 体中央部：叩調整 体右部：舂メ→ヘカスリ→格子状タタキ	叩調整	骨針微量含む	308
39	E-079	SD307	堆積土	須恵器	耳付短頸壺	(11.6)	—	(6.5)	叩調整→把手貼付	叩調整	外面体部自然釉付着・重ね焼き痕	308

第19図 SD307 溝跡出土遺物 (7)



40 (堆積土)

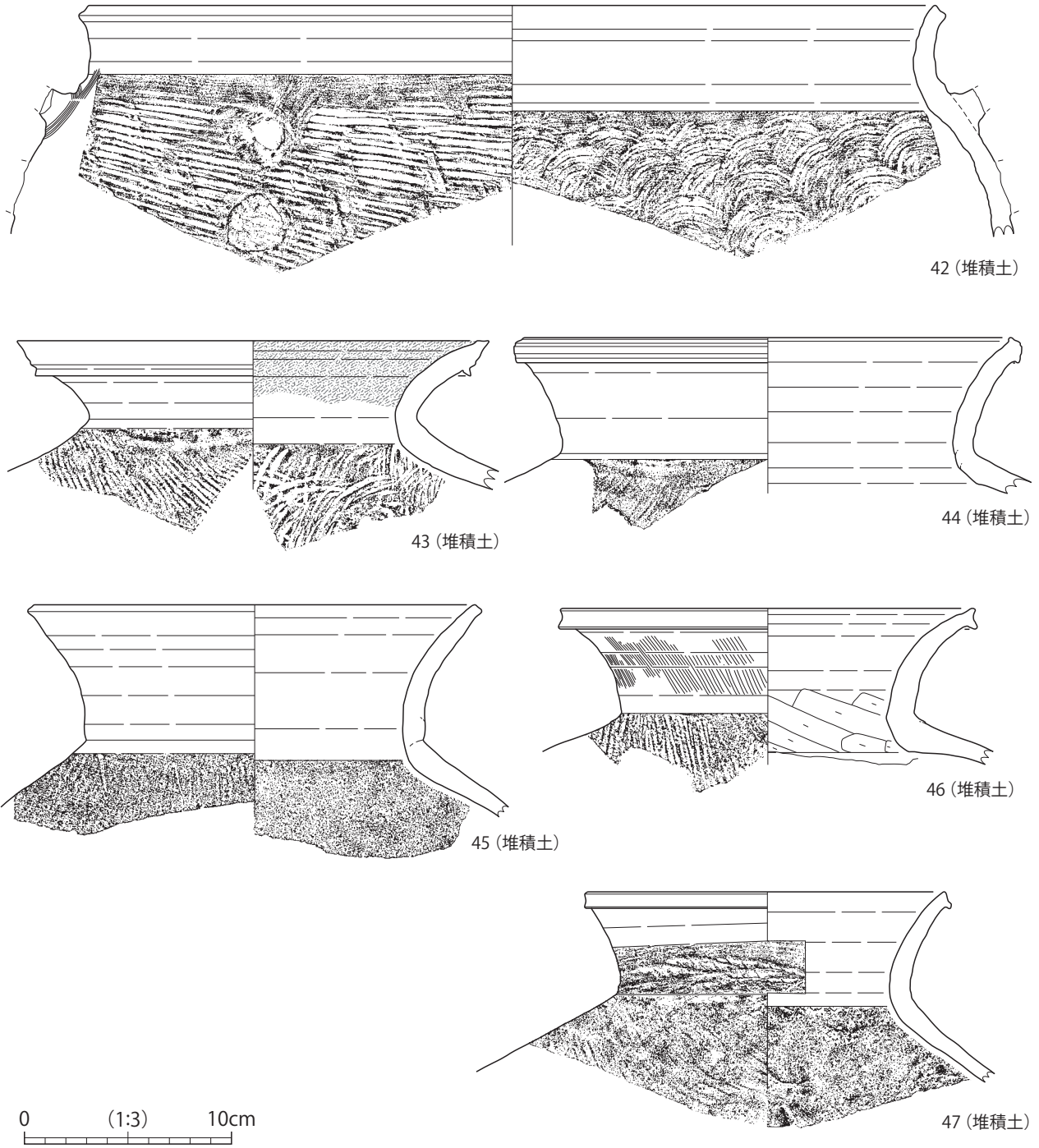


41 (堆積土)

0 (1:3) 10cm

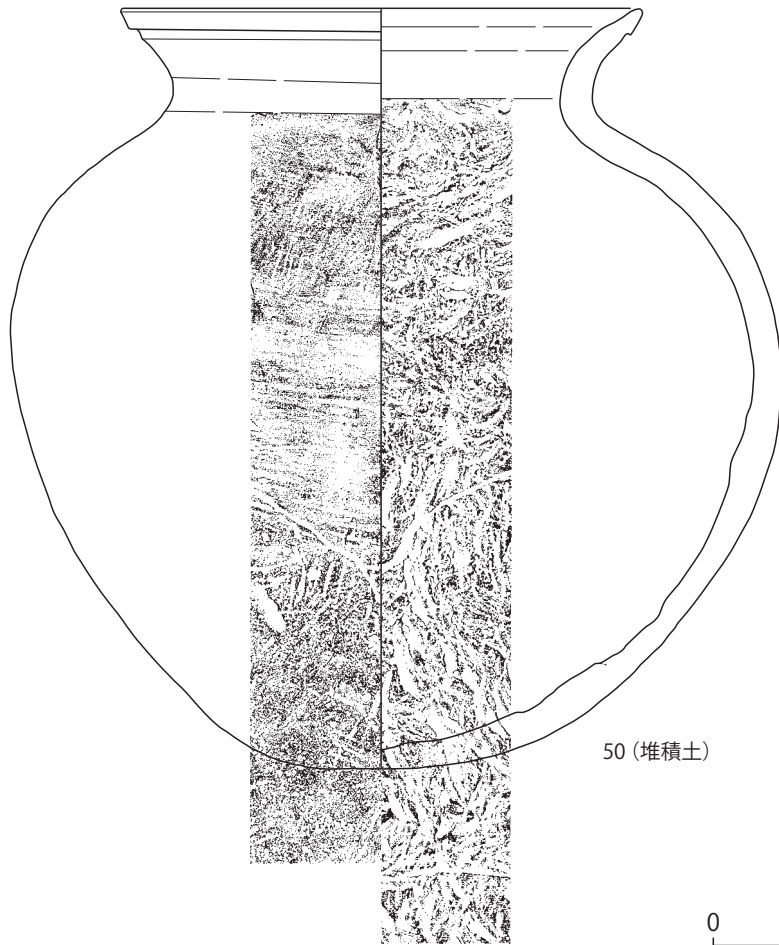
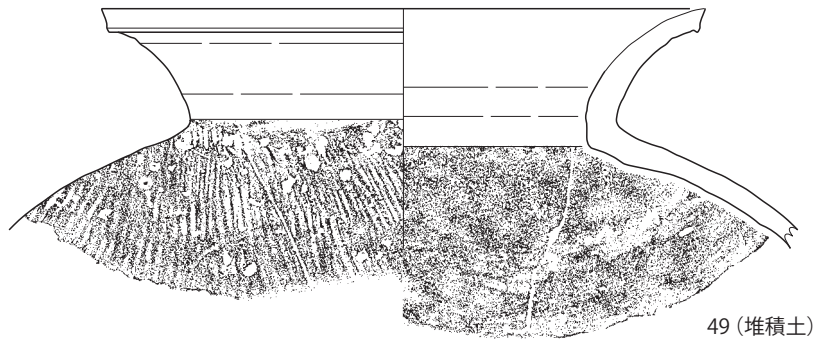
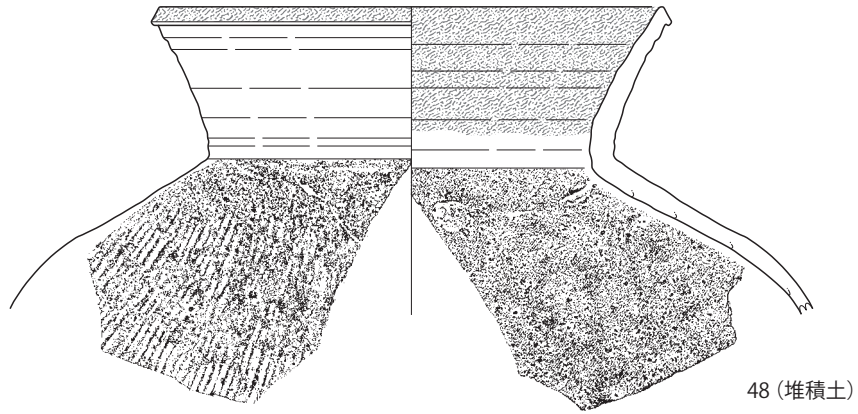
図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
40	E-078	SD307	堆積土	須恵器	高台付 壺類	—	—	(17.7)	体上位：自然釉付着のため不明 体中位：回転ヘラスリ→かみ 体下位：手持ヘラスリ→かみ 底部：かみ	体上位：叩調整 体中位～底部：北ナテ	外面体部上・内面底部自然 釉付着 高台部剥離	308
41	E-081	SD307	堆積土	須恵器	平瓶	13.7	—	(25.5)	口縁～体上位：叩調整→把手貼付 体下位：回転ヘラスリ	口縁：叩調整 頸部：北ナテ 体部：叩調整	外面口縁～体部下位・剥離 部分・内面口縁部・体部下 位に自然釉付着 高台部剥離	309

第20図 SD307 溝跡出土遺物 (8)



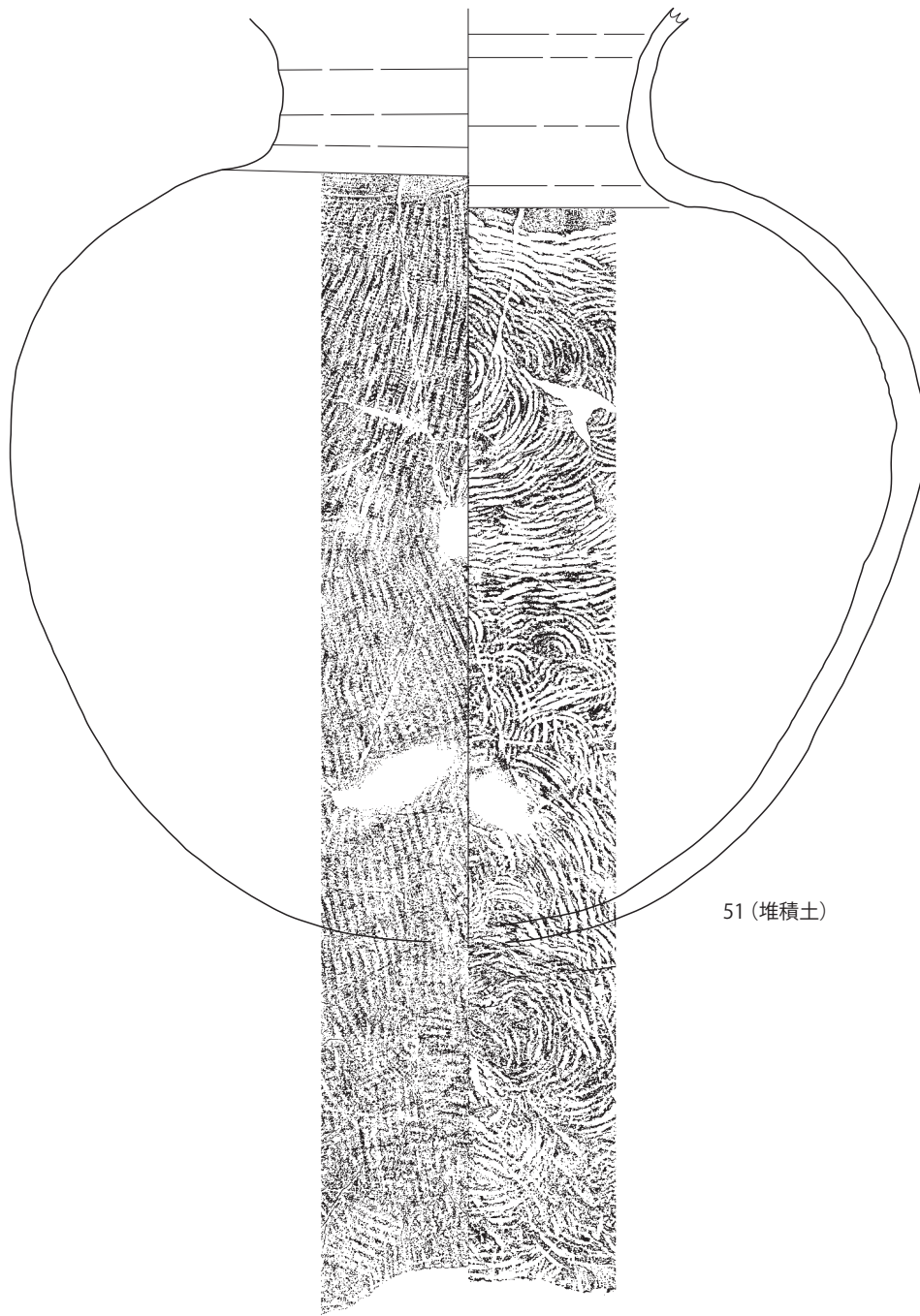
図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
42	E-086	SD307	堆積土	須恵器	甗	(45.0)	—	(11.6)	口縁：叩調整 胴部：平行斜 把手：北「ナ」による貼付	口縁：叩調整 胴部：青海波「ナ」具痕	外面口唇部・内面口縁部灰 かぶり 把手剥離	309
43	E-087	SD307	堆積土	須恵器	甗	(22.8)	—	(7.2)	口縁：叩調整 胴部：平行斜	口縁：叩調整 胴部：青海波「ナ」具痕	外面胴部・内面口縁部自然 剥付着 骨針少量含む	309
44	E-082	SD307	堆積土	須恵器	甗	(23.4)	—	(7.5)	口縁：叩調整 胴部：平行斜	叩調整		309
45	E-085	SD307	堆積土	須恵器	甗	(21.2)	—	(10.3)	口縁：叩調整 胴部：平行斜	口縁：叩調整 胴部：ハナ「ナ」か	骨針少量、角閃石微量含む	309
46	E-083	SD307	堆積土	須恵器	甗	(20.0)	—	(7.5)	口縁：平行斜→叩調整 胴部：平行斜	口縁：叩調整 頸部：ハナ入り 胴部：ナ		309
47	E-066	SD307	堆積土	須恵器	甗	17.3	—	(9.2)	口縁：叩調整 胴部：平行斜→叩調整	口縁：叩調整 胴部：「ナ」具痕→ナ	口縁部に縄を巻きつけた痕 跡または斜の先端か	309

第21図 SD307溝跡出土遺物(9)



0 (1:3) 10cm

第22図 SD307溝跡出土遺物(10)

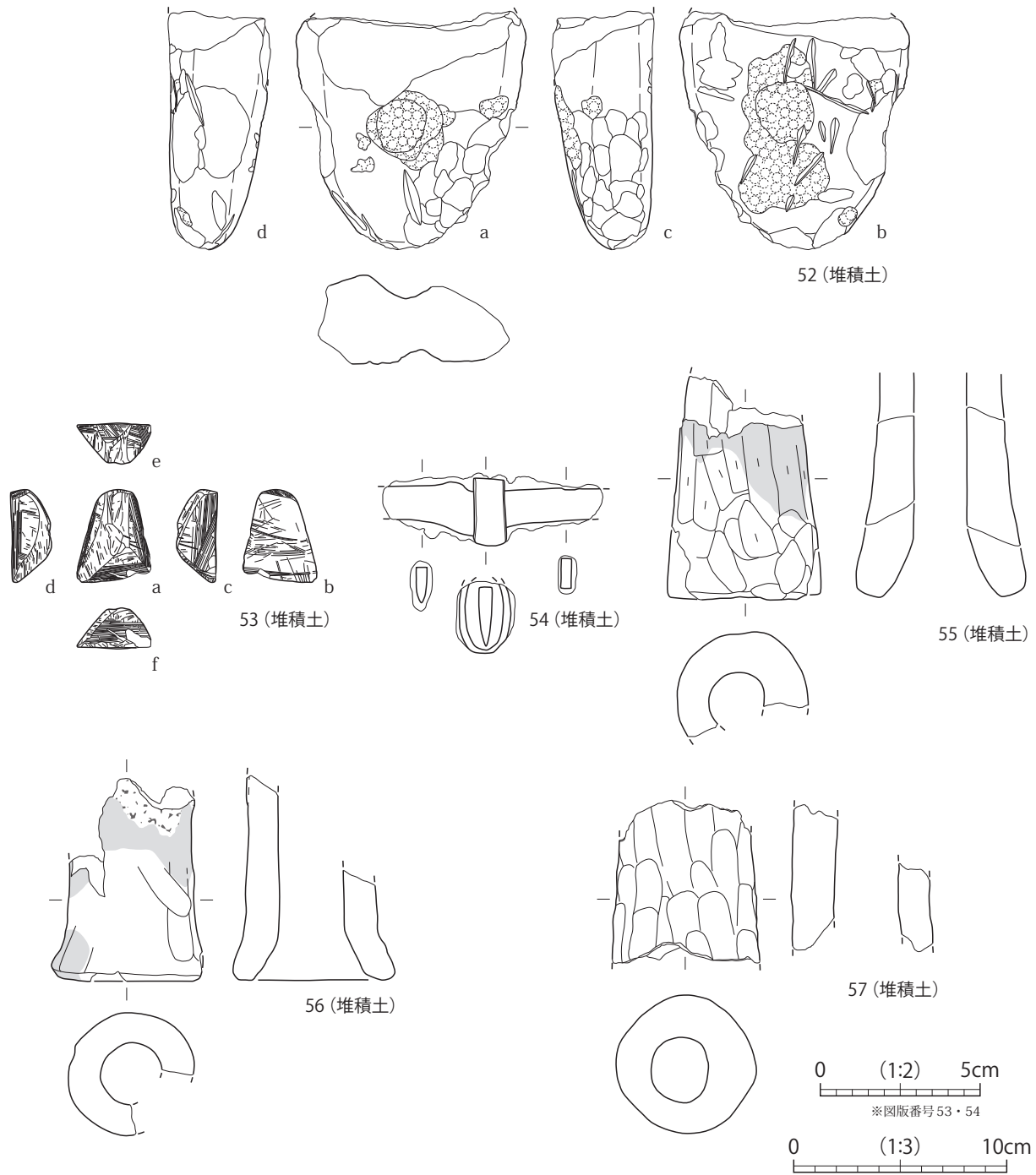


51 (堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
48	E-071	SD307	堆積土	須恵器	甗	(20.0)	—	(12.2)	口縁：叩調整 胴部：平行纹	口縁：叩調整 胴部：ハツテカ	外面口唇部・胴部 内面口縁部に自然釉付着 骨針少量含む	309
49	E-088	SD307	堆積土	須恵器	甗	(24.0)	—	(9.5)	口縁：叩調整 胴部：平行纹	口縁：叩調整 胴部：刃具痕→北' 刀'	内面口縁部・外面に火ハネ痕	309
50	E-089	SD307	堆積土	須恵器	甗	20.6	—	30.2	口縁：叩調整 胴上位：ハツテカ 胴中位～底部：平行纹	口縁：叩調整 頸部：叩調整→ハツテカ 胴～底部：青海波刃具痕		310
51	E-090	SD307	堆積土	須恵器	甗	—	—	(38.2)	口縁：叩調整 胴～底部：平行纹	口縁：叩調整 胴～底部：同心円刃具痕	骨針少量含む	310

第23図 SD307 溝跡出土遺物 (11)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
52	Kc-023	SD307	堆積土	礫石器	凹+敲石	(11.2)	10.8	(4.7)	356.4	凝灰岩	凹2面(深) 敲(平坦・側面) 溝状痕	311
53	Kd-039	SD307	堆積土	石製品	砥石	2.9	2.3	1.2	7.9	ホルンフェルス(●)	砥面7面 線条痕(a~f面) 火傷痕(a面)	311
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
54	N-030	SD307	堆積土	金属製品	鉄製刀子	(6.8)	1.9	0.4				20.2
55	P-039	SD307	堆積土	土製品	羽口	(10.5)	6.8	4.9	205.0	外面:ヘラズリ吸気部付テ 内面:ナリ 吸気部ヘラズリ狭端部側被熱による変色あり	311	
56	P-040	SD307	堆積土	土製品	羽口	(9.5)	7.0	5.8	184.3	外面:ヘラズリ→ナリ 内面:芯棒引き抜き未調整 吸気部摩擦減 狭端部融解物付着あり 部分的に被熱による変色あり	311	
57	P-041	SD307	堆積土	土製品	羽口	7.7	6.9	6.5	234.0	外面:ナリ 内面:芯棒引き抜き未調整	311	

第24図 SD307出土遺物(12)

40は須恵器壺類で、高台付短頸壺と考えられる。肩部は丸く屈曲し、高台は体部の大きさの割に小さなものが付されている。外面は肩部に1条の沈線がめぐり、体部中位から下位にかけてカキメが粗く施されている。色調は暗青灰色～暗紫灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黒色粒子を含む。黄緑色の自然釉が外面の肩部に付着している。41は須恵器平瓶で、両側面を面取りされた把手が付されている。肩部は丸く屈曲し、口縁部で緩く外反する。端部はわずかに凹面を持つ。底部には高台の剥離痕が認められ、剥離部分には接合沈線が2～3条ほど粗くめぐる。色調は暗灰色～暗青灰色を呈し、胎土は精良で、少量の砂粒、黒色粒子を含む。黄緑色の自然釉が外面の口縁部から体部下位、内面の口縁部から頸部と胴部下位に付着している。42～51は須恵器甕で、42は剥離しているが把手付きと考えられる。43の口縁端部は平坦面を持ち、下端に断面三角形の突帯がめぐる。そのほか、端部が方形を呈するものが1点、上下につまみ出されるものが2点、下端に垂下するものが4点ある。50・51は丸底で、胴部上位に最大径が位置し張りの強い胴部である。42・51の色調は灰色～暗灰色、43・45は暗灰色、44は暗紫灰色～青灰色、46は橙色、47は暗灰色～暗紫灰色、48は紫灰色、49は灰白色、50は紫灰色～灰色を呈する。42の胎土は精良、43・45・46・48はやや精良で、44・47・49・51はやや粗く、50は粗い。いずれも砂粒を含み、42は黒色粒子を多量、45～48・50・51は中量含む。43・44・48・50・51は白色粒子を含む。49は赤色粒子を含む。43・45・48・51は海綿骨針を少量含む。49・50の焼成はやや不良で、軟質である。

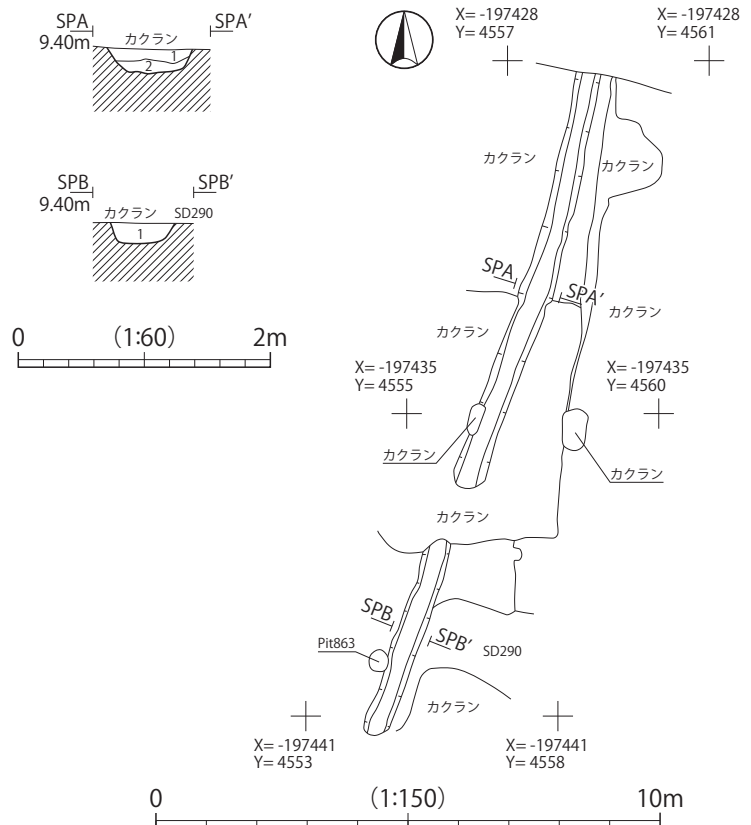
52は凹敲石で、a～d面に敲打痕がみられ、a・b面には凹みが形成されている。a・b・d面に溝状痕が認められる。石材は凝灰岩である。53は砥石で、砥面が7面あり、a面に火ハネの痕跡がみられる。石材はホルンフェルスである。54は鉄製刀子で、^{なかご}茎部に口金が残存する。55～57は羽口である。55・56は被熱により部分的に変色しており、56は狭端部側に融解物が付着している。

SD316溝跡(第25図、第2表)

調査区北部の24・31・39・47区に位置する。南端部はSD290と重複し、北端部は調査区外へ延びる。南側の一部も攪乱により失われている。SD290、Pit863・1327より古い。

方位はN-13～20°-Eで、南北方向へ直線的に延びる。確認された規模は長さ15.03m、上端幅45～68cm、下端幅24～40cm、深さ8～26cmを測る。断面形は台形を呈する。底面はわずかに起伏し、南に向かって14cm程度傾斜して下がる。堆積土は2層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器が出土したが、図化できるものはなかった。



第25図 SD316溝跡

第2表 溝跡(平安時代以降)観察表

遺構名	区割	方向(N°)	規模(cm)				層位	土色	土性	備考	重複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD290	39・47～49 55・57・58 62・63・71 72・80・81 89・98・106 113・114 121・122 129・137	西辺15 ～34E 北辺69 ～78W	(9143)	84～ 187	19～ 101	14～ 51	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色火山灰少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK478より古く、SD305・307・316、SK345・481より新しい。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
							3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)・炭化物粒微量含む。	
							4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
							5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)多量含む。	
SD300	125・132 133・139 140・147 154・155 161・162	47～ 53E	(4587)	71～ 158	26～ 76	11～ 48	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SD307より新しい。
							2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SD305	43・44 52・53 60～62	60～ 79W	(3579)	82～ 137	21～ 82	5～ 53	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	SD290より古い。
							2a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色火山灰ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土粒微量含む。	
							2b	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
							3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～50mm程度)少量含む。	
SD307	112・113 120～ 123・128 130～ 132・139 ～141 149・157	東辺0 北辺 70W 西辺35E	(6874)	97～ 322	22～ 64	52～ 97	1a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物ブロック(10mm程度)少量、IV層土粒を微量含む。礫・遺物が集中して出土。	SD290・300より古く、SX45より新しい。
							1b	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
							1c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
							1d	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
							2a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
							2b	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量、礫含む。	
							3a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
							3b	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
							4a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
							4b	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
							4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、黒褐色シルトブロック(5～30mm程度)・炭化物粒微量含む。	
							5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。	
							5b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック・炭化物ブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
							5c	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・炭化物粒微量含む。	
							6a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量、褐色シルトをラミナ状に含む。	
							6b	10YR5/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)微量、灰黄褐色シルトをラミナ状に含む。	
							6c	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)多量含む。	
							7a	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※掘り直し前の堆積土	
							7b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※掘り直し前の堆積土	
							7c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。 ※掘り直し前の堆積土	
8a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※掘り直し前の堆積土								
8b	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※掘り直し前の堆積土								
8c	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量含む。 ※掘り直し前の堆積土								
SD316	24・31 39・47	13～ 20E	(1503)	45～ 68	24～ 40	8～ 26	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。	SD290より古い。
							2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。	

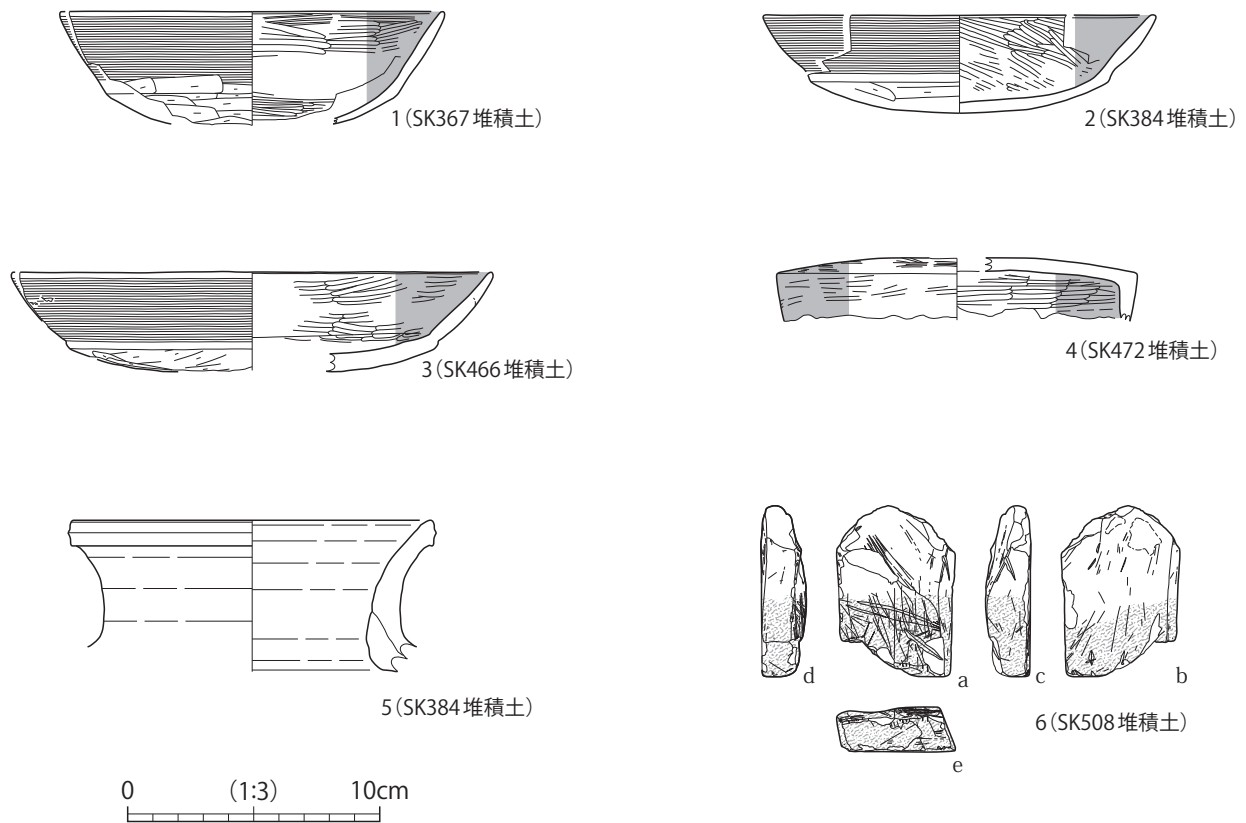
(3) 土坑(第5・26～36図、第3～6表)

土坑は、92基検出した。調査区のほぼ全域に分布し、平面的に集中する傾向は認められない。平面形は円形・楕円形・(隅丸)方形・(隅丸)長方形と多様だが、円形基調の土坑が半数以上を占める。規模は長軸で48cmのSK398が最小、538cmのSK357が最大で、全体では長軸60～110cm前後の土坑が主体である。特にSK357の平面形は狭長な長方形で、溝に近い形状をもつ特徴がある。いずれの土坑も性格は不明である。

堆積土の大部分は自然堆積とみられるが、SK338・357・359・360・365・395・401・405・457・458・481～483・489・490などのように、人為堆積の土坑も確認され、SK338・365・401・405・489では多量の炭化物ブロックが出土した。

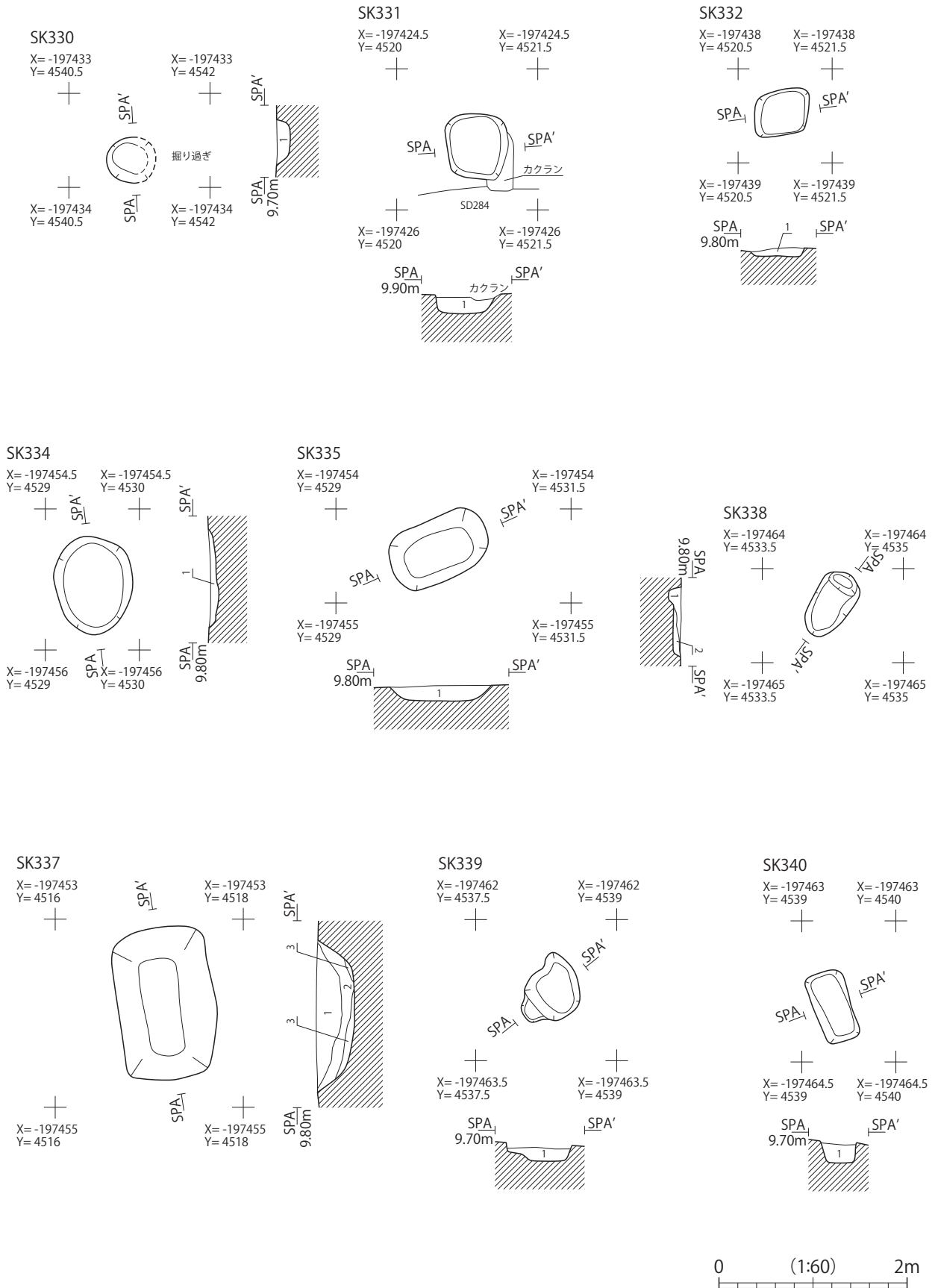
遺物は63基の土坑から出土した。土師器・須恵器の小片が主体で、それぞれの出土量は少ない。そのほかにSK362から煙管、SK508から砥石が出土した。これらの出土遺物のうち、SK367の土師器坏1点、SK384の土師器坏1点、須恵器甕1点、SK466の土師器坏1点、SK472の土師器壺蓋1点、SK508の石製品1点を掲載した(第26図)。1～3は土師器坏で、1は深身、2・3は浅身である。1・2の口縁部は直線的に外傾し、3は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は外面に1が稜、2・3が段を持つ。いずれも内面に黒色処理が施されている。4は土師器壺蓋で、水平に近い天井部を持ち、口縁部は直線的に垂下する。内外面に黒色処理が施されている。5は須恵器甕である。厚手の頸部から口縁部にかけて緩く外反し、端部は緩い凸面を持つ。色調は灰色で、胎土はやや粗く、2mm以下の砂礫と多量のスポンジ骨針を含む。6は砥石で、砥面が5面あり、各面に溝状痕・線条痕がみられる。下半部は被熱により黒変する。石材は細粒凝灰岩である。

各土坑の規模などは、観察表を参照されたい。なお、SK483の堆積土3層から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦565～603年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

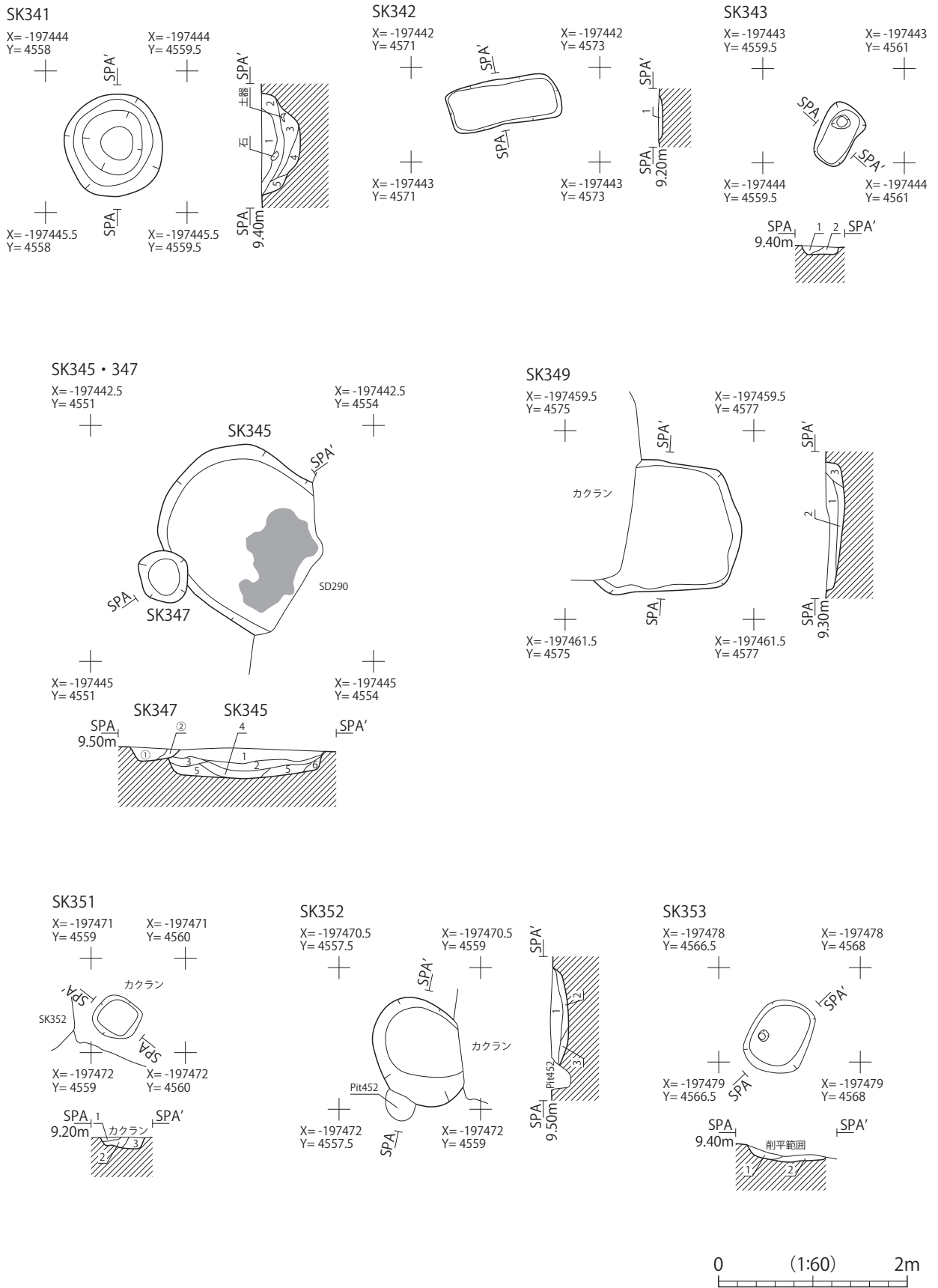


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-705	SK367	堆積土	土師器	坏	(15.2)	—	(4.5)	口縁：ヨナテ 体部：ヘラスリ	口縁：ハケメ→ヘラミガキ 体部：ヘラミガキ	内面黒色処理	311
2	C-706	SK384	堆積土	土師器	坏	(15.6)	—	(3.9)	口縁：ヨナテ 体→底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	311
3	C-177	SK466	堆積土	土師器	坏	(19.0)	—	(3.9)	口縁：ヨナテ 体部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石中量含む 内外面摩滅	311
4	C-714	SK472	堆積土	土師器	壺蓋	(13.8)	—	(2.6)	ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理・火跡痕	311
5	E-098	SK384	堆積土	須恵器	甕	(14.2)	—	(6.0)	叩調整	叩調整	骨針多量含む	311
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
6	Kd-044	SK508	堆積土	石製品	砥石	6.8	4.7	1.8	73.3	細粒凝灰岩	砥面5面 溝状痕(a～c面) 線条痕(a～e面) 節理(a面) 被熱痕(a～e面)	311

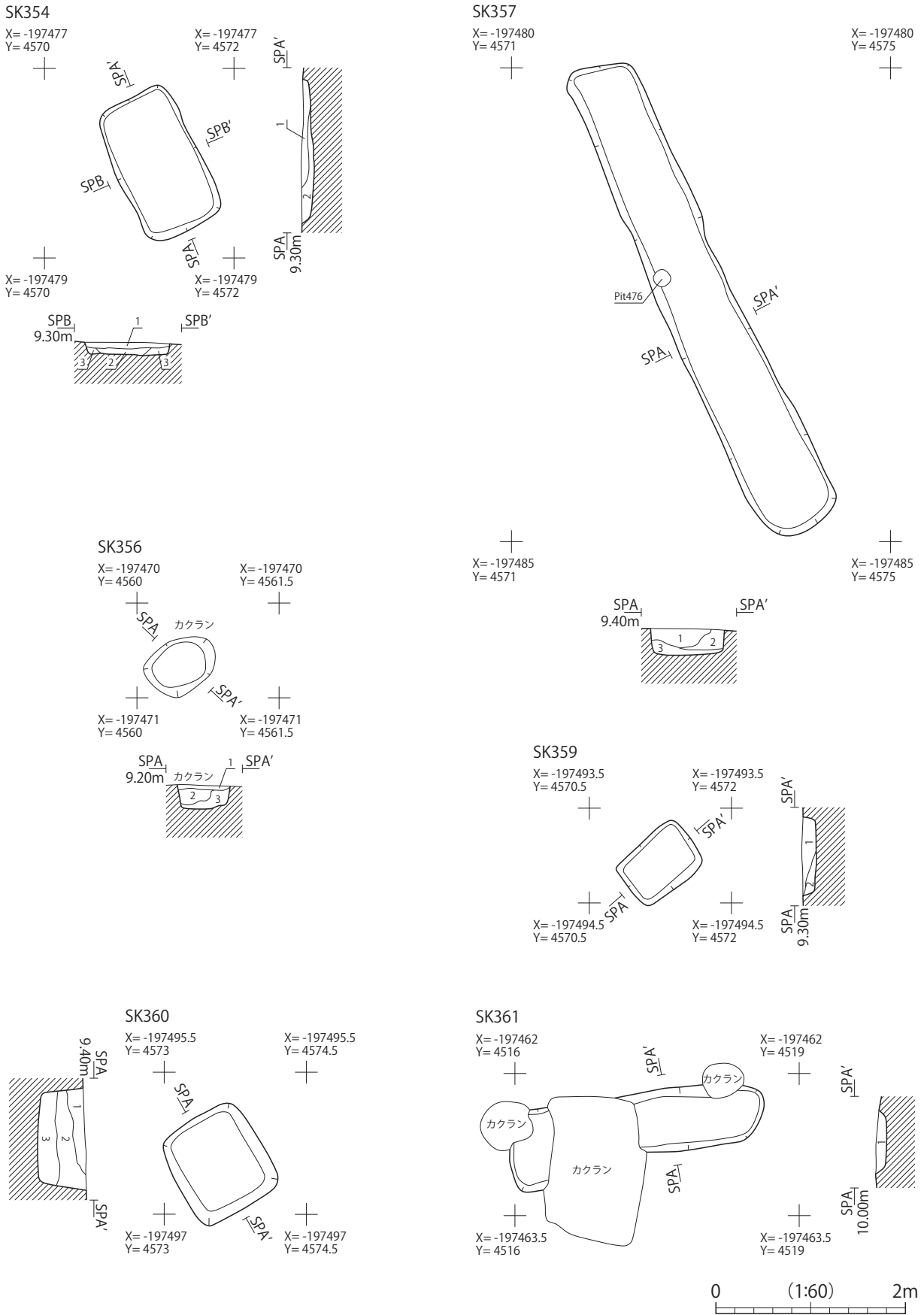
第26図 平安時代以降土坑出土遺物



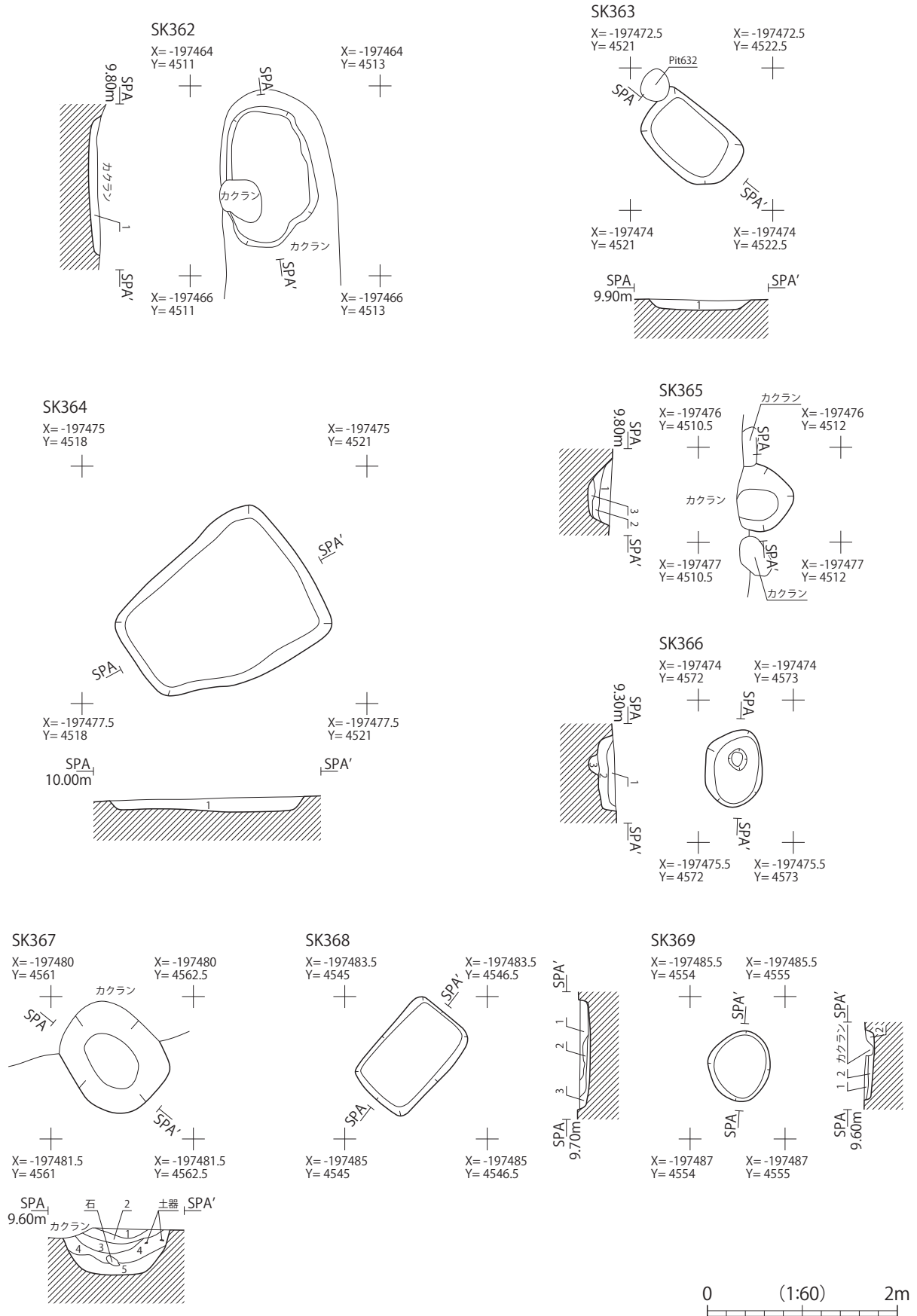
第27図 平安時代以降土坑(1)



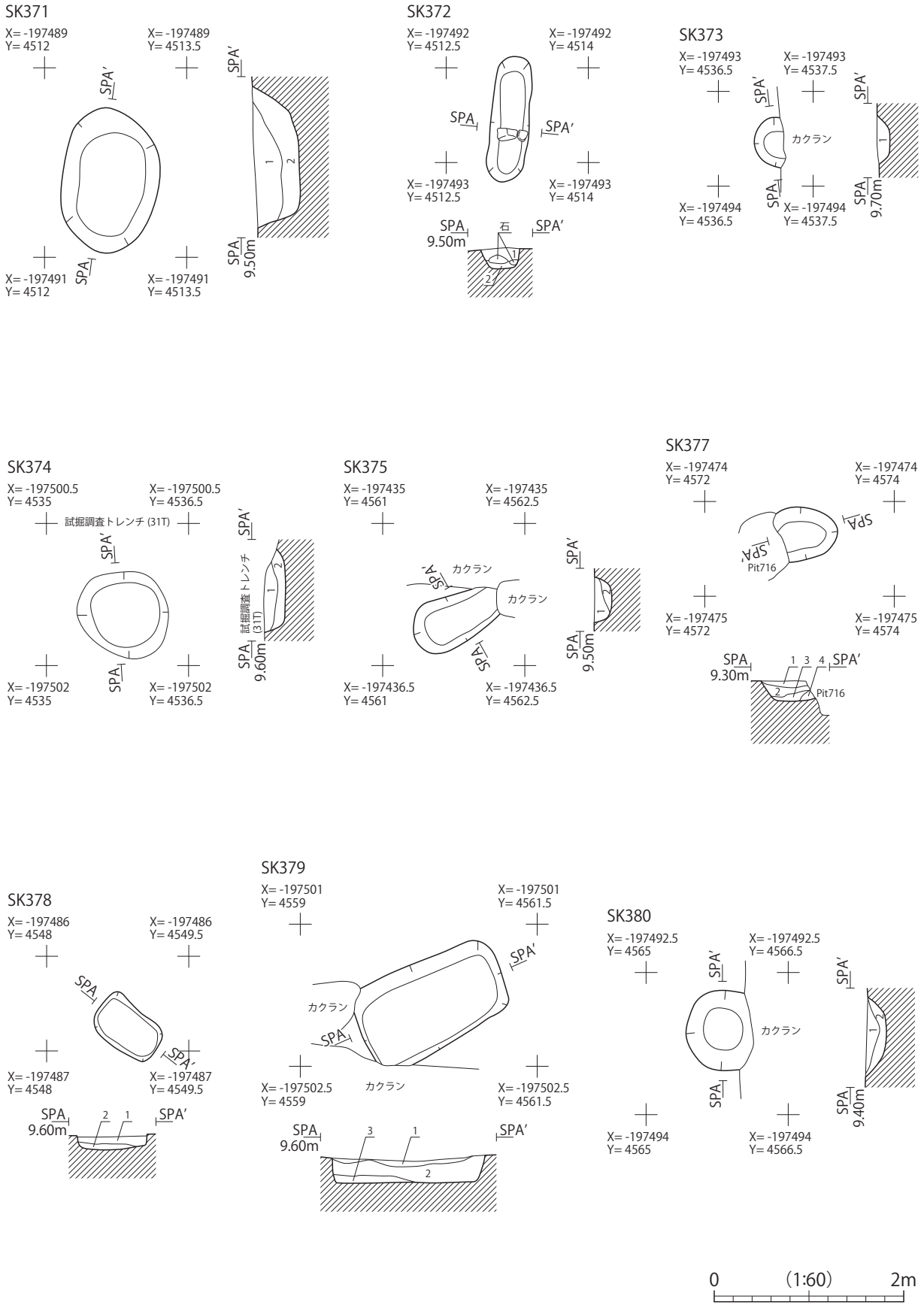
第28図 平安時代以降土坑 (2)



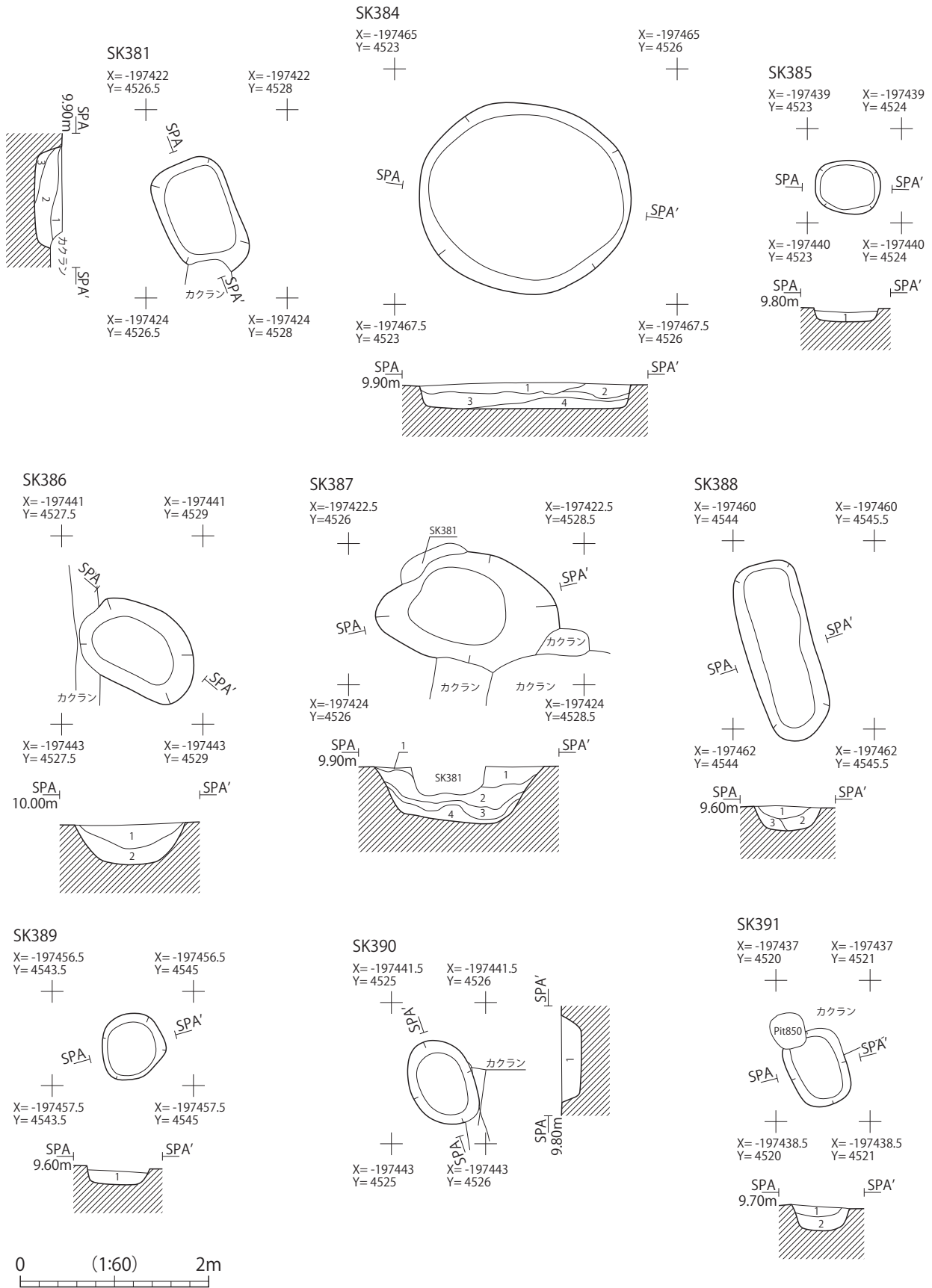
第29図 平安時代以降土坑 (3)



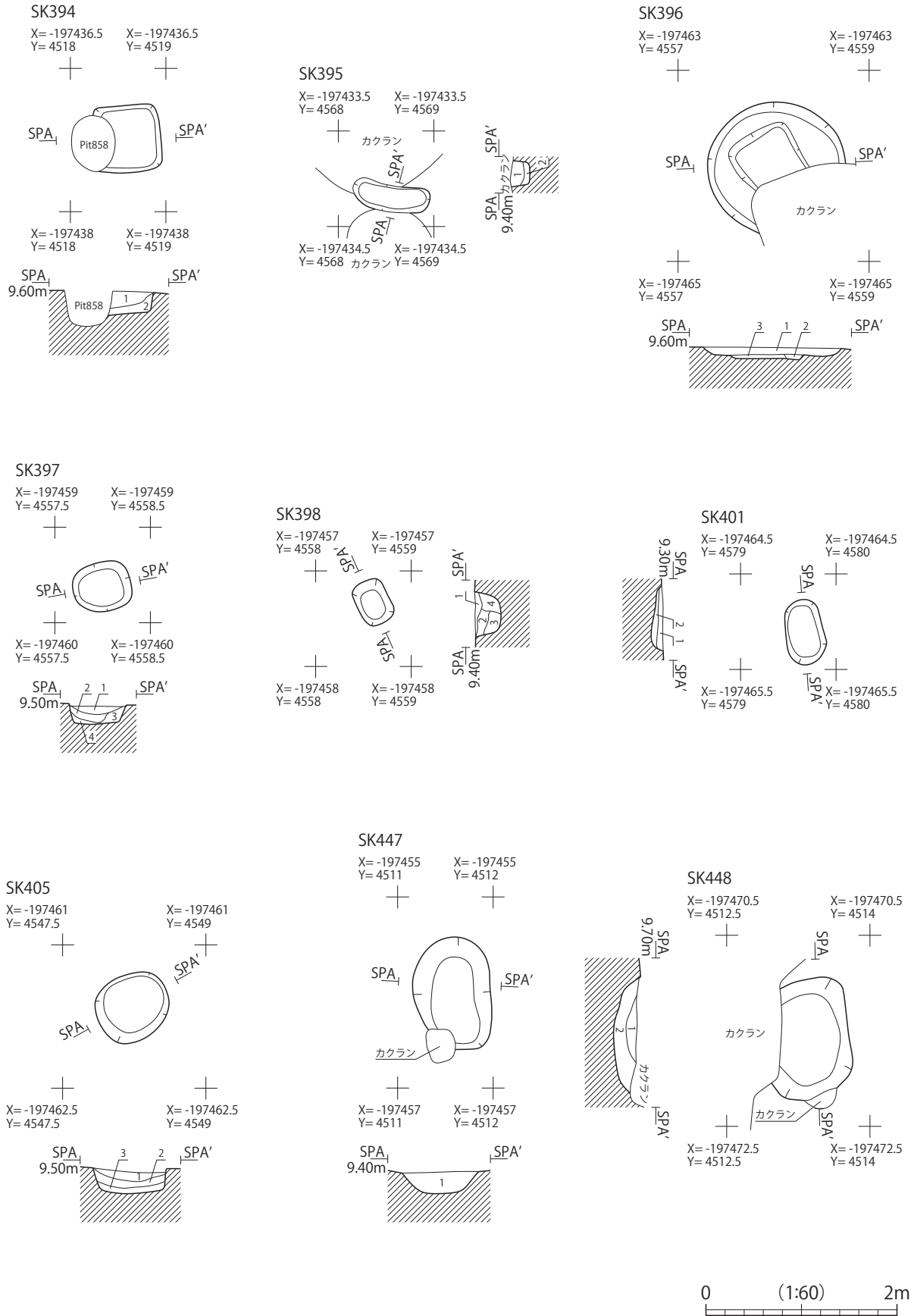
第30図 平安時代以降土坑(4)



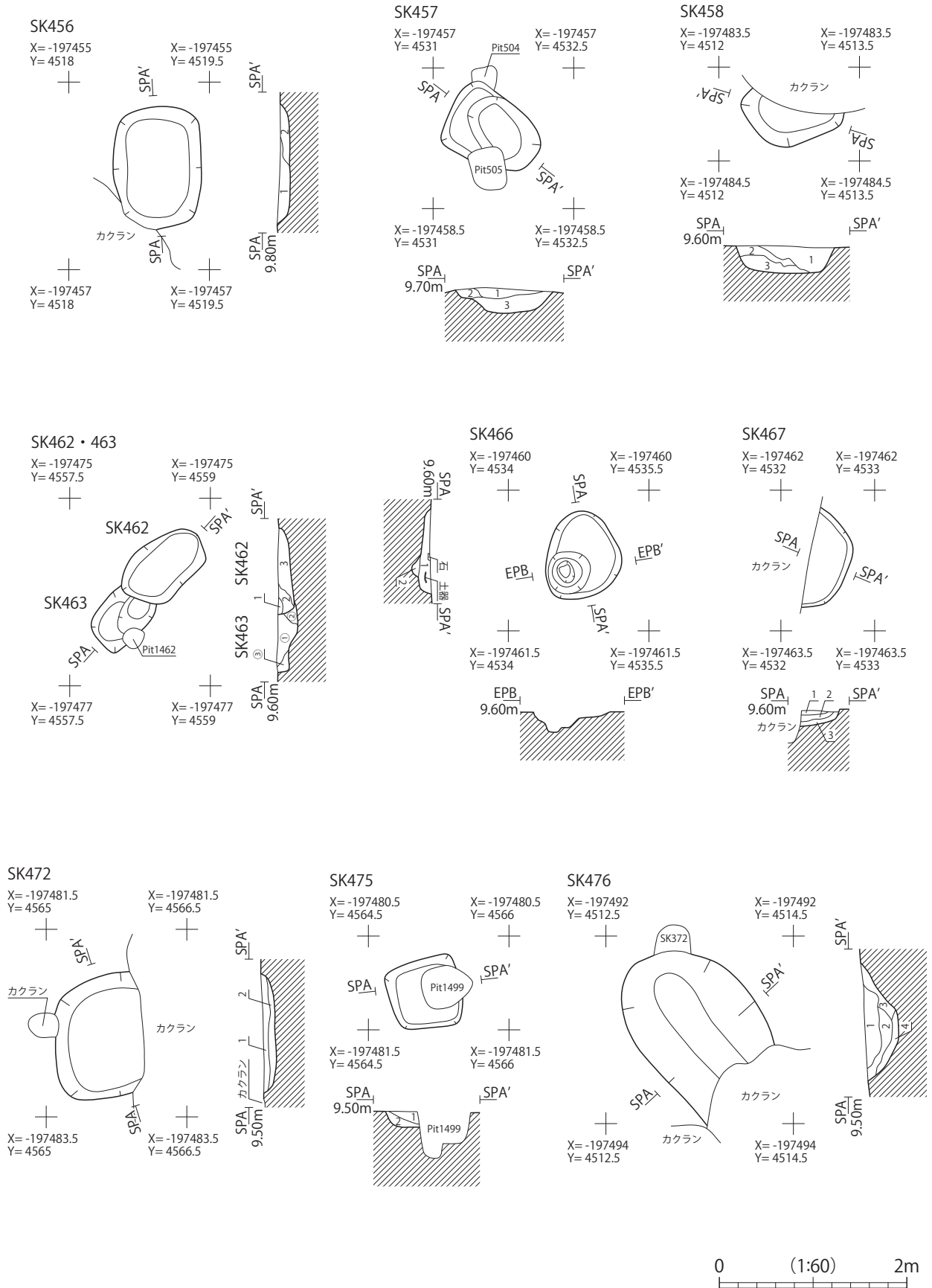
第31図 平安時代以降土坑 (5)



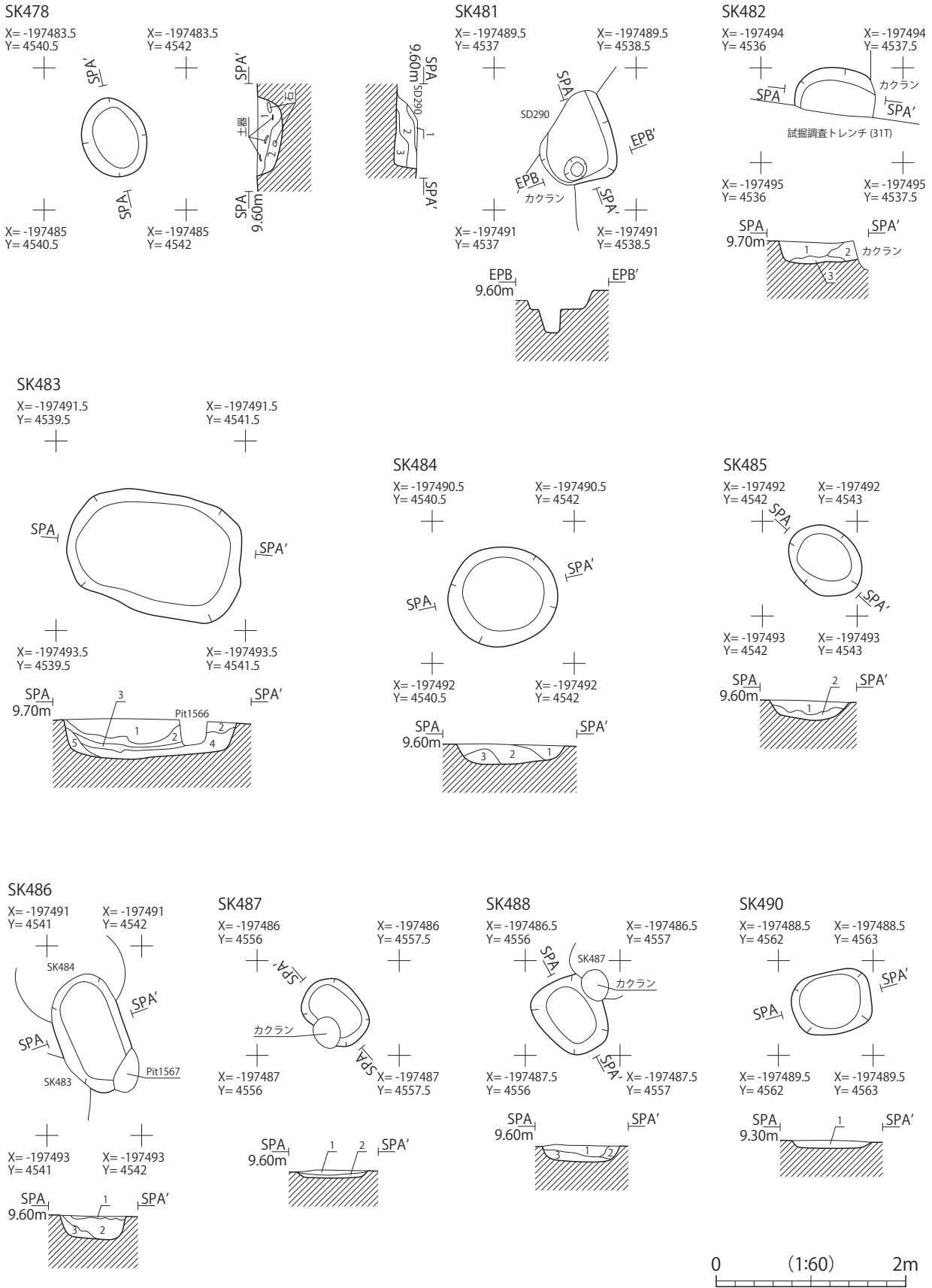
第32図 平安時代以降土坑 (6)



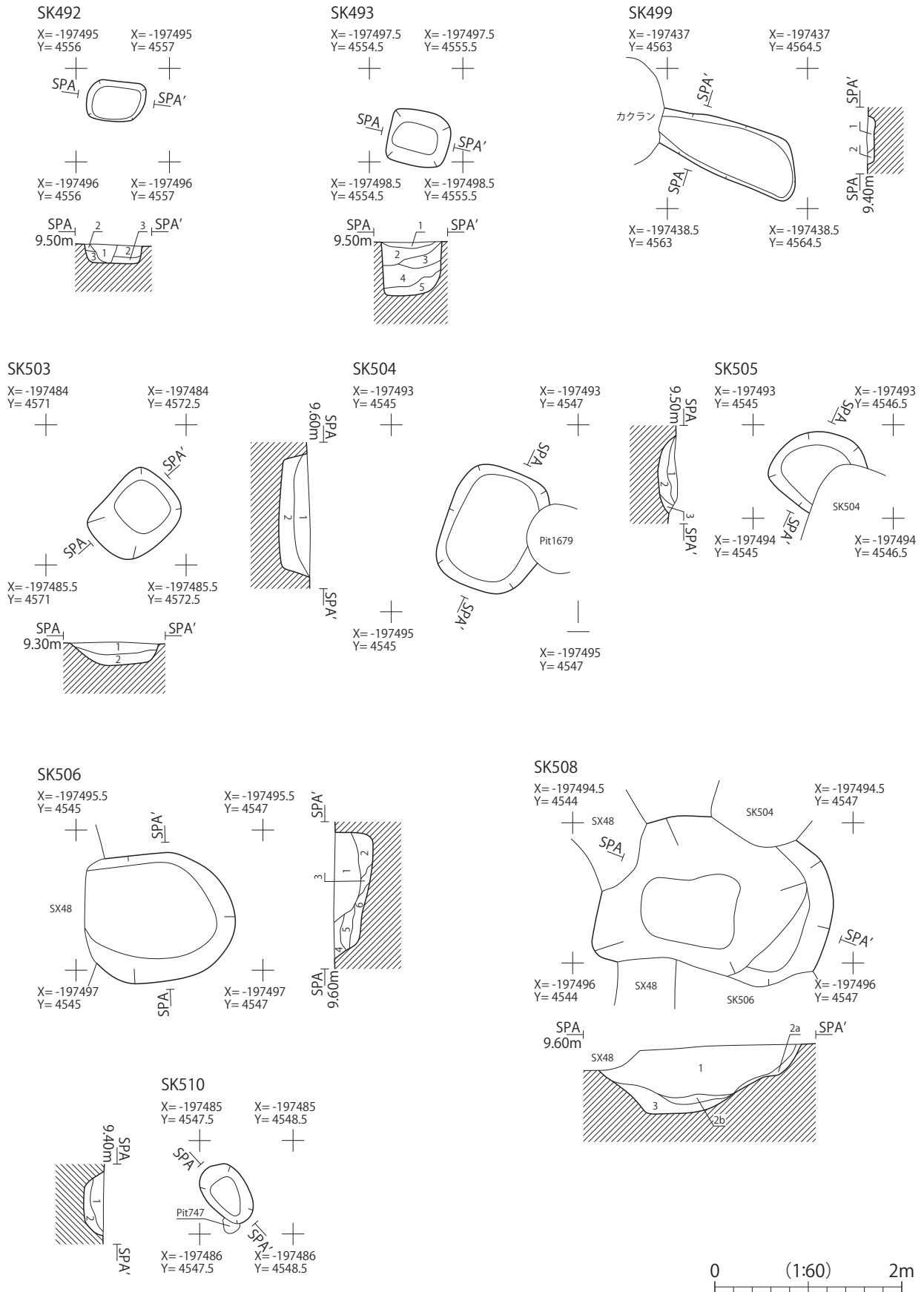
第33図 平安時代以降土坑 (7)



第34図 平安時代以降土坑 (8)



第35図 平安時代以降土坑 (9)



第36図 平安時代以降土坑(10)

第5章 検出遺構と出土遺物

第3表 土坑(平安時代以降)観察表(1)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK330	30	(円形)	49×(30)	16	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。	
SK331	16・21	隅丸方形	69×(65)	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
SK332	36	隅丸長方形	60×46	10	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒含む。	
SK334	60・69	楕円形	104×84	14	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	Pit1291より新しい。
SK335	60・61	隅丸長方形	108×65	16	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	Pit528・529・1245・1291より新しい。
SK337	59	隅丸長方形	163×105	42	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit527より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
SK338	79	楕円形	75×43	13	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物ブロック(10～30mm程度)多量、IV層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
SK339	79	不整形	70×57	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK340	79	隅丸長方形	77×41	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK341	47・55	円形	108×104	42	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック帯状に少量含む。	Pit74・893より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
SK342	49	隅丸長方形	118×49	5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック帯状に少量含む。	
SK343	48	隅丸長方形	65×44	39	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
SK345	47	(円形)	(172)×167	32	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。	SD290、SK347より古く、Pit864・883より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	炭化物帯状に少量、IV層土粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
SK347	47	円形	58×52	14	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	SK345より新しい。
					②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK348	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SK349	74・83	(隅丸方形)	(150)×136	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	Pit241より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
SK351	99	隅丸方形	(47)×(45)	(12)	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	Pit424より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
SK352	99	(楕円形)	123×(94)	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。	Pit452より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK353	108	隅丸長方形	80×63	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	Pit453・472より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK354	109	長方形	152×90	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK356	100	(楕円形)	(74)×(56)	(25)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土主体。崩落土。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK357	109 117	隅丸長方形	538×87	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	Pit476より古く、Pit1752より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK359	133	長方形	84×62	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に多量含む。	
SK360	141	隅丸方形	109×98	51	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
SK361	77	隅丸長方形	273×86	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	
SK362	77・86	(楕円形)	(147)×(95)	(15)	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。	
SK363	96	隅丸長方形	108×69	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。	Pit632より古い。
SK364	103 104	長方形	205×165	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。	Pit648より新しい。
SK365	103	(円形)	72×(60)	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(10mm程度)多量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。	
SK366	101 109	楕円形	81×60	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	Pit716より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
SK367	116	(楕円形)	(116)×(96)	49	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色火山灰少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。	

第4表 土坑(平安時代以降)観察表(2)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK368	114	長方形	116×76	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK369	123	円形	75×66	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
SK371	119 127	楕円形	153×100	47	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
SK372	127	楕円形	133×41	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	SK476より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
SK373	129	(円形)	52×(31)	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
SK374	145	(円形)	(96)×(92)	(23)	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。	
SK375	40	楕円形	(102)×57	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。	
SK376	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SK377	101	楕円形	(67)×58	24	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit716より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK378	122	隅丸長方形	74×50	14	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。	
SK379	147 148	隅丸長方形	162×97	27	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK380	132	円形	84×(72)	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。一部グライ化。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。	
SK381	16	隅丸長方形	(128)×80	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	SK387より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK384	87	円形	225×201	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(30mm程度)少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・黒褐色シルト粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK385	36	楕円形	69×57	14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK386	44	(楕円形)	(132)×(90)	45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
SK387	16	楕円形	(197)×(117)	54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	SK381より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルト斑状に少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。	
SK388	80	隅丸長方形	193×75	27	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量、焼土粒微量含む。	
SK389	71	円形	69×68	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK390	44	楕円形	95×68	21	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK391	36	隅丸長方形	(82)×(63)	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	Pit850より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK394	35	方形	70×(69)	24	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit858より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
SK395	32	(楕円形)	(81)×28	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK396	81	(円形)	(138)×(113)	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	Pit912・986より古く、Pit958・1434・1435・1439より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK397	72	円形	61×52	22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒を微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SK398	72	隅丸長方形	48×34	26	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SK401	83・92	楕円形	68×41	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物との互層。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	

第5章 検出遺構と出土遺物

第5表 土坑(平安時代以降)観察表(3)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK405	80	円形	78×69	29	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒少量、IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。	
SK406 ～ SK445	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(令和2年度調査)	
SK447	68	楕円形	118×81	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・礫(20～50mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK448	95	(隅丸長方形)	(120)×(87)	25	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					2	5YR3/2 暗赤褐色	粘土質シルト	灰色シルト斑状に多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK456	68	隅丸方形	132×94	16	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					2	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
SK457	70	楕円形	105×78	23	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒・礫(20mm程度)微量含む。	Pit504・505より古い。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルト斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
SK458	111	(隅丸長方形)	(109)×(53)	29	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK462	107	楕円形	95×61	17	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	SK463より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK463	107	(楕円形)	(66)×50	22	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	SK462、Pit1462より古い。
					②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					③	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
SK466	79	円形	91×82	21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK467	79	(円形)	(109)×(43)	(17)	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・灰白色シルトブロック(10～20mm程度)少量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
SK472	116	(隅丸方形)	132×(94)	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
SK473	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(令和2年度調査)	
SK474	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(令和2年度調査)	
SK475	116	隅丸方形	77×76	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit1499より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK476	127	(楕円形)	(171)×128	43	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SK372より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	粗砂多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					4	7.5YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、酸化鉄少量含む。	
SK478	114	楕円形	85×68	26	1	5Y5/1 灰色	シルト	IV層土粒・褐鉄鉱微量、土器、礫含む。	SD290より新しい。
					2	5Y5/1 灰色	シルト	IV層土粒・褐鉄鉱少量、土器、礫含む。	
SK481	121 129	(隅丸長方形)	(94)×(80)	24	1	2.5Y5/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SD290より古く、Pit1573・1574より新しい。
					2	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK482	129	(円形)	(84)×(49)	20	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit1576より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
SK483	129 130	隅丸長方形	188×129	43	1	7.5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	Pit1566より古く、SK486、Pit1575より新しい。
					2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土斑状に多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					4	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					5	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
SK484	130	円形	116×105	22	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。	SK486より新しい。
					2	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量、酸化鉄微量含む。	
					3	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、酸化鉄・炭化物粒微量含む。	
SK485	130	楕円形	85×67	21	1	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
SK486	130	(楕円形)	(126)×72	25	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SK483・484、Pit1567より古い。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・褐灰色シルトブロック(5mm程度)多量、酸化鉄少量含む。	
SK487	123	隅丸長方形	76×56	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	SK488より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。	
SK488	123	隅丸方形	82×(72)	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	SK487より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	

第6表 土坑(平安時代以降)観察表(4)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	重複
			長軸×短軸	深さ					
SK490	124	隅丸長方形	84×66	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK492	139	隅丸長方形	62×43	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK493	139	隅丸方形	66×59	58	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
SK496	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SK499	40	(隅丸長方形)	(155)×60	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
SK500	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	
SK503	117 125	隅丸長方形	95×76	25	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
					2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物帯状に含む。	
SK504	130	隅丸方形	133×(108)	34	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit1679より古く、SK505・508、Pit1765より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
SK505	130	(円形)	92×(91)	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	SK504より古い。
					2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SK506	138	(楕円形)	(161)×138	43	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SX48より古く、SK508、Pit1738より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。	
					5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。	
					6	2.5Y7/4 浅黄色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。	
SK508	130 138	(楕円形)	(246)×(161)	78	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK504・506、SX48より古い。
					2a	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。	
					2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。	
SK510	122	楕円形	69×45	21	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒・褐鉄鉱微量含む。	Pit747より古い。
					2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。	

(4) ピット(第37～43図、第7～21表)

ピットは、1,506基検出した。これらは調査区のほぼ全域に分布し、調査区中央部、東部、西部では地点的に集中する。

柱痕跡が確認されたピットは178基あり、柵や建物が存在した可能性が考えられるが、組み合うピットは確認できなかった。

遺物は556基から出土し、土師器・須恵器の小片が主体で、そのほかに礫石器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品の出土もみられた。これらの出土遺物のうち、Pit41の土製品1点、Pit846の礫石器1点、Pit1157の土師器坏1点、Pit1508の石製品1点、Pit1557の土師器坏1点を掲載した(第43図)。

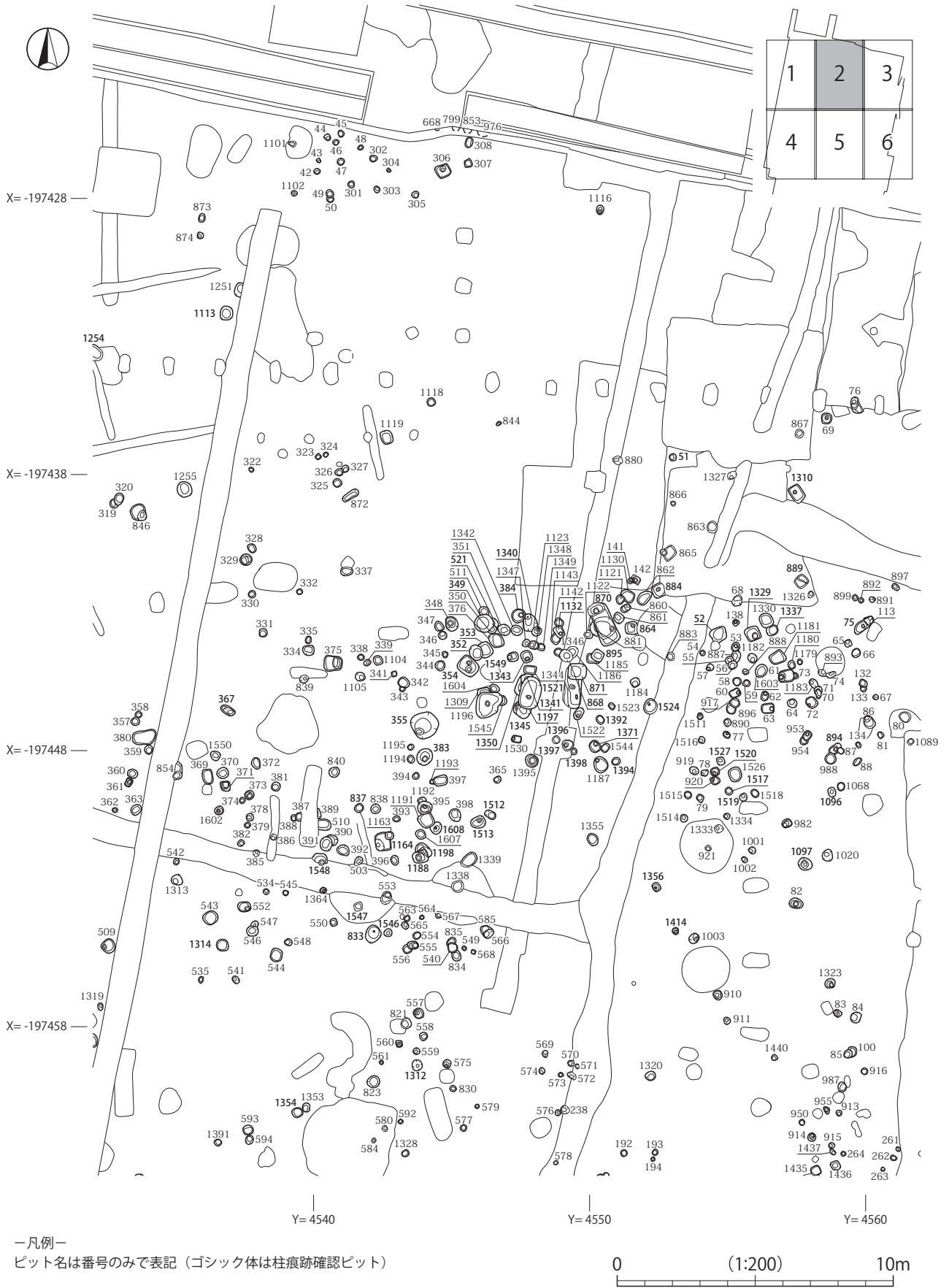
1・2は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりで、扁平な丸底を呈し、口縁部は短く直立する。口縁部と体部の境は外面に段を持つ。内面をナデ調整後、放射状にヘラミガキが粗く施されている。色調は暗褐色～にぶい橙色を呈し、胎土は精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。2は浅身で、口縁端部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境は内外面に稜を持つ。内面に黒色処理が施されている。

3は磨敲石で、全面に磨面、a・b面に敲打痕がみられる。a面には黒色物質が付着する。石材は安山岩である。4は有孔石製品で、中央には両側から穿孔された貫通孔がある。a・b面に線条痕が認められる。石材は凝灰岩である。5は白玉状の土玉で、全体をミガキ後黒色処理が施されている。

各ピットの規模などは、観察表を参照されたい。



第37図 平安時代以降ビット配置図(1)



第38図 平安時代以降ビット配置図(2)



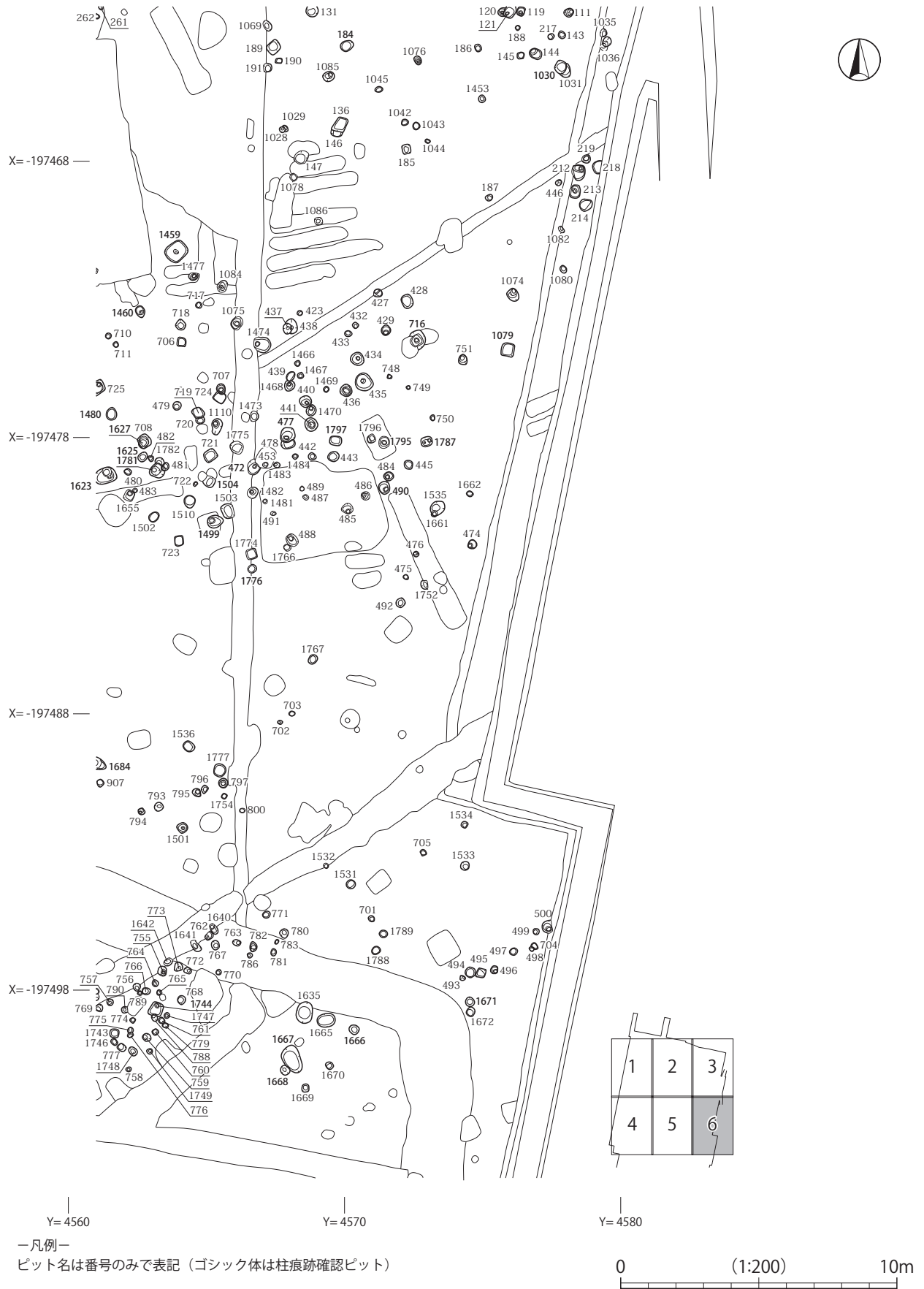
第39図 平安時代以降ピット配置図 (3)



第40図 平安時代以降ピット配置図(4)



第41図 平安時代以降ピット配置図 (5)



第42図 平安時代以降ピット配置図(6)

第5章 検出遺構と出土遺物

第7表 ビット(平安時代以降)観察表(1)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考					
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ									
Pit1	15	円形	33×32	25	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit76	39	(楕円形)	(61)×(35)	71	1	黒褐	シ	IVB△					
					2	黒褐	粘シ	IV△						Pit77	55	楕円形	29×22	13	1	暗褐	シ	IV×
Pit2	15	楕円形	34×23	32	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit78	55	円形	25×22	32	1	黒褐	シ	IV×					
					2	褐灰	粘シ	IV△						Pit79	55	隅丸方形	26×25	18	1	黒褐	シ	IV×
Pit3	20・21	楕円形	36×23	31	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit80	56	(円形)	(43)×(37)	25	1	黒褐	シ	IV・炭×					
					2	黒褐	粘シ	IV△						Pit81	56	隅丸方形	23×21	21	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit4	21	円形	37×33	25	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit82	63	楕円形	50×37	27	1	黒褐	シ	IV×					
Pit5	16	円形	22×21	27	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit83	72	隅丸方形	28×24	52	1	黒褐	シ	IV×					
					2	黒褐	粘シ	IV・炭×						Pit84	72	隅丸方形	39×38	40	1	黒褐	シ	IV×
Pit6	16	円形	26×23	21	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit85	72	円形	30×29	41	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit7	16	円形	35×(31)	23	1	褐灰	シ	IV×	Pit86	56	(楕円形)	49×(38)	25	1	黒褐	シ	IV×					
Pit8	16	円形	38×35	24	1	黒褐	シ	IVB△	Pit87	55	隅丸方形	25×22	14	1	黒褐	シ	IV×					
Pit9	16	円形	48×48	26	1	灰黄褐	シ	IVB◎	Pit88	55	楕円形	35×22	16	1	黒褐	シ	IV×					
Pit10	16	円形	28×27	31	1	黒褐	シ	IVB△	Pit89	57	隅丸方形	54×54	51	1	黒褐	シ	IV×					
Pit11	16	円形	38×34	23	1	黒褐	粘シ	IV×						2	灰黄褐	シ	IV◎					
Pit12	16	円形	32×(22)	27	1	褐	シ	IVB△						3	黒褐	粘シ	IV×					
Pit13	16	隅丸方形	50×47	32	1	褐	シ	IV△※柱						4	黒	シ	IV×	※柱				
					2	に黄橙	シ	IVB△						5	暗褐	粘シ	IV×					
Pit14	21	円形	25×23	25	1	黒褐	シ	IV△						6	黒褐	粘シ	IV△					
Pit15	21	(円形)	(24)×(22)	31	1	褐灰	シ	IVB△	Pit90	57・58	隅丸方形	44×41	10	1	黒褐	シ	IV△					
Pit16	27	楕円形	42×35	18	1	褐灰	シ	IV△	Pit91	57	隅丸方形	52×49	35	1	灰黄褐	シ	IV◎					
Pit17	27	楕円形	21×17	10	1	褐灰	シ	IV△						2	黒褐	粘シ	IV×	※柱				
Pit18	27	楕円形	40×35	17	1	灰黄褐	シ	IVB△						3	黒褐	粘シ	IV×					
Pit19	44	隅丸方形	21×17	10	1	灰黄褐	シ	IVB△						Pit92	74	楕円形	44×31	13	1	暗褐	シ	IV・炭×
Pit20	44	楕円形	28×25	44	1	に黄橙	シ	IVB△	Pit93	74	楕円形	29×23	23						1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit22	44	隅丸方形	(57)×52	62	1	黒褐	シ	IVB×	※柱	Pit94	74	円形	26×26	15	1	黒褐	シ	IV×				
					2	灰黄褐	シ	IVB△	Pit95						57	円形	17×17	9	1	黒褐	シ	IV×
Pit23	44	隅丸長方形	25×19	25	1	暗褐	シ	IVB△	Pit97	50	(楕円形)	(51)×(35)	16	1	に黄褐	シ	4◎					
Pit24	44	隅丸長方形	41×32	36	1	に黄褐	シ	IVB×	Pit98	50	隅丸方形	(50)×44	19	1	黒褐	シ	IVB△					
Pit27	44	隅丸方形	40×40	23	1	に黄橙	シ	IVB◎	Pit99	58	楕円形	38×30	17	1	黒褐	シ	IV×					
Pit28	21	円形	25×22	28	1	褐灰	シ	IVB△	Pit100	72	(円形)	37×(32)	35	1	黒褐	シ	IV△					
Pit29	21	円形	22×21	32	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit101	74	円形	38×37	36	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit30	16	(楕円形)	(21)×(15)	(15)	1	黒褐	シ	IV△	Pit102	74	隅丸方形	60×54	65	1	に黄褐	シ	IV△					
Pit31	16	隅丸長方形	29×24	19	1	褐灰	シ	IVB△炭×						2	黒褐	粘シ	IV×	※柱				
Pit33	21	(円形)	35×(31)	25	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						3	黒褐	粘シ	IV×					
Pit34	16	楕円形	49×(27)	21	1	灰黄褐	シ	IVB△						4	に黄褐	シ	IV×					
Pit35	21	(円形)	(28)×(27)	(20)	1	黒褐	粘シ	IVB×						Pit103	74	円形	19×17	9	1	黒褐	シ	IV×
Pit36	21	円形	38×34	25	1	に黄橙	シ	IVB◎											Pit104	74	円形	22×21
Pit40	21	(円形)	(20)×(19)	(12)	1	黒褐	粘シ	IVB△	Pit105	74	方形	45×41	36	1	に黄褐	シ	IV△					
Pit41	17	(隅丸方形)	(60)×(56)	34	1	灰黄褐	シ	IVB△焼×	Pit106	74	方形	50×48	34	1	に黄褐	シ	IV△					
Pit42	23	円形	21×21	21	1	に黄褐	シ	IV×	Pit107	83	円形	21×20	11	1	黒褐	シ	IV×					
Pit43	23	円形	16×14	21	1	褐灰	シ		Pit108	83	隅丸長方形	41×31	19	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit44	23	円形	24×21	30	1	褐灰	シ		Pit109	83	隅丸方形	42×39	44	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit45	23	円形	24×21	26	1	緑灰	シ	グライ化	Pit110	83	楕円形	42×32	17	1	黒褐	シ	IV×					
Pit46	23	円形	23×21	36	1	黒	粘シ		Pit111	83	円形	32×31	28	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit47	23	円形	26×25	15	1	灰黄褐	粘シ	IV△	Pit112	83	円形	33×30	21	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit48	23	円形	20×17	11	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit113	48	(隅丸方形)	(34)×(33)	53	※註記無し								
Pit49	23	円形	28×26	13	1	褐灰	シ	IV△	Pit114	50	(楕円形)	(27)×(24)	8	1	黒褐	シ	IV×					
Pit50	23	円形	26×(21)	13	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit115	57	隅丸方形	46×40	47	1	黒褐	粘シ	IV△※柱					
					2	に黄褐	シ	IV△						2	に黄褐	シ	IV×					
Pit51	39	円形	26×26	14	1	黒褐	シ	IV△※柱						3	に黄褐	シ	IVB△					
					2	に黄褐	シ	IV△						4	黒褐	シ	IV△					
Pit52	47	隅丸方形	62×53	32	1	黒褐	粘シ	IV×						※柱								
Pit53	47	円形	34×30	21	1	黒褐	シ	IV×						Pit116	83	円形	(46)×40	33	1	黒褐	シ	IV×
Pit54	47	円形	19×19	24	1	黒褐	シ	IV△	Pit117	83	円形	32×32	17	1	黒褐	シ	IV×					
Pit55	47	(円形)	31×(24)	19	1	黒褐	シ	IV×	Pit118	83	隅丸方形	40×38	15	1	黒褐	シ	IV×					
Pit56	47	円形	33×29	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit119	83	隅丸方形	32×27	20	1	黒褐	シ	IV×					
Pit57	47・55	円形	24×24	31	1	黒褐	シ	IV×	Pit120	83	楕円形	53×44	36	1	黒褐	シ	IV×					
Pit58	55	円形	31×30	25	1	黒褐	シ	IV△	Pit121	83	(円形)	32×(29)	22	1	黒褐	シ	IV×					
Pit59	55	円形	25×25	16	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit122	56	(隅丸方形)	(30)×(30)	41	1	黒褐	シ	IV×					
Pit60	55	隅丸長方形	40×31	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit123	56	円形	24×21	22	1	黒褐	シ	IV×					
Pit61	55	隅丸長方形	56×44	29	1	黒褐	シ	IV×	Pit124	56	隅丸方形	32×31	36	1	黒褐	シ	IV×					
Pit62	55	楕円形	34×27	36	1	黒褐	シ	IV×	Pit125	83	隅丸方形	47×42	32	1	黒褐	シ	IV×	焼×炭×				
Pit63	55	隅丸長方形	46×36	42	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit126	56	隅丸方形	28×(25)	24	1	黒褐	シ	IV×					
Pit64	55	円形	34×32	24	1	に黄褐	シ	IV×	Pit127	56	楕円形	22×18	9	1	黒褐	シ	IV×					
Pit65	47	隅丸方形	25×25	49	1	に黄褐	シ	IV×	Pit128	57	隅丸方形	45×40	50	1	黒褐	シ	IV×					
Pit66	47	円形	33×30	32	1	黒褐	粘シ	IV×						2	灰黄褐	シ	IVB×	※柱				
Pit67	56	円形	20×19	21	1	黒褐	シ	IV×						3	黒褐	シ	IV△					
Pit68	47	(楕円形)	(41)×(35)	(14)	1	に黄褐	シ	IV△	Pit129	74	隅丸長方形	29×22	17	1	黒褐	シ	IV×					
Pit69	39	円形	39×37	21	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit130	82	隅丸方形	31×29	44	1	黒褐	シ	IV・炭×					
Pit70	55	楕円形	33×22	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit131	82	円形	44×41	38	1	黒褐	シ	IV×					
Pit71	55	(隅丸方形)	28×(27)	45	1	黒褐	粘シ	IV・炭×	Pit132	55	円形	29×25	15	1	黒褐	粘シ	IV×					
Pit72	55	隅丸方形	42×37	28	1	黒褐	シ	IV×	Pit133	55	円形	22×(21)	16	1	黒褐	粘シ	IV・炭×					
Pit73	55	(円形)	25×(24)	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit134	55	楕円形	22×17	16	1	黒褐	粘シ	IV×					
Pit74	55	(楕円形)	(35)×(21)	(27)	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit135	56	円形	40×34	46	1	黒褐	シ	IV△					
					2	黒褐	シ	IV×	※柱													
					3	に黄褐	シ	IV×	Pit136	91	長方形	53×44	25	1	黒褐	シ	IV×					
Pit75	47	楕円形	81×33	37	1	黒褐	シ	IV×	Pit138	47	隅丸方形	23×22	34	1	黒褐	シ	IV×					
					2	に黄褐	シ	IV×	Pit139	50	(隅丸方形)	52×(24)	45	1	黒褐	シ	IV△					

凡例 色調：に=にふい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第8表 ビット(平安時代以降) 観察表(2)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ				
Pit141	47	(楕円形)	(25)×(21)	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit217	83	円形	23×20	56	1	黒褐	シ	IV×
Pit142	47	(方形)	(35)×(26)	38	1	黒褐	シ	IV×	Pit218	92	(円形)	46×(37)	10	1	黒褐	シ	IV△
Pit143	83	円形	28×24	35	1	黒褐	シ	IV×	Pit219	92	円形	32×(30)	44	1	黒褐	シ	IV△
Pit144	83	楕円形	46×38	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit220	83	円形	22×20	8	1	黒褐	シ	IV×
Pit145	83	隅丸方形	26×24	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit221	83	隅丸方形	22×21	27	1	黒褐	シ	IV×
Pit146	91	(隅丸方形)	43×(22)	39	1	黒褐	シ	IV×	Pit222	83	円形	30×(26)	16	1	黒褐	シ	IV×
Pit147	91	(円形)	(53)×(45)	19	1	黒褐	シ	IV×	Pit224	81・90	円形	21×18	26	1	黒褐	シ	IV×
Pit148	57	円形	20×19	13	1	黒褐	シ	IV×	Pit225	81	円形	17×15	26	1	黒褐	シ	IV×
Pit149	57	楕円形	40×33	25	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit226	90	円形	28×27	16	1	黒褐	シ	IV×
Pit150	57	楕円形	28×22	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit227	90	円形	33×28	16	1	黒褐	シ	IV×
Pit151	57	隅丸方形	30×29	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit228	90	円形	17×16	49	1	黒褐	シ	IV×
Pit152	57	円形	35×31	30	1	黒褐	シ	IV×	Pit229	90	円形	19×18	14	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit153	41	円形	33×30	29	1	黒褐	シ	IV B△	Pit230	90	楕円形	27×16	14	1	黒褐	シ	IV×
Pit154	41	(隅丸方形)	21×(18)	13	1	黒褐	シ	IV△	Pit231	90	円形	19×17	40	1	黒褐	シ	IV×
Pit155	41	楕円形	40×27	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit232	90	楕円形	19×16	23	1	黒褐	シ	IV×
Pit156	41	隅丸長方形	21×15	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit233	90	円形	21×19	24	1	黒褐	シ	IV×
Pit157	41	楕円形	28×23	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit234	89	隅丸方形	28×27	27	1	黒褐	シ	IV×
Pit158	41	円形	31×29	43	1	黒褐	シ	IV△	Pit235	89	円形	31×28	32	1	黒褐	シ	IV×
Pit159	41	隅丸方形	36×33	44	1	黒褐	シ	IV◎	Pit236	89	円形	27×25	24	1	黒褐	シ	IV・火灰×
Pit160	41	方形	37×35	40	1	黒褐	シ	IV×	Pit237	89	楕円形	28×19	34	1	黒褐	シ	IV×
Pit161	41	楕円形	36×29	32	1	黒褐	シ	IV△	Pit238	80	(円形)	(32)×(30)	51	1	黒褐	シ	IV×
Pit162	41	円形	44×43	45	1	黒褐	シ	IV◎	Pit239	89	楕円形	25×21	37	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit163	49	楕円形	32×22	10	1	黒褐	シ	IV△	Pit240	—	—	—	—	—	※欠番(S1451のP22へ変更)		
Pit164	41	方形	37×37	47	1	黒褐	シ	IV×	Pit241	83	(円形)	(44)×(41)	28	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit165	41	楕円形	(45)×36	32	1	黒褐	シ	IV△	Pit242	90	円形	17×16	26	1	黒褐	シ	IV×
Pit166	41	楕円形	33×26	20	1	黒褐	シ	IV△	Pit243	90	楕円形	25×16	23	1	黒褐	シ	IV×
Pit167	41	円形	19×15	10	1	黒褐	シ	IV×	Pit244	90	楕円形	30×23	40	1	黒褐	シ	IV×
Pit168	49	方形	39×38	28	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit245	90	(楕円形)	(22)×(18)	37	1	黒褐	シ	IV×
Pit169	41・49	方形	40×35	55	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit246	90	円形	17×16	33	1	黒褐	シ	IV×
Pit170	49	隅丸方形	23×20	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit247	90	楕円形	19×16	14	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit171	49	隅丸方形	34×34	38	1	黒褐	シ	IV×	Pit248	99	円形	34×32	20	1	黒褐	シ	IV×
Pit172	58	隅丸方形	38×33	23	1	黒褐	シ	IV△	Pit249	41	円形	25×25	10	1	黒褐	シ	IV×
Pit173	58	(円形)	(19)×(18)	(24)	1	黒褐	シ	IV×	Pit250	41	円形	28×27	15	1	黒褐	シ	IV△
Pit174	57	円形	22×21	11	1	黒褐	シ	IV×	Pit251	74	隅丸方形	37×32	30	1	黒褐	シ	IV△
Pit175	66	隅丸方形	23×22	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit252	75	円形	21×21	13	1	黒褐	シ	IV×
Pit176	66	楕円形	24×19	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit253	75	楕円形	29×23	12	1	黒褐	シ	IV×
Pit177	66	隅丸方形	36×33	31	1	黒褐	シ	IV×	Pit254	75	隅丸長方形	17×13	16	1	黒褐	シ	IV×
Pit181	40	隅丸方形	28×24	16	1	黒褐	シ	IV△	Pit255	75	楕円形	25×17	20	1	黒褐	シ	IV△
Pit182	40	隅丸方形	15×14	10	1	黒褐	シ	IV×	Pit256	74	隅丸方形	40×37	34	1	黒褐	シ	IV×
Pit183	40	円形	25×24	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit257	99	隅丸方形	34×32	22	1	黒褐	シ	IV×
Pit184	83	楕円形	47×37	25	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit258	99	楕円形	24×17	26	1	黒褐	シ	IV△
					2	黒褐	シ	IV× ※柱	Pit259	99	円形	30×27	20	1	黒褐	シ	IV×
					3	黒褐	シ	IV×	Pit260	90	円形	21×19	34	1	黒褐	シ	IV△
Pit185	92	方形	33×30	28	1	黒褐	シ	IV△	Pit261	82	円形	17×15	25	1	黒褐	シ	IV△
Pit186	83	隅丸方形	27×22	28	1	黒褐	シ	IV×	Pit262	82	楕円形	23×18	10	1	黒褐	シ	IV×
Pit187	92	楕円形	26×21	39	1	黒褐	シ	IV×	Pit263	82	円形	14×14	24	1	黒	シ	IV×
Pit188	83	円形	18×17	7	1	黒褐	シ	IV×	Pit264	81	円形	18×17	31	1	黒褐	シ	IV△
Pit189	82	隅丸方形	49×42	35	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit265	99	(楕円形)	(20)×(16)	19	1	黒褐	シ	IV×
Pit190	82	隅丸方形	82×75	13	1	褐灰	シ	IV△	Pit266	89	円形	21×19	18	1	黒褐	シ	IV×
Pit191	82	隅丸方形	32×(30)	54	1	黒褐	シ	IV△	Pit267	99	楕円形	24×20	19	1	黒褐	シ	IV△
Pit192	81	円形	24×24	24	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit268	99	円形	19×19	25	1	黒褐	シ	IV△
Pit193	81	円形	22×20	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit269	90	楕円形	30×25	17	1	黒褐	シ	IV×
Pit194	81	円形	15×14	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit270	90	円形	33×28	20	1	黒褐	シ	IV×
Pit195	81	方形	19×18	15	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit271	99	隅丸方形	29×25	23	1	黒褐	シ	IV◎
Pit196	81	円形	19×19	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit272	99	隅丸長方形	29×22	32	1	黒褐	シ	IV△
Pit197	90	円形	24×22	10	1	黒褐	シ	IV×	Pit273	99	隅丸方形	27×23	23	1	黒褐	シ	IV△
Pit198	81	隅丸方形	26×(26)	50	1	黒褐	シ	IV×	Pit274	99	円形	18×16	10	1	黒褐	シ	IV×
Pit199	81	楕円形	25×21	35	1	黒褐	シ	IV×	Pit275	90	円形	42×36	29	1	黒褐	シ	IV△
Pit200	81	円形	22×21	46	1	黒褐	シ	IV×	Pit276	90	(円形)	(19)×17	21	1	黒褐	シ	IV×
Pit201	80	円形	19×18	25	1	黒褐	シ	IV×	Pit277	90	楕円形	17×14	25	1	黒褐	シ	IV×
Pit202	80	円形	26×24	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit278	90	隅丸方形	14×13	17	1	黒褐	シ	IV×
Pit203	89	円形	24×22	19	1	黒褐	シ	IV×	Pit279	99	楕円形	35×27	23	1	黒褐	シ	IV×
Pit204	89	楕円形	42×31	36	1	黒褐	シ	IV×	Pit280	99	隅丸方形	26×25	26	1	黒褐	シ	IV△
Pit205	89	楕円形	33×24	30	1	黒褐	シ	IV×	Pit281	89	円形	22×19	29	1	黒褐	シ	IV◎
Pit206	90	円形	24×19	25	1	黒褐	シ	IV×	Pit282	89	隅丸方形	19×18	31	1	黒褐	シ	IV◎
Pit207	90	円形	23×21	19	1	黒褐	シ	IV△	Pit283	99	円形	28×24	20	1	黒褐	シ	IV×
Pit208	90	円形	30×26	36	1	黒褐	シ	IV△	Pit284	99	円形	11×10	13	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit209	84	楕円形	27×22	18	1	黒褐	シ	IV△	Pit285	99	円形	36×(35)	33	1	黒褐	シ	IV×
Pit210	84	円形	31×28	31	1	黒褐	シ	IV×	Pit286	—	—	—	—	—	※欠番(S1451のP17へ変更)		
Pit211	84	楕円形	31×23	19	1	黒褐	シ	IV×	Pit287	—	—	—	—	—	※欠番		
Pit212	92	隅丸長方形	57×(48)	48	1	黒褐	シ	IV×	Pit288	90	(円形)	(21)×(18)	(32)	1	黒褐	シ	IV△
Pit213	92	隅丸長方形	48×(38)	39	1	黒褐	シ	IV△	Pit289	99	円形	(15)×14	15	1	黒褐	シ	IV×
Pit214	92	円形	48×42	25	1	黒褐	シ	IV×	Pit290	99	楕円形	23×19	18	1	黒褐	シ	IV×
Pit215	57	(隅丸方形)	26×(11)	24	1	黒褐	シ	IV△	Pit291	99	楕円形	26×21	16	1	黒褐	シ	IV×
Pit216	84	円形	22×22	15	1	黒褐	シ	IV△	Pit292	99	隅丸方形	35×28	16	1	黒褐	シ	IV△

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰
粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第5章 検出遺構と出土遺物

第9表 ビット(平安時代以降)観察表(3)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ					
Pit293	99	(円形)	30×(24)	49	1	黒褐	シ	IV×						1	灰黄褐	粘シ	IVB・炭×	
Pit294	65	隅丸長方形	68×50	48	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	Pit367	53	楕円形	55×29	67	2	黒褐	シ	IV△炭×	
					2	黒褐	シ	IV△炭×										
					3	灰黄褐	粘シ	IV△炭×										
					4	黒褐	粘シ	IV◎										
Pit295	74	隅丸長方形	44×34	47	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit368	43	円形	19×17	14	1	褐灰	粘シ	IVB×	
Pit296	65	楕円形	44×32	26	1	黒褐	シ	IV△	Pit369	53	隅丸長方形	53×37	13	1	黒褐	粘シ	IV△	
Pit297	99	円形	21×19	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit370	53	円形	42×40	20	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	
Pit298	99	(隅丸方形)	(25)×(24)	19	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit371	53	隅丸方形	36×34	63	1	灰黄褐	シ	IVB×	
Pit299	99	円形	(19)×17	34	1	黒褐	シ	IV×	Pit372	53	楕円形	42×30	14	1	灰黄褐	シ	IVB△	
Pit300	99	円形	17×17	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit373	53	円形	33×32	48	1	灰黄褐	シ	IVB×	
Pit301	23	円形	25×25	20	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit374	53	円形	22×20	20	1	灰黄褐	シ	IV△	
Pit302	23	円形	27×25	21	1	褐灰	シ	IV△	Pit375	46	隅丸方形	66×57	17	1	灰黄褐	シ	IV△	
Pit303	23	楕円形	24×20	18	1	褐灰	シ	IV△	Pit376	46	隅丸方形	51×48	44	1	褐灰	粘シ	IVB△	
Pit304	23	円形	15×13	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit378	61	円形	27×25	20	1	に黄褐	シ	IVB△	
Pit305	23	円形	25×24	28	1	褐灰	シ	IV△	Pit379	61	円形	21×20	13	1	灰黄褐	粘シ	IV・炭×	
Pit306	23	方形	50×48	39	1	黒褐	粘シ	IVB△	Pit380	53	隅丸長方形	85×51	17	1	褐灰	シ	IVB△	
Pit307	23	方形	29×28	23	1	黒褐	粘シ	IV×	Pit381	53	円形	32×30	42	1	黒褐	粘シ	IV△	
Pit308	23	楕円形	38×26	16	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit382	61	楕円形	24×20	31	1	に黄褐	シ	IVB×	
Pit312	36	楕円形	40×28	17	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit383	54	円形	62×55	50	1	に黄褐	シ	IVB△	
Pit313	36	楕円形	46×29	39	1	褐灰	シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IV×※柱	
Pit314	16	(隅丸方形)	(29)×(13)	16	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						3	に黄褐	シ	IVB△	
Pit315	17	(楕円形)	(32)×(23)	(32)	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit384	46	円形	50×50	50	1	黒褐	シ	IV×※柱	
Pit316	36	円形	27×25	17	1	褐灰	シ	IV・炭×	Pit385	61	(円形)	(25)×(23)	36	1	黒褐	シ	IVB×	
Pit317	37	(隅丸長方形)	(44)×(35)	31	1	灰黄褐	粘シ	IVB・炭×	Pit386	61	(隅丸方形)	(22)×(21)	29	1	黒褐	シ	IV×	
Pit319	37	円形	33×(27)	25	1	褐灰	シ	IVB△焼×	Pit387	61	(円形)	29×(22)	16	1	褐灰	シ	IV×	
Pit320	37	楕円形	42×34	23	1	褐灰	シ	IVB×	Pit388	61	円形	23×(17)	16	1	褐灰	シ	IVB△	
Pit321	—	—	—	—	—	※欠番			Pit389	62	(隅丸方形)	(38)×(12)	23	1	褐灰	シ	IVB×	
Pit322	37	円形	18×16	23	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit390	62	(楕円形)	40×(22)	16	1	灰黄褐	シ	IVB◎	
Pit323	38	隅丸方形	20×19	18	1	黒褐	粘シ	IVB△	Pit391	62	楕円形	(50)×42	49	1	灰黄褐	シ	IVB△	
Pit324	38	隅丸方形	18×16	23	1	黒褐	粘シ	IVB×	Pit392	62	楕円形	45×36	42	1	灰黄褐	シ	IV×	
Pit325	38	隅丸方形	31×29	27	1	褐灰	シ	IVB△	Pit393	62	円形	24×22	38	1	に黄橙	シ	IVB△	
Pit326	38	楕円形	30×25	26	1	灰黄褐	粘シ	IV△	Pit394	54	円形	25×23	17	1	褐灰	シ	IVB△	
Pit327	38	円形	(25)×24	24	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit395	62	円形	51×46	76	1	褐灰	シ	IVB×	
Pit328	45	楕円形	34×27	14	1	褐灰	シ	IV×	Pit396	62	楕円形	35×27	29	1	灰黄褐	シ	IV△	
Pit329	45	円形	44×42	48	1	褐灰	シ	IV×	Pit397	54	隅丸長方形	52×36	37	1	褐灰	シ	IVB・炭×	
Pit330	45	円形	27×26	28	1	褐灰	シ	IV×	Pit398	62	楕円形	48×40	23	1	灰黄褐	シ	IV△	
Pit331	45	円形	30×28	43	1	褐灰	シ	IV・炭×	Pit400	52	楕円形	30×23	15	1	灰黄褐	粘シ	IV・炭×	
Pit332	45	円形	21×20	22	1	褐灰	シ	IV×	Pit401	99	(隅丸長方形)	(41)×(26)	33	1	黒褐	シ	IV・炭×	
Pit334	45	隅丸方形	42×36	46	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit402	99	円形	17×15	29	1	黒褐	シ	IV△	
Pit335	45	楕円形	27×21	24	1	に黄褐	粘シ	IVB△	Pit403	99	楕円形	31×27	27	1	黒褐	シ	IV×	
Pit337	46	楕円形	44×(30)	(19)	1	灰黄褐	シ	黒褐シ混IVB△	Pit404	99	隅丸長方形	42×30	34	1	黒褐	シ	IV△	
Pit338	46	円形	23×22	42	1	褐灰	シ	IV△	Pit405	99	楕円形	36×23	38	1	黒褐	シ	IV・炭×	
Pit339	46	隅丸長方形	26×20	27	1	灰黄褐	シ	IVB◎	Pit406	107	楕円形	29×19	42	1	黒褐	シ	IV×	
Pit341	54	方形	19×19	14	1	褐灰	シ	IVB△	Pit407	98	円形	28×26	36	1	黒褐	シ	IV△	
Pit342	54	円形	41×37	32	1	灰黄褐	粘シ	IV・炭×	Pit408	98	楕円形	36×25	35	1	黒褐	シ	IV×	
Pit343	54	(円形)	20×(18)	14	1	に黄褐	粘シ	IVB△	Pit409	99	楕円形	32×25	18	1	黒褐	シ	IV×	
Pit344	46	円形	37×36	36	1	灰黄褐	粘シ	IVB×	Pit410	106	円形	22×21	26	1	黒褐	シ	IV×	
Pit345	46	円形	23×21	33	1	灰黄褐	粘シ	IVB△	Pit411	106	円形	23×22	25	1	黒褐	シ	IV×	
Pit346	46	円形	30×29	35	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit412	106	円形	23×22	14	1	黒褐	シ	IV×	
Pit347	46	円形	36×31	12	1	褐灰	粘シ	IVB△	Pit413	106	円形	14×13	11	1	黒褐	シ	IV×	
Pit348	46	楕円形	53×44	46	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit414	106	円形	24×23	40	1	黒褐	シ	IV△	
Pit349	46	円形	67×65	48	1	黒褐	シ	IVB×	Pit415	98	楕円形	37×31	42	1	黒褐	シ	IV×	
					2	灰黄褐	シ	IVB△※柱	Pit416	98	円形	21×19	29	1	褐灰	シ	IV△	
					3	に黄褐	シ	IVB◎	Pit417	89	隅丸長方形	16×12	27	1	黒褐	シ	IV×	
Pit350	46	(円形)	(31)×(28)	17	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit418	98	楕円形	42×29	27	1	黒褐	シ	IV×	
Pit351	46	円形	44×38	47	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit419	107	円形	18×16	16	1	黒褐	シ	IV×	
Pit352	46	楕円形	56×47	59	1	灰黄褐	シ	IVB・炭×※柱	Pit420	107	円形	17×16	19	1	黒褐	シ	IV×	
					2	に黄褐	シ	IV混	Pit421	98	円形	16×14	25	1	黒褐	シ	IV・炭×	
Pit353	46	隅丸方形	55×(50)	45	1	灰黄褐	シ	IV×※柱	Pit422	108	楕円形	27×16	12	1	黒褐	シ	IV×	
					2	灰黄褐	シ	IV混	Pit423	100	円形	18×18	10	1	黒褐	シ	IV×	
Pit354	46・54	隅丸長方形	74×62	46	1	褐灰	シ	IVB×	Pit424	99	(円形)	(43)×(39)	(20)	1	黒褐	シ	IV◎	
					2	黒褐	粘シ	IV×※柱	2	黒褐	シ	IV△						
					3	に黄褐	粘シ	IVB◎	Pit425	99	円形	21×19	21	1	黒褐	シ	IV×	
Pit355	54	円形	95×93	43	1	灰黄褐	シ	IVB×	Pit426	99	円形	21×21	13	1	黒褐	シ	IV×	
					2	に黄褐	シ	IVB×※柱	Pit427	101	円形	(31)×31	31	1	黒褐	シ	IV×	
Pit357	53	隅丸方形	30×29	31	1	褐灰	シ	IVB△	Pit428	101	隅丸長方形	49×39	18	1	黒褐	シ	粘B△炭×	
Pit358	53	円形	24×23	9	1	黒褐	シ	IVB△炭×	Pit429	101	円形	16×15	19	1	黒褐	シ	IV△	
Pit359	53	円形	33×30	28	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit430	90	円形	14×13	20	1	黒褐	シ	IV×	
Pit360	53	円形	36×31	25	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit431	98	円形	24×23	24	1	黒褐	シ	IV・炭×	
Pit361	53	隅丸長方形	32×24	20	1	に黄褐	砂シ	IV・炭×	Pit432	101	円形	20×20	22	1	黒褐	シ	IV×	
Pit362	61	円形	18×18	13	1	黒褐	粘シ	IVB△	Pit433	101	楕円形	26×21	23	1	黒褐	シ	IV×	
Pit363	61	楕円形	42×34	22	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit434	109	円形	48×45	23	1	黒褐	シ	IV△	
Pit364	45	楕円形	43×31	16	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit435	109	円形	65×61	43	1	黒褐	シ	IV×	
Pit365	54	円形	27×23	12	1	灰黄褐	シ	IV◎炭◎	Pit436	109	円形	42×41	42	1	黒褐	シ	IV△	
									Pit437	100	楕円形	38×31	29	1	黒褐	シ	IV×	
									Pit438	100	楕円形	54×(38)	31	1	黒褐	シ	IV△	

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第10表 ビット(平安時代以降) 観察表(4)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ				
Pit439	108	楕円形	37×26	12	1	黒褐	シ	IV×	Pit505	70	隅丸長方形	46×36	19	1	褐	シ	IV×
Pit440	108	円形	41×41	35	1	黒褐	シ	IV△	Pit506	70	隅丸方形	56×52	34	1	褐灰	シ	IVB△
Pit441	108	円形	48×45	37	1	黒褐	シ	IV×	Pit507	70	楕円形	74×56	41	1	褐灰	砂シ	IVB×
Pit442	108	円形	27×25	12	1	黒褐	シ	IV△	Pit508	70	円形	21×20	18	1	褐灰	砂シ	IVB×
Pit443	108	円形	40×35	21	1	黒褐	シ	IV△	Pit509	70	円形	48×48	20	1	灰黄褐	砂シ	焼・炭△IVB×
Pit444	51	円形	34×31	32	※註記無し				Pit510	62	(楕円形)	(45)×(40)	28	1	灰黄褐	粘シ	IVB△
Pit445	109	隅丸方形	33×32	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit511	46	円形	35×(28)	37	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit446	92	楕円形	23×18	30	1	黒褐	シ	IV×	Pit512	59	円形	22×21	14	1	灰黄褐	砂シ	IVB△
Pit447	90	円形	34×30	29	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit513	59	楕円形	24×20	12	1	黒褐	シ	IVB△
Pit448	100	(隅丸長方形)	(24)×(18)	22	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit514	70	円形	28×27	22	1	黒褐	シ	IVB×
Pit449	99	隅丸方形	57×50	40	1	黒褐	シ	IV×	Pit515	69	楕円形	47×39	27	1	に黄橙	砂シ	IVB△
Pit450	80	(楕円形)	(19)×(15)	30	1	黒褐	シ	IV×	Pit516	69	隅丸方形	59×55	21	1	に黄橙	砂シ	IVB△
Pit451	80	円形	(22)×(20)	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit517	69	(円形)	37×(27)	27	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit452	99	隅丸方形	35×31	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit518	69	円形	25×22	16	1	灰黄褐	シ	IVB△
					2	黒褐	シ	IV△	Pit519	69	円形	28×25	20	1	黒褐	シ	IVB△
Pit453	108	(円形)	(20)×(18)	12	1	黒褐	シ	IV△	Pit520	69	円形	24×24	10	1	に黄褐	砂シ	IVB△
Pit454	89	円形	27×25	34	1	黒褐	シ	IV×	Pit521	46	(円形)	(44)×(35)	50	1	に黄褐	シ	IVB×※柱
Pit455	89	円形	25×23	28	1	黒褐	シ	IV・炭×						2	灰黄褐	シ	IVB△
Pit456	89	円形	29×27	31	1	黒褐	シ	IV×	Pit522	51	隅丸長方形	40×31	7	1	に黄褐	シ	IVB△炭×
Pit457	98	楕円形	19×14	28	1	黒褐	シ	IV△	Pit523	59	楕円形	36×29	24	1	褐灰	シ	IVB△
Pit458	98	楕円形	32×22	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit524	59	楕円形	26×21	20	1	褐灰	砂シ	IV×
Pit459	89	円形	21×20	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit525	68	円形	51×46	19	1	褐灰	シ	IV×
Pit460	89	楕円形	21×(17)	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit526	59	方形	26×23	23	1	褐灰	砂シ	IV×
Pit461	89	円形	16×14	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit527	59	隅丸方形	39×33	12	1	褐灰	シ	IV×
Pit462	89	(円形)	15×(15)	24	1	黒褐	シ	IV×	Pit528	60	(楕円形)	(27)×(24)	13	1	黒褐	砂シ	IV×
Pit463	89	(円形)	16×(14)	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit529	61	(楕円形)	(60)×(41)	27	1	褐灰	粘シ	IV△
Pit464	89	楕円形	31×21	23	1	黒褐	シ	IV◎	Pit530	69	円形	39×38	21	1	灰黄褐	シ	IVB×
Pit465	89	楕円形	49×40	29	1	黒褐	シ	IV△	Pit531	69	円形	58×52	40	1	灰黄褐	シ	IVB×
Pit466	98	楕円形	25×21	24	1	黒褐	シ	IV×	Pit532	70	円形	25×25	16	1	褐灰	砂シ	IV×
Pit467	98	楕円形	19×16	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit533	69	楕円形	40×30	15	1	褐灰	シ	IV・炭×
Pit468	74	(隅丸長方形)	(75)×(54)	37	1	黒褐	粘シ	IV△※柱	Pit534	61	円形	21×19	20	1	灰黄褐	シ	IV×
					2	に黄褐	シ	IV△	Pit535	70	楕円形	24×16	20	1	灰黄褐	シ	IVB×
					3	灰黄褐	シ	IV×	Pit536	52	円形	36×31	13	1	灰黄褐	シ	IVB×
Pit469	98	円形	39×34	20	1	黒褐	シ	IV△	Pit537	69	円形	61×57	44	1	黒褐	シ	IV×
Pit470	98	円形	34×33	19	1	黒褐	シ	IV・炭×						2	黒褐	シ	IVB×※柱
Pit471	98	隅丸長方形	38×29	36	1	黒褐	シ	IV△						3	灰黄褐	シ	IVB△
Pit472	108	円形	(52)×(48)	47	1	灰黄褐	シ	黒褐シ斑△	Pit538	70	円形	25×22	17	1	褐灰	砂シ	IVB×
					2	黒褐	粘シ	IV×※柱	Pit539	60	隅丸長方形	55×46	15	1	褐灰	砂シ	IV×
					3	暗褐	シ	IV×	Pit540	71	円形	37×35	8	1	黒褐	シ	IV◎
					4	黒褐	シ	IV×	Pit541	70	楕円形	28×22	23	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit473	74	(隅丸長方形)	27×21	8	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit542	61	円形	23×20	30	1	黒褐	シ	IVB×
Pit474	117	円形	33×31	22	1	黒褐	シ	IV◎	Pit543	61	隅丸方形	52×47	10	1	灰黄褐	シ	IV・炭△
Pit475	117	楕円形	19×16	10	1	黒褐	シ	IV◎	Pit544	70	隅丸方形	47×42	27	1	褐灰	シ	IV×
Pit476	117	円形	19×19	13	1	黒褐	シ	IV×	Pit545	61	円形	20×19	19	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit477	108	円形	54×53	31	1	黒褐	シ	IV×※柱	Pit546	61	隅丸長方形	42×35	39	1	褐灰	シ	IV×
					2	黒褐	シ	IV×※柱	Pit547	61	(円形)	(23)×23	34	1	灰黄褐	シ	IV△
					3	灰黄褐	シ	IV△	Pit548	61	円形	28×26	15	1	に黄褐	シ	IVB△
					4	に黄褐	シ	IV×	Pit549	71	隅丸長方形	17×14	8	1	灰黄褐	シ	IV△
Pit478	108	(円形)	51×(33)	11	1	黒褐	シ	IV×	Pit550	62	隅丸方形	27×25	27	1	灰黄褐	シ	IVB△
					2	暗褐	シ	IV×	Pit551	69・70	円形	30×28	44	1	褐灰	シ	IV×
Pit479	108	円形	31×29	28	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit552	61	隅丸長方形	46×35	26	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit480	108	円形	25×22	11	1	黒褐	シ	IV△	Pit553	62	(楕円形)	(48)×(39)	48	1	灰黄褐	シ	IVB×
Pit481	108	楕円形	31×24	33	1	黒褐	シ	IV×	Pit554	62	楕円形	29×24	11	1	灰黄褐	シ	焼・炭△IVB×
Pit482	108	円形	21×19	7	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit555	71	楕円形	39×29	35	1	褐灰	シ	IVB×
Pit483	108	(円形)	(16)×(16)	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit556	71	円形	31×(29)	22	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit484	109	円形	33×31	27	1	黒褐	シ	IV△	Pit557	71	円形	37×35	45	1	黒褐	粘シ	IVB△
Pit485	117	(円形)	(42)×(38)	23	1	黒褐	シ	IV△	Pit558	71	円形	28×27	38	1	褐灰	シ	IV×
Pit486	117	(円形)	(30)×(30)	27	1	暗褐	シ	IV×	Pit559	71	円形	23×23	26	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit487	116	(円形)	(21)×(18)	13	1	黒褐	シ	IV△	Pit560	71	隅丸方形	24×22	39	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit488	116	(楕円形)	(47)×(38)	23	1	褐灰	シ	IV×	Pit561	71	円形	15×14	8	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit489	108	(円形)	(17)×(17)	4	1	黒褐	砂シ	IV×	Pit562	52	円形	24×(22)	20	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit490	109	円形	45×41	35	1	黒褐	シ	IV×※柱	Pit563	62	円形	23×20	8	1	灰黄褐	シ	IVB△
					2	黒褐	シ	IV◎	Pit564	62	円形	16×15	18	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit491	116	(楕円形)	(21)×(15)	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit565	62	楕円形	27×22	30	1	灰黄褐	粘シ	IV×
Pit492	117	円形	32×30	24	1	黒褐	シ	IV×	Pit566	62	楕円形	40×28	37	1	黒褐	粘シ	炭△IVB×
Pit493	141	円形	19×18	25	1	黒褐	シ	IV△	Pit567	62	(円形)	(21)×(16)	18	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit494	141	円形	37×36	14	1	黒褐	シ	IV△	Pit568	71	隅丸方形	15×14	21	1	黒褐	シ	IV△
Pit495	141	方形	32×32	25	1	黒褐	シ	IV△	Pit569	71	円形	21×18	30	1	灰黄褐	シ	IVB△
Pit496	141	円形	29×26	16	1	黒褐	シ	IV△	Pit570	71	円形	(22)×21	29	1	褐灰	シ	IVB×
Pit497	141	円形	29×25	14	1	黒褐	シ	IV◎	Pit571	71	(楕円形)	(18)×(14)	(9)	1	褐灰	シ	IVB×
Pit498	141	円形	17×15	9	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit572	71	(楕円形)	(34)×(20)	44	1	褐灰	シ	IVB×
Pit499	141	円形	23×22	14	1	黒褐	シ	IV△	Pit573	71	円形	17×16	11	1	褐灰	シ	IV×
Pit500	141	(円形)	47×(38)	24	1	黒褐	シ	IV×	Pit574	71	円形	24×21	37	1	褐灰	シ	IVB×
Pit501	59	楕円形	33×26	19	1	褐灰	シ	IV×	Pit575	71	円形	29×28	35	1	黒褐	シ	IV△
Pit502	61	円形	37×32	19	1	褐灰	シ	IV×	Pit576	80	円形	21×20	7	1	褐灰	シ	IVB×
Pit503	62	楕円形	(36)×25	24	1	褐灰	シ	IVB×	Pit577	80	円形	23×22	19	1	褐灰	シ	IVB×
Pit504	70	隅丸方形	28×27	13	1	褐灰	シ	IV△焼・炭×	Pit578	80	(円形)	(17)×(15)	20	1	灰黄褐	シ	IV×

凡例 色調：に=にぶい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第5章 検出遺構と出土遺物

第11表 ビット(平安時代以降) 観察表(5)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	長さ	深さ								長軸×短軸	長さ	深さ				
Pit579	80	円形	15×14	13	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit649	97	(円形)	(26)×(24)	26	1	黒褐	シ	IV×		
Pit580	80	(円形)	(21)×(19)	20	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit650	88	隅丸方形	21×20	16	1	黒褐	シ	IV×		
Pit581	80	隅丸方形	27×23	28	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit651	87	円形	28×(23)	28	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit582	89	隅丸方形	31×30	33	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit652	96	隅丸方形	42×41	51	1	灰黄褐	シ	IV・炭× ※柱		
Pit583	89	楕円形	41×33	26	1	黒褐	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV・炭×		
Pit584	80	(円形)	(17)×(15)	9	1	褐灰	シ	IV×	Pit653	98	(楕円形)	(36)×(29)	33	1	黒褐	シ	IV△		
Pit585	62	(円形)	39×(34)	39	1	灰黄褐	シ	黒褐シ◎IV×	Pit654	33	不明	24×不明	17	1	暗褐	シ	IV◎ ※調査区壁で確認		
Pit586	68	隅丸方形	22×21	21	1	に黄褐	砂シ	IV×	Pit655	104	隅丸方形	39×36	25	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit587	68	楕円形	51×41	20	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit656	112	円形	26×25	15	1	黒褐	シ	IV×		
Pit588	77	隅丸方形	47×40	24	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit657	112	隅丸方形	30×29	28	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit589	77	円形	22×19	7	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit658	—	—	—	—	—	—	—	※欠番		
Pit590	77	楕円形	40×33	20	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit659	118	楕円形	30×23	43	1	黒褐	砂シ	炭△IV×		
Pit591	68	楕円形	31×25	15	1	に黄褐	砂シ	IV△	Pit660	111	楕円形	41×30	26	1	褐灰	砂シ	IV△		
Pit592	80	隅丸方形	17×16	14	1	褐灰	シ	IV×	Pit661	111	円形	22×21	33	1	褐灰	砂シ	IV×		
Pit593	79	円形	36×34	17	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit662	111	楕円形	51×42	36	1	灰黄褐	シ	IV△		
Pit594	79	円形	33×28	10	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit663	112	方形	50×47	54	1	灰黄褐	砂シ	IV×		
Pit595	79	円形	40×35	24	1	灰黄褐	シ	炭△IV×						2	灰黄褐	砂シ	IV・炭× ※柱		
Pit596	78	円形	19×18	11	1	灰黄褐	シ	IV△						3	に黄褐	砂シ	IV△		
Pit597	78	楕円形	40×33	16	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit664	112	隅丸方形	46×44	57	1	灰黄褐	砂シ	IV・炭×		
Pit598	78	円形	46×39	37	1	黒褐	シ	炭◎IV・焼×	Pit665	112	円形	29×29	21	1	褐灰	砂シ	IV・炭×		
					2	に黄褐	砂シ	IV・炭×	Pit666	112	円形	24×21	23	1	灰黄褐	砂シ	IV×		
					3	褐灰	シ	炭△IV×	Pit667	112	円形	38×34	44	1	黒褐	シ	IV×		
Pit599	79	隅丸方形	18×16	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit668	23	不明	15×不明	40	1	灰黄褐	シ	IV△ ※調査区壁で確認		
Pit600	78	楕円形	21×17	7	1	褐灰	シ	IV×	Pit669	112	(円形)	(40)×(39)	40	1	黒褐	シ	IV×		
Pit601	78	隅丸方形	18×18	19	1	褐灰	シ	IV△	Pit670	112	隅丸方形	(51)×(50)	46	1	褐灰	シ	IV×		
Pit602	78	楕円形	40×30	24	1	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×						2	黒褐	シ	IV× ※柱		
Pit603	78	隅丸方形	37×33	22	1	灰黄褐	砂シ	IV×						3	灰黄褐	シ	IV△		
Pit604	78	円形	60×58	39	1	灰黄褐	シ	IV・焼・炭× ※柱	Pit671	112	隅丸長方形	38×29	31	1	灰黄褐	シ	IV×		
					2	に黄褐	砂シ	IV△・炭×	Pit672	112	(円形)	44×(36)	37	1	灰黄褐	砂シ	IV・炭×		
Pit605	78	隅丸長方形	42×35	46	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit673	119	隅丸方形	55×49	32	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit606	79	楕円形	56×45	28	1	黒褐	シ	IV× ※柱						2	黒褐	シ	IV・炭×		
					3	灰黄褐	砂シ	IV△											
Pit607	78	楕円形	56×47	14	1	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×	Pit674	119	隅丸方形	55×51	15	1	黒褐	シ	IV× ※柱		
Pit608	79	楕円形	19×16	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit675	119	隅丸方形	55×51	15	2	灰黄褐	シ	IV△		
Pit609	79	隅丸方形	39×36	15	1	に黄褐	砂シ	IV△						1	灰黄褐	シ	IV・炭× ※柱		
Pit610	79	楕円形	24×20	9	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit676	127	円形	44×41	23	1	黒褐	砂シ	IV・炭×		
Pit611	79	円形	34×28	18	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit677	127	楕円形	55×46	25	1	灰黄褐	砂シ	IV・炭×		
Pit612	79	(円形)	26×(20)	17	1	灰黄褐	砂シ	IV・炭×	Pit678	119	隅丸方形	44×38	35	1	に黄褐	シ	IV×		
Pit613	78	楕円形	45×36	13	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit679	119	楕円形	25×21	10	1	褐灰	シ	IV×		
Pit614	77	円形	19×17	18	1	褐灰	砂シ	IV×	Pit680	113	円形	41×37	51	1	黒褐	シ	IV×		
Pit615	86	円形	19×17	18	1	褐灰	砂シ	IV×	Pit681	113	楕円形	38×29	27	1	褐灰	シ	IV×		
Pit616	86	隅丸方形	26×25	35	1	黒褐	砂シ	IV×	Pit682	113	隅丸長方形	42×(30)	40	1	灰黄褐	シ	IV△		
Pit617	77	楕円形	(64)×47	29	1	黒褐	シ	IV△	Pit683	119	楕円形	46×35	17	1	灰黄褐	砂シ	IV・焼・炭×		
					2	灰黄褐	シ	IV△	Pit684	112	隅丸方形	28×26	16	1	褐灰	シ	IV×		
Pit618	78	隅丸長方形	41×33	51	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit685	129	楕円形	37×29	26	1	褐灰	砂シ	IV×		
Pit619	77	円形	16×16	16	1	に黄褐	シ	IV△	Pit686	129	方形	22×21	20	1	褐灰	砂シ	IV△		
Pit620	86	円形	27×26	13	1	灰黄褐	砂シ	IV△	Pit687	129	長方形	36×28	48	1	褐灰	砂シ	IV△		
Pit621	77	円形	13×12	9	1	に黄褐	砂シ	IV×	Pit688	121	(円形)	22×(13)	33	1	褐灰	砂シ	IV△		
Pit622	87	円形	(34)×31	17	1	に黄褐	シ	IV×	Pit689	121	円形	33×31	33	1	灰黄褐	砂シ	IV×		
Pit623	78-79	円形	83×73	39	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit690	121	方形	53×47	57	1	褐灰	シ	IV×		
Pit624	97	円形	22×22	11	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit691	121	(円形)	58×(46)	40	1	黒褐	シ	IV×		
Pit625	97	円形	19×17	16	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit692	129	(楕円形)	(65)×(27)	55	1	褐灰	シ	IV△		
Pit626	88	円形	22×20	32	1	黒褐	シ	IV×	Pit693	121	(隅丸方形)	70×(36)	28	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit627	89	円形	33×29	10	1	褐灰	シ	IV△	Pit694	121	(隅丸方形)	(69)×58	46	1	黒褐	シ	IV×		
Pit628	98	円形	18×17	32	1	黒褐	シ	IV×	Pit695	121	円形	(65)×54	58	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit629	98	円形	44×43	41	1	黒褐	シ	IV×	Pit696	121	(円形)	55×(27)	22	1	褐灰	シ	IV×		
Pit630	87	楕円形	30×23	37	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit697	121	(円形)	(59)×(24)	25	1	褐灰	粘シ	IV△		
Pit631	96	円形	75×66	27	1	黒褐	砂シ	IV×	Pit698	129	(楕円形)	(34)×(24)	18	1	黒褐	シ	IV×		
Pit632	96	円形	34×29	34	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit699	121	円形	21×20	19	1	灰黄褐	シ	IV△		
Pit633	96	円形	35×34	31	1	灰黄褐	砂シ	IV△	Pit700	121	(隅丸方形)	35×(27)	15	1	黒褐	シ	IV△		
Pit634	103	隅丸方形	24×22	13	1	暗褐	シ	IV・炭×	Pit701	141	円形	23×20	10	1	黒褐	砂シ	IV◎		
Pit635	104	楕円形	43×24	36	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit702	124	楕円形	17×14	25	1	黒褐	シ	IV×		
Pit636	96	円形	28×27	28	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit703	124	楕円形	22×18	11	1	黒褐	シ	IV×		
Pit637	103	楕円形	29×24	10	1	に赤褐	砂シ	焼◎IV△	Pit704	141	楕円形	26×(19)	11	1	黒褐	シ	IV△炭×		
Pit638	103	円形	23×20	18	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit705	133	隅丸方形	21×19	14	1	黒褐	シ	IV×		
Pit639	—	—	—	—	—	—	—	—	※欠番	Pit706	100	隅丸方形	32×31	19	1	黒褐	シ	IV×	
Pit640	104	円形	36×35	18	1	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit707	108	楕円形	38×31	36	1	黒褐	シ	IV・炭×		
Pit641	86	(円形)	25×(24)	14	1	灰黄褐	砂シ	IV・炭×	Pit708	108	隅丸方形	46×43	29	1	黒褐	シ	IV△		
Pit642	78	円形	35×33	49	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit709	107	楕円形	32×27	29	1	黒褐	シ	IV×		
Pit643	78	楕円形	48×39	55	1	黒褐	シ	IV×	Pit710	100	円形	20×20	15	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit644	96	隅丸方形	20×18	15	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit711	100	円形	19×18	11	1	黒褐	シ	IV×		
Pit645	96	隅丸長方形	86×71	13	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit712	99	円形	17×16	12	1	黒褐	シ	IV×		
Pit646	104	楕円形	60×44	12	1	黒褐	シ	IV・炭△焼×	Pit713	99	楕円形	35×26	35	1	黒褐	シ	IV×		
Pit647	104	楕円形	32×26	18	1	黒褐	シ	IV△	Pit714	107	円形	25×23	26	1	黒褐	シ	IV×		
Pit648	103	(円形)	(23)×(21)	18	1	灰黄褐	粘シ	IV×											

凡例 色調：に=にぶい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第12表 ビット(平安時代以降) 観察表(6)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ	深さ								長軸×短軸	深さ					
Pit715	107	(楕円形)	(22)×18	17	1	黒褐	シ	IV×	Pit790	140	円形	22×(21)	13	1	黒褐	シ	IV×		
Pit716	101	(隅丸方形)	63×(54)	37	1	黒褐	シ	IV× ※柱	Pit791	139	円形	29×28	25	1	黒褐	シ	IV△		
					2	灰黄褐	砂シ	IV△	Pit792	139	隅丸長方形	27×21	29	1	黒褐	シ	IV△		
					3	に黄褐	砂シ	IV△	Pit793	132	円形	31×30	32	1	黒褐	シ	IV△		
					4	灰黄褐	砂シ	IV×	Pit794	132	円形	23×22	22	1	黒褐	シ	IV×		
					5	に黄褐	砂シ	IV B△	Pit795	132	楕円形	34×27	26	1	黒褐	シ	IV×		
Pit717	100	円形	22×21	14	1	黒褐	シ	IV×	Pit796	132	隅丸長方形	27×21	12	1	黒褐	シ	IV×		
Pit718	100	隅丸方形	39×37	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit797	132	円形	33×33	28	1	黒褐	シ	IV△		
Pit719	108	隅丸方形	(43)×37	40	1	黒褐	シ	IV△	Pit798	147	円形	28×(24)	24	1	黒褐	シ	IV○		
Pit720	108	(円形)	29×(23)	28	1	黒褐	シ	IV×	Pit799	23	不明	28×不明	1	1	黒褐	シ	IV B○ ※調査区壁で確認		
Pit721	108	長方形	47×39	24	1	黒褐	シ	IV△	Pit800	132	(円形)	(21)×(17)	18	1	暗オ灰	砂シ	グライ化		
Pit722	108	隅丸長方形	16×12	24	1	褐灰	シ	IV×	Pit801	121	(円形)	(46)×(30)	45	1	に黄褐	シ	IV B・炭×		
Pit723	116	方形	36×31	24	1	褐灰	シ	IV×	Pit802	129	(隅丸方形)	(57)×(35)	48	1	黒褐	シ	IV B△		
Pit724	108	方形	42×(39)	16	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit803	129	方形	56×55	33	1	黒褐	シ	IV B×		
Pit725	108	隅丸長方形	57×45	63	1	黒褐	シ	IV・焼×	Pit804	129	楕円形	43×29	18	1	灰黄褐	シ	IV B・炭×		
Pit726	106	円形	25×24	14	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit805	129	(方形)	(38)×(36)	23	1	灰黄褐	砂シ	IV B×		
Pit727	106	円形	25×23	16	1	黒褐	シ	IV△	Pit806	137	(円形)	(24)×(24)	16	1	灰黄褐	砂シ	IV B×		
Pit728	106	楕円形	23×19	27	1	黒褐	シ	IV×	Pit807	129	円形	27×24	17	1	褐灰	シ	IV B×		
Pit729	106	円形	24×22	25	1	黒褐	シ	IV△	Pit808	137	(隅丸方形)	(44)×(32)	31	1	灰黄褐	シ	IV B△		
Pit730	115	隅丸方形	31×29	31	1	黒褐	シ	IV△	Pit809	137	円形	28×28	23	1	灰黄褐	シ	IV B×		
Pit732	107	円形	21×20	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit810	145	(円形)	(52)×(45)	29	1	黒褐	砂シ	IV B×		
Pit733	106	隅丸方形	25×23	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit811	136	楕円形	37×25	24	1	灰黄褐	シ	IV B△		
Pit734	114	楕円形	31×24	22	1	黒褐	シ	IV△	Pit812	145	(楕円形)	(23)×(18)	44	1	褐灰	シ	IV×		
Pit735	114	円形	26×26	10	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit813	136	円形	33×32	35	1	灰黄褐	砂シ	IV B△		
Pit736	114	円形	25×24	15	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit814	145	(隅丸方形)	(43)×(38)	39	1	に黄褐	砂シ	IV B△		
Pit737	114	円形	40×35	11	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit815	96	(円形)	(61)×(47)	73	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit738	114	(隅丸方形)	45×36	18	1	灰黄褐	シ	IV△						2	灰黄褐	シ	IV○炭×		
Pit739	114	円形	21×18	19	1	黒褐	シ	IV×	Pit818	112	隅丸長方形	45×36	48	1	黒褐	シ	IV○炭 B△ ※柱		
Pit740	114	円形	19×18	15	1	黒褐	シ	IV×						2	灰黄褐	シ	IV△		
Pit741	114	円形	20×17	21	1	黒褐	シ	IV×	Pit820	80	円形	41×39	21	1	灰黄褐	シ	IV○		
Pit742	114	楕円形	25×19	37	1	黒褐	シ	IV×	Pit821	71	隅丸方形	(37)×37	21	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit743	114	楕円形	41×30	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit822	89	隅丸方形	50×44	35	1	灰黄褐	シ	IV○		
Pit744	114	円形	44×41	11	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit823	71・80	円形	45×41	35	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit745	122	円形	31×29	25	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit824	80	円形	32×26	27	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit746	114	円形	17×16	11	1	黒褐	シ	IV△	Pit825	98	楕円形	35×27	38	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit747	122	円形	19×18	16	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit826	89	楕円形	35×25	32	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit748	109	隅丸方形	16×15	7	1	黒褐	シ	IV×	Pit827	89	楕円形	22×18	28	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit749	109	隅丸方形	13×13	10	1	黒褐	シ	IV×	Pit828	89	楕円形	27×22	26	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit750	109	楕円形	21×16	25	1	黒褐	シ	IV×	Pit829	89	(円形)	(29)×(27)	33	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit751	109	楕円形	39×30	57	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	Pit830	80	円形	23×21	29	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit752	122	円形	23×22	17	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit831	98	楕円形	40×32	30	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit753	114	楕円形	31×26	36	1	黒褐	シ	IV△	Pit832	98	隅丸方形	48×43	41	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit755	140	円形	33×31	39	1	黒	シ	IV×	Pit833	62	楕円形	66×54	29	1	黒褐	粘シ	IV× ※柱		
Pit756	140	円形	26×26	26	1	黒	シ	IV×						2	に黄褐	シ	IV○		
Pit757	140	円形	24×23	24	1	黒	シ	IV×						3	灰黄褐	シ	IV・炭×		
Pit758	148	円形	19×17	9	1	黒褐	砂シ	IV△	Pit834	71	楕円形	39×31	40	1	灰黄褐	シ	IV△炭×		
Pit759	140	円形	31×27	37	1	黒	シ	IV△	Pit835	62	楕円形	37×28	3	※註記無し					
Pit760	140	円形	22×21	23	1	黒褐	シ	IV△	Pit836	—	—	—	—	※欠番					
Pit761	140	円形	23×20	24	1	黒褐	シ	IV△	Pit837	62	円形	33×29	15	1	に黄褐	シ	IV B△ ※柱		
Pit762	140	(隅丸方形)	31×(23)	26	1	黒	シ	IV△	Pit838	62	円形	34×33	28	1	に黄褐	シ	IV B×		
Pit763	140	楕円形	(28)×(21)	24	1	黒	シ	IV×	Pit839	53	円形	32×28	54	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit764	140	円形	25×22	23	1	黒褐	シ	IV×	Pit840	54	円形	39×36	29	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit765	140	円形	19×18	31	1	黒褐	シ	IV×	Pit843	44	(円形)	(22)×20	31	1	黒褐	シ	炭 B×		
Pit766	140	円形	29×25	16	1	黒褐	シ	IV×	Pit844	38	楕円形	19×13	27	1	灰黄褐	シ	IV B・焼△炭×		
Pit767	140	円形	33×27	28	1	黒	シ	IV×	Pit845	44	隅丸方形	53×47	42	1	灰黄褐	シ	IV△焼・炭×		
Pit768	140	円形	32×28	30	1	黒褐	シ	IV△	Pit846	37	円形	65×59	52	1	灰黄褐	シ	IV B・焼・炭×		
Pit769	140	円形	26×26	20	1	黒褐	シ	IV△	Pit850	36	(隅丸方形)	(38)×(36)	18	1	灰黄褐	シ	IV○		
Pit770	140	円形	19×18	18	1	黒褐	シ	IV△	Pit853	23	不明	31×不明	20	1	黒褐	シ	IV B△ ※調査区壁で確認		
Pit771	140	円形	28×24	14	1	黒	シ	IV×	Pit854	53	(隅丸方形)	(66)×(32)	32	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit772	140	楕円形	26×21	26	1	黒	シ	IV△	Pit858	35	円形	59×51	37	1	に黄褐	シ	IV B○炭×		
Pit773	140	隅丸方形	31×30	37	1	黒褐	シ	IV×						2	灰黄褐	シ	IV B△炭×		
Pit774	140	隅丸方形	18×18	20	1	黒褐	シ	IV△						3	に黄褐	シ	IV B△炭×		
Pit775	140	円形	22×20	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit859	44	隅丸方形	(40)×(36)	69	1	灰黄褐	シ	IV・炭×		
Pit776	140	楕円形	21×(16)	13	1	黒褐	シ	IV△	Pit860	47	楕円形	37×25	33	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit777	148	隅丸長方形	30×25	30	1	黒褐	シ	IV△	Pit861	47	隅丸方形	38×34	33	1	灰黄褐	シ	IV B・炭×		
Pit778	148	楕円形	34×26	23	1	黒褐	シ	IV△	Pit862	47	楕円形	62×39	39	1	灰黄褐	シ	IV B△		
Pit779	140	隅丸長方形	21×16	8	1	黒褐	シ	IV×	Pit863	39	(円形)	(43)×(38)	15	1	灰黄褐	シ	IV B・炭×		
Pit780	140	円形	34×31	32	1	黒	シ	IV×	Pit864	47	隅丸方形	46×(44)	37	1	灰黄褐	シ	IV・炭化物× ※柱		
Pit781	140	楕円形	25×18	17	1	黒褐	シ	IV△						2	灰黄褐	シ	IV B・炭×		
Pit782	140	楕円形	36×25	24	1	黒褐	シ	IV△	Pit865	47	(隅丸方形)	(49)×(46)	32	1	褐灰	シ	IV B△		
Pit783	140	楕円形	17×11	8	1	黒	シ	IV△	Pit866	39	円形	(18)×(17)	10	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit784	147	楕円形	22×18	18	1	黒	シ	IV△	Pit867	39	(円形)	(31)×(31)	15	1	暗褐	シ	IV×		
Pit785	147	円形	19×17	15	1	黒褐	シ	IV×	Pit868	46	(円形)	(49)×(42)	49	1	灰黄褐	シ	IV× ※柱		
Pit786	140	円形	18×17	28	1	黒褐	シ	IV×						2	黒褐	シ	IV△		
Pit787	147	楕円形	29×21	42	1	黒褐	シ	IV△						3	灰黄褐	シ	IV B○		
Pit788	140	楕円形	26×20	25	1	黒褐	シ	IV△						4	黒褐	シ	IV B×		
Pit789	140	円形	16×15	10	1	黒褐	シ	IV×						5	に黄褐	粘シ	IV B×		

凡例 色調：に=にぶい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シル

第5章 検出遺構と出土遺物

第13表 ビット(平安時代以降) 観察表(7)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ									長軸×短軸	深さ					
Pit870	47	隅丸長方形	164×74	62	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit940	98	楕円形	28×23	24	1	黒	シ	IV△炭×		
					2	黒褐	粘シ	IVB△※柱	Pit941	98	円形	24×21	21	1	黒	シ	IV・焼×		
					3	に黄橙	シ	IVB◎	Pit942	90	円形	21×18	33	1	黒褐	シ	IV×		
					4	に黄褐	シ	IVB×	Pit943	98	円形	24×22	19	1	黒褐	シ	IV・炭×		
					5	に黄褐	シ	IVB◎	Pit944	99	円形	30×29	28	1	黒褐	シ	IV×		
Pit871	54	(隅丸方形)	(66)×58	68	1	灰黄褐	シ	IVB・炭×	Pit945	98	円形	22×20	35	1	黒褐	シ	IV△		
					2	黒褐	シ	IVB△炭×	Pit946	99	円形	19×16	17	1	黒褐	シ	IV×		
					3	黒褐	シ	IVB△	Pit947	98	隅丸長方形	32×26	23	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×		
					4	黒褐	粘シ	IVB×※柱	Pit948	90	円形	21×19	26	1	黒褐	シ	IV△		
Pit872	38	楕円形	64×26	17	1	灰黄褐	シ	礫IV△	Pit949	90	円形	21×20	22	1	黒褐	シ	IV・炭×		
Pit873	22	楕円形	32×23	15	1	褐灰	シ	IV△粘×	Pit950	81	円形	22×20	17	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit874	22	円形	25×24	27	1	褐灰	シ	IV△	Pit951	90	円形	17×16	13	1	黒褐	シ	IV×		
Pit880	39	(円形)	(37)×(31)	47	1	暗褐	シ	IV×	Pit953	55	隅丸長方形	36×28	13	1	黒褐	シ	IV△焼・炭×		
Pit881	47	(楕円形)	(56)×(39)	48	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit954	55	(円形)	28×(23)	12	1	黒褐	シ	IV◎焼・炭×		
					2	黒褐	シ	IVB・炭×	Pit955	81	楕円形	28×19	25	1	褐灰	シ	IV×		
Pit883	47	(円形)	(30)×(28)	12	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit957	90	円形	28×27	33	1	黒褐	シ	IV△		
Pit884	47	(隅丸方形)	49×(48)	43	1	灰黄褐	シ	IV・炭×※柱	Pit958	81	(方形)	(34)×(32)	(26)	1	黒褐	シ	IV・炭×※柱		
					2	に黄橙	シ	IVB◎						2	灰黄褐	シ	IV△		
Pit887	47	(楕円形)	(41)×31	30	1	に黄褐	シ	IV◎					3	に黄褐	シ	IV△			
Pit888	55	楕円形	23×19	19	1	に黄褐	シ	IV△	Pit962	90	楕円形	28×(17)	18	1	黒褐	シ	IV△		
Pit889	47	(隅丸方形)	(47)×(44)	(30)	1	黒褐	シ	※柱	Pit963	90	円形	23×21	31	1	黒褐	シ	IV△		
					2	褐灰	シ	IV△※柱	Pit964	90	円形	18×17	32	1	黒褐	シ	IV△		
					3	黒褐	シ	IV◎	Pit965	90	円形	16×16	23	1	黒褐	シ	IV△		
Pit890	55	隅丸方形	26×25	47	1	に黄褐	シ	IV×	Pit966	90	円形	22×20	24	1	黒褐	シ	IV△		
Pit891	48	円形	20×20	30	1	褐灰	シ	IV×	Pit967	90	円形	15×13	20	1	黒褐	シ	IV×		
Pit892	47	隅丸方形	18×18	13	1	褐灰	シ	IV×	Pit969	90	楕円形	15×12	24	1	黒褐	シ	IV△		
Pit893	55	(円形)	(29)×(21)	21	1	褐灰	シ	IVB△	Pit970	90	楕円形	18×15	30	1	黒褐	シ	IV×		
Pit894	55	楕円形	(52)×30	59	1	に黄褐	シ	IVB×※柱	Pit971	89	円形	22×20	19	1	黒褐	シ	IV×		
					2	黒褐	シ	※柱	Pit972	90	円形	13×12	18	1	黒褐	シ	IV△		
					3	灰黄褐	シ	IVB◎	Pit973	98	楕円形	20×14	27	1	黒褐	シ	IV×		
Pit895	47	方形	42×40	33	1	灰黄褐	シ	IV×※柱	Pit974	99	円形	17×16	13	1	黒褐	シ	IV△		
					2	暗褐	シ	IVB×	Pit975	90	楕円形	27×11	30	1	黒褐	シ	IV△		
Pit896	55	円形	(36)×34	33	1	暗褐	シ	IV×	Pit976	23	不明	43×不明	46	1	暗褐	シ	IVB◎※調査区壁で確認		
Pit897	48	楕円形	(28)×(20)	17	1	に黄褐	シ	IV×	Pit977	90	円形	17×15	11	1	黒褐	シ	IV△		
Pit899	47	円形	20×20	22	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit978	90	楕円形	18×15	14	1	黒褐	シ	IV△		
Pit901	123	隅丸方形	35×34	36	1	黒褐	シ	IVB◎	Pit979	90	円形	20×19	25	1	黒褐	シ	IV×		
Pit902	123	楕円形	(35)×27	45	1	黒	シ	IV・炭×	Pit982	63	隅丸方形	35×30	42	1	黒褐	シ	IV・炭×		
Pit903	123	円形	21×18	12	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit983	81	円形	20×20	43	1	黒褐	シ	IV×		
Pit904	123	隅丸方形	23×22	6	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit984	99	楕円形	33×27	17	1	黒褐	シ	IV×		
Pit905	123	円形	21×19	16	1	黒褐	シ	IVB△焼・炭×	Pit985	90	楕円形	35×26	34	1	黒褐	シ	IV△		
Pit906	124	隅丸方形	17×16	7	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	Pit986	81	円形	22×20	32	1	黒褐	シ	IV×		
Pit907	132	隅丸方形	25×23	33	1	黒色	シ	IV・炭×	Pit987	81	円形	34×33	36	1	暗褐	シ	IV・焼×		
Pit908	41	(隅丸方形)	(37)×36	31	1	黒褐	シ	IVB・焼・炭×						2	黒褐	シ	IV×		
Pit909	41	楕円形	60×42	42	1	黒褐	粘シ	IV△						3	黒褐	シ	IV・焼×		
Pit910	72	円形	34×32	60	1	灰黄褐	シ	IV・炭×						4	黒褐	シ	IV×		
Pit911	72	円形	26×24	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit988	55	円形	40×40	13	1	黒褐	シ	IV×		
Pit912	81	楕円形	30×20	44	1	黒褐	シ	IV△	Pit989	90	円形	23×21	27	1	黒褐	シ	IV×		
Pit913	81	円形	21×21	38	1	黒褐	シ	IV×	Pit990	90	楕円形	22×18	21	1	黒褐	シ	IV△		
Pit914	81	円形	29×29	38	1	黒褐	シ	IV△	Pit991	99	楕円形	18×14	20	1	黒褐	シ	IV△		
Pit915	81	円形	20×20	42	1	黒褐	シ	IV×	Pit993	90	楕円形	24×19	30	1	暗褐	シ	IV△		
Pit916	72	円形	23×22	18	1	黒褐	砂シ	IV斑△	Pit994	90	円形	23×20	12	1	黒褐	シ	IV×		
Pit917	55	円形	33×33	19	1	黒褐	シ	IV△	Pit995	90	楕円形	23×19	23	1	黒褐	シ	IV×		
Pit919	55	楕円形	34×27	26	1	黒褐	シ	IV×	Pit996	90	楕円形	19×14	18	1	黒褐	シ	IV×		
Pit920	55	円形	31×29	34	1	黒褐	シ	IV×	Pit997	90	楕円形	28×(23)	22	1	黒褐	シ	IV×		
Pit921	63	(円形)	(22)×(19)	11	1	黒褐	シ	IV×	Pit998	99	円形	25×24	45	1	暗褐	シ	IV×		
Pit922	81	円形	20×19	21	1	黒褐	シ	IV△	Pit999	98	楕円形	24×19	23	1	黒褐	シ	IV×		
Pit923	90	楕円形	33×24	16	1	黒褐	シ	IV△	Pit1000	98	円形	21×20	27	1	黒褐	シ	IV×		
Pit924	90	楕円形	22×15	21	1	黒	シ	IV△	Pit1001	63	円形	25×23	26	1	黒褐	シ	IV×		
Pit925	90	楕円形	22×17	21	1	黒	シ	IV×	Pit1002	63	楕円形	22×18	18	1	黒褐	シ	IV△		
Pit926	90	円形	17×15	27	1	黒褐	シ	IV×	Pit1003	63	楕円形	38×32	60	1	黒褐	シ	IV△		
Pit927	90	円形	15×13	21	1	黒	シ	IV×	Pit1004	41	円形	27×26	25	1	黒褐	シ	IV△		
Pit928	90	円形	45×41	27	1	黒褐	シ	IV×※柱	Pit1005	33	隅丸方形	32×28	35	1	灰黄褐	シ	IV×		
					2	黒褐	シ	IV×	Pit1006	32	円形	16×16	11	1	黒褐	シ	IV・炭×		
					3	黒褐	シ	IV△	Pit1007	33	円形	23×22	31	1	褐灰	シ	IV・炭×		
Pit929	90	楕円形	20×15	8	1	黒褐	シ	IV×	Pit1008	33	円形	23×22	40	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit930	99	円形	21×20	10	1	黒褐	シ	IV×	Pit1009	57	(楕円形)	33×(24)	19	1	黒褐	シ	IV△		
Pit931	89	円形	30×30	20	1	黒褐	シ	IV×	Pit1010	57	円形	17×16	9	1	黒褐	シ	IV×		
Pit932	81・90	楕円形	29×19	21	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1011	57	楕円形	17×14	7	1	黒褐	シ	IV×		
Pit933	80	円形	13×12	19	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1012	57	円形	19×17	9	1	黒褐	シ	IV×		
Pit934	80	円形	16×14	32	1	黒褐	シ	IV×	Pit1013	57	円形	26×23	8	1	黒褐	シ	IV×		
Pit935	80・81	円形	18×17	20	1	黒褐	シ	IV△	Pit1014	57	隅丸方形	15×15	9	1	灰黄褐	シ	IV×		
Pit936	99	円形	26×23	24	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1015	41	円形	20×18	14	1	黒褐	シ	IV・炭×		
Pit937	99	隅丸方形	29×27	13	1	黒褐	シ	IV×	Pit1016	57	隅丸方形	17×15	21	1	黒褐	シ	IV×		
Pit938	99	円形	22×22	10	1	黒褐	シ	IV△	Pit1017	32	隅丸方形	19×16	12	1	黒褐	シ	IV△		
Pit939	89	円形	25×22	13	1	黒	シ	IV×	Pit1018	41	隅丸方形	25×23	27	1	黒褐	シ	IV△焼・炭×		

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第14表 ビット(平安時代以降) 観察表(8)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考				
			長軸×短軸	深さ									長軸×短軸	深さ									
Pit1019	57	隅丸方形	45×44	43	1	暗褐	シ	IV×	Pit1079	101	方形	47×46	39	1	褐灰	シ	IV・焼・炭×	Pit1080	101	楕円形	29×23	38	※註記なし
					2	黒褐	粘シ	IV△						2	黒褐	シ	IV・焼・炭× ※柱						
					3	黒褐	粘シ	IV×						3	に黄橙	シ	IV・炭×						
					4	黒褐	シ	IV△						4	灰黄褐	シ	IV斑◎						
					5	黒褐	シ	IV△															
Pit1020	63	円形	43×38	41	1	暗灰黄	粘シ	IV◎炭×	Pit1081	40	円形	32×(25)	17	1	黒褐	シ	IV×						
Pit1021	57	円形	35×32	21	1	黒褐	シ	IV△焼・炭× ※柱	Pit1082	101	(楕円形)	(26)×(16)	39	1	暗褐	シ	IV×						
					2	黒褐	シ	IV△	Pit1084	100	(楕円形)	43×36	20	1	に黄橙	シ	IVB△						
Pit1022	65	隅丸方形	37×36	27	1	黒褐	粘シ	IVB◎炭×	Pit1085	82	円形	40×35	42	1	灰黄褐	粘シ							
					2	灰黄褐	シ	IV◎	Pit1086	100	(隅丸方形)	(28)×(25)	49	※註記なし									
					3	暗褐	シ	炭×	Pit1087	83	円形	31×28	35	※註記なし									
Pit1023	49	楕円形	19×15	18	1	黒褐	シ	IV×	Pit1089	56	(隅丸長方形)	(24)×(20)	28	1	暗褐	シ	IV△						
Pit1025	57	楕円形	39×28	27	1	暗褐	シ	黒褐シ斑△ ※柱	Pit1090	50	楕円形	45×36	23	1	暗褐	シ	IV× ※柱						
					2	褐	シ	IV×						2	褐	シ	IV主体 ※柱						
Pit1026	73	(円形)	(33)×(33)	27	1	暗褐	砂シ	焼B×					3	暗褐	シ	IV△							
Pit1027	64	(円形)	(29)×(27)	30	1	黒褐	粘シ	IVB◎炭×	Pit1091	33	(楕円形)	(53)×44	(37)	1	黒褐	シ	IV・炭×						
					2	黒	粘シ	IV△						2	暗褐	シ	IV△炭×						
Pit1028	91	円形	21×21	11	1	黒褐	シ	IV斑△					3	に黄褐	シ	焼◎IV・炭×							
Pit1029	91	(円形)	25×(16)	12	1	黒褐	シ	IV斑△						4	灰黄褐	シ	IV◎						
					1	黒褐	シ	IVB△ ※柱					5	に黄褐	シ	IV・焼△							
					2	に黄褐	シ	IV×					6	暗褐	シ	IV×							
Pit1030	83	隅丸方形	45×41	36	3	灰黄褐	シ	IVB×	Pit1092	50	楕円形	38×32	56	1	暗褐	シ	IVB×						
					1	黒褐	シ	IVB△	Pit1093	57	(楕円形)	(31)×(26)	11	1	黒褐	シ	IV×						
					1	黒褐	粘シ	IV×	Pit1094	57	(円形)	(22)×(21)	7	1	黒褐	シ	IVB△						
Pit1033	49	楕円形	51×41	40	1	黒褐	シ	IV斑△ ※柱	Pit1095	41	楕円形	35×27	32	1	黒褐	シ	IV×						
					2	灰黄褐	シ	IVB△					1	灰黄褐	シ	IVB△							
					3	に黄褐	シ	IVB◎					2	暗褐	シ	IVB◎							
					4	黒褐	シ	IV×					3	褐灰	シ	IV斑△							
Pit1034	49	(円形)	(26)×(24)	40	1	黒褐	粘シ	IV△	Pit1096	55	楕円形	36×27	40	4	黒褐	シ	IVB× ※柱						
Pit1035	83	(円形)	30×(24)	30	1	黒褐	粘シ	IV×					5	黒褐	シ	IV斑◎							
Pit1036	83	楕円形	36×29	53	1	黒褐	粘シ	IVB△					1	暗褐	シ	IVB△							
Pit1041	57	(円形)	(29)×(29)	25	1	暗褐	シ	炭・焼×	Pit1097	63	円形	51×44	73	2	黒褐	粘シ	IV△ ※柱						
					2	灰黄褐	シ	IV△					3	暗褐	シ	IVB△							
Pit1042	92	円形	24×22	13	1	黒褐	シ	IV×	Pit1099	41	円形	19×18	35	1	黒褐	シ	IV×						
Pit1043	92	円形	26×25	8	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit1101	22	(楕円形)	(28)×(22)	14	1	褐灰	シ	IV△						
Pit1044	92	楕円形	18×14	8	1	黒褐	シ	IVB×	Pit1102	22	円形	21×19	15	1	褐灰	シ	IV△						
Pit1045	92	楕円形	28×20	10	1	黒褐	シ	IV△	Pit1104	46	円形	33×32	20	1	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit1046	84	楕円形	32×16	44	1	黒褐	シ	IV△	Pit1105	54	円形	36×32	52	1	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit1047	83	(円形)	30×28	66	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1109	—	—	—	—	—	※欠番(SI451のP23へ変更)								
Pit1049	49	円形	18×16	46	1	褐灰	シ	IV△	Pit1110	108	楕円形	59×38	73	1	暗褐	シ	炭B×						
Pit1050	83	(楕円形)	20×(18)	17	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1113	29	隅丸方形	(50)×45	45	1	灰黄褐	シ	IV△						
					1	褐灰	シ	IV△焼・炭× ※柱						2	黒褐	シ	IV△ ※柱						
					2	に黄褐	シ	IVB・炭×						3	灰黄褐	シ	IVB◎						
					3	褐灰	シ	IVB・炭×						4	褐灰	シ	IV△						
Pit1052	40	隅丸方形	(37)×(36)	36	4	黒褐	シ	IVB△炭×					5	黒褐	シ	IV×							
					1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1115	36	(円形)	37×(21)	44	1	灰黄褐	シ	IVB×						
					2	黒褐	シ	IV×					2	黒褐	シ	IVB×							
Pit1053	48	隅丸方形	22×21	25	※註記なし	Pit1116	24	楕円形	34×26	39	1	に黄褐	シ	IV・炭×									
Pit1054	48	楕円形	24×19	23	※註記なし	Pit1118	38	円形	30×29	12	1	に黄褐	シ	IVB△									
Pit1055	48	円形	22×20	41	※註記なし	Pit1119	38	隅丸方形	50×42	19	1	灰黄褐	シ	IVB・炭△									
Pit1056	40	円形	20×18	11	※註記なし						2	褐灰	シ	炭△IVB・焼×									
Pit1057	40	円形	29×27	29	1						黒褐	シ	IV△	3	灰黄褐	シ	IVB・炭×						
Pit1058	40	円形	30×26	24	1	黒褐	粘シ	IV×					4	暗褐	シ	IV◎炭×							
Pit1059	40	楕円形	32×27	14	1	黒褐	シ	IV△	Pit1121	47	隅丸方形	34×32	13	1	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1060	40	円形	33×29	21	1	暗褐	シ	IV△					2	灰黄褐	シ	IVB△							
Pit1061	40	円形	28×27	17	1	暗褐	シ	IV・焼・炭×	Pit1122	46・47	隅丸方形	(32)×31	29	1	に黄褐	シ	IVB△炭×						
Pit1062	40	(楕円形)	(31)×(24)	15	※註記なし				Pit1123	46	円形	35×31	31	1	褐灰	シ	IVB△						
Pit1063	48	隅丸方形	24×22	24	1	黒褐	シ	IV×	Pit1130	47	隅丸長方形	53×42	28	1	灰黄褐	シ	IVB×						
Pit1065	56	円形	24×22	10	1	暗褐	シ	IV△					1	灰黄褐	シ	IVB△							
Pit1066	48	円形	41×37	34	1	暗褐	シ	IV△	Pit1132	46	隅丸長方形	44×33	51	1	灰黄褐	シ	IV△						
					2	黒褐	シ	IV×						2	黒褐	シ	IV× ※柱						
					3	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×						3	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit1067	64	(楕円形)	(35)×(23)	11	※註記なし	Pit1142	46	隅丸方形	32×29	17	1	灰黄褐	シ	IVB×									
Pit1068	55	楕円形	30×25	14	※註記なし	Pit1143	46	(隅丸方形)	33×(28)	26	1	灰黄褐	シ	IVB△									
Pit1069	82	(楕円形)	(39)×27	42	1	褐灰	シ	IV◎炭×	Pit1146	52	円形	45×40	27	1	暗褐	シ	IVB△						
Pit1070	33・42	円形	23×22	6	1	暗褐	シ	IV・炭×	Pit1147	52	隅丸方形	19×18	25	1	褐	シ	IVB×						
Pit1071	33	楕円形	22×18	12	1	暗褐	シ	IV△	Pit1148	44	円形	25×23	34	1	に黄褐	砂シ	IV×						
Pit1074	101	円形	46×39	54	※註記なし				Pit1149	44	円形	24×22	22	1	に黄褐	砂シ	IVB×						
					1	黒褐	シ	IV斑△	Pit1150	52	(円形)	(40)×40	27	1	に黄褐	砂シ	IVB×						
Pit1075	100	(楕円形)	(46)×(38)	38	1	黒褐	シ	IV斑△	Pit1151	52	円形	19×18	7	1	褐	シ							
					2	黒褐	シ	IV△	Pit1152	52	楕円形	19×16	14	1	に黄褐	砂シ	IV△						
Pit1076	83	楕円形	32×23	36	1	暗褐	シ	IV×	Pit1153	52	円形	31×28	9	1	に黄褐	シ	IV×						
Pit1077	83	楕円形	20×17	29	※註記なし				Pit1154	52	円形	25×22	15	1	褐	砂シ	IV△						
Pit1078	91	(隅丸方形)	(26)×(25)	20	1	に黄褐	シ	炭B◎	Pit1155	52	隅丸長方形	(34)×(27)	24	1	暗褐	シ	IVB◎						

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第5章 検出遺構と出土遺物

第15表 ビット(平安時代以降) 観察表(9)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ				
Pit1156	53	円形	22×20	19	1	暗褐	シ	IV×	Pit1225	43	楕円形	46×(27)	23	1	灰黄褐	砂シ	IV○
Pit1157	36	隅丸方形	23×20	32	※記なし				Pit1230	86	隅丸長方形	89×(58)	28	1	灰黄褐	シ	IVB○
Pit1158	36	隅丸方形	19×18	8	※記なし									2	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1159	36	方形	37×34	13	1	暗褐	シ	IV△炭× ※柱	Pit1234	43・44	楕円形	40×33	32	1	灰黄褐	シ	IV△礫・炭×
					2	暗褐	シ	IV斑△						2	灰黄褐	シ	炭△IV×
Pit1160	36	方形	37×34	15	1	黒褐	シ	IVB・炭× ※柱						3	暗褐	シ	灰シB○炭×
					2	黒褐	シ	IVB○						4	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1163	62	隅丸方形	31×28	36	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit1235	103	隅丸方形	70×60	17	1	灰褐	シ	IVB△炭×
					2	灰黄褐	シ	IVB× ※柱						2	灰黄褐	砂シ	IV斑炭△
Pit1164	62	方形	66×56	53	1	黒褐	シ	IVB△	Pit1236	103	隅丸方形	60×51	13	1	灰褐	シ	IVB・炭△
					2	灰黄褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1165	36	楕円形	38×32	20	1	暗褐	シ	IV× ※柱	Pit1237	103	円形	59×(59)	18	1	褐灰	シ	IV・炭△
					2	に黄褐	シ	IV斑○						2	褐灰	シ	IVB・炭△
Pit1166	36	楕円形	59×42	25	1	に黄褐	シ	IV斑○炭×	Pit1238	111	(楕円形)	65×(48)	49	1	灰黄褐	シ	IVB○炭×
					1	褐	シ	IVB・炭×						2	灰黄褐	シ	IVB△
Pit1167	44	方形	40×37	34	2	灰黄褐	シ		Pit1239	102	(楕円形)	(52)×(42)	25	1	灰黄褐	シ	IVB○炭△
					3	に黄褐	シ							2	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1168	36	楕円形	67×46	46	1	に黄褐	シ	IV△炭×	Pit1240	103	隅丸方形	38×36	15	1	灰黄褐	シ	IVB○
					2	褐	シ	IVB× ※柱						2	黒褐	シ	IVB△焼・炭×
					3	に黄褐	シ	IVB○						3	に黄褐	砂シ	IV斑○
Pit1169	36	方形	34×33	22	1	暗褐	シ	IV× ※柱	Pit1241	60	(円形)	(82)×(60)	52	1	黒褐	シ	IV互○炭△
					2	に黄褐	シ	IV斑○						2	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1170	28	円形	68×58	42	1	に黄褐	シ	IV斑○						3	に黄橙	シ	IVB○炭×
Pit1172	36	円形	66×(57)	(26)	1	暗褐	シ	IV○ ※柱						4	灰黄褐	シ	IVB○ ※柱
					2	に黄褐	シ	IV斑○						5	に黄褐	シ	IVB○
Pit1174	28	円形	20×18	13	1	暗褐	シ	IVB△	Pit1244	61	隅丸長方形	(70)×(48)	46	1	に黄褐	シ	IV○焼・炭×
Pit1175	28	隅丸方形	21×20	20	1	暗褐	シ	IVB△						2	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1179	47	円形	21×18	17	1	に黄褐	シ	IV×						3	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1180	47	楕円形	31×25	21	1	に黄褐	シ	IV×	Pit1245	60	(円形)	(56)×(49)	33	1	黄灰	砂シ	褐灰シB○炭×
Pit1181	47	隅丸長方形	55×45	15	1	に黄褐	シ	IVB△						2	暗灰黄	砂シ	灰白シB○IV△
Pit1182	47	円形	34×31	30	1	灰黄褐	シ	IVB×						3	に黄褐	砂シ	IV斑△
Pit1183	55	隅丸方形	(35)×26	22	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1246	60	隅丸方形	72×59	46	1	黄灰	シ	IVB・焼○炭△
Pit1184	55	隅丸方形	32×31	27	1	褐灰	シ	IVB△						2	暗灰黄	シ	IV△焼・炭×
Pit1185	47	(隅丸長方形)	(46)×(34)	22	1	に黄橙	シ	IVB△炭×						3	に黄褐	シ	IVB○炭△
					1	灰黄褐	シ	IVB×						4	に黄褐	砂シ	IVB○炭×
Pit1186	46	(円形)	(41)×(35)	(17)	2	褐灰	粘シ	IV×	Pit1247	78	円形	(63)×61	28	1	褐灰	シ	IVB△炭×
					3	に黄褐	シ	IV斑○						2	に黄褐	シ	IVB○
Pit1187	55	円形	57×50	18	1	に黄褐	シ	IVB・炭×						3	灰黄褐	シ	IVB○
					1	に黄褐	シ	IV△	Pit1248	78	円形	(56)×54	51	1	暗褐	シ	IVB△炭×
Pit1188	62	長方形	55×45	56	2	暗褐	シ	IV× ※柱						2	灰黄褐	シ	IVB△焼・炭×
					3	暗褐	シ	IVB×						3	に黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1191	62	隅丸方形	(55)×53	12	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit1250	78・79	(楕円形)	(85)×(51)	27	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1192	54	(円形)	30×(16)	27	1	灰黄褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1193	54	(円形)	(18)×17	17	1	灰黄褐	シ	IVB△						3	に黄褐	シ	IVB○炭×
Pit1194	54	円形	29×26	17	1	灰黄褐	シ	IVB・炭×	Pit1251	29	(隅丸方形)	51×(26)	19	1	灰黄褐	粘シ	IV○黒褐シB△
Pit1195	54	円形	23×20	15	1	灰黄褐	シ	IV・炭×						2	に黄褐	粘シ	IVB○
					1	に黄褐	シ	IVB△						1	灰黄褐	粘シ	IVB△
Pit1196	54	隅丸方形	94×92	61	2	に黄褐	シ	IVB×	Pit1254	29	(隅丸長方形)	(62)×(49)	40	1	灰黄褐	粘シ	IVB△炭× ※柱
					3	灰黄褐	シ	IVB△						2	に黄褐	粘シ	IVB△炭×
					1	黒褐	シ	IV× ※柱						3	に黄橙	粘シ	IVB○炭×
Pit1197	54	楕円形	119×76	78	2	黒褐	シ	IVB△						4	に黄橙	粘シ	IVB○炭×
					3	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1255	37	円形	57×52	35	1	灰黄褐	シ	IVB○焼・炭×
					4	暗褐	シ	IVB×						2	褐灰	シ	IV△炭×
					5	に黄橙	シ	IVB○						3	暗褐	シ	IV△
					1	灰黄褐	シ	IVB△						4	灰黄褐	シ	IVB×
Pit1198	62	(楕円形)	63×(39)	55	2	黒褐	シ	IV× ※柱	Pit1262	45	楕円形	71×57	24	1	暗灰黄	シ	IVB△
					3	灰黄褐	シ	IV×						2	に黄褐	シ	IVB○炭×
					4	褐灰	シ	IVB△						1	暗褐	シ	IVB・炭×
					5	に黄褐	シ	IV×						2	灰黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1202	36・44	方形	(72)×61	42	1	に黄褐	シ	IVB○	Pit1263	88	(円形)	67×(26)	40	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×
					2	褐灰	シ	IVB△						3	に黄褐	シ	IVB△炭×
					3	に黄褐	シ	IVB△						4	灰黄褐	シ	IVB○
					4	に黄褐	シ	IVB○	Pit1265	60	円形	37×35	(12)	1	灰黄褐	シ	IV○炭B△
Pit1203	36	(楕円形)	(37)×37	22	1	褐灰	シ	IVB△炭×						2	褐灰	シ	IV△
					2	黒褐	シ	IV△炭× ※柱						3	に黄褐	シ	IV△炭×
					3	灰黄褐	シ	IV○	Pit1277	78	隅丸方形	36×33	30	1	暗灰黄	シ	IV・炭B△
					4	に黄褐	シ	IVB○						2	褐	シ	IVB△焼・炭×
Pit1207	36	円形	39×38	22	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1278	78	隅丸長方形	58×41	35	1	褐	シ	IV△炭×
					2	黒褐	シ	IV× ※柱						2	暗褐	シ	IVB・炭△焼×
Pit1212	44	円形	(51)×(45)	22	1	灰黄褐	シ	IVB○						3	暗灰黄	砂シ	IV斑○
					2	灰黄褐	砂シ	IV斑○	Pit1279	78	楕円形	32×26	47	1	暗灰黄	シ	IV△炭×
Pit1214	—	—	—	—	※欠番									2	褐	シ	IVB○炭△
Pit1215	—	—	—	—	※欠番									3	に黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1221	36	隅丸方形	22×20	20	1	褐灰	シ	IVB△						1	暗褐	シ	IV△焼・炭×
					1	灰黄褐	シ	IVB○炭△	Pit1283	88	(円形)	(54)×53	52	2	灰黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1222	60	隅丸方形	45×37	30	2	暗褐	シ	IVB○炭×						3	黒褐	シ	IVB・炭×
Pit1223	77	隅丸長方形	64×48	8	1	褐灰	砂シ	IV○									

凡例 色調：に=にふい、オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第16表 ビット(平安時代以降) 観察表(10)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考						
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ										
Pit1284	60	隅丸長方形	82×60	31	1	黒褐	粘シ	IVB・炭×	Pit1327	39	(楕円形)	(34)×(25)	51	1	灰黄褐	シ	IVB△						
					2	暗灰黄	粘シ	IVB△炭×	Pit1328	80	円形	27×23	13	1	灰黄褐	シ	IVB×						
					3	暗灰黄	シ	IVB△炭×	Pit1329	47	方形	51×50	41	1	灰黄褐	シ	IV×						
2	に黄褐	シ	IVB△炭×	2	黒褐	シ	IVB×※柱																
3	灰黄褐	シ	IV△炭×	3	黒褐	シ	IVB△																
Pit1285	96	円形	53×(53)	48	1	に黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1330	47	隅丸方形	(52)×(45)	28	1	灰黄褐	シ	IVB×						
					2	灰黄褐	シ	IV△炭×						2	灰黄褐	シ	IVB◎						
					3	黒褐	シ	IVB△						3	暗褐	シ	IVB△						
Pit1286	52	楕円形	68×55	44	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1331	90	円形	24×21	9	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					2	暗灰黄	シ	IVB◎焼・炭×						Pit1332	—	—	—	※欠番					
					3	黒褐	粘シ	IV△炭シB・炭×															
Pit1288	69	隅丸方形	107×94	27	1	灰褐	シ	IVB◎※柱	Pit1333	63	(隅丸方形)	(30)×(28)	36						1	黒褐	シ	IV・焼×	
					2	灰黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1334	63	円形	22×21	34	1	黒褐	シ	IV・炭×						
					3	に黄褐	砂シ	IV斑△炭×	Pit1337	47	隅丸方形	43×(37)	35	2	灰黄褐	シ	IVB△炭×						
					4	に黄	砂シ	IV斑△炭×						3	暗褐	シ	IVB◎※柱						
Pit1289	78	楕円形	61×49	47	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1338	62	(円形)	(45)×(42)	(17)	1	灰黄褐	シ	IVB△						
					2	灰黄褐	シ	IVB◎炭×						Pit1339	62	楕円形	(64)×42	11	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	
					3	灰黄褐	シ	IVB◎											2	灰黄褐	シ	IV△炭×	
Pit1291	(楕円形)	43×(34)	35	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1340	46	隅丸長方形	63×52	44	1						灰黄褐	シ	IVB△		
				2	に黄褐	シ	IVB◎炭×						2	褐灰	シ	IV×※柱							
				3	灰黄褐	シ	IVB△						3	灰黄褐	シ	IVB×※柱							
Pit1292	70	隅丸方形	(36)×34	33	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1341	54	(隅丸方形)	(46)×(26)	41	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					2	灰黄褐	砂シ	IVB△炭×						2	暗褐	シ	IV・炭×※柱						
					3	暗灰黄	シ	IVB◎炭×						3	灰黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1294	70	円形	52×52	21	1	灰褐	砂シ	IV斑△炭×	Pit1342	46	円形	41×36	35	1	に黄褐	シ	IVB△						
					2	灰黄褐	シ	IV◎炭×						2	に黄褐	シ	IVB◎						
					3	灰黄褐	砂シ	IV△炭×						1	灰黄褐	シ	IV×※柱						
Pit1295	70	楕円形	50×40	23	1	黄褐	砂シ	IV◎炭×	Pit1343	46	隅丸方形	43×40	44	1	灰黄褐	シ	IVB△						
					2	黄灰	砂シ	IV斑△炭×						2	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					3	灰黄褐	シ	IVB◎炭×						1	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1297	52	(円形)	(43)×(40)	55	1	灰黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1344	54	長方形	45×31	15	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					2	に黄褐	シ	IVB◎焼・炭×						2	灰黄褐	シ	IVB△						
					3	灰褐	シ	IVB△炭×						1	に黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1298	52	円形	81×69	43	1	灰黄褐	シ	灰シB◎IV△炭×	Pit1345	54	(隅丸方形)	64×(47)	62	1	に黄褐	シ	IV△炭×						
					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×						2	に黄褐	シ	IVB△※柱						
					3	灰黄褐	シ	IVB◎炭×						3	灰黄褐	粘シ	IV×※柱						
Pit1299	79	円形	63×(61)	19	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1346	46	(円形)	29×(26)	11	1	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×						2	暗褐	シ	IV×						
					3	灰黄褐	シ	IV◎						3	灰黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1300	79	円形	69×68	46	1	に黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1347	46	円形	28×24	21	1	灰黄褐	シ	IVB×						
					2	灰黄褐	シ	IVB・炭△焼×						2	灰黄褐	粘シ	IV×						
					3	灰褐	シ	IV△※柱						3	灰黄褐	シ	IV△炭×						
					4	灰黄褐	シ	IVB◎炭×						1	に黄褐	シ	IVB△						
					5	に黄褐	砂シ	IVB◎						2	灰黄褐	シ	IVB×						
Pit1302	36	円形	44×43	24	1	暗褐	シ	IVB△	Pit1348	46	円形	(35)×30	19	3	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1303	36	楕円形	37×(29)	40	1	暗褐	シ	IVB×						1	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit1304	36	(楕円形)	(34)×(21)	21	1	に黄褐	シ	IVB×						2	灰黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1305	36	(隅丸長方形)	(40)×(37)	19	1	暗褐	シ	IV△	Pit1349	46	隅丸方形	(25)×24	7	3	灰黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1309	54	(隅丸方形)	50×(26)	33	1	灰黄褐	シ	IVB△						Pit1350	54	(隅丸方形)	(78)×(23)	53	2	灰黄褐	シ	IVB◎※柱	
					2	灰黄褐	シ	IVB◎											3	黒褐	シ	IV×※柱	
					3	黒褐	シ	IVB×	4	灰黄褐	シ	IVB×											
Pit1310	39	長方形	65×45	45	1	に黄褐	シ	IVB・炭×	Pit1351	89	楕円形	29×20	30	1	黒褐	シ	IV△						
					2	黒褐	シ	IV×※柱	Pit1353	79	楕円形	32×26	22	1	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×						
					3	に黄褐	シ	IVB◎						Pit1354	79	隅丸方形	37×35	31	1	褐灰	粘シ	IV・炭×※柱	
					4	灰黄褐	シ	IV・炭×											2	に黄褐	シ	IVB・炭×	
					5	褐	シ	IVB×	Pit1355	63	楕円形	46×37	13	3	灰黄褐	シ	IV△炭×						
Pit1312	71	円形	38×37	61	1	灰黄褐	シ	IV△炭×※柱	Pit1356	63	隅丸長方形	32×27	26	1	に黄褐	シ	IV×						
					2	黒褐	シ	IV△炭×※柱						2	に黄褐	シ	IV×※柱						
					3	黄褐	シ	IVB△炭×※柱						3	に黄褐	シ	IVB△						
					4	黒褐	シ	IV△炭×						Pit1360	98	円形	29×26	39	1	暗褐	シ	IV斑△	
					5	黒褐	シ	IVB△											Pit1361	—	—	—	—
Pit1313	61	円形	39×38	50	1	灰黄褐	砂シ	IVB・炭×	Pit1364	62	隅丸方形	25×22	29	1	灰黄褐	粘シ	IV・炭×						
					2	に黄褐	砂シ	IV・炭×※柱						2	黒褐	シ	IV△						
					3	灰黄褐	砂シ	IV△炭×						Pit1366	79	隅丸方形	31×31	37	1	暗褐	シ	IV・炭×	
4	に黄褐	砂シ	IV×	2	黒褐	粘シ	IVB・炭×																
5	に黄褐	砂シ	IV×	1	黒褐	シ	IV・炭×																
Pit1316	70	隅丸方形	27×26	25	1	灰黄褐	砂シ	IVB×	Pit1367	80	隅丸方形	45×41	39	2	黒褐	シ	IV×※柱						
Pit1317	70	隅丸方形	38×36	42	1	黒褐	砂シ	IV△						3	黒褐	シ	IVB△						
					2	黒褐	砂シ	IVB×						Pit1368	—	—	—	—	※欠番				
Pit1318	70	円形	34×29	23	1	褐灰	砂シ	IV・炭×	Pit1369	121	円形	(28)×24	24							1	黒褐	シ	IVB×
					2	黒褐	砂シ	IV×	Pit1370	129	円形	24×23	20							1	黒褐	シ	IVB×
Pit1319	70	楕円形	26×18	12	1	黒褐	砂シ	IV×	Pit1371	55	隅丸方形	43×37	37	1	灰黄褐	シ	IV・炭×※柱						
Pit1320	72	円形	36×32	40	1	黒褐	シ	IV△炭×						2	灰黄褐	シ	IVB△						
Pit1321	90	円形	14×13	20	※註記なし			Pit1372	52	楕円形	69×(50)	35	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×							
Pit1322	89	円形	29×25	40	1	に黄褐	シ						IVB◎	2	灰黄褐	シ	IVB△炭×						
					2	に黄褐	シ						IVB◎	3	に黄褐	砂シ	IVB◎						
Pit1323	72	円形	38×34	29	1	黒褐	粘シ	IV△炭×	Pit1373	52	(楕円形)	(48)×(44)	(16)	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×						
Pit1326	47	(隅丸方形)	(23)×(21)	(41)	1	黒褐	シ	IV×						2	に黄褐	シ	IVB◎						

凡例 色調：に=にぶい、オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰
粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第5章 検出遺構と出土遺物

第17表 ビット(平安時代以降) 観察表(11)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考			
			長軸×短軸	深さ	深さ								長軸×短軸	深さ								
Pit1375	104	円形	40×37	24	1	に黄褐	シ	IVB○炭×	Pit1443	106	楕円形	38×31	18	1	黒褐	シ	IV・炭×					
					2	暗褐	シ	IV×※柱						Pit1444	99	円形	59×52	48	1	黒褐	シ	IV・炭×※柱
					3	灰黄褐	砂シ	IVB△炭×											2	黒褐	シ	IVB△
					4	に黄褐	砂シ	IVB○											3	黒褐	シ	IV×
Pit1376	104	円形	36×31	22	1	灰黄褐	シ	IV○炭×	Pit1445	106	隅丸方形	40×39	34	1	黒褐	シ	IV・炭×※柱					
					2	暗褐	砂シ	IVB○炭×						2	黒褐	シ	IV△					
Pit1377	104	楕円形	68×45	22	1	灰黄褐	シ	IVB○炭×	Pit1446	106	円形	53×47	15	1	黒褐	シ	IV△					
					2	暗褐	砂シ	IVB△焼・炭×						Pit1447	99	円形	44×39	44	1	黒褐	シ	IV△
Pit1378	112	(円形)	(53)×(31)	25	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1448	106	楕円形	43×25	22						1	黒褐	シ	IV×
					2	に黄褐	砂シ	IVB○炭×						2	黒褐	シ	IV・焼×					
Pit1380	111	(隅丸長方形)	64×(52)	44	1	褐	シ	IVB○炭×	Pit1449	106	隅丸長方形	(90)×57	17	3	灰黄褐	シ	IV△炭×					
					2	灰褐	シ	IVB△※柱						1	黒褐	シ	IV△炭×※柱					
					3	灰褐	シ	IV○						2	黒褐	シ	IV・炭×					
					4	灰褐	砂シ	IVB○炭×						3	に黄褐	シ	IV△炭×					
					5	灰褐	砂シ	IVB△						Pit1450	89	円形	(28)×(27)	36	1	暗褐	シ	IV△
1	暗灰黄	シ	IVB○黒褐シB△炭×	Pit1452	98	円形	(57)×52	38	1	暗褐	シ	※柱										
2	灰黄褐	シ	IVB△炭×						Pit1453	92	円形	27×25	22	2	暗褐	シ	IVB△					
1	灰黄褐	シ	IVB○灰白シB△炭×	Pit1454	106	(円形)	(35)×(31)	50						1	黒褐	シ	IV△					
2	黄灰	シ	IVB○炭×						Pit1455	99	(円形)	(36)×34	41	1	暗褐	シ	IV互○					
3	黄褐	シ	IV○炭×	2	暗褐	シ	IV・炭×															
Pit1383	78	(円形)	42×(27)	44	1	灰黄褐	シ	IVB○炭×	Pit1458	98	円形	24×22	17	※註記なし								
					2	に黄褐	シ	IV○炭×						1	暗褐	粘シ	IV・炭×※柱					
					3	に黄褐	シ	IVB○炭B△						2	暗褐	シ	IV×					
Pit1384	104	円形	47×41	22	1	灰黄褐	シ	IVB○炭△	Pit1459	100	隅丸方形	79×67	15	3	暗褐	シ	IV×					
					2	灰黄褐	砂シ	IVB○						2	暗褐	シ	IV×					
Pit1385	119	円形	41×40	25	1	灰黄褐	シ	IVB○炭×	Pit1460	100	楕円形	43×32	51	1	黒褐	粘シ	IV×※柱					
					2	暗灰黄	砂シ	IVB△炭×						2	黒褐	粘シ	IV×※柱					
Pit1386	120	(円形)	(67)×(65)	39	1	暗褐	粘シ	IVB○炭×	Pit1461	90	円形	41×(41)	42	1	黒褐	シ	IV×					
					2	灰黄褐	粘シ	IV・炭△						Pit1462	107	隅丸方形	22×21	22	1	黒褐	シ	IV△炭×
					3	に黄褐	砂シ	IVB○炭×											2	黒褐	粘シ	IV・炭×※柱
Pit1387	120	(隅丸方形)	(72)×(70)	(21)	1	灰黄褐	シ	IVB○炭×	Pit1464	107	隅丸方形	35×32	43	1	黒褐	シ	IV△炭×※柱					
					2	灰黄褐	シ	IVB△焼・炭×						2	黒褐	粘シ	IV・炭×※柱					
					3	に黄褐	砂シ	IV○炭×						3	暗褐	シ	IV△					
Pit1388	120	隅丸方形	50×45	24	1	黄灰	粘シ	IVB○炭△焼×	Pit1466	108	円形	20×19	7	1	に黄褐	シ	IVB△					
					2	黄灰	粘シ	IVB○炭×						Pit1467	108	隅丸方形	21×21	12	1	に黄褐	シ	IVB△
Pit1390	121	円形	17×17	17	1	黒褐	粘シ	IV△炭×	Pit1468	108	円形	39×36	19						1	に黄褐	シ	IVB△
					2	暗褐	粘シ	IV○炭×						Pit1469	108	隅丸方形	20×18	16	1	に黄褐	シ	IVB△
Pit1391	79	円形	26×25	18	1	に黄褐	シ	IV×※柱	Pit1470	108	円形	39×34	28						※註記なし			
					2	に黄褐	シ	IVB×						Pit1471	107	隅丸方形	48×44	31	1	黒褐	シ	IV△
Pit1392	55	楕円形	32×26	28	1	灰黄褐	シ	IV・炭×※柱	Pit1473	108	(楕円形)	(37)×(29)	17						1	暗褐	シ	IVB○焼B×
					2	灰黄褐	シ	IVB△						Pit1474	100	(楕円形)	(62)×55	21	1	暗褐	シ	IV斑○
Pit1394	55	円形	31×28	26	1	に黄褐	シ	IV・炭×※柱	Pit1477	100	(楕円形)	33×(27)	23						1	暗褐	シ	IV・焼・炭×
					2	灰黄褐	シ	IVB○						Pit1478	107	楕円形	49×39	14	1	黒褐	シ	IV○
Pit1395	54	円形	48×45	16	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1479	108	円形	50×47	26						1	黒褐	シ	IV△
					2	灰黄褐	シ	IV×※柱						2	黒褐	シ	IV△※柱					
					3	黒褐	シ	IVB△						3	灰黄褐	シ	IV○					
Pit1396	54	(円形)	(29)×(28)	(16)	1	に黄褐	シ	IVB×	Pit1480	108	楕円形	46×38	38	1	黒褐	シ	IV×※柱					
					2	灰黄褐	シ	IV○炭×						2	黒褐	シ	IV△※柱					
					3	灰黄褐	シ	IV×						3	灰黄褐	シ	IV△					
Pit1397	54	(円形)	(42)×(41)	(48)	1	灰黄褐	シ	IVB・炭×	Pit1481	116	(円形)	(17)×(17)	(13)	1	褐	シ	IVB○					
					2	に黄褐	粘シ	IVB○※柱						Pit1482	108・116	円形	(41)×(36)	27	1	暗褐	シ	IVB△
					3	灰黄褐	シ	IV×											Pit1483	108	円形	20×20
Pit1400	80	円形	30×27	29	※欠番			Pit1484	108	隅丸方形	19×18	11	1	暗褐	シ	IV斑○						
					1	黒褐	粘シ						IV×※柱	Pit1487	90・99	円形	32×(30)	14	1	黒褐	シ	IV・炭×
Pit1401	83	(円形)	39×(26)	17	※註記なし			Pit1488	99	隅丸長方形	45×35	14	1						黒褐	シ	IV△	
					1	暗褐	シ						IV△炭×	Pit1489	99	円形	25×23	13	1	黒褐	シ	IV△炭×
Pit1402	83	円形	32×24	51	※註記なし			Pit1490	99	円形	44×40	48	1						黒褐	シ	IV・炭×	
					1	黒褐	シ						IVB△	Pit1491	99	楕円形	31×25	12	1	黒褐	砂シ	IV×
Pit1403	98	円形	33×28	42	1	黒褐	シ	IVB×	Pit1492	107	円形	25×23	15						1	黒褐	シ	IV△
					2	暗褐	シ	IV△						1	黒褐	粘シ	IV×					
Pit1404	81	隅丸方形	34×32	38	1	黒褐	シ	IVB×	Pit1493	107	楕円形	48×38	40	2	黒褐	粘シ	IV×※柱					
					2	灰黄褐	シ	IV△						3	に黄褐	シ	IV△炭×					
					3	黒褐	シ	IVB△						Pit1494	99	隅丸長方形	64×50	10	1	暗褐	シ	IV△
1	灰黄褐	シ	IVB・炭×	Pit1496	99	円形	34×33	22	1	暗褐	シ	IV△										
Pit1406	81	隅丸方形	34×32						38	1	黒褐	シ	IV△	Pit1497	99	楕円形	20×17	10	1	黒褐	粘シ	IV・炭×
				2	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1499		116	円形	57×49	51						1	暗褐	シ	IV△炭×※柱
Pit1407	98・99	楕円形	31×22	33	1	暗褐	シ		IV△炭×					Pit1501	132	隅丸方形	35×35	21	2	黒褐	粘シ	IV△炭×※柱
					1	に黄褐	シ	IV○	Pit1502	116	楕円形	40×31	13						3	黒褐	シ	IV×
Pit1408	83	円形	28×24	23	1	黒褐	シ	IV△炭×						Pit1503	116	隅丸長方形	53×(43)	23	1	暗褐	シ	IV△炭×
					1	黒褐	シ	IVB△炭×	1	暗褐	シ	IV△炭×										
Pit1409	74	円形	23×20	23	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	Pit1503	116	隅丸長方形	53×(43)	23	1	暗褐	シ	IV・炭×					
					1	黒褐	シ	IV・焼・炭×														
Pit1410	98	円形	34×29	25	1	黒褐	シ	IV・焼・炭×	Pit1492	107	円形	25×23	15	1	黒褐	シ	IV△					
					2	に黄褐	粘シ	IVB○※柱						1	黒褐	粘シ	IV×					
					3	灰黄褐	シ	IV×						2	黒褐	粘シ	IV×※柱					
Pit1411	—	—	—	—	※欠番			Pit1492	107	楕円形	48×38	40	3	灰黄褐	シ	IV△						
					1	黒褐	粘シ						IV×※柱	1	黒褐	粘シ	IV×					
					2	暗褐	シ						IVB△	2	黒褐	粘シ	IV×※柱					
Pit1412	63	円形	25×23	20	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit1493	107	楕円形	48×38	40	3	に黄褐	シ	IV△炭×					
					2	暗褐	シ	IVB△						Pit1494	99	隅丸長方形	64×50	10	1	暗褐	シ	IV△
					3	に黄褐	シ	IVB△											Pit1496	99	円形	34×33
Pit1431	74	楕円形	49×37	15	1	褐	シ	焼B○	Pit1497	99	楕円形	20×17	10	1	黒褐	粘シ	IV・炭×					
					1	褐	シ	焼B○						Pit1499	116	円形	57×49	51	1	暗褐	シ	IV△炭×※柱
Pit1432	74	楕円形	38×25	6	1	褐	シ	焼B○	Pit1501	132	隅丸方形	35×35	21						2	黒褐	粘シ	IV△炭×※柱
					1	黒褐	シ	IV△						Pit1502	116	楕円形	40×31	13	3	暗褐	シ	IV×
Pit1433	81	楕円形	41×30	18	1	黒褐	シ	IV△	Pit1503	116	隅丸長方形	53×(43)	23						1	暗褐	シ	IV△炭×
					1	暗褐	シ	IV△						1	暗褐	シ	IV△炭×					
Pit1434	81	隅丸方形	35×34	9	1	暗褐	シ	IV△	Pit1499	116												

第18表 ビット(平安時代以降) 観察表(12)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ	深さ								長軸×短軸	深さ					
Pit1504	108	(隅丸方形)	(42)×40	39	1	灰黄褐	シ	IV△※柱	Pit1554	122・130	隅丸方形	55×49	37	1	暗灰黄	粘シ	IVB○		
					2	黒褐	粘シ	IV×※柱						2	暗灰黄	粘シ	IVB△炭×		
					3	黒褐	粘シ	IV△※柱						3	黄灰	粘シ	IV△炭×※柱		
					4	灰黄褐	シ	IV△						4	黄灰	粘シ	IVB○		
					5	黒褐	シ	IV△						1	黄灰	粘シ	IV△炭×		
Pit1506	99	円形	28×25	15	1	暗褐	シ	IV×	Pit1556	130	楕円形	35×27	19	1	黄灰	粘シ	IV○炭×		
Pit1507	99	隅丸方形	36×33	30	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1557	130	楕円形	61×43	16	1	黄灰	シ	IV△焼・炭×		
Pit1508	99	円形	26×25	14	1	黒褐	シ	IV×	Pit1558	130	円形	24×21	14	1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×		
Pit1509	98	楕円形	42×34	28	1	暗褐	シ	IVB△焼・炭×	Pit1559	129	円形	(48)×47	28	1	灰黄	粘シ	IV○炭×		
Pit1510	116	円形	45×40	10	1	暗褐	シ	IV・炭×	Pit1560	129	円形	53×47	53	1	褐灰	粘シ	IVB△炭×		
Pit1511	55	楕円形	24×20	35	1	灰黄褐	シ	IVB○	Pit1561	129	(隅丸長方形)	(56)×45	43	1	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
Pit1512	62	隅丸長方形	42×27	22	1	に黄褐	シ	IV×※柱	Pit1562	129	(隅丸方形)	(78)×(63)	36	1	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×		
					2	黒褐	シ	IVB△						2	褐灰	粘シ	IVB△		
Pit1513	62	楕円形	53×43	47	1	黒褐	シ	IV×※柱	Pit1563	129	(円形)	(67)×(64)	42	1	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB△						2	褐灰	粘シ	IVB△		
					3	黒褐	シ	IVB△						3	暗褐	粘シ	IVB△炭×		
Pit1514	63	円形	27×26	19	1	に黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1564	129	(楕円形)	(62)×(50)	(33)	1	暗褐	粘シ	IV△焼・炭×※柱		
Pit1515	55	円形	27×26	9	1	に黄褐	シ	IVB×						2	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×		
Pit1516	55	隅丸方形	24×24	24	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1565	129	楕円形	50×38	22	1	暗灰黄	シ	IV△焼・炭×※柱		
Pit1517	55	円形	28×26	19	1	黒褐	シ	IVB×※柱						2	に褐	砂シ	IV○炭×		
Pit1518	55	楕円形	31×25	27	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1566	130	円形	36×36	28	1	暗灰黄	シ	IV△焼・炭×※柱		
Pit1519	55	隅丸方形	27×27	49	1	灰黄褐	シ	IV×※柱						2	黒褐	シ	IVB○炭×		
Pit1520	55	隅丸方形	32×30	32	1	に黄橙	シ	IVB△炭×※柱	Pit1567	130	隅丸方形	52×48	22	1	黄灰	粘シ	IV・炭×		
					2	に黄褐	砂シ	IVB△						2	暗灰黄	粘シ	IV・炭×		
Pit1521	54	隅丸長方形	(150)×67	75	1	黒褐	シ	IVB×※柱	Pit1568	129	隅丸方形	21×20	20	1	黒	粘シ	IVB○		
					2	灰黄褐	シ	IVB○						1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×※柱		
					3	黒褐	シ	IVB△						2	オリ褐	粘シ	IVB○炭△※柱		
					4	黒褐	シ	IVB○						3	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
					5	褐灰	砂シ	IVB×						4	黄褐	粘シ	IVB○炭×		
Pit1522	54	楕円形	47×29	30	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit1569	129	隅丸方形	54×52	39	1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×※柱		
2	に黄褐	砂シ	IVB△	2	オリ褐	粘シ	IVB○炭×												
Pit1523	55	隅丸長方形	25×20	18	1	に黄褐	シ	IV×	Pit1570	129	円形	49×45	46	1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×		
					2	褐灰	粘シ	IVB○						2	オリ褐	粘シ	IVB○炭×		
					3	に黄褐	シ	IVB△						3	暗灰黄	粘シ	IV△炭×		
Pit1524	55	(円形)	54×(49)	22	1	灰黄褐	シ	IV△炭×※柱	Pit1571	130	(隅丸方形)	52×(41)	39	1	黄灰	粘シ	IVB○炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB△						2	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
Pit1526	55	隅丸方形	52×46	21	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1572	121	(隅丸方形)	(48)×(46)	37	1	灰黄褐	粘シ	IVB○炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	粘シ	IV△炭×		
Pit1527	55	隅丸方形	28×27	51	1	黒褐	シ	IVB・焼・炭×※柱	Pit1573	121	(隅丸長方形)	(58)×(38)	46	1	灰黄褐	粘シ	IVB△炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB○						2	灰褐	粘シ	IVB○炭△※柱		
Pit1530	54	長方形	35×25	22	1	灰黄褐	シ	IVB△	Pit1574	121	(隅丸方形)	(48)×(44)	(38)	1	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
					2	灰黄褐	粘シ	IVB○						2	灰褐	粘シ	IV○炭×		
Pit1531	133	円形	32×32	16	1	黒褐	シ	IV斑○	Pit1575	130	隅丸長方形	(44)×35	51	1	暗灰黄	粘シ	IVB○焼・炭・礫×		
Pit1532	132	(円形)	(19)×(17)	12	1	黒褐	シ	IV斑○						2	黄褐	粘シ	IV○炭×		
Pit1533	133	円形	33×30	26	1	暗褐	シ	IV斑○	Pit1576	129	楕円形	75×52	40	3	黄灰	粘シ	IVB△炭×		
Pit1534	133	隅丸方形	23×22	22	1	暗褐	シ	焼B△						1	黒褐	粘シ	IVB○		
Pit1535	117	楕円形	59×47	26	※註記なし			Pit1577	129	(楕円形)	(82)×(53)	59	1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×※柱			
Pit1536	124	隅丸長方形	41×34	18	1	黒褐	シ						IV・炭×	2	灰黄褐	粘シ	IVB○炭×		
Pit1539	115	隅丸長方形	95×70	46	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1578	129	(円形)	(66)×(56)	25	1	暗灰黄	粘シ	IVB△炭×		
					2	黒褐	シ	IV・炭×						2	黄褐	粘シ	IVB○炭×		
					3	に黄褐	シ	IV・炭×						3	に黄	シ	IVB○		
Pit1540	139	方形	78×77	43	1	黒褐	シ	IV・炭×※柱	Pit1579	129	(円形)	20×(15)	14	1	暗灰黄	粘シ	IVB△焼・炭×		
					2	灰黄褐	シ	IV△炭×※柱						2	暗灰黄	粘シ	IVB△		
					3	に黄褐	シ	IV・炭×						3	暗灰黄	砂シ	IVB○炭×		
					4	黒褐	シ	IV△炭×						1	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
Pit1544	55	隅丸長方形	34×26	19	1	黒褐	シ	IVB○炭×	Pit1580	121	(隅丸方形)	(48)×(44)	(38)	2	灰褐	粘シ	IV○炭×		
Pit1545	54	(円形)	36×(26)	26	1	に黄褐	シ	IVB△						1	暗灰黄	粘シ	IVB○焼・炭・礫×		
Pit1546	62	円形	29×28	23	1	灰黄褐	シ	IV×※柱	Pit1581	130	隅丸長方形	(44)×35	51	2	黄褐	粘シ	IV○炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB△						3	黄灰	粘シ	IVB△炭×		
Pit1547	62	(隅丸方形)	(32)×(31)	(39)	1	暗褐	シ	IV・炭×※柱	Pit1582	129	楕円形	75×52	40	1	黒褐	粘シ	IVB○		
					2	黒褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	粘シ	IV△炭×※柱		
Pit1548	62	(隅丸方形)	(58)×(42)	57	1	に黄褐	シ	IV△※柱	Pit1583	129	楕円形	75×52	40	3	灰黄褐	粘シ	IVB○炭×		
					2	に黄褐	シ	IVB△						4	に黄褐	粘シ	IVB○		
Pit1549	46	隅丸方形	39×34	33	1	灰黄褐	粘シ	IV×※柱	Pit1584	129	(隅丸方形)	52×48	22	1	暗灰黄	粘シ	IV△炭×		
					2	灰黄褐	シ	IVB×						2	暗灰黄	粘シ	IV△炭×		
Pit1550	53	円形	35×32	30	1	灰黄褐	シ	IV×	Pit1585	129	(楕円形)	(82)×(53)	59	6	褐灰	粘シ	灰シ互○		
Pit1551	122	円形	20×18	11	1	黄灰	粘シ	IV・炭×						1	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
Pit1552	122	円形	61×55	23	1	黄灰	粘シ	IVB△炭×※柱	Pit1586	129	(楕円形)	(82)×(53)	59	2	暗灰黄	粘シ	IVB△焼・炭×		
					2	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×						3	暗灰黄	砂シ	IVB△		
Pit1553	122	円形	51×48	37	1	黄灰	粘シ	IV○炭×	Pit1587	129	(円形)	(66)×(56)	25	1	暗灰黄	粘シ	IVB○炭×		
					2	灰褐	粘シ	IVB○炭×						2	黄褐	粘シ	IVB○炭×		
					3	黒褐	粘シ	IVB△炭×						3	に黄	シ	IVB○		

凡例 色調：に=にぶい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第5章 検出遺構と出土遺物

第19表 ビット(平安時代以降) 観察表(13)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ				
Pit1580	129	(隅丸方形)	(40)×37	21	1	黒褐	粘シ	IV◎炭×※柱	Pit1634	137	(楕円形)	(35)×(26)	(23)	1	灰黄褐	シ	IV△
					2	褐	粘シ	IVB◎炭B△						2	灰黄褐	シ	IVB◎炭×
					3	灰褐	砂シ	IVB◎						3	灰褐	シ	IV・細砂△炭×
Pit1581	121	(円形)	(49)×(48)	(26)	1	暗灰黄	粘シ	IVB◎	Pit1635	140	楕円形	78×58	19	1	灰黄褐	シ	IVB△
					2	暗灰黄	粘シ	IVB◎※柱						2	に黄褐	シ	IVB×
					3	灰黄	粘シ	IVB◎炭×						3	に黄褐	シ	IVB△
Pit1582	129	楕円形	95×78	67	1	暗才褐	粘シ	IVB△炭×	Pit1636	116	隅丸方形	42×42	47	1	灰黄褐	シ	IVB△
					2	黒褐	粘シ	IVB△炭×						4	黒褐	シ	IVB×※柱
					3	才褐	シ	IVB◎						2	灰黄褐	シ	IVB△
Pit1583	137	(楕円形)	(36)×(28)	27	1	灰黄褐	シ	IV△焼×※柱	Pit1637	115	隅丸方形	46×41	43	1	褐灰	シ	IVB△
					2	灰褐	シ	IV△焼・炭×						3	灰黄褐	シ	IV△炭×
					3	灰黄褐	シ	IVB◎						2	黒褐	シ	IV・炭×※柱
Pit1584	145	(楕円形)	(71)×(46)	33	1	灰黄褐	粘シ	IVB◎焼・炭×	Pit1638	113	楕円形	42×29	22	1	黒褐	シ	IV△炭×
					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×						3	黒褐	シ	IVB×
					3	灰黄褐	シ	IV△炭×※柱						1	灰黄褐	シ	IV△炭×
					4	に黄褐	シ	IVB◎炭×						3	黒褐	シ	IVB×
Pit1585	145	(円形)	(75)×(64)	54	1	灰黄褐	粘シ	IV△焼・炭×	Pit1640	140	(楕円形)	(40)×23	30	1	黒褐	シ	IV△
					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×	Pit1641	140	(楕円形)	(46)×24	44	※註記なし			
					3	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1642	140	(楕円形)	(33)×(25)	32	※註記なし			
					4	暗褐	シ	IVB△炭×	Pit1643	140	(円形)	(28)×(25)	(40)	※註記なし			
Pit1586	129	(円形)	(68)×(58)	53	1	オリ褐	粘シ	IVB◎炭×	Pit1644	140	(円形)	(26)×(22)	(45)	※註記なし			
					2	暗灰黄	粘シ	IVB◎炭×	Pit1646	—	—	—	—	※欠番			
					3	暗灰黄	粘シ	IVB◎炭×	Pit1647	115	円形	50×43	61	1	に黄橙	シ	IVB◎
1	黒褐	粘シ	IVB△	2	灰黄褐	シ	IVB◎※柱										
2	黒	粘シ	IV・炭×※柱	3	に黄橙	シ	IVB◎										
Pit1589	122	楕円形	41×31	24	1	黄灰	粘シ	IV◎焼・炭×	Pit1651	116	(隅丸方形)	(14)×(14)	12	1	黒褐	シ	IV×※柱
Pit1590	121	楕円形	31×23	26	1	灰褐	粘シ	IVB◎炭×	Pit1652	140	(円形)	(22)×(21)	(38)	1	黒褐	シ	IV△
Pit1591	115	楕円形	43×29	33	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit1653	140	(円形)	(23)×(21)	(31)	※註記なし			
Pit1592	123	円形	22×20	16	1	黒褐	シ	IV△	Pit1654	139	(円形)	(41)×(35)	(45)	※註記なし			
Pit1593	123	隅丸方形	43×40	18	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1655	116	(方形)	(39)×(35)	37	1	黒褐	シ	IV△焼・炭×
Pit1594	131	円形	23×22	9	1	黒褐	シ	IV△						2	に黄褐	砂シ	IV△炭×
Pit1595	139	楕円形	33×25	12	1	黒褐	シ	IV△炭×						3	褐灰	砂シ	IV・炭×
Pit1596	131	楕円形	39×30	11	1	暗褐	シ	IV△	Pit1657	115	円形	44×42	15	1	黒褐	シ	IVB△
Pit1602	61	円形	32×32	32	1	灰黄褐	シ	IVB◎						2	黒褐	シ	IVB◎
					2	褐灰	シ	IV△						3	黒褐	シ	IVB◎
Pit1603	55	楕円形	49×41	24	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit1658	122	円形	36×32	33	1	黒褐	シ	IVB・炭×
Pit1604	54	楕円形	36×29	42	※註記なし			Pit1661	117	(楕円形)	(23)×(19)	22	1	に黄褐	シ	IV×	
Pit1607	62	隅丸方形	35×33	19	1	暗褐	シ	IVB△	Pit1662	117	円形	22×20	11	1	に黄褐	シ	IV×
Pit1608	62	円形	42×(41)	33	1	黒褐	シ	IV・炭×※柱	Pit1663	—	—	—	—	※欠番			
					2	灰黄褐	シ	IVB◎						1	暗褐	シ	IV×
Pit1612	122	隅丸方形	44×40	33	1	褐灰	シ	IV◎※柱	Pit1665	140	楕円形	66×48	25	2	黒褐	シ	IV×
					2	褐灰	シ	IVB◎						3	褐	シ	灰黄褐シB×
Pit1613	114	楕円形	24×20	20	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1666	141	円形	36×33	27	4	に黄褐	シ	IV△
Pit1614	122	円形	31×30	26	1	黒褐	シ	炭×						5	灰黄褐	シ	IV◎
Pit1615	114	楕円形	38×30	31	1	に黄褐	シ	IV◎						1	褐灰	シ	IVB◎※柱
					2	褐灰	砂シ	炭×	2	灰黄褐	シ	IVB△炭×※柱					
Pit1616	113	円形	30×30	25	1	灰黄褐	シ	IV△	Pit1667	148	楕円形	101×66	31	3	に黄褐	シ	IVB△炭×
					2	黒褐	シ	IV△炭×						1	褐灰	シ	IVB△炭×
Pit1617	113	楕円形	36×30	43	1	黒褐	シ	IV△	Pit1668	148	円形	35×33	31	2	褐灰	シ	IVB△※柱
					2	褐灰	砂シ	IV△炭×						3	に黄褐	シ	IVB△※柱
Pit1618	113	隅丸方形	26×23	21	1	黒褐	粘シ	IV△炭×	Pit1669	148	隅丸方形	29×25	18	4	灰黄褐	シ	IVB△
Pit1619	114	(楕円形)	(49)×(33)	40	1	黒褐	粘シ	IV△炭×※柱						1	褐	シ	IVB△
					2	褐灰	シ	IV△灰白シB×						2	灰黄褐	シ	IVB△炭×
Pit1620	122	楕円形	60×36	12	1	褐灰	シ	IV△焼×	Pit1670	148	隅丸方形	28×25	24	3	褐	シ	IVB△
					2	褐灰	シ	IV△						1	に黄褐	シ	IVB△
Pit1621	115	隅丸方形	43×43	36	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit1671	141	円形	33×33	23	2	灰黄褐	シ	IVB△炭×
					2	暗褐	シ	IVB△炭×※柱						1	褐灰	シ	IVB△炭×
					3	に黄褐	シ	IVB△						2	褐灰	シ	IVB△炭×
Pit1623	108	楕円形	78×56	58	1	に黄褐	シ	IVB△	Pit1672	141	円形	35×31	34	3	に黄褐	シ	IVB△
					2	灰黄褐	粘シ	IV△※柱						1	褐灰	シ	IV△炭×
					3	に黄褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IV△炭×
Pit1625	108	楕円形	37×29	37	1	黒褐	シ	IV△※柱	Pit1673	130	(円形)	(40)×(39)	(27)	3	灰黄褐	シ	IV◎※柱
					2	灰黄褐	シ	IVB△						4	褐灰	シ	IV◎
Pit1627	108	(円形)	(37)×(34)	11	1	灰黄褐	シ	IV×※柱	Pit1674	137	(隅丸方形)	(35)×(33)	(34)	1	褐灰	シ	IV△
					2	灰黄褐	シ	IVB×						2	褐灰	シ	IV◎
Pit1628	108	円形	25×23	17	1	灰黄褐	シ	IVB◎	Pit1675	130	(円形)	(34)×(32)	(27)	1	褐灰	シ	IV△炭×
Pit1629	108	円形	31×30	21	1	黒褐	シ	IVB×						2	黒褐	シ	IV△炭×
					2	灰黄褐	シ	IVB△						3	灰黄褐	シ	IV◎※柱
Pit1630	107 108	円形	36×36	32	1	黒褐	シ	IV×	Pit1677	130	(隅丸方形)	(35)×(32)	(27)	4	褐灰	シ	IV◎
					2	黒褐	シ	IV×※柱						1	褐灰	シ	IV△
					3	灰黄褐	シ	IVB△						2	褐灰	シ	IV◎
Pit1631	129	(楕円形)	(54)×(41)	25	1	黄褐	粘シ	IVB◎炭×	Pit1678	130	(隅丸方形)	(35)×(32)	(27)	3	灰黄褐	シ	IV△
					2	暗灰黄	粘シ	IVB△炭×						4	に黄褐	砂シ	褐灰シ◎
Pit1633	129 137	(円形)	(52)×(49)	(19)	1	灰黄褐	シ	IVB△炭×	Pit1679	130	(円形)	(34)×(32)	(27)	1	灰黄褐	シ	IV◎
					2	に黄褐	シ	IVB◎炭×						2	褐灰	シ	IV△

凡例 色調：に=にふい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰
粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ◎=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第20表 ビット(平安時代以降) 観察表(14)

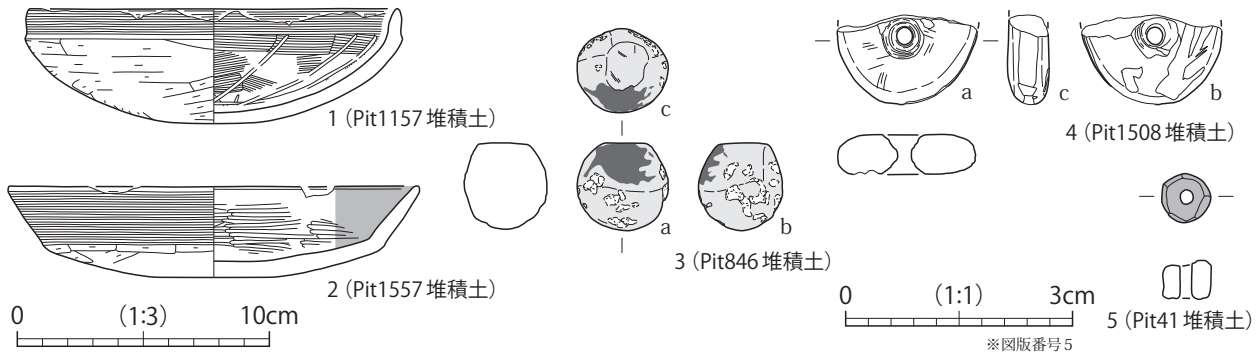
遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土色	土性	備考
			長軸×短軸	深さ								長軸×短軸	深さ				
Pit1676	130	隅丸方形	34×31	50	1	灰黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1717	138	楕円形	40×31	16	1	黒褐	シ	IV○
					2	黒褐	シ	IV△						2	褐灰	シ	IV B○
Pit1677	130	楕円形	45×34	28	1	灰黄褐	シ	炭×						3	に黄褐	シ	IV○
					2	に黄褐	砂シ	IV△						1	黒褐	シ	IV○炭×
Pit1678	130	円形	32×28	33	1	灰黄褐	シ	IV○焼×	Pit1718	138	楕円形	39×31	25	1	黒褐	シ	IV○
					2	暗褐	シ	IV B△※柱						2	灰黄褐	シ	IV○
					3	に黄褐	シ	IV△						3	暗褐	砂シ	IV×
Pit1679	130	円形	82×74	53	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1719	138	円形	42×42	37	1	黒褐	シ	IV○※柱
					2	灰黄褐	シ	IV B○焼・炭※柱						2	暗褐	シ	IV△
					3	に黄褐	シ	IV○焼×						3	に黄褐	シ	IV○
					4	黄褐	シ	IV○						4	灰黄褐	シ	IV○
														1	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×
Pit1680	138	楕円形	69×49	40	1	に黄褐	シ	IV B○	Pit1720	146	(円形)	58×(28)	33	1	に黄褐	シ	褐灰シ B○炭×
					2	に黄褐	シ	IV○						2	黒褐	シ	IV B△
					3	灰黄褐	シ	IV○炭×						3	灰黄褐	砂シ	IV△
					4	に黄褐	砂シ	IV△						4	灰黄褐	シ	IV×
Pit1682	130	円形	46×43	16	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1721	106	(楕円形)	(36)×(19)	(35)	1	に黄褐	シ	IV×
					2	褐灰	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV B△
Pit1683	130	円形	44×42	38	1	灰黄褐	シ	IV・炭×	Pit1722	122	(円形)	(24)×(21)	25	1	褐灰	シ	IV×
					2	黒褐	シ	IV△炭×						1	黒褐	シ	IV・焼×
Pit1684	124	楕円形	66×44	37	1	暗褐	シ	IV B△※柱	Pit1723	123	(円形)	(39)×(39)	(47)	1	黒褐	粘シ	IV×※柱
					2	に黄褐	シ	IV B○						2	黒褐	シ	IV×
					3	褐	シ	IV B×						3	暗褐	シ	IV×
Pit1685	—	—	—	—										4	に黄褐	シ	IV×
Pit1686	—	—	—	—					Pit1724	121	(楕円形)	(30)×(22)	32	1	灰黄褐	シ	IV×
Pit1687	—	—	—	—										1	灰黄褐	シ	IV・焼×※柱
Pit1688	—	—	—	—					Pit1725	121	(円形)	(35)×(34)	(22)	1	灰黄褐	シ	IV・焼×
Pit1689	—	—	—	—										2	灰黄褐	シ	IV△
Pit1690	—	—	—	—										3	灰黄褐	シ	IV△
Pit1691	131	方形	31×29	9	1	灰黄褐	シ	IV B×	Pit1726	131	(円形)	(44)×(40)	42	1	暗褐	シ	IV×
					1	黒褐	シ	IV・炭×						2	黒褐	シ	IV・焼・炭×※柱
Pit1692	131	隅丸方形	40×34	26	2	黒褐	シ	IV B×						3	黒褐	シ	IV×
					1	褐灰	粘シ	IV・炭×※柱	Pit1727	131	(楕円形)	(39)×(29)	(50)	1	暗褐	シ	IV×
					2	褐灰	シ	IV×※柱	Pit1728	—	—	—	—				※欠番
					3	褐灰	シ	IV×	Pit1729	—	—	—	—				※欠番
					4	黒褐	粘シ	IV×	Pit1730	—	—	—	—				※欠番
					5	暗褐	粘シ	IV×						1	黒褐	シ	IV・焼・炭×
Pit1694	122	楕円形	51×27	18	1	灰黄褐	シ	IV B△	Pit1732	139	(楕円形)	(87)×68	24	1	に黄褐	シ	IV○
					2	灰黄褐	シ	IV○						2	に黄褐	砂シ	IV○
Pit1695	122	円形	23×22	20	1	灰黄褐	シ	IV B△炭×						3	に黄褐	砂シ	IV・褐灰シ△
Pit1696	139	(円形)	(58)×(59)	33	1	黒褐	シ	IV△						4	に黄褐	シ	褐灰シ B×
Pit1697	139	(円形)	(20)×(20)	(28)	1	黒褐	シ	IV△	Pit1733	138	楕円形	36×(24)	12	1	灰黄褐	シ	IV B○炭×
Pit1698	147	(楕円形)	(37)×(31)	(42)	1	黒褐	シ	IV△						2	黒褐	シ	IV○
Pit1699	147	(楕円形)	(25)×(20)	(34)	1	黒褐	シ	IV△						1	褐灰	シ	IV○※柱
Pit1700	147	(楕円形)	(23)×(19)	(17)	1	黒褐	シ	IV△	Pit1734	138	隅丸方形	34×29	21	1	灰黄褐	シ	IV○
					1	黒褐	粘シ	IV B×※柱						2	に黄褐	シ	IV○
Pit1701	147	楕円形	67×49	43	2	黒褐	粘シ	IV B△	Pit1737	146	円形	32×28	23	1	褐灰	シ	IV△炭×※柱
					3	に黄褐	シ	IV B○						2	灰黄褐	シ	IV○
					1	灰黄褐	シ	IV△	Pit1738	138	(楕円形)	(35)×(27)	(60)	1	黒褐	シ	IV△
Pit1702	121	(円形)	(46)×(46)	(45)	2	褐灰	シ	IV B×						1	黒褐	シ	IV○炭×
					3	褐灰	シ	IV・炭×						2	灰黄褐	砂シ	IV△
Pit1703	21	(楕円形)	(28)×(21)	(46)	1	褐灰	シ	IV B△炭×	Pit1739	146	楕円形	29×23	47	1	黒褐	シ	IV○
Pit1704	147	円形	36×34	44	1	黒褐	シ	IV B△						2	黒褐	シ	IV○
Pit1705	148	楕円形	25×18	22				※註記なし	Pit1740	139	隅丸長方形	72×59	40	1	に黄褐	シ	IV B△焼・炭×
Pit1706	147	(円形)	28×(19)	39				※註記なし						2	灰黄褐	砂シ	IV B○
Pit1707	147	楕円形	34×23	25				※註記なし	Pit1741	123	円形	39×33	21	1	に黄褐	粘シ	IV・炭×
Pit1708	147	楕円形	26×20	37				※註記なし						2	に黄褐	シ	IV△炭×
Pit1709	147	(円形)	(28)×(26)	36				※註記なし	Pit1742	147	(円形)	23×(20)	29	1	黒褐	粘シ	IV B△
Pit1710	113	(楕円形)	31×(26)	39	1	黒褐	シ	IV・炭×	Pit1743	140	隅丸方形	32×31	18	1	灰黄褐	シ	IV B・炭×
					1	灰黄褐	シ	IV○	Pit1744	140	隅丸方形	51×48	31	1	灰黄褐	シ	IV△※柱
Pit1711	130	楕円形	53×38	30	2	に黄褐	砂シ	IV○						2	灰黄褐	シ	IV B△炭×
					1	に黄褐	シ	IV B△炭×	Pit1745	147	隅丸方形	25×(24)	34	1	灰黄褐	シ	IV B○
Pit1712	130	楕円形	38×32	16	2	に黄褐	シ	IV B△						1	黒褐	粘シ	IV×※柱
					1	暗褐	シ	IV×						2	黒褐	粘シ	IV B△
Pit1713	130	楕円形	33×27	25	1	暗褐	シ	IV×	Pit1746	148	隅丸長方形	26×20	12	1	黒褐	シ	IV B△炭×
					1	黒褐	シ	IV○	Pit1747	140	円形	20×19	16	1	黒褐	シ	IV B○
Pit1714	138	円形	29×26	21	2	灰黄褐	シ	IV B○	Pit1748	148	楕円形	34×26	21	1	黒褐	シ	IV B○
					3	明黄褐	砂シ	褐灰シ B△	Pit1749	148	円形	21×19	11	1	黒褐	シ	IV B○
					1	暗褐	シ	IV○炭×※柱	Pit1750	107	円形	34×31	24	1	灰黄褐	シ	IV△炭×
Pit1715	138	隅丸長方形	39×32	21	2	黒褐	シ	IV○						2	黒褐	砂シ	IV・炭×
					3	灰黄褐	シ	IV○	Pit1752	117	(円形)	(31)×(24)	42				※註記なし
					1	黒褐	シ	IV×※柱	Pit1754	132	隅丸方形	19×17	9				※註記なし
					2	暗褐	シ	IV○※柱						1	に黄褐	シ	IV△炭×※柱
					3	に黄褐	シ	IV○	Pit1755	107	円形	48×47	48	2	褐灰	シ	IV B△炭×
					4	灰黄褐	シ	IV B○						3	黒褐	シ	IV B△炭×
Pit1716	138	楕円形	73×52	45	5	暗褐	砂シ	IV△						1	に黄褐	シ	IV△炭×
					6	黒褐	シ	IV B○	Pit1756	107	円形	39×38	37	2	褐灰	砂シ	IV・炭×※柱
					7	黒褐	砂シ	IV・焼・炭×						3	灰黄褐	シ	IV△炭×

凡例 色調：に=にぶい オ=オリーブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰
粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡

第21表 ビット(平安時代以降) 観察表(15)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	遺構名	区割	平面形	規模(cm)			層位	土色	土性	備考				
			長軸×短軸	深さ	深さ								長軸×短軸	深さ									
Pit1757	107	楕円形	43×36	37	1	黒褐	シ	IVB△炭×	Pit1784	138	円形	25×24	38	1	褐	シ	IV×						
					2	灰黄褐	シ	IV△						2	に黄褐	シ	IVB×						
					3	黒褐	粘シ	IV×						3	灰黄褐	シ	IVB×						
Pit1759	138	楕円形	28×20	27	1	灰黄褐	シ	IV○	Pit1785	138	円形	25×23	32	1	に黄褐	シ	IV×						
					2	黒褐	シ	IV○						2	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1760	139	円形	60×(60)	51	1	褐灰	シ	IV△炭× ※柱	Pit1786	—	—	—	—	※欠番	Pit1787	109	隅丸方形	40×35	20	1	黒褐	シ	IV× ※柱
					2	黒褐	シ	IV△炭× ※柱						2						灰黄褐	シ	IVB○	
					3	灰黄褐	シ	IVB○炭×						3						に黄褐	シ	IV×	
					4	に黄褐	シ	IVB○						4						に黄褐	シ	IV×	
					5	褐灰	シ	IV○粘B△						5						灰黄褐	シ	IV×	
					6	黒褐	シ	IV・炭×						6						灰黄褐	シ	IV×	
					7	黒褐	シ	IV△ ※柱						7						に黄褐	シ	IV×	
					8	灰黄褐	シ	IVB○						8						に黄褐	シ	IV×	
Pit1761	139	円形	28×(27)	12	1	黒褐	シ	IV△焼・炭×	Pit1788	141	円形	32×27	14	1	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1762	139	円形	28×24	14	1	褐	シ	IV△炭×						2	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1765	130	(楕円形)	(28)×(21)	(11)	1	暗褐	シ	IV・炭×	Pit1789	141	円形	28×27	25	1	灰黄褐	シ	IV×						
					2	に黄褐	シ	IV○						2	黒褐	シ	IV×						
Pit1766	116	(円形)	(25)×(24)	19	1	暗褐	シ	IV×	Pit1790	138	楕円形	35×27	37	1	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1767	124	楕円形	36×29	12	1	に黄褐	シ	IVB△						2	黒褐	シ	IV×						
Pit1768	106	円形	34×31	41	1	黒褐	シ	IV△炭×	Pit1792	130	円形	37×37	22	1	に黄褐	シ	IV×						
					2	に黄褐	シ	IV△炭×						2	灰黄褐	シ	IVB△						
					3	に黄褐	シ	IV△炭×						3	に黄褐	シ	IV×						
Pit1769	106	円形	31×29	15	1	黒褐	粘シ	IV・炭×	Pit1793	130	円形	46×44	27	1	に黄褐	シ	IVB△						
Pit1770	106	円形	32×30	22	1	灰黄褐	粘シ	IV・炭×						2	に黄褐	シ	IVB○						
Pit1772	115	(楕円形)	(52)×(38)	48	1	灰黄褐	シ	IV△炭×	Pit1794	138	円形	25×25	39	1	黒褐	シ	IVB△						
					2	灰黄褐	シ	IV○						2	灰黄褐	シ	IV×						
					3	褐灰	シ	IV△炭×						3	黒褐	シ	IV×						
Pit1774	116	(方形)	(37)×(37)	18	1	に黄褐	シ	IV×	Pit1795	109	(円形)	(44)×(38)	(16)	1	黒褐	シ	IV× ※柱						
Pit1775	108	(円形)	(48)×(44)	38	1	に黄褐	シ	IV斑○						2	黒褐	シ	IV×						
Pit1776	116	(円形)	(32)×29	9	1	褐	シ	※柱	Pit1796	109	(隅丸方形)	(31)×(31)	(16)	1	黒褐	シ	IV×						
					2	に黄褐	シ	IV斑○						2	黒褐	シ	IVB△						
Pit1777	132	円形	45×44	26	1	褐	砂シ	IV斑○	Pit1797	108	隅丸長方形	44×34	29	1	黒褐	シ	IVB△ ※柱						
Pit1778	139	(楕円形)	(46)×31	24	1	に黄褐	シ	IV△炭×						2	灰黄褐	シ	IV×						
Pit1779	147	(隅丸方形)	(25)×(18)	8	1	黒褐	シ	IV△	Pit1798	107	隅丸方形	45×40	37	1	黒褐	シ	IVB× ※柱						
					2	黒褐	砂シ	IV△						2	黒褐	シ	IVB△						
Pit1781	108	円形	51×51	48	1	暗褐	シ	IV× ※柱	Pit1799	123	円形	35×30	39	1	黒褐	シ	IVB・炭B○						
Pit1782	108	(円形)	37×(22)	27	1	褐	シ	IVB△						2	灰黄褐	シ	IV・焼・炭×						
Pit1800	98	(隅丸方形)	(16)×(14)	50	1	黒褐	シ	IV・炭×															

凡例 色調：に=にふい オ=オリブ 土性：シ=シルト 粘シ=粘土質シルト 砂シ=砂質シルト 備考：IV=IV層土(粒) 焼=焼土(粒) 炭=炭化物(粒) 灰=木灰 粘=白色粘土(粒) 火灰=灰白色火山灰 B=ブロック ○=多量 △=少量 ×=微量 混=混土 斑=斑状 互=互層状 柱=柱痕跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-728	Pit1157	堆積土	土師器	環	(14.6)	—	4.5	口縁：ヨコテ体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ体～底部：ヘラテ→ヘラミカキ(放射状)	関東系	311
2	C-733	Pit1557	堆積土	土師器	環	(16.3)	—	3.6	口縁：ヨコテ体～底部：ヘラズリ	ヘラミカキ	内面黒色処理	311
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kc-032	Pit846	堆積土	礫石器	磨+敲石	3.6	3.6	3.3	56.7	安山岩	磨全面(平坦・凸面) 敲(凸面) 黒色附着物あり	311
4	Kd-045	Pit1508	堆積土	石製品	有孔石製品	(3.5)	5.6	1.6	20.9	凝灰岩	線条痕(a・b面) 両側穿孔 孔径0.6～1.8cm 端部欠損	311
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
5	P-042	Pit41	堆積土	土製品	土玉	0.6	0.6	0.5	0.2	ミカキ 黒色処理 孔径0.2cm	311	

第43図 Pit41・846・1157・1508・1557 出土遺物

(5) 性格不明遺構 (第5・44図、第22表)

性格不明遺構は2基(SX38・45)検出した。溝状の遺構だが、規模や形状などから性格不明遺構として扱った。

SX38 性格不明遺構 (第44図、第22表)

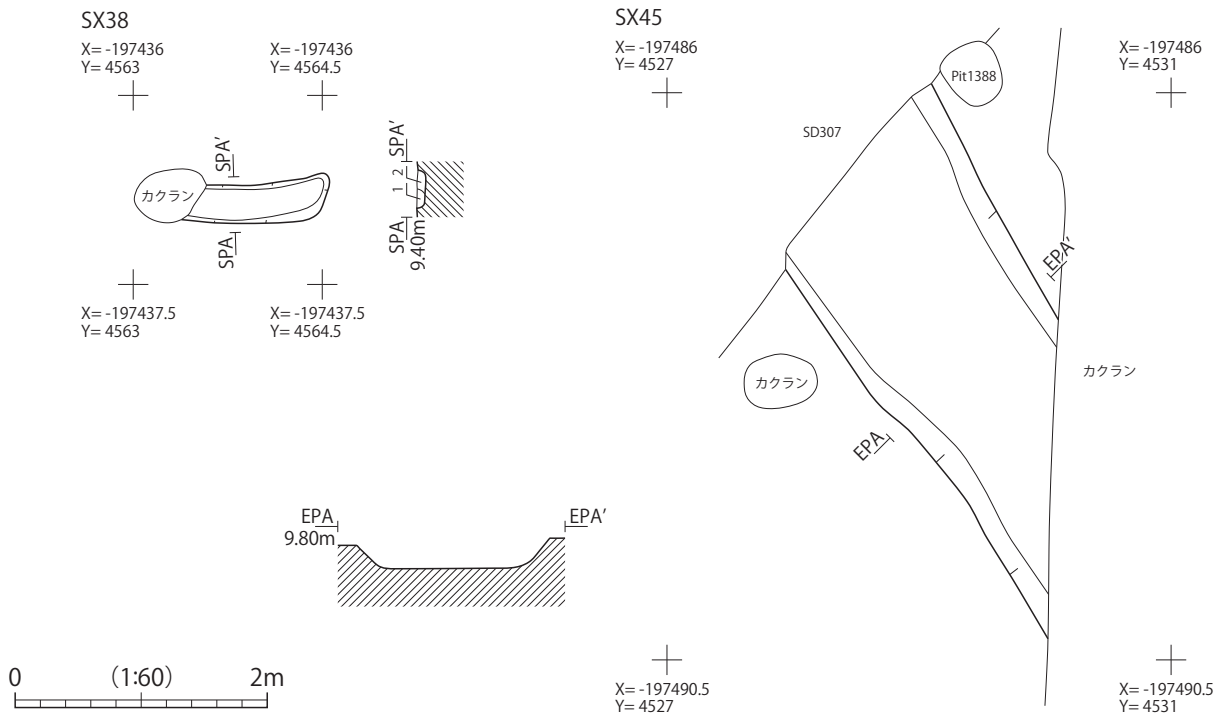
調査区北東部の40区に位置する。西端部は攪乱により失われている。SI402・403と重複するが、同時代の重複遺構はない。東西方向の浅い溝状を呈し、方位はN-75~90°-Eで、東端部がわずかに北側に湾曲する。確認された規模は長さ116cm、上端幅30~33cm、下端幅19~25cm、深さ7~10cmを測る。断面形は台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は2層に分層した。ともに黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

SX45 性格不明遺構 (第44図、第22表)

調査区南部西寄りの120・128区に位置する。南端部は攪乱により失われ、北端部はSD307と重複する。SD307より古く、Pit1386、1387より新しい。南北方向の幅広な溝状を呈し、方位はN-38°-Wで直線的に延びる。確認された規模は長さ363cm、上端幅148~180cm、下端幅112~158cm、深さ24~28cmを測る。断面形は台形を呈し、底面は平坦である。堆積土は記録できなかったが、基本層第IV層がくすんだような色調のシルトがみられた。

遺物は出土しなかった。



第22表 性格不明遺構(平安時代以降)観察表

遺構名	区割	方向(N°)	規模(cm)			層位	土色	土性	備考	重複	
			全長	上端幅	下端幅						深さ
SX38	40	75~90E	(116)	30~33	19~25	7~10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。	
							2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。	
SX45	120 128	38W	(363)	148~180	112~158	24~28	—	—	—	※註記無し	SD307より古く、Pit1386・1387より新しい。

第44図 平安時代以降性格不明遺構

第2節 古墳時代～奈良時代の遺構と遺物(第45～228図)

該当する遺構は、竪穴住居跡152軒(SI384～400・402～521・523～532：このうちSI408・423・425・435・474はA・Bに分離)、竪穴状遺構1基(SI522)、掘立柱建物跡5棟(SB45～49)、溝跡62条(第25～30表)、土坑47基(第31～33表)、ピット215基(第34～37表)、性格不明遺構12基(SX37・39・41～44・46・47・49～52)である。このうち、鍛冶関連施設とみられる竪穴状遺構1基(SI522)と土坑7基(SK328・329・355・358・383・461・477)、性格不明遺構7基(SX37・39・42～44・46・47)は、「鍛冶関連遺構」として一括記載する。

なおSI401は令和元年度調査で欠番となったため、令和2年度調査でその番号を使用した。また、SI442・444も令和2年度調査で住居跡全体の記録ができたため、令和2年度調査報告書に詳細を記載する。

当該期の遺構は、調査区全域に分布する(第45図、第2分冊第380図)。主体となる竪穴住居跡はやや標高が高くなる中央部から北東部にかけて分布密度が高く、住居跡同士の重複が著しい。最大で7軒が重複する地点も確認された。掘立柱建物跡は北西部にSB45～48が集中し、SB49のみ南東部に離れて位置する。溝跡は、区画施設とみられるSD301・303・304・314・328・333など大型のものが調査区北西部～西部、南東部を区画するように配置されている。特にSD328は、第3・4・10次調査で検出された集落外縁の区画施設であるSD66と方位的に直交する。土坑・ピット・性格不明遺構の分布の傾向は認められない。

出土遺物は、土師器・須恵器を中心に礫石器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土した。非ロクロ成形の土師器が大部分を占めるが、ロクロ成形の土師器もSI408A・447・473・491・502などから少量出土した。

以下、古墳時代～奈良時代の遺構について竪穴住居跡、鍛冶関連遺構、掘立柱建物跡、溝跡、土坑、ピット、性格不明遺構の順に記載する。なお重複関係は、同時代の遺構を中心に記載する。

(1) 竪穴住居跡(第45～228図)

竪穴住居跡は、152軒(SI384～400・402～521・523～532)検出した。このうちSI408・423・425・435・474は拡張や建て替えによる時期差が考えられるため、同一住居跡をA・Bに分離した。

竪穴住居跡は調査区のほぼ全域に分布し、中央部から北東部にかけて分布密度が高い。同地点では住居跡同士の重複も顕著である。北端部中央～北西端部と西端部中央～南西端部では点在しており、住居跡の数は減少する。中央部南寄りでは、鍛冶関連遺構SI522周辺に住居跡の空白域がみられる。多くの住居跡は削平や攪乱、重複遺構の影響を受けているが、中央部付近から南部では深さ50cm以上の残存状態が良好な住居跡がみられた。

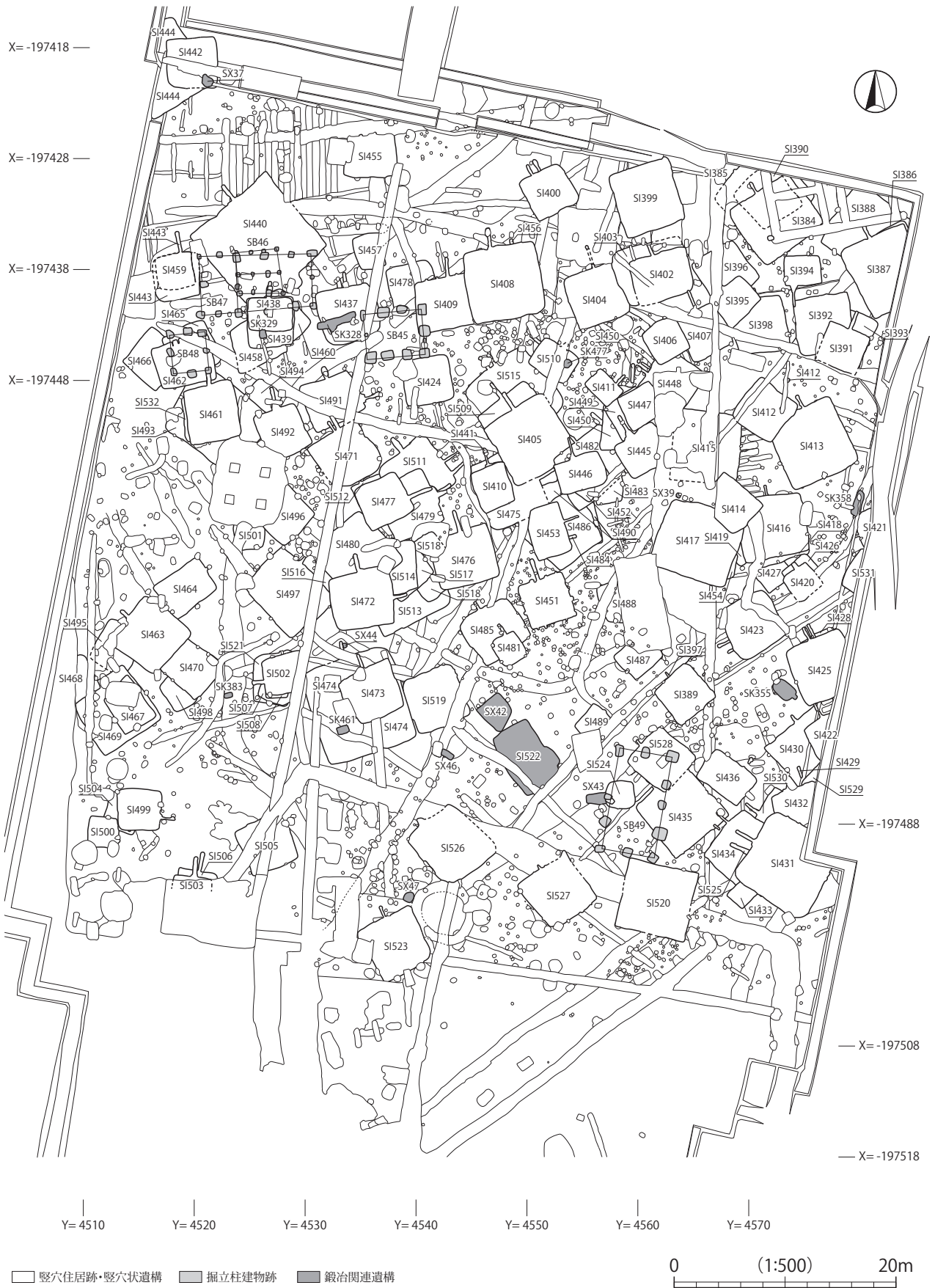
平面形は大部分が方形を基調とする一方、SI394・395・402・403・409・411・414・436・438・445・446・453・457・462・464・470・487・491・502・510・516は長方形を呈する。これらは長軸に直交するようにカマドを付設するものが多い。SI390・398・404・450・452・455・458・467・473・479・482・486・493・497・514・518・521は一辺が広がる台形を呈する。また、SI440は南壁の中央に長方形の張り出しをもつ特徴がある。

カマドを基準とした主軸方位は概ね東西のいずれかに振れ、その数値は10～30°前後を測るものが最多である。四辺がほぼ東西南北を指向するものは、5°未満のSI415・438・508・521・524、90°前後のSI499・500・502・514がある。

規模はSI440の長軸911cmが最大で、SI433・508の長軸200cm程度が最小である。主体となるのは長軸400～500cm級の住居跡である。

柱穴は対角線上に主柱穴を4基配置するものが主体である。ただし、配置が不整なものや壁側に偏るものもみられる。また、柱穴の造り替えも多数の住居跡で確認した。

カマドは、108軒で検出した。その大部分が北壁に付設される一方で、SI415・435A・447・453・464・472・



第45図 古墳時代～奈良時代の遺構配置図(竪穴住居跡・竪穴状遺構・鍛冶関連遺構・掘立柱建物跡)

475・477・479・484・499・500・511・520は東壁、SI388・421・423A・B・431・434・448・463・502・510・514・519・525・530は西壁、SI394は南壁、SI494は北西隅に付設されている。南壁や隅部への付設例は、本遺跡の中では極めて少ない。カマドの造り替えは14軒で確認され、同一壁に並列もしくは直交する隣壁に行われる傾向がある。

カマドの燃焼部は壁内に設けられる場合が多いが、SI394・420・435・492は壁外に位置する。袖は基本層IV層土を突き固めて構築され、SI385・387・389・400・416・424・430・437・438・440・446・463・473・481・490・503・515・519・520・523・524・527・528では自然礫や砂岩切石が、SI432・434・474A・509・530では土師器甕が芯材として埋め込まれていた。支脚は、可能性があるものも含めると、SI387・389・392・394・400・402・403～405・424・435A・436・440・447・448・461・481・489・490・499・502・511・520が自然礫、SI423B・432が土製品を用いている。SI474A・515は土師器の小型甕を逆位に伏せて設置している。特にSI515は、口縁部や上半部を欠いた2個体を重ねて支脚としている。

これらの竪穴住居跡の時期は、出土遺物や重複関係から5世紀後半～8世紀後半と考えられる。

SI384竪穴住居跡(第46～48図)

【位置・確認】 調査区北東部の26・32・33・40・41区に位置する。東半部は攪乱により一部が失われている。

【重複】 SI385・390より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸681cm、短軸604cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 27層に分層した。1～7層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～6層は人為的な埋土、7層は自然堆積とみられる。このうち6層は、床面直上に堆積した焼土層である。8層は周溝堆積土、9～17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20～22層はカマド掘り方埋土、23～27層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 やや外傾しながら直線的に立ち上がり、上部でわずかに開く。壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～9)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸43～68cm、短軸40～62cm、深さ32～62cmを測る。P1・2の堆積土とP3・4の堆積土下半で、径22～27cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5～9は、支柱穴の内側に配置されている。P7で径28cmの柱痕跡を確認した。

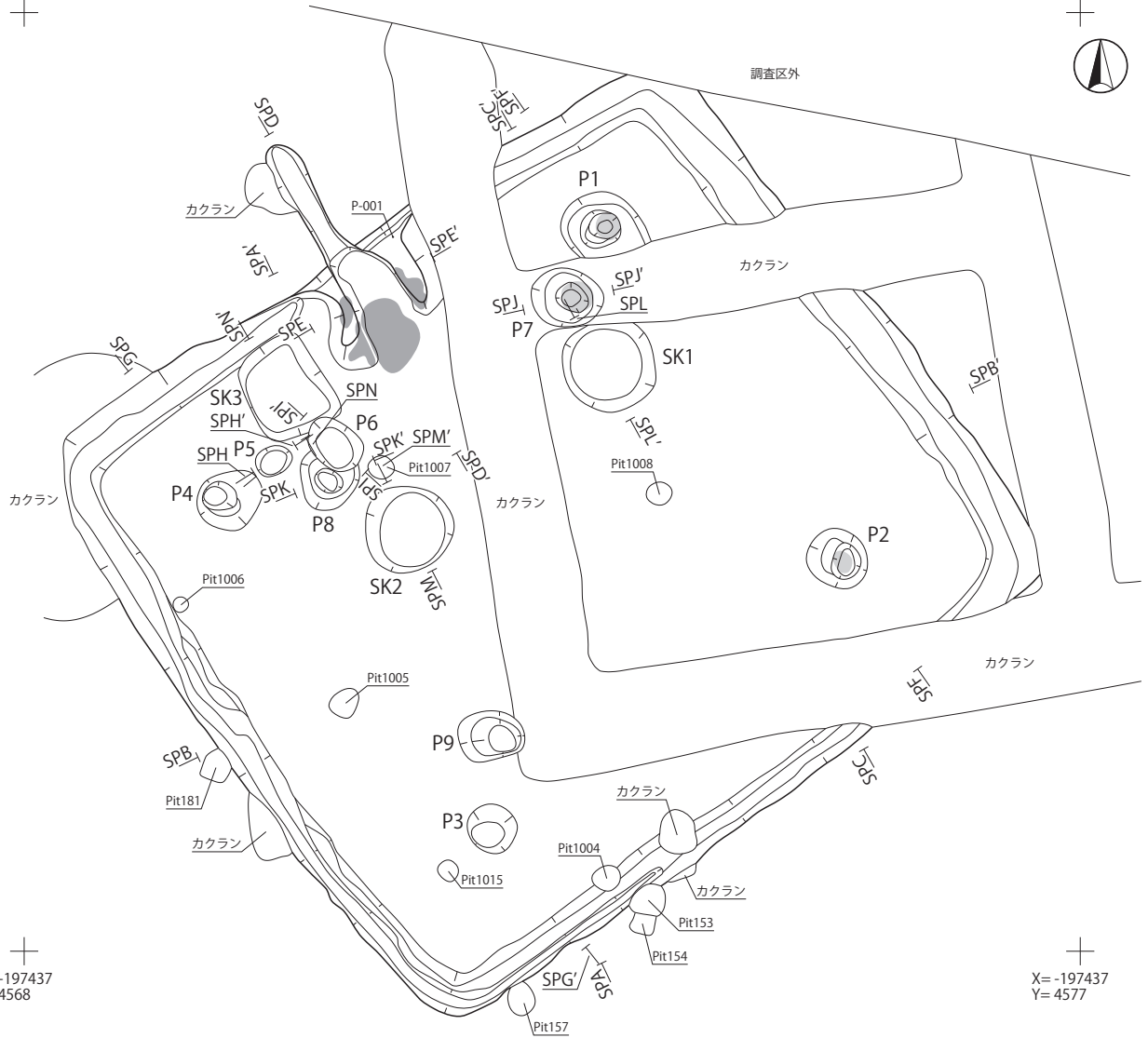
【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅23～50cm、深さ7～18cmを測る。東壁部分は幅広に掘り込まれている。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は長さ84cm、幅36cm以上、西袖は長さ91cm、幅34cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き99cm、幅47cmを測る。底面は奥壁側が浅くくぼみ、焚口付近に長径61cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら8cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ107cm、幅19～29cm、深さ7～12cmを測り、底面は起伏しながら先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1・2は中央部からやや北に寄って東西に並び、SK3はカマドの西脇に位置する。SK1・2は堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK3は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸79cm、短軸77cm、深さ29cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、長軸77cm、短軸75cm、深さ19cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸83cm以上、短軸69cm、深さ25cmを測る。

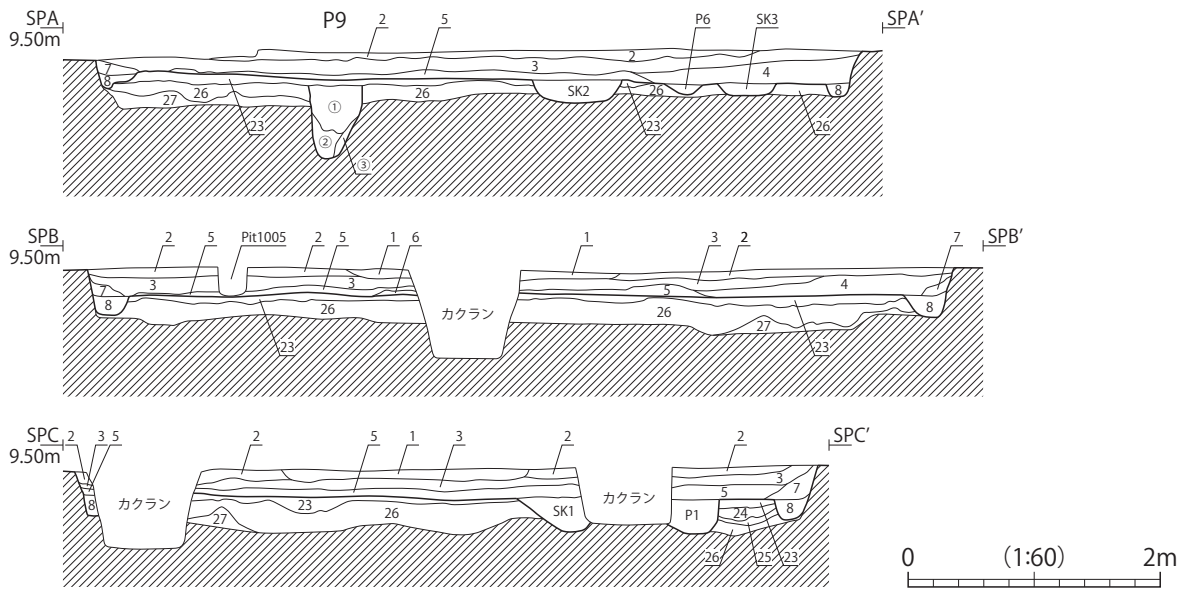
X=-197429
Y=4568

X=-197429
Y=4577



X=-197437
Y=4568

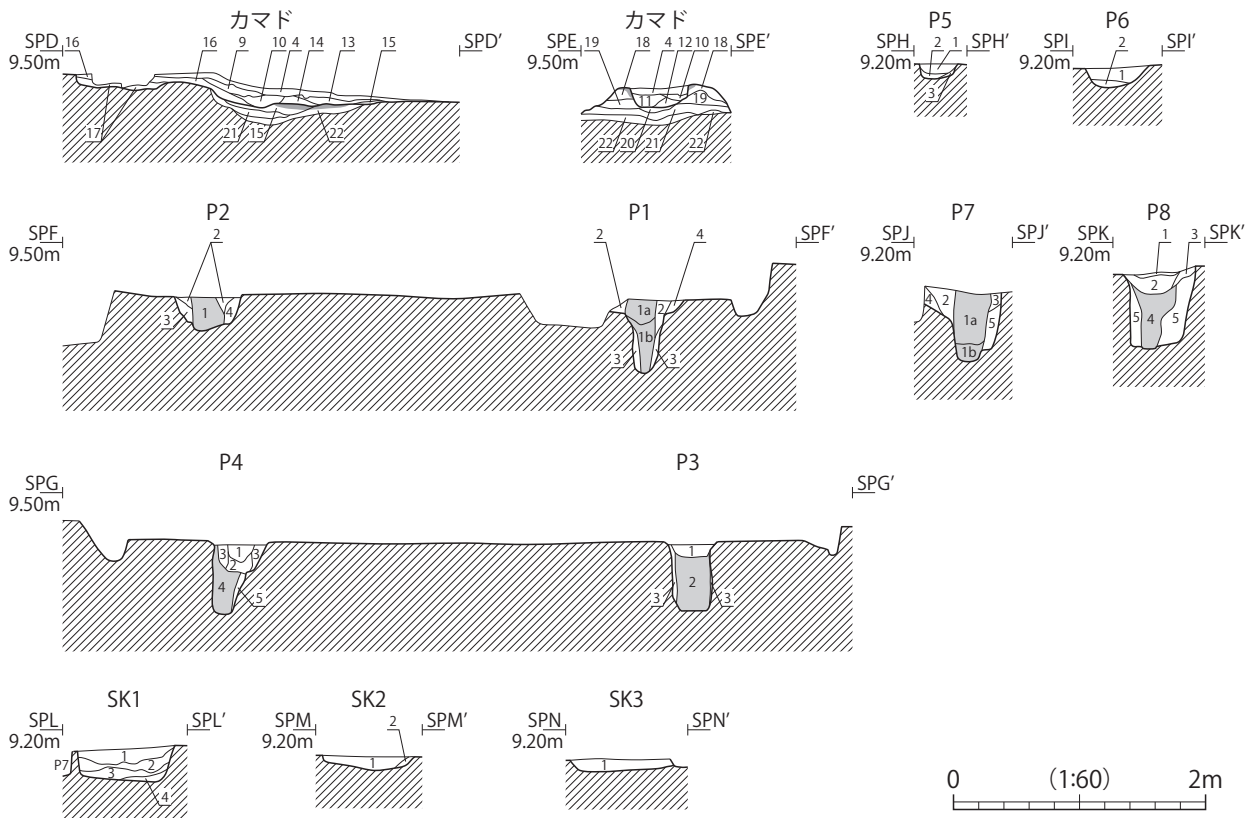
X=-197437
Y=4577



第46図 SI384 竪穴住居跡(1)

SI384 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	9	2.5Y5/2 暗灰黄色	粘土質シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※天井崩落土
カマド堆積土	10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒・骨片(10~20mm程度)少量含む。
	11	5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	炭化物粒多量含む。
	12	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰多量、焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	13	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量、骨片(10~20mm程度)微量含む。
	14	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒少量、骨片(5~10mm程度)微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR6/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	カマド袖構築土	18	2.5Y7/2 灰黄色	シルト
19		10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	20	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	22	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	23	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	25	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	26	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	27	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。



SI384 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(楕円形)	(68)×(62)	62	主柱穴 柱痕跡	
P2	円形	53×48	32	主柱穴 柱痕跡	
P3	円形	43×40	57	主柱穴 柱痕跡	
P4	円形	58×50	60	主柱穴 柱痕跡	
P5	楕円形	32×24	11	補助柱穴	
P6	楕円形	52×37	18	補助柱穴	

遺構名	平面形	規模 (cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P7	(楕円形)	(60)×(50)	(55)	補助柱穴 柱痕跡	
P8	楕円形	61×51	58	補助柱穴 柱痕跡	
P9	楕円形	58×42	44	補助柱穴	
SK1	円形	79×77	29	カマド関連土坑	
SK2	円形	77×75	19	カマド関連土坑	
SK3	隅丸長方形	(83)×69	25	貯蔵穴	

第47図 SI384 竪穴住居跡(2)

SI384 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
P2	4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、白色粘土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P7	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
P8	1a	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P9	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm)微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
SK1	①	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	②	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量、砂質シルトブロック(5～40mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、砂質シルトブロック(5～20mm)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。

【掘り方】 深さ9～32cmを測り、東西両壁付近が溝状や土坑状に掘り込まれる。

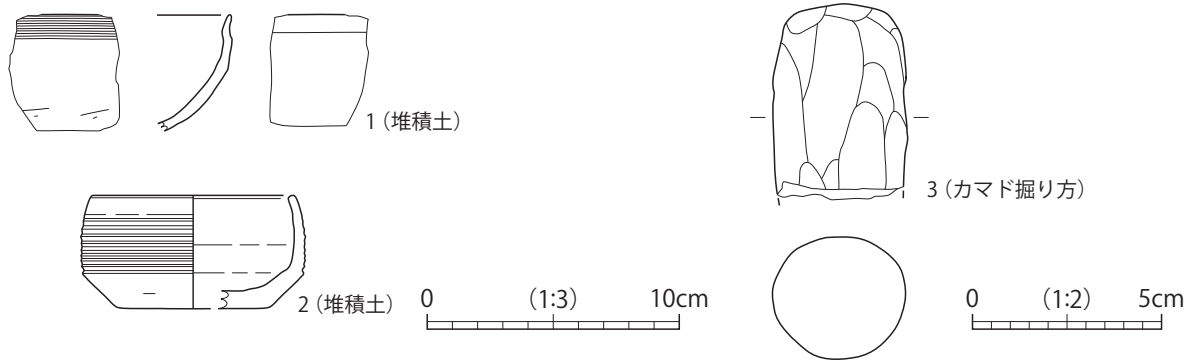
【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器環1点、須恵器環1点、土製品1点を掲載した(第48図)。また、SK2から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-1)。

1は土師器環で、北武蔵型土師器の特徴を持つ。薄手で精巧なつくりである。体部は半球形と考えられ、口縁部は「S」字状に短く外傾する。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、多量の砂粒を含む。2は須恵器環で、平底から外傾して立ち上がり、口縁部と体部の境に段を持つ。口縁部は内湾気味に直立する。外面口縁部に沈線状の幅広のカキメが施されている。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と海綿骨針を含む。焼成はやや軟質である。

3は棒状の土製品で、下部を欠損している。外面にはナデが施されている。カマド支脚の可能性はある。明瞭な被熱痕跡は認められない。

写真図版383-1(C-280)は土師器甕で、胴部は円筒状を呈すると考えられ、頸部の段は認められない。口縁部は直立後短く外反する。外面胴部は縦方向のヘラケズリが施されている。色調はにぶい橙色～橙色で、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針を含む。

【時期】 SK2から出土した土師器甕(写真図版383-1)の特徴およびSI385・390との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以降と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-278	SI384	堆積土	土師器	環	—	—	(4.6)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラスリ	不明	関東系 角閃石少量含む 内外面摩滅	312
2	E-001	SI384	堆積土	須恵器	環	(8.2)	(6.6)	(4.5)	口縁：吻調整→斜 体部：回転ヘラスリ 底部：不明	吻調整	骨針多量含む	312
写真のみ	C-280	SI384 SK2	堆積土	土師器	甕	(17.4)	—	(12.8)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラスリ	骨針少量、角閃石多量含む	383

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	P-001	SI384 カマド	掘り方	土製品	不明土製品	(5.2)	3.5	3.2	70.4	テ 支脚の可能性あり	312

第48図 SI384 竪穴住居跡出土遺物

SI385 竪穴住居跡 (第49～51図)

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・32・33区に位置する。北東隅付近は調査区外へ延びる。北西隅は攪乱により失われ、南半部はSI384の重複により周溝下部と掘り方の一部のみ残存する。

【重複】 SI384より古く、SI390より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸687cm、短軸652cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-41°-Wを測る。

【堆積土】 27層に分層した。1～7層は黒褐色ないし暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～16層はカマド堆積土である。17～19層はカマド袖構築土、20～26層はカマド掘り方埋土、27層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

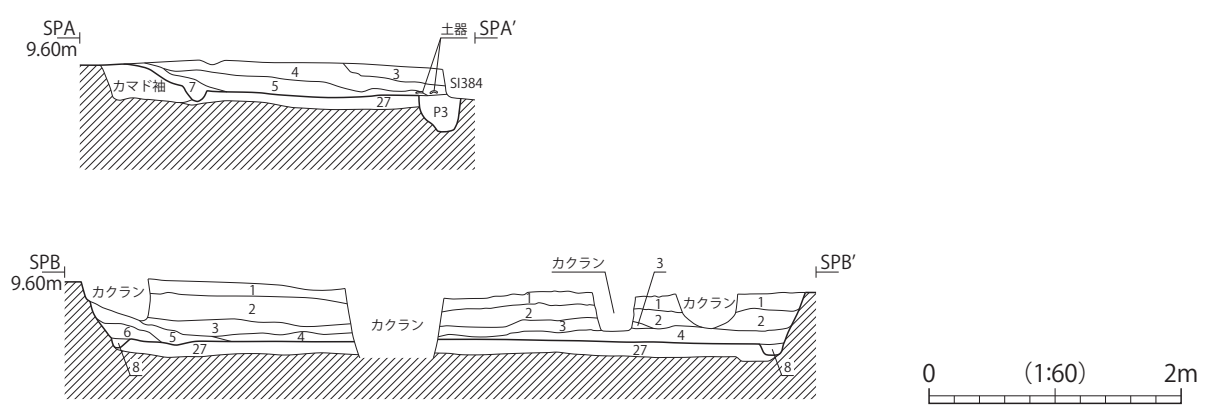
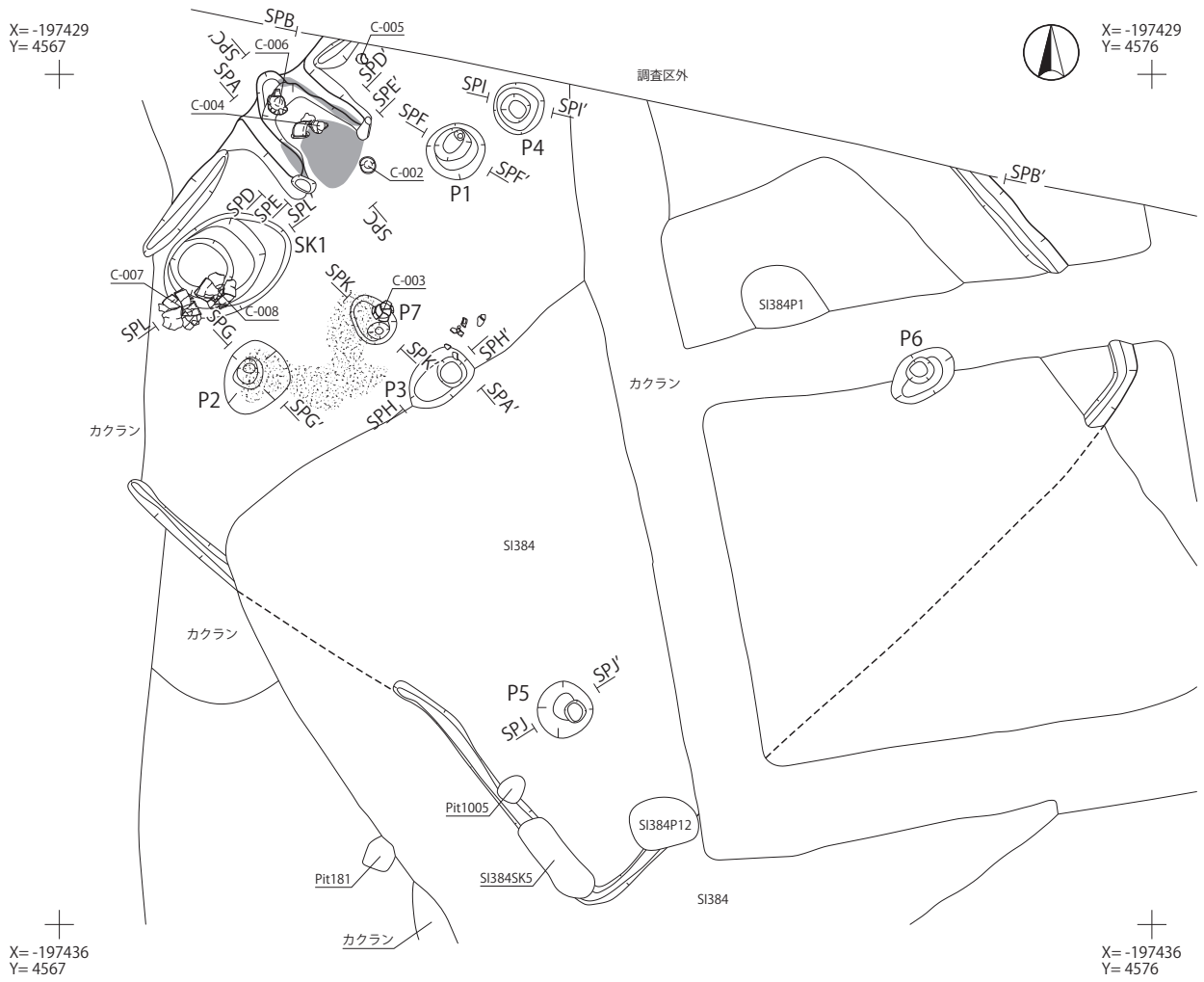
【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP2・4～6の規模は、長軸43～61cm、短軸41～53cm、深さ18～57cmを測る。P2の堆積土下半で、径20cm程度の柱痕跡を確認した。P1・3・7の配置は不規則だが、補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き壁面に沿ってめぐり、SI384の掘り方底面にも下部が残存する。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅11～22cm、深さ5～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ79cm、幅25cm、西袖は長さ86cm、幅28cmを測る。東袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設され、西袖の先端部でも抜き取り痕とみられる小ピットを検出した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き102cm、幅49cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径50cm程度の焼面がみられる。奥壁は階段状に23cm程度立ち上がり、煙道接続部となる上段がわずかに壁外に張り出す。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの西脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸110cm、短軸78cm、深さ22cmを測る。階段状に掘り込まれる。



SI385 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	47 × 46	45	補助柱穴
P2	円形	61 × 53	57	主柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	59 × (39)	31	補助柱穴
P4	円形	43 × 41	18	主柱穴

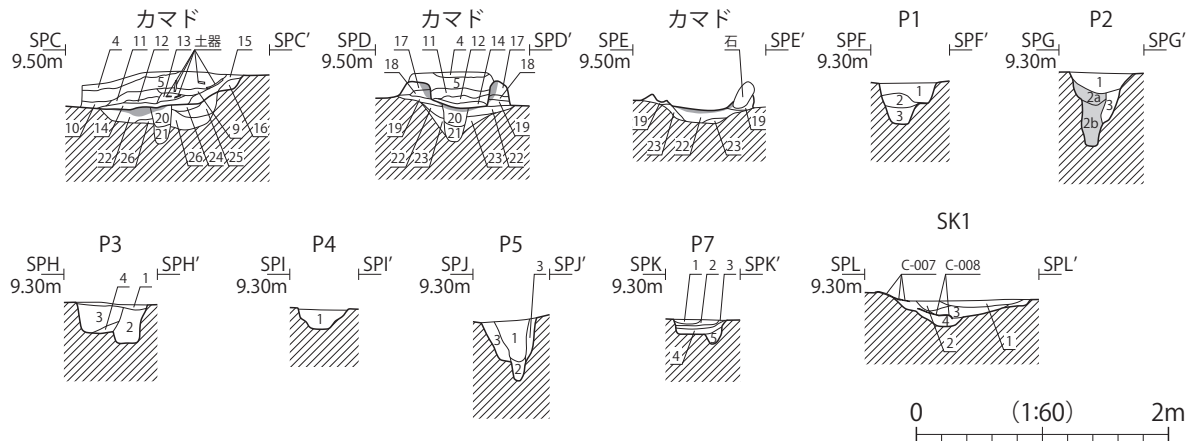
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(円形)	(45) × (45)	(50)	主柱穴
P6	(楕円形)	(59) × (38)	—	主柱穴
P7	楕円形	43 × 34	15	補助柱穴
SK1	楕円形	110 × 78	22	貯蔵穴

第49図 SI385 竪穴住居跡(1)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI385 堆積土註記表

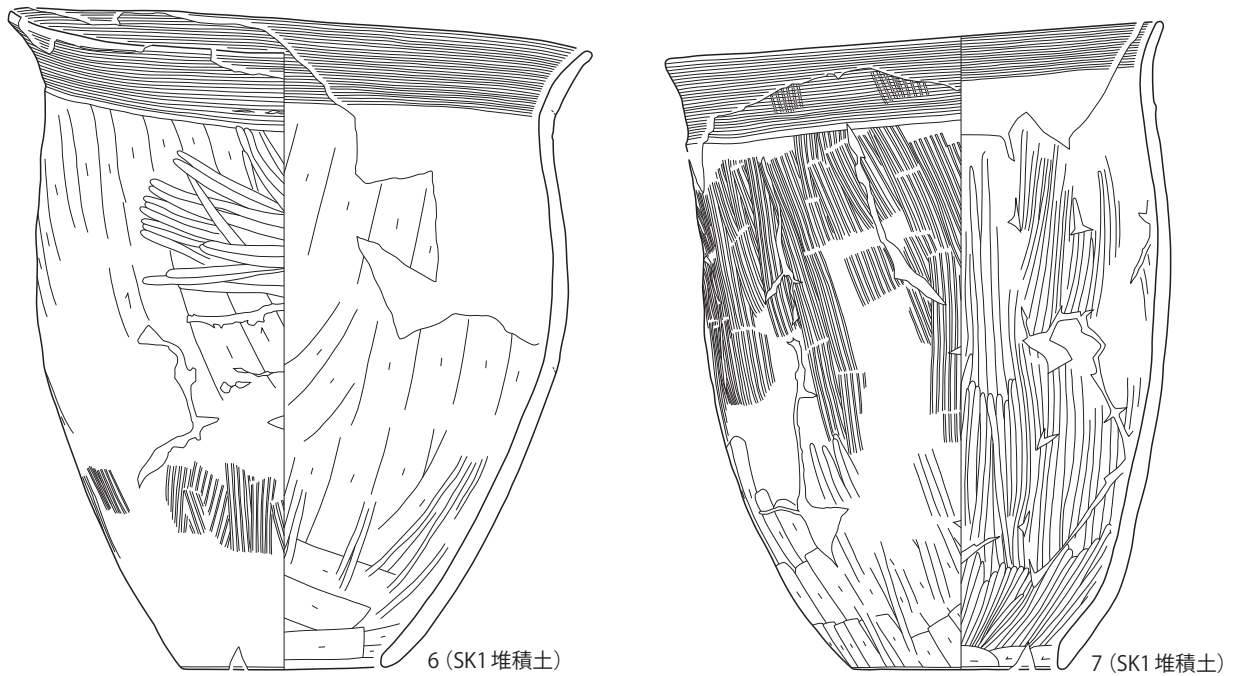
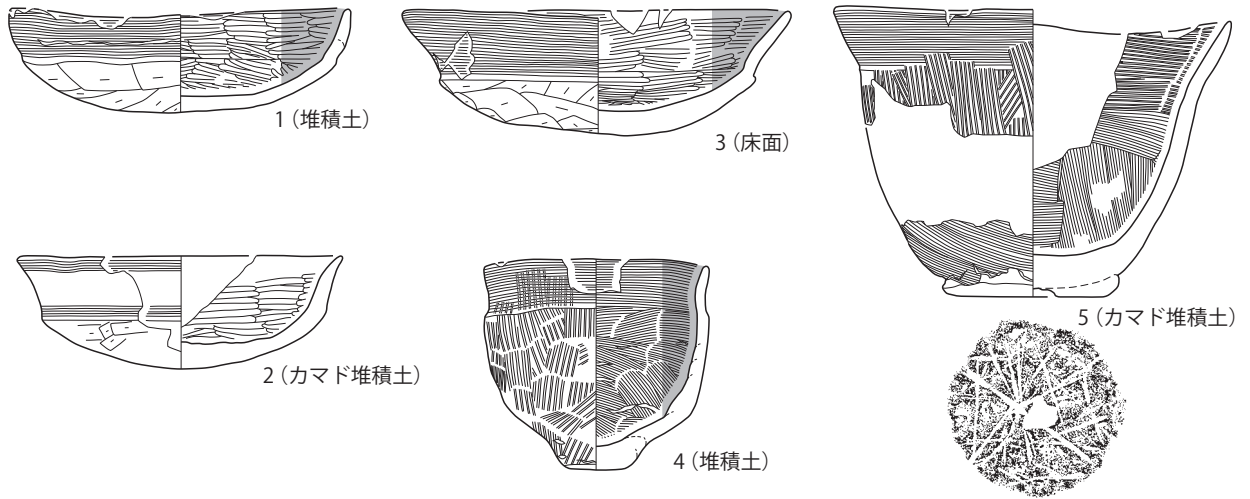
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド堆積土	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	灰・骨片少量、焼土粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土粒微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド袖構築土	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土主体。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	20	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	21	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	23	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	24	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	25	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	26	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	住居掘り方埋土	27	10YR4/4 褐色	シルト



SI385 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2b	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
P3	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P6	—	—	—	※註記なし
P7	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	白色粘土ブロック(5~20mm程度)多量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。

第50図 SI385 竪穴住居跡(2)



0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-002	SI385	堆積土	土師器	坏	13.4	—	4.1	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石少量含む	312
2	C-004	SI385 カマド	堆積土	土師器	坏	12.8	—	4.5	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内外面摩滅 内外面火傷痕	312
3	C-003	SI385	床面	土師器	坏	15.3	—	5.0	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内面やや摩滅	312
4	C-005	SI385	堆積土	土師器	鉢	8.8	2.4	8.3	口縁：ハケ→ヨコテ 体部：ハケ 底部：ヒコテ	口縁：ヨコテ 体部：ヒコテ	内面黒色処理	312
5	C-006	SI385 カマド	堆積土	土師器	甕	15.6	6.4	11.5	口縁：ヨコテ 胴上半：ハケ 胴下半：ハケ→ヘラテ	口縁：ハケ 胴～底部：ヘラテ	底部木葉痕 輪台状か 二次被熱による赤色化	312
6	C-007	SI385 SK1	堆積土	土師器	甕	22.8	口径 7.6	26.0	口縁：ヨコテ 胴上半：ヘラズリ→ヘラミガキ 胴下半：ハケ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラズリ→ハケ→ヘラミガキ	単孔	312
7	C-008	SI385 SK1	堆積土	土師器	甕	(18.7)	口径 8.2	25.7	口縁：ハケ→ヨコテ 胴上半：ハケ→ヘラミガキ 胴下半：ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラミガキ 胴下端：ヘラズリ	単孔	312

第51図 SI385 竅穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ9～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器が出土し、土師器環3点・鉢1点・甕1点・甌2点を掲載した(第51図)。2はP7付近の床面、3・5はカマド、6・7はSK1から出土した。1～3は土師器環である。いずれも扁平な丸底で、2・3は厚手である。1の口縁部は直立して立ち上がった後内湾気味に外傾する。2は直線的に外傾し口縁端部に向かってわずかに内湾する。3は外反し口縁端部に向かって器壁が薄くなる。1・2の口縁部と体部の境は、外面に段、内面に稜、3は外面に稜を持つ。1・2の内面に黒色処理が施されているが、3は認められない。4は小型の土師器鉢で、頸部に段を持つ。4は内面に黒色処理が施されている。5は小型の土師器甕で、輪台状を呈する底部からやや内湾気味に立ち上がり、口縁部で直線的に外傾する。6・7は単孔の土師器甌である。6の胴部最大径は中位に位置し、胴部の張りが強く、口縁部は外反する。7の胴部は張りが弱く、胴部下位から下端に向かってすぼまる。口縁部は直立しながら、中位でわずかに外傾する。ともに頸部に段を持つ。

【時期】 床面とカマド、SK1から出土した土師器環・鉢・甌(第51図2・3・5～7)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI386 竪穴住居跡(第52図)

【位置・確認】 調査区北東部の34区に位置する。大部分がSI387の重複により失われ、北東隅付近の壁際のみが残存する。残存範囲およびSI387の重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI387より古く、SI388より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸284cm、短軸120cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-31°-Wを測る。

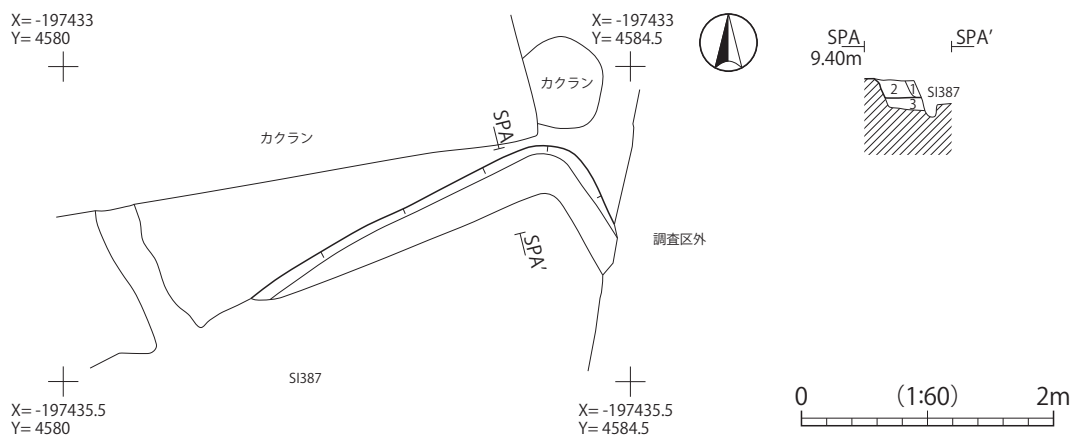
【堆積土】 3層に分層した。1・2層は暗褐色シルトの住居堆積土で、3層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【掘り方】 深さ2～9cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。



SI386 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

第52図 SI386 竪穴住居跡

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI387・388との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。

SI387 竪穴住居跡(第53～56図)

【位置・確認】 調査区北東部の34・41・42・49・50区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。

【重複】 SD297より古く、SI386・388より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸691cm、短軸633cmを測り、平面形は南北にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-28°-Wを測る。

【堆積土】 31層に分層した。1～6層は黒褐色シルト・粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、1～5層は人為的な埋土、6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～24層はカマド堆積土である。25～29層はカマド袖構築土、30層はカマド掘り方埋土、31層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸63～77cm、短軸55～66cm、深さ34～49cmを測る。P1・2の堆積土とP3の堆積土下半で、径16～18cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅9～30cm、深さ3～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ73cm、幅18cm、西袖は長さ74cm、幅19～34cmを測る。両袖の先端部には、楕円形の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き78cm、幅54cmを測る。底面は土坑状に掘り下げられ、焼面は奥壁付近から煙道部にかけてみられる。底面からわずかに浮いた状態で出土した棒状の自然礫は、支脚と考えられる。奥壁は外傾しながら22cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部付近が攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ110cm、幅24～33cm、深さ11～19cmを測り、底面は概ね平坦である。

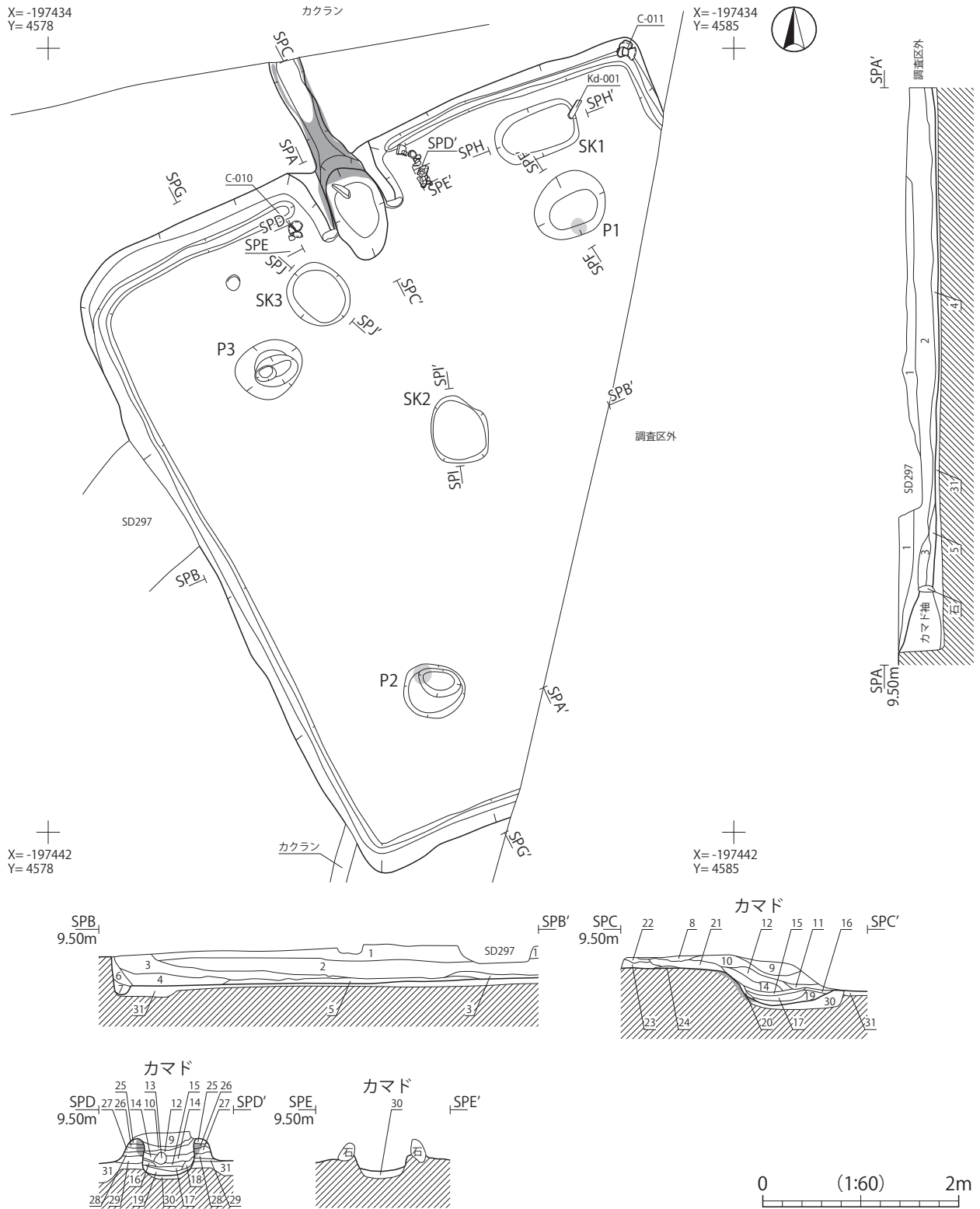
【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で2基(SK2・3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北東隅のほぼ中間、SK2は住居範囲の中央部付近、SK3はカマドの南西側に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸87cm、短軸52cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ4～17cmを測る。底面は概ね平坦だが、西半部の壁際が幅広の溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器環1点・鉢2点・甕1点、礫石器1点、石製品1点を掲載した(第55・56図)。また、P1から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-2)。6はSK1脇の床面から出土した。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部で内湾気味に直立する。口縁部と体部の境に稜を持つ。体部の外面には強いヘラケズリが粗く施されている。内面はヨコナデ後にヘラミガキが施される。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土はやや精良で、細砂、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。関東系土師器と考えられる。2・3は土師器鉢で、2は小型品、3は中型品である。2の口縁部は外反、3はやや内湾気味に外傾する。3の底部には木葉痕が認められ、ヘラケズリが周辺に粗く施されている。4は土師器甕で、外面頸部に段を持たない下膨れの胴部を持つ。口縁部は直線的に外傾する。外面は胴部上半に縦方向、下半に横方向のヘラケズリが施されている。色調は浅黄橙色～淡橙色を呈し、胎土はやや精良で、細砂と3mm以下の赤色粒子を含む。5は台石で、磨面が2面あり、a・b面に溝状痕、a～c面に敲打痕がみられる。石材は凝灰岩である。6は砥石で、砥面が4面あり、a～f面に溝状痕・線條痕がみられる。石材は砂質粘板岩である。写真図版383-2(C-012)は土

師器甕で、胴部は円筒状を呈すると考えられ、頸部に弱い段を持つ。口縁部は直立後短く外反し、端部は丸く折り返されている。

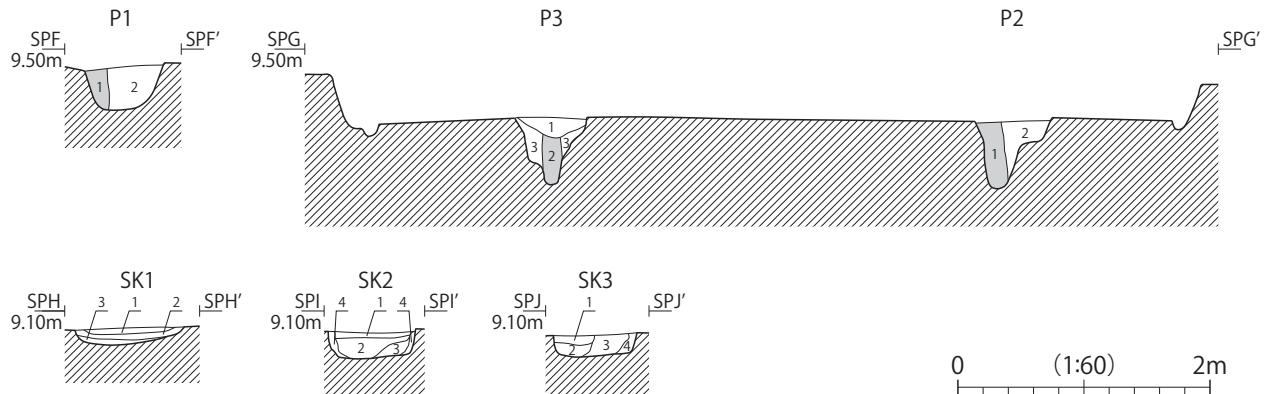
【時期】 P1から出土した土師器甕(写真図版383-2)の特徴およびSI386・388との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)~6期(8世紀前半)の可能性はある。



第53図 SI387 竪穴住居跡(1)

SI387 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)主体。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土粒・骨片微量含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土崩落土。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	20	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土主体。
	21	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
22	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒多量含む。	
23	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。	
24	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。	
カマド袖構築土	25	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	26	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	27	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	28	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	29	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	30	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	31	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。



SI387 施設堆積土註記表

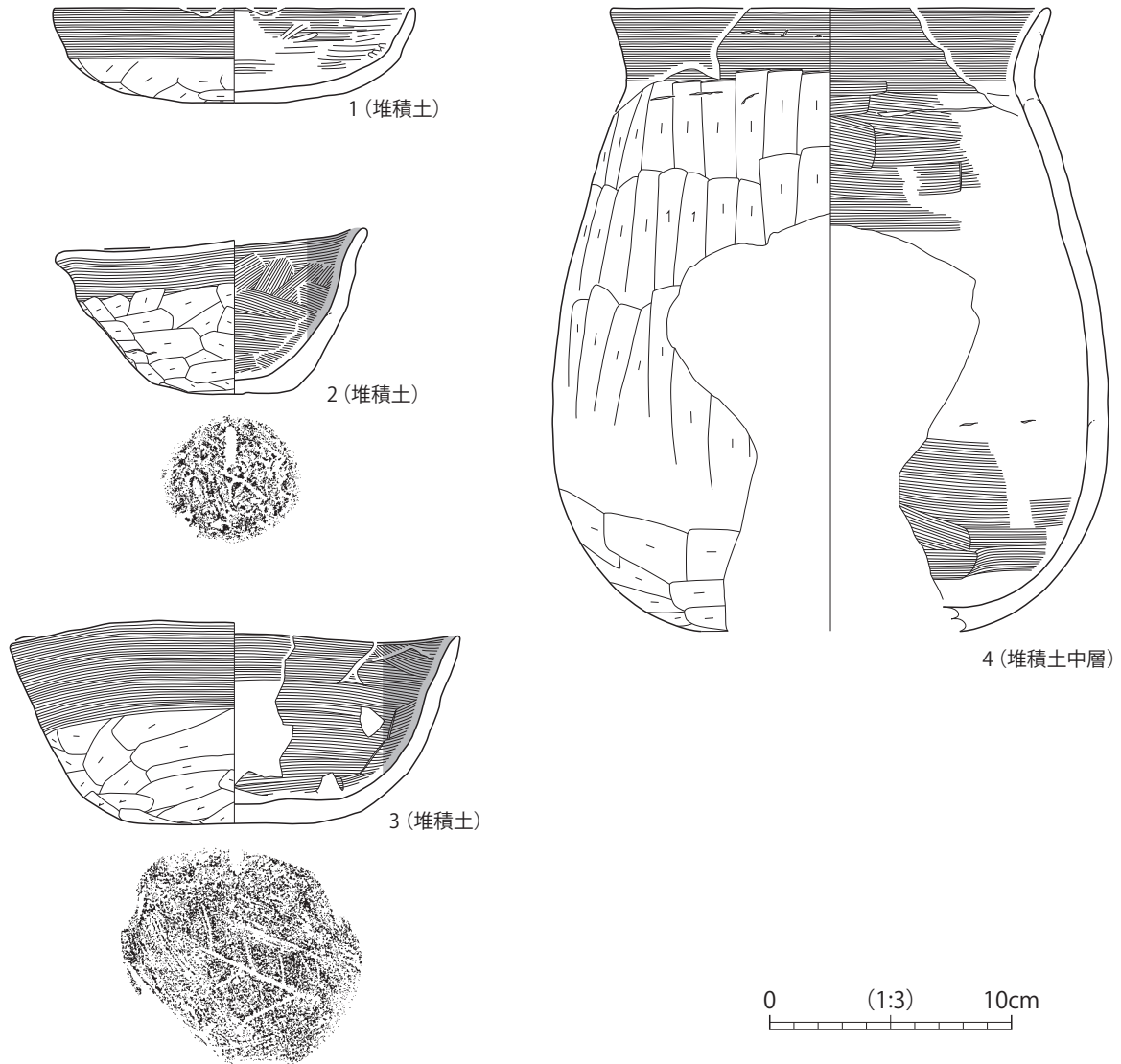
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※グライ化・柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※グライ化
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	白色粘土を薄板状に微量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、骨片微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・骨片微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

第54図 SI387 竪穴住居跡(2)

SI387 施設観察表

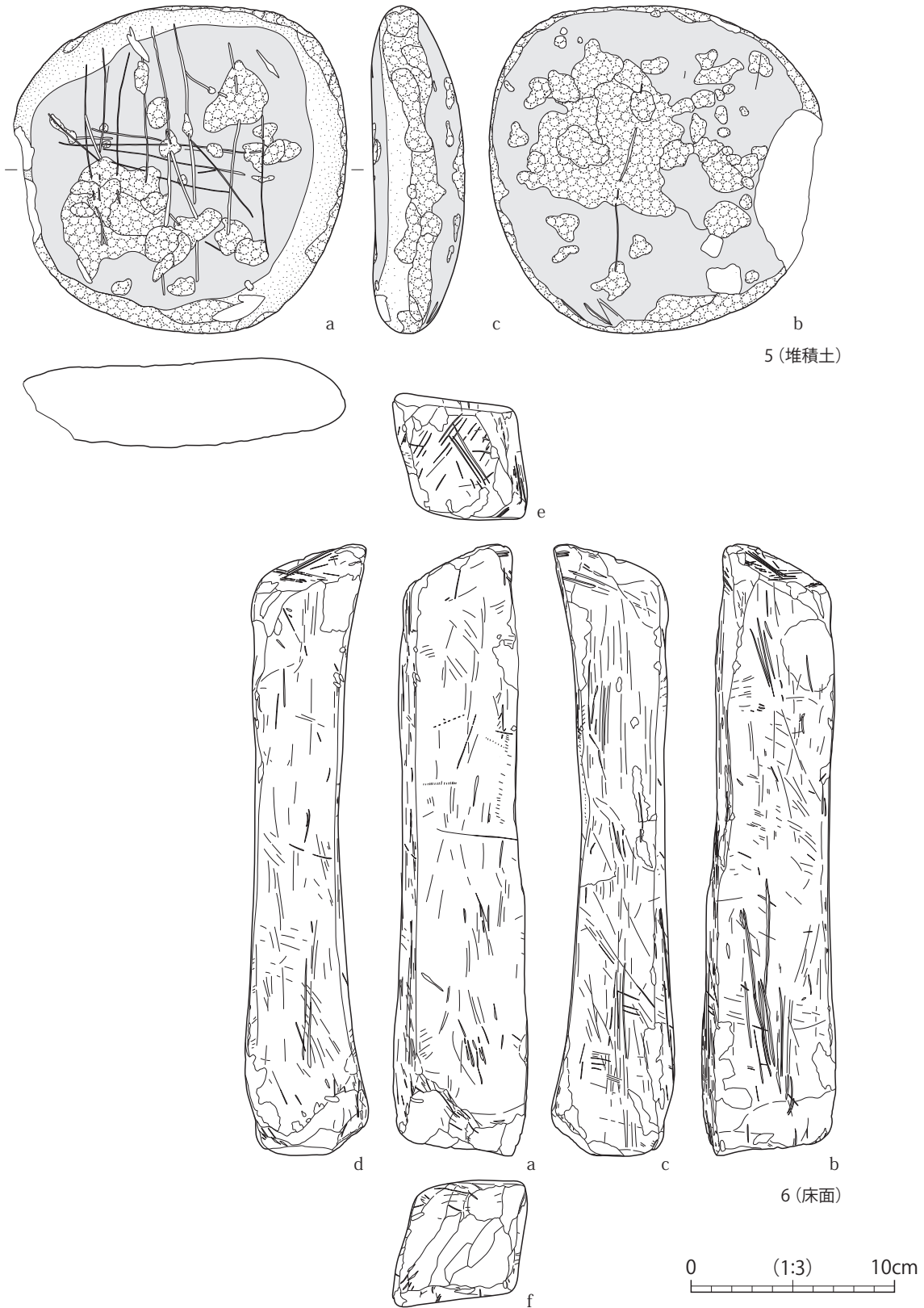
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	77×66	34	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	63×55	36	主柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	70×58	49	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	隅丸長方形	87×52	15	貯蔵穴
SK2	円形	69×58	18	性格不明土坑
SK3	円形	67×59	16	性格不明土坑



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-009	SI387	堆積土	土師器	环	(14.8)	—	3.9	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ→ヘラミガキ 体～底部：ヘラミガキ	関東系 骨針少量含む 内外面やや摩滅	312
2	C-010	SI387	堆積土	土師器	鉢	12.7	4.4	6.9	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体部：ヒレテ	底部木葉痕か 内面黒色処理	312
3	C-011	SI387	堆積土	土師器	鉢	18.5	7.8	8.4	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ 底部周縁：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体部：ヘラテ	内面黒色処理 底部木葉痕	312
4	C-286	SI387	堆積土中層	土師器	甕	(18.0)	—	(25.8)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	内面やや摩滅 角閃石中量含む	313
写真のみ	C-012	SI387 P1	堆積土	土師器	甕	(16.4)	—	(9.2)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラメ→ヘラミガキ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石少量含む	383

第55図 SI387 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
5	Kc-001	SI387	堆積土	礫石器	台石	(16.39)	16.09	4.57	1085.3	凝灰岩	磨2面(凸・やや凹) 敲(平坦・側面) 溝状痕	313
6	Kd-001	SI387	床面	石製品	砥石	30.0	6.6	6.0	1,630.2	砂質粘板岩 (●)	砥面4面 溝状痕(a~f面) 線条痕(a~f面)	313

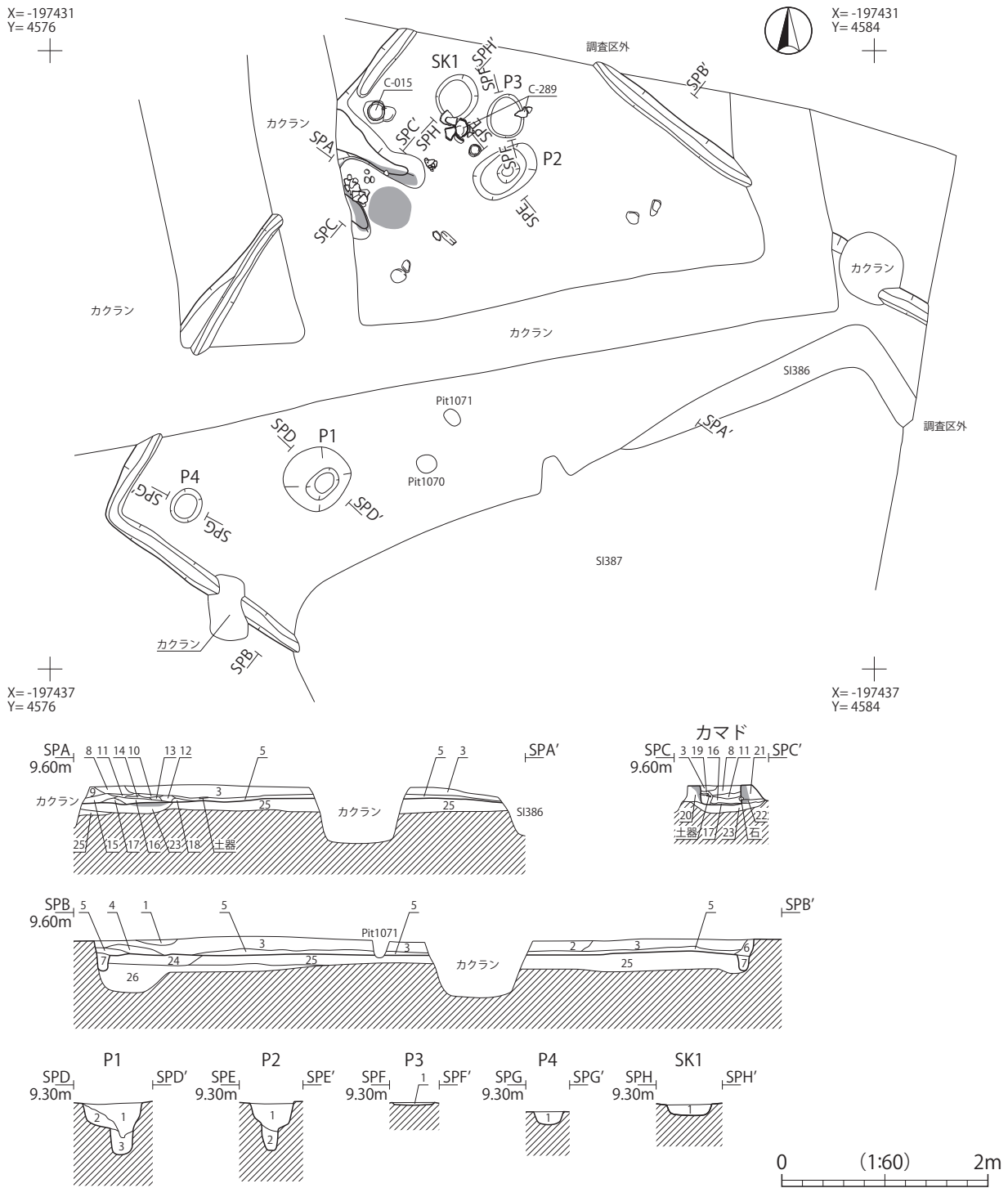
第56図 SI387 竪穴住居跡出土遺物(2)

SI388 竪穴住居跡 (第57・58図)

【位置・確認】 調査区北東部の33・34・41・42区に位置する。北西部および東壁付近は調査区外へ延び、東半部はSI386・387の重複により大部分が、西半部も区画状の攪乱により一部が失われている。

【重複】 SI386・387より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸641cm、短軸617cmを測り、平面形は方形と考えられる。



第57図 SI388 竪穴住居跡

【方向】 カマドを基準としてN-54°-Wを測る。

【堆積土】 26層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4層は人為的な埋土、5・6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～19層はカマド堆積土である。20～22層はカマド袖構築土、23層はカマド掘り方埋土、24～26層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2の規模は、長軸62～67cm、短軸43～60cm、深さ46～55cmを測る。P3・4は補助柱穴と考えられるが、P3は土坑状で浅いため、柱穴以外の可能性もある。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～20cm、深さ8～16cmを測る。

【カマド】 西壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。攪乱により南袖基部から煙道部が失われているが、袖は壁面に対して「ハ」字状に延びると考えられる。

南袖の規模は残存値で長さ41cm、幅26cm、北袖は長さ107cm、幅25～36cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き77cm、幅40cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径44cm程度の焼面がみられる。

SI388 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量含む。
	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	カマド袖構築土	20	10YR4/6 褐色	シルト
21		10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
22		10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	24	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	26	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI388 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒・骨片微量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	白色粘土ブロック(5～20mm程度)微量含む。

SI388 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	62×60	55	主柱穴
P2	楕円形	67×43	46	主柱穴
P3	円形	43×36	3	補助柱穴か

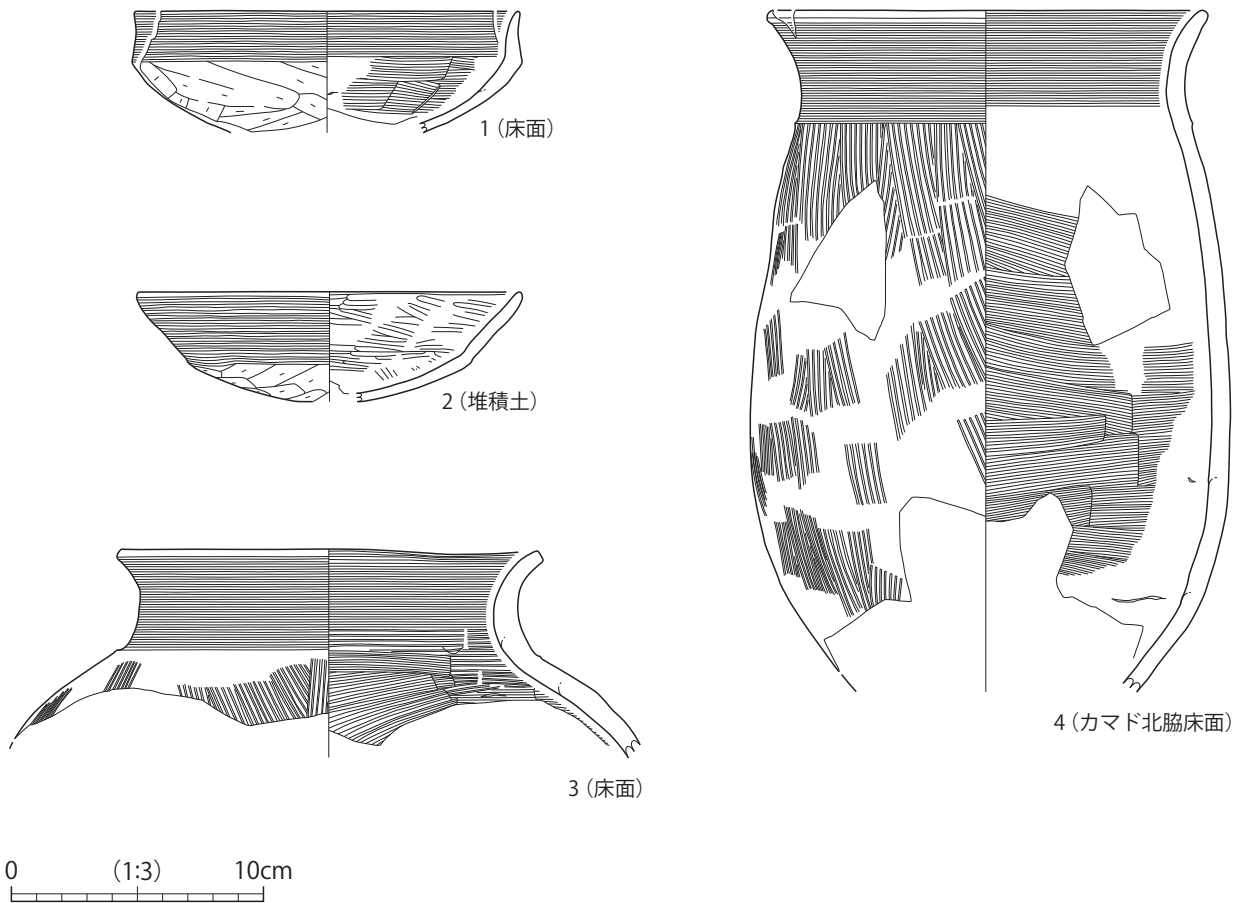
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	34×29	25	補助柱穴
SK1	円形	46×40	11	貯蔵穴

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北東隅の中間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸46cm、短軸40cm、深さ11cmを測る。

【掘り方】 深さ19～41cmを測り、各壁際が幅広の溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、鉄滓などが出土し、土師器坏2点・甕2点を掲載した(第58図)。これらはカマドおよびカマド東側の床面から出土した。3はカマド北袖に接して口縁～肩部が正位に置かれた状態で出土したため、置台として使用された可能性がある。1・2は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に直立する。内面は黒色漆仕上げされていると考えられる。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、少量の8mm以下の砂礫を含む。2は、扁平な丸底で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境には、外面に段、内面に稜を持つ。3・4は土師器甕で、3の胴部は球形と考えられ、4はやや下膨れの長胴形である。ともに頸部に段を持ち、口縁部は外反する。3の口縁端部は面取りされている。

【時期】 床面から出土した土師器坏・甕(第58図1・3・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-014	SI388	床面	土師器	坏	(15.2)	—	(4.8)	口縁：ヨナテ 体部：ヘラスリ	口縁：ヨナテ 体部：ヘラテ	関東系 内面漆仕上げか 内面やや摩滅	313
2	C-013	SI388	堆積土	土師器	坏	(15.2)	—	(4.4)	口縁：ヨナテ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内外面摩滅	313
3	C-015	SI388	床面	土師器	甕	16.6	—	(8.3)	口縁：ヨナテ 胴部：ハナ	口縁：ヨナテ 胴部：ハナ→ヘラテ	角閃石少量含む	313
4	C-289	SI388 カマド北脇	床面	土師器	甕	17.1	—	(27.1)	口縁：ヨナテ 胴部：ハナ	口縁：ヨナテ 胴部：ヘラテ	内面やや摩滅 角閃石少量含む	314

第58図 SI388 竪穴住居跡出土遺物

SI389 竪穴住居跡 (第59～61図)

【位置・確認】 調査区東部の100・108区に位置する。北壁および南壁の一部は、SD297の重複や攪乱により上部が失われている。

【重複】 SD299より古く、SI397、SD328、Pit1780・1783より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸427cm、短軸410cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 24層に分層した。1～11層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土、13～17層はカマド堆積土である。18層はカマド袖構築土、19層はカマド掘り方埋土、20～24層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で58cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸37～50cm、短軸31～42cm、深さ26～50cmを測る。全体的に深さにばらつきがみられる。P3の堆積土下半で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。P2とP3の中間付近に配置されているP5は補助柱穴と考えられる。堆積土下半で、径9cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド部分から北壁西半部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～24cm、深さ4～15cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ85cm、幅26cm、西袖は長さ83cm、幅26cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き88cm、幅48cmを測る。底面は平坦で、焚口付近に長径39cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側からは、支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。奥壁は外傾しながら12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、燃焼部との接続部付近では天井部が残存する。規模は残存値で長さ55cm、幅17cm、深さ5～24cmを測り、底面は燃焼部奥壁からそのまま同じ角度で立ち上がる。

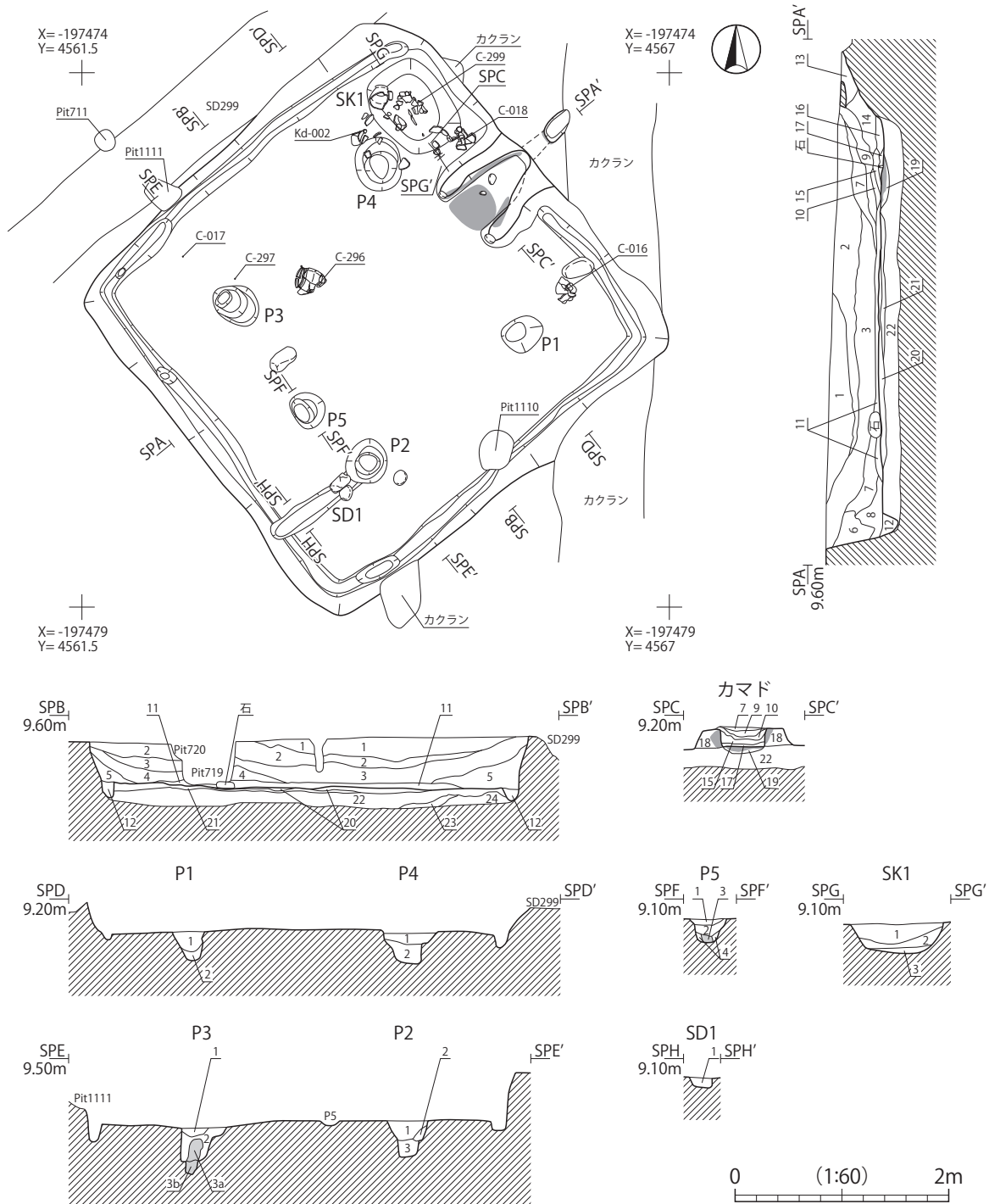
【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマド西脇の北壁際に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸90cm、短軸69cm、深さ29cmを測る。また、南壁周溝からP2に接続するSD1を検出した。規模は幅15～22cm、深さ8～11cmを測る。位置と形状から、間仕切り溝と考えられる。

【掘り方】 深さ8～20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品などが出土し、土師器坏2点・鉢1点・甕6点・甑2点、石製品1点を掲載した(第60・61図)。6はSK1から、9は中央部付近の床面から出土した。1・2は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持ち、2も関東系土師器と考えられる。ともに扁平な丸底で、1の口縁部は短く直立、2は外反気味に外傾する。ともに外面は強いヘラケズリ、内面はナデ調整後放射状にヘラミガキが粗く施されている。1の内面は黒色漆仕上げされているものと考えられる。1の色調はにぶい橙色～灰褐色、2はにぶい褐色～橙色を呈する。胎土はともに細砂、少量の赤色粒子を含み、1は微量の海綿骨針が認められる。3は土師器鉢である。平底から内湾して立ち上がり、口縁部で直線的に外傾し、端部は丸く折り返されている。内面に黒色処理が施されている。4～9は土師器甕である。4は胴部の張りが弱い短胴形、5・6は張りを持たない砲弾形と考えられ、7～9は胴部最大径が中位に位置する楕円形と考えられる。4～7の口縁部は直線的に外傾、8は外反気味に外傾、9は外反する。7・9の頸部は段、5は沈線状の段、4は稜、6・8は段が認められない。6・8・9の外面は縦・斜方向の弱いヘラケズリを基本とし、9の胴部上・中位には横方向の弱いヘラケズリが施され、部分的に調整の方向が異

なる。6・8の色調はにぶい橙色を呈し、9はにぶい黄橙色である。胎土はいずれもやや粗く、6は砂粒と微量の赤色粒子、8は3mm以下の砂礫と少量の赤色粒子を含み、9は2mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。10・11は単孔の土師器甕で、ともに頸部に段を持つ。10は胴部の張りが弱く、上位から下端に向かってすぼまる。11は胴部に張りがあり、中位から下端に向かってすぼまる。口縁部はともに直線的にやや外傾する。12は石製の紡錘車で、断面形は台形を呈する。a・b面に溝状痕、a～c面に線条痕がみられる。石材は黒雲母流紋岩である。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器坏・鉢・甕(第60・61図1・3・6・9)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第59図 SI389 竪穴住居跡

SI389 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	5	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	10	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	12	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	14	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	15	10YR5/8 黄褐色	シルト	焼土斑状に多量含む。 ※カマド天井崩落土
	16	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
カマド袖構築土	17	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
カマド掘り方埋土	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
住居掘り方埋土	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)微量含む。
	20	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
	21	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	黄褐色シルト斑状に含む。
	22	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	23	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	24	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼土斑状に少量含む。

SI389 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	3a	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3b	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SD1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。

SI389 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	37×31	26	主柱穴
P2	円形	42×38	40	主柱穴
P3	楕円形	46×35	50	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	50×42	32	主柱穴
P5	円形	35×30	24	補助柱穴 柱痕跡
SK1	隅丸長方形	90×69	29	貯蔵穴

SI390 竪穴住居跡(第62図)

【位置・確認】 調査区北東部の25・26・32・33区に位置する。北東隅は調査区外へ延びる。削平のため床面は失われ、一部の床面施設と掘り方のみ残存する。

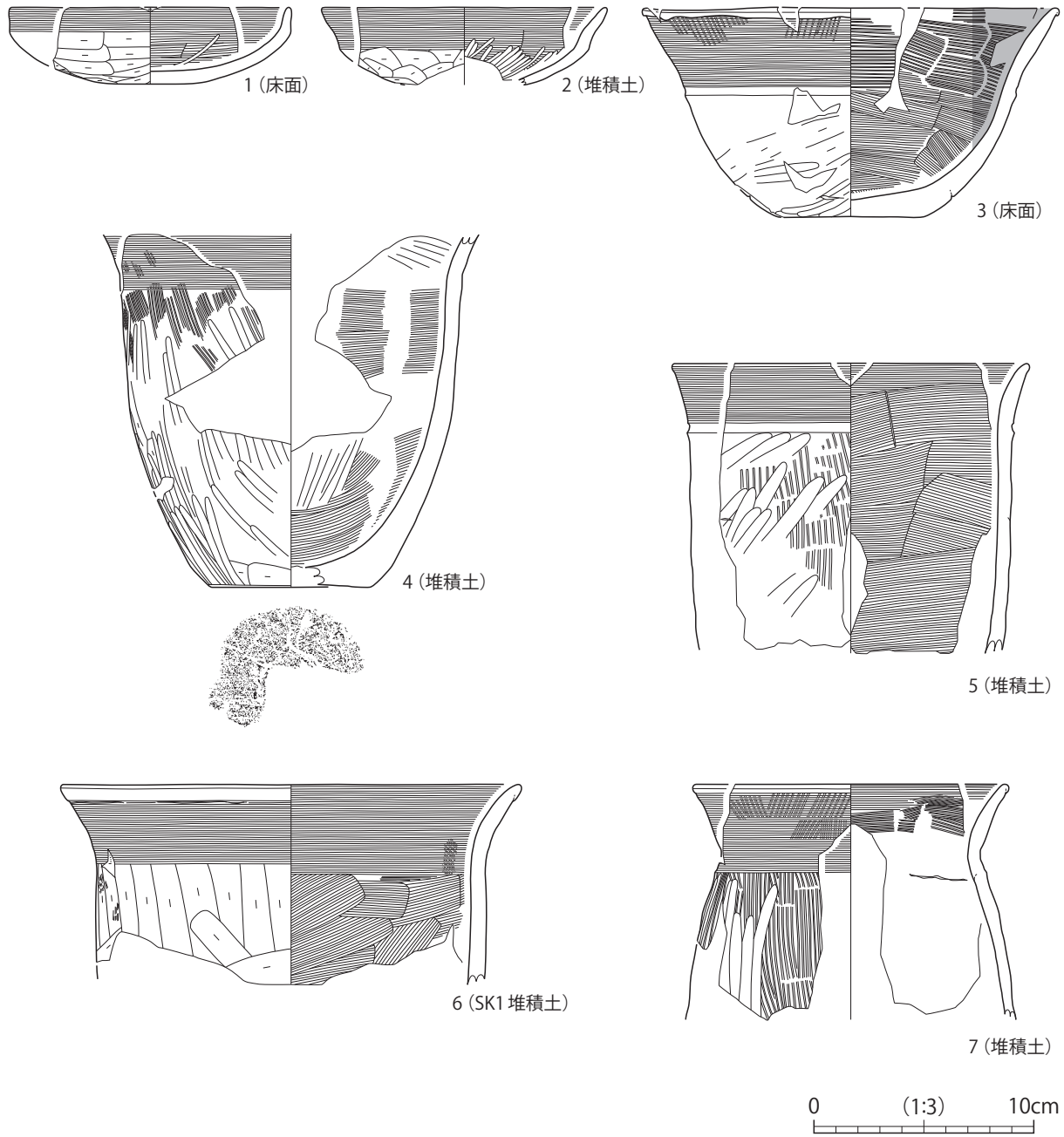
【重複】 SI384・385より古い。

【規模・形態】 掘り方で確認された規模は長軸485cm、短軸457cmを測り、平面形は東側に広がる台形を呈する。

【方向】 掘り方西壁を基準としてN-45°-Eを測る。

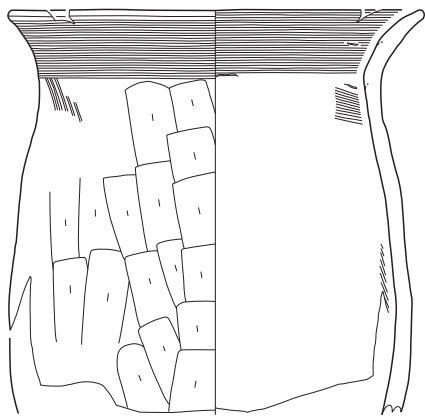
【堆積土】 7層に分層した。1～6層はカマド堆積土、7層はカマド掘り方埋土である。住居掘り方埋土の断面図と土層注記は記録できなかった。

【柱穴】 掘り方底面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値で長軸29～48cm、短軸23～47cm、深さ44～54cmを測る。P1の堆積土とP4の堆積土下半で、径20～22cm程度の柱痕跡を確認した。

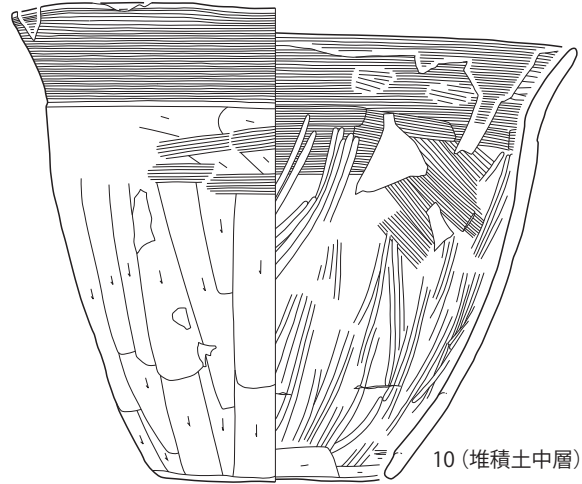


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-294	SI389	床面	土師器	环	(12.6)	—	(3.5)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体部：ヘラテ→ヘラミガキ(放射状)	関東系 内面漆仕上げか 骨針微量含む	314
2	C-295	SI389	堆積土	土師器	环	(12.9)	—	(3.5)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体部：ヘラテ→ヘラミガキ(放射状)	関東系	314
3	C-016	SI389	床面	土師器	鉢	(18.8)	(7.0)	9.5	口縁：ハメ→ヨコテ 体部：ヘラズリ→ヘラミガキ 底部：ヘラミガキ	口縁：ハメ 体～底部：ヘラテ	内面黒色処理(部分的)	314
4	C-298	SI389	堆積土	土師器	甕	—	(7.4)	(16.1)	口縁：ハメ→ヨコテ 胴上半：ハメ→ヘラミガキ 胴下半：ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁：ヘラミガキ 胴部：ヘラテ→ヘラミガキ	底部木葉痕 内面やや摩滅	314
5	C-300	SI389	堆積土	土師器	甕	(16.0)	—	(13.2)	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ→ヘラミガキ	口縁上位：ヨコテ 口縁下位～胴部：ヘラテ	外面やや摩滅	314
6	C-299	SI389 SK1	堆積土	土師器	甕	(20.8)	—	(9.1)	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ→ヘラズリ	口縁：ハメ→ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石微量含む	314
7	C-301	SI389	堆積土	土師器	甕	(14.1)	—	(10.7)	口縁：ハメ→ヨコテ 胴部：ハメ→ヘラミガキ	口縁：ヨコテ→ハメ 胴部：不明	内面摩滅	314

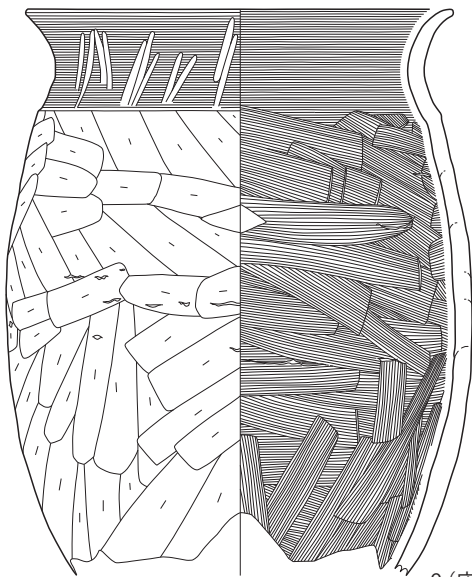
第60図 SI389 竪穴住居跡出土遺物 (1)



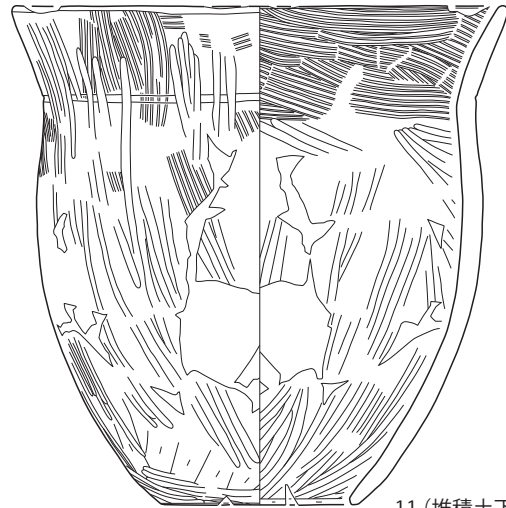
8 (堆積土下層)



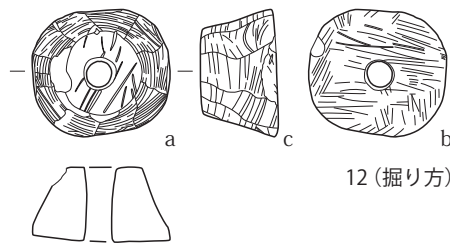
10 (堆積土中層)



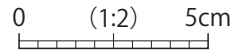
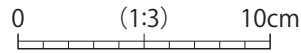
9 (床面)



11 (堆積土下層)



12 (掘り方)



※図版番号12

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
8	C-297	SI389	堆積土下層	土師器	甕	16.2	—	(16.2)	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ→ハカズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハカテ	内外面摩滅 角閃石微量含む	314
9	C-296	SI389	床面	土師器	甕	16.8	—	(22.5)	口縁：ヨコテ→ハカズリ 胴部：ハカズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハカテ	骨針微量含む	314
10	C-017	SI389	堆積土中層	土師器	甕	22.2	孔径 9.2	19.0	口縁：ヨコテ 胴上位：ハカズリ→ヨコテ 胴中～下位：ハカズリ	口縁：ヨコテ→ハカズリ 胴上位：ハカテ→ハカズリ 胴中～下位：ハカズリ 胴下端：ハカズリ	単孔 角閃石少量含む	315
11	C-018	SI389	堆積土下層	土師器	甕	(19.6)	孔径 7.8	19.8	口縁～胴上半：ハメ→ハカズリ 胴下半：ハカズリ→ハカズリ	口縁：ハメ 胴部：ハカズリ	単孔	315

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
12	Kd-002	SI389	掘り方	石製品	紡錘車	3.7	3.4	2.1	28.3	黒雲母 流紋岩 (●)	溝状痕 (a・b面) 線条痕 (a～c面) 片側穿孔 孔径0.7～0.9cm	315

第61図 SI389 竪穴住居跡出土遺物 (2)

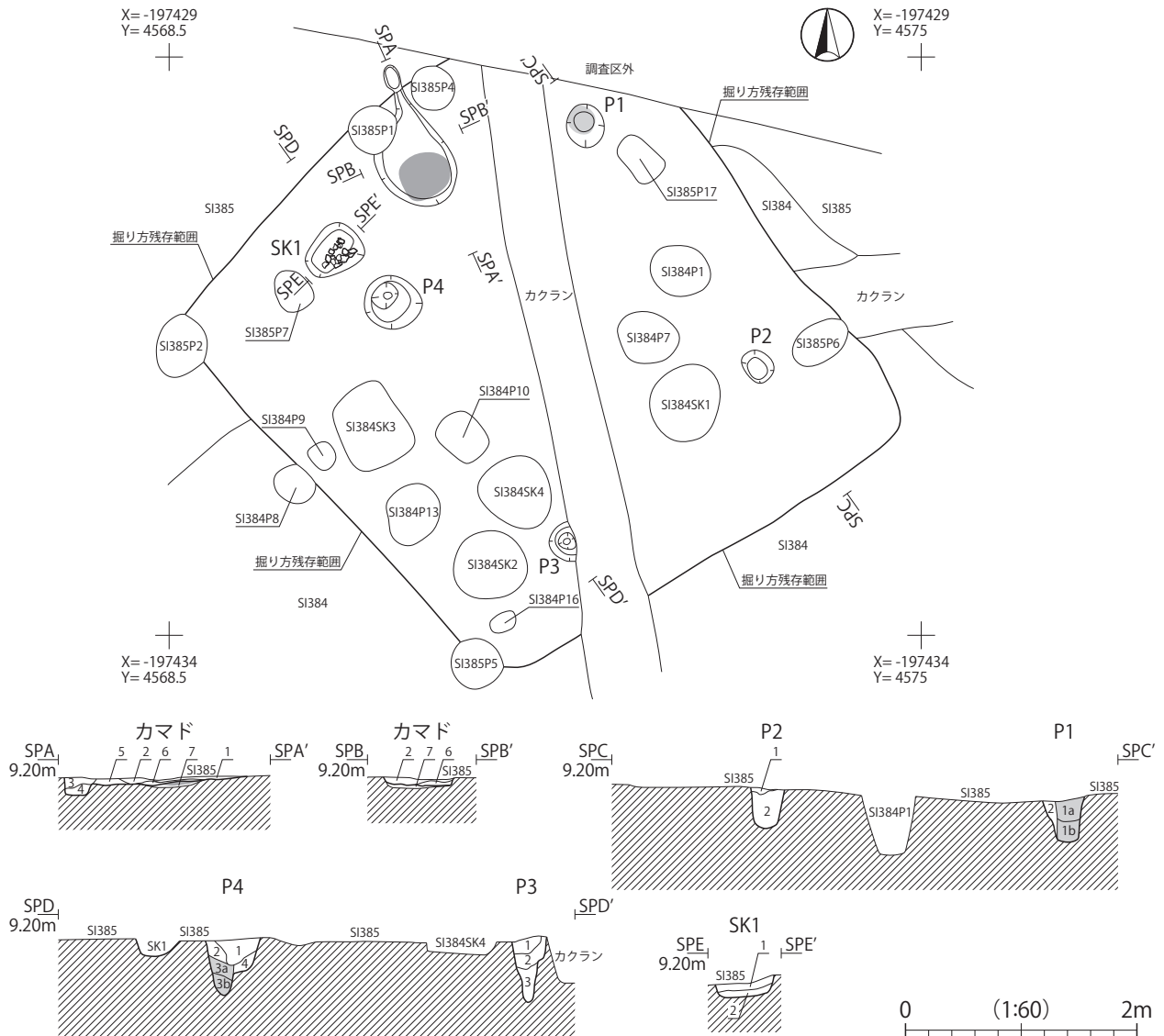
【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、SI385の重複により、土坑状に掘り込まれた燃烧部底面と、煙道部の一部のみ残存する。燃烧部の掘り込みは壁内に位置し、長さ85cm、幅64cmを測り、底面の焚口付近に長径44cm程度の焼面がみられる。煙道部は燃烧部との接続部付近が残存し、規模は残存値で長さ42cm、幅8～14cm、深さ12cmを測る。底面は燃烧部から水平に延び、壁外でピット状に落ち込んでいる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドと北西隅との中間付近に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸51cm、短軸42cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ8～20cmを測り、東壁を除く壁際が幅広の溝状に掘り込まれている。

【出土遺物】 SK1堆積土、掘り方から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI384・385との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



SI390 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(37) × (33)	(48)	主柱穴 柱痕跡
P2	(楕円形)	(29) × (24)	(44)	主柱穴
P3	(円形)	(35) × (23)	(54)	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(円形)	(48) × (47)	(48)	主柱穴 柱痕跡
SK1	(隅丸長方形)	(51) × (42)	(16)	貯蔵穴

第62図 SI390 竪穴住居跡

SI390 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

SI390 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	3a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

SI391 竪穴住居跡(第63・64図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・50・57・58区に位置する。南壁はSD290の重複により失われ、西壁の南半部も攪乱のため失われている。

【重複】 Pit1037より古く、SI392・393より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸398cm、短軸374cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-21°-Eを測る。

【堆積土】 25層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4は人為的な埋土、5層は自然堆積とみられる。6層は周溝内に埋設した堰板^{せきいた}痕跡とみられるが、上部は失われている。7層は周溝堆積土、8～20層はカマド堆積土である。21～24層はカマド袖構築土、25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

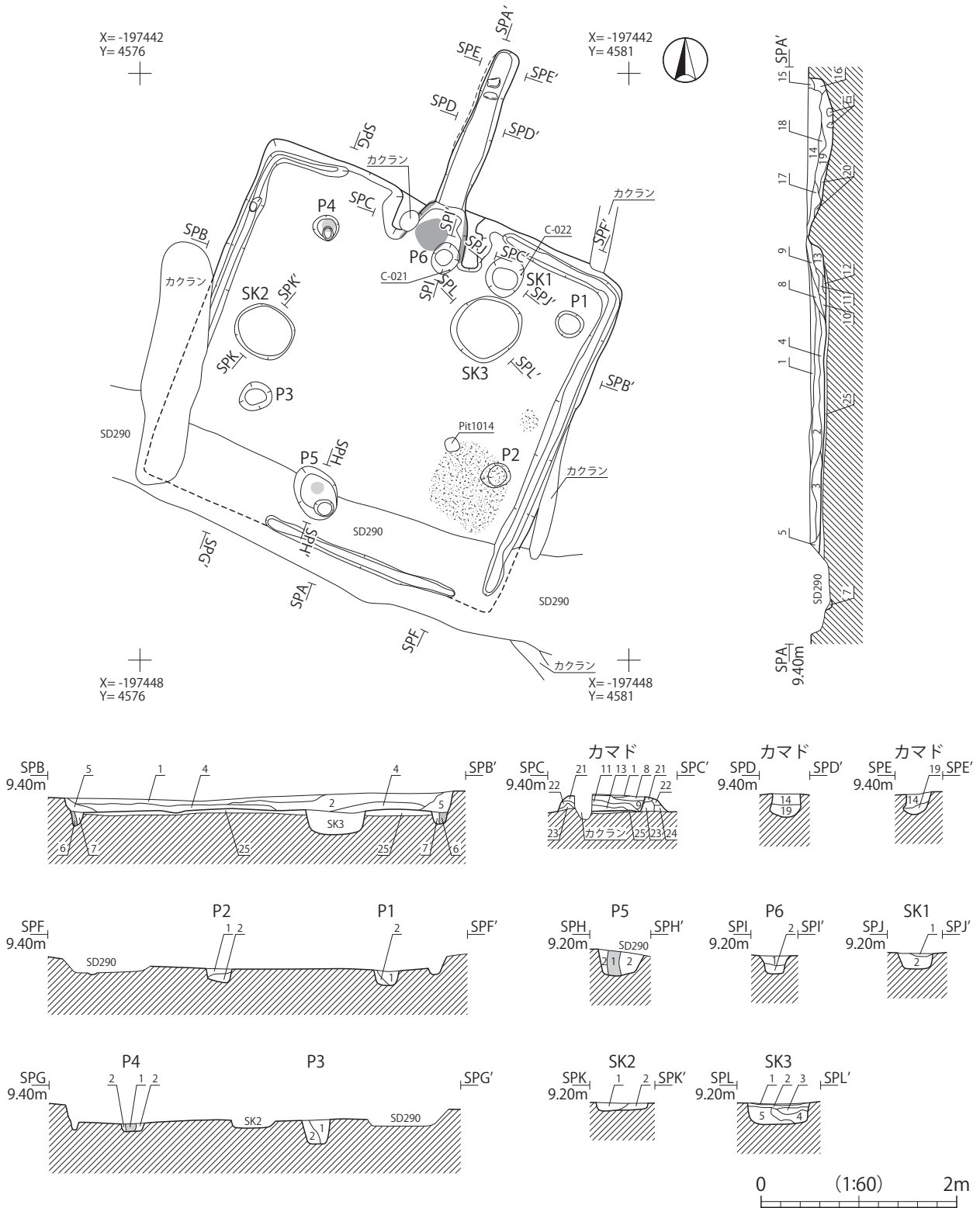
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。東壁際には2箇所の炭化物範囲がみられた。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸27～34cm、短軸25～29cm、深さ13～24cmを測る。全体的に浅く、配置も不整である。P4で径11cm程度の柱痕跡を確認した。P5は補助柱穴と考えられ、南壁際のほぼ中央部に配置されている。径12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 SD290の重複範囲にも一部残存することから、カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐると考えられる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～20cm、深さ3～14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、西袖の一部は攪乱により失われている。

東袖の規模は長さ59cm、幅33cm、西袖は長さ48cm、幅42cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き55cm、幅53cmを測る。底面は平坦で、中央部付近に長径34cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ170cm、幅26～33cm、深さ3～26cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。先端部底面からは扁平な自然礫が2点並んだ状態で出土している。



SI391 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	29×26	16	主柱穴
P2	楕円形	30×25	16	主柱穴
P3	円形	34×29	24	主柱穴
P4	円形	27×26	13	主柱穴 柱痕跡
P5	(楕円形)	(57)×(42)	32	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	楕円形	33×27	22	カマド構築関連の土坑か
SK1	円形	41×37	18	貯蔵穴
SK2	円形	61×53	9	性格不明土坑
SK3	円形	73×67	24	カマド関連土坑

第63図 SI391 竪穴住居跡

SI391 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
堰板痕跡	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体。焼土粒微量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、灰少量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	カマド袖構築土	21	10YR3/3 暗褐色	シルト
22		10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
23		10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
24		10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	25	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

SI391 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P5	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体、焼土粒・灰微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。

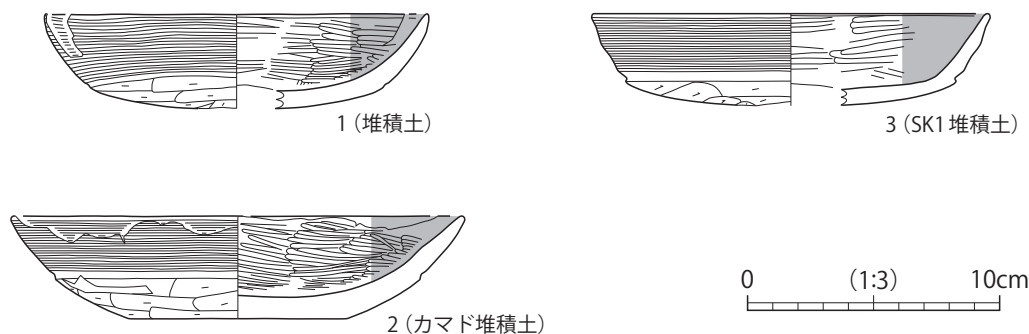
【その他の施設】 床面で土坑3基(SK1～3)、掘り方でピット1基(P6)を検出した。SK1はカマドの東脇、SK2はP3の北側、SK3はSK1の南側に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK3は堆積土に焼土や炭化物・灰を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。

SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸41cm、短軸37cm、深さ18cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸67cm、深さ24cmを測る。また、カマド焚口の直下で検出したP6は、カマドの構築に関連した土坑の可能性が考えられる。

【掘り方】 深さ1～13cmを測る。底面は概ね平坦だが、南東壁際が方形・長方形の土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環3点を掲載した(第64図)。2はカマドから、3はSK1から出土した。1～3はいずれも浅身で、口縁部と体部の境の段は沈線状を呈する。1は扁平な丸底で、2・3は平底を呈する。1は内湾しながら口縁部に至る。2の口縁部は内側がやや肥厚し、直線的に外傾する。3の口縁部は外傾し、端部に向かって器壁が薄くなる。いずれも内面に黒色処理が施されている。

【時期】 カマドとSK1から出土した土師器環(第64図2・3)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-020	SI391	堆積土	土師器	环	(15.0)	—	(3.8)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラスリ	ヘミガキ	内面黒色処理 内外面やや摩滅	315
2	C-021	SI391 かど	堆積土	土師器	环	(17.8)	8.8	4.1	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラスリ	ヘミガキ	内面黒色処理	315
3	C-022	SI391 SK1	堆積土	土師器	环	(15.8)	—	(3.6)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラスリ	ヘミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	315

第64図 SI391 竪穴住居跡出土遺物

SI392 竪穴住居跡 (第65～68図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・57区に位置する。壁と床面はSI391・394、SD290・297の重複や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SI391・394、SD297、Pit1037～1040より古く、SI393、SK449、Pit1100より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸513cm、短軸507cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-9°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～7層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～12層はカマド堆積土である。13層はカマド袖構築土、14・15層はカマド掘り方埋土、16・17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面としている。

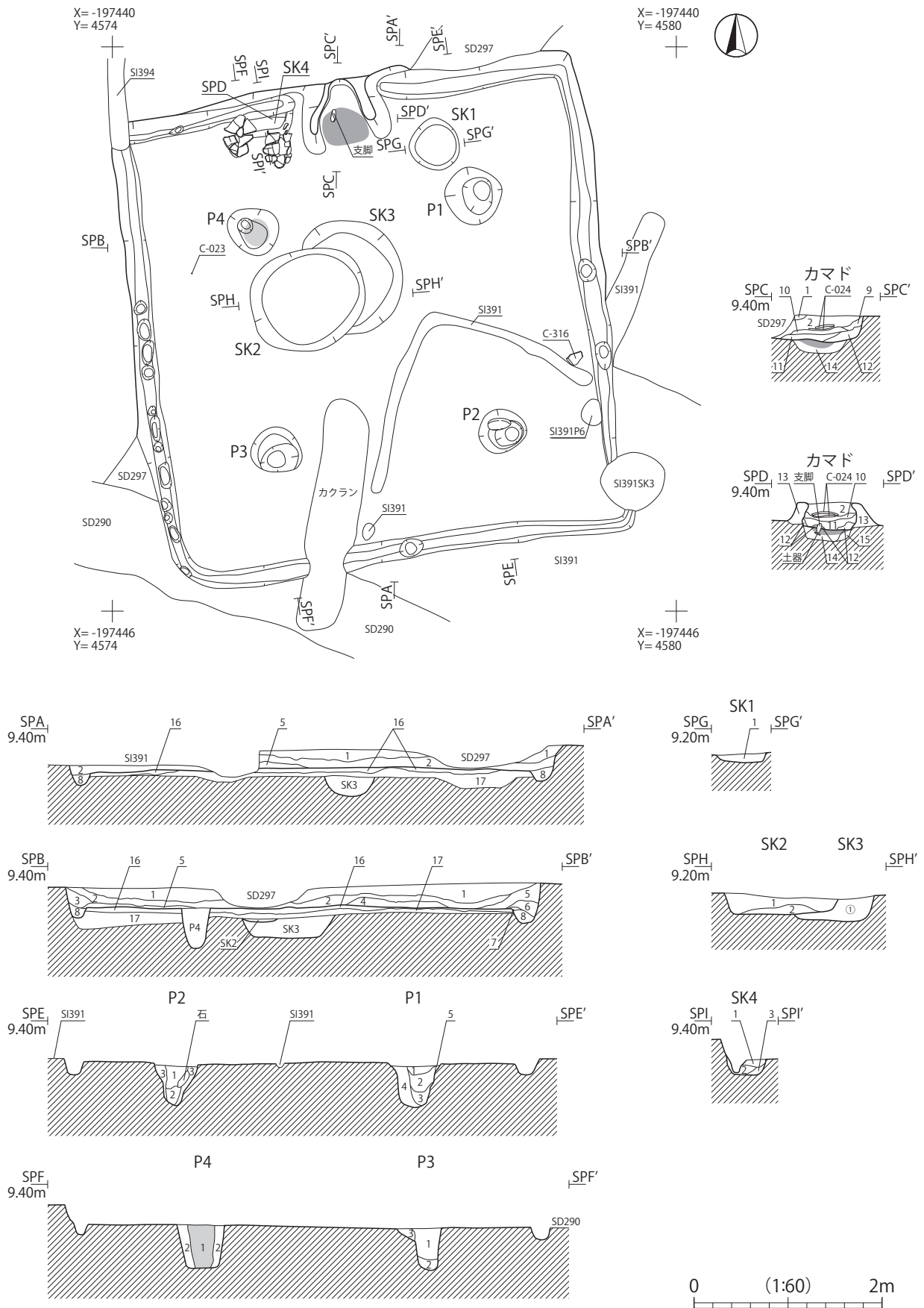
【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸51～62cm、短軸47～61cm、深さ45～66cmを測る。P4で径27cm程度の柱痕跡を、P1～3で柱の抜き取り痕を確認した。P1の堆積土上層からは扁平な自然礫が1点出土した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～32cm、深さ3～16cmを測る。

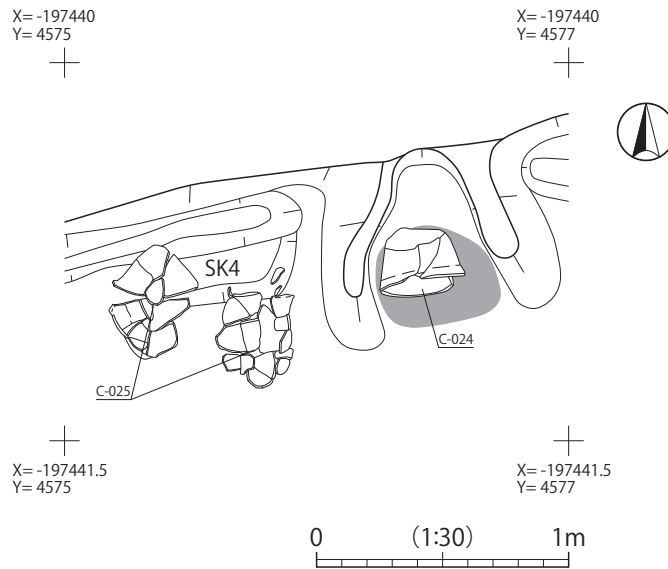
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ70cm、幅27cm、西袖は長さ74cm、幅22cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き74cm、幅45cmを測る。底面はわずかに起伏し、焚口付近に長径48cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側には、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら23cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で3基(SK2～4)の土坑を検出した。SK1はカマドの南東側に位置する。SK2・3は掘り方の中央部付近に重複して位置し、SK2が新しい。SK4はカマド西脇に位置する。SK1・4は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸56cm、短軸54cm、深さ7cmを測る。SK4の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸61cm、短軸43cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ2～25cmを測り、溝状・土坑状に掘り込まれている。



第65図 SI392 竪穴住居跡(1)



第66図 SI392 竪穴住居跡(2)

SI392 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	6	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土主体。
	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	9	5YR4/2 灰褐色	粘土質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	11	2.5Y7/1 灰白色	シルト	灰多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、灰少量含む。
カマド袖構築土	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)と黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)の互層。
カマド掘り方埋土	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰白色粘土帯状、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	17	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。

SI392 施設堆積土註記表

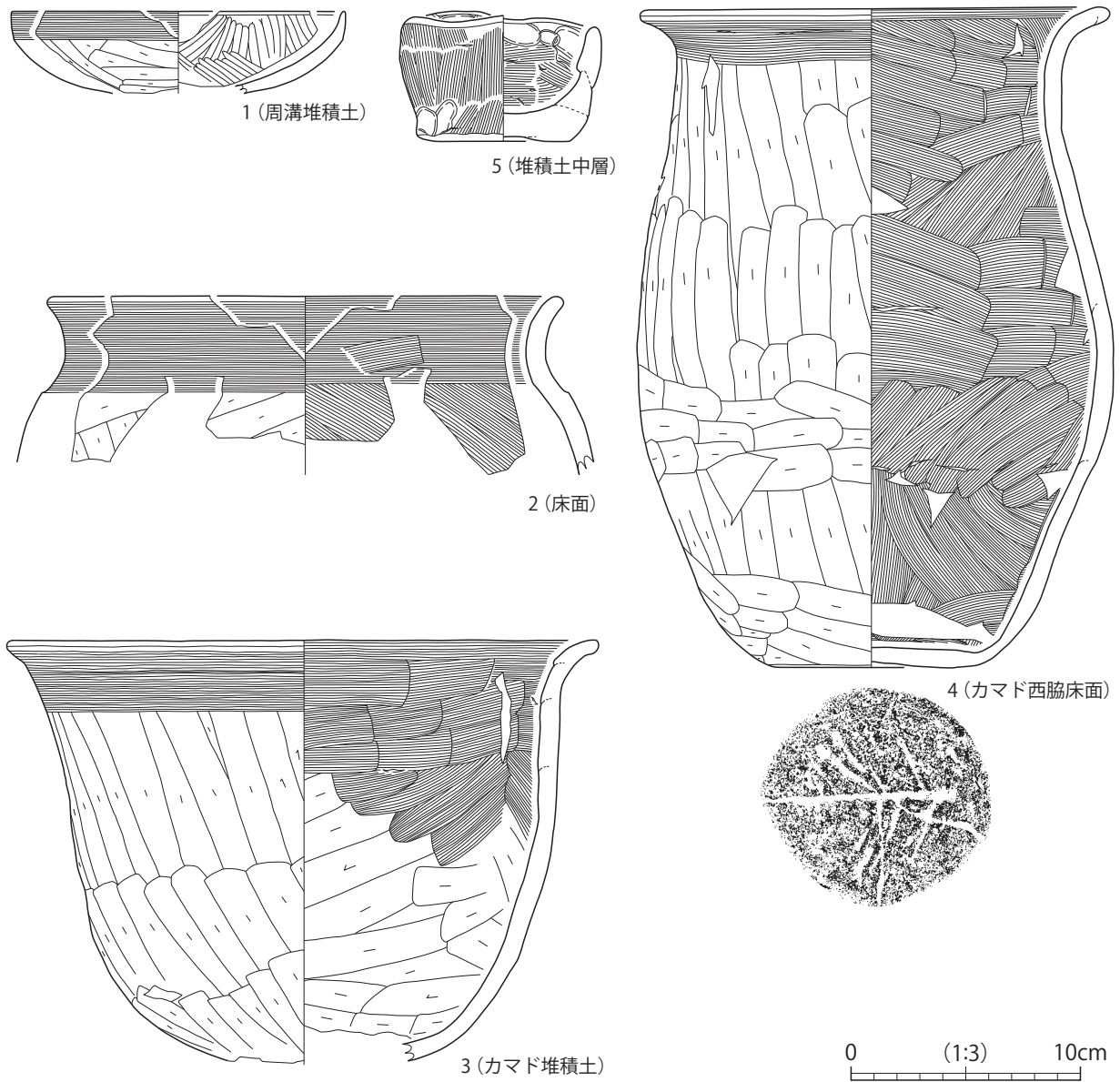
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)・IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK3	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI392 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	62×61	47	主柱穴
P2	円形	51×47	66	主柱穴
P3	円形	55×48	48	主柱穴
P4	楕円形	56×51	45	主柱穴 柱痕跡

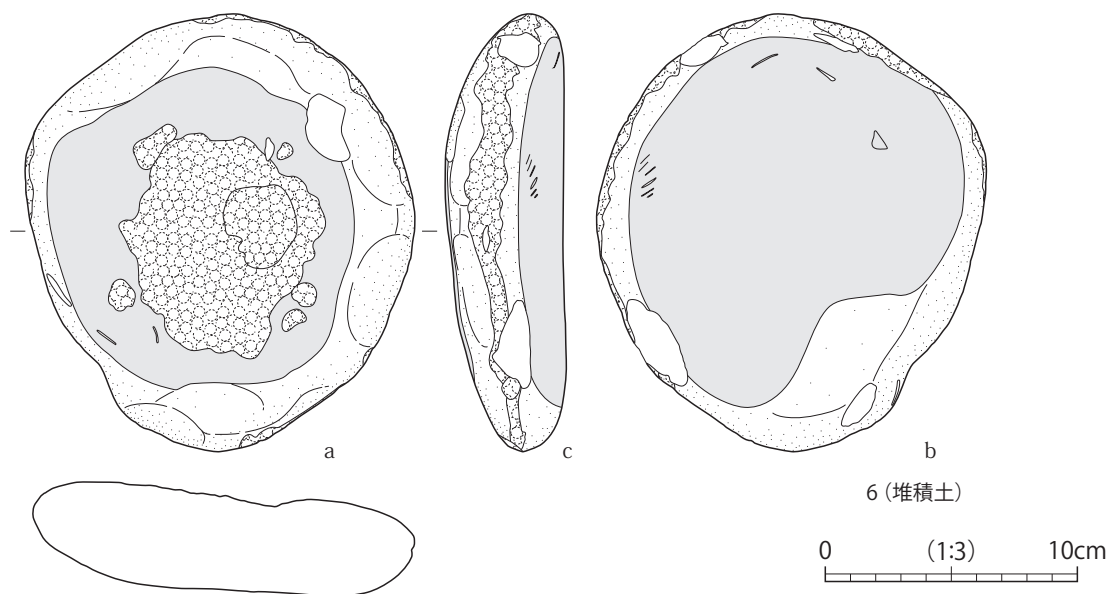
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	円形	56×54	7	貯蔵穴
SK2	円形	123×108	18	性格不明土坑
SK3	(円形)	121×(93)	28	性格不明土坑
SK4	(隅丸長方形)	(61)×(43)	16	貯蔵穴

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、金属製品などが出土し、土師器環1点・甕3点・ミニチュア土器1点、礫石器1点を掲載した(第67・68図)。3はカマドから、4はカマド西脇の床面から出土した。1は土師器環で、鬼高系土師器の特徴を持つ。緩やかに内湾する体部から口縁部で短く直立する。色調は浅黄橙色～橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と微量の海綿骨針を含む。2～4は土師器甕である。2は頸部に段



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-315	SI392 周溝	堆積土	土師器	環	(14.4)	—	(3.6)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘミガキ	関東系 骨針微量含む	315
2	C-316	SI392	床面	土師器	甕	(22.0)	—	(7.8)	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ→ヘナデ 胴部：ヘナデ		315
3	C-024	SI392 カマド	堆積土	土師器	甕	25.6	—	(18.4)	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴上半：ヘナデ 胴下半：ヘラスリ	骨針・角閃石少量含む 外面体部下半二次被熱による赤色化・摩滅	315
4	C-025	SI392 カマド西脇	床面	土師器	甕	19.9	8.8	28.8	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘナデ	底部木葉痕 骨針少量含む	315
5	C-023	SI392	堆積土中層	土師器	ミニチュア鉢	8.0	5.9	5.7	口縁～体中位：北ナデ 体下位：北ナデ→北ナデ	口縁：北ナデ 体部：北ナデ		315

第67図 SI392 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
6	Kc-004	SI392	堆積土	礫石器	台石	17.4	15.5	4.8	896.5	凝灰岩	磨2面(凸・やや凹)凹1面(浅)敲(平坦・側面)	316

第68図 SI392 竪穴住居跡出土遺物 (2)

を持つが、3・4は認められない。2の口縁部は外反気味に直立、3・4は外反して大きく開く。3は胴部径に比べて器高が低い短胴形である。4は上げ底状の薄手の底部で、胴部最大径が中位に位置する楕円形である。調整はいずれも外面にヘラケズリが施され、2は弱いヘラケズリ、4は胴部下半の最大径付近と底部付近に横方向のヘラケズリで、調整の方向が部分的に異なる。2の色調は淡橙色、3は浅黄橙色、4は灰白色～褐色を呈する。胎土はいずれもやや粗く、2・4は砂粒、3は3mm以下の砂粒を含む。いずれも少量の赤色粒子を含み、3と4は少量の海綿骨針を含む。5はミニチュアの鉢である。輪台状の底部から緩やかに内湾し、口縁部が直立する。6は台石で、磨石・敲石の機能を持つ。磨面が2面あり、a面に敲打による凹痕がみられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕(第67図2～4)の特徴およびSI391との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI393 竪穴住居跡 (第69図)

【位置・確認】 調査区北東部の49・50区に位置する。壁と床面はSI391・392の重複により、北東部のみ残存する。

【重複】 SI391・392より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸287cm、短軸164cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

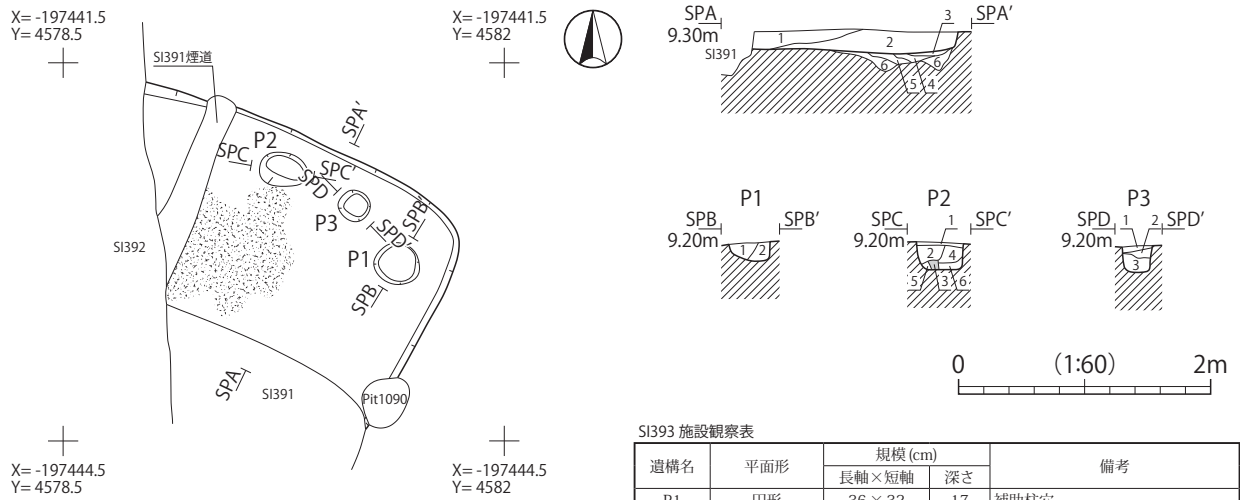
【方向】 東壁を基準としてN-30°-Eを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3～6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。西寄りには炭化物範囲がみられた。

【柱穴】 床面で3基(P1～3)を検出した。北壁から北東隅にかけて横並びに配置され、補助柱穴と考えられる。P2の堆積土下半で、径8cm程度の柱痕跡を確認した。



SI393 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	36 × 32	17	補助柱穴
P2	楕円形	38 × 27	22	補助柱穴 柱痕跡
P3	円形	25 × 24	21	補助柱穴

SI393 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5mm程度) 少量、IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm程度) 微量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量含む。

SI393 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒帯状に少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm程度)・焼土粒微量含む。
P3	6	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5mm程度) 少量、IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 40mm程度) 微量含む。

第69図 SI393 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ1～20cmを測り、壁際が溝状・土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI391・392との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。

SI394 竪穴住居跡 (第70図)

【位置・確認】 調査区北東部の41・49区に位置する。全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI392より新しい。

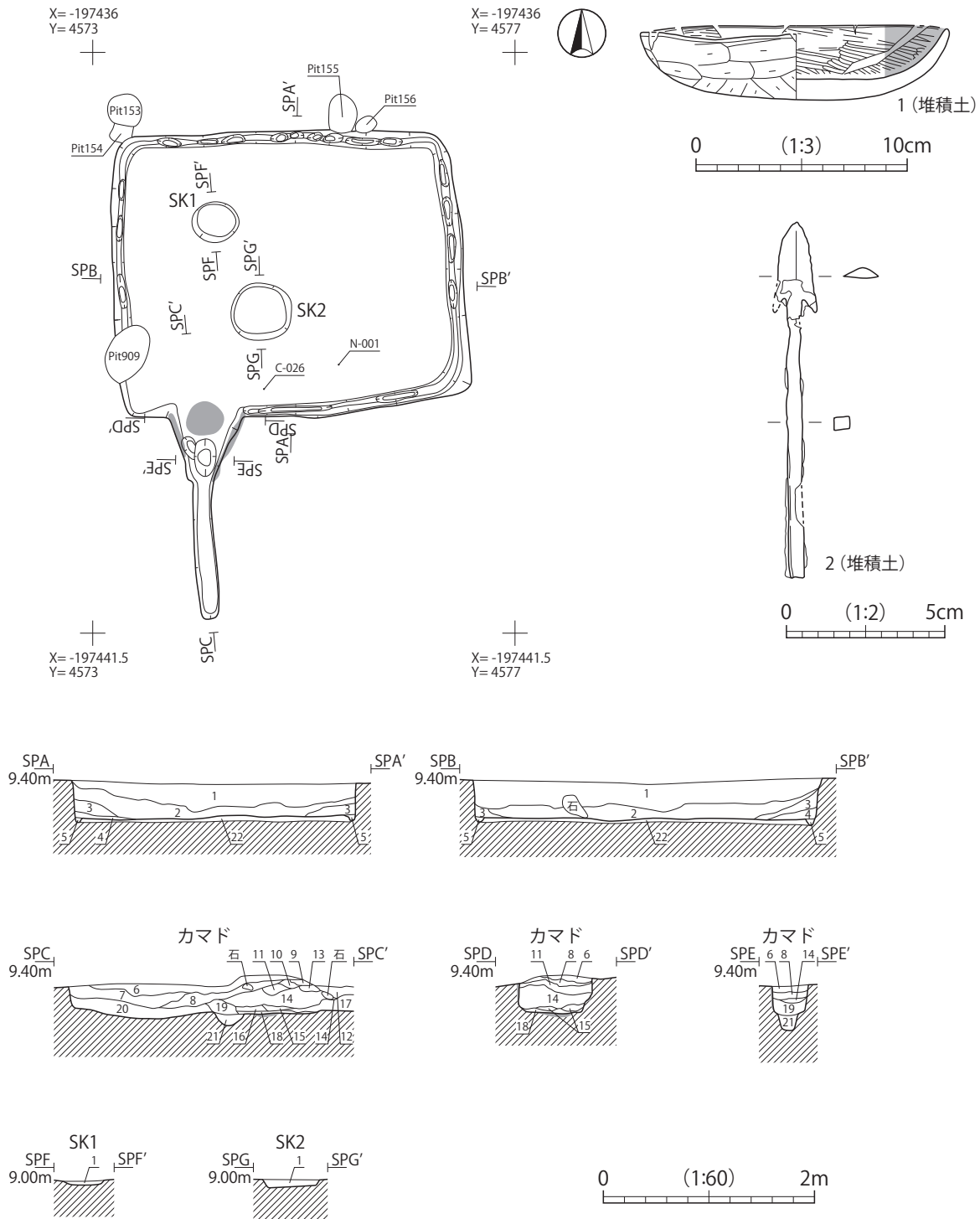
【規模・形態】 確認された規模は長軸331cm、短軸273cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-174°-Eを測る。

【堆積土】 22層に分層した。1～4層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5層は周溝堆積土、6～21層はカマド堆積土である。22層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトの埋土上面を床面とする。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-026	SI394	堆積土	土師器	环	14.5	—	3.5	ヘアアリ	ヘアガキ	内面黒色処理	316
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-001	SI394	堆積土	金属製品	鉄鏝	11.2	1.2	0.4	8.0	ほぼ完形 有頸	316	

第70図 SI394 竪穴住居跡・同出土遺物

SI394 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	15	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	18	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒・灰少量含む。
	19	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	20	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	住居掘り方埋土	22	10YR3/2 黒褐色	シルト

SI394 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI394 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	円形	45×39	6	性格不明土坑
SK2	円形	57×54	8	性格不明土坑

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～18cm、深さ1～6cmを測る。底面では壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。

【カマド】 南壁の西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃烧部は壁外に位置し、規模は奥行き76cm、幅67cmを測る。底面は煙道部側が弧状にくぼみ、焚口付近に長径35cm程度の焼面がみられる。堆積土中から棒状の自然礫が1点出土していることから、支脚が埋設されていた可能性もある。煙道部は長さ130cm、幅16～21cm、深さ22～27cmを測り、底面は燃烧部から水平に延び、先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともに床面の中央部付近に位置するが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ4～5cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第70図)。

1は浅身の土師器環である。厚手の平底風丸底から口縁部に向かって緩やかに内湾する。内面に黒色処理が施されている。2は有頸の鉄鏃である。鏃身部そくしんぶは両刃で逆棘かきりを持ち、断面形は片鑄造かたしのぎづくりである。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI392との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。

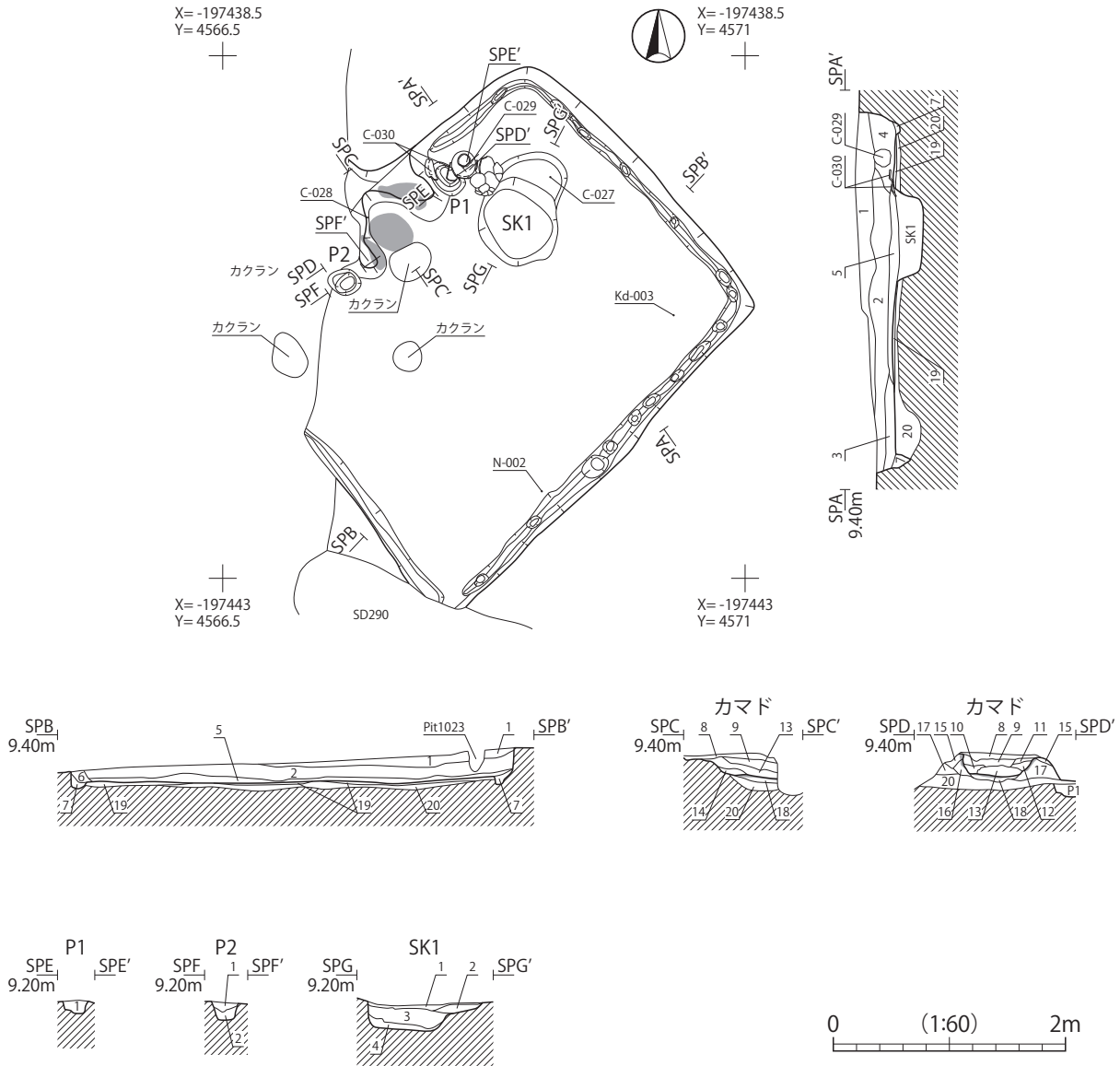
SI395 竪穴住居跡(第71・72図)

【位置・確認】 調査区北東部の40・41・48・49区に位置する。カマドの西袖から北西隅は、攪乱により失われている。

【重複】 SI396・398・407より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸381cm、短軸308cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。



SI395 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	11	5YR5/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土主体、炭化物粒微量含む。
	12	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒・骨片微量含む。 ※灰層
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	15	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	18	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)・灰多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	19	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。

第71図 SI395 竪穴住居跡

SI395 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～30mm程度)、炭化物粒少量含む。
P2	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)、炭化物粒多量含む。
SK1	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。

SI395 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	33×22	13	カマド構築関連の土坑か
P2	楕円形	29×23	15	カマド構築関連の土坑か
SK1	楕円形	99×72	21	貯蔵穴

【堆積土】 20層に分層した。1～6層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8～14層はカマド堆積土である。15～17層はカマド袖構築土、18層はカマド掘り方埋土、19・20層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅6～19cm、深さ3～9cmを測る。

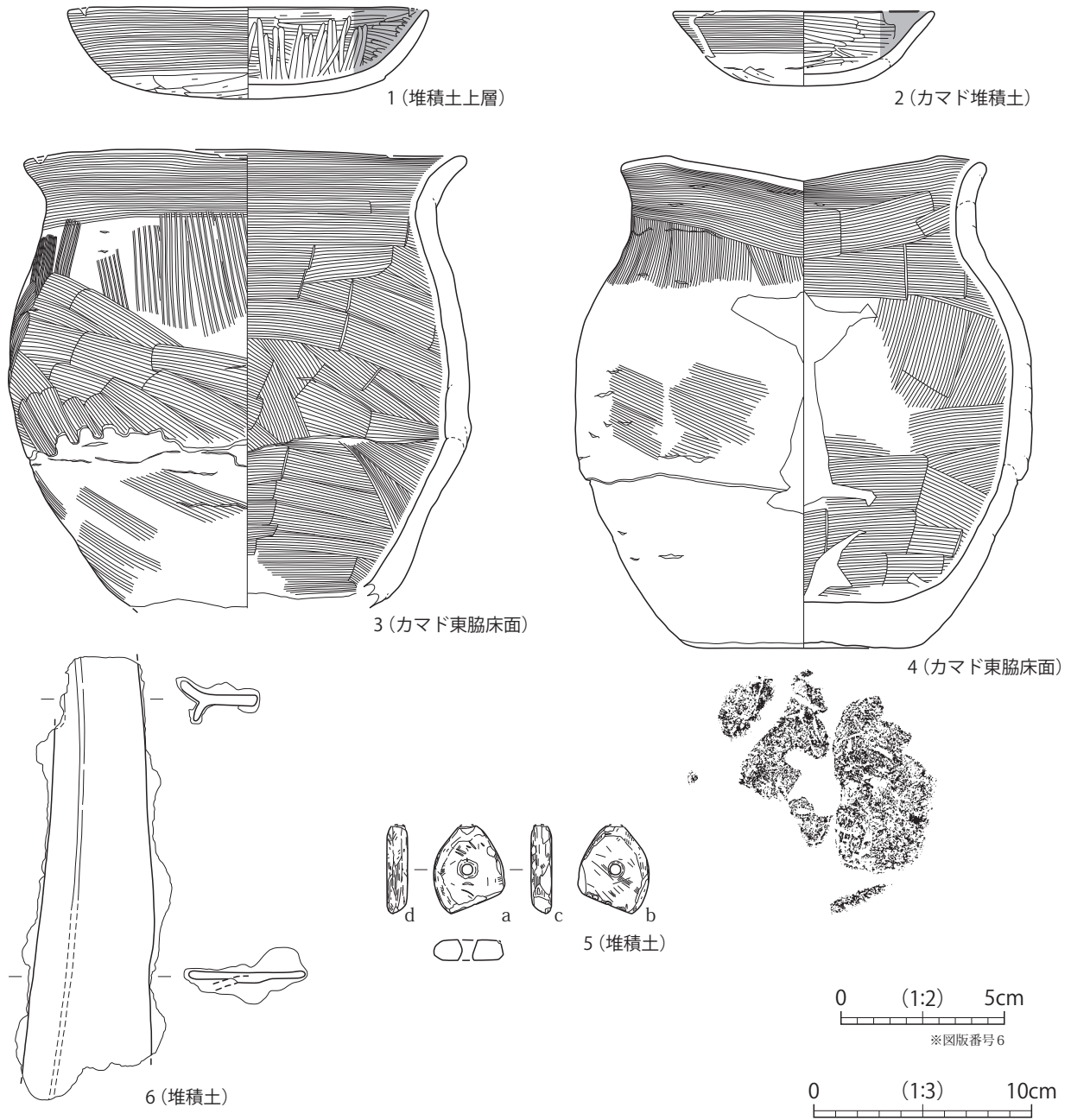
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。西袖の基部付近と煙道部の大部分は攪乱により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ57cm、幅39cm、西袖は長さ60cm、幅40cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き60cm、幅55cmを測る。底面はわずかに起伏し、中央部に長径40cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら10cm程度立ち上がる。煙道部は残存値で長さ32cm、幅24cm、深さ2～4cmを測り、底面はわずかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で土坑1基(SK1)、掘り方でピット2基(P1・2)を検出した。SK1はカマドの南東側に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、2基の土坑が重複している可能性もあるが、土層の観察では新旧関係は認められなかった。規模は長軸99cm、短軸72cm、深さ21cmを測る。堆積土上層に多量の炭化物を含む。またP1・2はカマドの脇に位置し、堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマドの構築に関連した土坑の可能性が考えられる。

【掘り方】 深さ2～23cmを測り、北半部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器坏2点・甕2点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第72図)。3・4はカマド東脇から出土し、前者は床面に倒立した状態で、後者は3の下位で押しつぶされるように出土した。1・2は土師器坏で、ともに平底風丸底である。1は浅身で、口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で内湾気味に外傾する。2は小型品で、口縁部は外反気味に外傾する。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は土師器甕で、ともに胴部中位に最大径が位置する球胴形である。これらには、胴部中位に段が形成されるほどの輪積痕が顕著に残る。3の口縁部は外反、4は直立後端部が短く外反する。4の器形の歪みは著しく、焼成は不良のため軟質で脆い。5は有孔石製品で、平面形は半楕円形を呈する。a面に溝状痕、a～d面に線条痕が認められる。中央には両側から穿孔された貫通孔がある。6は鉄製鋤先の側縁部である。木質柄の装着部には断面V字形の溝がめぐり、

【時期】 床面とカマドから出土した土師器坏・甕(第72図2～4)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。なお、第72図3の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦705～828年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-027	SI395	堆積土上層	土師器	環	(16.4)	—	4.2	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理	316
2	C-028	SI395 カマド	堆積土	土師器	環	(12.0)	—	3.4	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 外面被熱 火ハ 痕	316
3	C-029	SI395 カマド 東脇	床面	土師器	甕	20.0	—	(21.0)	口縁：ヨナテ 胴上位：ハナ 胴中～下位：ハナテ	口縁：ヨナテ 胴部：ハナテ	角閃石中量含む 外面やや摩滅	316
4	C-030	SI395 カマド 東脇	床面	土師器	甕	(16.2)	(9.6)	22.3	口縁：ヨナテ 胴上位：ハナテ 胴中～下位：不明	口縁：ヨナテ→ハナテ 胴部：ハナテ	底部木葉痕 外面やや摩滅 器形歪み顕著	316
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
5	Kd-003	SI395	堆積土	石製品	有孔石製品	4.0	3.3	1.0	10.9	凝灰岩	溝状痕 (a 面) 線条痕 (a～d 面) 両側穿孔 孔径 0.5～0.9cm	316
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
6	N-002	SI395	堆積土	金属製品	鉄製鋤先	(13.6)	3.6	0.4	136.3	基部		316

第72図 SI395 竪穴住居跡出土遺物

SI396 竪穴住居跡 (第73・74図)

【位置・確認】 調査区北東部の40・41・48区に位置する。北壁中央から南西隅が溝状の攪乱に、南壁の大部分がSI395の重複により失われている。

【重複】 SI395より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸460cm、短軸443cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-36°-Wを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～3層は黒褐色シルトの住居堆積土で、自然堆積とみられる。4～6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

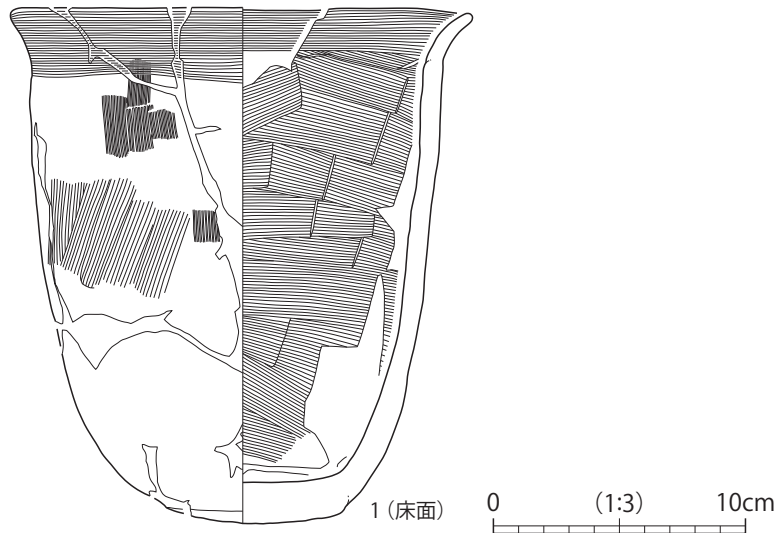
【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で2基(P5・6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、長軸44～54cm、短軸32～52cm、深さ43～49cmを測る。P2の堆積土下半とP3の堆積土で、径17～27cm程度の柱痕跡を確認した。P4・5は補助柱穴と考えられ、P4はP3の北側、P5は北東隅に配置される。P6は北西隅に配置されているが性格は不明である。またP5は浅いため、柱穴以外の可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ7～23cmを測る。底面は概ね平坦だが、西壁際の一部が幅広の溝状に掘り込まれている。

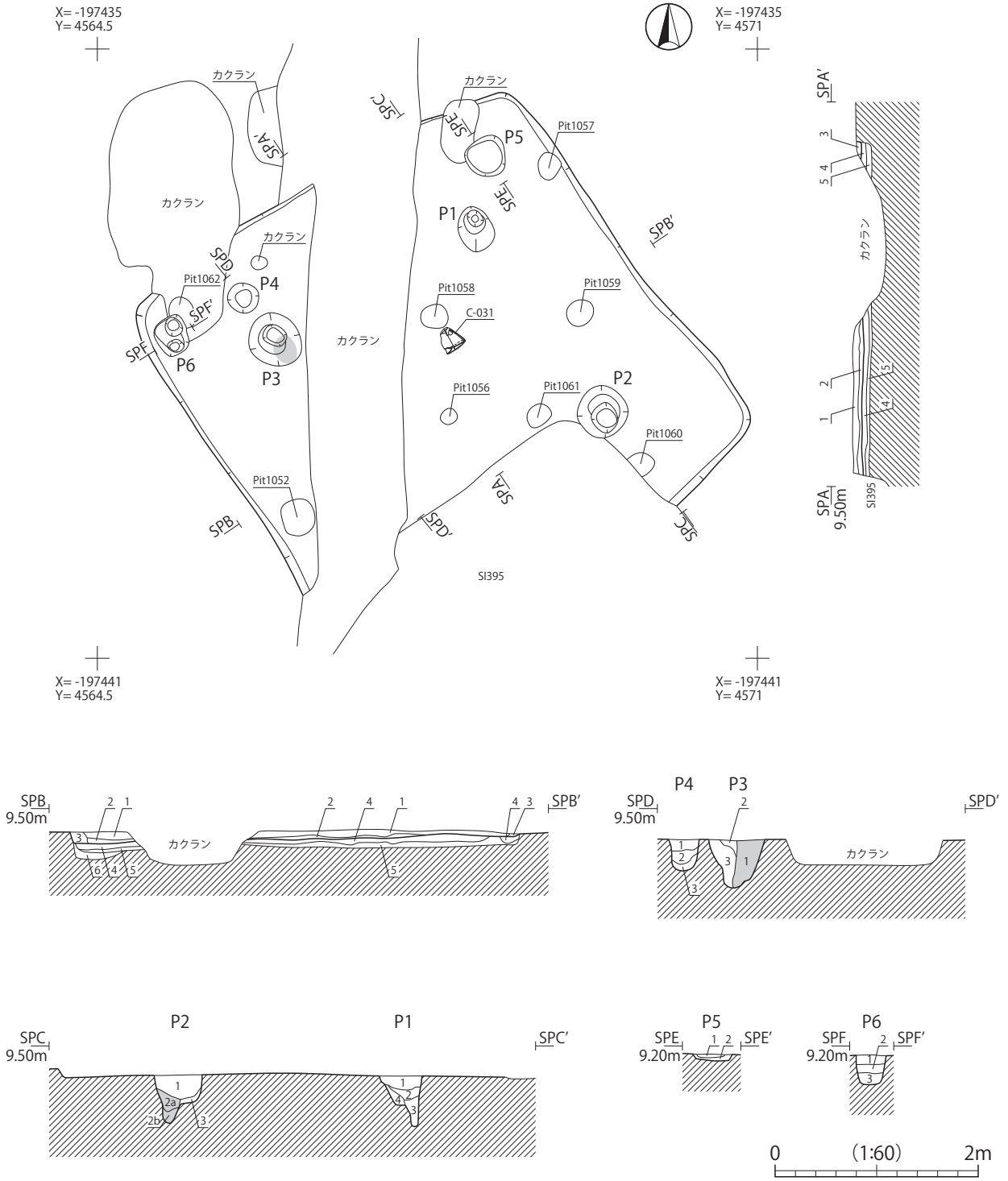
【出土遺物】 堆積土、床面から土師器が出土し、中央部付近の床面から潰れた状態で出土した土師器甕1点を掲載した(第73図)。丸底気味の底部で、胴部は直線的に立ち上がり、口縁部で外反気味に外傾する。二次被熱による剥離が著しく、口縁から底部まで剥離がおよんでいる箇所がある。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第73図1)の特徴およびSI395との新旧関係から、6期(8世紀前半)の可能性がある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-031	SI396	床面	土師器	甕	18.0	7.1	20.5	口縁：ハメ→ヨサテ 胴上位：ハメ 胴中位：ハメ→ハサテ 胴下位～底部：不明	口縁：ヨサテ 胴部：ハサテ	外面胴部下～底部摩滅 外面被熱による赤色化・剥離	317

第73図 SI396 竪穴住居跡出土遺物



SI396 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。 ※壁補強土か
住居掘り方埋土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土主体。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。

第74図 SI396 竪穴住居跡

SI396 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	2	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※グライ化
	3	5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※グライ化

SI396 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	44×32	49	主柱穴
P2	円形	51×50	43	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	54×52	47	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	31×30	31	補助柱穴
P5	円形	40×40	8	補助柱穴か
P6	(隅丸方形)	37×(32)	39	性格不明

SI397 竪穴住居跡(第75図)

【位置・確認】 調査区東側の100区に位置する。住居本体はSI389の重複により失われ、カマド煙道の先端部付近のみ残存する。その上部もSD299の重複により大部分が失われ、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI389、SD299より古い。

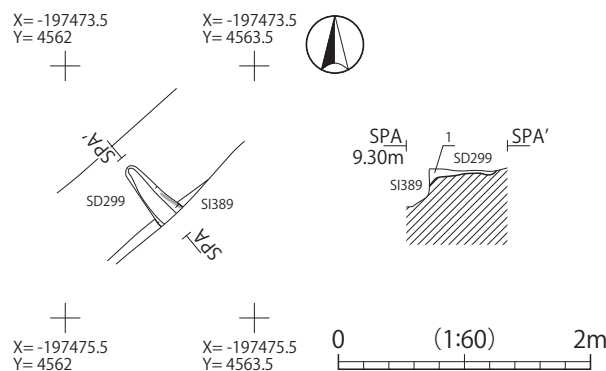
【方向】 N-40°-Wを測る。

【堆積土】 暗褐色シルトの単層である。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ53cm、幅10～23cm、深さ4～7cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI389との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



SI397 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※下部被熱

第75図 SI397 竪穴住居跡

SI398 竪穴住居跡 (第76図)

【位置・確認】 調査区北東部の41・48・49・56・57区に位置する。カマドと北西部がSI395の重複、西壁および床面の一部と南東・南西隅が重複遺構と攪乱により失われている。

【重複】 SI395、Pit1024より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸504cm、短軸481cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-9°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～5層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～9層はカマド堆積土、10～13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

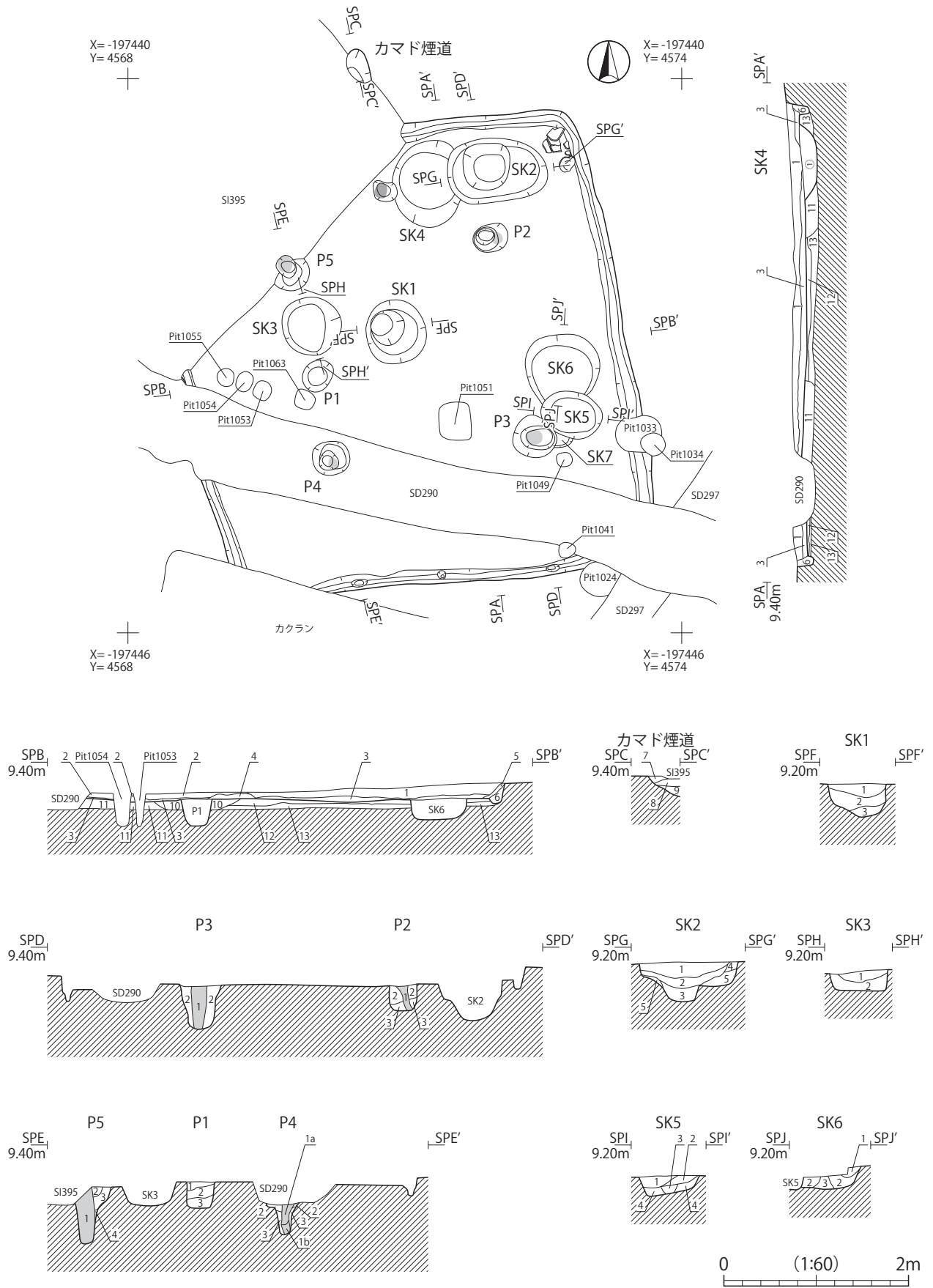
【柱穴】 床面で5基(P1～5)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP2～5の規模は、長軸39～46cm、短軸30～44cm、深さ35～64cmを測る。P2～5で径13～20cm程度の柱痕跡を確認した。P4とP5の中間に配置されているP1は補助柱穴と考えられる。

SI398 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド堆積土	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI398 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P4	1a	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、骨片微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
SK3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK4	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
SK5	1	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土斑状に含む。 ※グライ化
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に含む。 ※一部グライ化
	3	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土斑状に少量含む。 ※グライ化
	4	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※グライ化
SK6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	IV層土斑状に含む。 ※グライ化
	3	5GY5/1 オリーブ灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※グライ化
SK7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。



第76図 SI398 竪穴住居跡

SI398 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	36×30	25	補助柱穴
P2	楕円形	39×30	64	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	46×44	48	主柱穴 柱痕跡
P4	(円形)	(40)×(37)	(35)	主柱穴 柱痕跡
P5	(楕円形)	42×(35)	62	主柱穴 柱痕跡
SK1	円形	69×65	37	性格不明土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	楕円形	109×69	44	貯蔵穴
SK3	円形	64×64	24	カマド関連土坑
SK4	楕円形	99×(74)	11	貯蔵穴
SK5	楕円形	67×50	21	性格不明土坑
SK6	円形	81×(78)	26	性格不明土坑
SK7	(楕円形)	31×(20)	25	性格不明土坑

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅10～23cm、深さ4～10cmを測る。南壁周溝の底面には、壁材の痕跡とみられるくぼみが認められる。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、SI395の重複により燃焼部と煙道部の大部分が失われている。燃焼部は壁内に位置していたと考えられ、底面に焼面を伴う長軸26cm、短軸20cmの小規模なくぼみが残存する。燃焼部に関連する施設と考えられるが詳細は不明である。煙道は先端部のみ残存し、規模は残存値で長さ37cm、幅22cm、深さ25cmを測る。底面は緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で7基(SK1～7)の土坑を検出した。SK1・3は床面の中央部からやや西寄り、SK2・4はカマドから北東隅にかけて位置する。SK5～7は東壁際付近に位置し、このうちSK5・7は重複するP3により一部が失われている。SK2・4とSK5～7はそれぞれ重複関係にあり、SK2・4ではSK2が新しい。SK5～7ではSK5が最も新しいが、SK6・7の新旧関係は不明である。

SK2・4は位置や形状から貯蔵穴、SK3は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸109cm、短軸69cm、深さ44cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸、短軸ともに64cm、深さ24cmを測る。SK4の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸99cm、短軸74cm以上、深さ11cmを測る。

【掘り方】 深さ7～15cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI395との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI399 竪穴住居跡(第77～79図)

【位置・確認】 調査区北東部の24・25・31・32・39区に位置する。SD316の重複や攪乱により、壁面と床面の大部分が失われている。

【重複】 SD316と重複するが、同時代の重複遺構はない。

【規模・形態】 確認された規模は長軸597cm、短軸576cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 大別で8層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土でa・bの2層に細別した。5層はカマド堆積土、6～8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

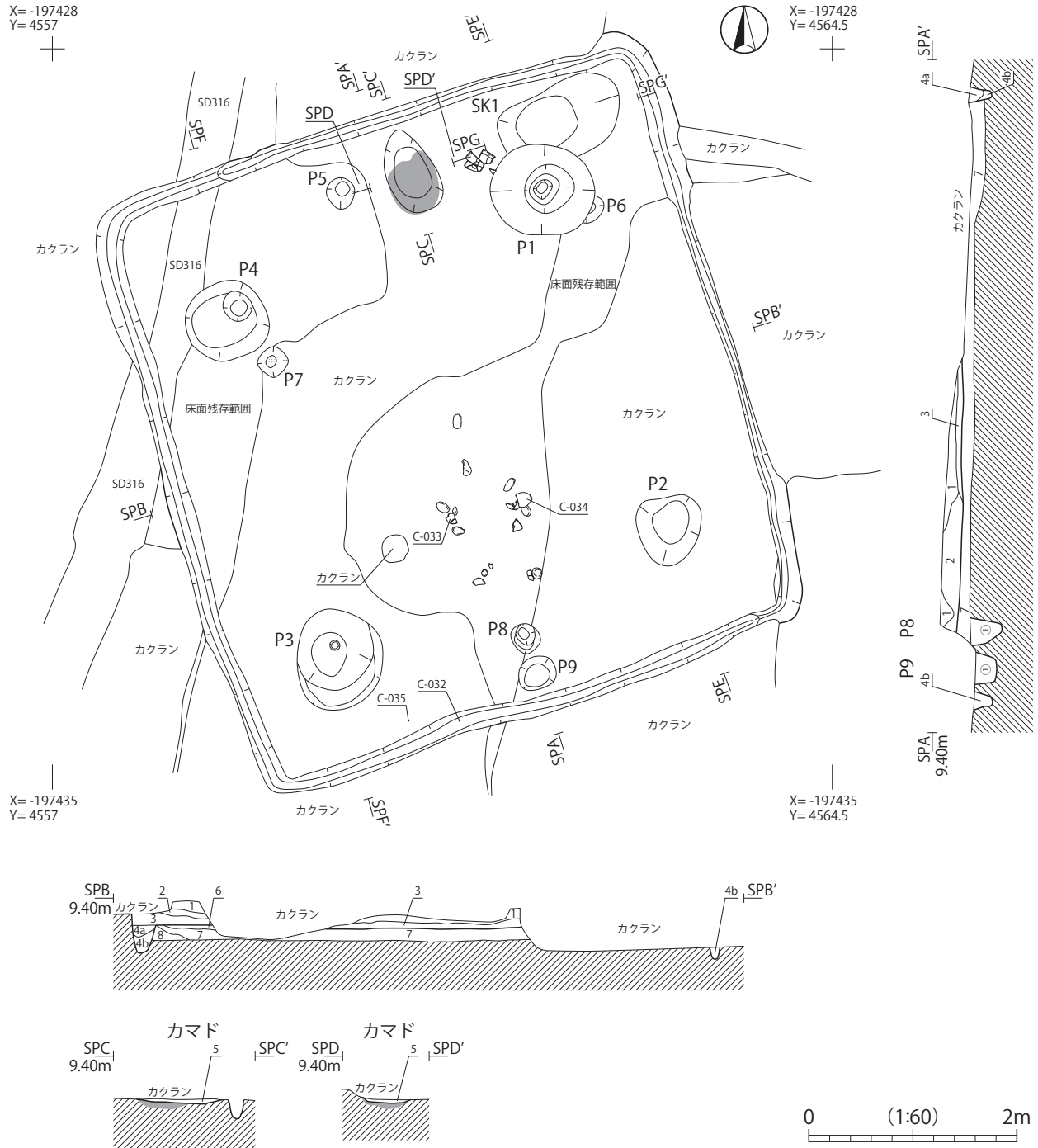
【床面】 概ね平坦で、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で5基(P5～9)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸70～99cm、短軸63～88cm、深さ38～67cmを測る。P5～9は性格不明である。

【周溝】 壁面に沿って全周する。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は残存値も含め幅10～29cm、深さ18～31cmを測る。幅に対して深く掘り込まれている。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、大部分が攪乱により失われ、土坑状に掘り込まれた燃烧部底面のみ残存する。燃烧部の掘り込みは壁面からやや内側に寄り、規模は長さ82cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径52cm程度の焼面がみられる。

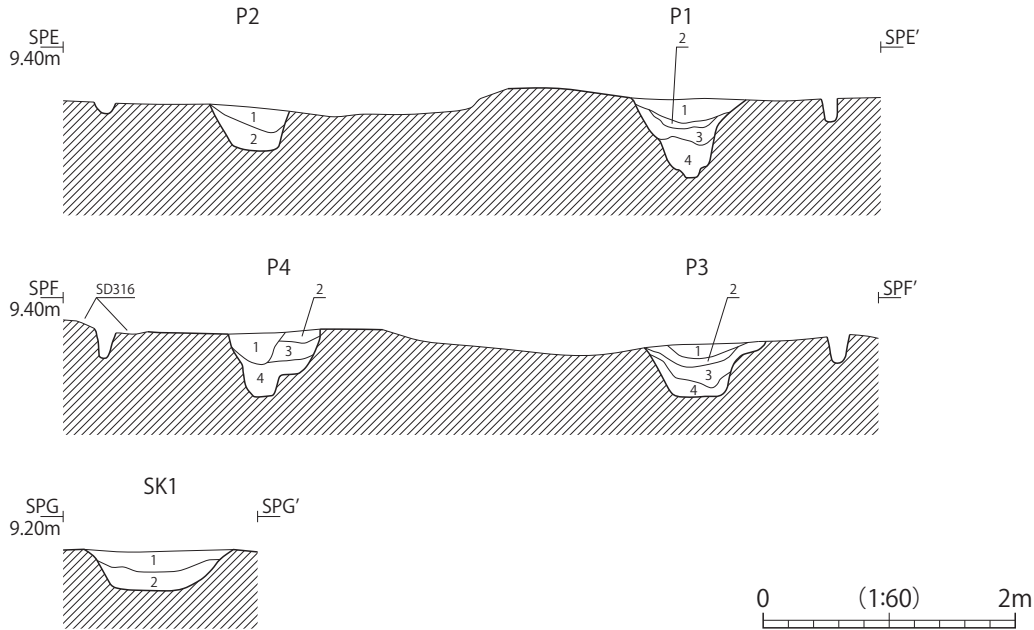
【その他の施設】 掘り方で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、一部がP1の重複で失われている。位置や形状から貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形と考えられ、規模は長軸122cm以上、短軸71cm、深さ31cmを測る。



第77図 SI399 竪穴住居跡(1)

SI399 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(50~100mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
周溝堆積土	4a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。 ※灰層
住居掘り方埋土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。



SI399 施設堆積土註記表

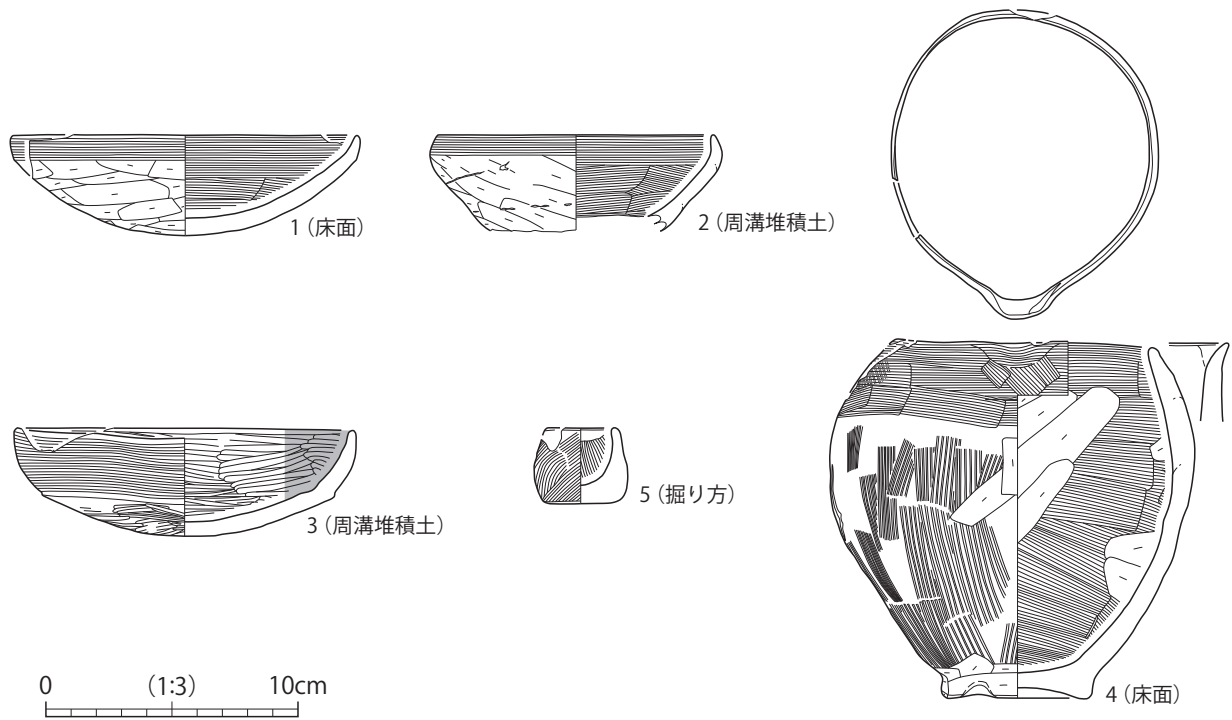
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(40~60mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	黒色シルトブロック(30mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(50~60mm程度)多量、黒色シルトブロック(30mm程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
	4	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~15mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルトブロック(30~50mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P5	1	10YR2/1 黒色	炭化物	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P8	①	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P9	①	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR8/3 浅黄褐色	砂質シルト	

SI399 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(99)×(88)	67	主柱穴
P2	(円形)	(70)×(63)	(38)	主柱穴
P3	(円形)	(97)×(82)	(43)	主柱穴
P4	円形	(78)×(73)	54	主柱穴
P5	円形	30×27	9	性格不明

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	(円形)	28×25	31	性格不明
P7	(隅丸方形)	(26)×(26)	30	性格不明
P8	(円形)	(28)×(25)	22	性格不明
P9	(楕円形)	(37)×(31)	23	性格不明
SK1	(楕円形)	(122)×(71)	31	貯蔵穴

第78図 SI399 竪穴住居跡(2)



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-033	SI399	床面	土師器	坏	(13.7)	—	4.0	口縁：ヨナデ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ハナデ	関東系 外面漆仕上げか 角閃石微量含む	317
2	C-320	SI399 周溝	堆積土	土師器	坏	(10.9)	—	(3.8)	口縁：ヨナデ 体部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ハナデ	関東系 骨針微量含む	317
3	C-032	SI399 周溝	堆積土	土師器	坏	13.3	—	4.3	口縁：ヨナデ 体～底部：ハラスリ→ハナミガキ	ハナミガキ	内面黒色処理	317
4	C-034	SI399	床面	土師器	片口	10.3	5.6	14.2	口縁：ヨナデ 体上位：ハナメ→ハナデ 体中～下位：ハナメ→一部ハラスリ 体下端～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ→ハナデ 体～底部：ハナデ→一部ハラスリ		317
5	C-035	SI399	掘り方	土師器	ミニチュア鉢	(2.6)	3.0	3.0	北ナデ	北ナデ		317

第79図 SI399 竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ2～18cmを測り、南東隅付近とカマド周辺が土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土し、土師器坏3点・片口鉢1点・ミニチュア土器1点を掲載した(第79図)。1・4は床面から出土した。

1～3は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持ち、2も関東系土師器と考えられる。1は丸底で、口縁部で短く直立する。外面は黒色漆仕上げと考えられ、内面は同心円状にナデ調整が施されている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、砂粒や少量の赤色粒子を含む。2は直線的に開く体部から口縁部で短く内傾する。内面はナデ調整が施されている。色調は橙色～浅黄橙色を呈し、胎土は粉のように細かくやや精良で、砂粒と赤色粒子、微量の海綿骨針を含む。3は口縁部と体部の境に内外面ともに明瞭な段を持つ。扁平な丸底から口縁部に向かって緩やかに内湾する。

4は土師器片口である。上げ底状の底部から内湾しながら口縁部に至る。片口部分は口縁の一部をつまむようにして3cm幅で突出する。片口鉢は在地でも認められるが、4の器形の特徴は北上盆地における類例が多いことから、東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。5はミニチュアの鉢である。平底から直立しながら口縁部に至る。

【時期】 床面から出土した土師器坏・鉢(第79図1・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI400 竪穴住居跡 (第80～83図)

【位置・確認】 調査区北部中央の23・24・30・31区に位置する。壁の上部は重複遺構や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SD286・302・303より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸420cm、短軸414cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-29°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～8層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～17層はカマド1堆積土である。18層はカマド1袖構築土、19層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、6層に分層した。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で54cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸52～59cm、短軸43～52cm、深さ30～47cmを測る。P4の堆積土下半で、径20cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 カマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～28cm、深さ5～19cmを測る。

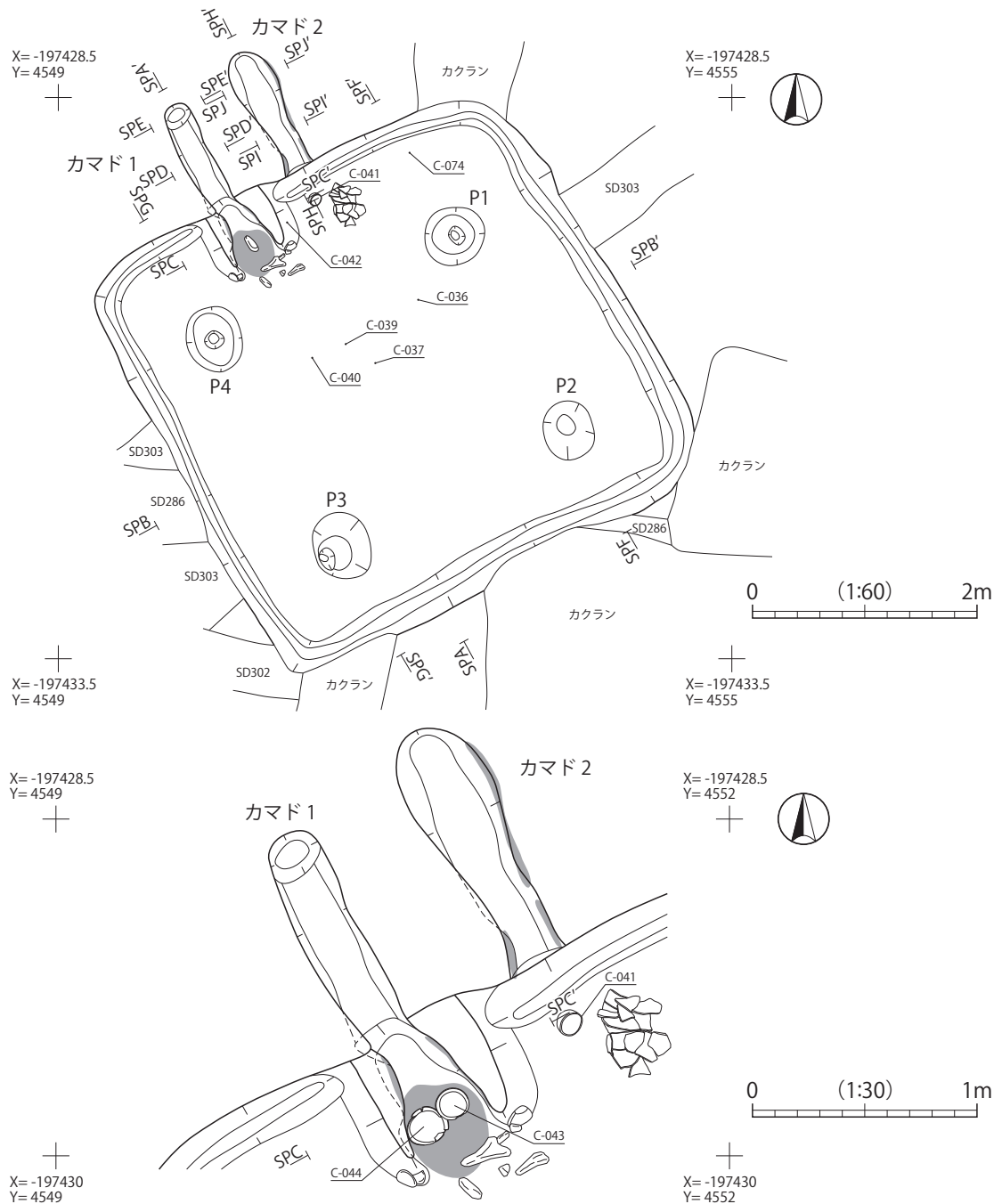
【カマド】 北壁中央部付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ66cm、幅24～36cm、西袖は長さ63cm、幅16～20cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き73cm、幅23～41cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径46cm程度の焼面がみられる。また、支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。奥壁は外傾しながら17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ94cm、幅20～26cm、深さ8～16cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。先端部はピット状を呈する。カマド2はカマド1の東側に位置するが、袖は失われ、燃烧部の奥壁と煙道部のみ残存する。燃烧部は壁内に位置し、奥壁は外傾しながら13cm程度立ち上がる。煙道部は長さ116cm、幅22～39cm、深さ13～20cmを測り、底面は途中まで緩やかに立ち上がり、中央部付近から先端部に向かって下がる。

【掘り方】 深さ4～14cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれる。

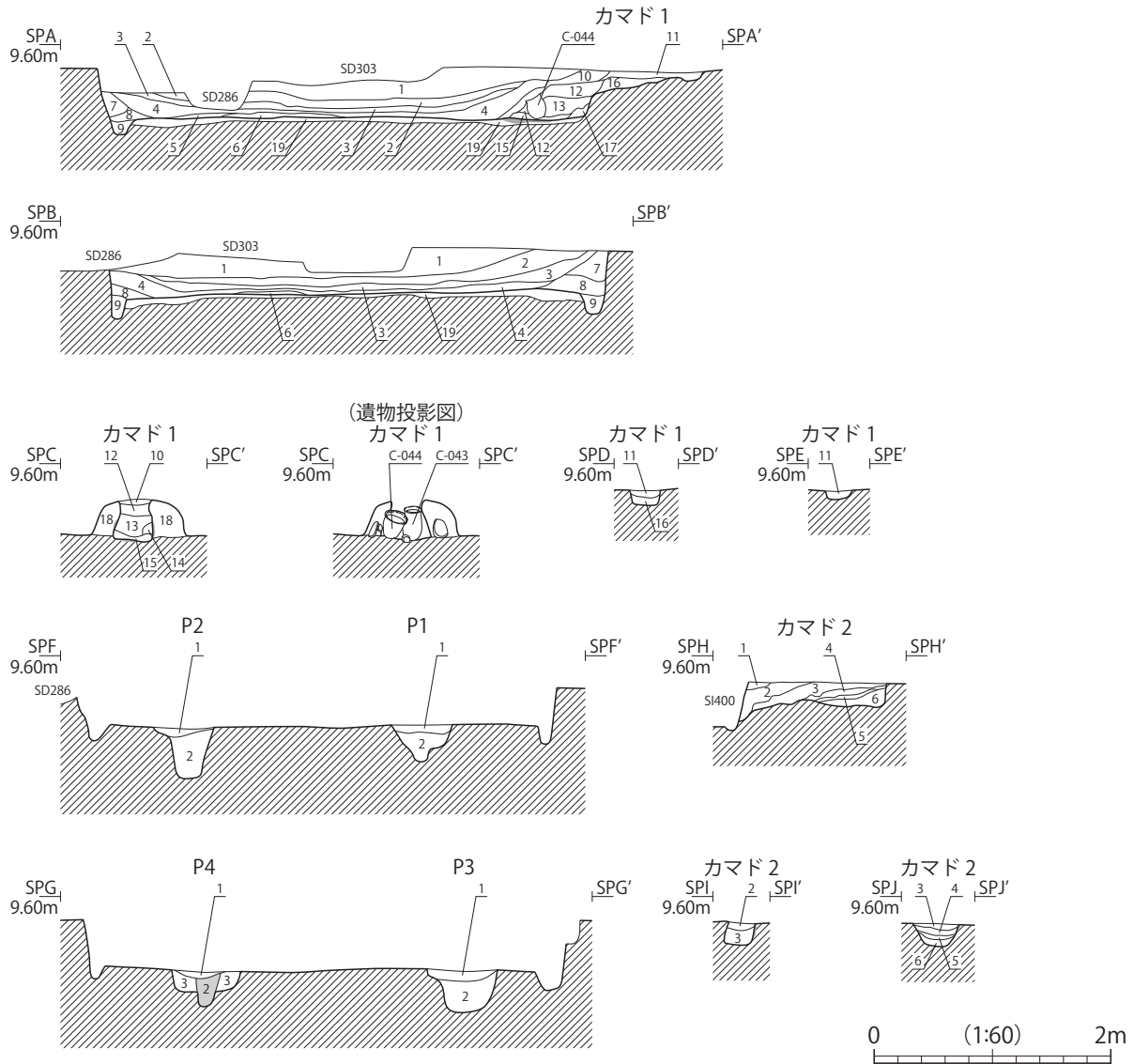
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、礫石器、金属製品などが出土し、土師器坏6点・蓋1点・鉢1点・甕1点・甌1点、礫石器1点を掲載した(第82・83図)。6はカマド1の東袖に埋め込まれた状態で出土した。8はカマド東脇の床面から、9・10はカマド1から出土した。1～6は土師器坏で、1・2は鬼高系土師器の特徴を持ち、ともに薄手で精巧なつくりである。1の底部は丸底、2は扁平な丸底を呈する。1の口縁部は短く直立、2が内傾気味に直立する。1の口縁部と体部の境は、外面に稜、2が外面に段、内面に稜を持つ。ともに内外面が黒色漆仕上げされている。1の色調はにぶい橙色、2がにぶい橙色～褐色を呈する。胎土はともに粉のように細かく精良で、少量の砂粒と赤色粒子を含む。3は浅身で、口縁部は内湾気味にやや外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面はナデ調整が施されている。色調は灰白色～橙色を呈し、胎土は粉のように細かくやや精良で、3mm以下の砂礫、海綿骨針を含む。関東系土師器と考えられる。4は2を小型化した形状で、内面に黒色処理が施されていることから、関東系土師器が在地化したものと考えられる。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、4mm以下の砂礫と海綿骨針を含む。5は半球形を呈し、口縁部で丸く折り返している。内面の黒色処理は認められない。6は平底気味の底部から内湾して立ち上がり、口縁部で外反気味に外傾する。内面に黒色処理が施されている。7は土師器蓋で、天井部上位は内湾し、中位から口縁部に向かって直線的に開く。つまみは直径が5cmと大きく、整形が

粗い。内面に黒色処理が施されている。8は土師器鉢で、丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で直立する。9は土師器甕で、最大径が胴部中位に位置する張りのある楕円形で、口縁部は外反する。外面頸部の段は部分的に認められない箇所がある。10は単孔の土師器甕である。胴部の張りは弱く、胴部中位から下端に向かって緩やかにすぼまる。頸部に段を持ち、口縁部は外反し中位でわずかに内湾する。11は台石で、敲石と磨石の機能を持つ。a・b面に敲打痕がみられ、a面には比較的強い敲打による凹痕が認められる。b面には敲打痕より古い磨面が残存する。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマド1から出土した土師器環・鉢・甕（第82・83図1・8～10）の特徴から、3期（6世紀末頃～7世紀前半）と考えられる。なお、カマド1手前の床面から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦568～605年という年代（1σ）が測定された（第6章第2節参照）。



第80図 SI400 竪穴住居跡(1)



SI400 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 30mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR7/2 にぶい黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 30mm 程度) 微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 微量含む。
周溝堆積土	9	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド 1 堆積土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※天井崩落土か
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
	15	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度)・炭化物粒・灰少量、IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 微量含む。
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
カマド 1 袖構築土	18	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
カマド 2 堆積土	1	10YR6/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	IV層土ブロック (20 ~ 30mm 程度) 多量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。

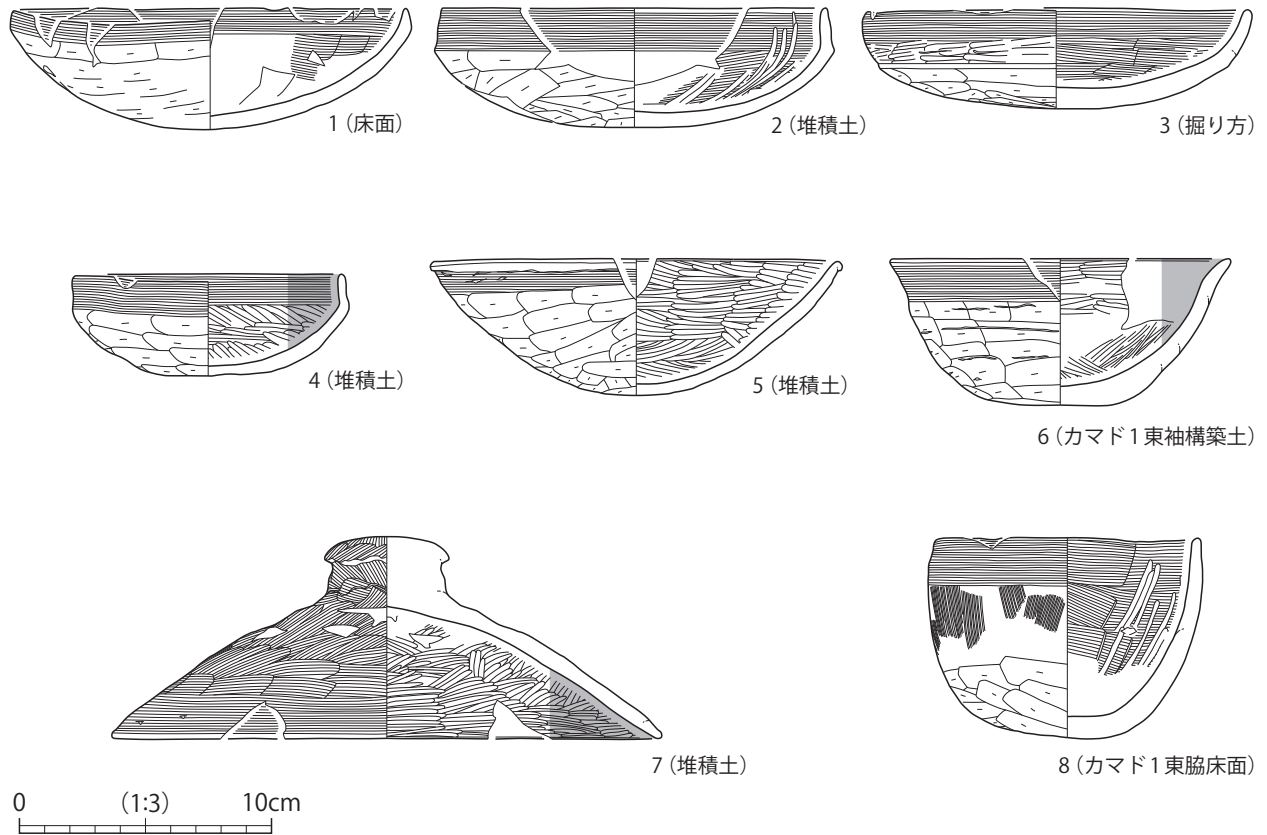
第81図 SI400 竪穴住居跡 (2)

SI400 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P3	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・赤色シルト粒(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

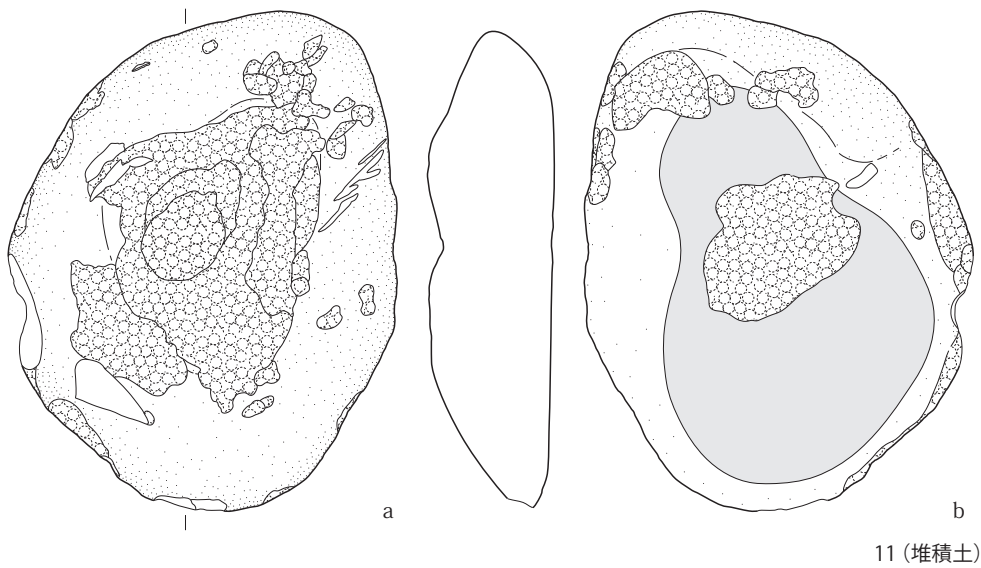
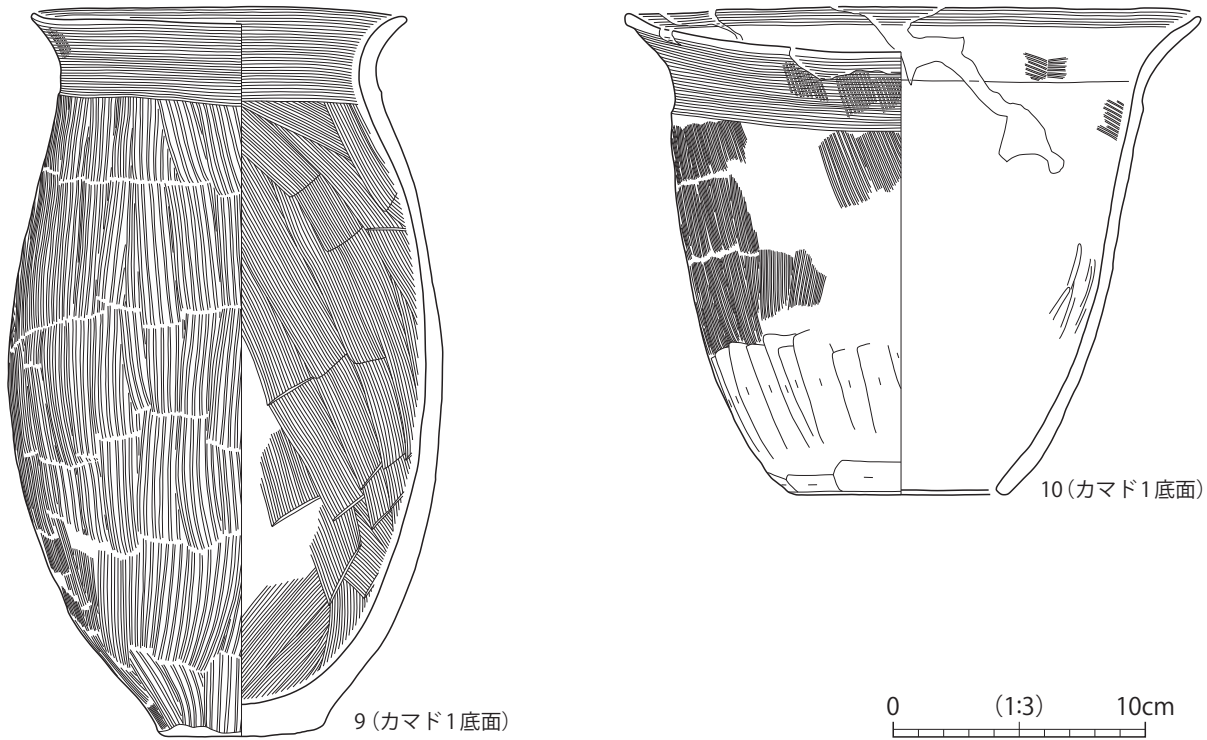
SI400 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考	遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	円形	55×52	32	主柱穴	P3	楕円形	59×49	47	主柱穴
P2	楕円形	52×43	44	主柱穴	P4	円形	58×49	30	主柱穴 柱痕跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-037	SI400	床面	土師器	環	15.6	—	4.8	口縁：ヨコテ 体部：ハラスリ 底部：ハメ→ハラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ハコテ	関東系 内外面漆仕上げか 内外面やや摩滅	317
2	C-328	SI400	堆積土	土師器	環	(15.2)	—	(4.7)	口縁：ヨコテ 体部：ハラスリ 底部：ハメ→ハラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ハコテ→ハミガキ (放射状か)	関東系 内外面漆仕上げ 内 面やや摩滅	317
3	C-074	SI400	掘り方	土師器	環	15.1	—	4.0	口縁：ヨコテ→ハミガキ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ハコテ	関東系 骨針中量含む 内外 面摩滅	317
4	C-036	SI400	堆積土	土師器	環	10.6	—	4.0	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ハミガキ	内面黒色処理 骨針中量含む	317
5	C-039	SI400	堆積土	土師器	環	(16.2)	—	5.4	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ		317
6	C-042	SI400 カマド1東袖	構築土	土師器	環	13.4	—	5.8	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理	317
7	C-040	SI400	堆積土	土師器	蓋	(21.8)	—	8.0	口縁：ヨコテ 天井部～ツマミ部：ハコテ	ハミガキ	内面黒色処理 ツマミに直径 3mm程度の圧痕	317
8	C-041	SI400 カマド1東脇	床面	土師器	鉢	10.4	—	8.0	口縁：ヨコテ 体上半：ハメ 体下半～底部：ハラスリ	ハコテ→ハミガキ	角閃石少量含む 内外面に煤 付着 体部内面下半に火傷痕	317

第82図 SI400 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
9	C-043	SI400 カマド 1	底面	土師器	甕	14.7	6.4	28.9	口縁：ハメ→ヨコテ 胴部：ハメ 底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ハコテ	内面やや摩滅	317
10	C-044	SI400 カマド 1	底面	土師器	甕	22.8	孔径 8.2	19.4	口縁：ハメ→ヨコテ 胴上～中位：ハメ 胴下位：ハラスリ	口縁：ハメ→ヨコテ 胴上位：ハメ 胴中～下位：ハラスリ	単孔内外面摩滅	318

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
11	Kc-006	SI400	堆積土	礫石器	台石	19.9	15.5	4.8	1319.1	凝灰岩	磨1面(平) 凹1面(深) 敲(平坦面)	318

第83図 SI400 竪穴住居跡出土遺物 (2)

SI401 竪穴住居跡 ※欠番・令和2年度の調査で付番

SI402 竪穴住居跡(第84図)

【位置・確認】 調査区北東部の39・40・47・48区に位置する。南西隅はSD290、西半部の壁・床面の一部はSD291・315の重複により失われている。

【重複】 SI407・SD291・315より古く、SI403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸526cm、短軸416cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-20°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～3層は黒褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～11層はカマド堆積土である。12層はカマド袖構築土、13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で14cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸46～62cm、短軸45～62cm、深さ37～51cmを測る。P1の堆積土下半とP2・4の堆積土で、径14～17cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP3の建て替え前の柱穴とみられ、堆積土下半で径16cm程度の柱痕跡を確認した。P3・5の南側に配置されているP6は補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分とSD291と重複する北西部付近を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～20cm、深さ3～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は焚口付近が失われている。東袖の規模は残存値で長さ46cm、幅38cm、西袖は長さ69cm、幅27cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き72cm、幅56～78cmを測る。底面は土坑状に掘り込まれ、奥壁際から支脚とみられる棒状の自然礫が倒れた状態で出土した。煙道部は燃焼部底面から水平に延び、先端部は攪乱により失われている。規模は残存値で長さ100cm、幅27cm、深さ26～27cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。床面中央部から南寄りに位置するが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ5～16cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、須恵器坏1点を掲載した(第84図)。口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。底部の切り離しはユビナデの再調整のため不明瞭だが、回転ヘラ切りの可能性がある。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と多量の海綿骨針を含む。

【時期】 床面から出土した須恵器坏(第84図1)の特徴およびSI403・407との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

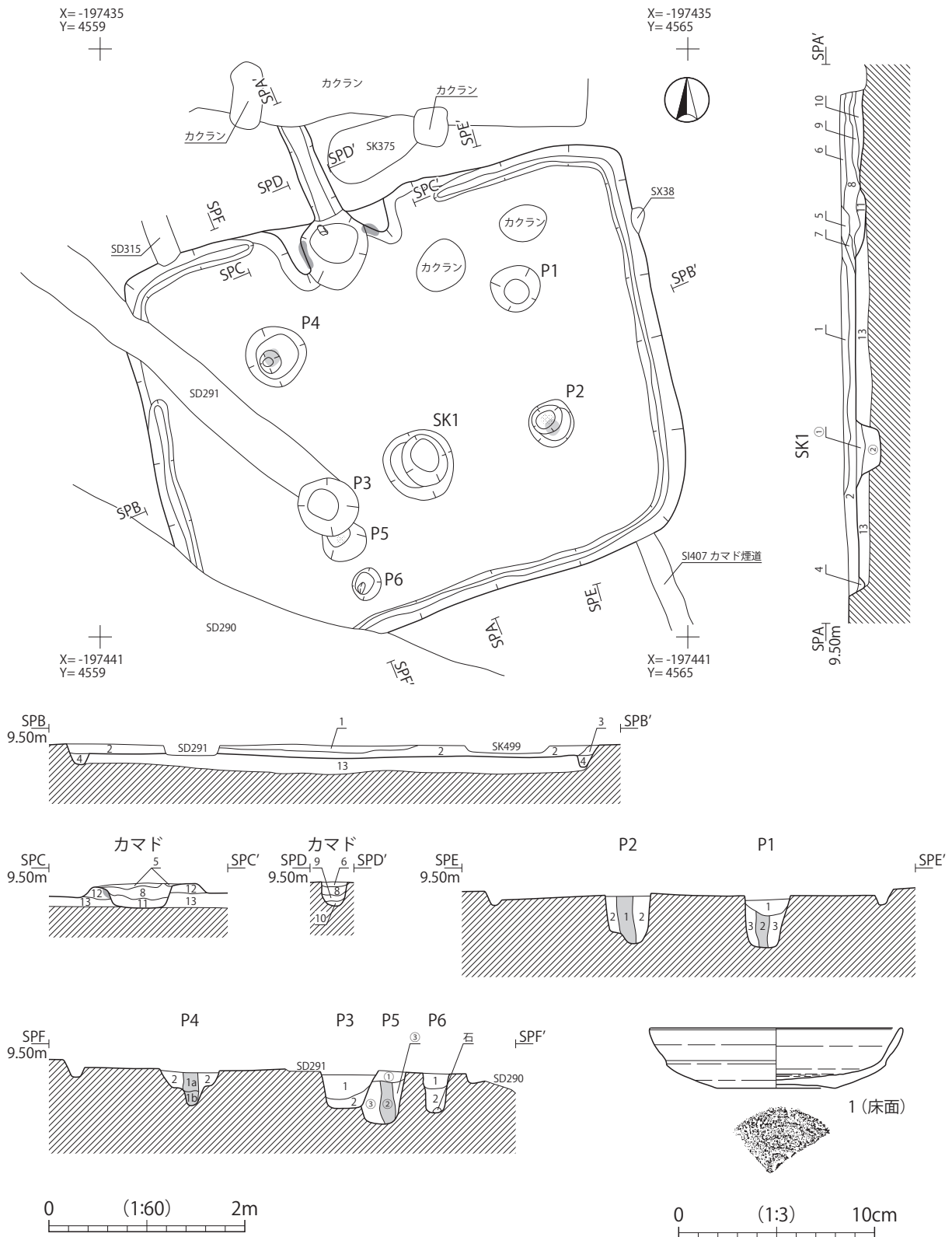
SI403 竪穴住居跡(第85～87図)

【位置・確認】 調査区北東部の39・40・47・48区に位置する。各壁の上部は重複遺構や攪乱により、大部分が失われている。

【重複】 SI402・407、SD291・315より古く、SI404より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸667cm、短軸529cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-16°-Wを測る。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-002	SI402	床面	須恵器	坏	(12.8)	(6.0)	3.1	叩調整 底部：回転へ切か→北' 行'	叩調整	骨針多量含む	318

第84図 SI402 竪穴住居跡・同出土遺物

SI402 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR7/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(40～50mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	12	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	13	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI402 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P4	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P5	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
P6	③	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
SK1	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI402 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50×46	51	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	46×45	46	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	(60)×60	37	主柱穴
P4	円形	62×62	38	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(円形)	(46)×46	53	旧主柱穴 柱痕跡
P6	円形	33×28	40	補助柱穴
SK1	円形	71×70	26	性格不明土坑

【堆積土】 大別で16層に分層した。1～5層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土の可能性がある。4・5層は自然堆積とみられる。6層は周溝堆積土で、a～cの3層に細別した。7～11層はカマド堆積土である。12～15層はカマド袖構築土、16層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で53cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)、掘り方で2基(P5・6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸22～63cm、短軸19～63cm、深さ26～45cmを測る。北半部のP1・4は、ほかの柱穴と比べ小規模である。P2・3で径16～23cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP4の、P6はP1のそれぞれ建て替え前の柱穴と考えられる。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅21～38cm、深さ8～17cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は攪乱により大部分が失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ92cm、幅42～46cm、西袖は長さ101cm、幅33～42cmを測る。燃燒部は壁内に位置し、規模は奥行き95cm、幅50cmを測る。底面は概ね平坦で、底面の全体におよぶ長径68cm程度の焼面がみられる。中央部西寄りには、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に21cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は燃燒部との接続部付近が残存し、規模は残存値で長さ19cm、

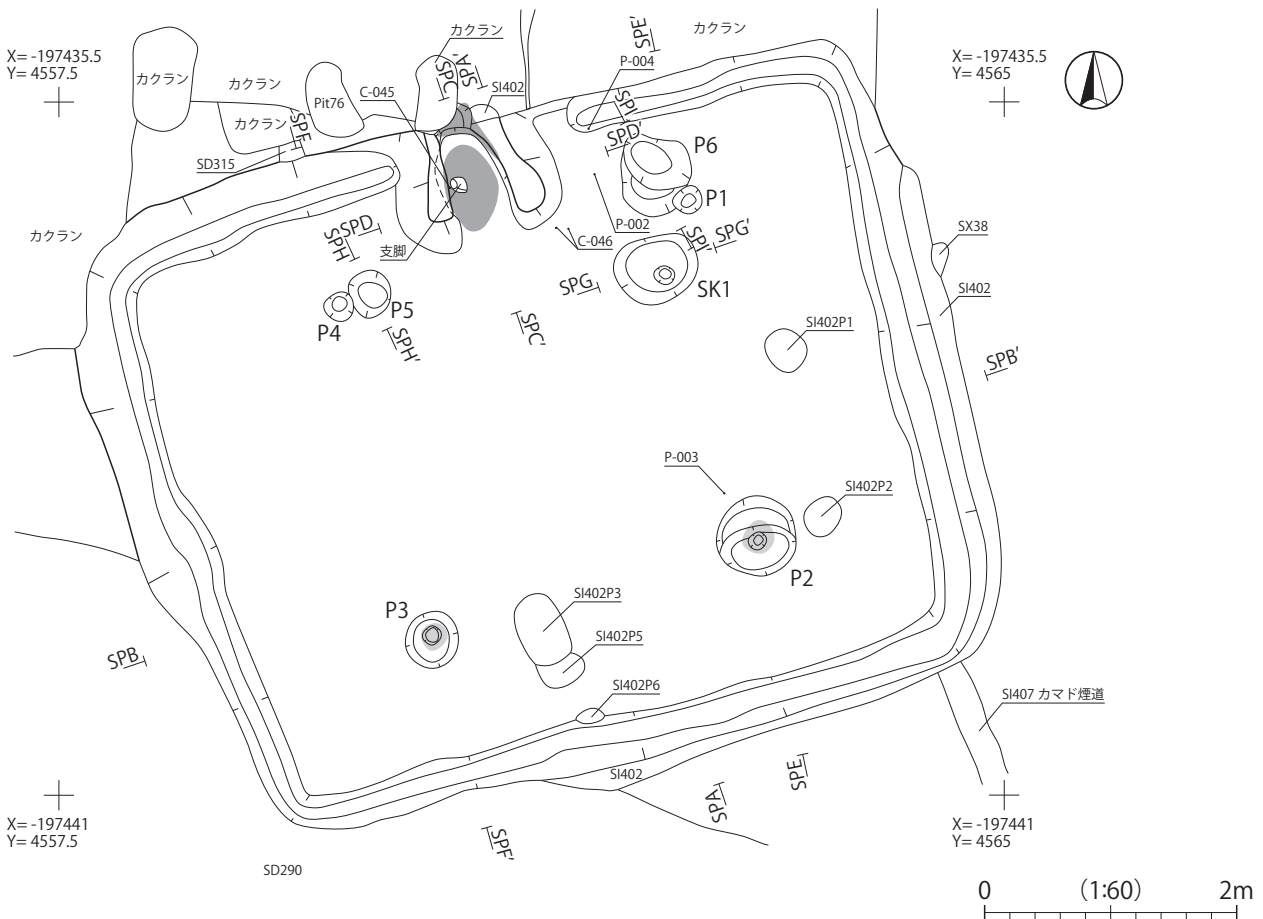
幅30cm、深さ22cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。P1の南西側に位置し、焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸66cm、短軸52cm、深さ21cmを測る。

【掘り方】 深さ5～16cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏1点・甕1点、土製品4点を掲載した(第87図)。1は土師器坏で、平底風丸底と考えられる底部から緩やかに内湾する。口縁部は内湾気味に外傾し、端部に向かって器壁が薄くなる。沈線状の段が口縁部と体部の境、口縁部下位にめぐる。調整は底部外面に強いヘラケズリが粗く施された後、体部上位に一定方向(右上がり)の不明工具痕が認められる。一部工具痕が揃う単位が認められるため、タタキまたは粗いハケメの可能性も考えられる。色調は橙色を呈し、胎土は精良で、砂粒と少量の海綿骨針を含む。口縁部の形状と体部外面の調整から、関東地方の影響を受けている可能性がある。2は土師器甕で、釣鐘形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。3は管状の土錘である。4～6は土玉で、4・5は球状、6は平玉状を呈する。4は外面にミガキ、5はナデが施されている。

【時期】 カマド堆積土から3期と考えられる土師器坏(第87図1)が出土していることや、SI402・404との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

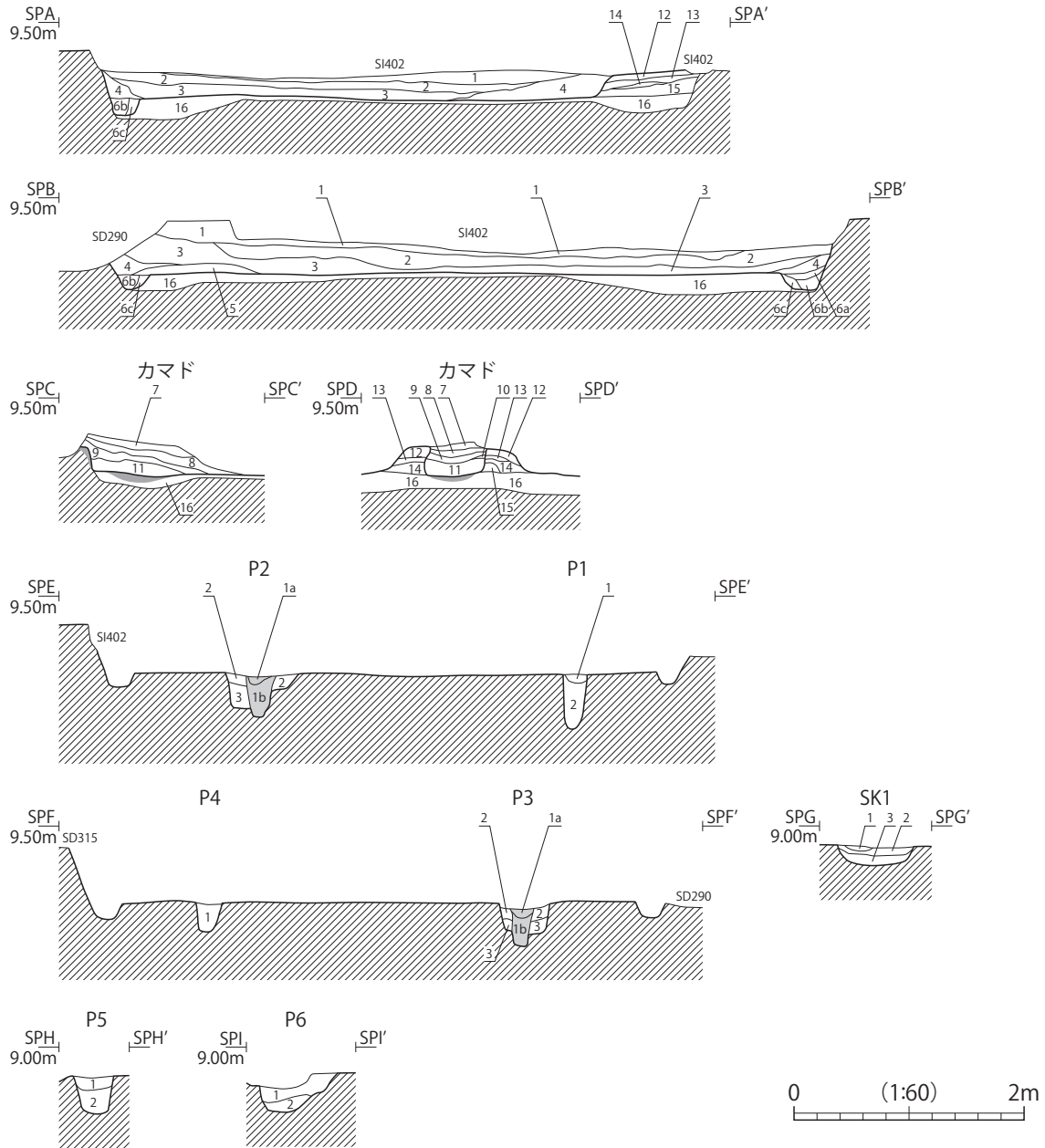


SI403 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×19	45	主柱穴
P2	円形	63×63	39	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	45×42	36	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	23×22	26	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	36×32	37	旧主柱穴
P6	楕円形	61×55	33	旧主柱穴
SK1	楕円形	66×52	21	カマド関連土坑

第85図 SI403 竪穴住居跡(1)



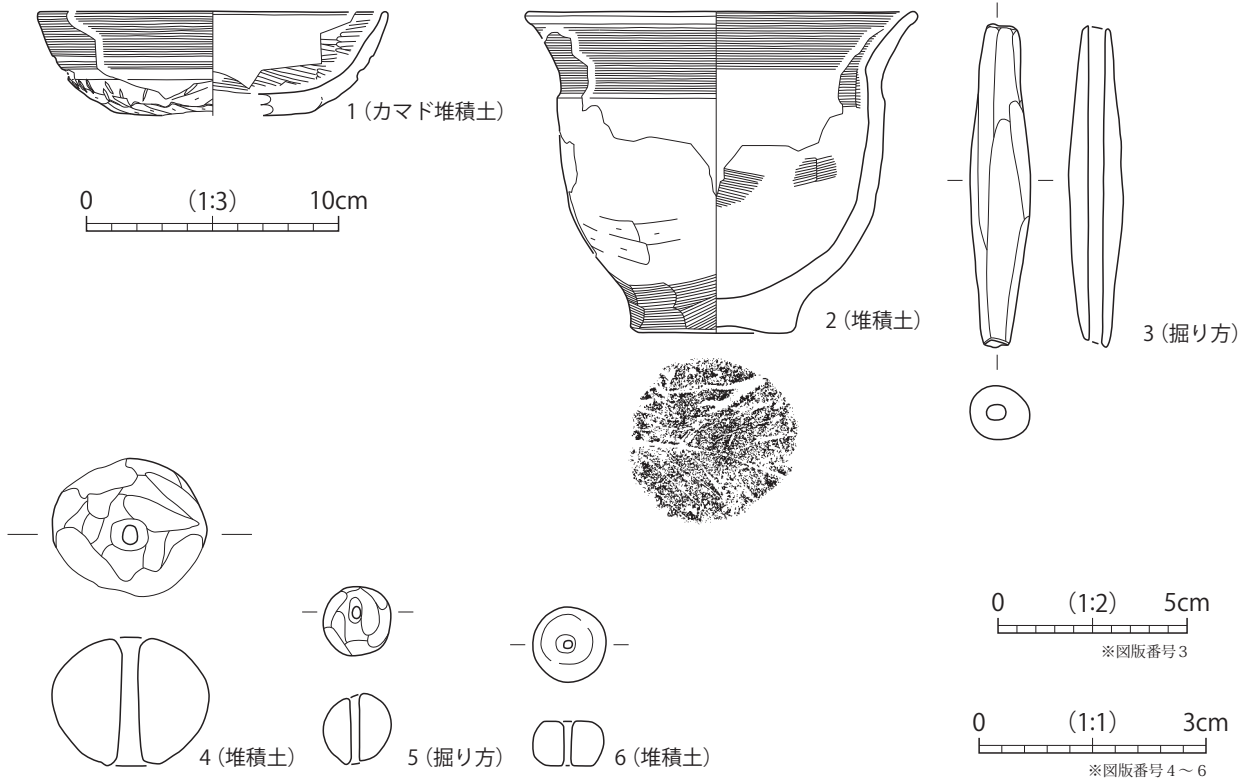
SI403 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(15~30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	6a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド堆積土	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
カマド袖構築土	12	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	15	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	焼土ブロック(10~20mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。

第86図 SI403 竪穴住居跡(2)

SI403 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P2	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・黒色シルトブロック(30mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量、白色粘土質シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。
P3	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P4	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P5	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
	2	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-045	SI403 カマド	堆積土	土師器	環	(13.8)	—	4.1	口縁：ヨコテ→沈線 体上位：アラスリ→不明工具痕 体下位～底部：アラスリ	アミガキ	関東系か 骨針少量、角閃石 微量含む 内外面底部被熱に よる赤色化	318
2	C-046	SI403	堆積土	土師器	甕	(15.3)	5.9	(12.8)	口縁：ヨコテ 胴部：アラスリ 胴下端：アラスリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：アラスリ	底部木葉痕 内外面摩滅	318
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
3	P-005	SI403	掘り方	土製品	土錘	8.5	1.6	1.5	16.5	テ 孔径0.4cm	318	
4	P-002	SI403	堆積土	土製品	土玉	1.8	2.1	(1.8)	5.8	ミガキ 孔径0.2～0.3cm	318	
5	P-004	SI403	掘り方	土製品	土玉	0.9	0.9	0.9	0.8	テ 孔径0.1cm	318	
6	P-003	SI403	堆積土	土製品	土玉	1.0	1.0	0.6	0.6	摩滅のため調整不明 孔径0.1cm	318	

第87図 SI403 竪穴住居跡出土遺物

SI404 竪穴住居跡 (第88～94図)

【位置・確認】 調査区北部中央の39・47区に位置する。東壁付近はSI403の重複により、また各壁の上部も重複遺構や攪乱により大部分が失われている。

【重複】 SI403、SD296・319、SK344・402・403、Pit137・1190・1199・1200・1311より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸522cm、短軸498cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～8層は褐灰色シルト・にぶい黄橙色粘土質シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。このうち3層は炭化物を主体とする層で、多量の遺物を含む。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド堆積土である。15層はカマド袖構築土、16層はカマド掘り方埋土、17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で47cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄橙色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4はいずれも小規模で、長軸20～30cm、短軸18～27cm、深さ29～39cmを測る。P1の堆積土とP2の堆積土下半で、径9～12cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～21cm、深さ8～15cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は攪乱により大部分が失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ98cm、幅30～35cm、西袖は長さ96cm、幅22～34cmを測る。燃燒部は壁内に位置し、規模は奥行き98cm、幅25～43cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径45cm程度の焼面がみられる。中央部付近には、自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は燃燒部との接続部付近と、先端部のみ残存する。規模は推定で長さ211cm、幅23cm、深さ7cmを測る。先端部はピット状を呈する。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器坏15点・鉢2点・甕4点・甑2点、須恵器高坏2点、土製品3点を掲載した(第91～94図)。また土師器壺1点を写真で掲載した(写真図版383-3)。これらの多くは、3層から多量の炭化物とともに出土している。19はカマドから、23はカマド東脇の床面から、27はカマド底面から出土した。

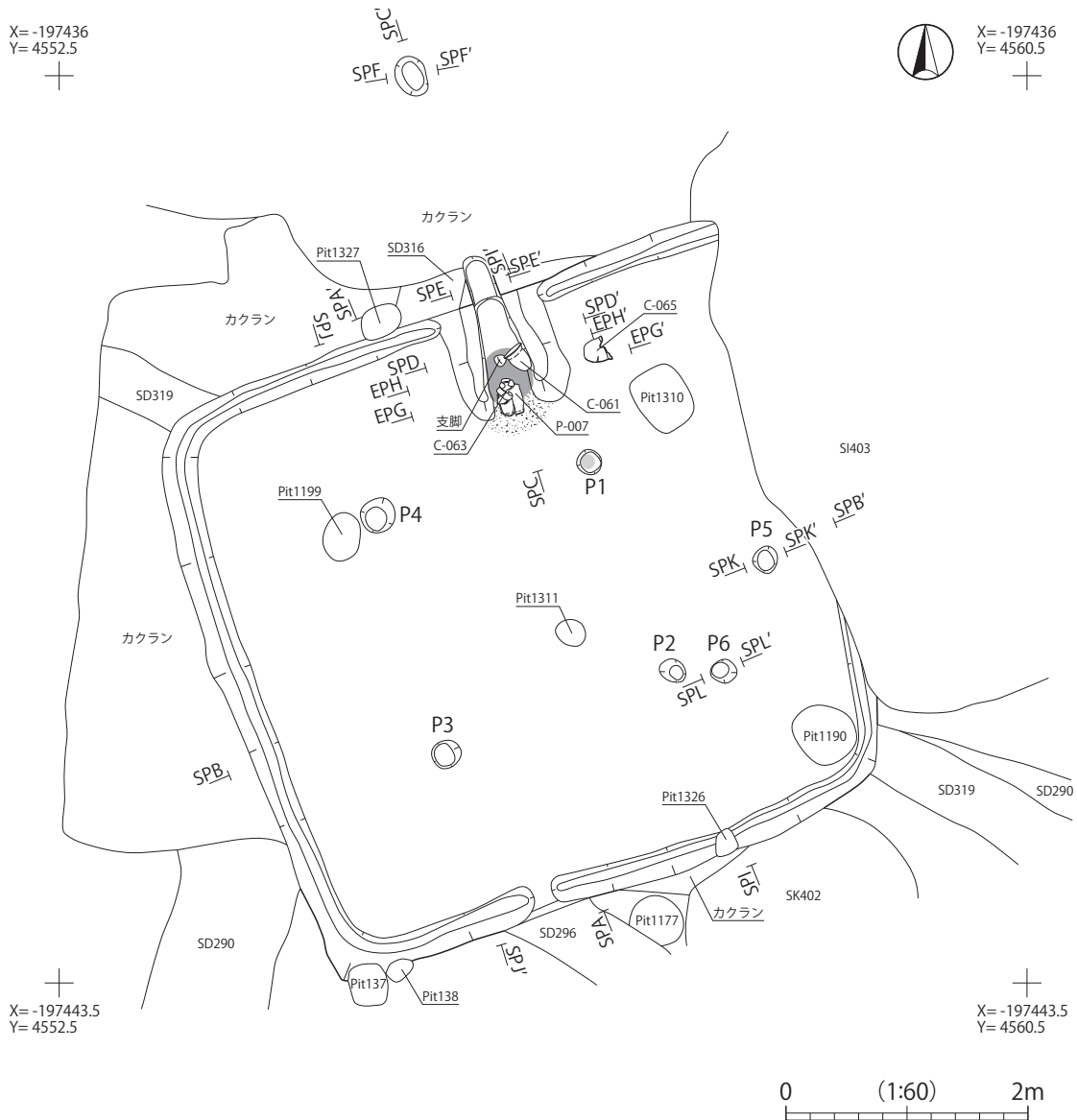
1～15は土師器坏で、1～3は鬼高系土師器の特徴を持つ。1の口縁部は直立、2・3は短く直立する。1の口縁部と体部の境は外面に段、内面に稜を持ち、3は内外面に稜、2に稜は認められない。3の内面底部には同心円状にナデ調整が施されている。1・2は内外面、3は外面が黒色漆仕上げされている。1の色調は淡橙色、2・3が橙色を呈する。胎土はいずれも粉のように細かく精良で、微量の砂粒と赤色粒子を含む。4は深身の丸底で、口縁部は短く直立する。内面に黒色処理が施されている。色調は灰白色を呈し、胎土は在地産土師器と類似し、やや精良で砂粒と海綿骨針を含む。鬼高系土師器が在地化したものと考えられる。5～15は有段丸底坏である。5・6の口縁部は直立し、8～13は短く直立して立ち上がった後直線的に外傾、7・14・15は直線的に外傾する。いずれも内面に黒色処理が施されている。16・17は土師器鉢である。17の体部は金魚鉢形で、口縁部は外反して開く。内面に黒色処理が施されている。18～21は土師器甕である。19・20は釣鐘形、21が下膨れの長胴形を呈する。18の頸部は稜、19～21は段を持つ。18と21の口縁部は外反して大きく開き、19は緩やかに外反、20は直線的に外傾する。22・23は単孔の土師器甕で、ともに頸部に段を持つ。22の胴部は下端に向かって直線的にすぼまり、23は胴部下位から丸味を持ってすぼまる。22の口縁部は直線的に外傾する。23の口縁部は緩く外反し端部は面取りされており、

24・25は須恵器高坏である。24は口縁部と体部の境に2条の突帯がめぐる。脚部は直線的にわずかに下方に開き、3方向と考えられる透かし孔を持つ。25は裾部の破片で、「ハ」字状に開く。色調はともに灰色を呈し、24の胎土はやや精良で、少量の8mm以下の砂礫、25は精良で細砂、ともに黒色粒子と少量の白色粒子を含む。

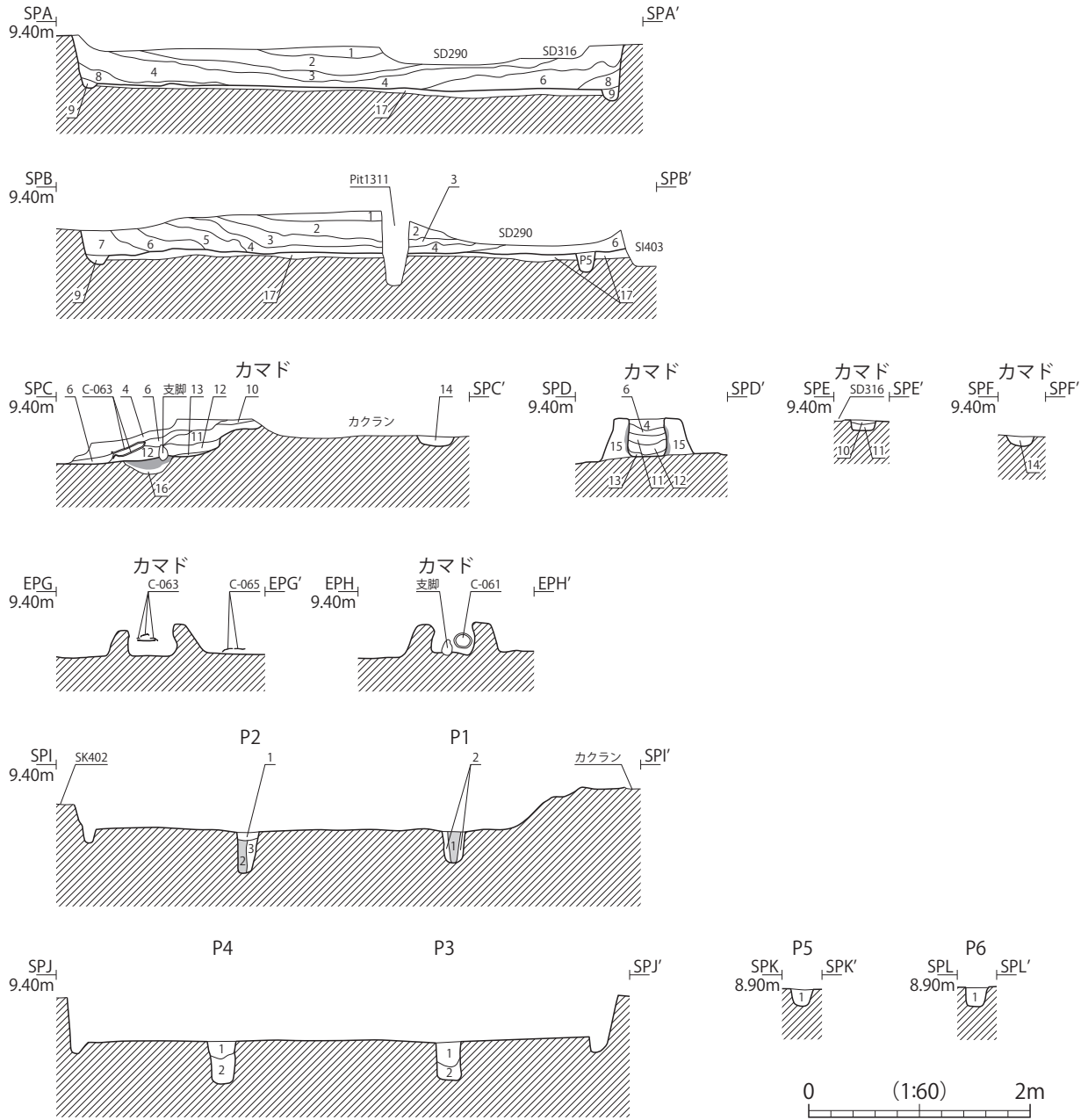
26は管玉、27は勾玉、28は土玉で、いずれも土製品である。26・28の外表面はミガキ後黒色処理が施され、27の外表面はナデが施されている。

写真図版383-3(C-352)は土師器壺で、上げ底状の底部から外面は外反、内面は緩く内湾しながら立ち上がる。頸部に弱い段を持ち、口縁部は緩やかに外反、中位で屈曲し稜を形成後、端部は直立すると考えられる。また稜の上位には細い沈線状の痕跡が2条認められる。外面体部は縦方向のハケメ後、横・斜方向のヘラミガキが粗く施され、体部下端は横方向にヘラケズリが施されている。内面底部は多数のアタリがみられ、底部から体部にかけて縦方向のヘラケズリが施されている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、4mm以下の砂粒を含む。以上の特徴から、東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。

【時期】 床面やカマドから出土した土師器甕・甔(第92・93図19・21・23)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第88図 SI404 竪穴住居跡(1)



SI404 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物主体。IV層土粒微量含む。
	4	10YR6/3 にぶい黄橙色	粘土質シルト	浅黄橙色粘土ブロック(10~30mm程度)・黒褐色シルトブロック(10~30mm程度)多量含む。
	5	10YR7/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)・炭化物粒微量含む。
	7	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
周溝堆積土	9	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
	12	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	焼土ブロック(10~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
カマド袖構築土	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	15	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	IV層土ブロック主体。
住居掘り方埋土	16	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	17	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第89図 SI404 竪穴住居跡(2)

SI404 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR7/1 灰白色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
P6	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

SI404 施設観察表

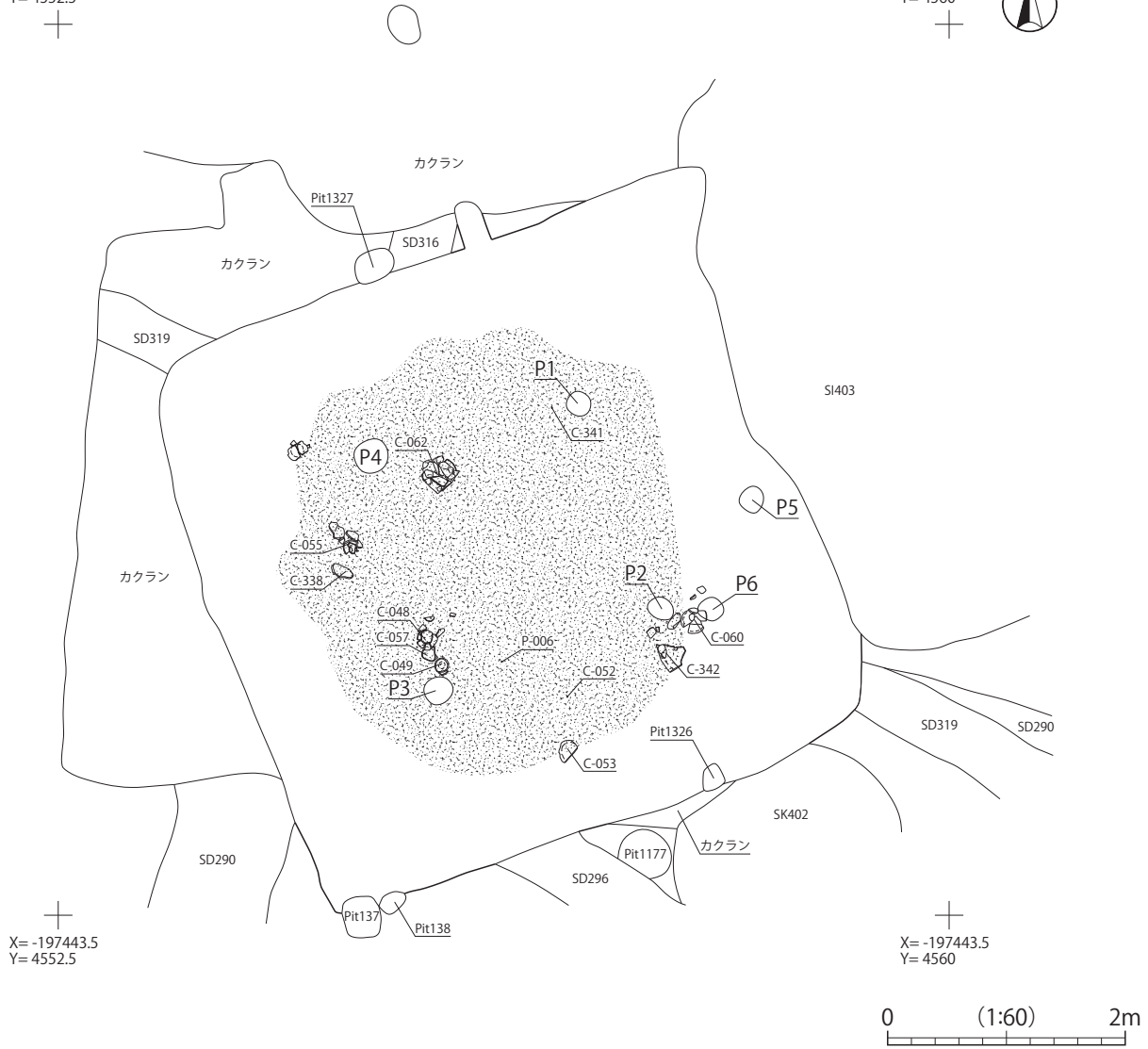
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	20×20	29	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	22×18	38	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	24×22	37	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	30×27	39	主柱穴
P5	円形	21×20	15	補助柱穴
P6	円形	20×19	19	補助柱穴

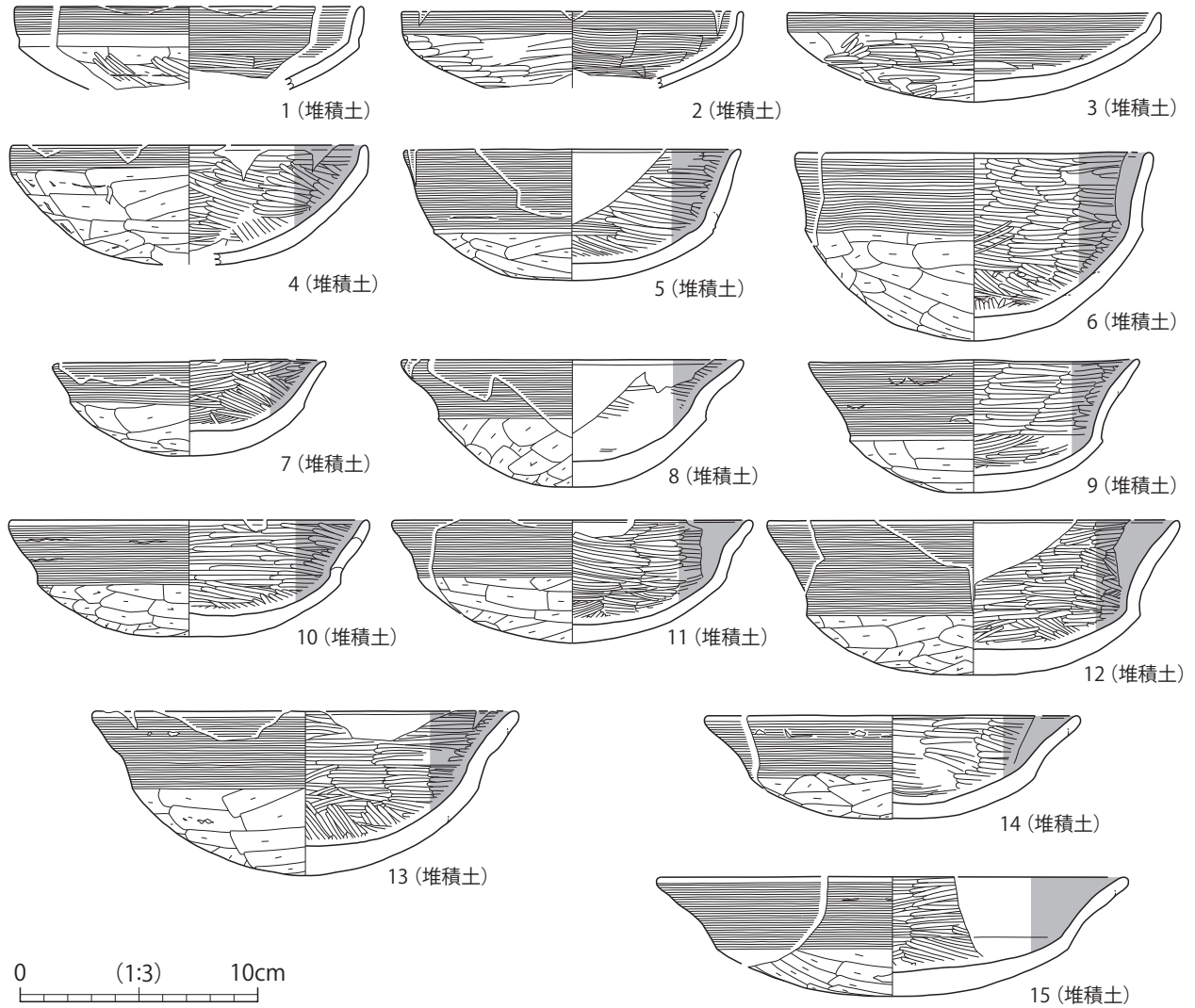
※3層遺物出土状況

X= -197436
Y= 4552.5

X= -197436
Y= 4560

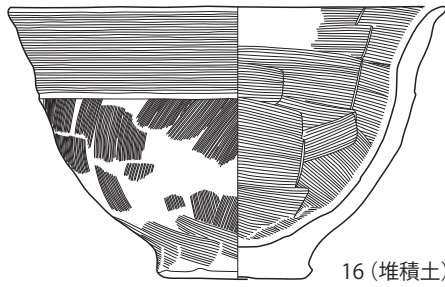


第90図 SI404 竪穴住居跡(3)

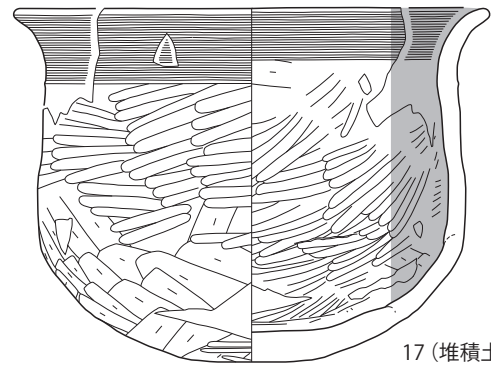


図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-340	SI404	堆積土	土師器	環	(14.5)	—	(3.5)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラス'リ→ヘラミガキ	口縁～体上位：ヨナデ 体中～下位：ヘラデ	関東系 内外面漆仕上げか	318
2	C-339	SI404	堆積土	土師器	環	(14.3)	—	(3.2)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラミガキ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ	関東系 内外面漆仕上げ	318
3	C-050	SI404	堆積土	土師器	環	15.6	—	3.7	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ→ヘラミガキ	口縁～体中位：ヨナデ 体下位～底部：ヘラデ	関東系 外面漆仕上げ	318
4	C-051	SI404	堆積土	土師器	環	(14.8)	—	(5.0)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理 骨針少量含む	318
5	C-054	SI404	堆積土	土師器	環	14.0	—	5.5	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	318
6	C-055	SI404	堆積土	土師器	環	(14.8)	—	(7.9)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	318
7	C-049	SI404	堆積土	土師器	環	(11.2)	—	4.0	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理(部分的) 角閃石少量含む	318
8	C-059	SI404	堆積土	土師器	環	(14.4)	—	5.3	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理(部分的)	319
9	C-048	SI404	堆積土	土師器	環	(13.8)	—	5.6	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	319
10	C-057	SI404	堆積土	土師器	環	(15.0)	—	(4.9)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	319
11	C-056	SI404	堆積土	土師器	環	(14.8)	—	5.2	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	319
12	C-052	SI404	堆積土	土師器	環	(17.2)	—	6.5	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含む	319
13	C-053	SI404	堆積土	土師器	環	(17.6)	—	7.0	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	319
14	C-338	SI404	堆積土	土師器	環	(15.6)	—	(4.3)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理(部分的)	319
15	C-058	SI404	堆積土	土師器	環	(19.6)	—	5.0	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラス'リ	ヘラミガキ	内面黒色処理	319

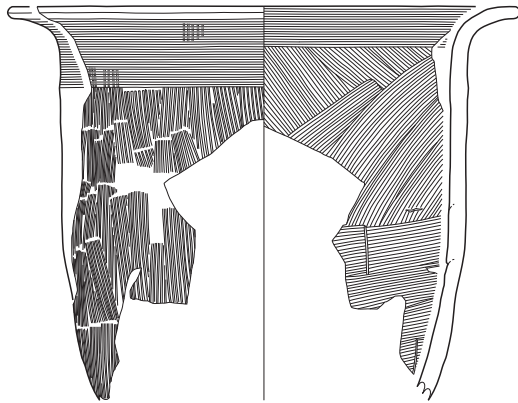
第91図 SI404 竪穴住居跡出土遺物(1)



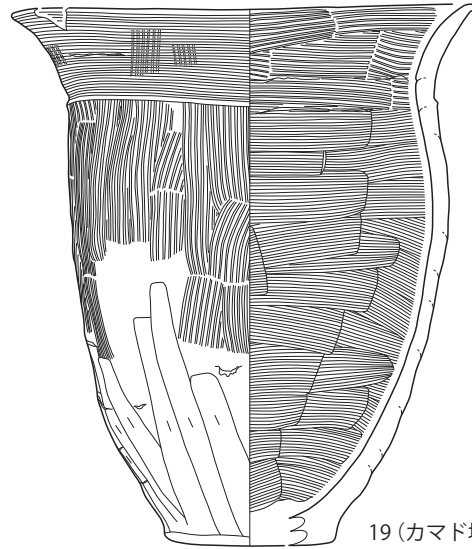
16 (堆積土)



17 (堆積土)



18 (堆積土)

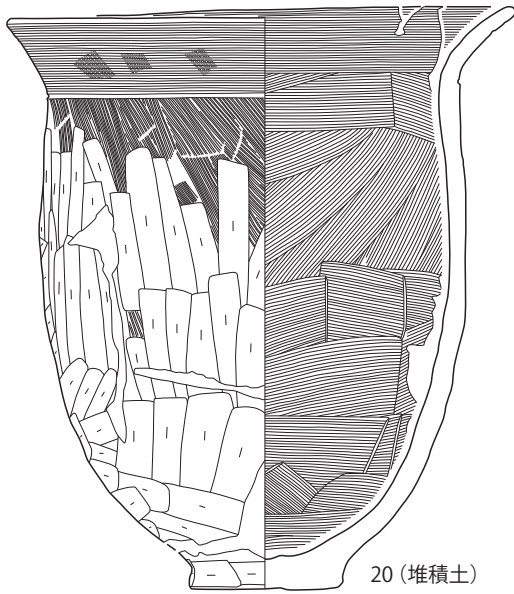


19 (カマド堆積土)

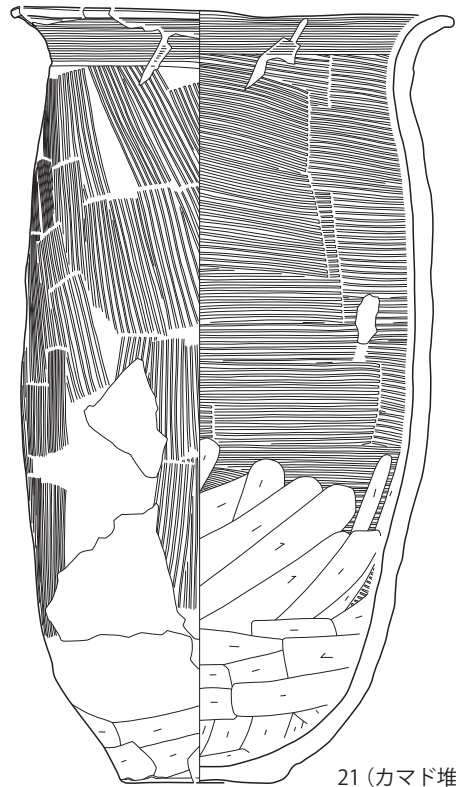
0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
16	C-060	SI404	堆積土	土師器	鉢	17.1	5.6	10.8	口縁：ヨナテ 体上～中位：ハメ 体下位：ハメ→北ナテ 底部：北ナテ	口縁～体下位：ハナテ 底部：北ナテ		319
17	C-064	SI404	堆積土	土師器	鉢	(18.4)	—	(14.0)	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ→ハラムガキ	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ→ハラムガキ	内面黒色処理(部分的)角閃石少量含む	319
18	C-341	SI404	堆積土	土師器	甕	(10.0)	—	(16.6)	口縁：ハメ→ヨナテ 胴部：ハメ	口縁：ヨナテ 胴部：ハナテ		319
19	C-061	SI404 カト	堆積土	土師器	甕	18.0	6.6	21.5	口縁：ハメ→ヨナテ 胴部：ハメ→ハラスリ 底部：不明	口縁～胴上位：ハメ 胴中位～底部：ハナテ	角閃石微量含む 外面煤付着 外面胴下位～底部二次被熱 による赤色化・摩滅	319

第92図 SI404 竪穴住居跡出土遺物 (2)

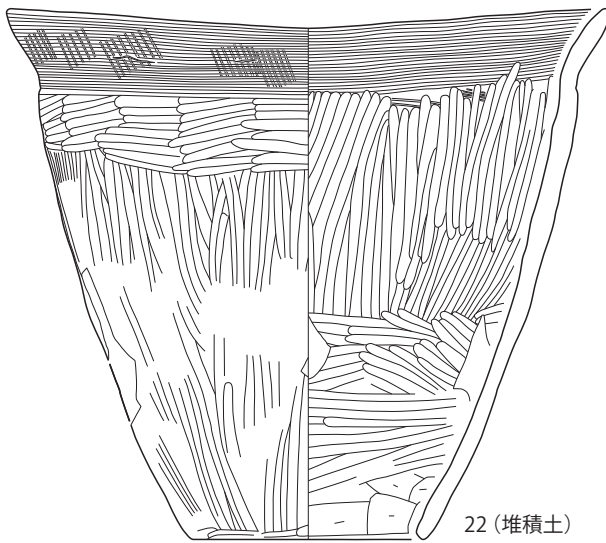


20 (堆積土)

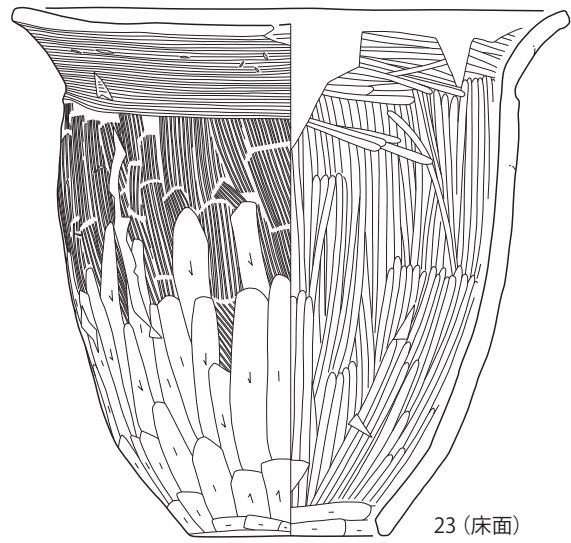


21 (カマド堆積土)

0 (1:3) 10cm



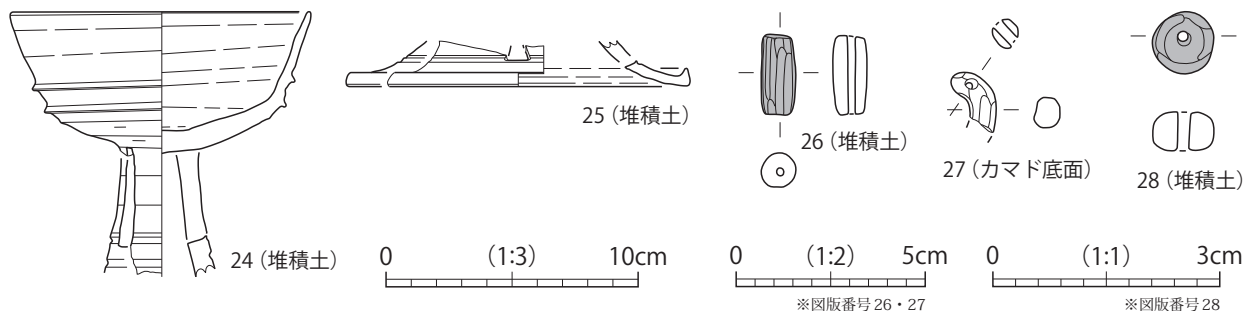
22 (堆積土)



23 (床面)

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
20	C-062	SI404	堆積土	土師器	甕	19.8	5.8	23.1	口縁：ハメ→ヨコテ 胴部：ハメ→ハラスリ 底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハラスリ	外面底部二次被熱による赤色化	319
21	C-063	SI404 カマド	堆積土	土師器	甕	16.9	5.8	30.7	口縁：ヨコテ 胴上～中位：ハメ 胴下位～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴上～中位：ハメ 胴下位：ハラスリ		320
22	C-342	SI404	堆積土	土師器	甕	(23.8)	孔径 9.2	21.1	口縁：ハメ→ヨコテ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴上位：ハメ→ハラスリ 胴中～下位：ハラスリ→ハラスリ 胴下端：ハラスリ	単孔	320
23	C-065	SI404	床面	土師器	甕	21.8	孔径 7.8	21.0	口縁：ヨコテ 胴部：ハメ→ハラスリ	口縁～体部：ハラスリ 胴下端：ハラスリ	単孔	320

第93図 SI404 竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
24	E-003	SI404	堆積土	須恵器	高環	11.9	—	(10.5)	口縁～体上位：吻調整による突帯貼付 体下位：回転ヘアズリ 脚部：吻調整→沈線	体部：吻調整 脚部：ヘアデか	透孔3方向	320
25	E-004	SI404	堆積土	須恵器	高環	—	(13.6)	(1.8)	吻調整→沈線	吻調整	透孔1箇所	320
写真のみ	C-352	SI404	堆積土	土師器	壺	—	5.2	上半(9.0) 下半(12.7)	口縁：ヨコデ→沈線か 胴部：ハメ→粗いヘアズリ 胴下端～底部：ヘアズリ	口縁：ヨコデ 胴上位：ヘアデ 胴中～下位：ヘアズリ		383

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
26	P-006	SI404	堆積土	土製品	管玉	2.1	0.9	0.9	2.1	シガキ黒色処理 孔径0.2cm	320
27	P-007	SI404 カマド	底面	土製品	勾玉	(1.6)	1.2	0.8	1.0	シガキ 孔径0.3cm	320
28	P-008	SI404	堆積土	土製品	土玉	0.8	0.8	0.5	0.4	シガキ黒色処理 孔径0.1cm	320

第94図 SI404 竪穴住居跡出土遺物(4)

SI405 竪穴住居跡(第95～98図)

【位置・確認】 調査区中央部の54・55・62・63・71・72区に位置する。他遺構の重複が著しく、壁や床面の各所が失われている。

【重複】 SI410・441・446・482、Pit1357より古く、SI475・509・515より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸649cm、短軸646cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～6層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、18～21層は住居掘り方埋土である。

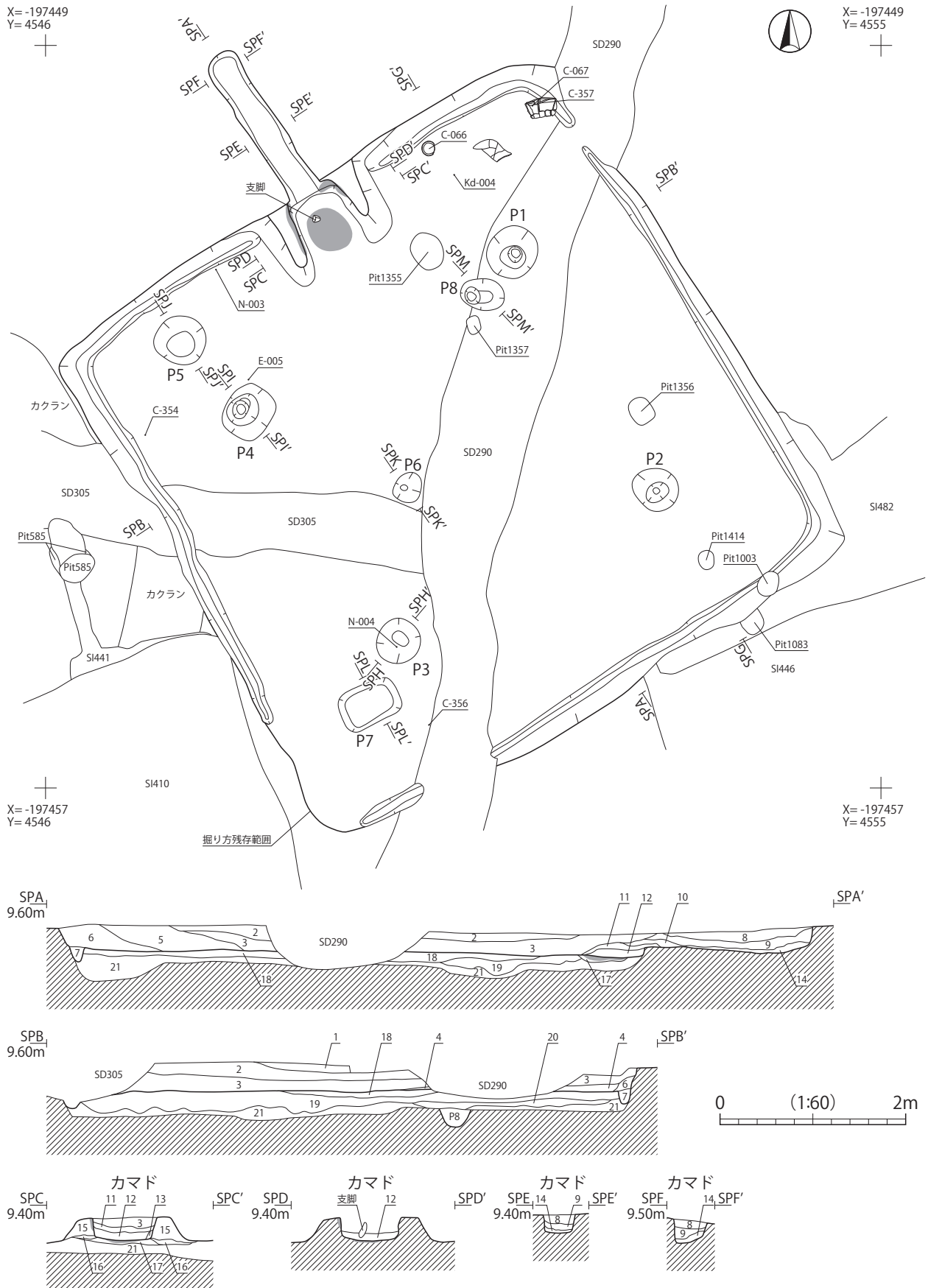
【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で45cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で2基(P7・8)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸49～58cm、短軸45～51cm以上、深さ46～55cmを測る。P1・2・4の堆積土下半で、径14～17cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P6の堆積土下半で径10cm程度の柱痕跡を確認した。P7・8の性格は不明である。

【周溝】 カマド部分と南西隅を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅13～19cm、深さ3～17cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ89cm、幅37～43cm、西袖は長さ88cm、幅32～46cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き82cm、幅71cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部付近に長径50cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側に棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は直立気味に9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ181cm、幅

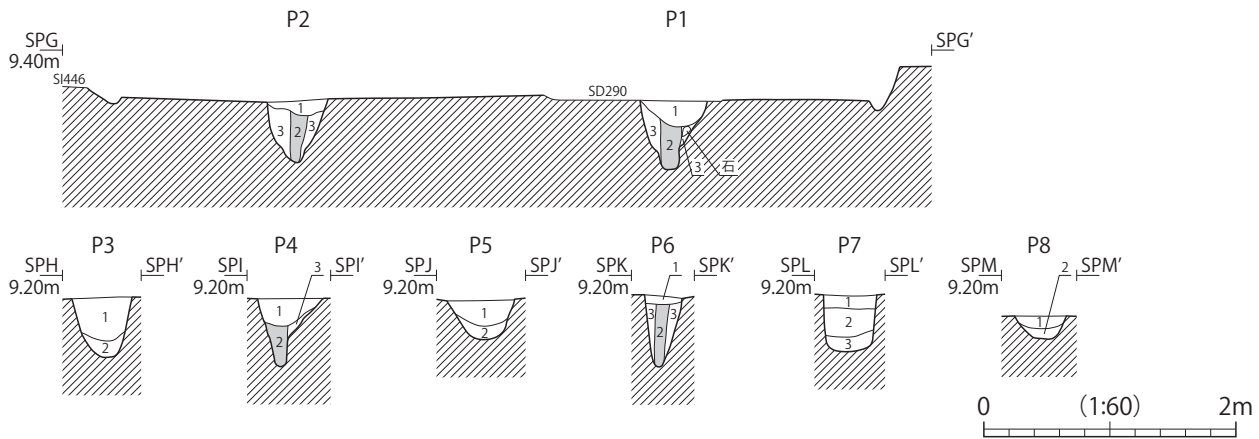


第95図 SI405 竪穴住居跡(1)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI405 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
カマド堆積土	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
	12	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。 ※灰層
	13	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド袖構築土	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	16	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。 ※被熱
住居掘り方埋土	18	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	20	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30~40mm程度)多量含む。
	21	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。



SI405 施設堆積土註記表

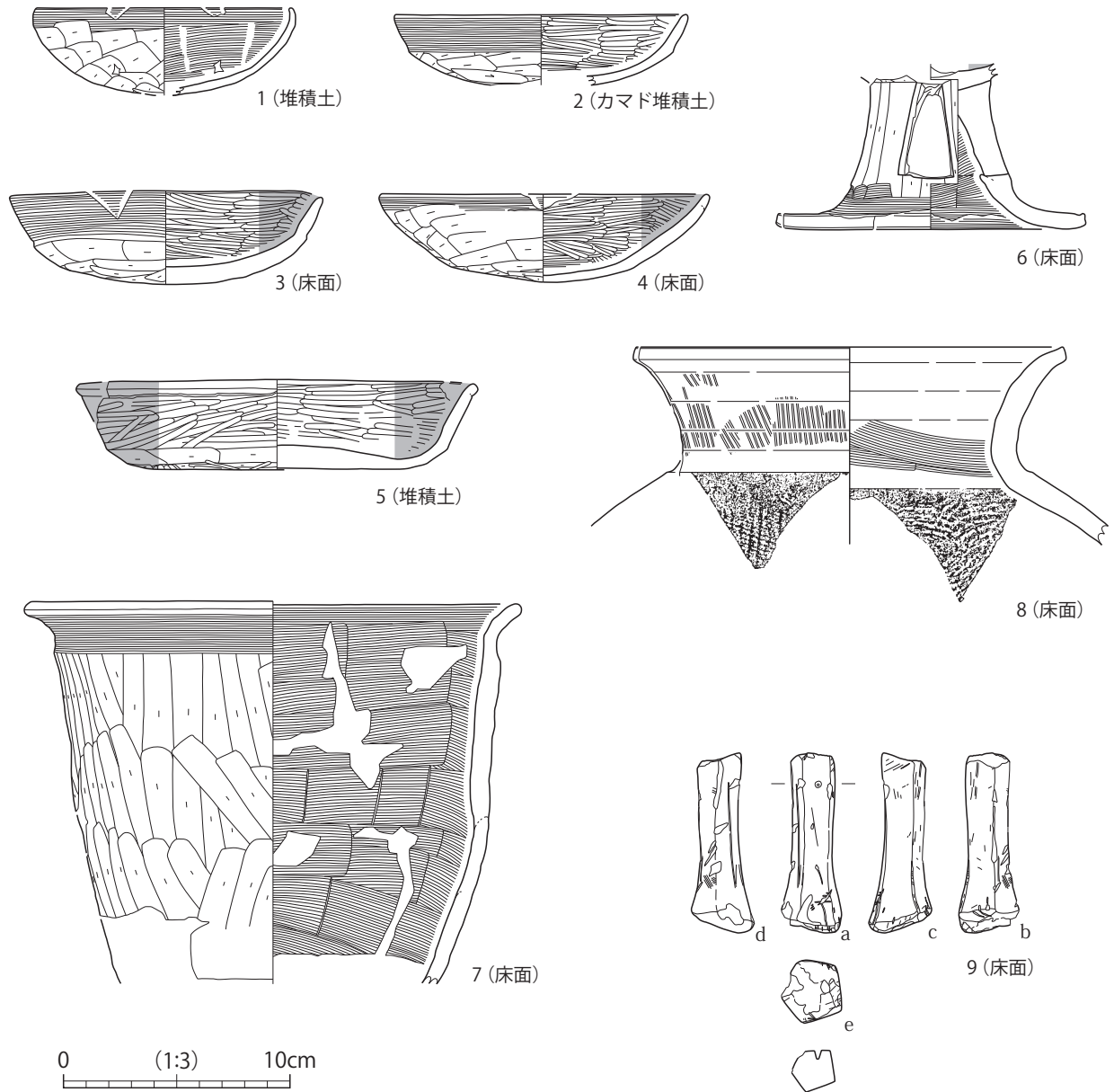
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~15mm程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~15mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。
P8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。

SI405 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P1	(円形)	(57)×(51)	(55)	主柱穴 柱痕跡	
P2	円形	49×45	46	主柱穴 柱痕跡	
P3	円形	49×47	48	主柱穴	
P4	隅丸方形	58×50	55	主柱穴 柱痕跡	

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
P5	円形	54×53	33	補助柱穴	
P6	円形	33×29	57	補助柱穴 柱痕跡	
P7	隅丸長方形	66×44	45	性格不明	
P8	(楕円形)	(47)×(34)	18	性格不明	

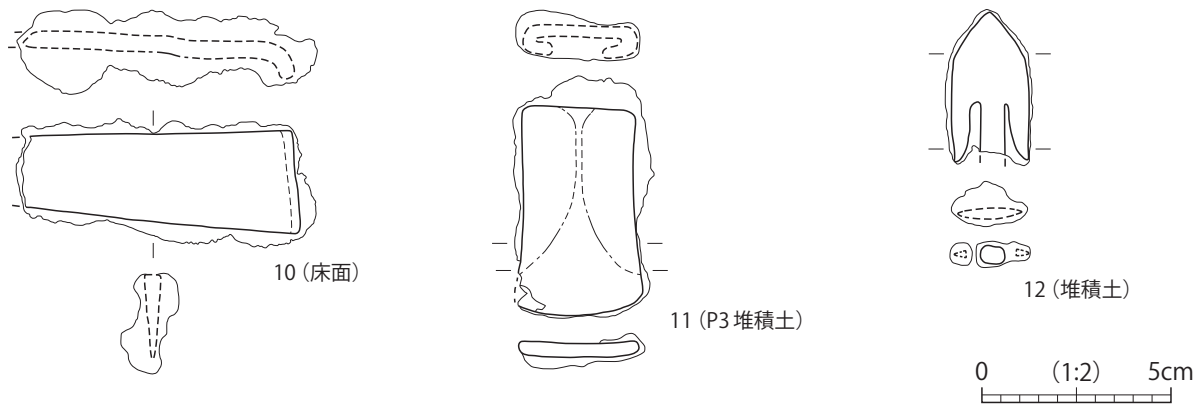
第96図 SI405 竪穴住居跡(2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-353	SI405	堆積土	土師器	坏	11.2	—	(3.8)	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ハコテ	関東系 内外面摩滅 角閃石 中量含む	320
2	C-355	SI405 ホト	堆積土	土師器	坏	(12.8)	—	(3.1)	口縁：ヨコテ 体部：ハラスリ	ハミガキ	関東系 骨針・角閃石微量含む	320
3	C-066	SI405	床面	土師器	坏	(13.7)	—	4.1	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 角閃石中量含む	320
4	C-354	SI405	床面	土師器	坏	(14.4)	—	3.9	口縁：ヨコテ 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理	320
5	C-067	SI405	堆積土	土師器	坏	(17.4)	(10.4)	4.0	口縁：ハミガキ 体～底部：ハラスリ→ハミガキ	ハミガキ	内外面黒色処理 角閃石微量含む	320
6	C-356	SI405	床面	土師器	高環	—	(13.7)	(7.3)	脚部：ハラスリ 裾部：ヨコテ	体部：ハミガキ 脚部：ハコテ 裾部：ヨコテ	透孔3方向 環部内面黒色処理	320
7	C-357	SI405	床面	土師器	甗	20.4	—	16.9	口縁：ヨコテ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハコテ	角閃石少量含む	321
8	E-005	SI405	床面	須恵器	甗	(18.8)	—	(8.7)	口縁：ハメ→ロコ調整 胴部：平行タテ	口縁：ロコ調整 頸部：ハコテ 胴部：青海波7具痕		321

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
9	Kd-004	SI405	床面	石製品	砥石	7.9	2.7	2.8	45.4	細粒凝灰岩	砥面6面 溝状痕(a～d面) 線条痕(a～d面) 盲孔径0.3cm・深0.4cm 節理(e面)	321

第97図 SI405 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
10	N-003	SI405	床面	金属製品	鉄鎌	(7.5)	2.3	0.4	46.6	刃部欠損 基部折り返しか	321
11	N-004	SI405 P3	堆積土	金属製品	鉄斧	5.5	3.2	0.4	67.6	ほぼ完形 袋状か	321
12	N-005	SI405	堆積土	金属製品	鉄鎌	(4.0)	2.0	0.3	12.9	鎌身部 有頸	321

第98図 SI405 竪穴住居跡出土遺物 (2)

32～38cm、深さ14～29cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ9～35cmを測り、各壁際が溝状・土坑状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器坏5点・高坏1点・甕1点、須恵器甕1点、石製品1点、金属製品3点を掲載した(第97・98図)。3・4・6～10は床面から、11はP3から出土した。

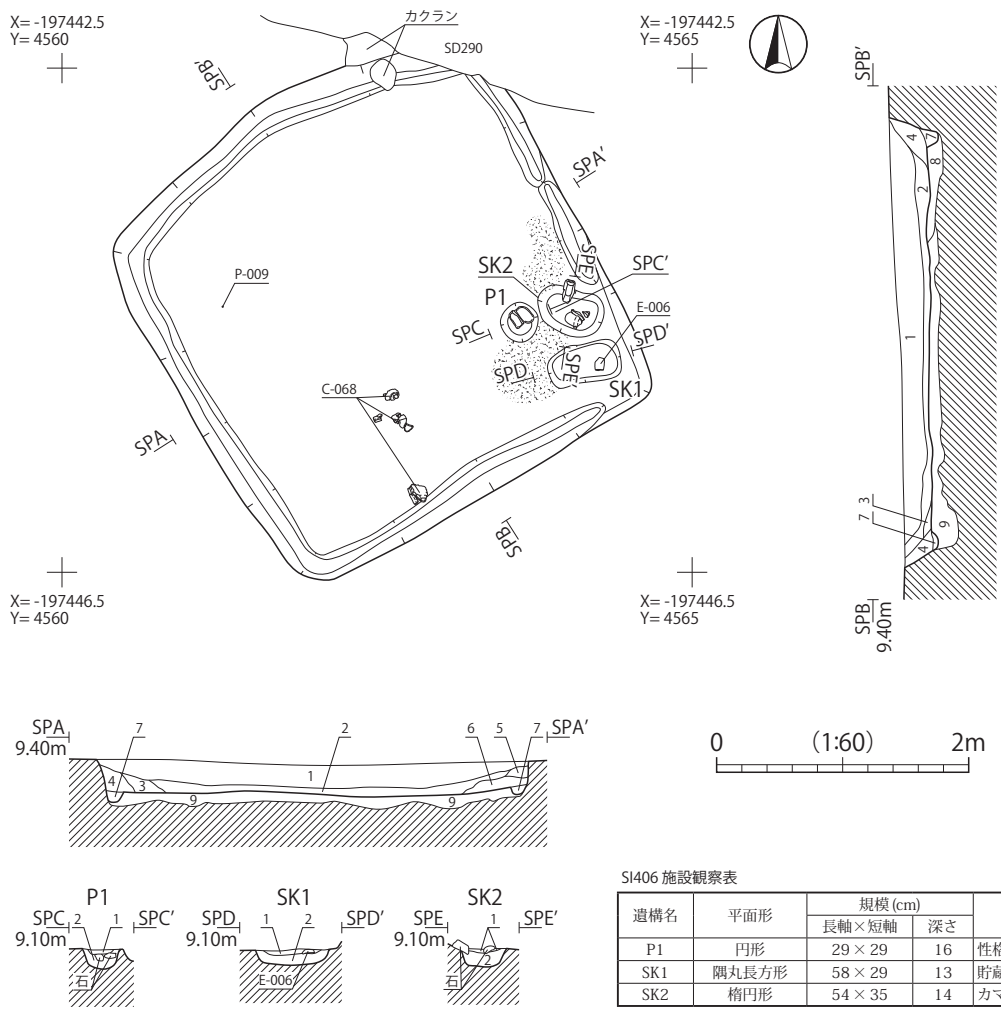
1～5は土師器坏で、これらのうち1は北武蔵型坏の特徴を持ち、2も関東系土師器でともに薄手で精巧な作りである。1は半球形を呈し、口縁部は小さく内湾する。2は扁平な丸底と考えられ、口縁部で直線的に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。1の色調は橙色、2はにぶい赤褐色を呈する。胎土はともに精良で細砂を含み、2は海綿骨針を含む。1の焼成はやや軟質で、2は良好で締まる。3は器形の中位に、4は下位に段または稜を持つ。3の口縁部は直線的に外傾し、4はやや内湾気味に外傾する。4は口縁部上半までヘラケズリが施され、これにより外面下位の稜が形成される。5は須恵器の盤もしくは南関東地方の盤状坏の器形を模倣したものと考えられる。平底から内湾して立ち上がり、体部中位から口縁部にかけて直線的に外傾する。口縁端部は丸く折り返される。黒色処理は3・4が内面に、5が内外面に施されている。6は土師器高坏である。中空の脚部で、裾部はラッパ状に開き、脚部との境に段を持つ。脚部には台形の透かし孔が3方向認められる。坏部の内面に黒色処理が施されている。7は土師器甕で、胴部に張りのない長胴形と考えられる。頸部に稜を持ち、口縁部は短く外反する。外面の胴部に縦方向にヘラケズリを施している。色調は淡橙色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の5mm以下の砂礫を含む。8は須恵器甕で、口縁部は外反し、口縁端部は面取りされ上方につまみ出される。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、10mm以下の砂礫を含む。

9は砥石で、断面五角形の角柱状を呈する。砥面は6面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。a面に盲孔があり、e面に節理面が認められる。石材は細粒凝灰岩である。10は曲刃の鉄鎌で、基部がL字形に折り返されていると考えられる。11は鉄斧で、基部は袋状を呈すると考えられる。12は有頸の鉄鎌である。鎌身部は両刃と考えられ、逆棘を持ち、断面形は両丸造である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器坏・甕、須恵器甕(第97図2～4・6～8)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

SI406 竪穴住居跡 (第99・100図)

- 【位置・確認】 調査区北東部の48・56区に位置する。北東隅はSD290の重複により失われている。
- 【重複】 SI407・448、SD319、SK446、Pit898・1064より新しい。
- 【規模・形態】 確認された規模は長軸359cm、短軸343cmを測り、平面形は方形を呈する。
- 【方向】 東壁を基準としてN-27°-Wを測る。
- 【堆積土】 9層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8・9層は住居掘り方埋土である。
- 【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で35cmを測る。
- 【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。南東隅付近には炭化物範囲がみられる。
- 【柱穴】 床面から1基(P1)検出した。南東部に配置され、堆積土に焼土や炭化物を含むことから柱穴以外の可能性も考えられる。堆積土中からは、被熱したものを含む2点の礫が出土した。
- 【周溝】 残存範囲では南東隅を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅14～16cm、深さ1～8cmを測る。



SI406 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	29×29	16	性格不明
SK1	隅丸長方形	58×29	13	貯蔵穴か
SK2	楕円形	54×35	14	カマド燃焼部に関連か

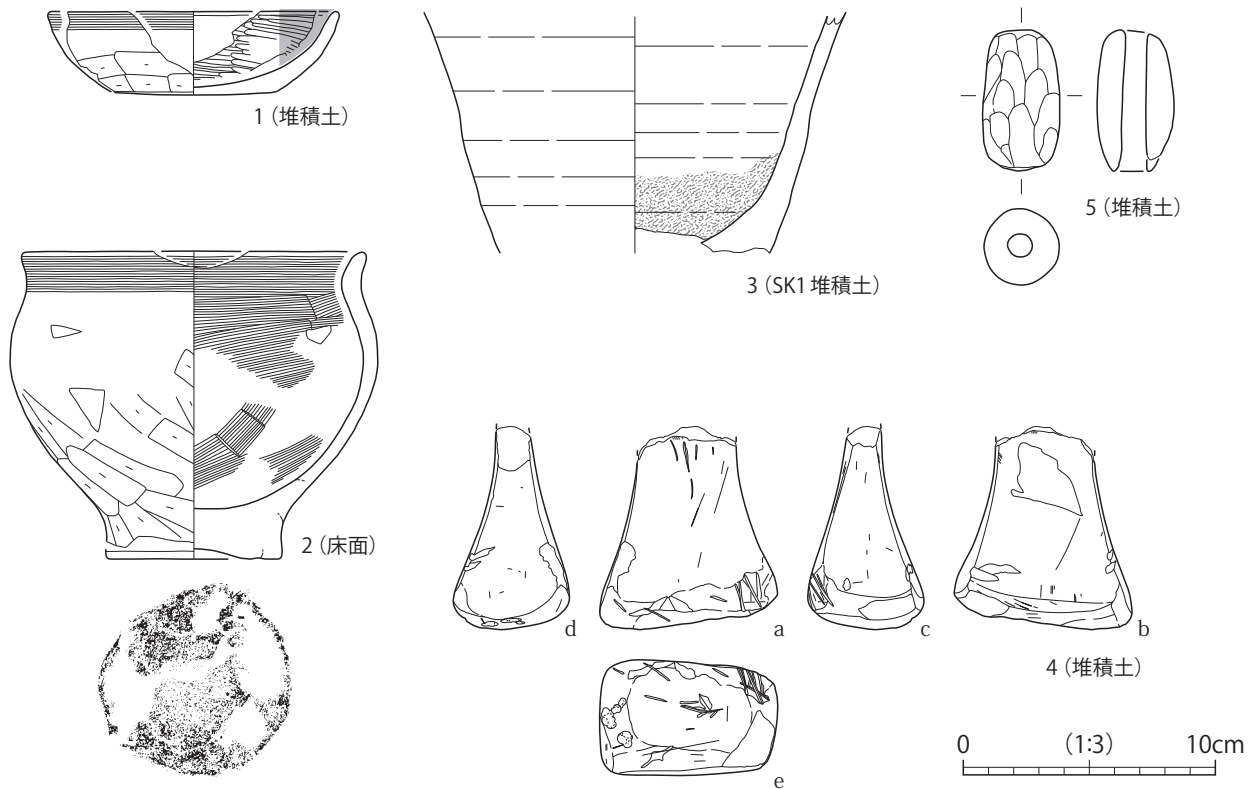
第99図 SI406 竪穴住居跡

SI406 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(10~20mm程度)微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック斑状に含む。
	9	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30~50mm程度)多量含む。

SI406 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR2/1 黒色	炭化物	炭化物粒主体、焼土粒少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量、IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-359	SI406	堆積土	土師器	環	(11.3)	(6.6)	3.3	口縁：ヨコテ体～底部：ハカスリ	ハミガキ	内面黒色処理 骨針中量含む	321
2	C-068	SI406	床面	土師器	甃	(13.4)	(6.6)	12.2	口縁：ヨコテ胴～底部：ハカスリ	口縁：ヨコテ胴～底部：ハカテ	底部輪台状か内外面摩滅 外面二次被熱による赤色化・剥離	321
3	E-006	SI406 SK1	堆積土	須恵器	鉢	—	—	(9.6)	叩調整	叩調整	内面底部自然軸付着 坏部内面灰かぶり 骨針微量含む	321
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
4	Kd-005	SI406	堆積土	石製品	砥石	(8.1)	7.0	4.6	241.2	細粒凝灰岩	砥面5面 溝状痕(a~c・e面) 線条痕(a~e面) 敲打痕(e面) 端部欠損	321
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
5	P-009	SI406	堆積土	土製品	土錘	5.6	3.1	3.0	53.2	テ 孔径1.0cm	321	

第100図 SI406 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともに南東隅付近に位置し、特にSK1は形状からも貯蔵穴の可能性はある。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸58cm、短軸29cm、深さ13cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸54cm、短軸35cm、深さ14cmを測る。SK2の堆積土上層には、多量の炭化物と被熱した礫2点が含まれることから、カマド燃焼部の痕跡であった可能性がある。

【掘り方】 深さ1～22cmを測る。底面は概ね平坦だが、南西部が土坑状に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器坏1点・甕1点、須恵器鉢1点、石製品1点、土製品1点を掲載した(第100図)。2は南部の床面から散在して出土した。1は土師器坏で、平底を呈し、底部と体部の境は厚みを持つ。体部は緩やかに内湾し、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。色調は黒褐色～褐灰色を呈し、胎土はやや精良で、細砂や赤色粒子、海綿骨針を含む。焼成は軟質である。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は小型の土師器甕である。底部は厚手の輪台状で、胴部上位に最大径が位置する張りの強い球胴形で、口縁部は短く外反気味に外傾する。3は須恵器鉢で、厚手の体部下位から体部中位にかけて外反する。色調は暗灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、微量の海綿骨針を含む。4は砥石で、砥面が5面あり、a～c・e面に溝状痕、a～e面に線条痕、e面には敲打痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。5は管状の土錘で、外面にはナデが施されている。

【時期】 床面とSK1から出土した土師器甕、須恵器鉢(第100図2・3)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

SI407 竪穴住居跡(第101・102図)

【位置・確認】 調査区北東部の48・56区に位置する。SI395・406、SD290の重複や攪乱により、カマド燃焼部の大部分と壁や床面の各所が失われている。

【重複】 SI395・406より古く、SI402・403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸425cm、短軸418cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-22°-Wを測る。

【堆積土】 9層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7・8層は残存するカマド煙道部の堆積土である。9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

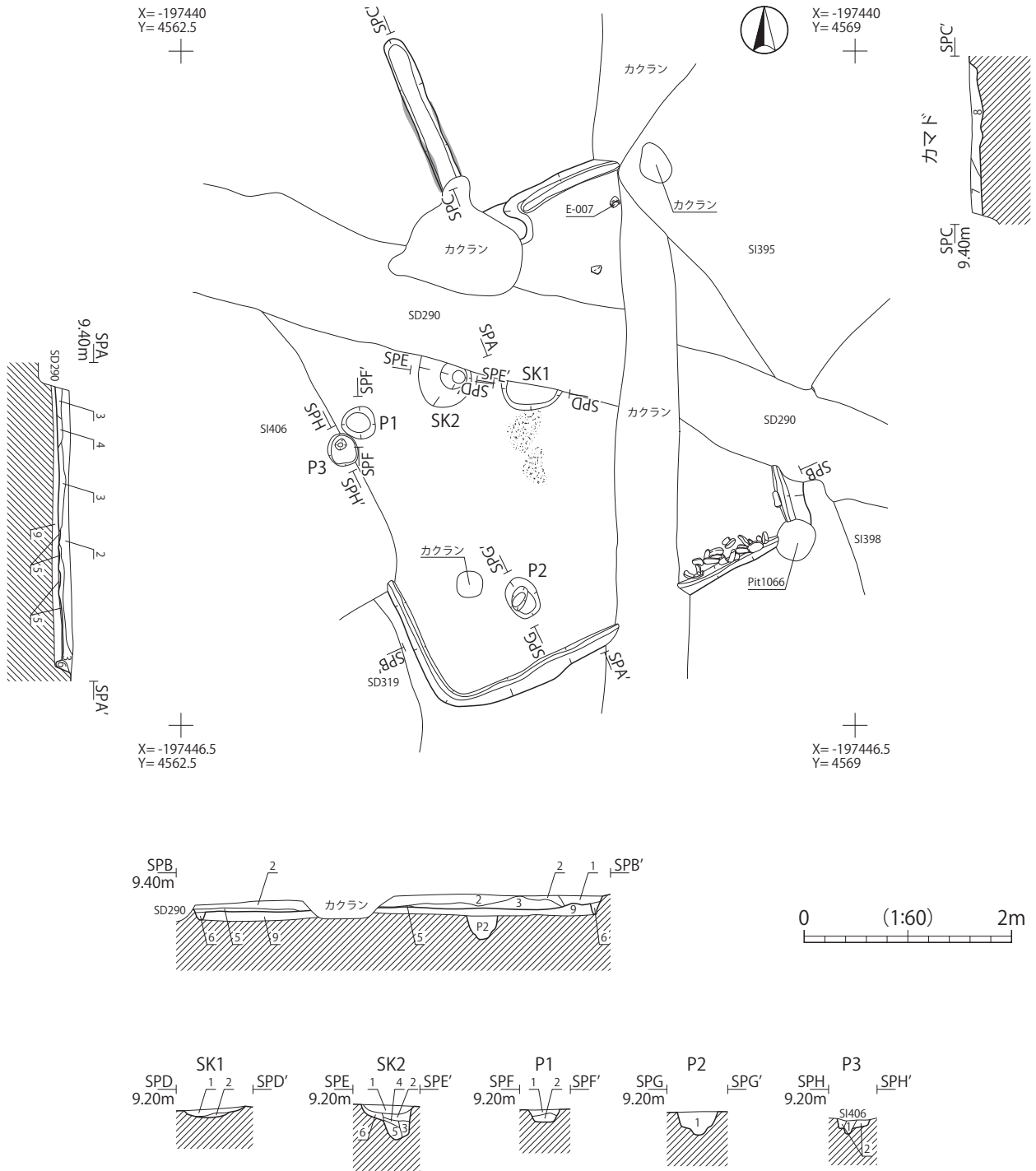
【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。中央部付近には小規模な炭化物範囲がみられ、南壁の東半部には壁面に沿って棒状の自然礫が集積されていた。

【柱穴】 掘り方で3基(P1～3)を検出した。配置は不規則で、いずれも性格は不明である。支柱穴は確認できなかった。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分と北西部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～14cm、深さ2～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は攪乱により大部分が失われ、東袖の基部付近が残存する。東袖の規模は残存値で長さ47cm、幅21cmを測る。燃焼部は壁内に位置する。煙道部は燃焼部との接続部付近が失われており、規模は残存値で長さ147cm、幅21～25cm、深さ9～11cmを測る。底面は概ね平坦で、住居床面と8cm程度の比高差が認められる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は中央部からやや北寄り、SK2はSK1の北西側に位置し、それぞれSD290の重複で一部が失われている。いずれも堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸61cm、短軸26cm、深さ7cmを測る。SK2の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸52cm、短軸43cm、深さ32cmを測る。



SI407 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~50mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・炭化物粒微量含む。

第101図 SI407 竪穴住居跡

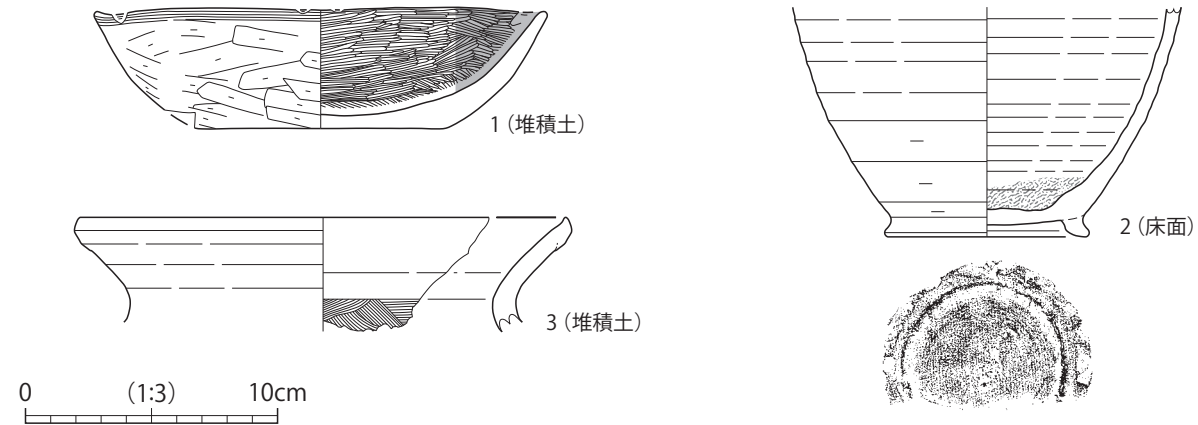
SI407 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土粒少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI407 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	33×31	12	性格不明
P2	楕円形	40×30	23	性格不明
P3	円形	32×29	15	性格不明

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	(楕円形)	61×(26)	7	カマド関連土坑
SK2	(楕円形)	52×(43)	32	カマド関連土坑



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-069	SI407	堆積土	土師器	环	(17.8)	(10.0)	4.7	口縁：ヨナリ 体～底部：ハラズリ	ハラミガキ	内面黒色処理 外面やや摩滅	321
2	E-007	SI407	床面	須恵器	瓶類	—	8.0	(9.1)	体中位：ウコ調整 体下位：回転ハラズリ 底部：回転ハラズリ→ウコ調整による高台貼付	ウコ調整	内面底部自然軸付着 湖西窯跡産か	321
3	E-008	SI407	堆積土	須恵器	甕	(19.4)	—	(4.5)	ウコ調整	口縁：ウコ調整 胴部：エビナリ	外面頸部・内面口縁部灰かぶり 骨針少量含む	321

第102図 SI407 竪穴住居跡出土遺物

【掘り方】 深さ6~13cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器環1点、須恵器瓶類1点・甕1点を掲載した(第102図)。2は北東隅の床面から出土した。1は土師器環で、薄手の平底を呈し、底部と体部の境は厚みを持つ。体部から口縁部に向かって緩やかに内湾し、口縁端部でわずかに外反する。内面に幅の狭いハラミガキを密に施した後、黒色処理が施されている。色調は浅黄橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と3mm以下の赤色粒子を含む。焼成は軟質である。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2は須恵器瓶類で、高台付長頸瓶の体部と考えられる。断面台形の高台が平底の周縁に「ハ」字状に付され、体部は緩やかに内湾する。色調は灰色～明褐灰色を呈し、胎土はきめ細かい砂のように精良で、少量の砂粒と微細な黒色粒子を含む。焼成は良好で軽量なつくりである。湖西窯跡産と考えられる。3は須恵器甕で、口縁部は直線的に外傾、端部は肥厚し上方につまみ出される。色調は暗灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と白色粒子、少量の海綿骨針を含む。

【時期】 床面から出土した須恵器瓶類(第102図2)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

SI408A 竪穴住居跡 (第103～106図)

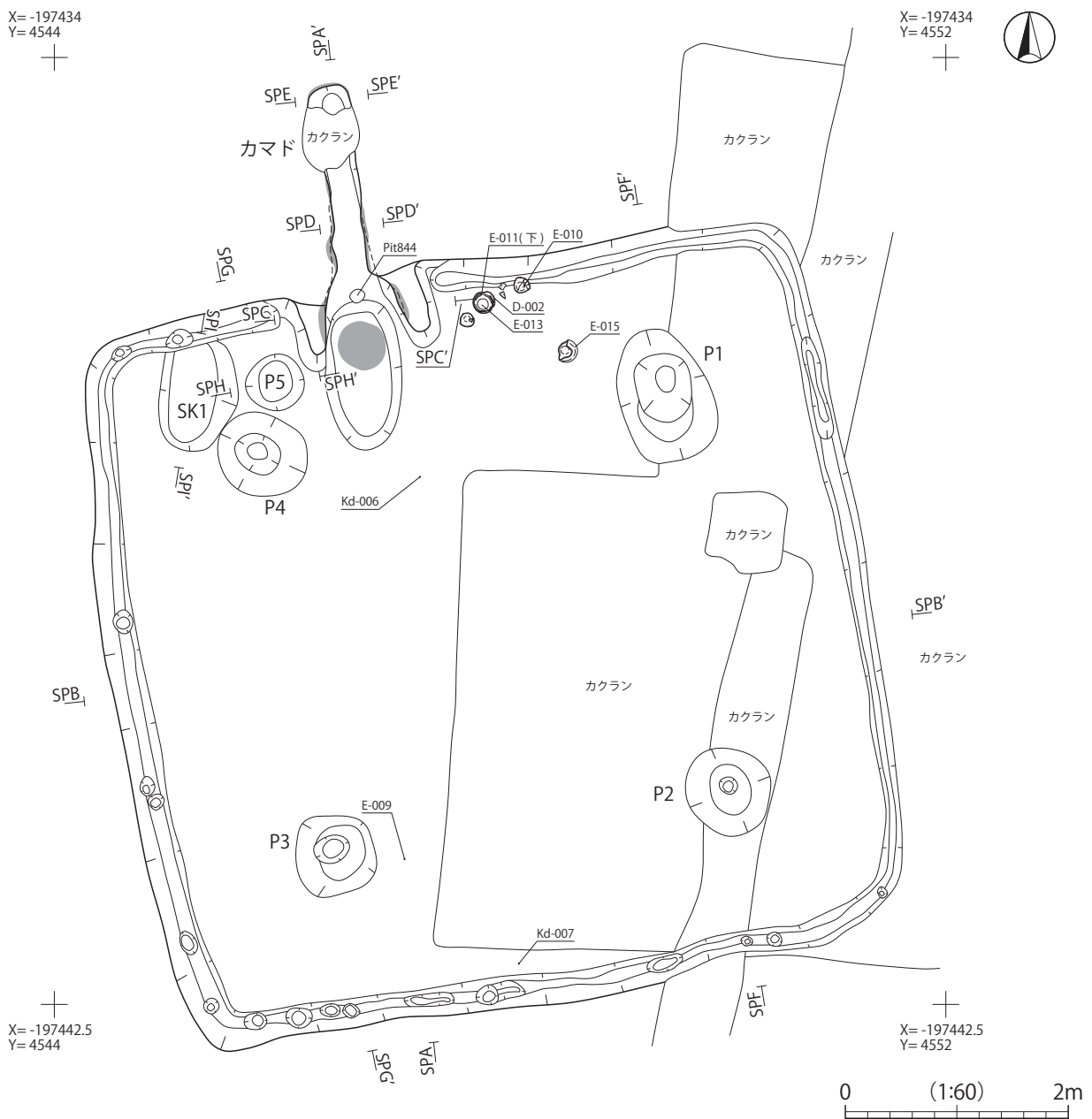
【位置・確認】 調査区北部中央の30・38・39・46・47区に位置する。東半部の壁と床面の広い範囲が攪乱により失われている。

【重複】 SI408B・409・456、SD296・303・333・334、Pit882・1103・1125～1129・1131・1133～1136・1141・1161・1162より新しい。本住居跡は、SI408Bの拡張後に相当する。

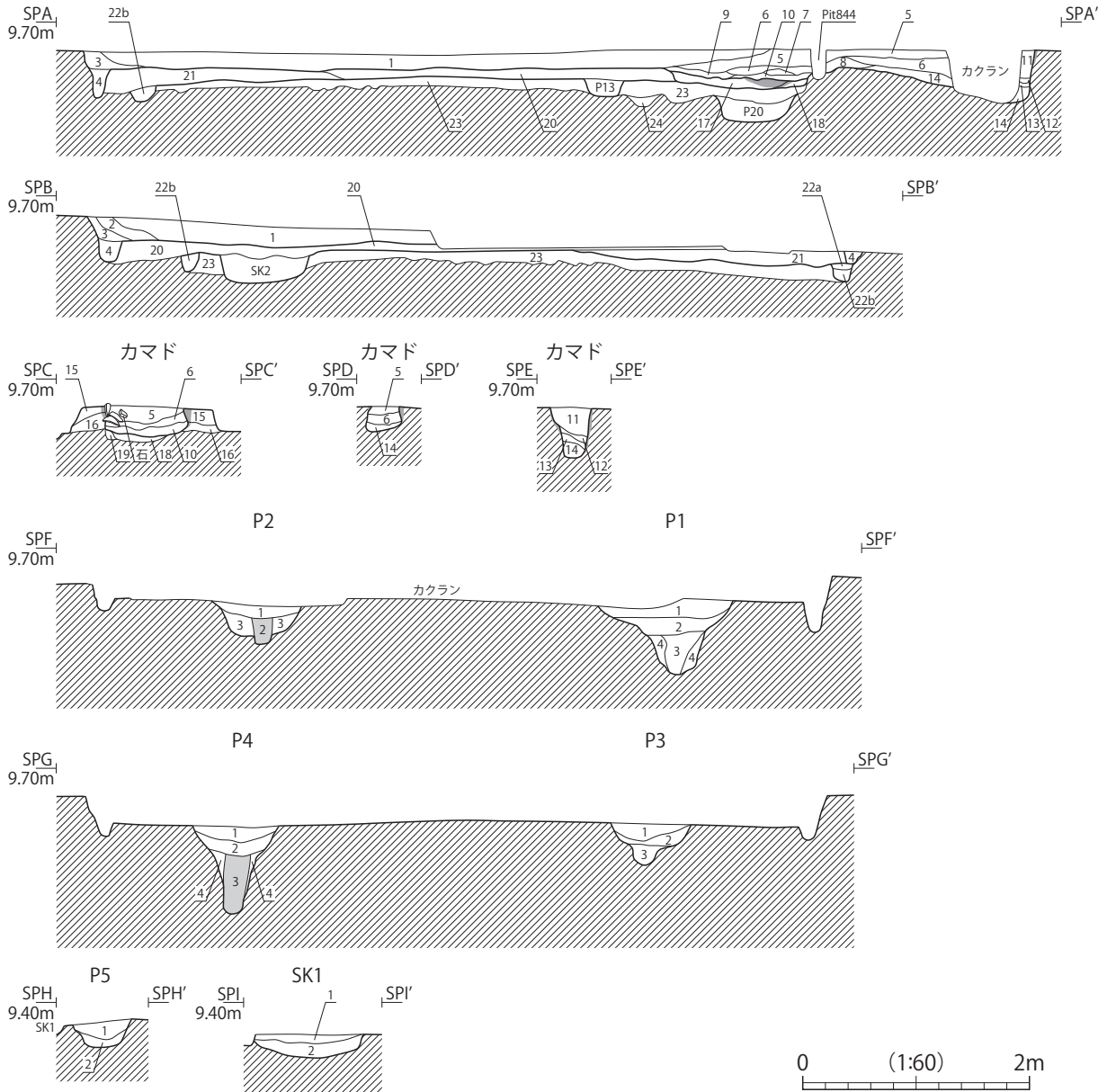
【規模・形態】 確認された規模は長軸685cm、短軸673cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4層は周溝堆積土、5～14層はカマド堆積土である。15・16層はカマド袖構築土、17～19層はカマド掘り方埋土、20・21層は住居掘り方埋土である。



第103図 SI408A 竪穴住居跡 (1)



SI408A 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・炭化物粒多量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	13	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	14	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
カマド袖構築土	15	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	17	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(40~50mm程度)・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	18	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	19	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第104図 SI408A 竪穴住居跡(2)

SI408A 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量、IV層土ブロック(10～15mm程度)微量含む。
	2	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI408A 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(121)×(82)	65	主柱穴
P2	(円形)	(80)×(76)	(38)	主柱穴 柱痕跡
P3	隅丸方形	71×71	38	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	83×72	79	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	50×49	23	カマド関連土坑か
SK1	(楕円形)	(102)×70	22	貯蔵穴

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸71～121cm、短軸71～82cm、深さ38～79cmを測る。P2・4の堆積土下半で、径18～22cm程度の柱痕跡を確認した。P1で柱の抜き取り痕を確認した。

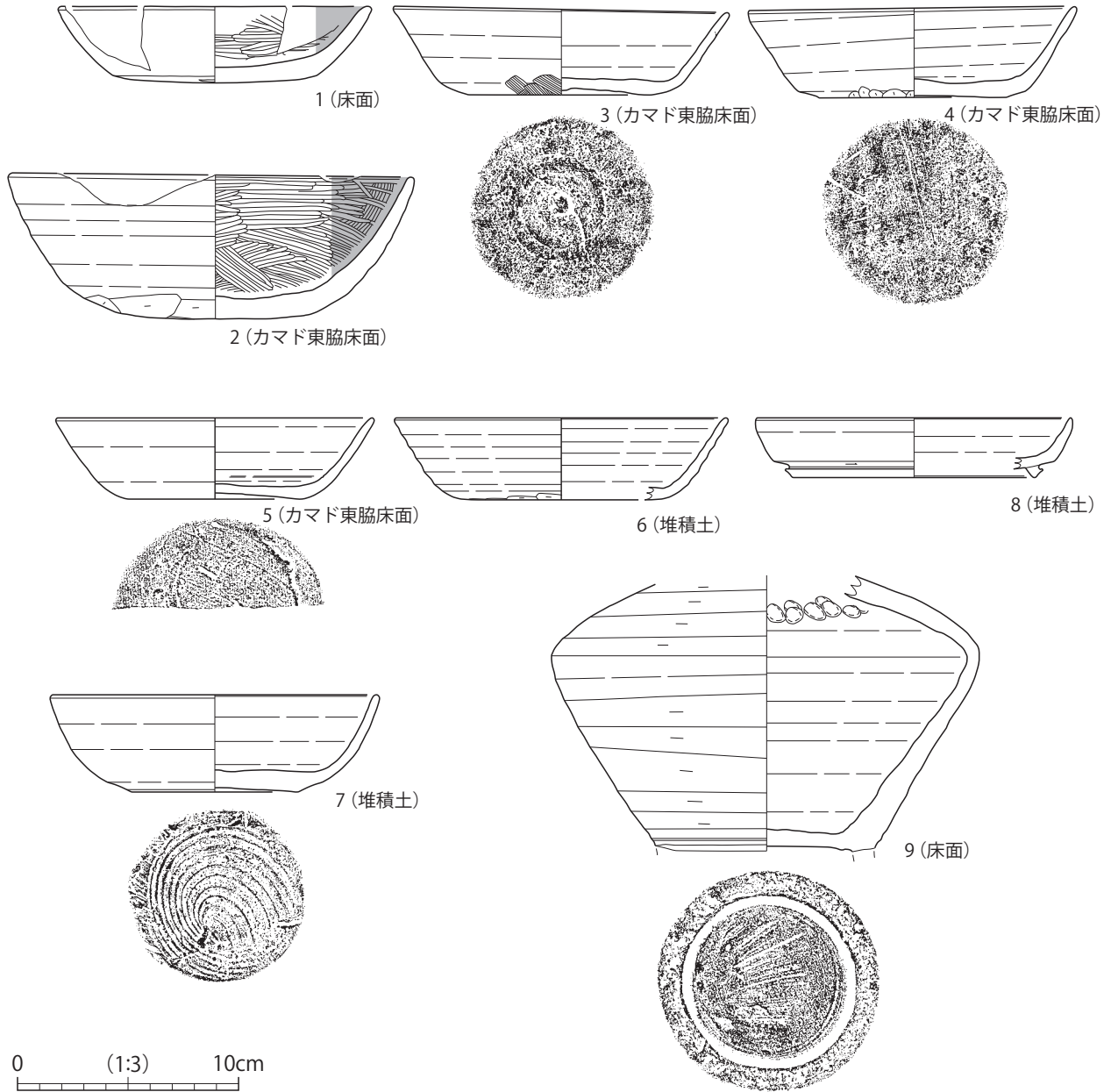
【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅15～22cm、深さ6～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は焚口付近が失われ、東袖の規模は残存値で長さ77cm、幅30～42cm、西袖は長さ61cm、幅24～42cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行きが推定で84cm、幅が残存値で77cmを測る。底面は土坑状に掘り込まれ、奥壁寄りに長径44cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に5cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ175cm、幅27～38cm、深さ20～44cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で土坑1基(SK1)、ピット1基(P5)を検出した。SK1は北西隅付近に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形と考えられ、規模は長軸102cm以上、短軸70cm、深さ22cmを測る。また、P4とカマドの中間に配置されているP5は、堆積土に炭化物を含むことからカマド関連の土坑であった可能性がある。

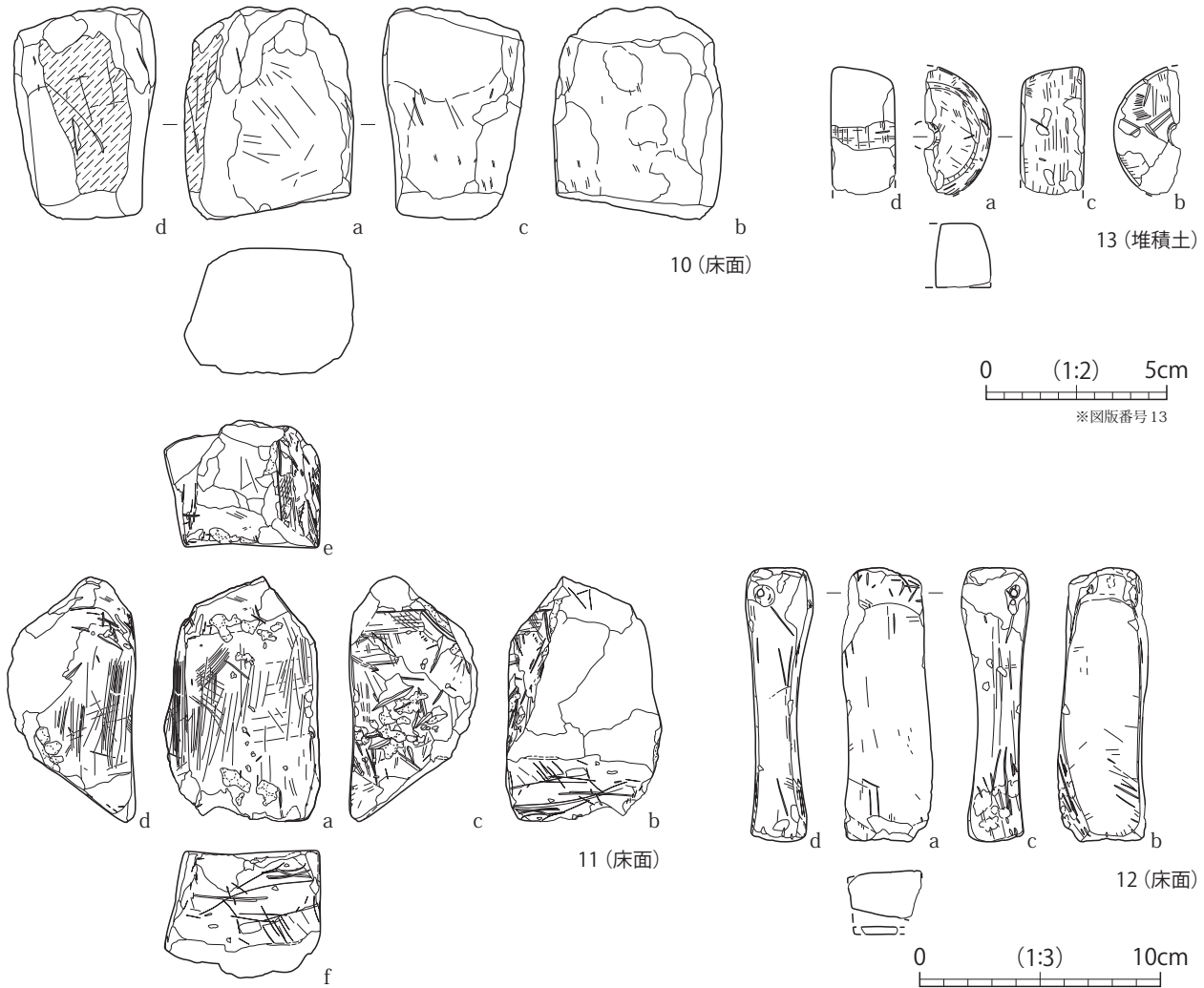
【掘り方】 深さ4～22cmを測る。底面はSI408Bの床面とほぼ同一で、概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器環1点、ロクロ土師器環1点、須恵器環6点・長頸瓶1点、石製品4点を掲載した(第105・106図)。2・4・5はカマド東脇の床面から重なって出土した。1の外面の調整は摩滅により不明瞭だが、器形などからロクロ土師器の可能性も考えられる。丸底風平底の底部から緩やかに屈曲し、外傾しながら直線的に口縁部に至る。2はロクロ土師器の深身の坏である。丸底風平底の底部で、体部から口縁部に向かって緩やかに内湾する。1・2はともに内面に黒色処理が施されている。3～7は須恵器環である。3～6は底部と体部の境が緩やかに屈曲する。いずれも体部から口縁部に向かって直線的に外傾する。7は厚手の平底から緩やかに内湾し口縁部に至る。3の底部の切り離しは回転ヘラ切り、5が静止糸切り、7が回転糸切りで、いずれも再調整は認められない。3は体部下端にのみヘラナデが施されている。4・6は再調整が認められ、ともに手持ちヘラケズリが体部下端から底部にかけて施されている。3・



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-361	SI408A	床面	土師器	环	(14.0)	—	3.4	不明	ヘミガキ	内面黒色処理 外面摩滅	321
2	D-002	SI408A カマド 東脇	床面	ロクロ 土師器	环	18.1	—	6.5	カマド 体下端～底部：手持ヘカスリ	ヘミガキ	内面黒色処理	321
3	E-010	SI408A カマド 東脇	床面	須恵器	环	15.2	8.2	4.0	カマド調整 体下端：ヘミガキ 底部：回転ヘカスリ	カマド調整	内外面口縁部重ね焼き痕	321
4	E-013	SI408A カマド 東脇	床面	須恵器	环	14.8	8.4	4.1	カマド調整 底部：手持ヘカスリ	カマド調整	外面口縁部重ね焼き痕	321
5	E-011	SI408A カマド 東脇	床面	須恵器	环	(14.4)	(8.0)	(3.8)	カマド調整 底部：静止糸切	カマド調整	外面口縁部重ね焼き痕 内外面体部摩滅 内面屈曲部部分的に沈線状	322
6	E-012	SI408A	堆積土	須恵器	环	(15.0)	—	(3.7)	カマド調整 底部：手持ヘカスリ	カマド調整	骨針少量含む	322
7	E-009	SI408A	堆積土	須恵器	环	(14.7)	7.7	4.4	カマド調整 底部：回転糸切	カマド調整	内面口縁部重ね焼き痕	322
8	E-014	SI408A	堆積土	須恵器	高台付 环	(14.2)	(11.0)	2.7	口縁～体中位：カマド調整 体下位：回転ヘカスリ 底部：カマド調整による高台貼付	カマド調整	骨針中量含む	322
9	E-015	SI408A	床面	須恵器	高台付 長頸瓶	—	—	(12.5)	体部：回転ヘカスリ→カマド調整(一部) 底部：静止糸切→カマド調整による高台貼付	体上半：北ノ 穴→北ノ 穴 体下半：カマド調整	外面灰かぶり 高台剥離後平滑にして使用 骨針中量含む	322

第105図 SI408A 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
10	Kd-006	SI408A	床面	石製品	砥石	(8.8)	7.0	5.9	522.0	凝灰岩	砥面2面 溝状痕(a・c・d面) 線條痕(a~d面) 節理(d面)	322
11	Kd-007	SI408A	床面	石製品	砥石	10.2	6.5	5.3	389.0	砂質粘板岩(●)	砥面4面 溝状痕(a~f面) 線條痕(a~f面) 敲打痕(a~f面)	322
12	Kd-009	SI408A	床面	石製品	砥石	10.9	3.7	2.8	140.9	凝灰岩	砥面4面 溝状痕(a~d面) 線條痕(a~d面) 片側穿孔 孔径0.4~0.8cm 盲孔径0.6cm・深0.9cm	322
13	Kd-008	SI408A	堆積土	石製品	紡錘車	(3.5)	(1.8)	1.8	17.6	蛇紋岩(●)	溝状痕(b~d面) 線條痕(a~d面) 片側穿孔か 推定孔径0.9cm	322

第106図 SI408A 竪穴住居跡出土遺物(2)

6の色調は灰色、4が灰黄色、5が灰黄色～橙色、7が灰白色を呈する。胎土はいずれもやや精良で砂粒を含み、6のみ少量の海綿骨針を含む。5の内面は底部から体部にかけて平滑になっているため、使用痕跡と考えられる。8は須恵器高台付坏である。断面台形の高台が底部と体部の境より内側に「ハ」字状に付され、体部は直線的にやや外傾し、口縁部は短く直立する。色調は暗灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と海綿骨針を含む。9は須恵器高台付長頸瓶で、高台は剥離している。底部は平底の周縁に高台が付され、体部は直線的に外傾し、肩部は丸く屈曲する。外面は体部上位にまで回転ヘラケズリがおよぶ。底部の切り離しは静止糸切りである。色調は灰色～暗灰色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子、海綿骨針を含む。10～12は砥石である。10の砥面は2面あり、a・c・d面に溝状痕、a～d面に線條痕がみられる。また、d面には節理面も認められる。石材は凝灰岩である。11の砥面は4面あり、a～f面に溝状痕・線條痕・敲打痕がみられる。石材は砂質粘板岩である。12の砥面は4面あり、a～d面に溝状痕・線條痕がみられる。側面の上部に片側から穿孔された貫通孔があり、c面には貫通孔に隣接して盲孔がある。石材は

凝灰岩である。13は石製の紡錘車で、断面形は台形を呈する。b～d面に溝状痕、a～d面に線条痕がみられる。石材は蛇紋岩である。

【時期】 床面から出土したロクロ土師器環、須恵器環など(第105図1～5・9)の特徴から、7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。

SI408B 竪穴住居跡(第107～109図)

【位置・確認】 調査区北部中央の30・38・39・46・47区に位置し、SI408A直下で入れ子状に重複する。南壁を除く壁はSI408Aと同一で、南壁はSI408Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI408Aより古く、SI409・456、SD303・333・334、Pit882・1103・1125～1129・1131・1133～1136・1141・1161・1162より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸685cm、短軸611cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 大別で3層に分層した。土層番号はSI408Aからの連番である。22層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。23・24層は住居掘り方埋土である。

なお、カマド部分については別番号とし、1～9層はカマド堆積土、10層はカマド掘り方埋土である。

【壁面】 残存する東壁と北壁は、外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で39cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。北東隅には棒状の自然礫の集積がみられる。

【柱穴】 床面で10基(P6～15)、掘り方で9基(P16～24)を検出した。遺構番号はSI408Aからの連番である。主柱穴の配置はSI408Aとほぼ同一とみられるが、P1と重複するP24、P4と重複するP12はSI408B段階の主柱穴と考えられる。P12・24の規模は、残存値で長軸47～52cm、短軸32～40cm、深さ18～56cmを測る。他の柱穴は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で浅いものが多い。カマド前方から中央部にかけて集中する傾向がみられる。西壁際のP10・11は壁柱穴と考えられ、P10の堆積土下半とP11の堆積土で、径8～9cm程度の柱痕跡を確認した。

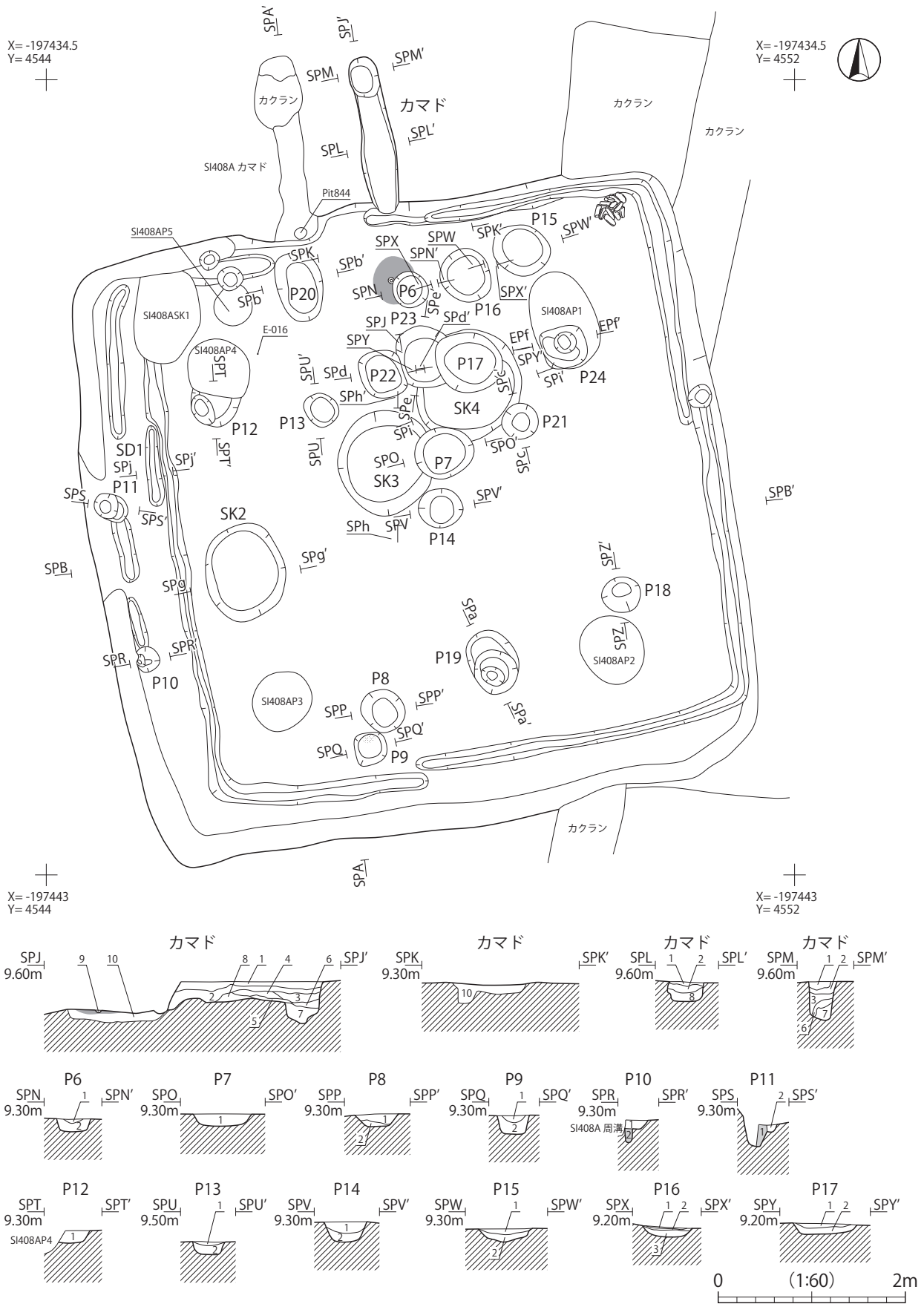
【周溝】 カマド部分を除く壁面に沿ってめぐるが、東壁と南壁の中央付近で途切れる。西壁側の周溝は、壁面から34～56cm程度内側をめぐり、一部が二重になる箇所もある。また、西壁際では別の周溝が断続的にめぐっていることからSI408Bでも壁の拡張が行われた可能性が考えられる。周溝の断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅10～25cm、深さ2～27cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃烧部の袖は全て失われ、壁面から53cm程度内側の焼面と煙道部が残存する。

燃烧部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は、奥行き98cm前後、幅46cm以上である。焼面は長径52cm程度を測り、中央付近では支脚の埋設穴とみられる小規模なピットを検出した。煙道部は長さ168cm、幅29～37cm、深さ20～41cmを測り、燃烧部との接続部に段差はみられない。底面で10cm程度立ち上がり、起伏しながら概ね平坦に延びる。先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK2・3)、掘り方で1基(SK4)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI408Aからの連番とした。SK2は西部、SK3・4は中央部付近に位置する。SK3は堆積土に焼土と炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸108cm、短軸104cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ2～39cmを測る。西壁に沿って54～77cm程度内側が溝状に掘り込まれ、北東と南東隅付近が土坑状に掘り込まれている。



第107図 SI408B 竪穴住居跡(1)

SI408B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	22a	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	22b	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	7	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	9	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。
	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～50mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。

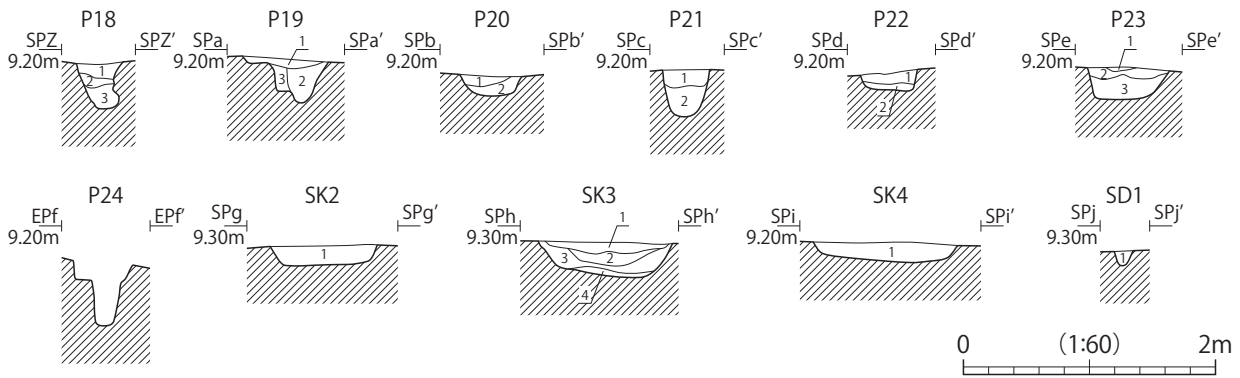
SI408B 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
P8	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(20～60mm程度)多量含む。
P10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
P11	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
P14	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5YR3/4 暗赤褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
P16	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～30mm程度)微量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P17	1	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)・炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
P18	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。 ※炭化物層
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P19	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P20	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P21	1	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P22	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P23	1	10YR7/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	炭化物粒多量含む。
P24	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR7/2 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土ブロック(10～15mm程度)少量含む。
SK2	—	—	—	※註記なし
SK3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量、IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量、IV層土粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(20～25mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SD1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。

SI408B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	円形	39×36	16	補助柱穴
P7	楕円形	63×54	14	補助柱穴
P8	円形	47×42	13	補助柱穴
P9	隅丸方形	34×34	20	補助柱穴
P10	円形	27×25	24	壁柱穴 柱痕跡
P11	楕円形	36×27	25	壁柱穴 柱痕跡
P12	(楕円形)	52×(32)	18	主柱穴
P13	楕円形	36×34	14	補助柱穴
P14	円形	47×42	20	補助柱穴
P15	円形	61×52	14	補助柱穴
P16	円形	57×53	12	補助柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P17	円形	74×64	12	補助柱穴
P18	円形	41×38	37	補助柱穴
P19	楕円形	69×51	33	補助柱穴
P20	楕円形	75×49	15	補助柱穴
P21	円形	38×37	33	補助柱穴
P22	隅丸方形	52×(45)	17	補助柱穴
P23	(楕円形)	67×(58)	25	補助柱穴
P24	(隅丸方形)	47×(40)	56	主柱穴
SK2	円形	99×85	20	性格不明土坑
SK3	円形	108×(104)	25	カマド関連土坑
SK4	(円形)	120×(109)	13	性格不明土坑



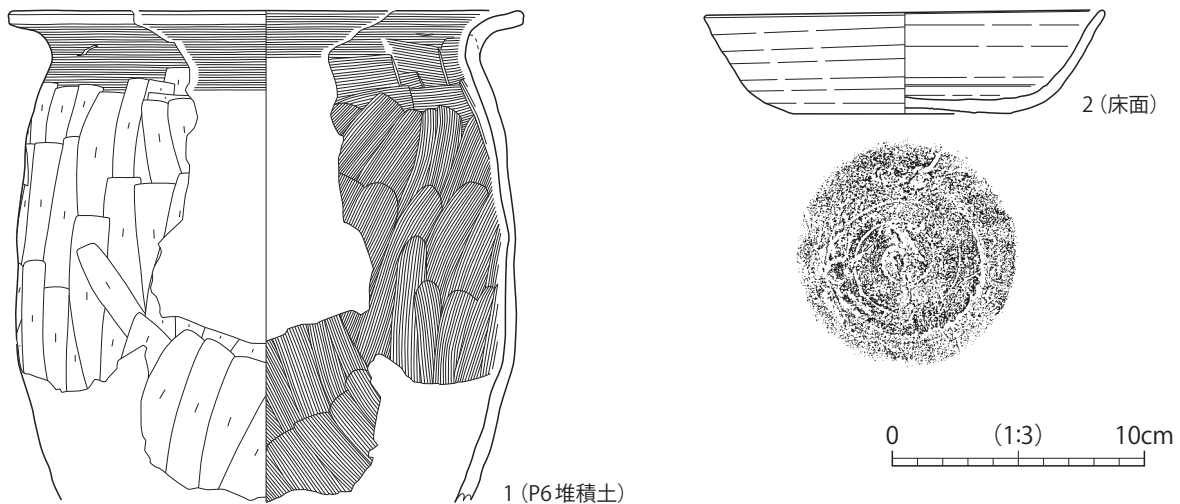
第108図 SI408B 竪穴住居跡(2)

【出土遺物】 床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器甕1点、須恵器環1点を掲載した(第109図)。2は北西部の床面から出土した。

1は土師器甕で、胴部最大径が中位に位置する張りのない楕円形と考えられる。口縁部は外反し大きく開き、口縁端部でわずかに内湾する。外面に縦方向の弱いヘラケズリが施されている。色調は褐色～にぶい橙色を呈し、胎土は精良で、細砂と多量の海綿骨針を含む。

2は須恵器環である。底部と体部の境は緩やかに屈曲し、体部は直線的に外傾、口縁部でわずかに外傾する。底部の切り離しは回転ヘラ切りで、再調整は認められない。色調は灰黄色～橙色を呈し、胎土はやや精良で砂粒を含む。内面の底部は平滑で、使用痕跡が認められる。

【時期】 床面から出土した須恵器環(第109図2)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



第109図 SI408B 竪穴住居跡出土遺物

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-362	SI408B P6	堆積土	土師器	甕	(20.1)	—	(19.6)	口縁：ヨナテ 胴部：ヘラケズリ	口縁：ヨナテ 胴部：ヘラケ	骨針多量含む	322
2	E-016	SI408B	床面	須恵器	環	15.8	8.6	4.1	口調整 底部：回転ヘラ切	口調整	内面体～底部重ね焼き痕 内面屈曲部沈線状	322

SI409 竪穴住居跡 (第110～112図)

【位置・確認】 調査区北部中央の37・38・45・46区に位置する。東壁付近はSI408の重複により、広い範囲が失われている。

【重複】 SI408、SB45より古く、SI478、SD331・333、Pit1133より新しい。

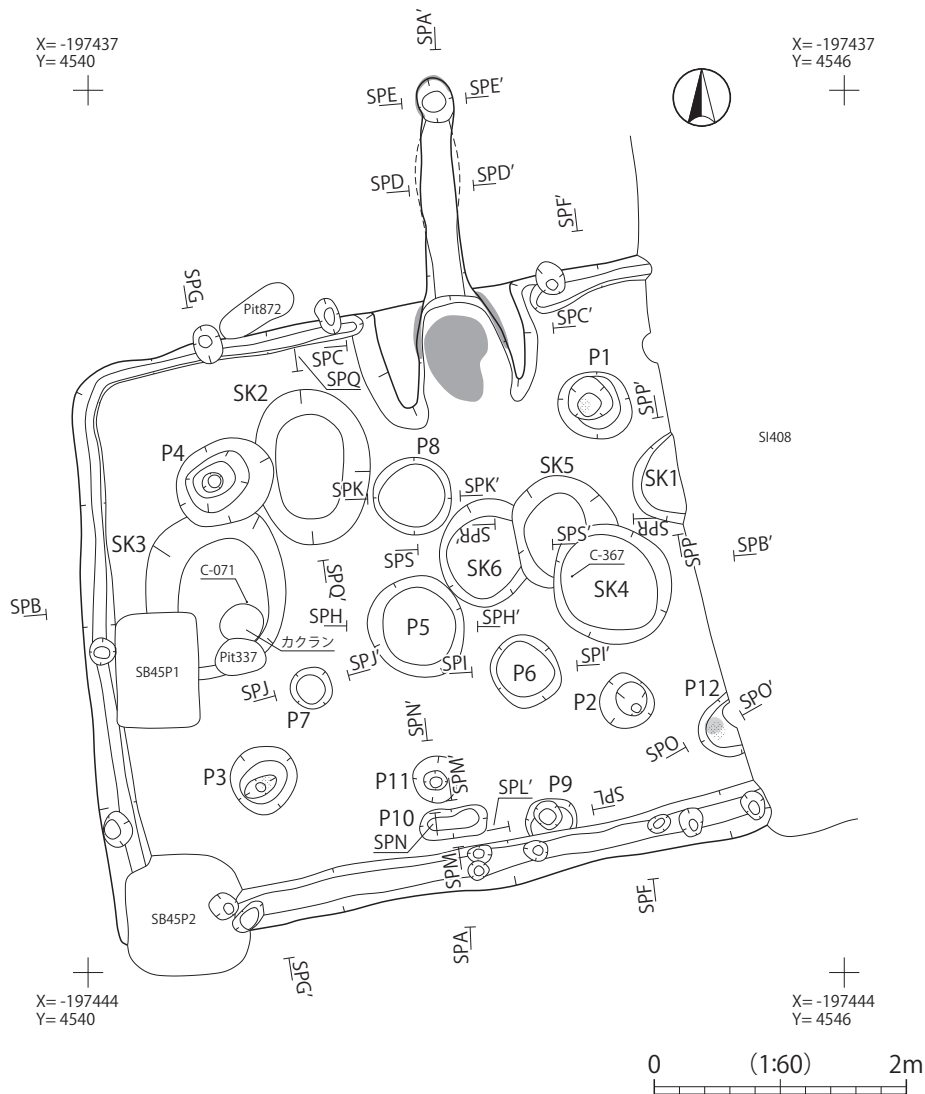
【規模・形態】 確認された規模は長軸520cm、短軸470cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Wを測る。

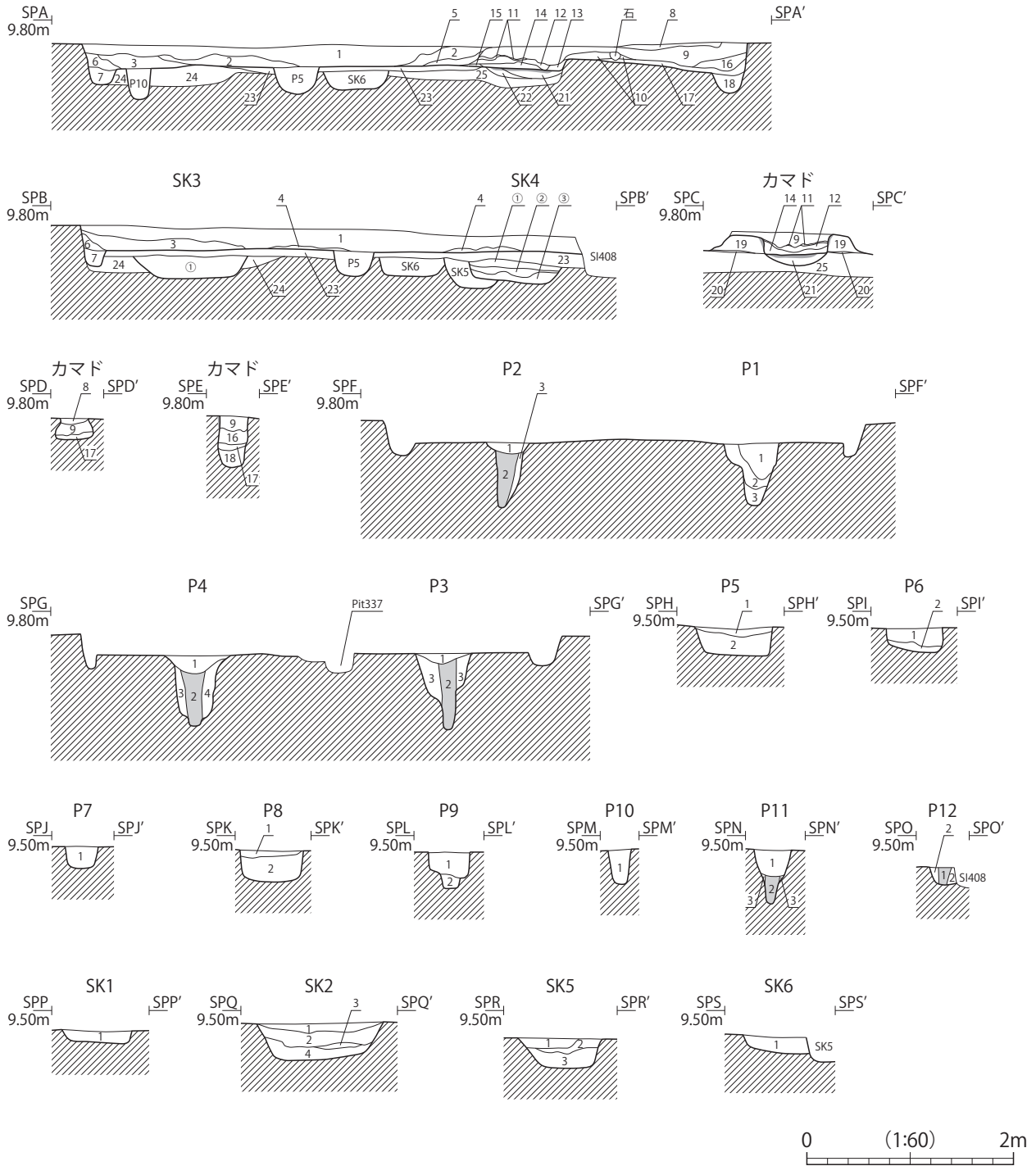
【堆積土】 25層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～18層はカマド堆積土である。19・20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23～25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄橙色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第110図 SI409 竪穴住居跡 (1)



SI409 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	59×55	60	主柱穴
P2	円形	43×41	64	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	53×51	72	主柱穴 柱痕跡
P4	楕円形	81×65	68	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	80×76	30	補助柱穴
P6	円形	56×52	23	補助柱穴
P7	円形	33×33	21	補助柱穴
P8	円形	63×60	29	補助柱穴
P9	(円形)	41×(26)	36	補助柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P10	隅丸長方形	54×23	32	補助柱穴
P11	円形	37×35	53	補助柱穴 柱痕跡
P12	(楕円形)	47×(44)	15	性格不明 柱痕跡
SK1	(円形)	(73)×(39)	11	カマド関連土坑
SK2	楕円形	123×(89)	35	性格不明土坑
SK3	楕円形	(131)×111	17	性格不明土坑
SK4	円形	97×91	18	カマド関連土坑
SK5	(円形)	89×(84)	27	カマド関連土坑
SK6	円形	85×(75)	20	性格不明土坑

第111図 SI409 竪穴住居跡(2)

SI409 堆積土註記表

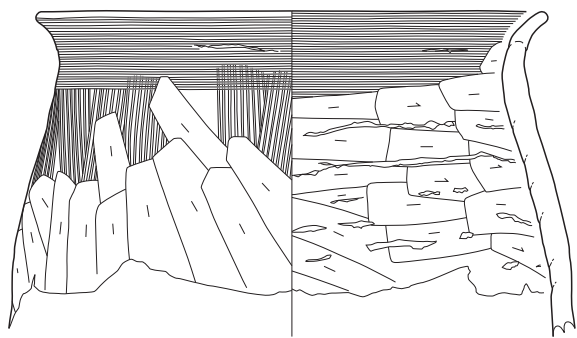
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～15mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒多量含む。 ※天井崩落土か
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(10～30mm程度)・炭化物ブロック(10～20mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
	11	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物主体。
	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	15	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒色シルト斑状に含む。
	18	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	カマド袖構築土	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト
20	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
カマド掘り方埋土	21	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
22	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
住居掘り方埋土	23	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～40mm程度)多量含む。
	24	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	25	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。

SI409 施設堆積土註記表

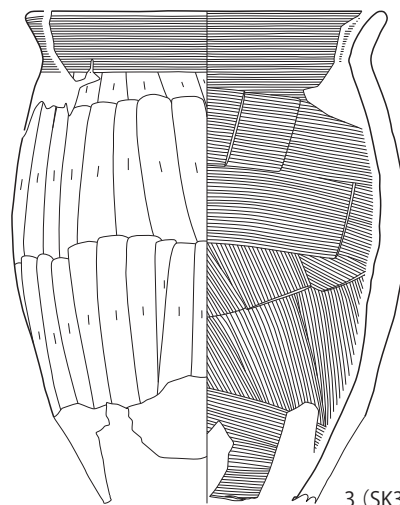
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR7/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。
P10	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
P12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	①	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
SK4	①	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	③	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	炭化物ブロック(5～30mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量、IV層土粒微量含む。
SK5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK6	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

【柱穴】 床面で11基 (P1～11)、掘り方で1基 (P12) を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸43～81cm、短軸41～65cm、深さ60～72cmを測る。P2～4の堆積土下半では、径17～23cm程度の柱痕跡を確認した。P1で柱の抜き取り痕と、径12cm程度の底面の変色範囲を確認した。P5～11は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で、形状も土坑状で浅いものが多い。P12の性格は不明である。P11の堆積土下半とP12の堆積土で、径13cm程度の柱痕跡を確認した。

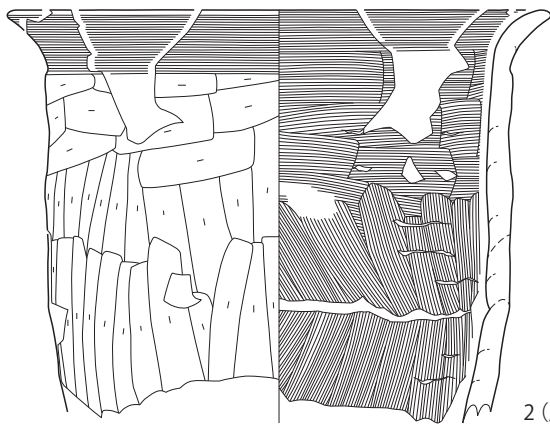
【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅13～28cm、深さ6～17cmを測る。底面からは、杭材の痕跡とみられるピットを検出した。各壁の周溝内に一定の間隔で配置されており、北壁の一部を掘り込む例もある。



1 (周溝・SK4堆積土)



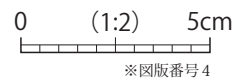
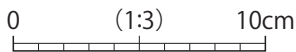
3 (SK3堆積土)



2 (床面)



4 (SK4堆積土)



※図版番号4

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-367	SI409 周溝・SK4	堆積土	土師器	甕	(19.9)	—	(12.9)	口縁：ワメ→ヨチデ 胴部：ワメ→ハカズリ	口縁：ヨチデ 胴部：ハカズリ	角閃石中量含む	322
2	C-368	SI409	床面	土師器	甕	(21.3)	—	(16.4)	口縁：ヨチデ 胴部：ハカズリ	口縁：ヨチデ 胴部：ハカズリ		323
3	C-071	SI409 SK3	堆積土	土師器	甕	(14.0)	—	19.5	口縁：ヨチデ 胴部：ハカズリ	口縁：ヨチデ 胴部：ハカズリ	骨針少量含む	323

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
4	N-006	SI409 SK4	堆積土	金属製品	鉄鎌	(5.5)	3.4	0.4	29.5	刃部 曲刃	323

第112図 SI409 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】 北壁中央部と推定される位置に、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ93cm、幅19～33cm、西袖は長さ98cm、幅38～58cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き103cm、幅56～78cmを測る。底面は概ね平坦で、底面全体におよぶ長径70cm程度の焼面がみられる。奥壁はやや外傾しながら11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ173cm、幅25～38cm、深さ15～50cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で4基(SK3～6)の土坑を検出した。北半部を中心に位置し、東西に連なるようなかたちで検出した。SK4～6は重複し、SK4→SK5→SK6の順で古くなる。SK1・4・5は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸73cm、短軸39cm、深さ11cmを測る。SK4の平面形は円形を呈し、規模は長軸97cm、短軸91cm、深さ18cmを測る。SK5の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸89cm、短軸84cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】 深さ9～26cmを測り、北半部と南東部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器甕3点、金属製品1点を掲載した(第112図)。4はSK4から出土した。1～3は土師器甕で、3は中型品である。1・3の胴部最大径は中位に位置するものと考えられる。1・2の口縁部は頸部から緩やかに外反、3は「く」字状に屈曲する頸部から外反気味に外傾する。2の頸部は段が認められるが、1・3には認められない。2の外縁部は胴部上端を横方向、そのほかは縦方向に弱いヘラケズリが施されている。3は胴部上半に縦方向の弱いヘラケズリが施されている。2の色調はにぶい赤褐色、3は橙色を呈している。2の胎土は粗く、5mm以下の砂礫を含み、3は精良で、砂粒や赤色粒子、少量の海綿骨針を含む。4は曲刃の鉄鎌である。

【時期】 床面とSK3などから出土した土師器甕(第112図1～3)の特徴およびSD331との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

SI410 竪穴居跡(第113・114図)

【位置・確認】 調査区中央の71区に位置する。西壁と北壁の上部は、SD331の重複や攪乱により一部が失われている。床面施設は柱穴のみで、周溝・カマド・土坑などは検出できなかった。

【重複】 SD331より古く、SI405・441・475より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸378cm、短軸331cmを測り、平面形は南北にやや長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～9層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10～12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で50cmを測る。北壁は傾斜が緩く、大きく開いて立ち上がる。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

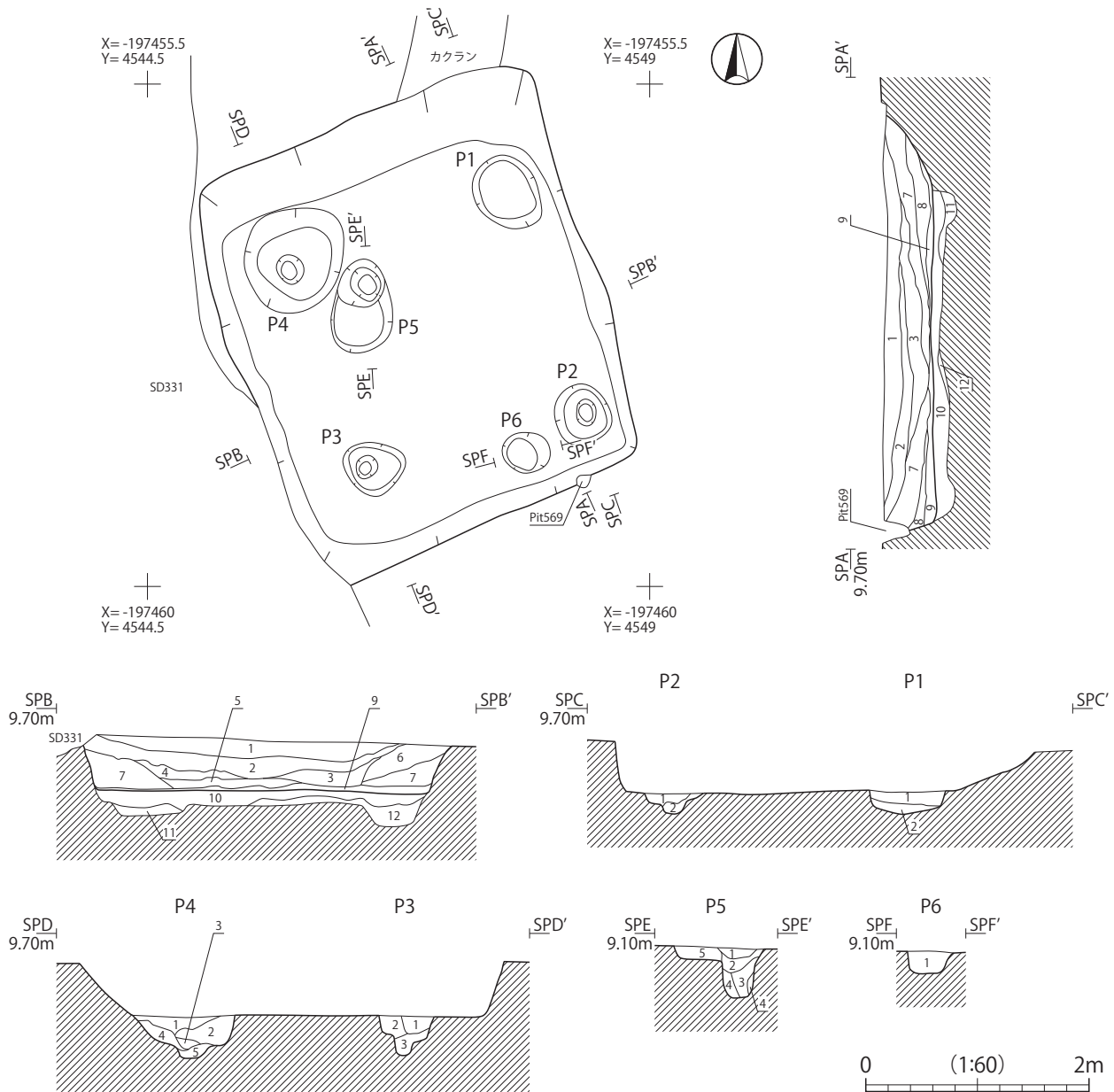
【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸52～100cm、短軸43～90cm、深さ17～39cmを測る。いずれも土坑状で浅い。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP4の、P6はP2の至近に配置されている。P5では柱の抜き取り痕を確認した。

【掘り方】 深さ8～31cmを測る。底面は中央部が高まり、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏1点・壺1点、須恵器坏1点、土製品1点を掲載した(第114図)。1は深身の土師器坏である。平底風丸底の底部から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色処理が施されている。2は小型の土師器壺である。肩部は丸く屈曲

しながら張り出し、口縁部で短く直立する。内面体部にヘラナデが施されており、回転台を使用していると考えられる。内外面ともに黒色処理を施している。3は須恵器環である。薄手の平底で、底部と体部の境で厚みを持って屈曲し、体部は直線的に外傾する。底部の切り離しは静止糸切りで、体部下位から底部周縁には再調整で回転ヘラケズリが施され、強い稜が形成される。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と少量の黒色粒子を含む。4は羽口で、全面が被熱しており、狭端部は変色している。吸気部はヘラケズリが施され、それ以外はナデが施されている。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI405・441・475、SD331 との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。



SI410 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	69×57	22	支柱穴
P2	円形	54×49	17	支柱穴
P3	楕円形	52×43	33	支柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	100×90	39	支柱穴
P5	楕円形	84×55	44	補助柱穴
P6	円形	43×37	19	補助柱穴

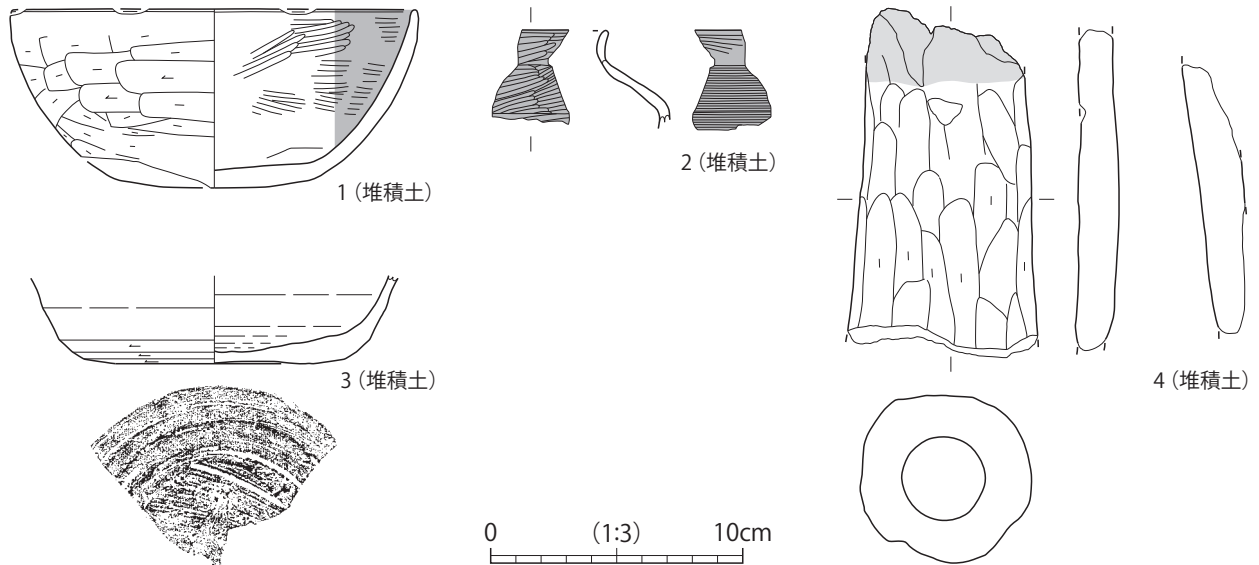
第113図 SI410 竪穴住居跡

SI410 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒・骨片微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。

SI410 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~100mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-072	SI410	堆積土	土師器	环	16.0	—	7.1	口縁：不明 体～底部：ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅 外面口縁部剥離	323
2	C-375	SI410	堆積土	土師器	壺	—	—	(3.9)	ハミガキ	口縁：ハミガキ 体部：ハダデカ(回転台使用か)	内外面黒色処理	323
3	E-017	SI410	堆積土	須恵器	环	—	(7.8)	(3.5)	体中位：叩調整 体下位～底部周縁：回転ハラスリ 底部：静止糸切	叩調整		323

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
4	P-010	SI410	堆積土	土製品	羽口	(13.8)	7.5	6.6	468.8	外面：打 吸気部ハラスリ 内面：ハラスリ 狭端部側被熱による変色あり	323

第114図 SI410 竪穴住居跡出土遺物

SI411 竪穴住居跡 (第115・116図)

【位置・確認】 調査区北部の55・63区に位置する。残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI449・450、SD330、Pit885・886・1088・1098より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸299cm、短軸212cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

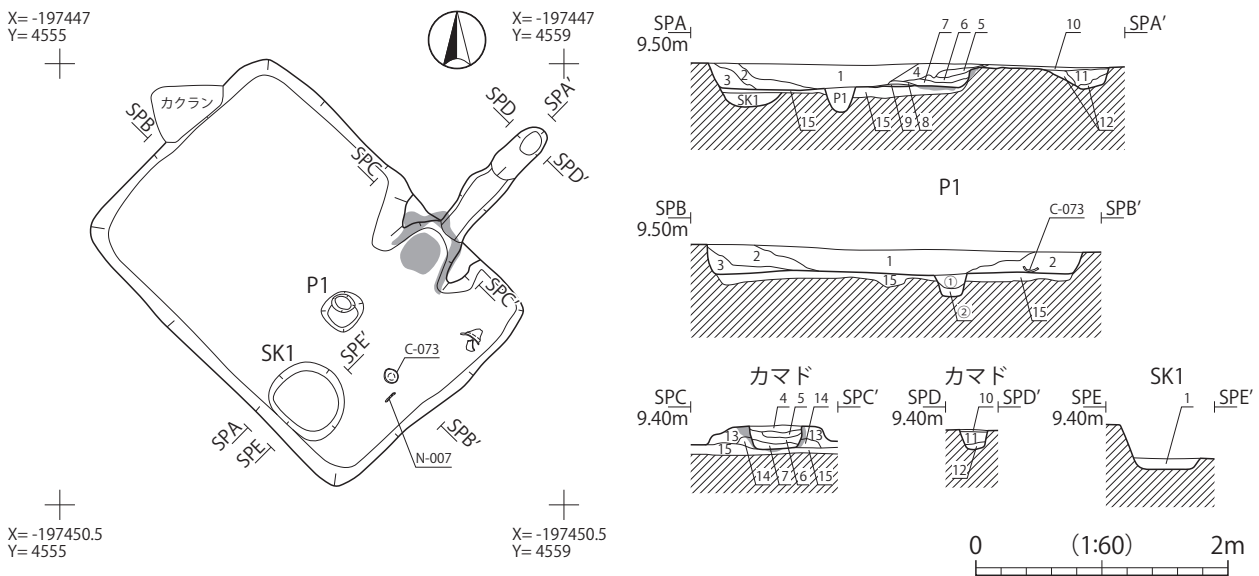
【方向】 カマドを基準としてN-44°-Eを測る。

【堆積土】 15層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1層は人為的な埋土、2・3層は自然堆積とみられる。4～12層はカマド堆積土、13・14層はカマド袖構築土、15層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。中央部から東に寄ったカマドの正面に配置されている。



SI411 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド堆積土	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	6	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒・灰少量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒・灰少量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物主体。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量、灰微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
カマド袖構築土	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	14	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI411 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)微量含む。

SI411 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	32×29	24	性格不明
SK1	円形	61×55	9	貯蔵穴

第115図 SI411 竪穴住居跡

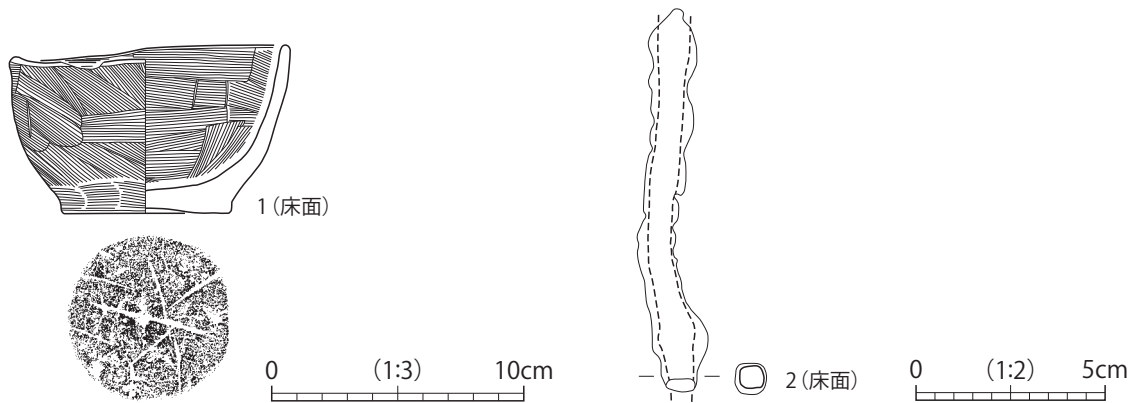
【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ40cm、幅30cm、西袖は長さ51cm、幅40cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き45cm、幅42cmを測る。底面は概ね平坦で、底面全体におよぶ長径33cm程度の焼面がみられる。奥壁は内湾気味に直立して14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ112cm、幅23～29cm、深さ3～17cmを測り、底面は概ね平坦で、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。南壁際のカマド正面に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸61cm、短軸55cm、深さ9cmを測る。

【掘り方】 深さ1～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓が出土し、土師器鉢1点、金属製品1点を掲載した(第116図)。ともに東部の床面から出土した。1は土師器ミニチュアの鉢で、上げ底状の底部から内湾気味に外傾し口縁部に至る。内外面ともにヘラナデが施されており、外面体部下端にユビナデを施している。2は棒状鉄製品で、断面形は隅丸方形を呈する。

【時期】 床面から出土した土師器ミニチュアの鉢(第116図1)の特徴およびSI449・450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-073	SI411	床面	土師器	ミニチュア鉢	10.7	6.6	6.7	口縁～体中位:ヘラナデ 体下位:ユビナデ	ヘラナデ	底部木葉痕 角閃石微量含む 外面煤付着	323
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-007	SI411	床面	金属製品	棒状鉄製品	(10.1)	1.2	1.1	20.2	両端部欠損	323	

第116図 SI411 竪穴住居跡出土遺物

SI412 竪穴住居跡(第117図)

【位置・確認】 調査区北東部の56・57・64・65区に位置する。削平により、西壁際の一部を除く大部分の床面が失われており、掘り方を中心に残存する。また、西壁付近はSD297の重複により分断され、北東部もSD318の重複により一部が失われている。

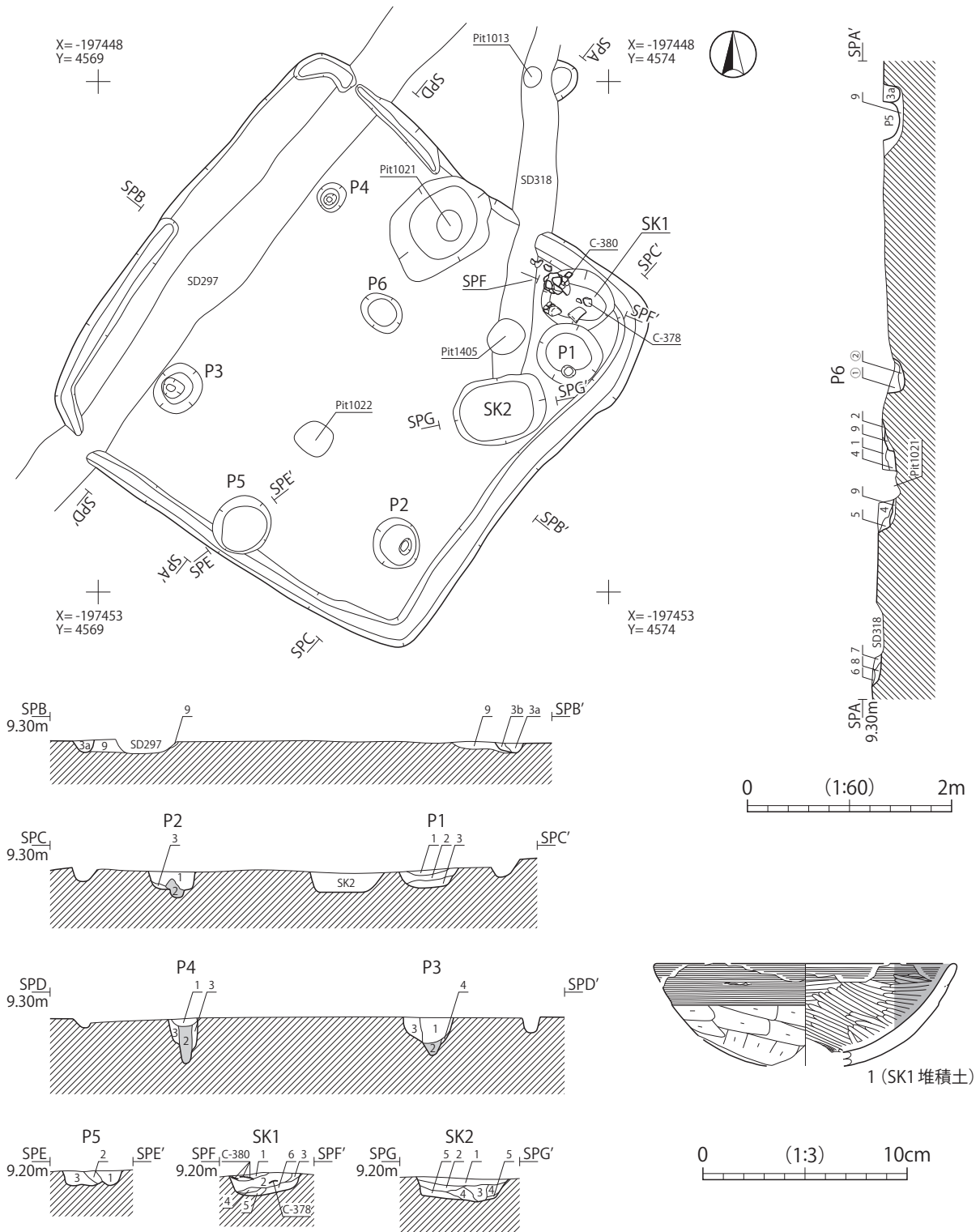
【重複】 SD297・318、Pit1405より古く、SI413・415、Pit1403より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸454cm、短軸452cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-40°-Eを測る。

【堆積土】 大別で9層に分層した。1・2層は黒褐色シルトの住居堆積土で、部分的に残存する。自然堆積とみられる。3層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。4～8層はカマド堆積土、9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で8cm残存するが、形状は不明である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-378	SI412 SK1	堆積土	土師器	環	(14.6)	—	(5.0)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラズリ	口縁：ヨナデ→ヘラミガキ 体部：ヘラミガキ	内面黒色処理 骨針少量含む 外面下部摩滅	323
写真のみ	C-380	SI412 SK1	堆積土	土師器	甕	—	(7.7)	(14.3)	胴部：ナメ→ヘラミガキ 底部：ヘラミガキ	ヘラデ	底部木葉痕 角閃石少量含む 内面やや摩滅	383

第117図 SI412 竪穴住居跡・同出土遺物

【床面】 残存範囲では、にぶい黄橙色シルトの埋土上面を床面とする。形状は不明である。

【柱穴】 床面で6基 (P1～6) を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸28～64cm、短軸26～59cm、深さ25～45cmを測り、東にずれて配置されている。P2～4の堆積土下半で、径8～18cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5・6は、ともにカマド主軸線上に配置されている。南壁際のP5は、入口施設の可能性もある。

【周溝】 カマド部分と西壁の北半部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は残存値も含め幅17～27cm、深さ2～18cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、土坑状に掘り込まれた燃烧部底面と、煙道の先端部のみ残存する。燃烧部の掘り込みは壁内に位置し、規模は長さ112cm、幅86cmを測る。焼面はみられない。煙道部は長さ151cm程度と推定され、先端部は幅29cm、深さ8cmが残存する。

【その他の施設】 床面で2基 (SK1・2) の土坑を検出した。SK1は北東隅、SK2は東壁際の中央部付近に位置し、SK1は形状からも貯蔵穴とみられる。SK1はP1の重複により一部が失われているが、平面形は楕円形を呈し、規模は残存値も含め長軸72cm、短軸54cm、深さ22cmを測る。

SI412 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
周溝堆積土	3a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物薄板状に少量、IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土主体。

SI412 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P4	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒微量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒多量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック板状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土主体、炭化物粒微量含む。

SI412 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	64×59	25	主柱穴
P2	円形	50×45	25	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	49×43	38	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	28×26	45	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	59×55	18	補助柱穴(入口施設か)
P6	楕円形	43×35	16	補助柱穴
SK1	楕円形	72×(54)	22	貯蔵穴
SK2	隅丸長方形	91×65	21	性格不明土坑

【掘り方】 深さ9～26cmを測り、北壁を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、SK1から出土した土師器環1点を掲載した(第117図)。また、SK1から出土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-4)。1は半球形を呈し、口縁部で外傾する。体部と口縁部の境に稜を持つ。内面は口縁部にヨコナデを施し、体部をヘラミガキ後に黒色処理が施されている。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。写真図版383-4(C-380)は土師器甕で、底部の下端部が張り出している。胴部下位から底部に向かって丸くすぼまる。

【時期】 SK1から出土した土師器環・甕(第117図1、写真図版383-4)の特徴およびSI413との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。

SI413 竪穴住居跡(第118～122図)

【位置・確認】 調査区東部の57・65・74区に位置する。北壁の西半部から北西隅にかけては、SI412の重複により上部が、東壁と南壁の一部も重複遺構や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SI412、SD298より古く、Pit1403・1412・1413より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸668cm、短軸648cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-27°-Wを測る。

【堆積土】 42層に分層した。1～19層は黒褐色・暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。20層は周溝堆積土、21～28層はカマド堆積土である。29～34層はカマド袖構築土、35～38層はカマド掘り方埋土で、このうち35層は支脚の埋設穴と考えられる。39～42層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面から4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも支柱穴と考えられ、規模は長軸44～58cm、短軸33～48cm、深さ48～71cmを測る。P1・2・4の堆積土下半で、径17～21cm程度の柱痕跡を確認した。P3の中層付近からは、ほぼ完形の土師器甕1個体(第122図14)が出土した。

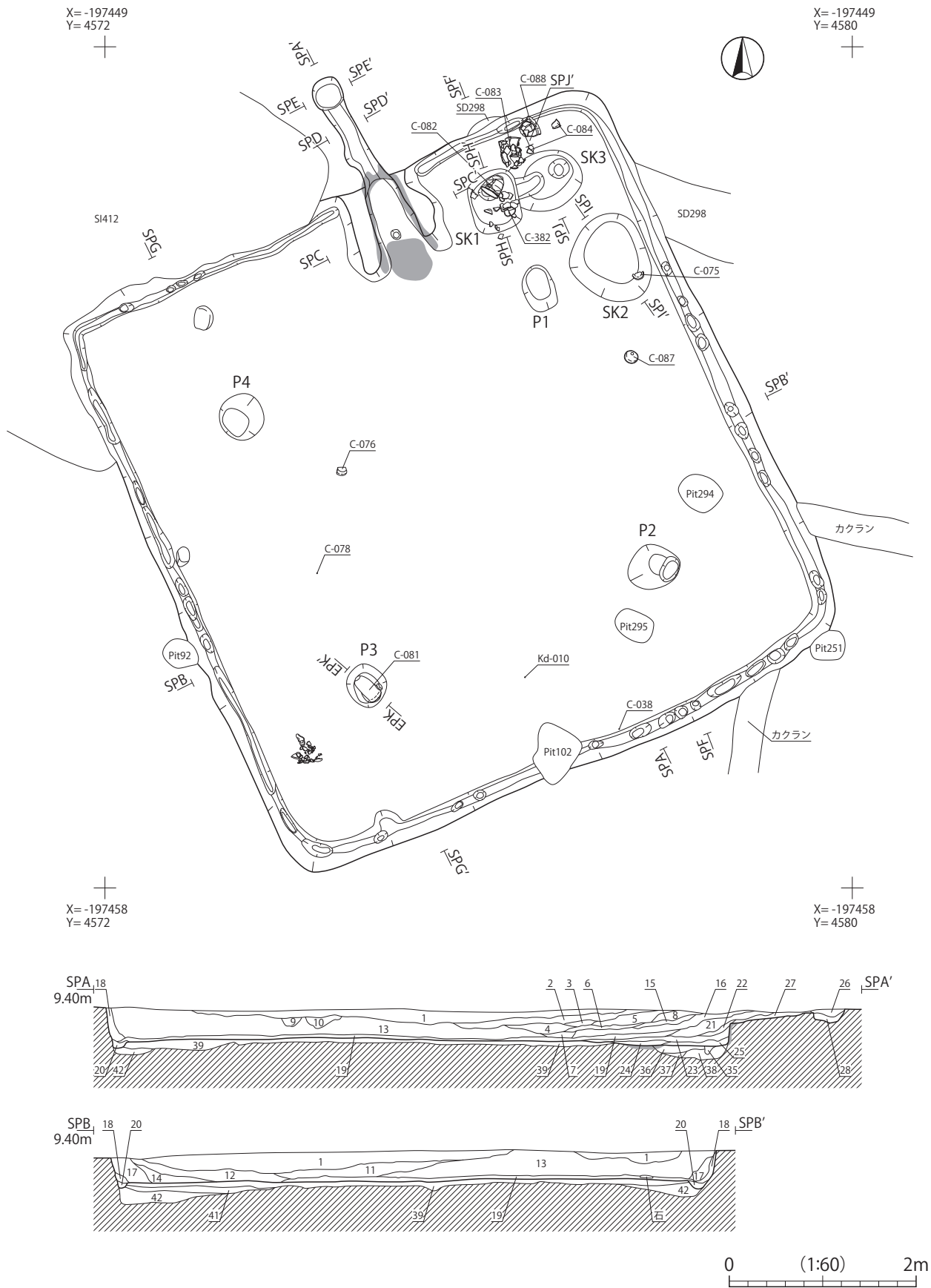
【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅10～25cm、深さ3～14cmを測る。各周溝の底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを多数検出した。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ97cm、幅38cm、西袖は長さ98cm、幅36cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き98cm、幅87cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径48cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側には支脚の埋設穴とみられる小規模なピットがある。奥壁は直立気味に23cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ122cm、幅22～32cm、深さ5～15cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。いずれも北東部に位置し、SK1・3は形状からも貯蔵穴とみられる。SK1・3は重複し、SK1が新しい。貯蔵穴の掘り直しと考えられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸65cm、短軸53cm、深さ30cmを測る。SK3の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値も含め長軸82cm、短軸63cm、深さ28cmを測る。

【掘り方】 深さ8～26cmを測り、南壁を除く壁側が一段低く掘り込まれる。また、南壁際の東半部も溝状に掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環6



第118図 SI413 竪穴住居跡(1)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI413 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土斑状に少量含む
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に多量、黒褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒・褐鉄鉱微量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に多量、黒褐色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、褐鉄鉱微量含む。
周溝堆積土	20	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、細砂少量含む。
カマド堆積土	21	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物帯状に含む。 ※灰層
	24	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	25	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、骨片(5～20mm程度)微量含む。 ※灰層
	26	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	27	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	28	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
	29	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
カマド袖構築土	30	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	31	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	32	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	33	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
カマド掘り方埋土	34	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)少量含む。
	35	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	36	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※支脚埋設穴
	37	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。
住居掘り方埋土	38	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	39	5Y6/1 灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	40	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
	41	10YR6/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	42	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。

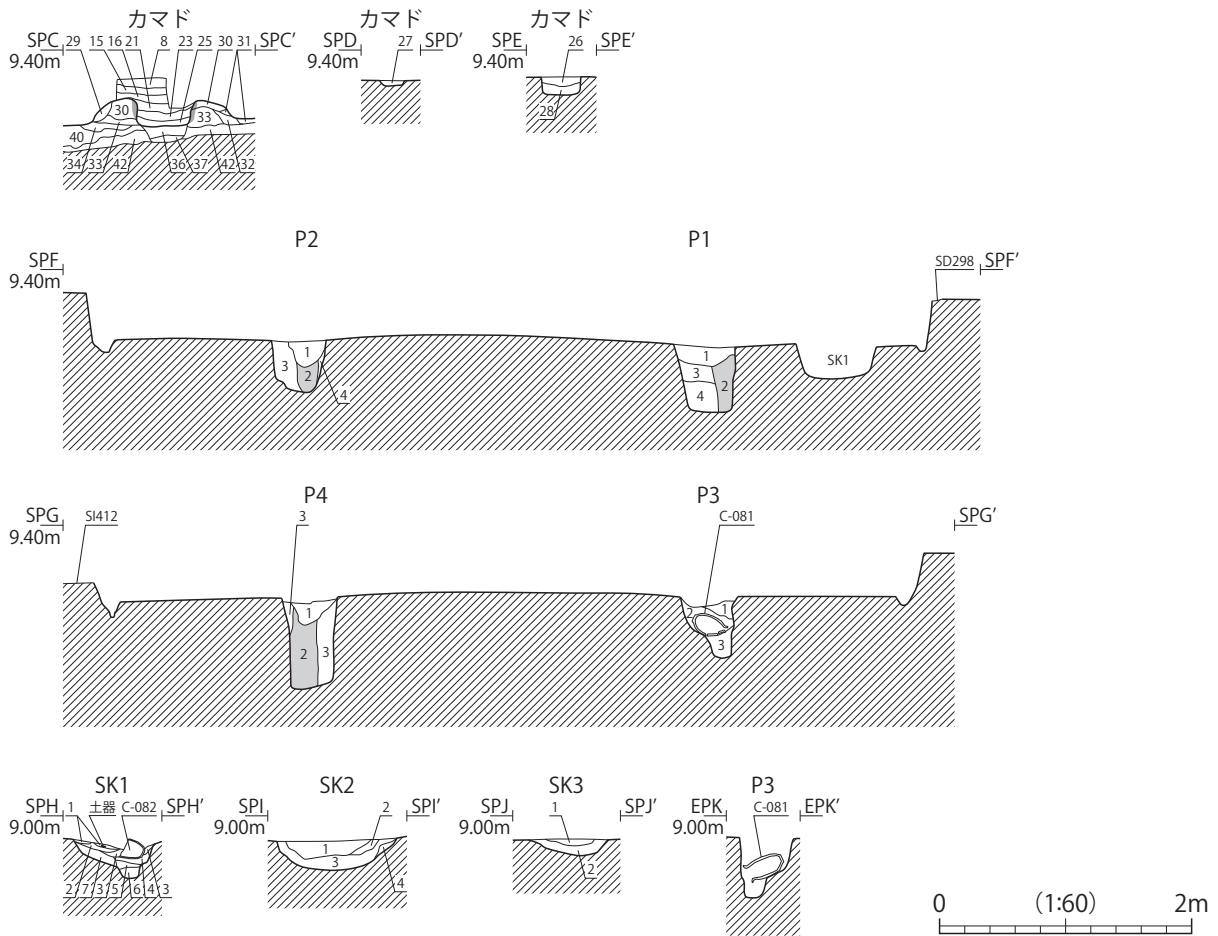
SI413 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR2/1 黒色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR1.7/1 黒色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック帯状に少量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
SK3	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック斑状に少量含む。

SI413 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	49×33	55	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	58×48	57	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	44×41	48	主柱穴
P4	円形	48×47	71	主柱穴 柱痕跡

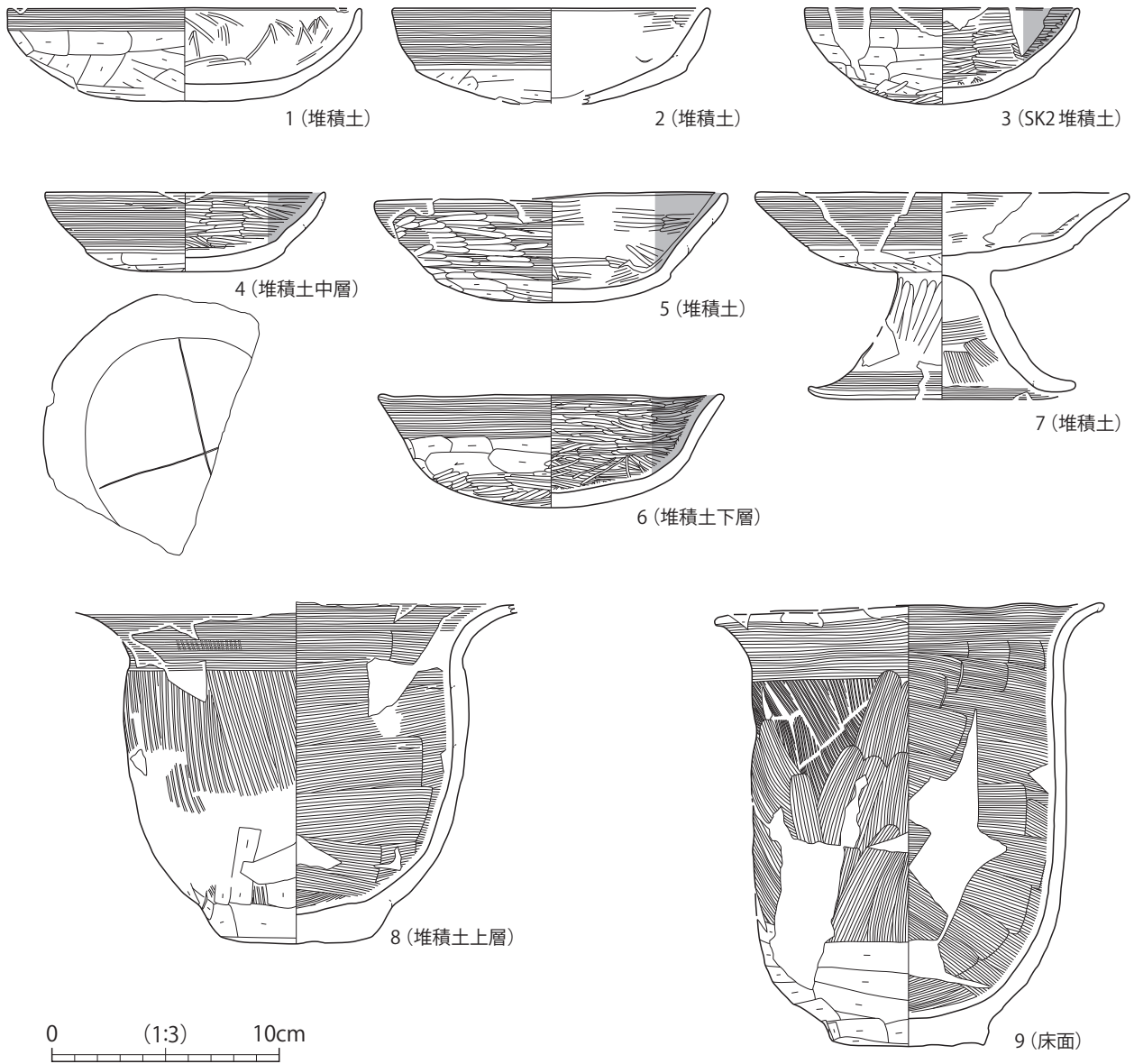
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	隅丸長方形	65×53	30	貯蔵穴
SK2	円形	96×84	24	性格不明土坑
SK3	楕円形	(82)×63	28	貯蔵穴



第119図 SI413 竪穴住居跡 (2)

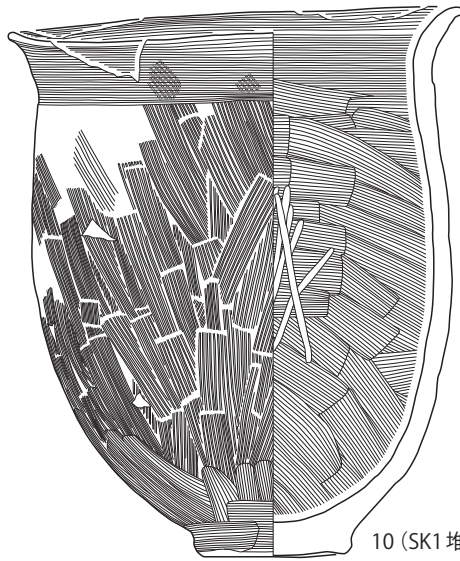
点・高坏1点・甕7点・甌2点、石製品1点を掲載した(第120～122図)。9・10・12・13・16は、SK1・3と周辺の床面から出土した。また、14はP3の中層付近から横位の状態で出土した。

1～6は土師器坏で、1は鬼高系土師器の特徴を持つ。平底丸底の底部から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面には円形や「U」・「V」字状の暗文風ヘラミガキが施されている。外面は黒色漆仕上げされていると考えられる。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、少量の砂粒を含む。焼成はやや軟質である。2は扁平な丸底と考えられ、口縁部で直線的にやや外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。3は丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で短く直立する。外面の口縁部中位から下位にかけて弱いヘラケズリ後ヘラミガキが粗く施されている。4～6は有段丸底坏で、4・5は口縁部と体部の境に段、6は稜を持つ。底部は4・5が扁平な丸底を呈する。4・5の口縁部は直線的に外傾し端部でわずかに内湾し、6は外反気味に外傾する。3～6は内面に黒色処理が施されている。5は、被熱のため黒色処理が消失しているものと被熱の認められない破片が接合したものである。7は土師器高坏である。坏部は口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で外反気味に外傾する。脚部は中空で、裾部はラッパ状に開く。被熱による火ハネ痕が著しく不明瞭な部分もあるが、外面と坏部内面に黒色漆仕上げされている可能性がある。8～14は土師器甕で、8は小型品、9～11は中型品、12～14は大型品である。8・9・13・14の胴部はいずれも下膨れを呈し、10・11は釣鐘形を呈する。口縁部はいずれも外反気味に外傾する。8・10～14は頸部の段を持つが、9は認められない。15・16は単孔の土師器甌で、15は小型品、16は中型品である。15の胴部は半球形を呈し、口縁部で直立し端部を丸く折り返している。2条の細い沈線が口縁部と胴部の境にめぐる。16は胴部下

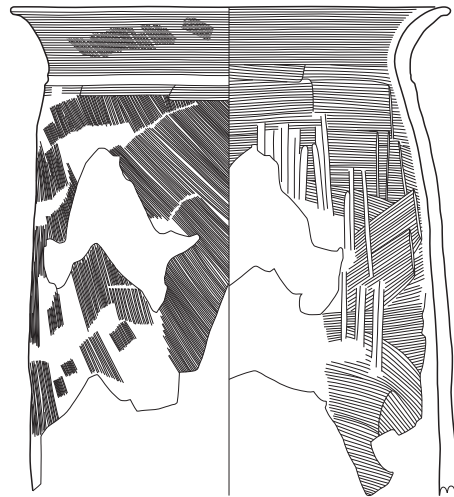


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-079	SI413	堆積土	土師器	环	(15.5)	—	4.1	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハラミガキ(暗文風)	関東系 外面漆仕上げか 内外面摩滅	323
2	C-077	SI413	堆積土	土師器	环	(13.8)	—	(4.2)	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハラミガキ	内外面摩滅	323
3	C-075	SI413 SK2	堆積土	土師器	环	(12.0)	—	4.2	口縁：ヨナテ 体上半：ハラスリ 体下半～底部：ハラスリ→ハラミガキ	ハラミガキ	内面黒色処理	323
4	C-078	SI413	堆積土中層	土師器	环	(12.2)	—	3.5	口縁：ヨナテ 体～底部：ハラスリ	ハラミガキ	内面黒色処理 外面底部に線刻「十」	323
5	C-076	SI413	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	4.8	口縁：ヨナテ→ハラミガキ 体～底部：ハラスリ	ハラミガキ	内面黒色処理 接合部半分被熱による赤色化	323
6	C-038	SI413	堆積土下層	土師器	环	(15.0)	—	5.0	口縁：ヨナテ 体上位：ハラスリ 体中位～底部：ハラスリ→ハラミガキ	ハラミガキ	内面黒色処理	323
7	C-080	SI413	堆積土	土師器	高环	16.2	11.7	9.1	口縁：ヨナテ 体部：ハラスリ 脚部：ハラミガキ 裾部：ヨナテ	口縁～体部：ハラミガキ 脚部：ハナテ 裾部：ヨナテ	外面・内面環部漆仕上げか 火ハシ痕	323
8	C-086	SI413	堆積土上層	土師器	甕	—	6.7	(15.1)	口縁：ハナメ→ヨナテ 胴上～中位：ハナメ 胴下位：ハナメ→ハラスリ 底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 胴部：ハナテ	角閃石微量含む	323
9	C-084	SI413	床面	土師器	甕	17.0	6.7	19.4	口縁：ヨナテ 胴上～中位：ハナメ→ハナテ 胴下位～底部：ハラスリ	口縁：ヨナテ 胴～底部：ハナテ	角閃石微量含む	324

第120図 SI413 竪穴住居跡出土遺物 (1)



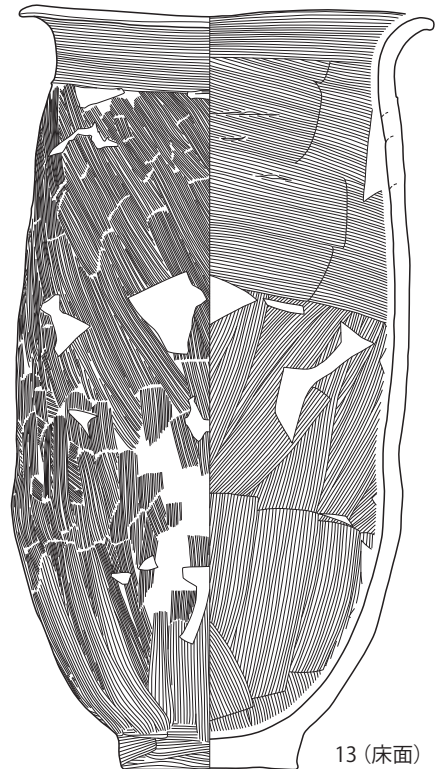
10 (SK1 堆積土)



12 (SK1 堆積土)



11 (堆積土)



13 (床面)

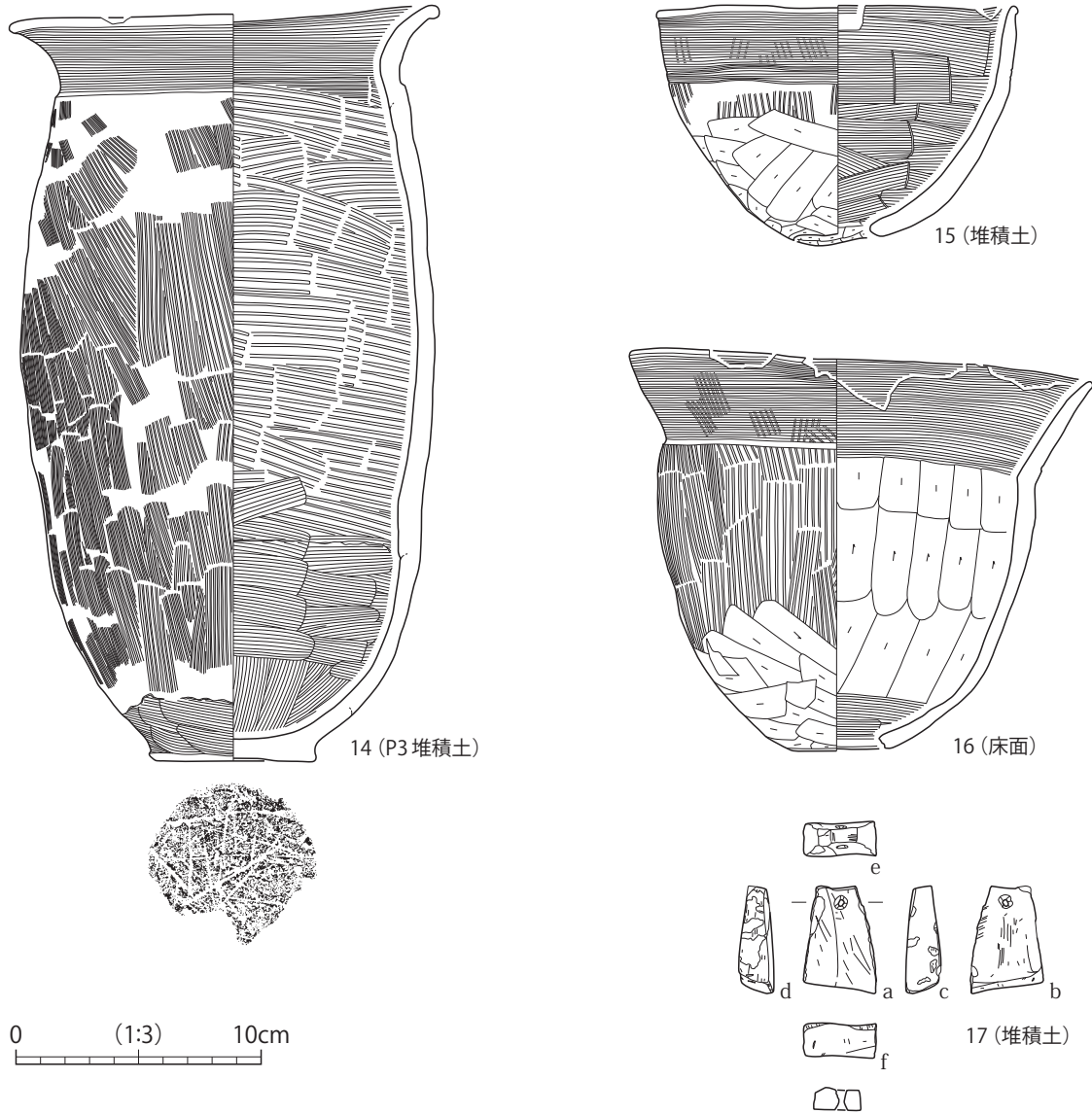
0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
10	C-082	SI413 SK1	堆積土	土師器	甕	17.6	5.6	21.8	口縁：ハメ→ヨコナデ 胴上～中位：ハメ(2種類の工具使用) 胴下位：ハメ→ハラナデ 底部：ハラナデ	口縁：ヨコナデ 胴～底部：ハラナデ→ハラミガキ	角閃石微量含む 底部摩滅 外面底部二次被熱による赤色化	324
11	C-085	SI413	堆積土	土師器	甕	19.6	6.9	21.0	口縁：ハメ→ヨコナデ 胴上半：ハメ 胴下半：ハメ→ハラミガキ	口縁：ヨコナデ 胴～底部：ハラナデ	底部木葉痕 角閃石微量含む 外面胴部被熱による赤色化・ 摩滅・剥離	324
12	C-382	SI413 SK1	堆積土	土師器	甕	17.3	—	(19.4)	口縁：ハメ→ヨコナデ 胴部：ハメ	口縁：ヨコナデ 胴部：ハラナデ→ハラミガキ		324
13	C-083	SI413	床面	土師器	甕	15.5	6.8	30.3	口縁：ヨコナデ 胴上～中位：ハメ 胴下位：ハメ→北ナデ 底部：ハラナデ	口縁：ヨコナデ 胴～底部：ハラナデ	角閃石微量含む 外面底部二 次被熱による赤色化	324

第121図 SI413 竪穴住居跡出土遺物 (2)

位から下端に向かってすぼまる。頸部は外面に段、内面に稜を持ち、「く」字状に屈曲し、口縁部で直線的に外傾する。17は砥石で、砥面が5面あり、a～f面に線条痕がみられる。上端には両側から穿孔された貫通孔がある。石材は細粒凝灰岩である。

【時期】 SK1・2とその周辺の床面から出土した土師器坏・甕(第120～122図3・9・10・12・13・16)の特徴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版			
						口径	底径	器高							
14	C-081	SI413 P3	堆積土	土師器	甕	16.7	6.4	30.8	口縁：ヨナデ 胴部：ナメ 胴下端：ハナデ	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ナメ 胴下位～底部：ハナデ	底部木葉痕 角閃石少量含む 外面口縁～頸部摩滅 外面胴部下位炭化物付着 外面底部二次被熱による赤色化	325			
15	C-087	SI413	堆積土	土師器	甕	14.5	口径 3.5	9.8	口縁：ナメ→ヨナデ→沈線 胴上～中位：ナメ→ハナズリ 胴下位：ハナズリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハナデ 胴下端：ハナズリ	単孔 角閃石微量含む	325			
16	C-088	SI413	床面	土師器	甕	18.7	口径 4.0	16.4	口縁：ナメ→ヨナデ 胴上～中位：ナメ 胴下位～底部：ハナズリ	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ハナズリ 胴下位～底部：ハナデ	単孔	325			
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版			
17	Kd-010	SI413	堆積土	石製品	砥石	全長	幅	厚さ					4.4	3.0	1.4

第122図 SI413 竪穴住居跡出土遺物(3)

から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。なお、第121図10の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦606～646年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

SI414 竪穴住居跡(第123・124図)

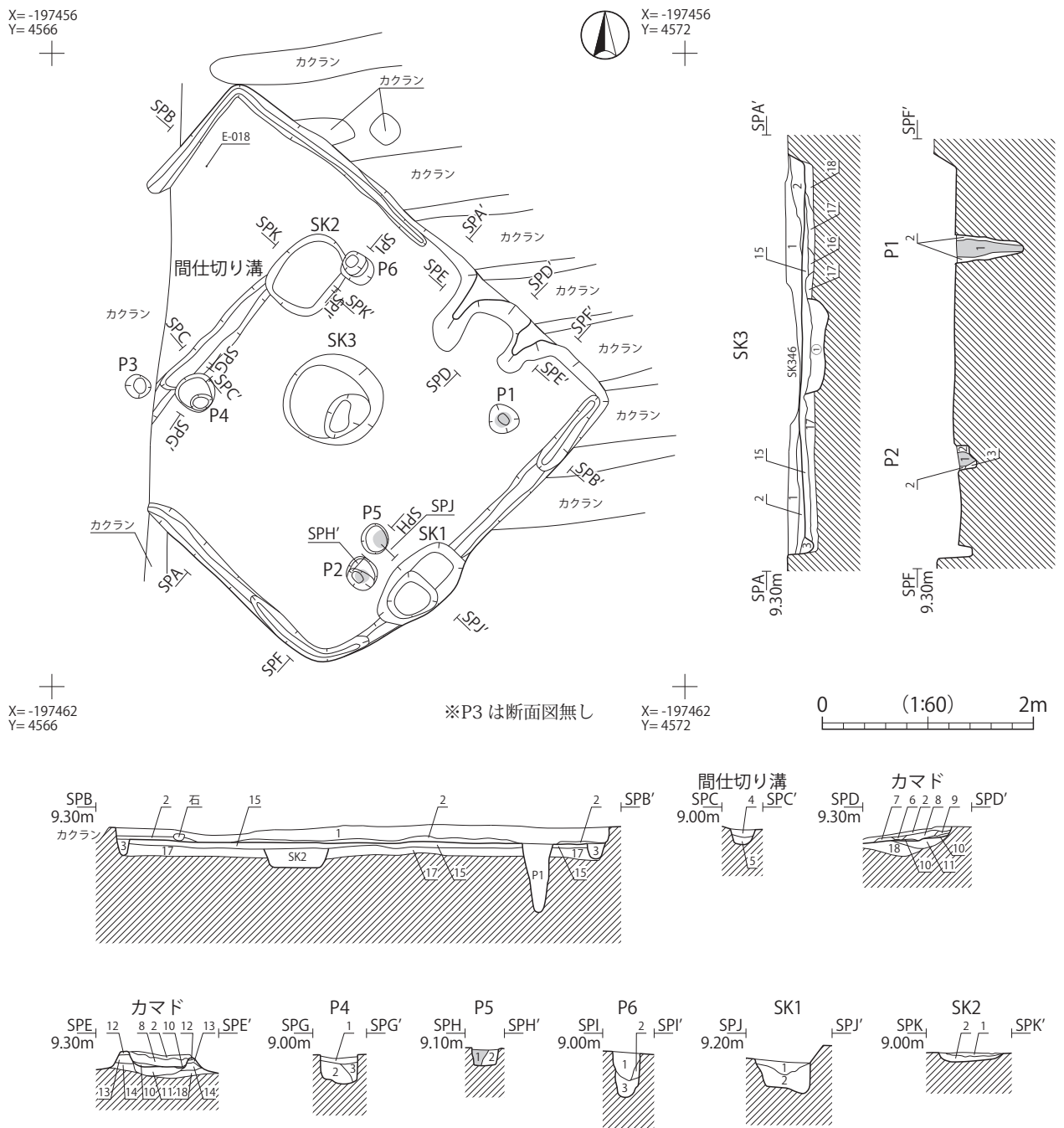
【位置・確認】 調査区東部の73・74・82・83区に位置する。南西隅と東壁、北壁の一部が攪乱により失われている。

【重複】 SK346より古く、SI415～417・419、SD338より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸468cm、短軸380cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-43°-Eを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1・2層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3層は周溝



第123図 SI414 竪穴住居跡

SI414 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
間仕切り溝堆積土	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、灰白色シルトブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	6	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒少量含む。 ※灰層
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	5YR5/2 灰褐色	シルト	炭化物粒多量、焼土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	12	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	13	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	17	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	18	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI414 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	—	—	—	※註記なし
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK3	①	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。

SI414 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	29×27	65	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	32×30	17	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(23)×(22)	—	補助柱穴
P4	円形	36×36	50	主柱穴
P5	円形	29×26	19	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	隅丸方形	32×27	51	主柱穴
SK1	楕円形	94×53	31	性格不明土坑
SK2	楕円形	79×62	8	旧貯蔵穴か
SK3	円形	90×85	20	性格不明土坑

堆積土、4・5層は間仕切り溝の堆積土、6～10層はカマド堆積土である。11層はカマド掘り方埋土、12～14層はカマド袖構築土、15～18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・2・4・6は、住居範囲の東半部に寄って配置されている。規模は長軸29～36cm、短軸27～36cm、深さ17～65cmを測る。P1・2で径14～16cm程度の柱痕跡を、P4・6で柱の抜き取り痕を確認した。P3・5は補助柱穴と考えられ、P3はP4の南西側に、P5はP2北側の至近に配置されている。P5で径16cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分とその周辺を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～21cm、深さ4～19cmを測る。また、掘り方から間仕切りと考えられる溝跡を検出した。南北方向に延び、北端部はSK2に接続する。規模は幅17～25cm、深さ5～16cmを測る。位置や方向などから古い周溝の可能性もあり、この場合西壁が拡張されたと考えられる。

【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平や攪乱により失われて

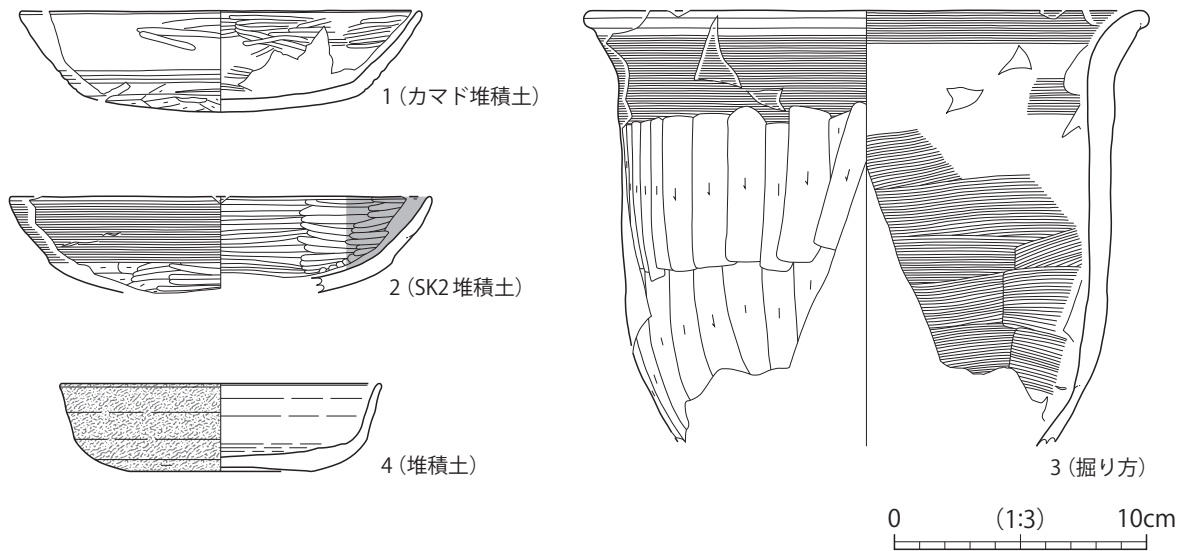
いる。袖は焚口付近が失われているが、東袖の規模は残存値で長さ52cm、幅32cm、西袖は長さ75cm、幅26cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き79cm、幅58cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら内湾気味に立ち上がり、高さ11cm程度が残存する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)、掘り方で2基(SK2・3)の土坑を検出した。SK1は東壁際の中央部からやや南寄りに位置し、周溝と重複する。SK2は北部の西寄り、SK3は中央部のやや東寄りに位置する。いずれの土坑も性格については不明だが、西壁が拡張されていた場合、位置や形状からSK2が拡張前の貯蔵穴であった可能性がある。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸79cm、短軸62cm、深さ8cmを測る。

【掘り方】 深さ6～22cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、土師器環2点・甕1点、須恵器環1点を掲載した(第124図)。1・2は土師器環で、ともに扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。1の口縁部と体部の境は沈線状の段が2条めぐり、2は段を持つ。2は内面に黒色処理が施されているが、1は被熱が著しく黒色処理が消失していると考えられる。3は土師器甕で、口縁部に最大径が位置する短胴形と考えられる。口縁部は厚手で、外反気味に外傾し、端部が丸く折り返されている。頸部に段は認められない。外面を縦方向に強いヘラケズリが施されている。色調は浅黄橙色を呈し、胎土はやや粗く、少量の3mm以下の砂礫を含む。4は須恵器環である。平底から丸みを持って屈曲し、体部は直立し口縁部でわずかに外反する。色調は紫灰色を呈し、胎土は精良で、3mm以下の砂礫と多量の黒色粒子を含む。外面に黄緑色の自然釉が付着している。

【時期】 カマドとSK2から出土した土師器環(第124図1・2)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-089	SI414 カマド	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	4.0	口縁：ヘラミガキ 体部：ヘラズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	外面二次被熱による赤色化	325
2	C-390	SI414 SK2	堆積土	土師器	環	(16.7)	—	(3.8)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理(部分的)角閃石微量含む	325
3	C-393	SI414	掘り方	土師器	甕	(21.8)	—	(17.3)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石微量含む 内面やや摩滅	325
4	E-018	SI414	堆積土	須恵器	環	(12.6)	(7.2)	3.5	口調整 体下位～底部：回転ヘラズリか	口調整	外面自然釉付着	325

第124図 SI414 竪穴住居跡出土遺物

SI415 竪穴住居跡 (第125～127図)

【位置・確認】 調査区東部の64・73区に位置する。西半部床面と壁の大部分が、重複遺構や攪乱により失われている。

【重複】 SI412・414、SD297より古い。

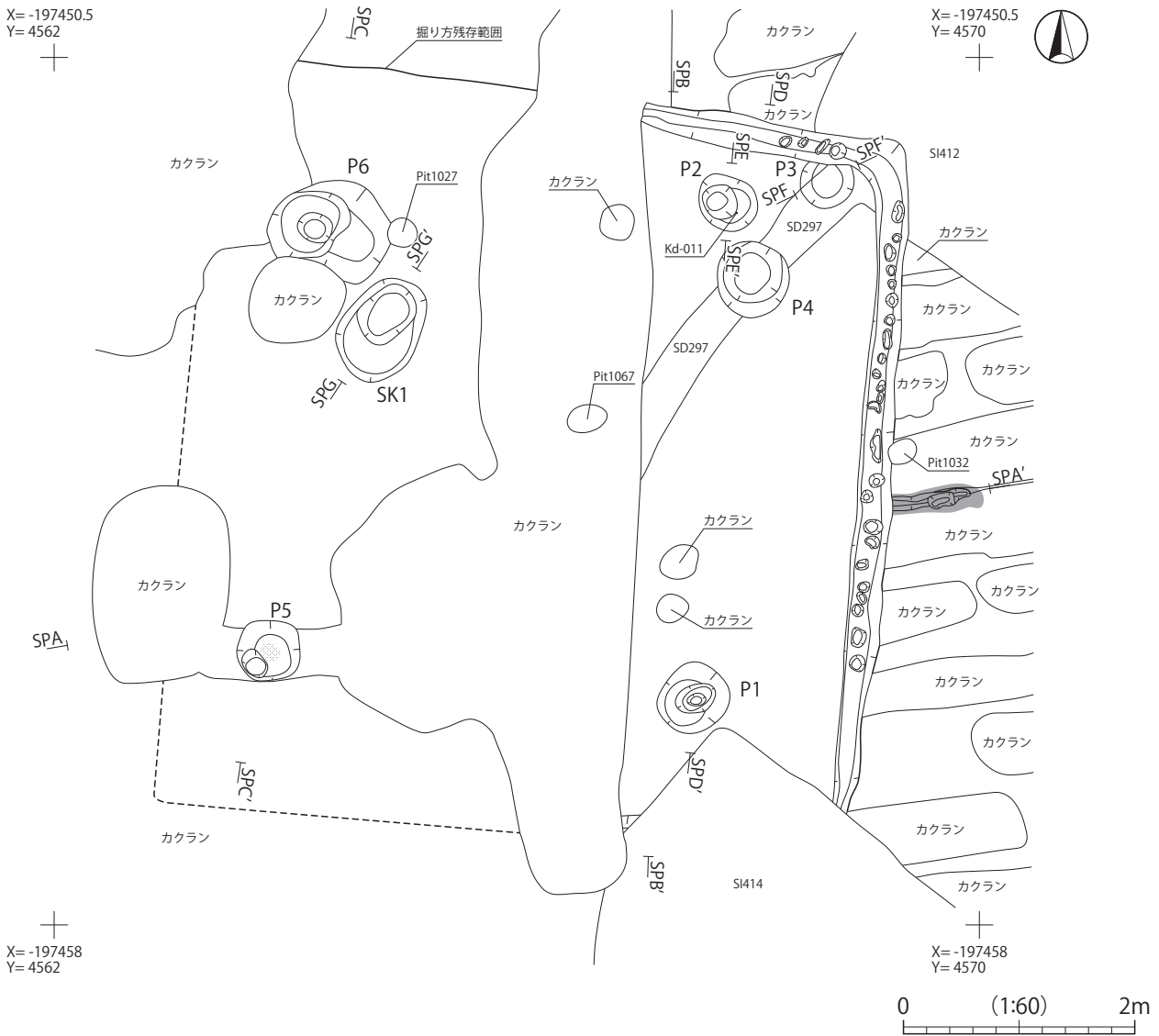
【規模・形態】 確認された規模は長軸632cm、短軸616cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-4°-Eを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1～4層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。5～7層はカマド堆積土、8層は周溝堆積土で、東壁ではカマド堆積土の下に周溝が位置している。9～11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で11cm残存するが、形状は不明である。

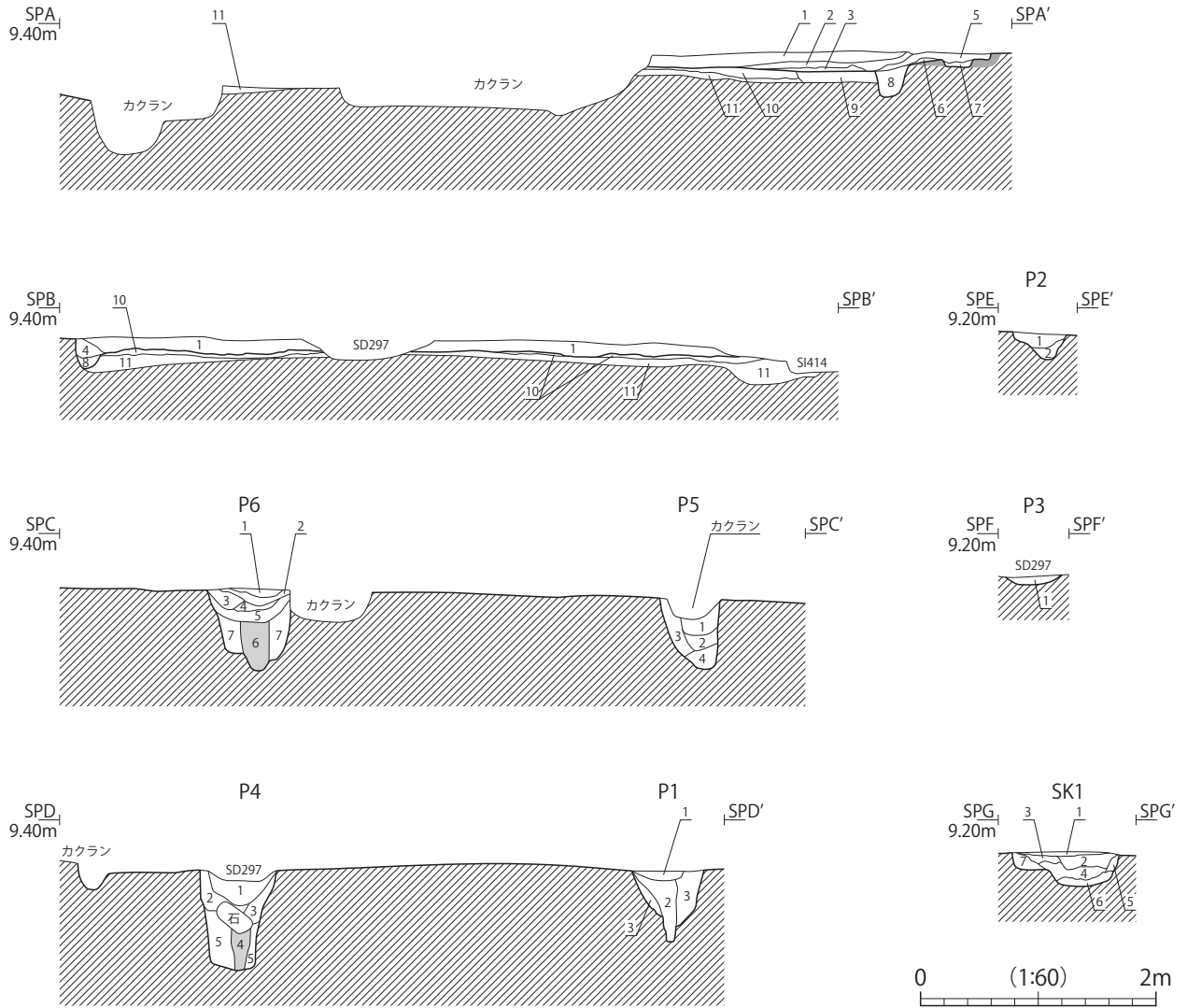
【床面】 概ね平坦で、褐灰色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



第125図 SI415 竪穴住居跡 (1)

SI415 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	6	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)・灰少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	9	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)・IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。



SI415 施設観察表

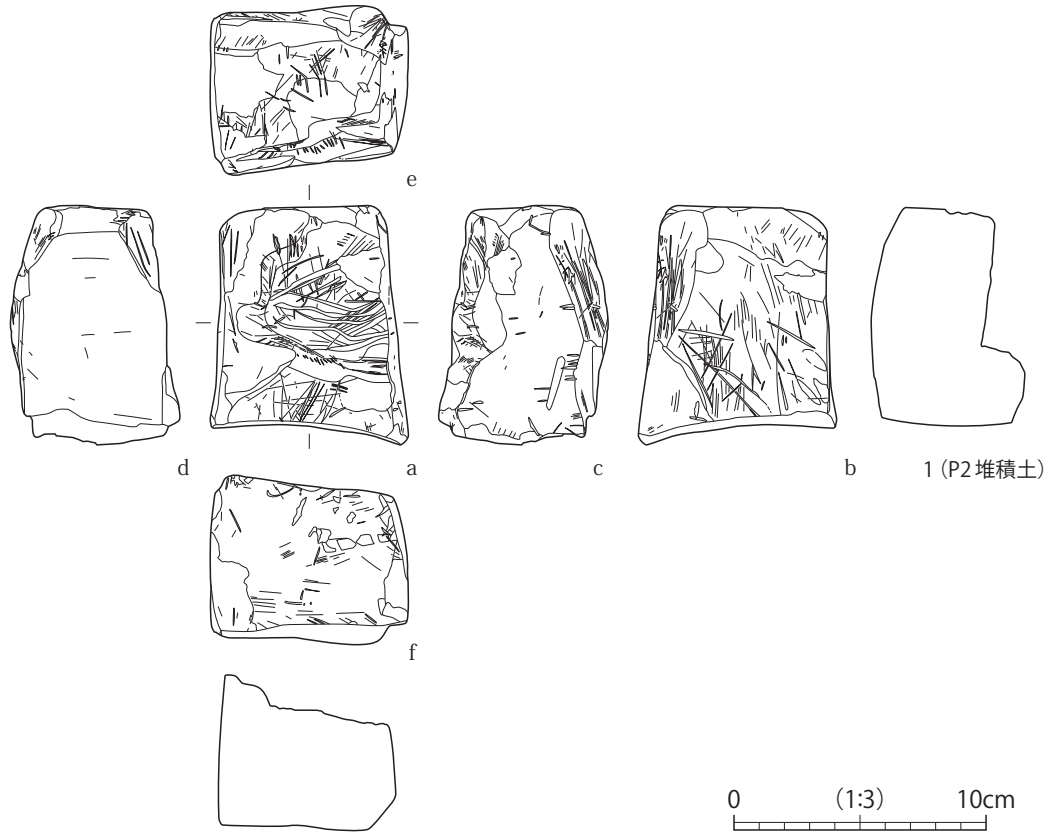
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	61 × 54	61	主柱穴
P2	円形	54 × 47	30	補助柱穴
P3	(円形)	(48) × (46)	20	貯蔵穴か
P4	円形	66 × 62	85	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(開丸方形)	(55) × (52)	(62)	主柱穴
P6	(楕円形)	(101) × (80)	68	主柱穴 柱痕跡
SK1	楕円形	94 × 69	29	性格不明土坑

第126図 SI415 竪穴住居跡(2)

SI415 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒・灰少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y7/2 灰黄色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・灰少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	6	2.5Y7/2 灰黄色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
	7	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Kd-011	SI415 P2	堆積土	石製品	砥石	9.5	7.9	6.7	554.5	細粒凝灰岩	砥面6面 溝状痕(a～c・e・f面) 線条痕(a～f面)	325

第127図 SI415 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1・4～6の規模は、残存値も含め長軸55～101cm、短軸52～80cm、深さ61～85cmを測る。P4・6の堆積土下半で、径16～25cm程度の柱痕跡、P1・5で柱の抜き取り痕を確認した。P4の柱痕跡上からは扁平な自然礫が1点出土した。補助柱穴と考えられるP2は、P4北西側の至近に配置されている。北東隅に配置されているP3は土坑状で浅いため、貯蔵穴の可能性も考えられる。

【周溝】 残存する北・東壁面に沿いに検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～31cm、深さ10～19cmを測る。東壁周溝を中心に、底面から壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを検出した。

【カマド】 東壁中央部に位置し、煙道部のみが残存する。煙道部は壁面から12°北に振れて延び、住居床面と4cm程度の比高差が認められる。規模は長さ68cm、幅12～14cm、深さ6～11cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部の手前がピット状に落ち込む。手前に周溝がめぐっていることから、造り替え前の古い煙道であった可能性も考えられる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。P6南東側の至近に位置し、性格は不明である。底面は二段に掘り込まれている。

【掘り方】 深さ14～17cmを測る。西半部が不規則に、南壁際が溝状に一段低く掘り込まれる。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、鉄滓などが出土し、P2から出土した石製品1点を掲載した(第127図)。1は砥石で、表面の剥離が激しいが、a・b面を中心に溝状痕・線条痕がみられる。石材は細粒凝灰岩である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI412・414との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)以前と考えられる。

SI416 竪穴住居跡(第128～130図)

【位置・確認】 調査区北東部の73・74・82・83区に位置する。西半部の床面と壁面上部は、削平やSI414、SD338の重複により大部分が失われている。東壁も攪乱により中央部付近の広い範囲が失われている。

【重複】 SI414・417、SD338より古く、SI418・419、SK452、Pit1428～1430より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸610cm、短軸560cmを測り、平面形は東西にやや長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-10°-Wを測る。

【堆積土】 大別で10層に分層した。1層はにぶい黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。3～6層はカマド1堆積土である。7層はカマド1袖構築土、8層はカマド1掘り方埋土、9・10層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、4層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で15cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

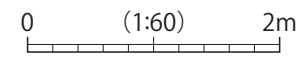
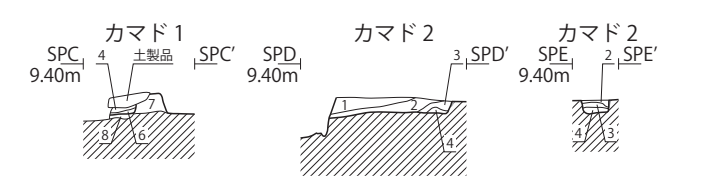
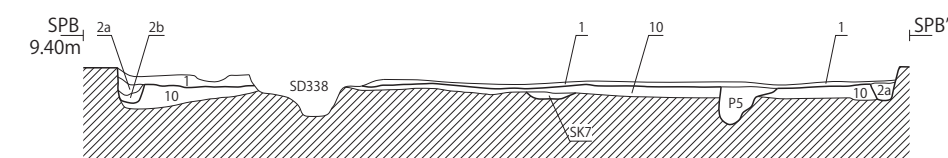
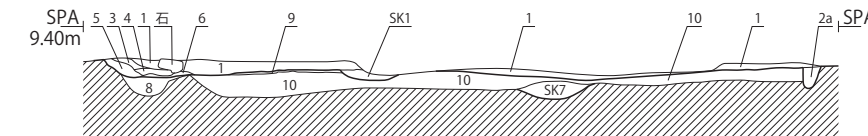
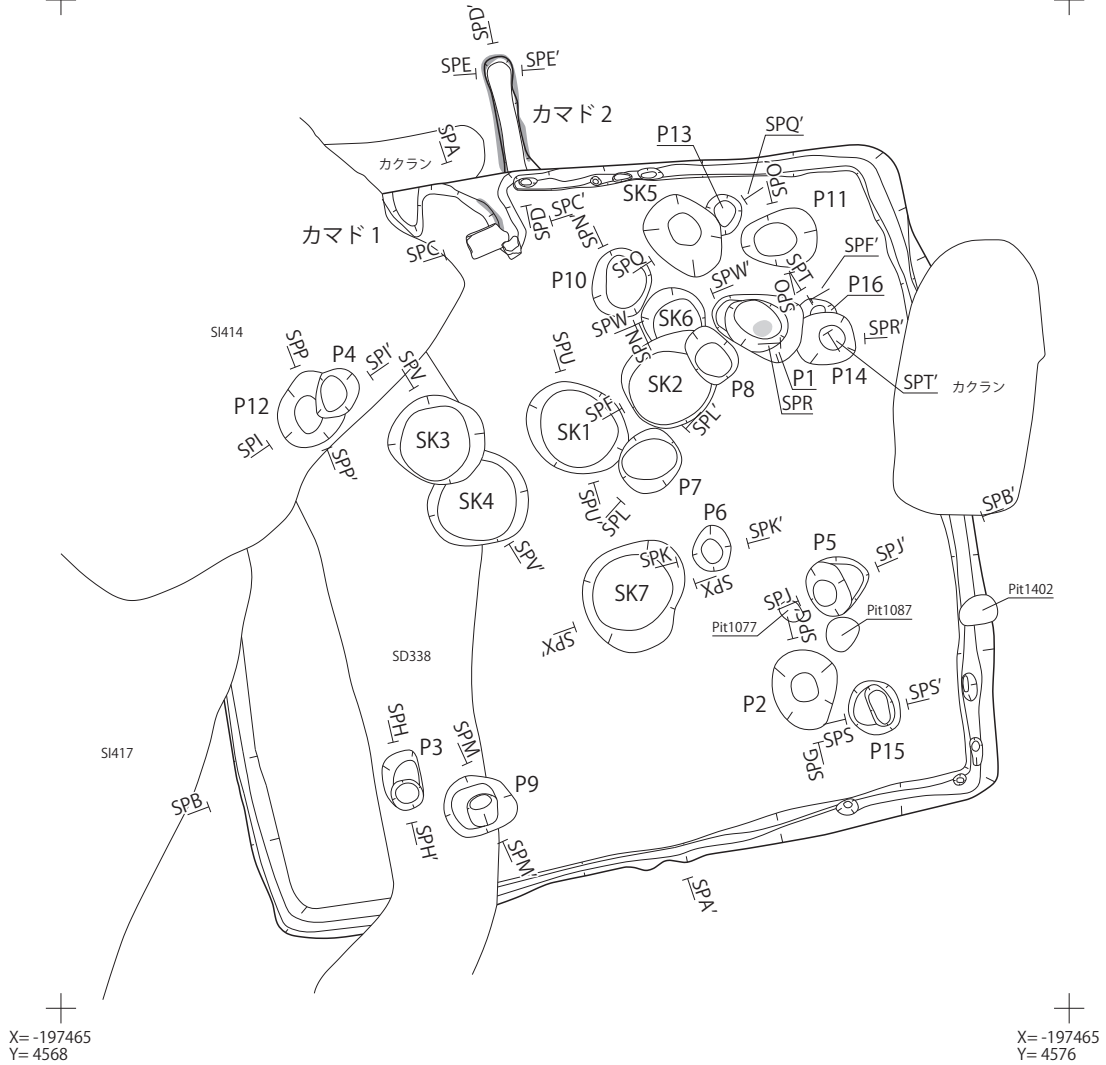
【柱穴】 床面で13基(P1～13)、掘り方で3基(P14～16)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸42～74cm、短軸31～53cm、深さ38～46cmを測る。P1で径16cm程度の柱痕跡を、P2・3で柱の抜き取り痕を確認した。補助柱穴と考えられるP5～16の配置は不規則なものが多く、P7・10・11・13は土坑状で浅い。P9・12・14～16はP1～4の外周に配置され、P4とP12が重複することから古い支柱穴の可能性も考えられる。P15で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド1部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅13～21cm、深さ13～23cmを測る。底面の一部では、壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを検出した。

【カマド】 北壁中央部付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。西袖はSI414の重複により基部付近のみ残存し、煙道部

X = -197457
Y = 4568

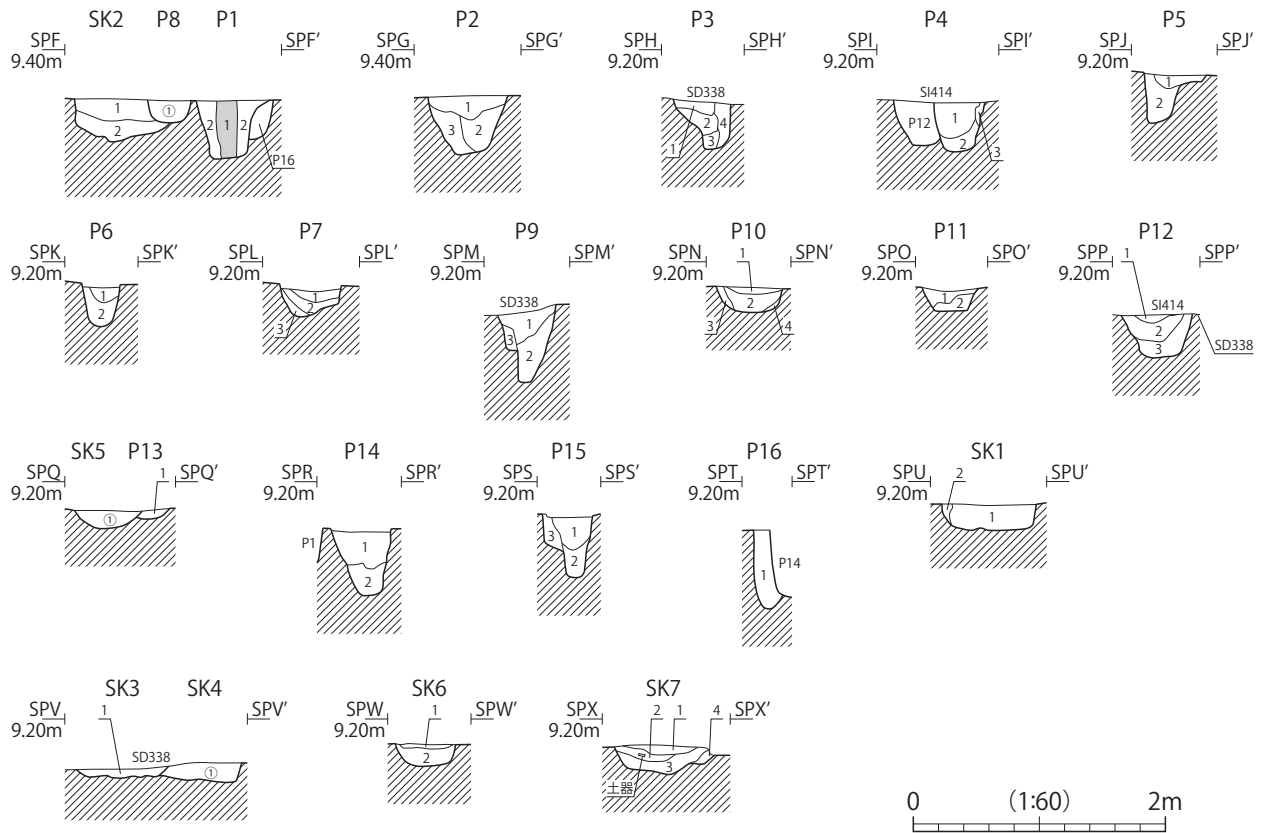
X = -197457
Y = 4576



第128図 SI416 竪穴住居跡(1)

SI416 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	2a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド1 堆積土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	6	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
カマド1 袖構築土	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・黒褐色シルト粒少量含む。
カマド1 掘り方埋土	8	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
住居掘り方 埋土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土互層状に含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。



SI416 施設観察表

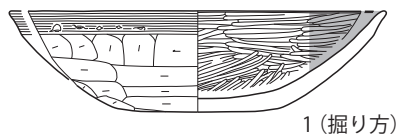
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	74 × 50	46	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	64 × 53	46	主柱穴
P3	(隅丸長方形)	(46) × (31)	(38)	主柱穴
P4	(円形)	(42) × (36)	(40)	主柱穴
P5	円形	50 × 46	41	補助柱穴
P6	円形	36 × 31	35	補助柱穴
P7	円形	50 × 46	24	補助柱穴
P8	楕円形	46 × 35	18	補助柱穴
P9	(楕円形)	(58) × (48)	68	旧主柱穴か
P10	楕円形	54 × 45	20	補助柱穴
P11	楕円形	60 × 47	20	補助柱穴
P12	(楕円形)	(60) × (49)	(35)	旧主柱穴か

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	円形	32 × (27)	8	補助柱穴
P14	円形	47 × 42	55	旧主柱穴か
P15	円形	44 × 41	51	旧主柱穴か
P16	(円形)	(29) × (21)	62	旧主柱穴か
SK1	楕円形	(83) × 70	23	カマド関連土坑
SK2	楕円形	(77) × 70	32	カマド関連土坑
SK3	(円形)	(74) × (69)	18	カマド関連土坑
SK4	(円形)	(81) × (72)	18	性格不明土坑
SK5	楕円形	69 × 53	16	旧貯蔵穴か→カマド関連土坑
SK6	(円形)	50 × (46)	18	カマド関連土坑
SK7	円形	85 × 84	28	性格不明土坑

第129図 SI416 竪穴住居跡(2)

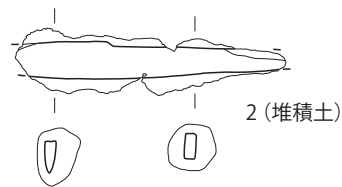
SI416 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック斑状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
P6	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P8	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P10	1	10YR4/4 褐色	シルト	上部にIV層土粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)部分的、炭化物ブロック(10~20mm程度)多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P12	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P13	①	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~50mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、骨片(10mm程度)微量含む。
P14	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
P15	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(10mm程度)微量含む。
P16	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~80mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(30~40mm程度)少量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
SK3	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量、凝灰岩・砂岩(10~50mm程度)少量含む。
SK4	①	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
SK5	①	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~50mm程度)多量、炭化物ブロック(10mm程度)少量、骨片(5~20mm程度)微量含む。
SK6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
SK7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土との混合土。



1 (掘り方)

0 (1:3) 10cm



2 (堆積土)

0 (1:2) 5cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-090	SI416	掘り方	土師器	環	(14.8)	—	4.0	口縁：ヨガ 体部～底部：ハガキ	ハミガキ	内面黒色処理	326
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-008	SI416	堆積土	金属製品	鉄製刀子	(7.2)	1.0	0.3	11.1	両端部欠損 片関		326

第130図 SI416 竪穴住居跡出土遺物

も削平により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ64cm、幅25cm、西袖は残存値で長さ39cm、幅25cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設され、その脇には懸架材とみられる砂岩の加工礫が倒れた状態で出土した。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き71cm、幅49cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら立ち上がり、高さは14cm程度が残存する。カマド2はカマド1の東側に位置し、煙道部のみ残存する。煙道部は壁面に直交して延び、住居床面と12cm程度の比高差が認められる。規模は長さ92cm、幅17～26cm、深さ7～13cmを測る。底面は概ね平坦である。

【その他の施設】 床面で6基(SK1～6)、掘り方で1基(SK7)の土坑を検出した。各土坑は中央部付近から北東部に集中する。SK2・6とSK3・4はそれぞれ重複し、新旧関係はSK2とSK3が新しい。SK1～3・5・6は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑とみられるが、SK5はカマド2の東脇に位置することから、埋め戻された古い貯蔵穴の可能性も考えられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸83cm、短軸70cm、深さ23cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸77cm、短軸70cm、深さ32cmを測る。SK3の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸74cm、短軸69cm、深さ18cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸69cm、短軸53cm、深さ16cmを測る。SK6の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸50cm、短軸46cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ9～25cmを測り、北東部が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏1点、金属製品1点を掲載した(第130図)。1は土師器坏である。平底から外傾しながら直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。内面に黒色処理が施されている。2は鉄製刀子である。関部は片関で、形状は斜角関である。

【時期】 掘り方から出土した土師器坏(第130図1)の特徴およびSI414・417～419・427との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性がある。

SI417 竪穴住居跡(第131・132図)

【位置・確認】 調査区北東部の73・82・91区に位置する。北東隅付近がSI414の重複、東壁を除く西～北壁の大部分と床面の一部が攪乱により失われている。

【重複】 SI414より古く、SI416・419・454より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸731cm、短軸671cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-21°-Eを測る。

【堆積土】 大別で9層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。4層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。5～9層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 残存する東壁は直立気味に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、黒褐色・灰黄橙色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～9)、掘り方で6基(P10～15)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸51～57cm、短軸43～53cm、深さ22～67cmを測る。P1の堆積土下半とP4の堆積土で、径17～24cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5～15の配置は不規則である。P5・10・13・15は支柱穴からやや北東にずれて方形に配置されることから、拡張前の支柱穴であった可能性もある。P14は南壁際の中央部付近に配置されていることから、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P5・6・14の堆積土下半とP11・13の堆積土で、径10～27cm程度の柱痕跡を確認した。また、P8で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は残存値で幅17～45cm、深さ3～17cmを測る。東・北壁の一部と南壁の周溝底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。また、西壁の周

溝から92～99cm内側と、南壁の周溝から47～50cm内側にはSD1・2が延びる。拡張前の古い周溝であった可能性が考えられるが、SD2が整然とした溝状を呈するのに対し、SD1は不規則な形状を呈する。SD1の規模は幅54～102cm、深さ10～21cm、SD2の規模は幅25～36cm、深さ2～20cmを測る。

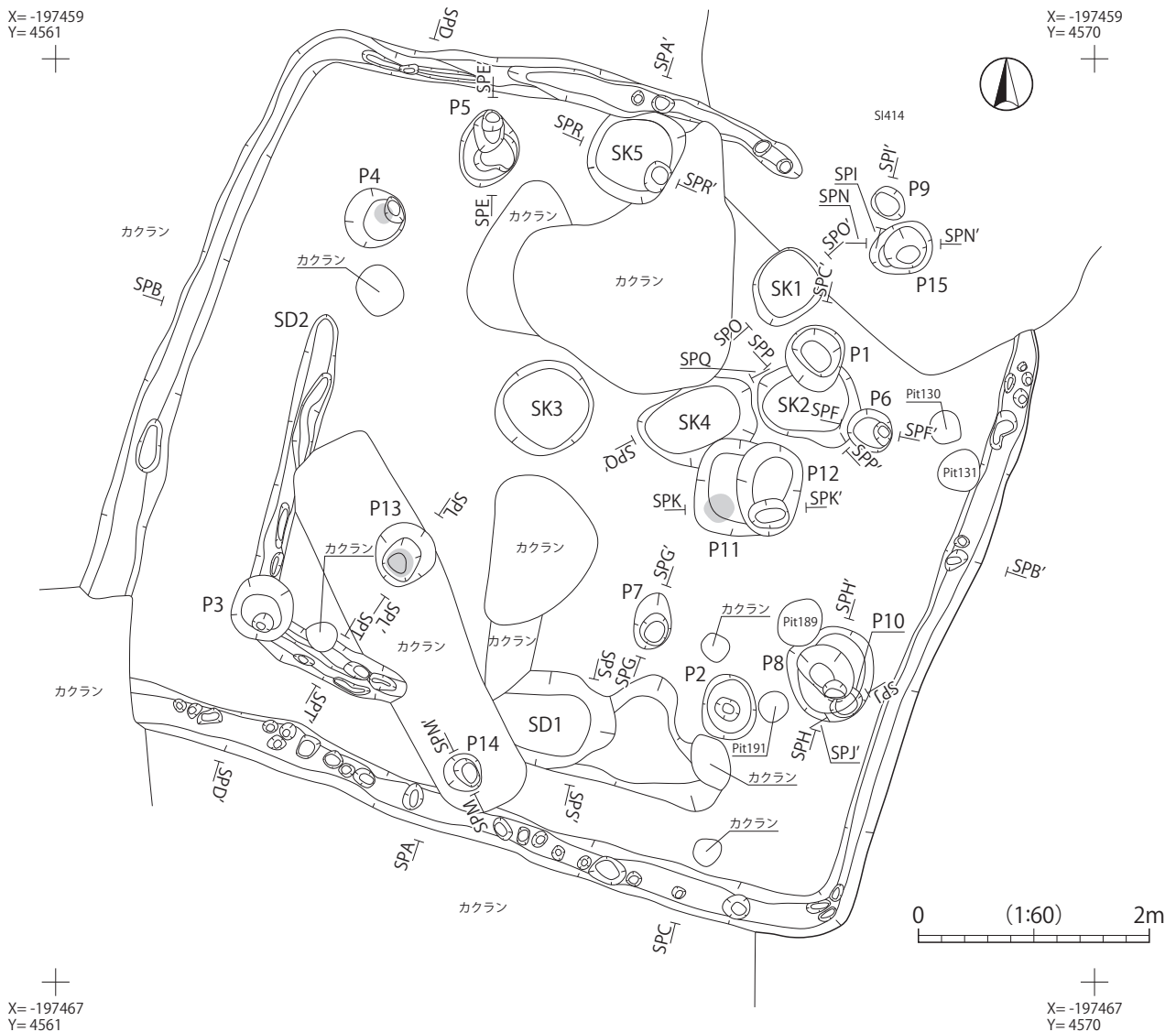
【カマド】 検出できなかったが、壁や周溝の残存状況から、北東隅付近に付設されていた可能性がある。

【その他の施設】 掘り方で5基(SK1～5)の土坑を検出した。SK1・2・4は北東部、SK3は中央部付近、SK5は北壁際の中央部に位置する。SK1は堆積土に焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK5は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸67cm、短軸57cm、深さ31cmを測る。SK5の平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸82cm、短軸74cm、深さ31cmを測る。

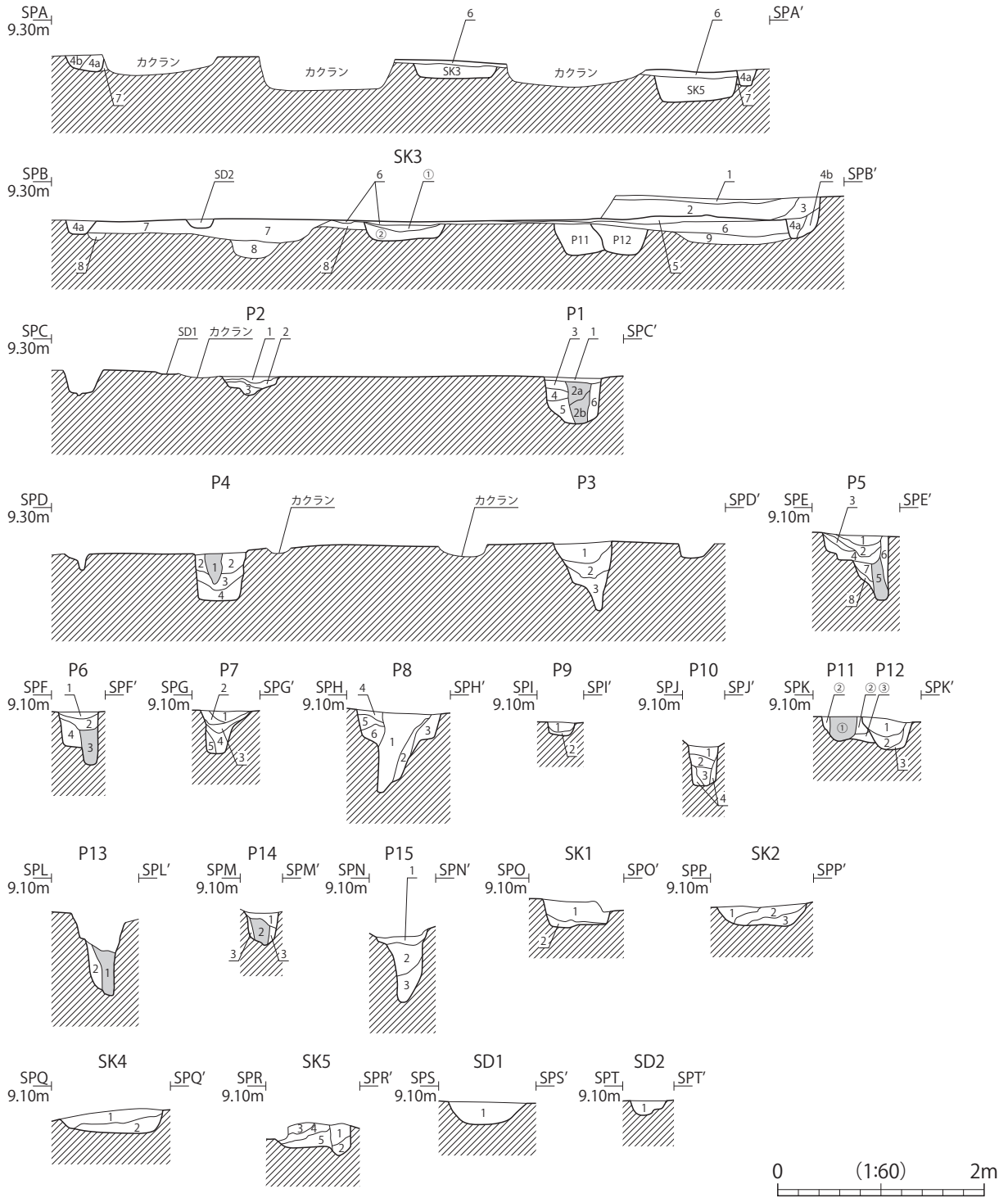
【掘り方】 深さ7～33cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。西壁際は壁に沿う広い範囲が、もう一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土したが図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI414・416・419・454と新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。



第131図 SI417 竪穴住居跡(1)



SI417 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
周溝堆積土	4a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・細砂微量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。 ※一部グライ化
	7	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

第132図 SI417 竪穴住居跡(2)

第5章 検出遺構と出土遺物

SI417 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2b	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P2	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
P3	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P4	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P5	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒微量含む。
P8	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
P10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P11	①	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	②	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
P12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P13	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P14	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒・酸化鉄微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒多量、炭化物粒少量、骨片(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・褐灰色砂質シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	①	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量含む。 ※グライ化
	②	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※一部グライ化
SK4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
SK5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)・焼土粒・酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、焼土ブロック(5～40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
SD1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
SD2	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI417 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	56×50	44	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	56×43	22	主柱穴
P3	円形	57×53	67	主柱穴
P4	円形	51×51	55	主柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	68×51	72	旧主柱穴か 柱痕跡
P6	円形	39×36	52	補助柱穴 柱痕跡
P7	楕円形	50×32	41	補助柱穴
P8	円形	82×77	78	補助柱穴
P9	(楕円形)	(31)×(26)	(11)	補助柱穴
P10	楕円形	30×(19)	46	旧主柱穴か

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	(隅丸方形)	83×(36)	25	補助柱穴 柱痕跡
P12	楕円形	81×56	31	補助柱穴
P13	(円形)	(54)×(54)	89	旧主柱穴か 柱痕跡
P14	(円形)	(34)×(33)	(33)	補助柱穴(入口施設か) 柱痕跡
P15	(楕円形)	(56)×(45)	60	旧主柱穴か
SK1	(楕円形)	(67)×57	31	カマド関連土坑
SK2	楕円形	92×69	19	性格不明土坑
SK3	円形	84×79	16	性格不明土坑
SK4	楕円形	103×(57)	23	性格不明土坑
SK5	(隅丸方形)	82×(74)	31	貯蔵穴

SI418 竪穴住居跡 (第133図)

【位置・確認】 調査区東部の83区に位置する。住居の大部分は、南壁と床面の一部を除きSI416、SD338の重複により失われている。残存範囲およびSI416の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認されず、周溝のみを検出した。

【重複】 SI416、SD338より古く、SI426・427、Pit1427より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸455cm、短軸67cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 南壁を基準としてN-74°-Eを測る。

【堆積土】 2層に分層した。1層は周溝堆積土、2層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で4cm残存するが、形状は不明である。

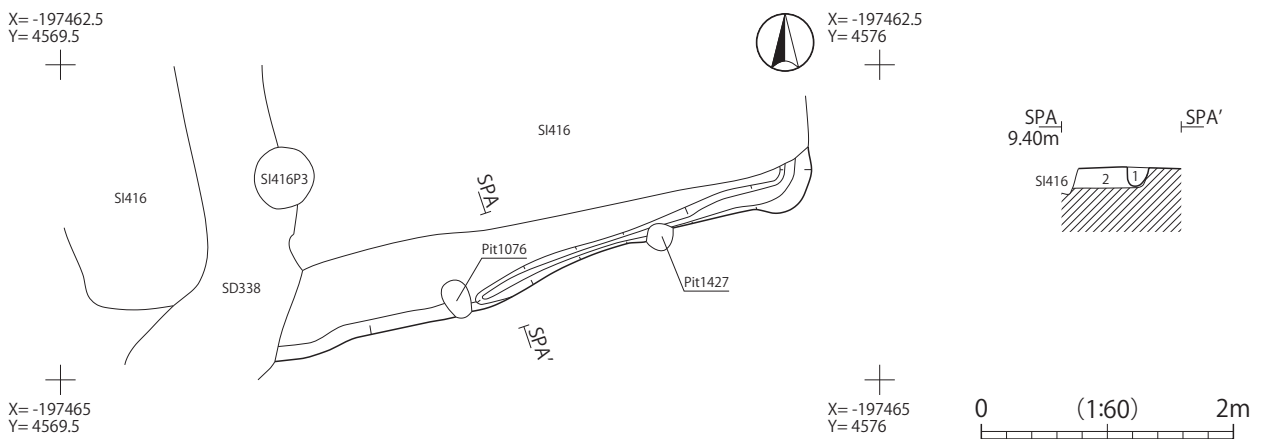
【床面】 残存範囲では褐色シルトの埋土上面を床面とする。形状は不明である。

【周溝】 残存範囲では、南壁東半部で検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅9~25cm、深さ14~17cmを測る。

【掘り方】 深さ11~17cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI416・426・427との新旧関係から、5期(7世紀末頃~8世紀初頭)以前の可能性がある。



SI418 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
住居掘り方埋土	2	10YR4/4 褐色	シルト	にぶい黄褐色シルト斑状に含む。

第133図 SI418 竪穴住居跡

SI419 竪穴住居跡 (第134図)

【位置・確認】 調査区北東部の82区に位置する。北半部はSI414・417の重複により失われ、南半部もSI416、SD338の重複により壁と床面の大部分が失われている。掘り方は北西部を除き残存していた。

【重複】 SI414・416・417・454、SD338より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸432cm、短軸(掘り方で計測)426cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-37°-Wを測る。

【堆積土】 重複遺構と攪乱の影響により、堆積土と掘り方埋土の記録はできなかった。周溝堆積土の1層のみを確認した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

【床面】 南東・南西隅で部分的に確認できたが、埋土の記録はできなかった。全体の形状は不明である。

【柱穴】 主に攪乱の底面で3基(P1・2・6)、SI414・417の重複範囲内で3基(P3～5)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸34～58cm、短軸25～49cm、深さ20～61cmを測る。P5・6は補助柱穴などと考えられ、ともにP4の南東側に並んで配置されている。P6で径19cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、南西隅から南東部の壁面にかけて検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～17cm、深さ7～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器が出土し、土師器環1点・甕1点を掲載した(第134図)。1はP4から、2はP2から出土した。

1は土師器環で、深身のものと考えられる。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に外傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。外面は赤彩、内面は黒色処理が施されている。2は土師器甕で、胴部中位に最大径が位置する張りのある楕円形である。頸部に段を持ち、口縁部は外反する。外面は縦方向のヘラケズリを基本とし、胴部中位は斜方向に施されている。また内面の胴部中位はユビナデが斜方向に施され、一部で調整の種類と方向が異なっている。色調はにぶい黄橙色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫を含む。

【時期】 P2から出土した土師器甕(第134図2)の特徴およびSI414・416・417・454との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)の可能性がある。

SI420 竪穴住居跡 (第135・136図)

【位置・確認】 調査区北東部の83・92区に位置する。南半部はSD299の重複や調査時の掘り過ぎにより、壁と床面の大部分が失われている。

【重複】 SD299より古く、SI426・427、SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸285cm、短軸283cmを測り、平面形は方形を呈する。

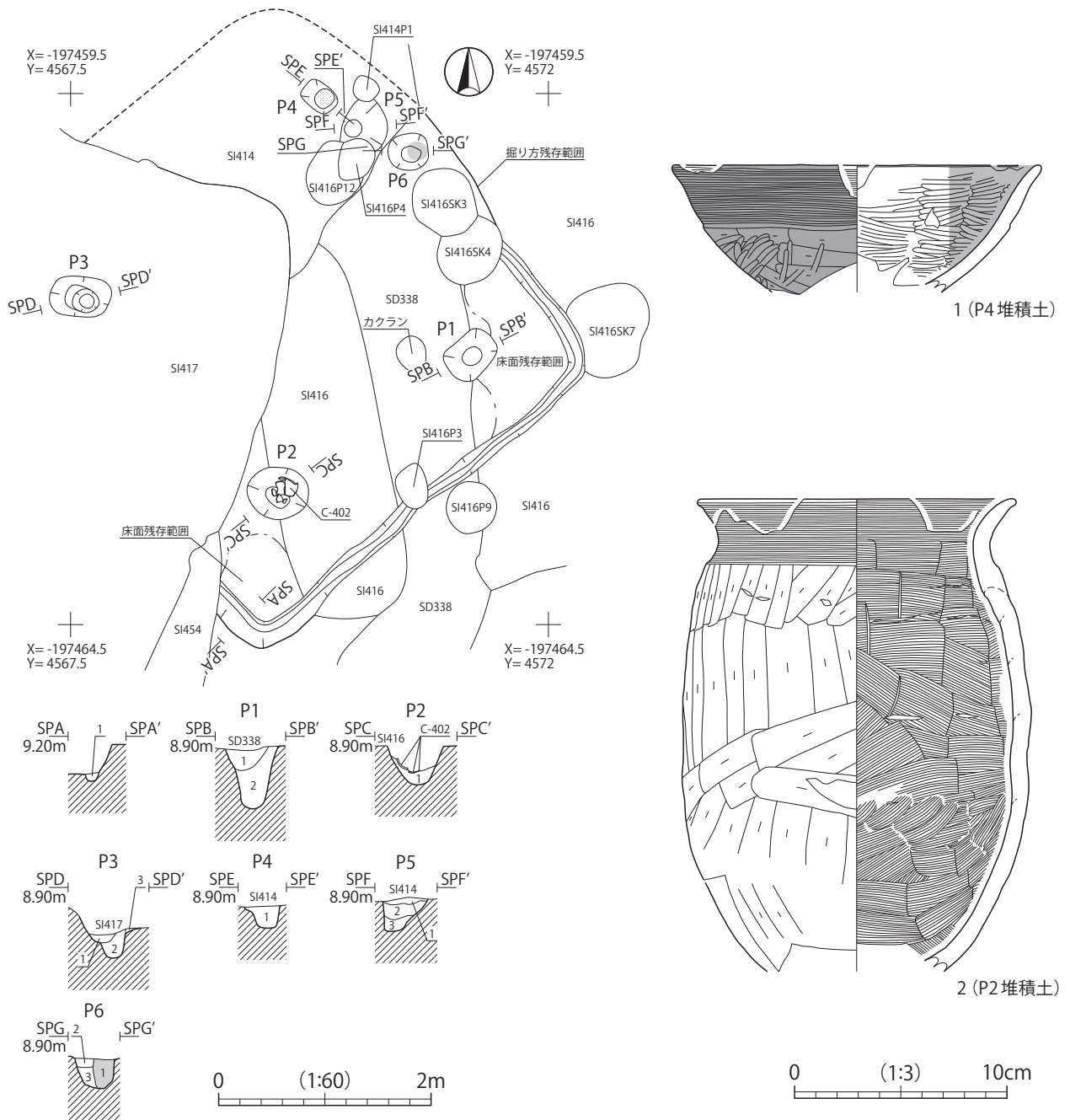
【方向】 カマドを基準としてN-34°-Wを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積とみられる。3層はカマド堆積土、4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で13cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲では、西壁中央と南壁西端の壁に沿って部分的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅8～15cm、深さ2～11cmを測る。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-091	SI419 P4	堆積土	土師器	環	(17.2)	—	(6.0)	口縁: ヲナデ 体部: ヘカズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	外面赤彩 内面黒色処理	326
2	C-402	SI419 P2	堆積土	土師器	甕	14.8	—	(22.3)	口縁: ヲナデ 胴上半: ヘカズリ 胴下半: ヘカズリ→エビナデ		外面胴部下位摩滅	326

SI419 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。

SI419 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(隅丸長方形)	(51)×(39)	61	主柱穴
P2	(円形)	(58)×(49)	(36)	主柱穴
P3	(隅丸長方形)	(56)×(39)	(43)	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(隅丸長方形)	(34)×(25)	(20)	主柱穴
P5	(楕円形)	(50)×(44)	(32)	補助柱穴
P6	円形	(38)×(34)	(30)	補助柱穴 柱痕跡

第134図 SI419 竪穴住居跡・同出土遺物

SI419 施設堆積土註記表

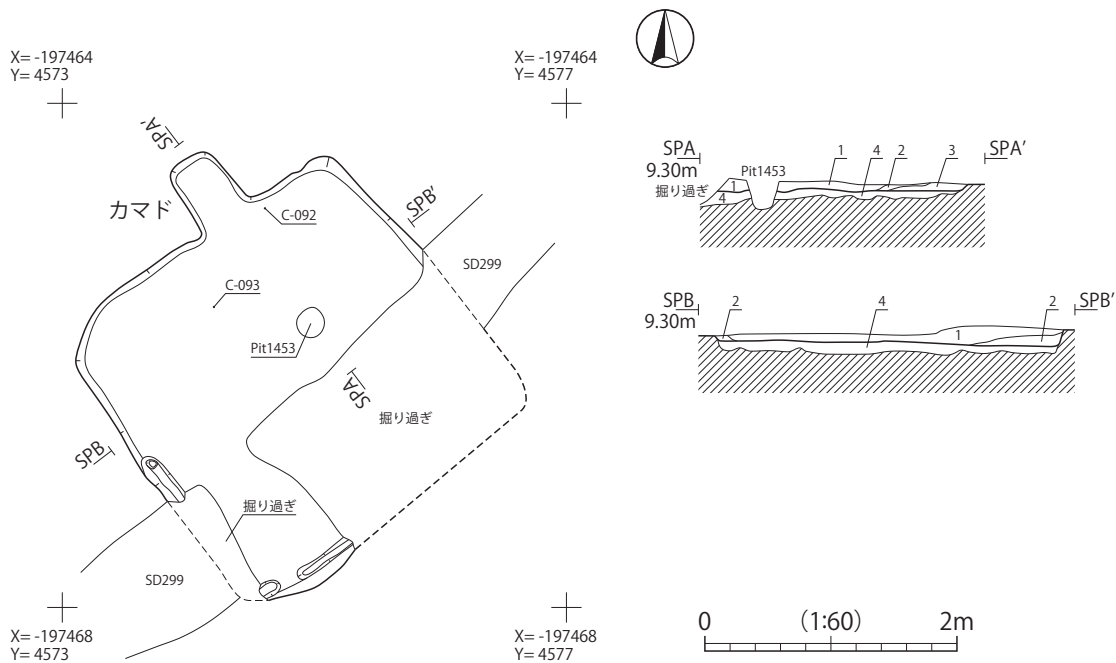
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。*土器の上部に長軸10~20cmの礫が多数出土
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 *柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に微量含む。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平のため失われている。燃焼部は壁外に位置し、規模は奥行き63cm、幅42cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら立ち上がり、高さ5cm程度が残存する。

【掘り方】 深さ2~16cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、カマド、掘り方から土師器・須恵器が出土し、土師器坏1点・高坏1点を掲載した(第136図)。ともにカマド周辺の床面から出土した。1は土師器坏で、半球形を呈し、口縁部で短く外傾する。内面に黒色処理が施されている。2は小型の土師器高坏で、短脚である。坏部は、体部で内湾し、口縁部は外反する。内面に黒色処理が施されている。脚部は上半が中実で、裾部は「ハ」字状に開く。

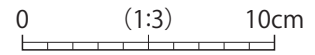
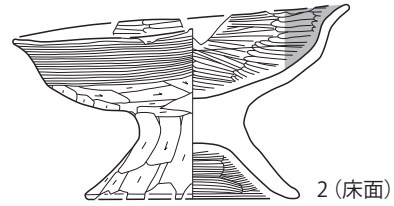
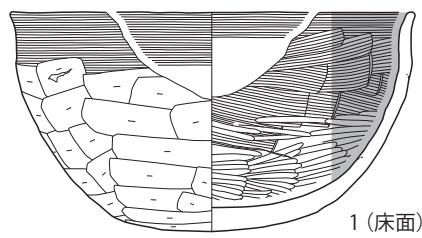
【時期】 床面から出土した土師器坏・高坏(第136図1・2)の特徴から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)と考えられる。



SI420 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド堆積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒褐色シルト斑状に含む。

第135図 SI420 竪穴住居跡



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-092	SI420	床面	土師器	环	15.9	—	8.7	口縁：ヨナデ 体部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体上半：ハナデ 体下半：ハミガキ	内面黒色処理	326
2	C-093	SI420	床面	土師器	高环	13.2	8.4	7.7	口縁：ヨナデ 体部～裾部：ハラスリ	口縁～体部：ハミガキ 裾部：ヨナデ→ハナデ	坏部内面黒色処理 角閃石微量含む	326

第136図 SI420 竪穴住居跡出土遺物

SI421 竪穴住居跡 (第137図)

【位置・確認】 調査区北東端部の75・83・84区に位置する。大部分が調査区外へ延び、カマドと北西部のみ検出した。北西隅付近はSD299の重複や攪乱により、壁の一部が失われている。

【重複】 SD299、SK358より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸293cm、短軸177cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-112°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～15層はカマド堆積土である。16層はカマド袖構築土、17～19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で32cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～23cm、深さ3～6cmを測る。

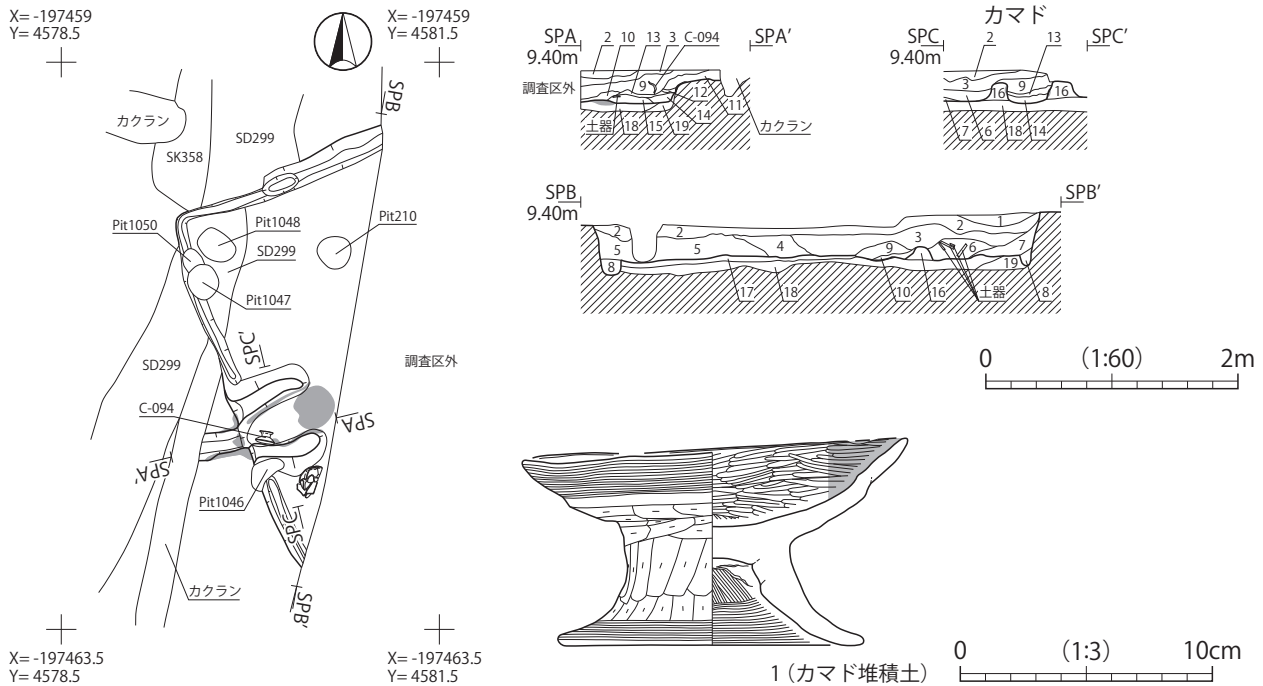
【カマド】 西壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、南袖の規模は長さ62cm、幅29cm、北袖は長さ66cm、幅28cmを測る。

燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き65cm、幅38cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径33cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道の先端部は攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ33cm、幅22cm、深さ7～12cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ9～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、カマドから土師器が出土し、カマドの内部に倒れた状態で出土した土師器高環1点を掲載した(第137図)。坏部は、体部が扁平に内湾し、口縁部で屈曲して直線的に外傾する。内面に黒色処理が施されている。内面の底部に刺突状の細かいくぼみが多く認められ、使用痕跡もしくは火ハネ痕と考えられる。脚部は上半が直立し、下半が屈曲して「ハ」字状に開く。脚部の径が広く重量感のあるつくりである。

【時期】 カマドから出土した高環(第137図1)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)の可能性はある。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-094	SI421 カマド	堆積土	土師器	高環	15.2	12.0	8.2	口縁：ヨナデ 体部～脚部：ハカスリ 裾部：ヨナデ	口縁～体部：ハミガキ 脚部：ハナデ 裾部：ヨナデ	環部内面黒色処理 内面裾部 摩滅 内面底部に使用痕か	326

SI421 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	9	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	10	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック (5～20mm程度) 多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	12	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
	13	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック (5～20mm程度) 多量、IV層土粒少量、上部に炭化物が堆積。
	14	5YR4/2 灰褐色	シルト	炭化物粒・灰多量、IV層土粒・焼土粒少量含む。
15	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック (5mm程度)・炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。 ※灰層	
カマド袖構築土	16	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	17	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒少量含む。
	18	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量含む。
	19	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック (5～20mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。

第137図 SI421 竪穴住居跡・同出土遺物

SI422 竪穴住居跡 (第138図)

【位置・確認】 調査区東部の109・117区に位置する。カマドと北西部のみ検出した。

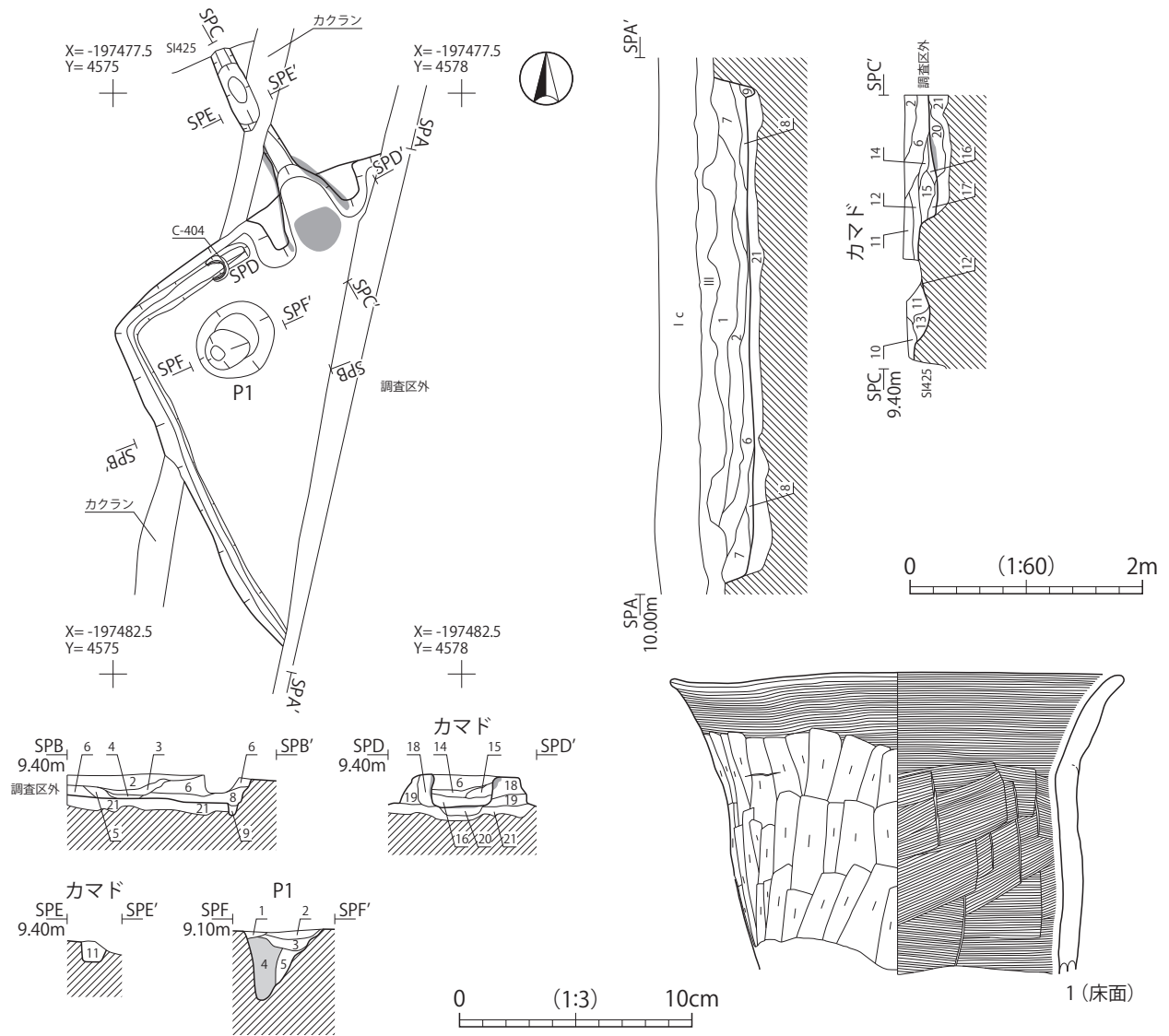
【重複】 SI425Aより古く、SI430より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸319cm、短軸276cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～8層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～5層は人為的な埋土、6～8層は自然堆積とみられる。9層は周溝堆積土、10～17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20層はカマド掘り方埋土、21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-404	SI422	床面	土師器	甕	19.2	—	(13.0)	口縁：ヨコテ 胴部：ハナズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハナテ	骨針少量含む	326

SI422 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	にぶい黄褐色シルトブロック斑状に含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm程度) 少量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
周溝堆積土	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度)・焼土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に多量、焼土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	15	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm程度) 多量含む。
	16	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm程度)・灰多量含む。
カマド袖構築土	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	
	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。
カマド掘り方埋土	19	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	21	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

第138図 SI422 竪穴住居跡・同出土遺物

SI422 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物帯状に含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～40mm程度)多量含む。

SI422 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	71×63	60	支柱穴 柱痕跡

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられ、規模は長軸71cm、短軸63cm、深さ60cmを測る。堆積土下半で径28cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅10～18cm、深さ7～18cmを測る。

【カマド】 北壁に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ44cm、幅28～40cm、西袖は長さ51cm、幅31～40cmを測る。燃焼部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。規模は奥行き74cm、幅56cmを測る。底面は弧状にくぼみ、焚口付近に長径39cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部がSI425Aの重複により失われているが、規模は残存値で長さ100cm、幅18～22cm、深さ11～18cmを測る。底面は概ね平坦で、先端部側が弧状にくぼんでいる。

【掘り方】 深さ11～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器が出土し、カマド西側の床面から出土した土師器甕1点を掲載した(第138図)。胴部は張りのない砲弾形と考えられ、口縁部は長く直線的に外傾し、上位で外反する。頸部に段は認められない。外面は口縁部中位まで弱いヘラケズリを施している。色調は暗褐色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫と少量の海綿骨針を含む。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第138図1)の特徴およびSI425A・430との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

SI423A 竪穴住居跡(第139・140図)

【位置・確認】 調査区北東部の91・92・100・101区に位置する。北西隅は攪乱、北壁から南東隅にかけてSD338の重複により失われている。

【重複】 SD299・338より古く、SI423B、SD328、Pit1335・1336より新しい。本住居跡は、SI423Bの拡張後に相当する。

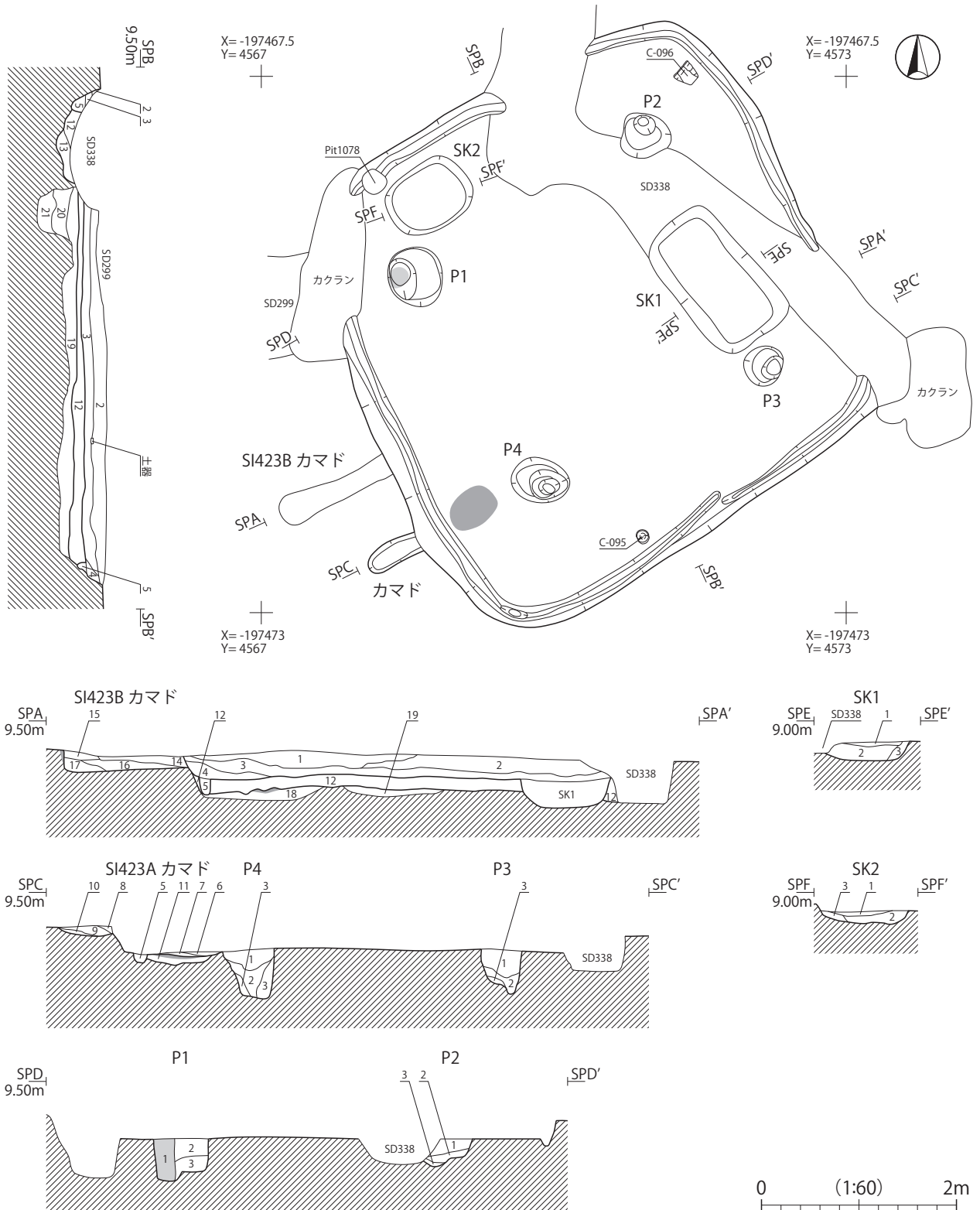
【規模・形態】 確認された規模は長軸509cm、短軸494cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-116°-Wを測る。

【堆積土】 13層に分層した。1～4層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3・4層は自然堆積とみられる。5層は周溝堆積土、6～10層はカマド堆積土である。11層はカマド掘り方埋土、12・13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

【床面】 中央部付近がわずかに高まり、褐色シルトの埋土上面を床面とする。



SI423A 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	63×57	43	主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(53)×(48)	45	主柱穴
P3	円形	42×39	37	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	57×47	49	主柱穴
SK1	(隅丸長方形)	(151)×(88)	22	貯蔵穴か
SK2	隅丸長方形	88×67	18	貯蔵穴か

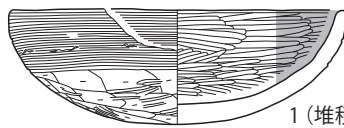
第139図 SI423A 竪穴住居跡

SI423A 堆積土註記表

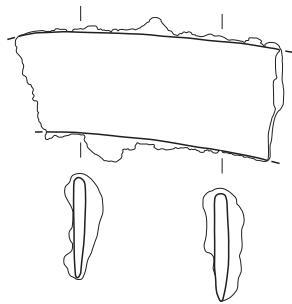
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド堆積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土粒少量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック(20mm程度)微量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	13	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に少量含む。

SI423A 施設堆積土註記表

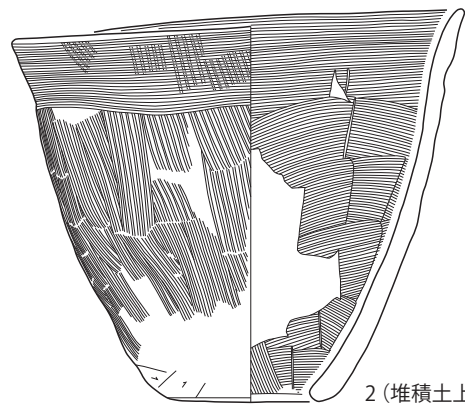
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土多量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	灰黄褐色シルト斑状に含む。
SK2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(10~40mm程度)・焼土ブロック(10~30mm程度)多量、炭化物ブロック(10~30mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土多量、焼土ブロック(5~10mm程度)微量含む。



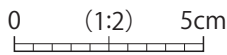
1 (堆積土)



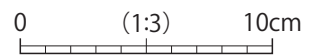
3 (堆積土)



2 (堆積土上層)



※図版番号3



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-095	SI423A	堆積土	土師器	環	13.1	—	4.6	口縁: ヨナデ → 沈線か 体部: ヲラスリ → ヲラミガキ	ハミガキ	内面黒色処理	326
2	C-096	SI423A	堆積土上層	土師器	甑	17.9	孔径 5.2	15.6	口縁: ハメ → ヲナデ 胴上~中位: ハメ 胴下位: ヲラスリ	口縁: ヲナデ 胴部: ヲラデ	単孔角閃石微量含む 外面 胴部下位摩滅	326

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
3	N-009	SI423A	堆積土	金属製品	鉄鎌	(6.9)	2.9	0.4	3.3	刃部 曲刃	326

第140図 SI423A 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸42～63cm、短軸39～57cm、深さ37～49cmを測る。P1で径22cm程度の柱痕跡、P4で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では壁面に沿ってめぐるとは、南壁中央部で連続せずに途切れる箇所を検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～19cm、深さ1～16cmを測る。

【カマド】 西壁中央部から南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は袖が失われ、底面のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面の範囲から規模は奥行き92cm前後、幅38cm以上と考えられる。底面は弧状にくぼみ、壁面から19cm程度内側に長径52cm程度の焼面がみられる。煙道部は、住居床面と22cm程度の比高差が認められる。規模は長さ57cm、幅24cm、深さ9cmを測り、底面は弧状にくぼんでいる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1はP3北側の至近、SK2は北壁際の西寄りに位置する。形状からともに貯蔵穴の可能性が考えられる。SK1の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸151cm、短軸88cm、深さ22cmを測る。SK2の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸88cm、短軸67cm、深さ18cmを測る。

【掘り方】 深さ10～28cmを測る。底面はSI423Bの床面とほぼ同一だが、南西隅付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器坏1点・甑1点、金属製品1点を掲載した(第140図)。1は土師器坏で、丸底から口縁部に向かって内湾する。沈線状の段が口縁部と体部の境に、不連続の粗い沈線が口縁部中位にめぐるとは、内面に黒色処理が施されている。2は単孔の土師器甑で、頸部に段を持つ。胴部は内湾気味に外傾し、口縁部はわずかに外反する。3は曲刃の鉄鎌である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI423Bとの新旧関係から3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降で、SI423Bと近い時期が考えられる。

SI423B 竪穴住居跡(第141・142図)

【位置・確認】 調査区北東部の91・92・100・101区に位置する。SI423Aの南西側に寄り、その直下に入れ子状に重複する。西壁と南壁は大部分がSI423Aと同一である。

【重複】 SI423A、SD299・338より古く、SD328、Pit1335・1336より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸437cm、短軸411cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-116°-Wを測る。

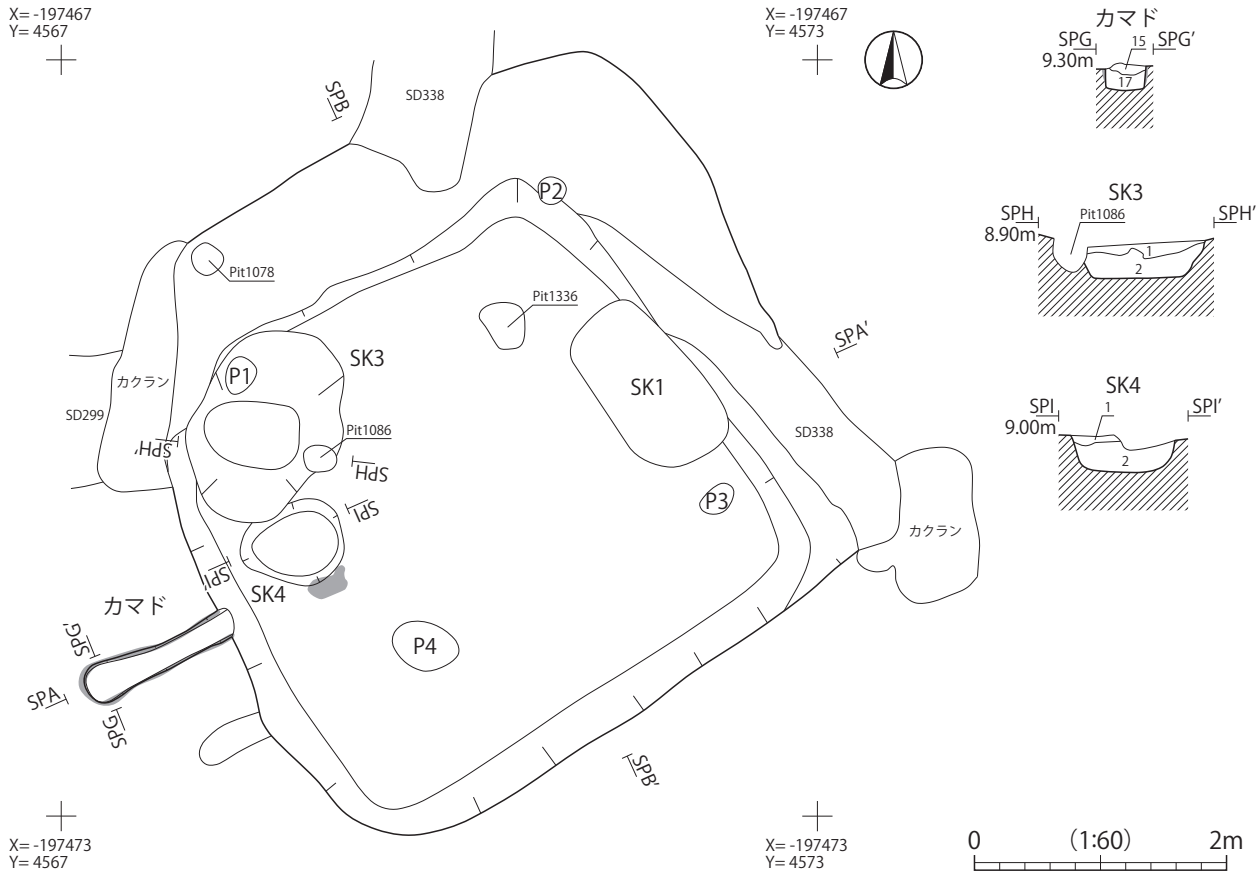
【堆積土】 8層に分層した。土層番号はSI423Aからの連番である。14～17層はカマド堆積土、18層はカマド掘り方埋土、19～21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 起伏が激しく、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃焼部は袖を含む大部分が失われ、焼面の一部のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面の範囲から規模は奥行き95cm前後と考えられる。底面はSI423Aの構築時に失われ、残存する焼面は長径32cm程度を測る。煙道部は、住居床面と27cm程度の比高差が認められる。規模は長さ129cm、幅21～32cm、深さ16～23cmを測り、底面は先端部に向かってわずかに下がっている。

【その他の施設】 床面で2基(SK3・4)の土坑を検出した。遺構番号はSI423Aからの連番である。SK3は北西隅、SK4はカマドの前方からやや北にずれて位置する。SK4がカマドの焼面を壊していることから、これらはSI423Aの掘り方である可能性も考えられる。



SI423B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	14	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、焼土ブロック(20~50mm程度)微量含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	16	10YR2/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	17	10YR2/3 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	18	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
	19	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	21	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。

SI423B 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
SK4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状、炭化物ブロック(10mm程度)少量、焼土ブロック(30mm程度)微量含む。

SI423B 施設観察表

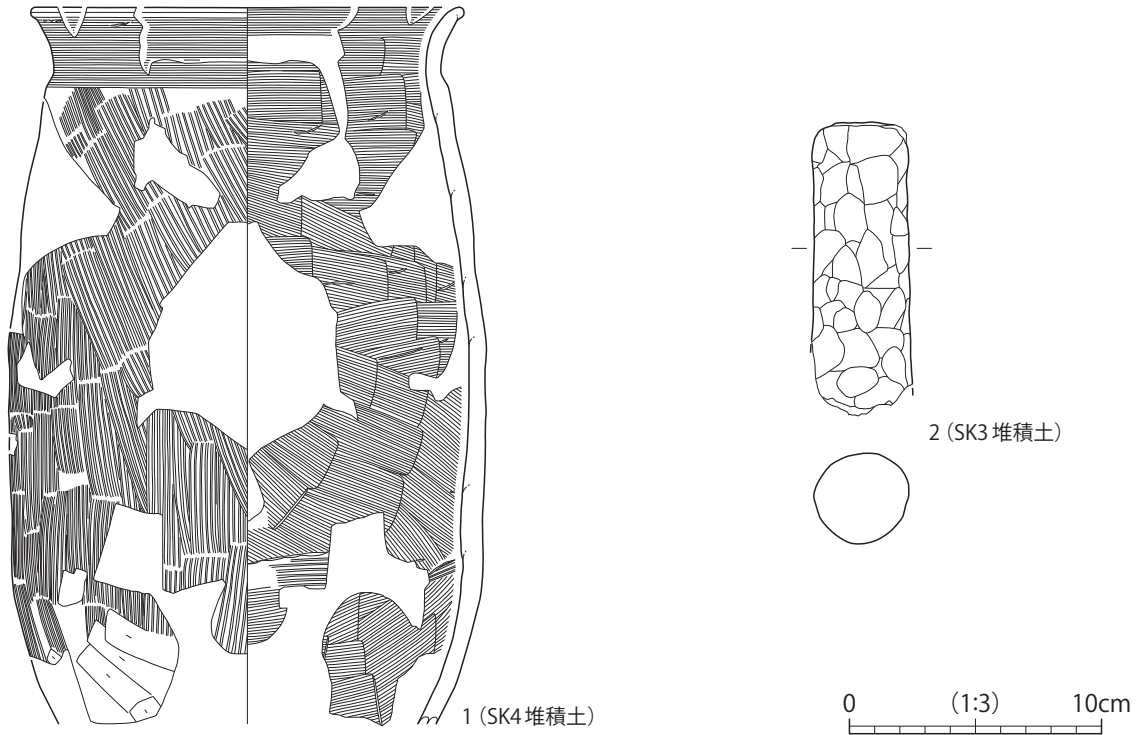
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK3	楕円形	159×118	33	SI423A掘り方か
SK4	円形	77×71	29	SI423A掘り方か

第141図 SI423B 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ5~42cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器、土製品などが出土し、土師器甕1点、土製品1点を掲載した(第142図)。1はSK4から、2はSK3から出土した。1は土師器甕である。胴部下位に最大径が位置する下膨れと考えられる。頸部に段を持ち、口縁部で緩く外反する。外面は上半を幅の広い粗めのハケメ、下半は弱いヘラケズリが施されている。内面は胴部下位の輪積痕直下にハケメが施され、一部で調整が異なる。2は土製の支脚で、円柱状を呈し、下部が欠損している。全面に被熱が認められる。外面はナデが施されている。

【時期】 SK4から出土した土師器甕(第142図1)の特徴から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-407	SI423B SK4	堆積土	土師器	甃	(16.8)	—	(28.4)	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ハナメ 胴下位：ハナメ	口縁：ヨナデ 胴上～中位：ハナデ 胴下位：ハナメ	角閃石少量含む	326
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
						全長	幅	高さ				
2	P-015	SI423B SK3	堆積土	土製品	支脚	(11.6)	4.0	3.6	194.2	ナ 全面被熱		326

第142図 SI423B 竪穴住居跡出土遺物

SI424 竪穴住居跡 (第143～145図)

【位置・確認】 調査区北部の46・53・54・61・62区に位置する。北西部は攪乱により失われ、カマドの燃烧部と煙道部もSB45の重複により分断されている。

【重複】 SB45より古く、SD331より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸434cm、短軸424cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-10°-Wを測る。

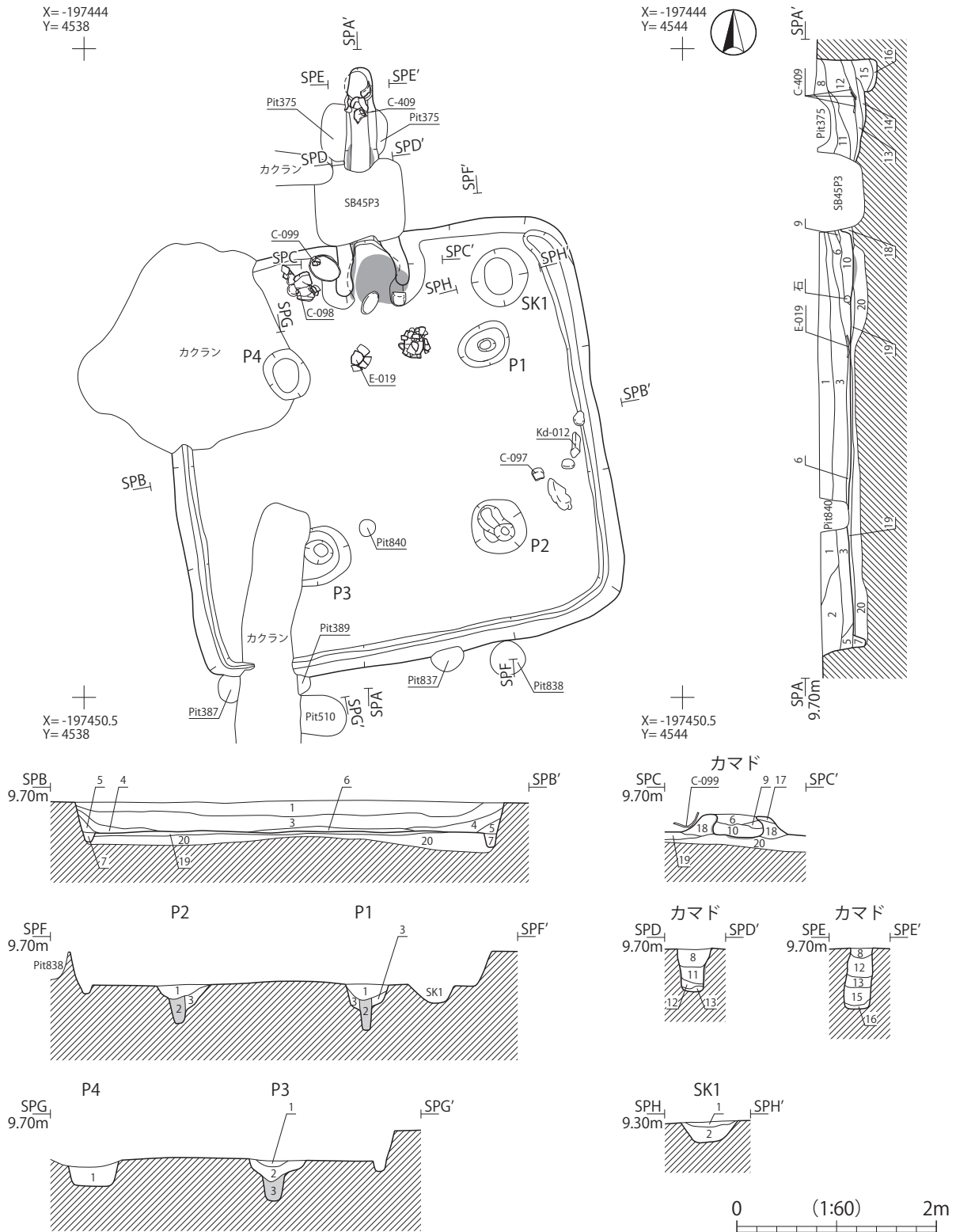
【堆積土】 20層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8～16層はカマド堆積土である。17・18層はカマド袖と奥壁の構築土、19・20層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄橙色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸52～57cm、短軸39～55cm、深さ25～46cmを測る。P1～3の堆積土下半で、径12～22cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では北壁を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形を呈し、規模は幅13～25cm、深さ6～11cmを測る。



SI424 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	55×39	46	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	56×53	39	主柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	57×(55)	40	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	(52)×(41)	25	主柱穴
SK1	円形	58×57	20	貯蔵穴

第143図 SI424 竪穴住居跡

SI424 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	6	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土粒多量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土ブロック(20～30mm程度)・炭化物粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・焼土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
	14	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土粒微量含む。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物主体、焼土粒微量含む。
カマド袖・奥壁構築土	17	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(30～50mm程度)多量、焼土粒微量含む。
	18	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(30～50mm程度)多量、焼土粒少量含む。
住居掘り方埋土	19	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～15mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(15～30mm程度)多量含む。

SI424 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20～30mm程度)・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。SB45の重複により、奥壁の周辺から煙道部の前半にかけて失われている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は残存値で長さ68cm、幅28～35cm、西袖は長さ64cm、幅25～39cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値も含め奥行き71cm、幅30～46cmを測る。底面は概ね平坦で、長径51cm程度の焼面がみられる。支脚とみられる棒状の自然礫が、焚口付近から倒れた状態で出土した。奥壁はやや外傾しながら9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ173cm、幅25～30cm、深さ43～60cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸58cm、短軸57cm、深さ20cmを測る。

【掘り方】 深さ2～21cmを測る。カマドの前方、東壁際、南壁際の西半部が溝状・土坑状に一段低く掘り込まれている。

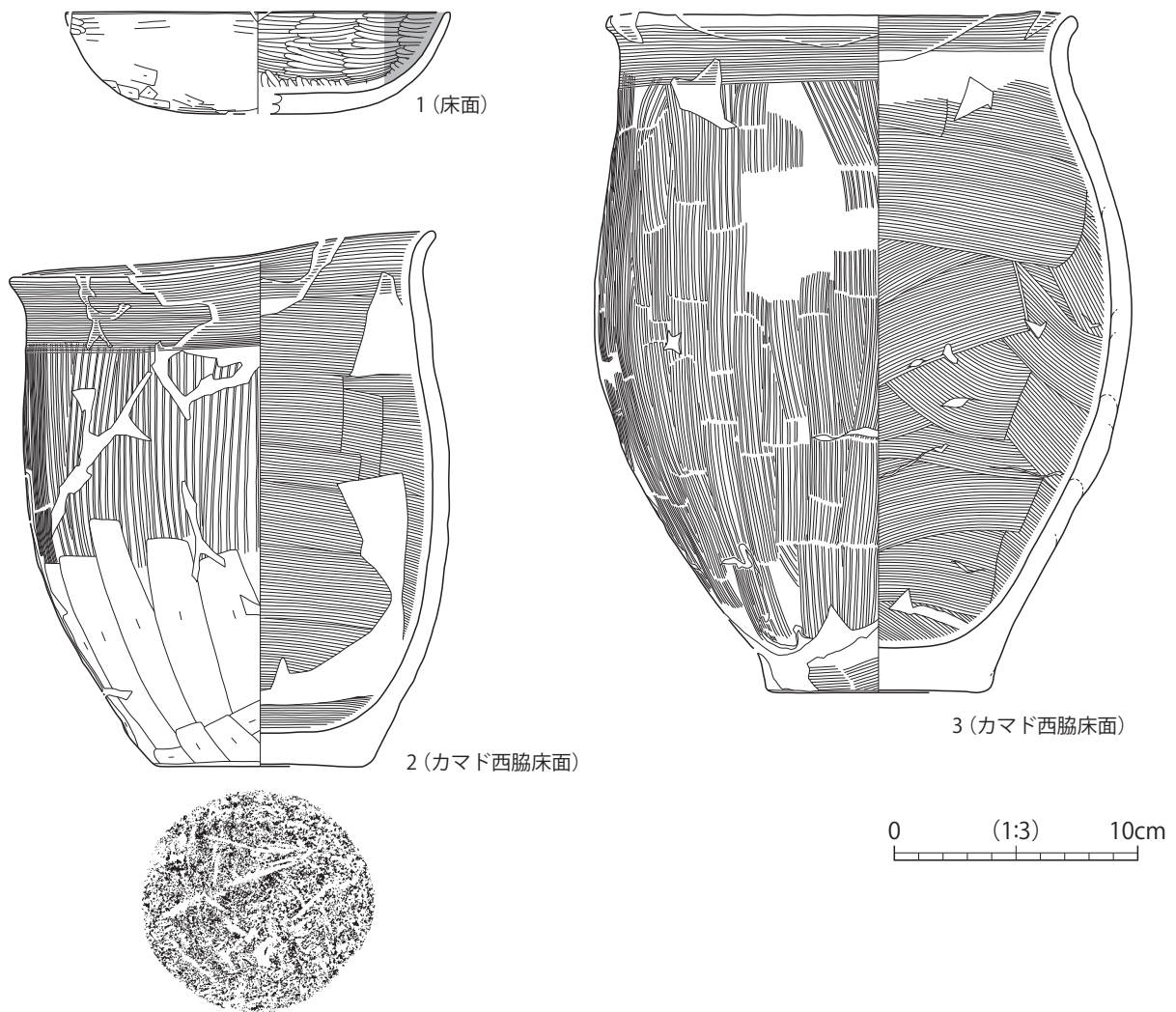
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器坏1点・甕3点、須恵器坏1点・蓋1点、石製品1点を掲載した(第144・145図)。2・3はカマド西脇の床面から潰れた状態で出土した。7は東壁際の床面から出土した。

1は土師器坏で、平底風丸底の底部から口縁部に向かって内湾する。内面に黒色処理が施されている。2～4は土師器甕である。2・3は胴部最大径が中位に位置し、2は胴部の張りの弱い短胴形で、3は楕円形を呈する。4は胴部最大径を上位に持ち、そこから下位に向かってすぼまる。2の口縁部は直立後上位で短く外反、3は短く外反、4は外反し大きく開く。3の外面上半には幅の広い粗めのハケメが施されている。4の外面上半には縦・斜方向の弱いへラケズリ、下半には強いへラケズリが施されている。4の色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と赤色粒子、海綿骨針をいずれも少量含む。5は深身の須恵器坏である。平底から直線的に外傾し、口縁部でわずかに

に外反する。底部は回転ヘラズリが施されているため、底部の切り離しは不明である。色調は青灰色～にぶい赤褐色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子、少量の海绵骨針含む。6は須恵器蓋で、平坦な天井部に擬宝珠形のツマミを持つ。口縁端部は下方に折り曲げられ、断面三角形を呈する。色調は灰色～灰赤色を呈し、胎土はやや精良で、砂粒と白色粒子を含む。焼成は堅緻で硬く締まる。

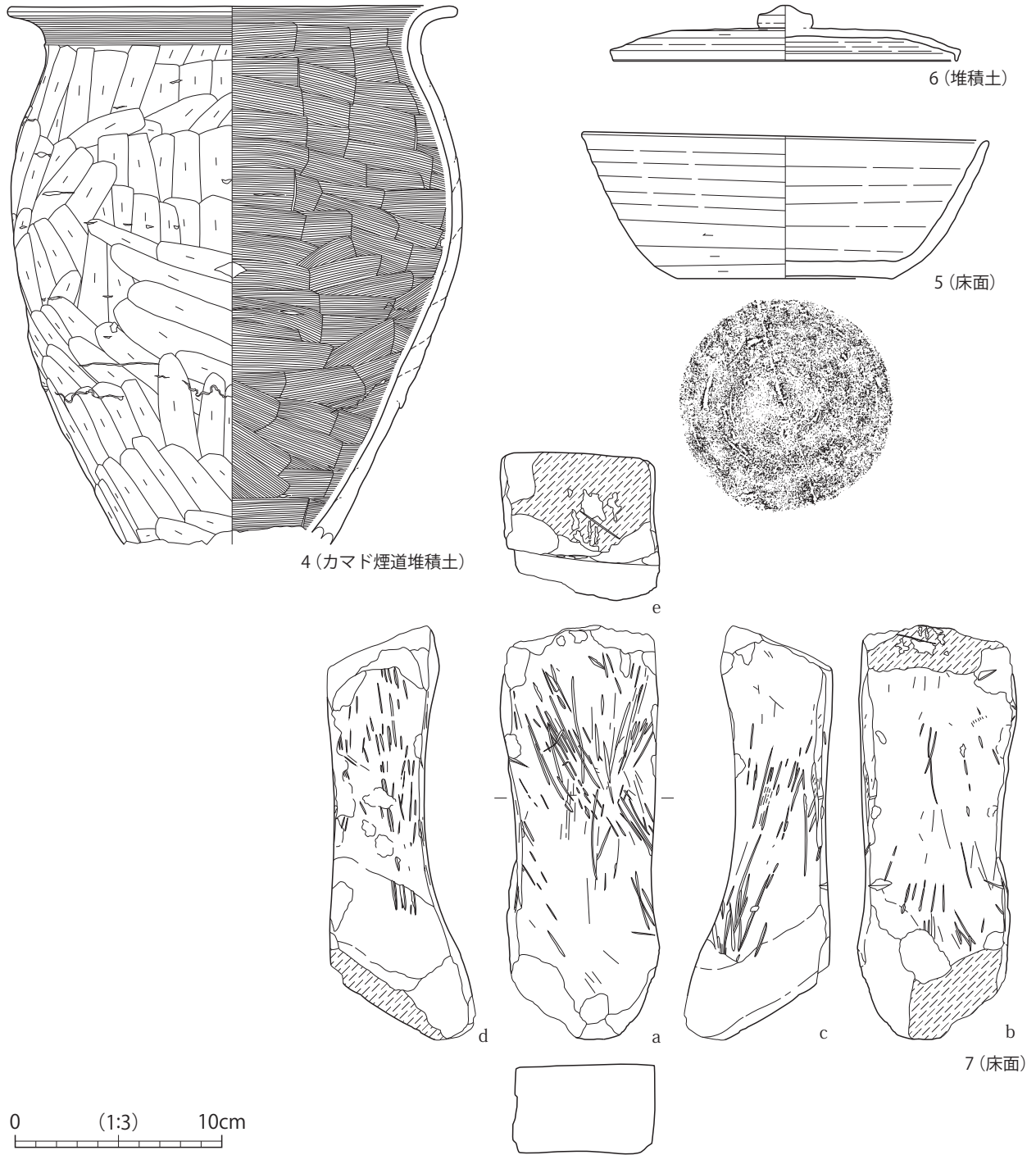
7は砥石で、全長20.0cmの大型品である。砥面が4面あり、a～e面に溝状痕、a～d面に線条痕がみられる。またb・d・e面に節理面が認められる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器坏・甕、須恵器坏(第144・145図1～3・5)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-097	SI424	床面	土師器	坏	(15.9)	—	4.2	口縁：ヘラミガキ 体～底部：ヘラスリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理 外面摩滅	327
2	C-098	SI424 カマド西脇	床面	土師器	甕	17.2	8.4	22.0	口縁：ヘラミガキ→ヨコガテ 胴上半：ヘラミガキ 胴下半：ヘラスリ	口縁：ヨコガテ 胴～底部：ヘラミガキ	底部木炭痕 角閃石中量含む 内外面口縁部摩滅	327
3	C-099	SI424 カマド西脇	床面	土師器	甕	(19.0)	8.8	27.8	口縁：ヘラミガキ→ヨコガテ 胴部：ヘラミガキ 底部：ヘラスリ	口縁：ヨコガテ 胴～底部：ヘラミガキ	角閃石中量含む 内面口縁部 摩滅 内面火傷痕	327

第144図 SI424 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
4	C-409	SI424 カマド 煙道	堆積土	土師器	甕	21.3	—	(26.1)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘカスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘカテ	骨針少量含む	327
5	E-019	SI424	床面	須恵器	坏	19.6	10.4	7.1	口縁～体中位：叩調整 体下位～底部：回転ヘカスリ	叩調整	内外面に火禿痕 骨針少量含む	327
6	E-020	SI424	堆積土	須恵器	蓋	(16.6)	—	2.7	口縁：叩調整 天井部：回転ヘカスリ ツマミ部：叩調整によるツマミ貼付	叩調整	外面口縁部・内面天井部中に重ね焼き痕	327

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
7	Kd-012	SI424	床面	石製品	砥石	20.0	7.7	7.2	1,187.0	凝灰岩	砥面4面 溝状痕(a～e面) 線条痕(a～d面) 節理(b・d・e面)	327

第145図 SI424 竪穴住居跡出土遺物(2)

SI425A 竪穴住居跡 (第146～148図)

【位置・確認】 調査区東部の101・109区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。

【重複】 SI422・425B・428・430、SD338、Pit1456・1476より新しい。本住居跡は、SI425Bの拡張後に相当する。

【規模・形態】 確認された規模は長軸574cm、短軸565cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-26°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～5層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～11層はカマド1堆積土である。12・13層はカマド1袖構築土、14層はカマド1掘り方埋土である。本住居跡は床面が新旧2枚存在し、15・16層は新しい床面(床面1)の構築土である。17層はカマド2掘り方埋土、18・19層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、8層に分層した。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

【床面】 新しい床面に相当する床面1の中央部付近はわずかに高まり、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。旧床面に相当する床面2はわずかに起伏し、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面1で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸83～90cm、短軸74～87cm、深さ67～71cmを測る。P1～3の堆積土下半で径15～30cm程度の柱痕跡を確認した。P2・3の底面では柱の圧痕とみられるくぼみを2箇所ずつ確認したため、柱の建て替えが行われたと考えられる。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ6～21cmを測る。西壁と南壁の底面からは、壁材の痕跡とみられるくぼみを部分的に検出した。

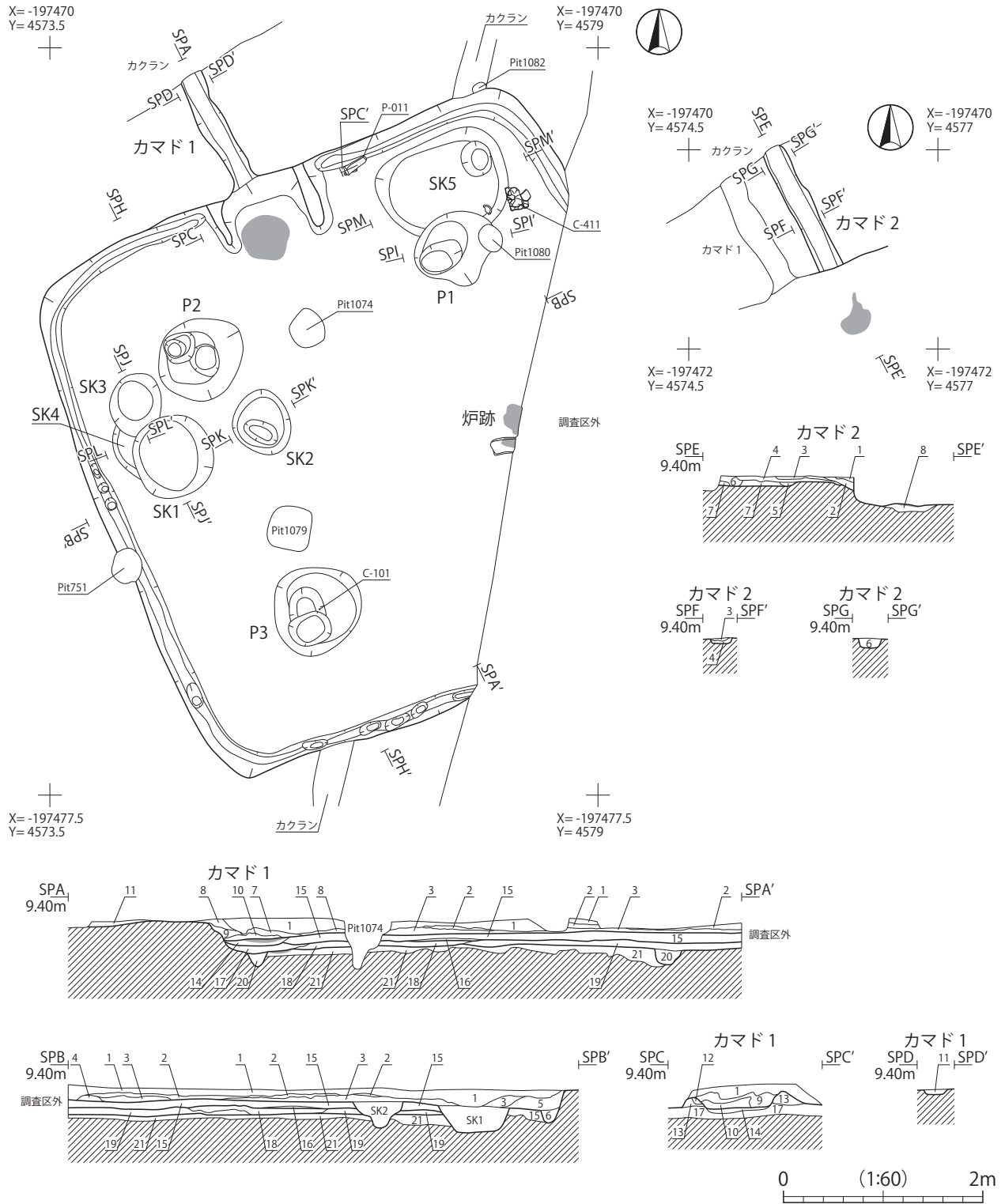
【カマド】 北壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1は床面1、カマド2は床面2に伴い、カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は攪乱により先端部が失われている。袖は壁面に対して直交するが、焚口付近は失われている。東袖の規模は残存値で長さ74cm、幅26～41cm、西袖は長さ55cm、幅18～31cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は焼面の位置から奥行き83cm前後が推定され、幅82cmを測る。底面は概ね平坦で、やや西に寄って長径49cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら階段状に17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ123cm、幅21～28cm、深さ3～9cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。カマド2はカマド1の東側に位置する。燃烧部は袖が全て失われ、壁面から30cm程度内側に焼面のみ残存する。燃烧部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は奥行き72cm前後、幅33cm以上である。焼面は長径36cm程度を測る。煙道部は壁面に直交して延び、カマド1と同様に先端部は攪乱のため失われている。規模は残存値で長さ136cm、幅22～26cm、深さ5～9cmを測る。底面は概ね平坦だが、中央部付近から先端部にかけて一段下がる。

【炉】 床面1で検出した。東部に位置し、一部調査区外へ延びる。長軸32cm、短軸17cm以上の被熱範囲で、掘り込みは伴わない。被熱は強く、焼土化・硬化が顕著である。南端部には板状の自然礫が置かれており、被熱が認められることから炉の縁石と考えられる。

【その他の施設】 床面1で5基(SK1～5)の土坑を検出した。SK1～4はP2の南側から西側にかけての至近に、SK5は北東隅に位置する。SK1・3・4は重複し、SK1→SK3→SK4の順で古くなる。SK1・4は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK5は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸81cm、短軸79cm、深さ30cmを測る。SK4の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸60cm、短軸25cm、深さ19cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸129cm、短軸99cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ4～10cmを測る。底面はSI425Bの床面とほぼ同一で、起伏がみられる。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器坏2点・甕2点、土製品1点を掲載した(第148図)。2はP3から、5はカマド1東脇の床面から出土した。また、SK5から出



SI425A 施設観察表

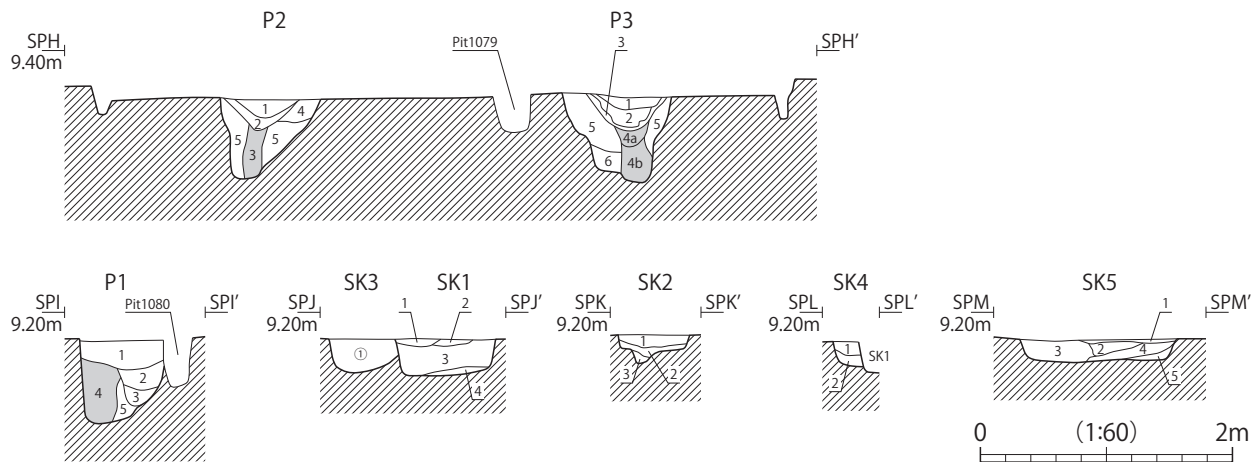
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	不整形	85×74	67	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	83×81	71	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	90×87	71	主柱穴 柱痕跡
SK1	円形	81×79	30	カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	円形	63×56	25	性格不明土坑
SK3	楕円形	63×(53)	28	性格不明土坑
SK4	(楕円形)	(60)×(25)	19	カマド関連土坑
SK5	(楕円形)	129×(99)	25	貯藏穴

第146図 SI425A 竪穴住居跡(1)

SI425A 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・灰黄褐色シルトブロック(10～20mm程度)多量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に多量、焼土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
カマド1 堆積土	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～60mm程度)多量、IV層土ブロック(10～50mm程度)少量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。
	10	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド1 袖構築土	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
カマド1 掘り方埋土	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
床面1構築土	15	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	16	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド2 掘り方埋土	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
住居掘り方 埋土	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	19	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック斑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト粒少量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
カマド2 掘り方埋土	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。



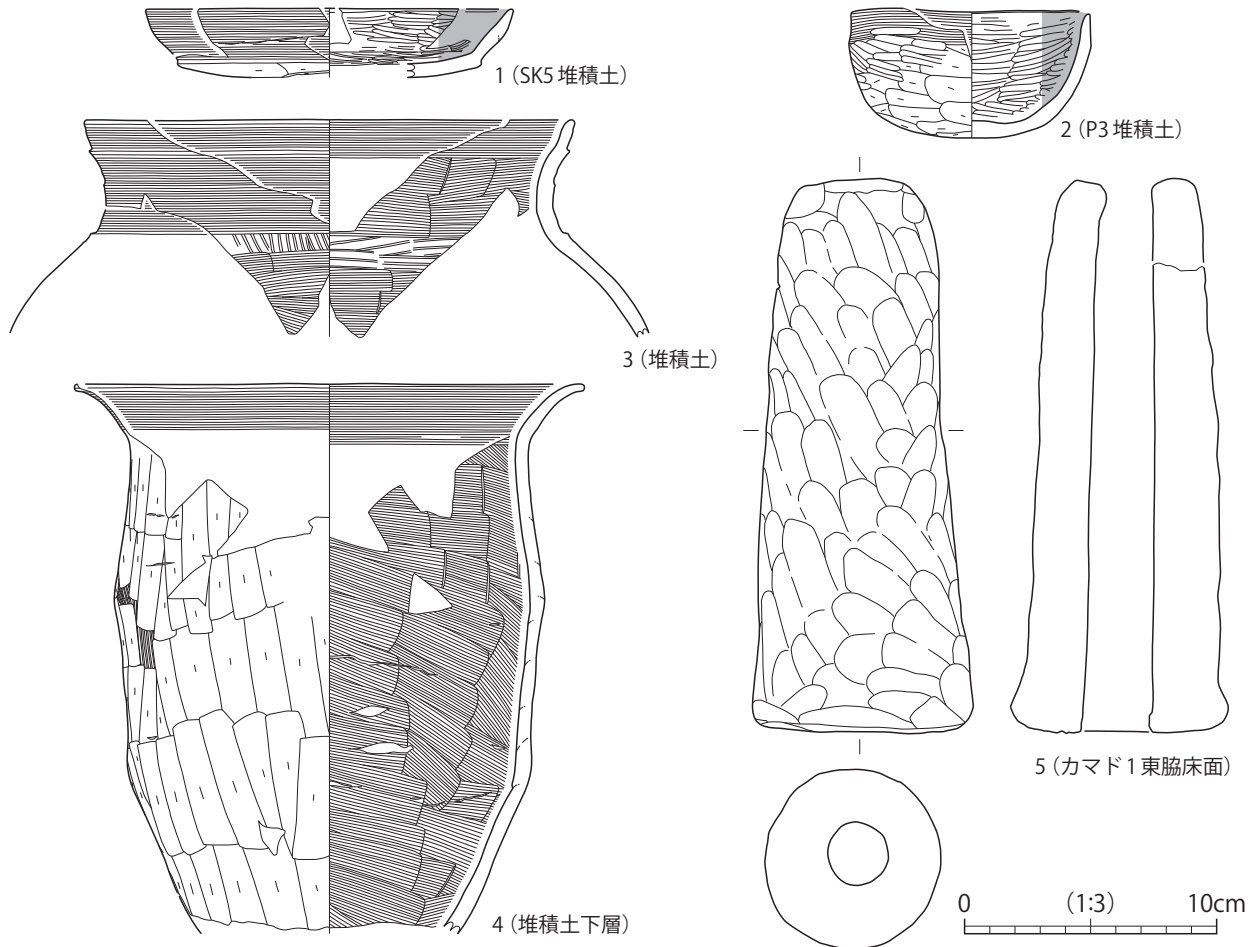
SI425A 施設堆積土註記表(1)

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物帯状、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/6 褐色	砂質シルト	黒褐色シルトブロック(10～20mm程度)微量含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物斑状に少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・炭化物ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	4b	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。 ※柱痕跡
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に少量含む。
6	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	褐色シルト斑状に少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。	

第147図 SI425A 竪穴住居跡(2)

SI425A 施設堆積土註記表(2)

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)・焼土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5~10mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・焼土・炭化物斑状に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に微量含む。
	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・焼土・炭化物斑状に少量含む。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、IV層土粒少量含む。
SK5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、焼土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物ブロック(10~50mm程度)少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-100	SI425A SK5	堆積土	土師器	环	(14.6)	—	(2.7)	口縁:ヨコテ 体部:アラスリ	アラミガキ	内面黒色処理	328
2	C-101	SI425A P3	堆積土	土師器	环	9.4	—	5.1	口縁:ヨコテ 体上:アラミガキ 体下半~底部:アラスリ	アラミガキ	内面黒色処理 内面口縁部摩滅	328
3	C-412	SI425A	堆積土	土師器	甕	(19.4)	—	(8.6)	口縁:ハメ→ヨコテ 胴部:ハメ→アラテ	口縁:ヨコテ 胴部:ハメ→アラテ	角閃石中量含む	328
4	C-411	SI425A	堆積土下層	土師器	甕	(20.0)	—	(21.8)	口縁:ヨコテ 胴部:ハメ→アラスリ	口縁:ヨコテ 胴部:アラテ	骨針微量含む	328
写真のみ	C-413	SI425A SK5	堆積土	土師器	甕	(18.6)	—	(15.9)	口縁:ヨコテ 胴上半:ハメ 胴下半:アラスリ	口縁:ヨコテ 胴部:アラテ	角閃石少量含む 内外面胴下半摩滅	383

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
5	P-011	SI425A 炉1東脇	床面	土製品	羽口 or 支脚	22.0	8.8	7.1	1364.0	外面:テ 内面:芯棒引き抜き未調整 下端面へウチ痕あり	328

第148図 SI425A 竪穴住居跡出土遺物

土した土師器甕1点を写真で掲載した(写真図版383-5)。1・2は土師器坏である。1は浅身で、扁平な丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で内湾気味に外傾する。2は丸底から内湾して立ち上がり、口縁部で短く直立する。ともに内面に黒色処理が施されている。3・4は土師器甕である。3の段は口縁部に2条、頸部に1条持つ。口縁部は直立し、中位で内湾気味に外傾する。頸部の括れ付近には横方向のハケメ後ヨコナデ、内面の胴部上端に横方向のハケメ後ヘラナデが施されている。以上の特徴から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。4は砲弾形と考えられ、口縁部は外反し大きく開く。外面に縦方向の弱いヘラケズリが施されている。色調はにぶい橙色で、胎土はやや粗く、5mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。5は支脚ないし未使用の羽口とみられる。円柱状を呈し、下端部が内湾して広がる。外面にナデが施され、内面は芯棒を引き抜き後、未調整である。また下端面にヘラ切り痕がみられる。写真図版383-5(C-413)は中型の土師器甕である。頸部は段を持ち、口縁部は外反する。外面胴部上半に幅の細かいハケメ、下半に強いヘラケズリが縦方向に施されている。

【時期】 SK5とP3から出土した土師器坏・甕(第148図1・2、写真図版383-5)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

SI425B 竪穴住居跡(第149図)

【位置・確認】 調査区東部の92・101・109区に位置し、SI425Aの直下で入れ子状に重複する。全ての壁がSI425Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI425Aより古く、SI428、SD338、Pit1456・1476より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸457cm、短軸454cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-26°-Wを測る。

【堆積土】 2層に分層した。土層番号はSI425Aからの連番である。20層は周溝堆積土、21層は住居掘り方埋土である。カマドは個別に層番を付し、7層に分層した。

【壁面】 SI425Aの深さから、壁高は27cm前後を有していたと考えられる。形状は不明である。

【床面】 わずかに起伏し、褐色砂質シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面1で3基(P4～6)を検出した。遺構番号はSI425Aからの連番である。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は残存値も含め長軸37～67cm、短軸37～67cm、深さ43～55cmを測る。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を含め、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅19～33cm、深さ8～22cmを測る。

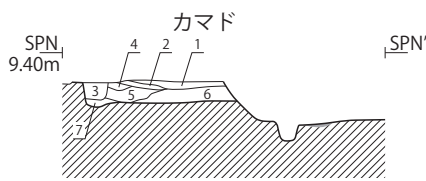
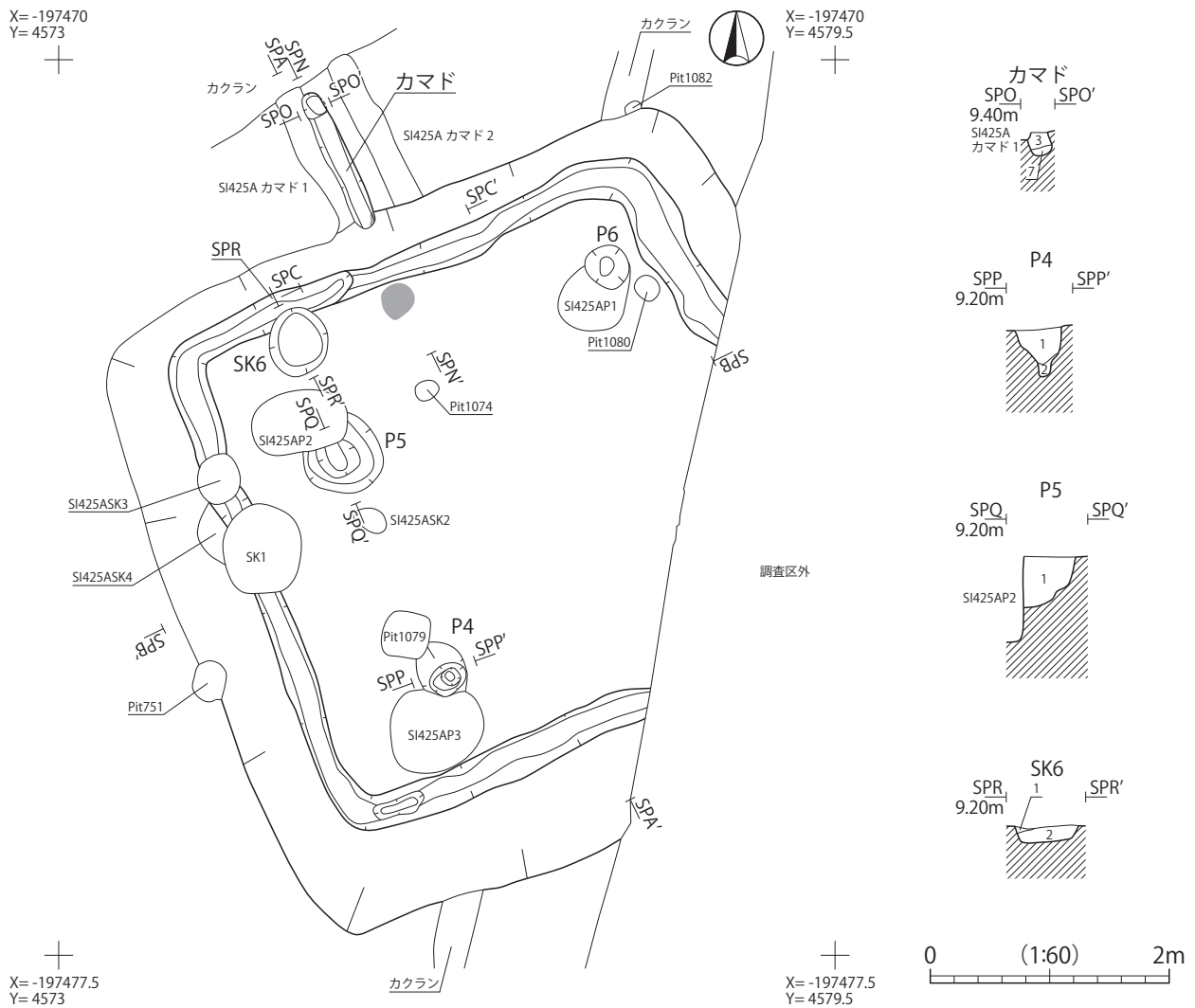
【カマド】 北壁中央部からやや西寄りに位置する。燃焼部の袖は全て失われ、周溝北壁から21cm程度内側に焼面のみが残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面から推定される規模は奥行き49cm前後、幅28cm以上である。焼面は長径28cm程度を測る。煙道部はSI425Aの壁面に残存し、周溝に直交して延びる。住居床面と16cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ123cm、幅18～20cm、深さ14～19cmを測る。底面は概ね平坦で、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で1基(SK6)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI425Aからの連番とした。カマドの西脇に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸51cm、深さ17cmを測る。堆積土に、焼土を多量含むことから、カマド関連の土坑に転用されたと考えられる。

【掘り方】 深さ5～18cmを測り、底面は起伏する。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器、金属製品、土製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI425Aとの新旧関係から5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前で、SI425Aと近い時期が考えられる。



SI425B 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	(46) × 41	44	主柱穴か
P5	円形	(67) × 67	43	主柱穴か
P6	(円形)	37 × 37	55	主柱穴か
SK6	円形	55 × 51	17	貯蔵穴→カマド関連土坑

SI425B 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	20	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	21	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
カマド堆積土	1	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	※地山崩落土
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度)・焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	4	10YR5/6 黄褐色	シルト	※地山崩落土
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度)・焼土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度)・焼土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。

SI425B 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK6	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度)・焼土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 多量含む。

第 149 図 SI425B 竪穴住居跡

SI426 竪穴住居跡 (第150図)

【位置・確認】 調査区北東部の83・92区に位置する。床面はSI420、SD299の重複や調査時の掘り過ぎにより大部分が失われ、北壁付近から東壁の一部のみ検出した。掘り方は南部を除き残存する。残存範囲および消失範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI418・420、SD299より古く、SI427、SD328より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸284cm、短軸181cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-42°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。1・2層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土である。3層は住居掘り方埋土である。

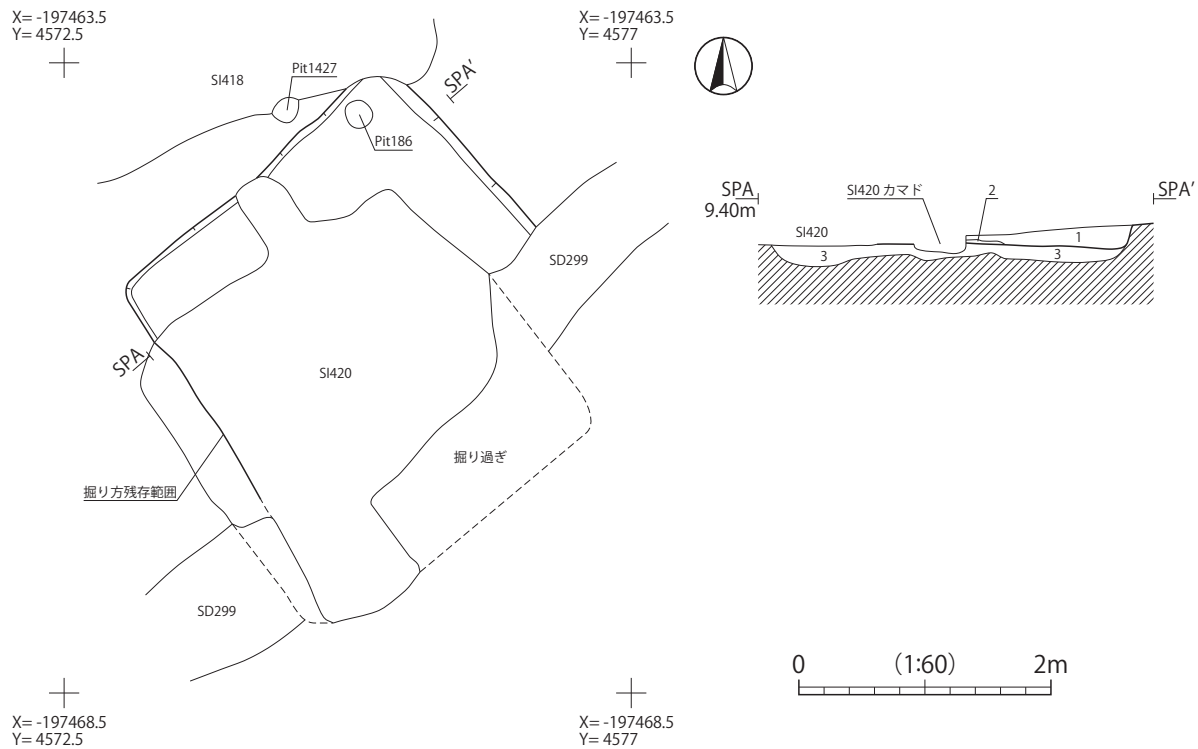
【壁面】 壁高は最大で10cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【掘り方】 深さ9～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI418・420・427との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以前と考えられる。



SI426 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・細砂斑状に含む。

第150図 SI426 竪穴住居跡

SI427 竪穴住居跡 (第151図)

【位置・確認】 調査区東部中央の83・92区に位置する。削平により床面は失われ、掘り方のみ残存する。また、北半部はSI418とSD338、南東隅はSI420・426の重複によりそれぞれ失われている。

【重複】 SI418・420・426、SD338より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸290cm、短軸229cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-40°-Wを測る。

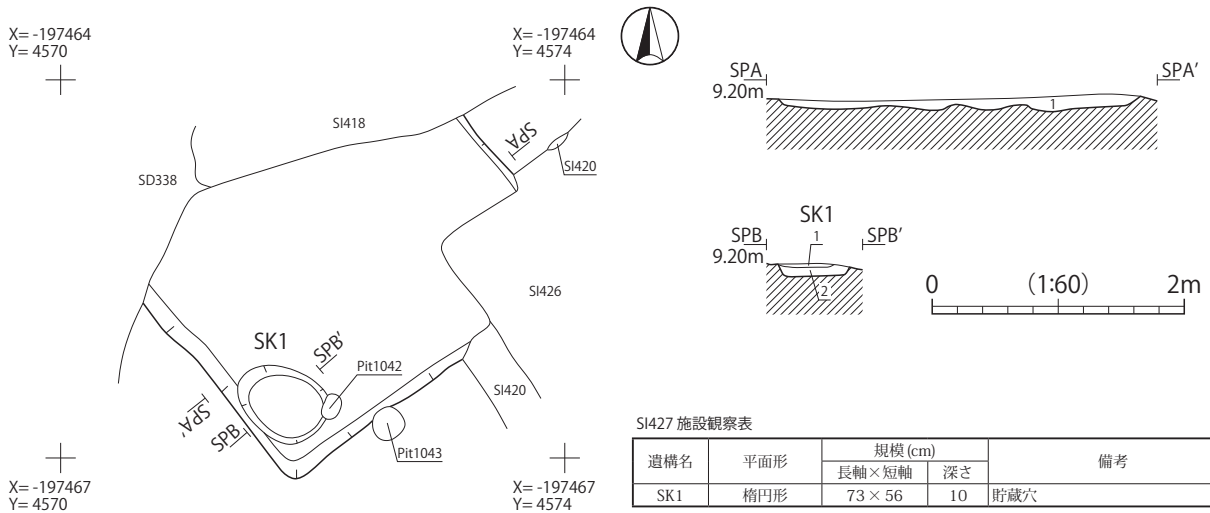
【堆積土】 にぶい黄褐色シルトの単層で、住居掘り方埋土である。

【その他の施設】 掘り方底面で1基(SK1)土坑を検出した。南西隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸56cm、深さ10cmを測る。

【掘り方】 深さ5~10cmを測り、底面は若干起伏する。

【出土遺物】 出土しなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI418・420・426との新旧関係から、3期(6世紀末頃~7世紀前半)以前と考えられる。



SI427 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・細砂斑状に含む。

SI427 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

第151図 SI427 竪穴住居跡

SI428 竪穴住居跡 (第152図)

【位置・確認】 調査区東端部中央の101区に位置する。SI425Aの重複により大部分が失われ、北壁際のみ残存する。残存範囲およびSI425Aの重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI425A・425B、Pit1456・1476・1486より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸321cm、短軸47cmを測り、平面形は不明である。

【方向】 北壁を基準としてN-57°-Eを測る。

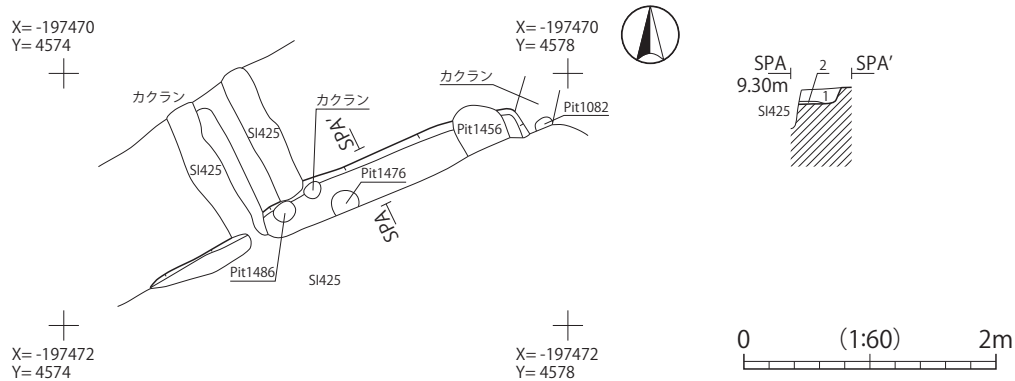
【堆積土】 2層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土である。

【壁面】 残存範囲では外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、残存範囲では基本層IV層を直接床面とする。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI425Aとの新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前と考えられる。



SI428 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。

第152図 SI428 竪穴住居跡

SI429 竪穴住居跡 (第153図)

【位置・確認】 調査区南東端部の117区に位置する。攪乱により住居本体は失われ、カマド煙道部の一部のみ残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI430より新しい。

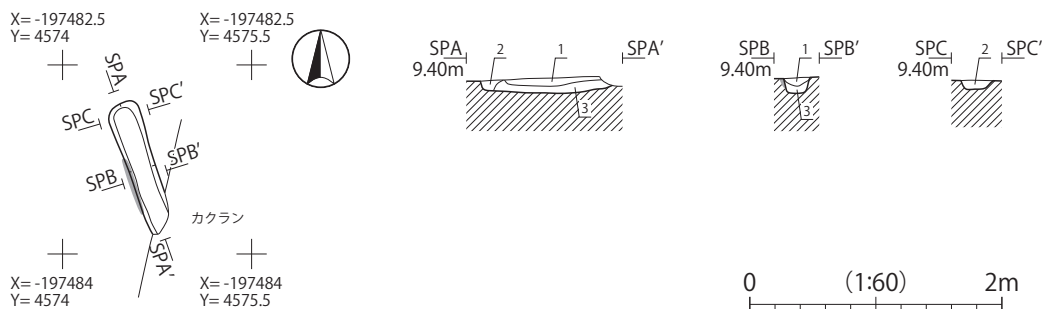
【方向】 N-19°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。褐色シルトを主体とする。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ105cm、幅21～25cm、深さ6～11cmを測り、底面は中央部に向かってわずかに下がる。

【出土遺物】 カマド煙道部の堆積土から土師器・須恵器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI430との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。



SI429 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(10mm程度)・IV層土斑状に多量含む。

第153図 SI429 竪穴住居跡

SI430 竪穴住居跡 (第154～156図)

【位置・確認】 調査区南東端部の109・117区に位置する。東半部は調査区外へ延び、北東隅および南西部はSI425・432・529、西壁の大部分と北壁の一部はSK357の重複により失われている。

【重複】 SI422・425 A・429・432・529より古く、Pit1751より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸759cm、短軸487cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-37°-Wを測る。

【堆積土】 17層に分層した。1～7層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土、9～12層はカマド堆積土である。13・14層はカマド袖構築土、15層はカマド掘り方埋土、16・17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～3・5)、掘り方で3基(P6～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、残存値も含め長軸65～83cm、短軸53～72cm、深さ47～58cmを測る。P2の堆積土下半で、径30cm程度の柱痕跡を確認した。柱痕跡上層からは扁平な自然礫が1点出土した。P5～8は補助柱穴と考えられ、P5・6はP1とP3の間に、P7・8はP2の西側に配置されている。P5の堆積土中からは扁平な自然礫が1点出土した。P6の堆積土下半で、径14cm程度の柱痕跡を確認した。P7の底面で径18cm程度の変色範囲を、P8で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅10～24cm、深さ3～15cmを測る。

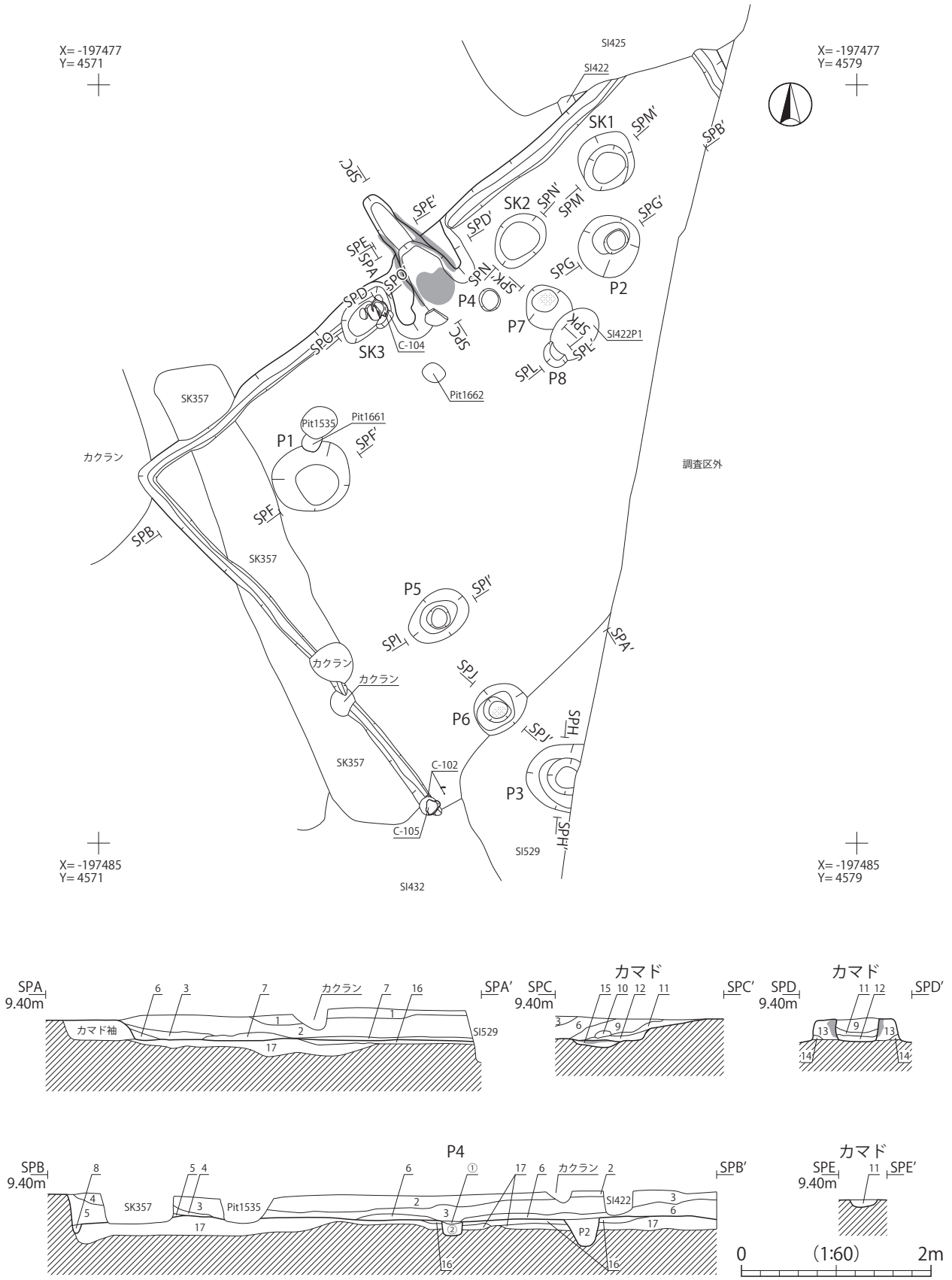
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ69cm、幅30cm、西袖は長さ77cm、幅39cmを測る。東袖の前方にはP4が位置し、堆積土に焼土ブロックを多量含むことから、芯材の抜き取り痕であった可能性が高い。この場合、袖はP4付近まで延びていたと考えられる。西袖先端部の構築土からは、芯材とみられる被熱した板状の自然礫が出土した。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き89cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、奥壁から26cm前方に長径38cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ64cm、幅19～31cm、深さ1～5cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1・2はカマドと北東隅の間、SK3はカマドの西脇に掘り込まれている。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸58cm、短軸58cm、深さ49cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸48cm、深さ41cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸60cm、短軸38cm、深さ19cmを測る。

【掘り方】 深さ6～22cmを測り、西半部が一段低く不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器が出土し、土師器坏3点・甕2点を掲載した(第156図)。1～3は土師器坏で、1は北武蔵型土師器の特徴を持つ。厚手の半球形を呈し、口縁部は薄く精巧なつくりで「S」字状に短く直立する。色調は橙色～淡橙色を呈し、胎土はやや粗く、多量の細砂、少量の2mm以下の赤色粒子を含む。2・3は、ともに口縁部と体部の境に段を持つ。2の底部は丸底、3は扁平な丸底である。2の口縁部は直線的、3は内湾気味にともに外傾する。3は内面に黒色処理が施されているが、2は認められない。4・5は土師器甕である。4は砲弾形を呈し、口縁部は外反する。5は球胴形を呈し、口縁部は直線的に外傾する。ともに頸部に段を持つ。

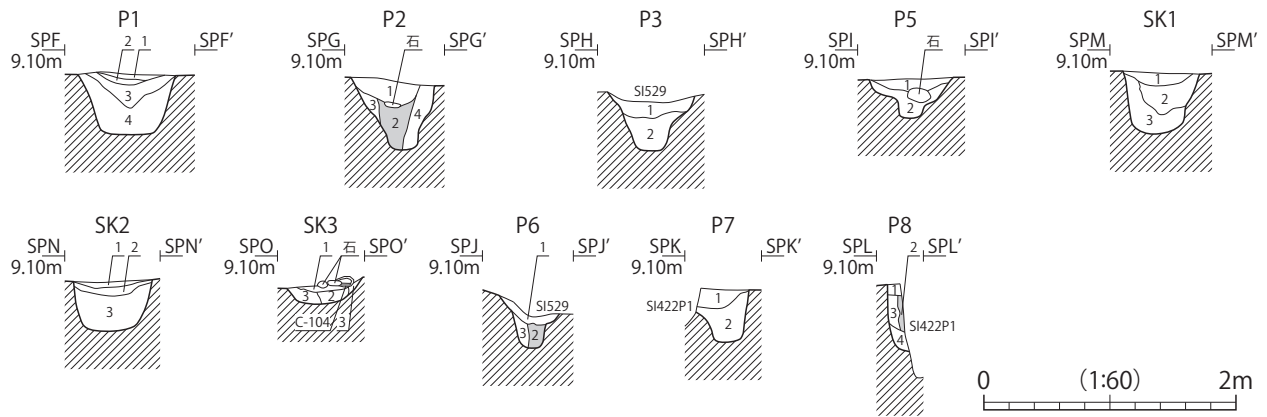
【時期】 SK2・3から出土した土師器坏・甕(第156図2・4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。



第154図 SI430 竪穴住居跡(1)

SI430 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・黒褐色シルトブロック(5～100mm程度)多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	5	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
周溝堆積土	8	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～60mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	10	5YR5/8 明赤褐色	シルト	※焼土塊
	11	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	12	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・灰多量含む。
カマド袖構築土	13	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	14	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
カマド掘り方埋土	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・灰白色粘土(10mm程度)多量含む。
	17	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。



SI430 施設堆積土註記表

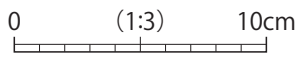
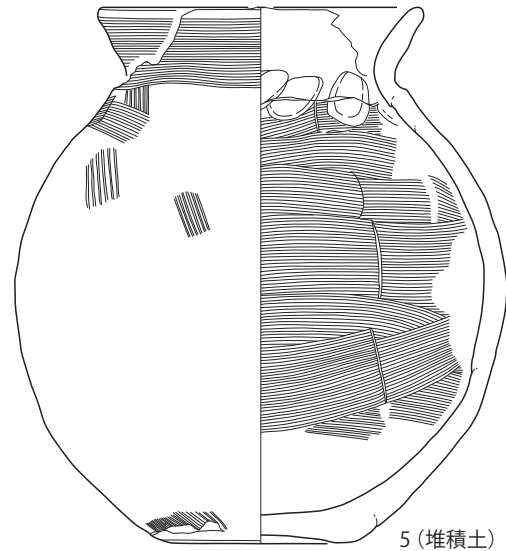
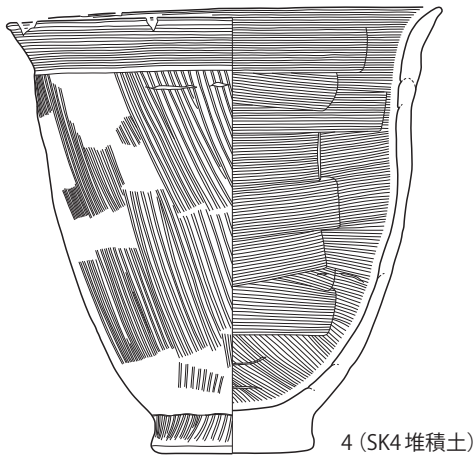
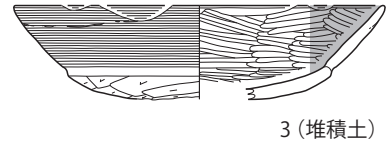
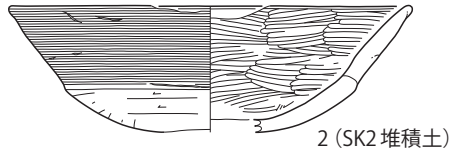
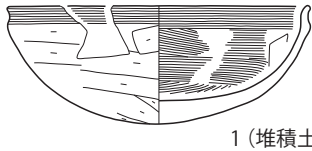
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト帯状に少量含む。
P4	①	10YR2/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	②	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P6	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	
P7	1	10YR4/4 褐色	シルト	黒褐色シルト斑状に少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	炭化物上面を含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。

第155図 SI430 竪穴住居跡(2)

SI430 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	83×72	47	主柱穴
P2	円形	65×62	58	主柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	(74)×(53)	(48)	主柱穴
P4	円形	24×22	16	カマド袖芯材抜き取り痕か
P5	楕円形	67×48	34	補助柱穴
P6	楕円形	58×(48)	46	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	(48)×47	40	補助柱穴
P8	(円形)	27×(20)	53	補助柱穴 柱痕跡
SK1	隅丸方形	58×58	49	貯蔵穴
SK2	楕円形	63×48	41	貯蔵穴
SK3	隅丸長方形	60×38	19	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-102	SI430	堆積土	土師器	坏	11.8	—	4.7	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラスリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラテ	関東系 角閃石中量含む 内面摩滅	328
2	C-103	SI430 SK2	堆積土	土師器	坏	(15.8)	—	(5.0)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラスリ	ヘラミガキ	外面体部・内面摩滅	328
3	C-415	SI430	堆積土	土師器	坏	(14.6)	—	(3.7)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理(部分的) 角閃石少量含む	328
4	C-104	SI430 SK4	堆積土	土師器	甕	16.9	5.8	17.7	口縁：ヨコテ 胴部：ナメ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	底部木葉痕 角閃石微量含む 外面やや摩滅	328
5	C-105	SI430	堆積土	土師器	甕	(12.7)	6.6	21.2	口縁：ヨコテ 胴部：ナメ→ヘラテ 底部：ヘラスリ	口縁：不明 頸部：北ノ杵 胴～底部：ヘラテ	底部輪台状・線刻あり 角閃石微量含む 内外面摩滅	328

第156図 SI430 竪穴住居跡出土遺物

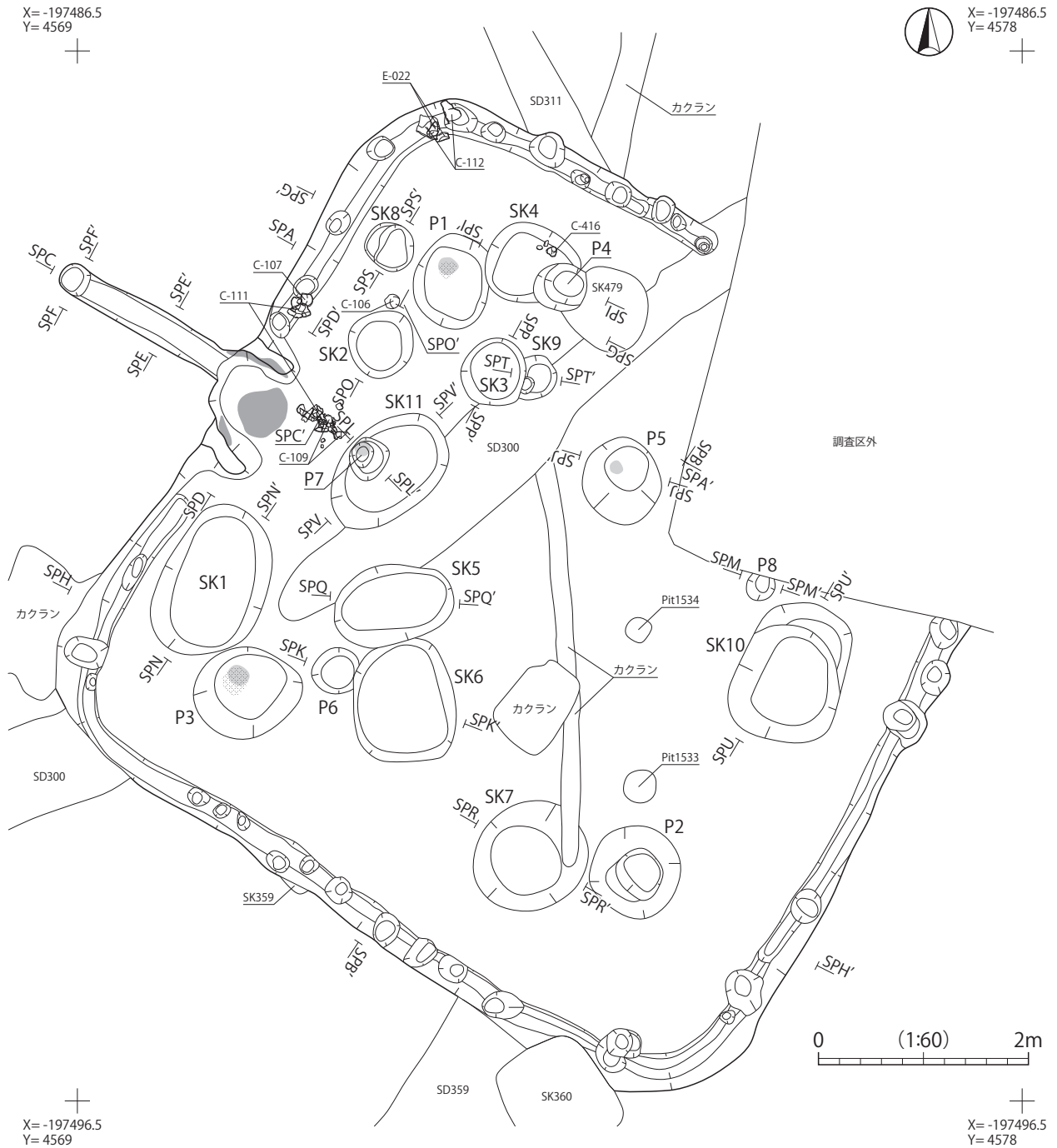
SI431 竪穴住居跡 (第157～160図)

【位置・確認】 調査区南東端部の124・125・132・133・141区に位置する。北東部は調査区外へ延びる。

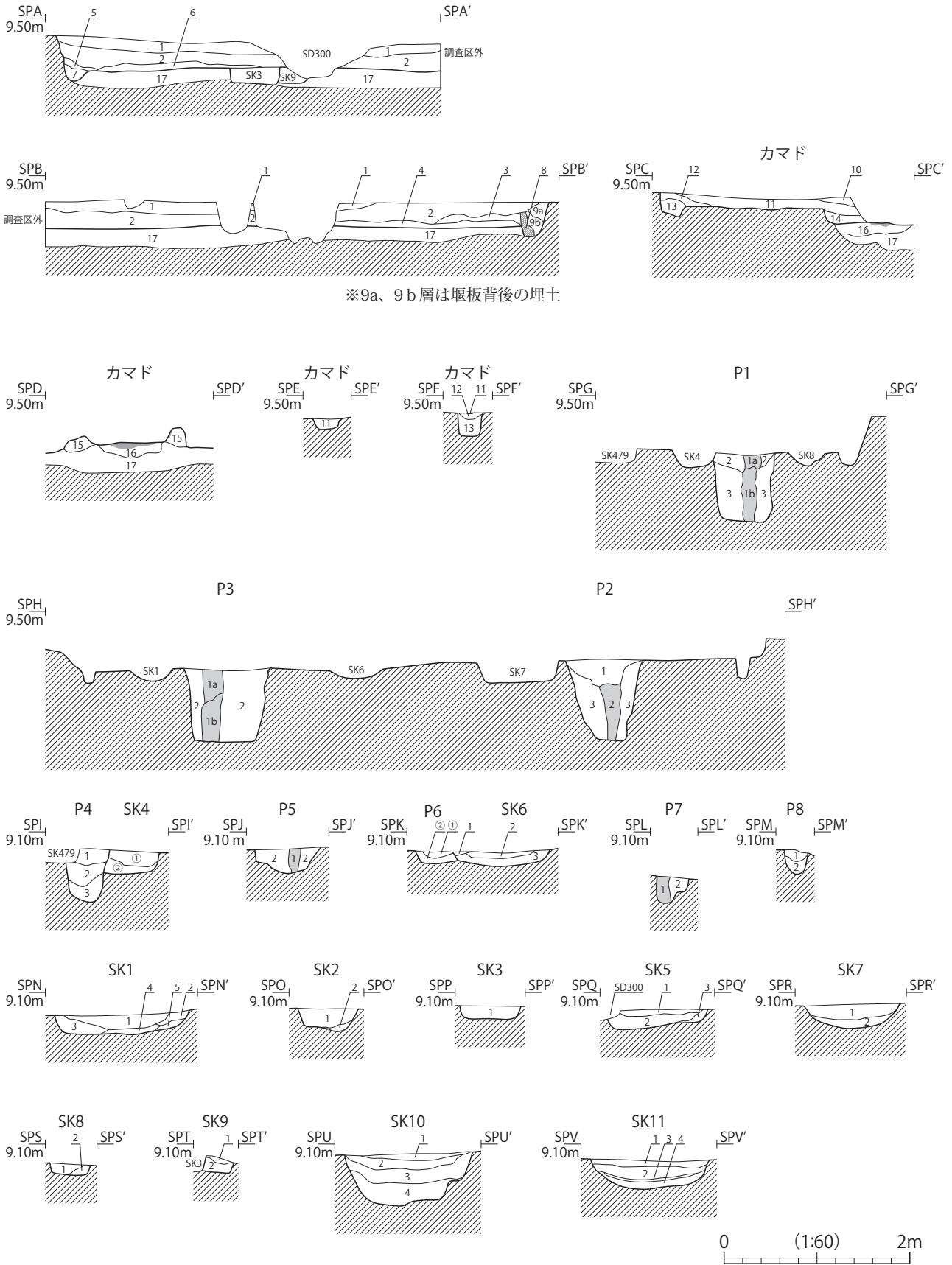
【重複】 SD311・359, SK479より古く, SI432・433・434・525・530, SX50より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸736cm、短軸736cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-59°-Wを測る。



第157図 SI431 竪穴住居跡 (1)



第158図 SI431 竪穴住居跡(2)

SI431 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
周溝堆積土	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
堰板痕跡	8	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
堰板背後の埋土	9a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	9b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	11	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土粒少量含む。
	12	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
カマド袖構築土	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
カマド掘り方埋土	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・灰多量含む。
住居掘り方埋土	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI431 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1a	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)少量含む。
P6	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P8	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(10mm程度)・骨片微量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
SK3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK4	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	②	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
SK5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
SK6	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK7	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK8	1	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色粘土(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
SK9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)多量含む。
SK10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・焼土斑状に微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～100mm程度)微量含む。
SK11	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～30mm程度)少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI431 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	87×74	78	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	86×85	88	主柱穴 柱痕跡
P3	楕円形	104×87	80	主柱穴 柱痕跡
P4	円形	(49)×46	58	補助柱穴
P5	円形	77×76	30	補助柱穴 柱痕跡
P6	円形	47×44	14	補助柱穴
P7	円形	39×34	28	性格不明 柱痕跡
P8	(円形)	27×(25)	26	性格不明
SK1	楕円形	150×101	26	貯蔵穴
SK2	円形	63×61	25	旧貯蔵穴→カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK3	円形	66×(63)	14	カマド関連土坑
SK4	楕円形	(85)×77	23	カマド関連土坑
SK5	楕円形	116×(76)	24	カマド関連土坑
SK6	隅丸方形	(113)×97	22	カマド関連土坑
SK7	円形	112×103	26	カマド関連土坑
SK8	円形	48×43	14	旧貯蔵穴→カマド関連土坑
SK9	(楕円形)	(45)×(33)	25	カマド関連土坑
SK10	隅丸長方形	136×104	60	性格不明土坑
SK11	楕円形	128×(85)	33	性格不明土坑

【堆積土】 大別で17層に分層した。1～6層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8層は周溝内に埋設された堰板痕跡とみられるが、上部は失われている。9層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。10～14層はカマド堆積土である。15層はカマド袖構築土、16層はカマド掘り方埋土、17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で42cmを測る。

【床面】 中央部が高まり、にぶい黄橙色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)、掘り方で2基(P7・8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3の規模は、長軸86～104cm、短軸74～87cm、深さ78～88cmを測る。P1・3の堆積土とP2の堆積土下半で、径18～23cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP4～6の配置は不規則で、P7・8の性格は不明である。P5の堆積土とP7の堆積土下半で、径12～14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅13～23cm、深さ7～22cmを測る。各周溝の底面で、小規模なピットを多数検出した。一部のピットは壁面から掘り込まれており、壁材構築に伴う杭の痕跡と考えられる。

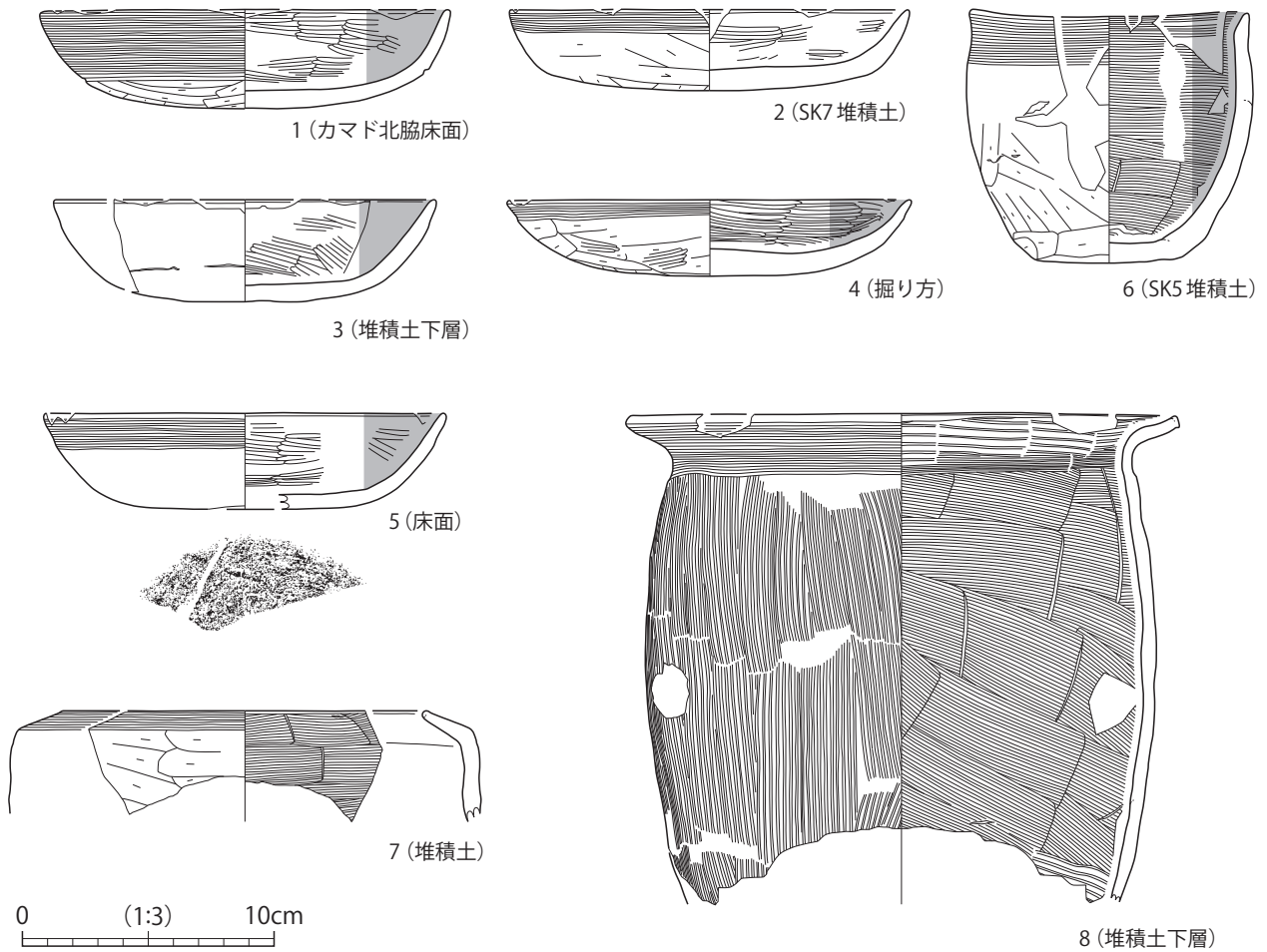
【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ59cm、幅34～51cm、北袖は長さ55cm、幅27～38cmを測る。燃烧部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側20cm程度が壁外に張り出す。規模は奥行き82cm、幅88cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、焚口付近に長径52cm程度の焼面がみられる。奥壁は直立気味に17cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ175cm、幅26～34cm、深さ12～27cmを測り、底面は概ね平坦で、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で11基(SK1～11)の土坑を検出した。SK7・10を除き西半部に位置する。SK1はカマドと南西隅の中間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。SK2～9は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑とみられるが、SK2・8はカマドと北西隅の中間に位置することから古い貯蔵穴の可能性もある。

SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸150cm、短軸101cm、深さ26cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸63cm、短軸61cm、深さ25cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸66cm、短軸63cm、深さ14cmを測る。SK4の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸85cm、短軸77cm、深さ23cmを測る。SK5の平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸116cm、短軸76cm、深さ24cmを測る。SK6の平面形は隅丸方形を呈し、規模は残存値で長軸113cm、短軸97cm、深さ22cmを測る。SK7の平面形は円形を呈し、規模は長軸112cm、短軸103cm、深さ26cmを測る。SK8の平面形は円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸43cm、深さ14cmを測る。SK9の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸45cm、短軸33cm、深さ25cmを測る。

【掘り方】 深さ10～27cmを測り、カマド前を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

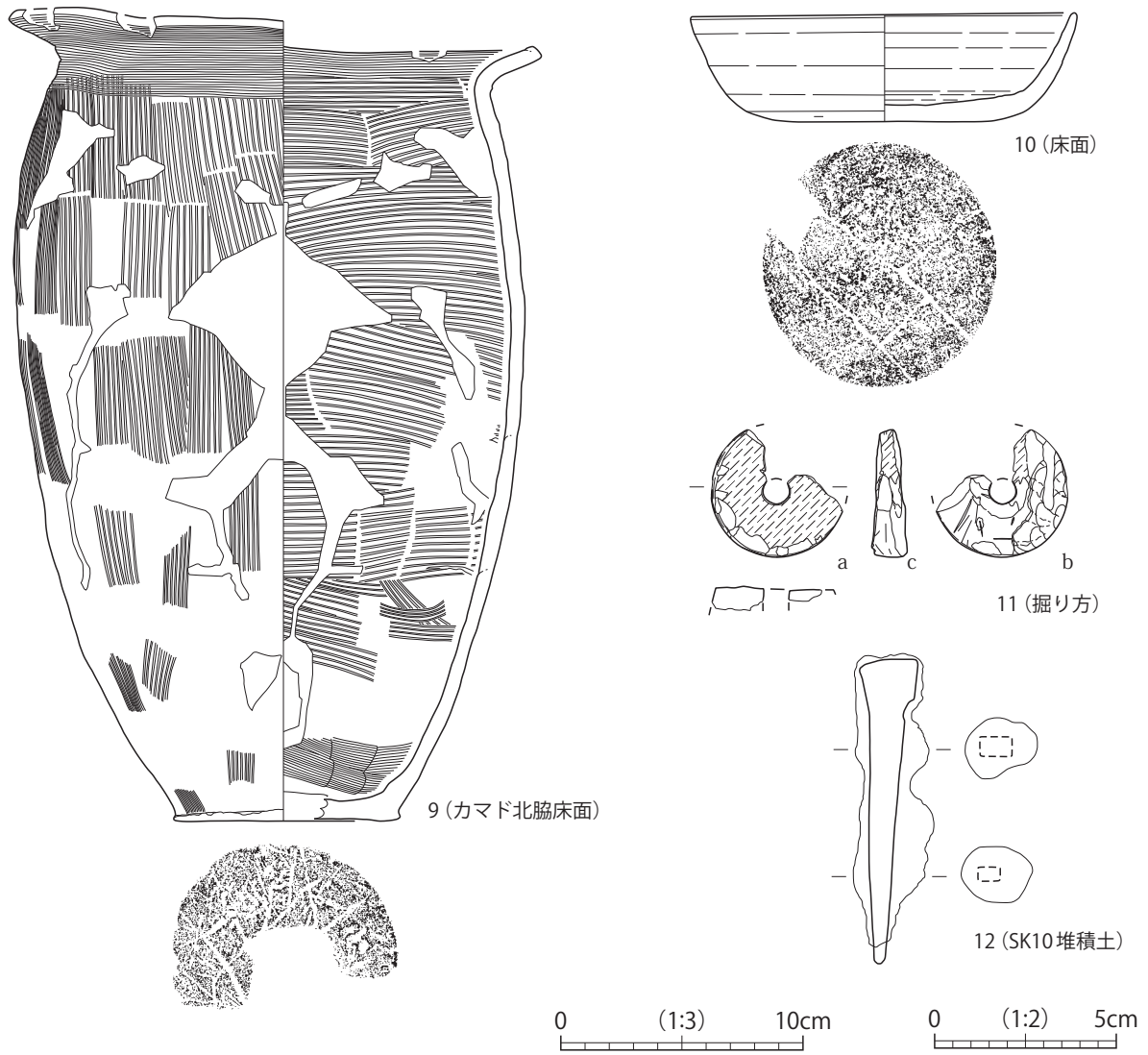
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器
 坏5点・鉢2点・甕2点、須恵器坏1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第159・160図)。1・9はカマド北
 脇の床面から出土した。1～5は土師器坏で、2・4は盤状である。1は口縁部と体部の境に段を持ち、口縁部で内湾
 気味に外傾する。2は平底風丸底の底部で、口縁部は内湾気味に外傾する。3～5は口縁部と体部の境に弱い稜を持
 つ。3・5の口縁部は直線的に外傾、4は内湾気味に外傾する。5は非ロクロ土師器ではあるが、底部に回転糸切りで
 切り離された痕跡が認められる。いずれも内面に黒色処理が施されているが、2は二次被熱により消失している可
 能性がある。6・7は土師器鉢である。6は大きめの平底から緩やかに内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-107	SI431 カマド北脇	床面	土師器	坏	(16.1)	—	3.9	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	328
2	C-108	SI431 SK7	堆積土	土師器	坏	(15.8)	—	3.2	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理か 内外面二次 被熱による赤色化・摩滅	328
3	C-416	SI431	堆積土下層	土師器	坏	(14.9)	—	(4.0)	不明	ヘラミガキ	内面黒色処理 角閃石微量含 む 内外面摩滅	328
4	C-106	SI431	掘り方	土師器	坏	(16.0)	—	3.0	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面黒色処理	328
5	C-109	SI431	床面	土師器	坏	(15.8)	—	(3.8)	口縁：ヨコテ 体部：不明 底部：回転糸切り	ヘラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	328
6	C-110	SI431 SK5	堆積土	土師器	鉢	10.9	5.8	10.1	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラテ	内面黒色処理 内外面摩滅 外面二次被熱による赤色化	329
7	C-417	SI431	堆積土	土師器	鉢	(14.4)	—	(4.4)	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	口縁：北側 胴上～中位：ヘラテ 体部：ヘラテ	角閃石少量含む	329
8	C-112	SI431	堆積土下層	土師器	甕	21.6	—	(19.5)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラミ	口縁：ヘラミ 胴上～中位：ヘラテ 胴下位：ヘラミ		329

第159図 SI431 竪穴住居跡出土遺物(1)

処理が施されている。7は体部が直立し、口縁部が屈曲して直線的に内傾する。焼成は良好で、硬く締まる。8・9は土師器甕で、胴部最大径が上位に位置する長胴形である。9は平底で端部が張り出す形状である。8の口縁部は内湾気味、9が直線的に外傾し大きく開く。ともに器壁が薄く、焼成は良好で硬く締まる。10は須恵器環である。平底から丸味を持って立ち上がり、口縁部に向かって内湾気味に外傾する。底の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整が施されているため不明である。色調は灰白色を呈し、胎土はやや精良で、細砂と少量の白色粒子を含む。焼成はやや不良で軟質である。11は石製の紡錘車で、a～c面に節理面がみられる。石材は粘板岩である。12は棒状鉄



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
9	C-111	SI431 か外・北脇	床面	土師器	甕	21.2	8.9	33.5	口縁：かメ→ヨカデ 胴部：かメ	口縁：ヨカデ 胴部：かメ 底部：へラデ	底部木葉痕 内外面摩滅	329
10	E-022	SI431	床面	須恵器	環	16.0	9.0	4.5	口調整 体下位～底部：回転ヘラケズリ	口調整		329
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
11	Kd-014	SI431	掘り方	石製品	紡錘車	3.7	(2.8)	1.0	9.1	粘板岩	溝状痕 (b面) 線条痕 (b・c面) 孔径0.7cm 節理 (a～c面)	329
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
12	N-010	SI431 SK10	堆積土	金属製品	棒状鉄製品	8.4	0.9	0.6	37.4	完形 鉄釘か	329	

第160図 SI431 竪穴住居跡出土遺物 (2)

製品である。上端部が肥厚することから、未使用の鉄釘と考えられる。

【時期】 床面とSK5・7から出土した土師器杯・甕、須恵器杯(第159・160図1・2・5・6・9・10)の特徴から、6期(8世紀前半)と考えられる。

SI432 竪穴住居跡(第161・162図)

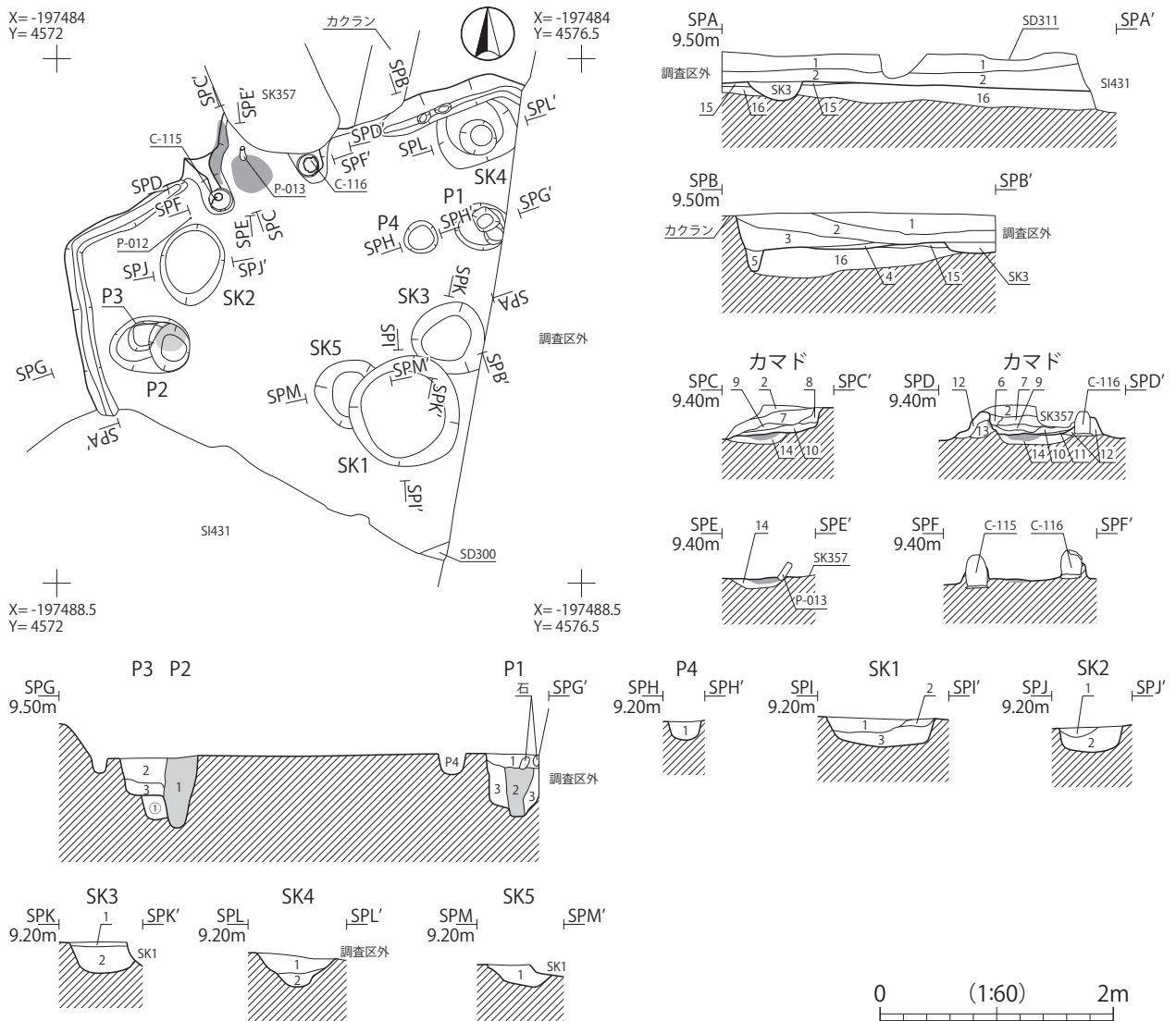
【位置・確認】 調査区南東端の117・125区に位置する。南東部は調査区外へ延びる。南西部はSI431、カマド煙道部と燃烧部、東袖の一部はSK357の重複により失われている。

【重複】 SI431、SD311より古く、SI430・529・530より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸425cm、短軸375cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-19°-Wを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1~4層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5層は周溝堆積土、6~11層はカマド堆積土である。12・13層はカマド袖構築土、14層はカマド掘り方埋土、15・16層は住居掘り方埋土である。



第161図 SI432 竪穴住居跡

SI432 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
周溝堆積土	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量、IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	9	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 多量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度)・灰多量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度)・炭化物粒・灰多量含む。
カマド袖構築土	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。
カマド掘り方埋土	14	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm 程度) 微量含む。
住居掘り方埋土	15	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量含む。上面に炭化物層。
	16	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

SI432 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量含む。
P3	①	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (10 ~ 20mm 程度)・焼土ブロック (10 ~ 20mm 程度) 多量、炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
SK1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量、IV層土斑状に少量含む。
SK3	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 斑状、焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (10mm 程度)・炭化物ブロック (10mm 程度) 微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm 程度) 微量含む。
SK5	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

SI432 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	(42) × 40	50	主柱穴 柱痕跡
P2	楕円形	68 × 49	56	主柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	(35) × (25)	53	旧主柱穴
P4	円形	29 × 28	14	カマド関連土坑
SK1	円形	94 × 93	27	カマド関連土坑

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	楕円形	70 × 56	24	カマド関連土坑
SK3	円形	66 × 62	24	カマド関連土坑
SK4	隅丸長方形	68 × 48	30	貯蔵穴
SK5	(円形)	57 × (56)	19	性格不明土坑

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で3基 (P1 ~ 3) を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられる。P2はP3と同位置で重複することから、柱穴が造り替えられた可能性が高い。規模は残存値も含め長軸35 ~ 68cm、短軸25 ~ 49cm、深さ50 ~ 56cmを測る。P1の堆積土下半とP2の堆積土で、径25 ~ 26cm程度の柱痕跡を確認した。

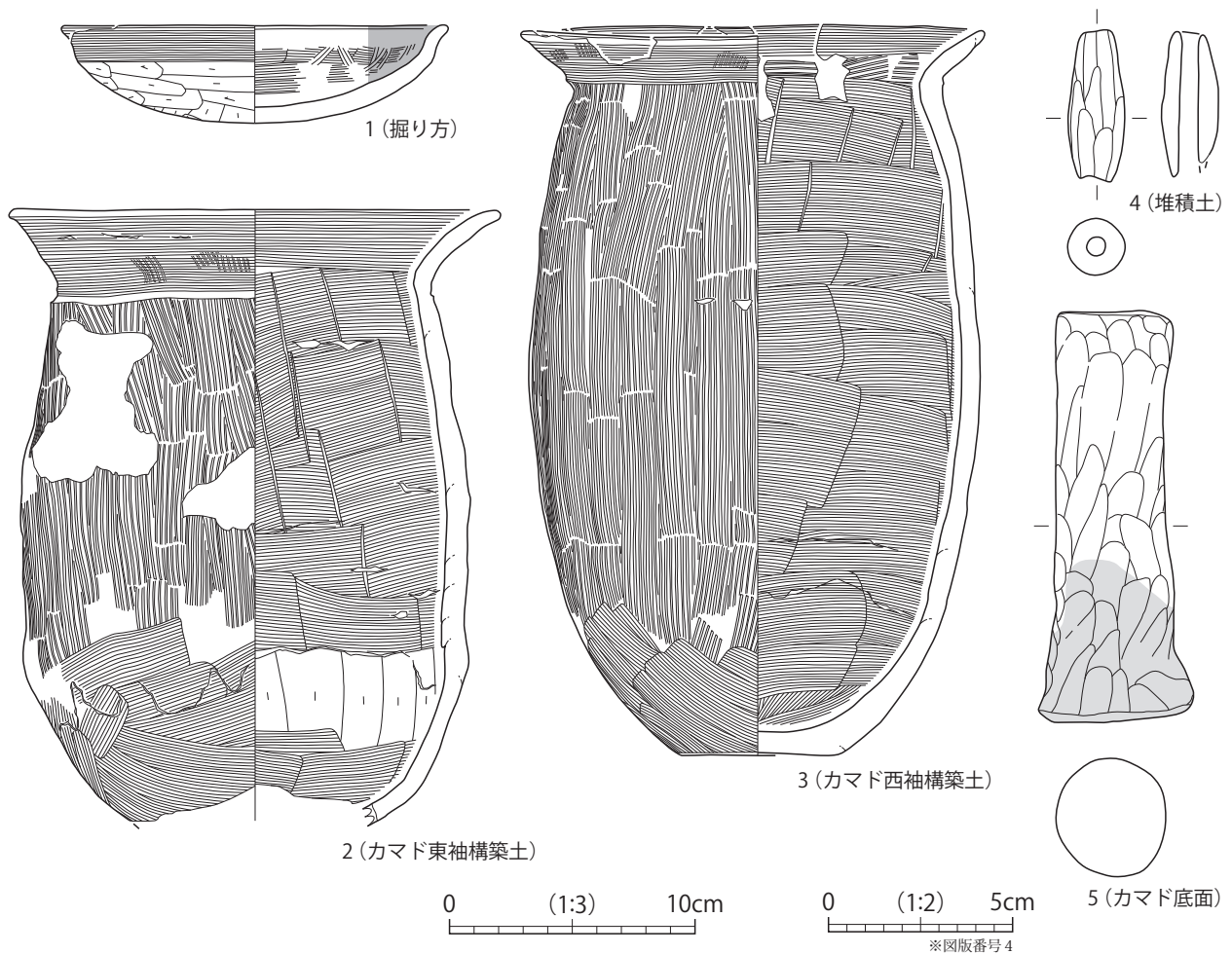
【周溝】 検出範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14 ~ 16cm、深さ2 ~ 14cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SK357の重複により燃焼部の奥壁から焚口付近にかけての東半部と、煙道部の全体が失われている。袖は壁面に対して直交していたと考えられ、東袖の規模は残存値で長さ27cm、幅19 ~ 37cm、西袖は長さ51cm、幅25cmを測る。倒置された土師器甕 (第162図2・3) が両袖の芯材として先端部に埋設されている。

燃焼部は北側が壁外に張り出し、南側は壁内に位置する。規模は残存値で奥行き82cm、幅73cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径36cm程度の焼面がみられ、焼面の中央部奥壁側には土製の支脚が設置されている。奥壁は直立気味に17cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で土坑4基(SK1～4)、ピット1基(P4)、掘り方で土坑1基(SK5)を検出した。SK1・3・5は検出範囲の南部、SK2はカマドと北西隅の中間、SK4は北東隅に位置する。SK1～3は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、SK4は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸94cm、短軸93cm、深さ27cmを測る。SK2の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸56cm、深さ24cmを測る。SK3の平面形は円形を呈し、規模は長軸66cm、短軸62cm、深さ24cmを測る。SK4の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸68cm、短軸48cm、深さ30cmを測る。P4は小型で浅く、焼土を含むことからカマド関連の土坑と考えられる。

【掘り方】 深さ10～20cmを測り、底面は概ね平坦である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-114	SI432	掘り方	土師器	環	(15.6)	—	4.0	口縁：ヨサテ 体部：ヘラスリ	口縁：不明 体部：ヘサテ→ヘラミキ(放射状か)	内面黒色処理・やや摩滅 骨針微量含む	329
2	C-116	SI432 カマド東袖	構築土	土師器	甕	19.7	—	(24.9)	口縁：ハメ→ヨサテ 胴上～中位：ハメ 胴下位：ヘサテ	口縁：ヨサテ 胴上～中位：ヘサテ 胴下位：ヘラスリ→ヘサテ		330
3	C-115	SI432 カマド西袖	構築土	土師器	甕	18.6	6.4	29.7	口縁：ハメ→ヨサテ 胴上～中位：ハメ 胴下位：ヘサテ	口縁：ハメ→ヨサテ 胴部：ヘサテ	底部周縁部摩滅	329

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
4	P-012	SI432	堆積土	土製品	土錘	(4.1)	1.6	1.6	7.0	片 孔径0.5cm	329
5	P-013	SI432 カマド	底面	土製品	支脚	16.8	4.2	4.3	589.9	片 下部被熱による変色あり 底面にU字状の圧痕	329

第162図 SI432 竪穴住居跡出土遺物

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器環1点・甕2点、土製品2点を掲載した(第162図)。2・3はカマド袖の芯材として転用されていたものであり、2が東袖、3が西袖から出土した。5はカマド底面から原位置を保った状態で出土した。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は「S」字状に外傾する。内面に黒色処理が施されている。内面は摩滅しているため調整が不明瞭な部分もあるが、ヘラナデ後放射状のヘラミガキが施されていたと考えられる。色調は灰褐色～橙色を呈し、胎土は粗く、多量の3mm以下の砂礫、微量の海綿骨針を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。2・3は土師器甕である。2は胴部下位に最大径が位置する下膨れで、3は胴部最大径が中位に位置する張りの弱い楕円形である。2の口縁部は長く外傾、3は直線的に外傾する。ともに頸部に段ないし稜を持つが、3は頸部の括れからやや上方に形成される。4は管状の土錘で、外面にナデが施されている。5はカマド支脚で、円柱状を呈し、下端部が直線的に広がる。下部は被熱により変色している。外面にはナデが施されている。

【時期】 カマドの袖材として使用されていた土師器甕(第162図2・3)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)の可能性がある。

SI433 竪穴住居跡(第163・164図)

【位置・確認】 調査区南東端の132・133・140・141区に位置する。東部はSI431の重複により失われ、北壁東半部はSD300の重複により上部が失われている。残存範囲およびSI431の重複範囲内では、柱穴・周溝・カマドなどの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI431より古く、SI434より新しい。

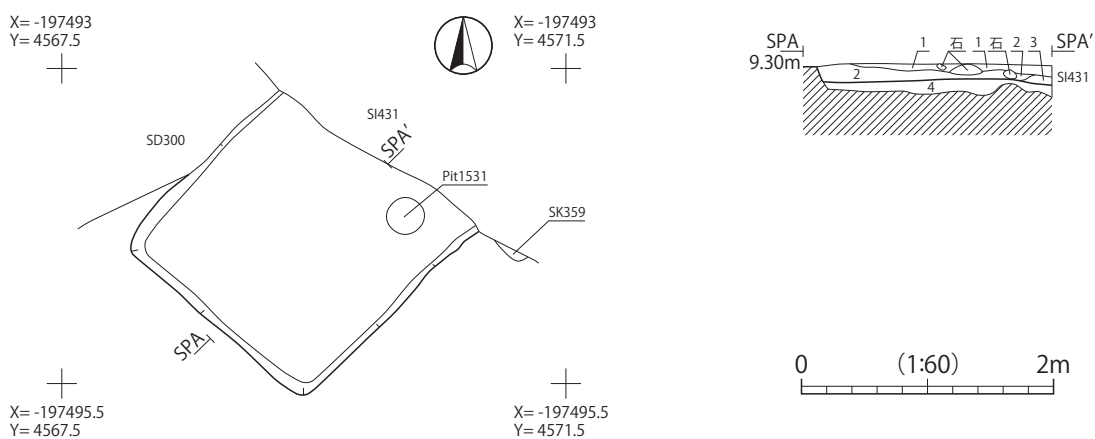
【規模・形態】 確認された規模は長軸198cm、短軸194cmを測り、平面形は長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-47°-Eを測る。

【堆積土】 4層に分層した。1～3層は暗色シルトの住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で16cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。



SI433 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土斑状、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

第163図 SI433 竪穴住居跡

【掘り方】 深さ7cmを測り、底面はわずかに起伏する。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器が出土し、土師器環1点・甕1点を掲載した(第164図)。1は土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に段を持ち、不連続の沈線状の段が認められる。黒色処理は認められない。2は土師器甕で、頸部に段を持つ。胴部は厚みのある下半から内湾し、口縁部で外反しながら端部に向かって薄くなる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI431・434との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-117	SI433	堆積土	土師器	環	(14.8)	—	4.1	口縁：ヨコテ 体部：ヘラズリ	ヘラミガキ		330
2	C-118	SI433	堆積土	土師器	甕	(14.7)	—	(9.1)	口縁：ヨコテ 胴上半：ハカカ 胴下半：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ → ヘラミガキ	外面摩滅	330

第164図 SI433 竪穴住居跡出土遺物

SI434 竪穴住居跡(第165～167図)

【位置・確認】 調査区南東端部の124・125・132・133区に位置する。SI431の重複により、東部の大部分が失われている。

【重複】 SI431・433・525、SD321より古く、SI435A・435B・530より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸588cm、短軸507cmを測り、平面形は南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-46°-Wを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1～3層は褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～11層はカマド1堆積土である。12層はカマド1袖構築土、13層はカマド1掘り方埋土、14～16層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、2層に分層した。

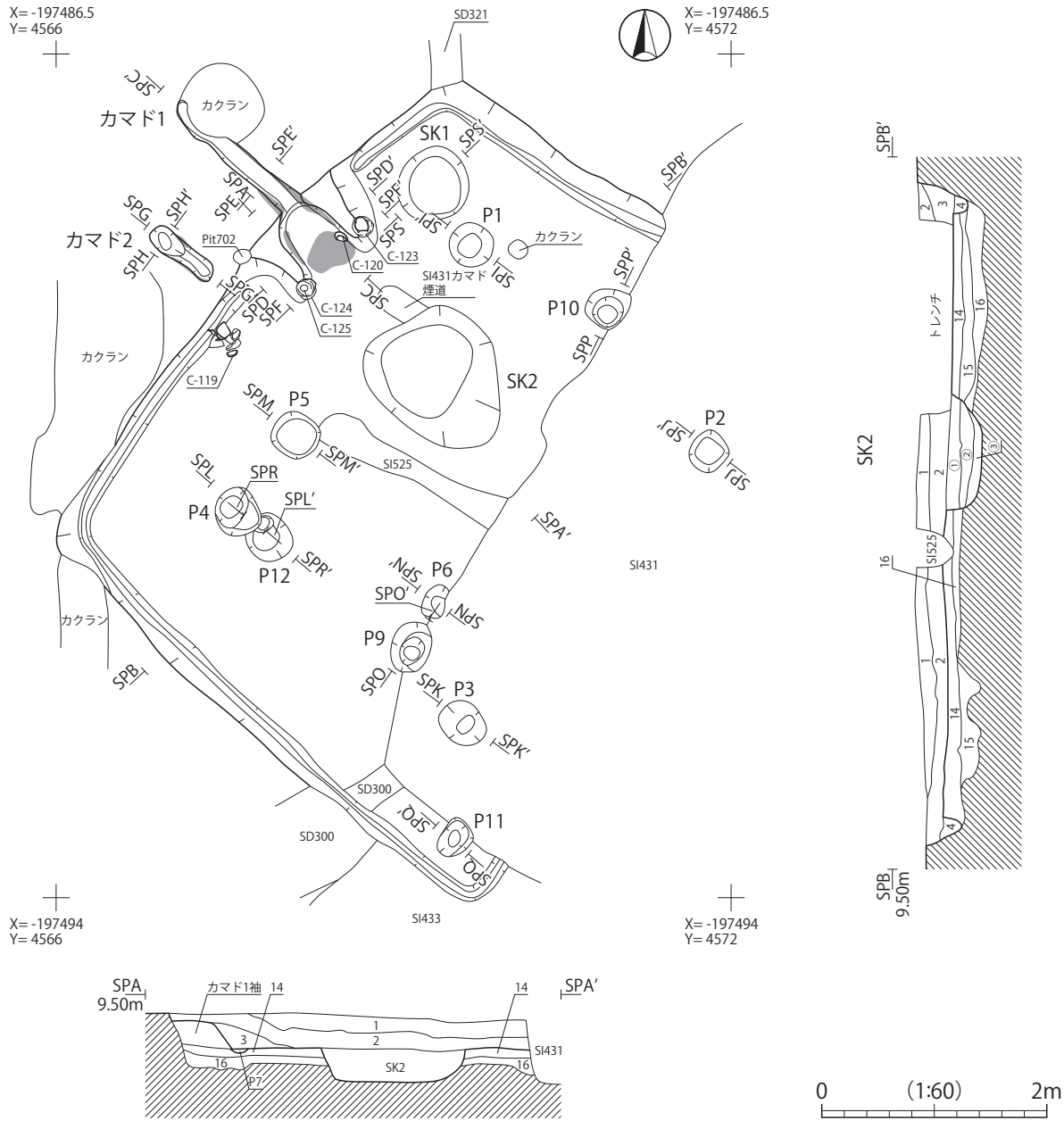
【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI431の重複範囲内で6基(P1～6)、掘り方で4基(P9～12)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸35～43cm、短軸32～39cm、深さ21～66cmを測る。P2・3は上部がSI431の重複により失われているが、底面標高はP1・4と概ね揃っており、いずれも深い柱穴である。補助柱穴と考えられるP5・6・9～12のうち、P5・9・10・12は各主柱穴の中間ないし至近に配置されている。P9で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅10～27cm、深さ3～19cmを測る。

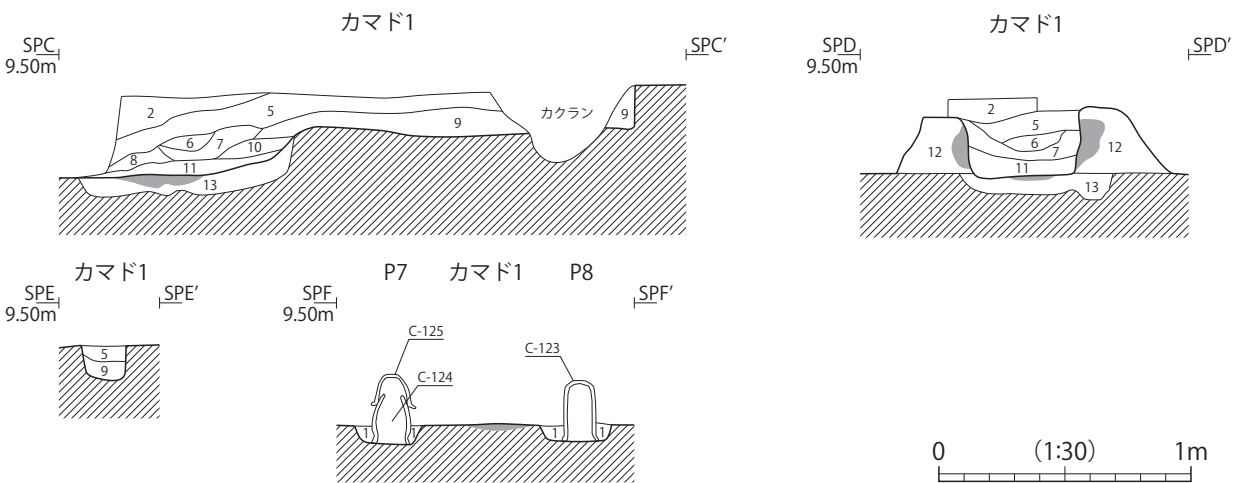
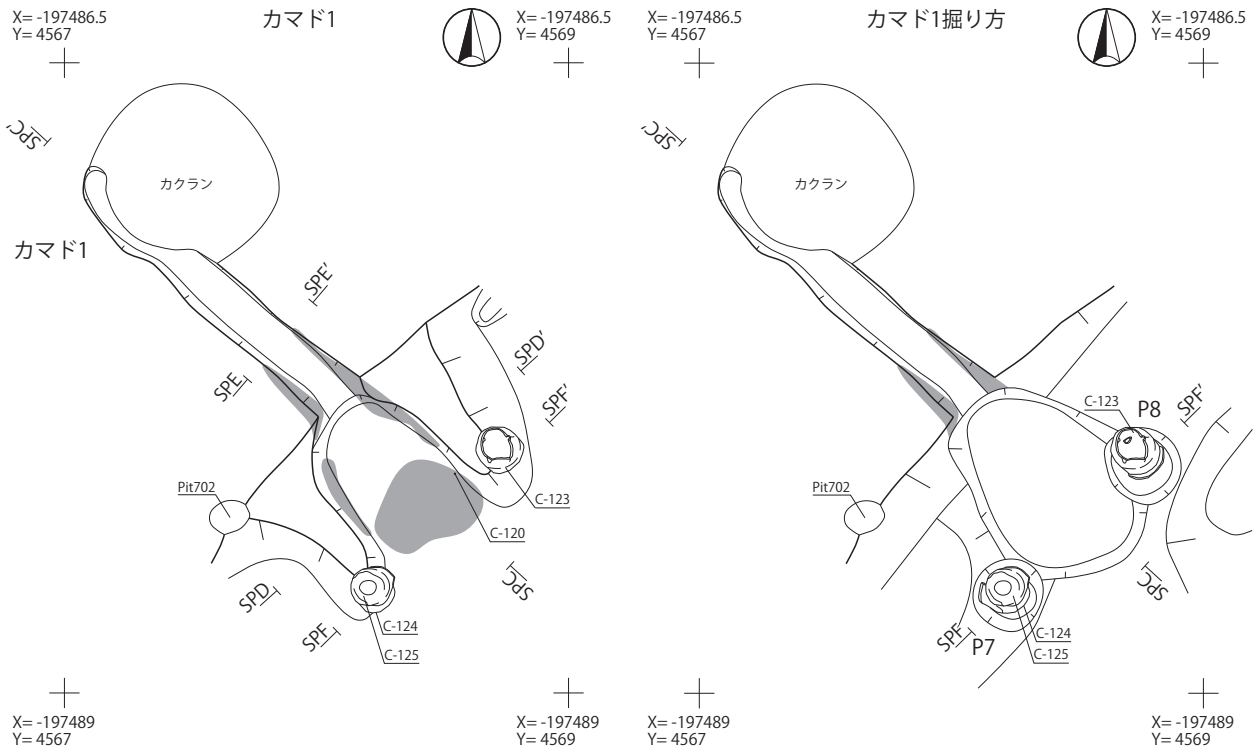
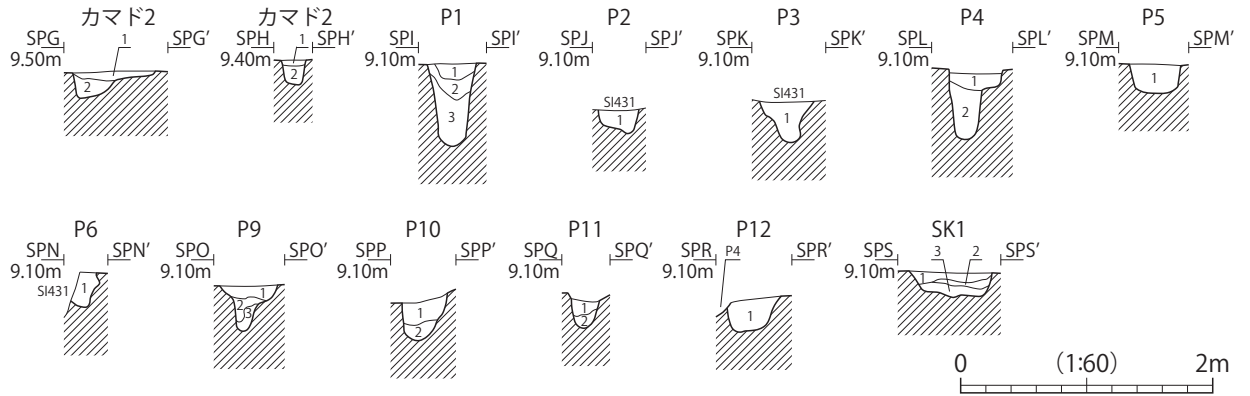
【カマド】 西壁中央付近に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ68cm、幅27



SI434 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~30mm程度)部分的に含む。
カマド1 堆積土	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)少量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	焼土斑状に少量含む。
	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰多量含む。 ※灰層
カマド1 袖構築土	12	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド1 掘り方埋土	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化微粒微量含む。
住居掘り方埋土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	15	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	オリーブ黒色シルト斑状に含む。
	16	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	シルト	オリーブ黒色シルトブロック(10~20mm程度)少量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

第165図 SI434 竪穴住居跡(1)



第166図 SI434 竪穴住居跡(2)

SI434 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に含む。
P2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P4	1	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	IV層土斑状、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P5	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P10	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	IV層土粒多量含む。
P12	1	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、黒褐色シルト帯状に少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
SK2	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。

SI434 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	40×39	66	主柱穴
P2	(隅丸方形)	(35)×(32)	(21)	主柱穴
P3	(楕円形)	(43)×(36)	(33)	主柱穴
P4	円形	43×38	58	主柱穴
P5	隅丸方形	42×39	25	補助柱穴
P6	(円形)	31×(22)	26	補助柱穴
P7	円形	28×27	9	カマド袖芯材埋設穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	円形	31×29	10	カマド袖芯材埋設穴
P9	(円形)	47×(35)	37	補助柱穴
P10	(円形)	37×(36)	37	補助柱穴
P11	楕円形	(33)×(27)	22	補助柱穴
P12	円形	43×39	31	補助柱穴
SK1	円形	65×63	21	貯蔵穴
SK2	楕円形	132×108	31	性格不明土坑

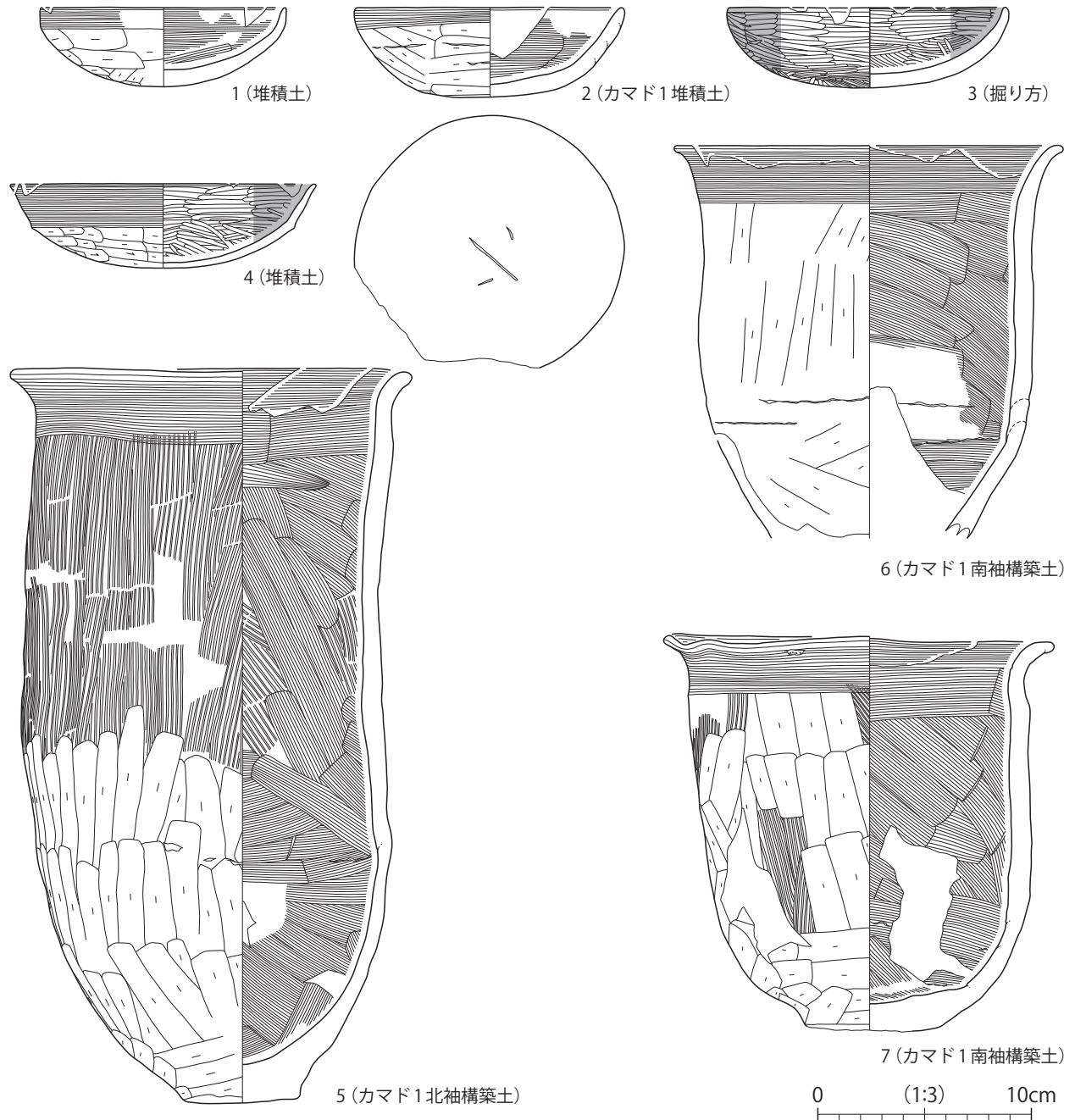
～45cm、北袖は長さ78cm、幅27～48cmを測る。両袖の先端部に倒置された土師器甕が芯材として埋設され、南袖の芯材は2個体を重ねて使用している(第167図6・7)。これらの埋設穴をP7・8とした。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅50cmを測る。底面は奥壁に向かって若干立ち上がり、焚口付近に長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁は外反して13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部の一部が攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ137cm、幅18～23cm、深さ15～18cmを測り、底面は中央部に向かってわずかに下がる。カマド2はカマド1の南側に位置し、煙道部の燃焼部側のみが残存する。煙道部は壁面から直交して延び、規模は残存値で長さ66cm、幅16～20cm、深さ4～20cmを測る。底面は先端部に向かってわずかに下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1はカマドと北西隅の間、SK2はカマドの前に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸63cm、深さ21cmを測る。

【掘り方】 深さ10～22cmを測る。底面は中央部が高まり、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏4点・甕3点を掲載した(第167図)。2はカマドに倒れた状態で出土した。5～7はカマド袖の芯材として転用されており、5が北袖、6・7が南袖から出土した。

1～4は土師器坏である。1は口径11.4cmの小型品で鬼高系土師器の特徴を持ち、2は関東系土師器である。1の口縁部は緩く屈曲して直立し、2は体部から口縁部に向かって外傾する。ともに内面をナデ調整が施されている。1の色調はにぶい橙色～橙色、2は橙色を呈する。胎土はともにやや精良で、砂粒と赤色粒子を含み、2は微量の微細な雲母を含む。3は扁平な丸底から緩く内湾し、口縁部で短く直立する。内外面に黒色処理が施されている。4は薄手で精巧なつくりである。丸底を呈し、口縁部で内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境に外面には明瞭な段、内



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-119	SI434	堆積土	土師器	坏	11.4	—	3.7	口縁：ヨナデ 体部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ	関東系 外面やや摩滅	330
2	C-120	SI434 かまど1	堆積土	土師器	坏	12.5	—	4.2	口縁：ヨナデ 体部：ヘラスリ	ヘラデ	関東系 雲母微量含む 内面 やや摩滅 外面底部 線刻 「小」か	330
3	C-121	SI434	掘り方	土師器	坏	(13.0)	—	3.8	ヘラスリ→ヘラミガキ	ヘラミガキ	内外面黒色処理	330
4	C-122	SI434	堆積土	土師器	坏	(14.2)	—	4.0	口縁：ヨナデ 体部：ヘラスリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	330
5	C-123	SI434 かまど1 北袖	構築土	土師器	甕	18.4	5.4	34.4	口縁：ナメ→ヨナデ 胴上位：ナメ 胴中位～底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ナメ→ヘラデ	角閃石少量含む	330
6	C-124	SI434 かまど1 南袖	構築土	土師器	甕	(17.9)	—	(18.4)	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラデ	角閃石少量含む	330
7	C-125	SI434 かまど1 南袖	構築土	土師器	甕	(17.8)	(6.2)	(18.6)	口縁：ナメ→ヨナデ 胴部：ナメ→ヘラスリ 底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ヘラデ	底部木葉痕か 角閃石少量含 む	330

第167図 SI434 竪穴住居跡出土遺物

面に稜を持つ。5～7は土師器甕で、5は器高が30cmを超える大型品、6・7は中型品である。5・7の胴部は下膨れで、6は胴部最大径が中位に位置し、そこから底部に向かってすぼまる。口縁部はいずれも外反する。7の外面の上半には幅の広いハケメが施され、下半には弱いヘラケズリが施されている。7の口縁部外面の輪積痕にはハケメが残っている。5の色調は橙色、6は淡橙色、7は橙色～褐色を呈する。胎土はいずれも粗く、多量の3mm以下の砂礫を含み、7は赤色粒子を含む。

【時期】 カマド1から出土した土師器坏(第167図2)とカマド1の袖材に転用されていた土師器甕(第167図5～7)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)と考えられる。なお、第167図5の土師器甕内部から採取した炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦606～647年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。

SI435A 竪穴住居跡(第168～172図)

【位置・確認】 調査区南東端部の116・123・124・132区に位置する。東壁のカマド1 燃烧部奥壁と煙道部はSI436や攪乱、北壁東半部とカマド2の大部分はSI528、西壁中央部はSB49の重複により失われている。

【重複】 SI434・436・528、SB49、SD362より古く、SI435B、Pit1753・1773より新しい。本住居跡は、SI435Bの拡張後に相当する。

【規模・形態】 確認された規模は長軸625cm、短軸620cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマド1を基準としてN-45°-Eを測る。

【堆積土】 16層に分層した。1～8層は暗褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド1堆積土である。15層はカマド1袖構築土、16層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、6層に分層した。

【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で55cmを測る。

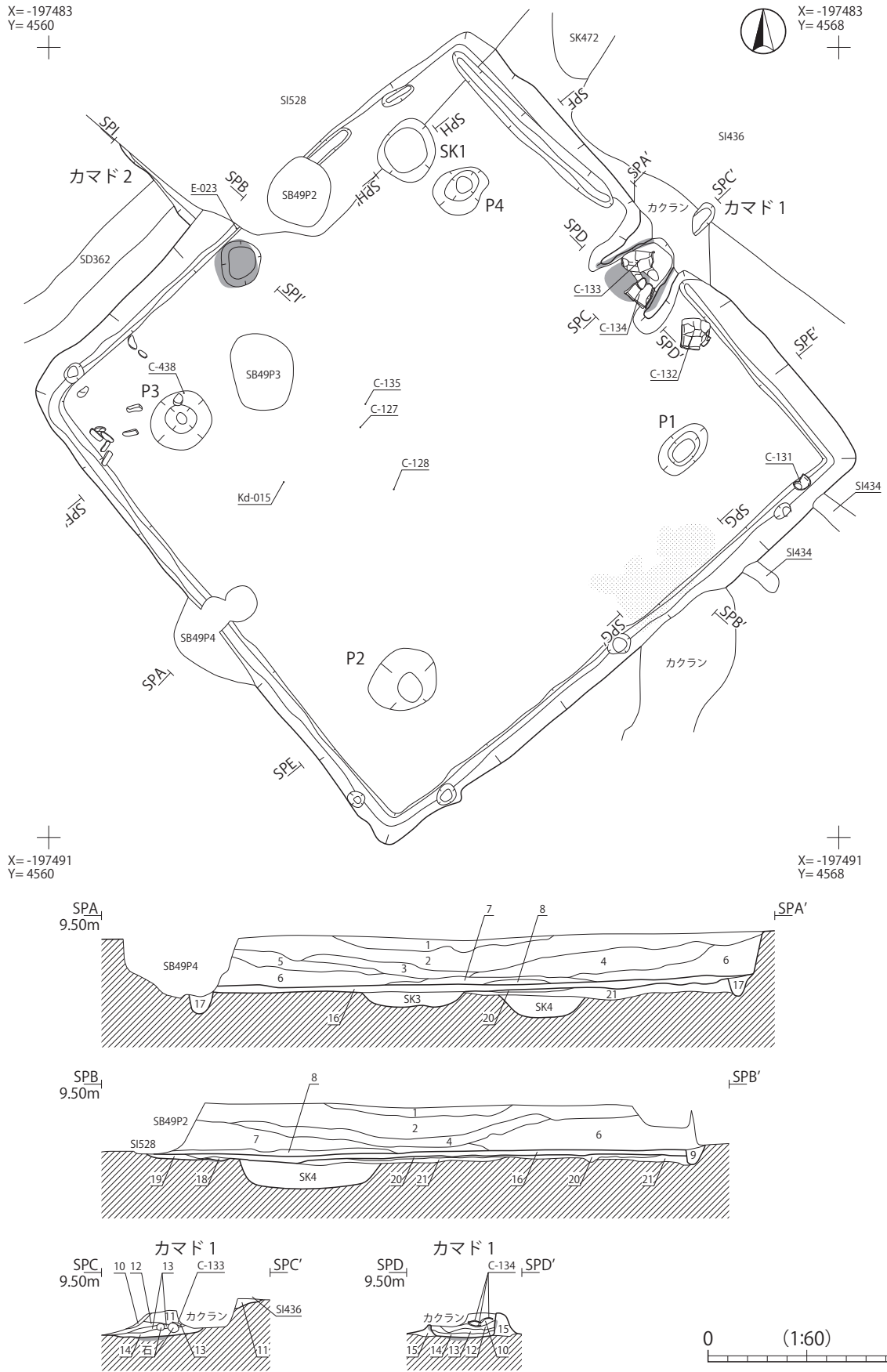
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも支柱穴と考えられ、規模は長軸56～72cm、短軸36～60cm、深さ33～43cmを測る。P4で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 カマド1・2部分と北東隅を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～34cm、深さ2～17cmを測る。底面からは杭材の痕跡とみられるくぼみを、北西隅から南壁にかけて5箇所検出した。

【カマド】 東壁でカマド1を、北壁でカマド2を検出した。カマド1は東壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、SI436の重複や攪乱により、燃烧部の奥壁上部と煙道部の大部分が失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ76cm、幅17～28cm、北袖は長さ79cm、幅18～37cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅45～60cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径46cm程度の焼面がみられる。支脚とみられる被熱した棒状の自然礫が、焼面の奥壁側から倒れた状態で2点出土した。煙道部は燃烧部底面から23cm程度の比高差が認められ、規模は残存値で長さ29cm、幅18cm、深さ3～10cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。カマド2は北壁の中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。燃烧部は袖が失われ、弧状に掘り込まれた燃烧部底面と奥壁のみが残存する。煙道部もSI528の重複により、東側の大部分が失われている。燃烧部は壁内に位置し、底面の範囲から奥行き87cm前後、幅51cm以上と考えられる。底面には長径50cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら緩やかに9cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ108cm、幅5～18cm、深さ4～38cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

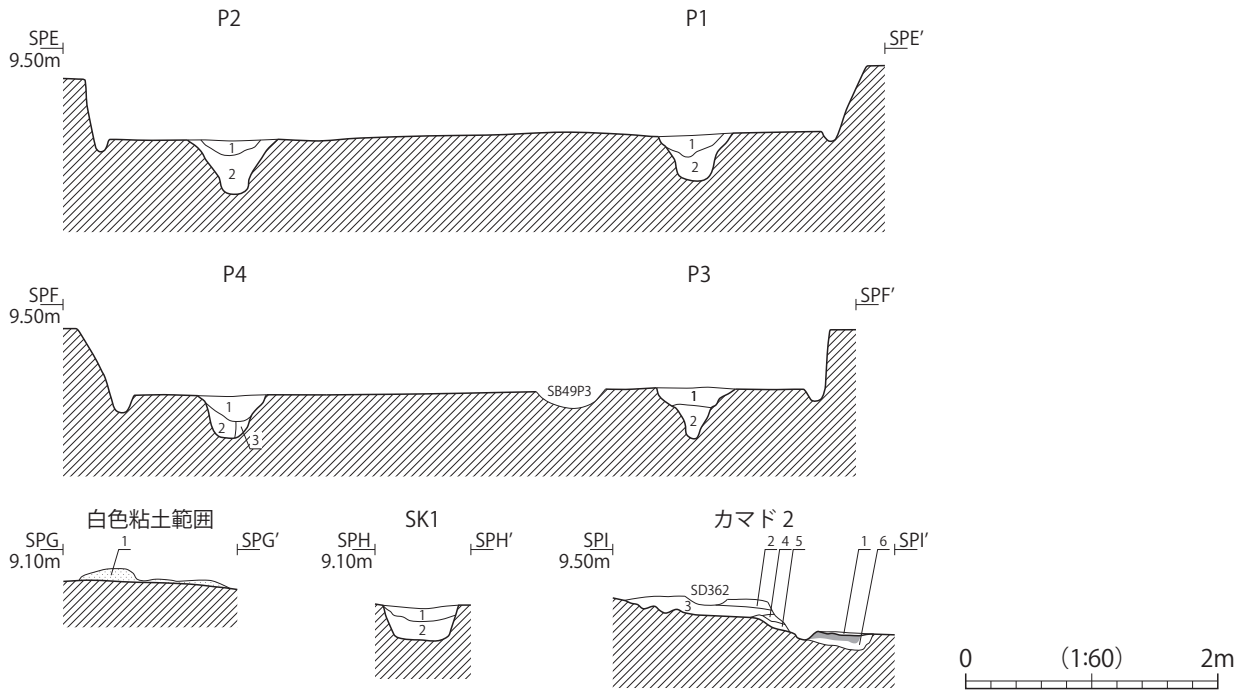
【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸60cm、短軸55cm、深さ26cmを測る。



第168図 SI435A 竪穴住居跡(1)

SI435A 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒多量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量含む。
	5	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	6	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
カマド1 堆積土	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	下部に焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
カマド1 袖構築土	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・灰多量、骨片少量含む。
	15	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・炭化物・灰斑状、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
	3	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(20~40mm程度)多量含む。
	4	10YR4/6 褐色	砂質シルト	
	5	10YR4/4 褐色	砂質シルト	焼土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
カマド2 掘り方埋土	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~20mm程度)微量含む。



SI435A 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・焼土ブロック(5~30mm程度)・炭化物ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
床面粘土	1	2.5Y7/1 灰白色	粘土	

SI435A 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	59×36	36	主柱穴
P2	楕円形	72×60	43	主柱穴
P3	円形	63×57	38	主柱穴

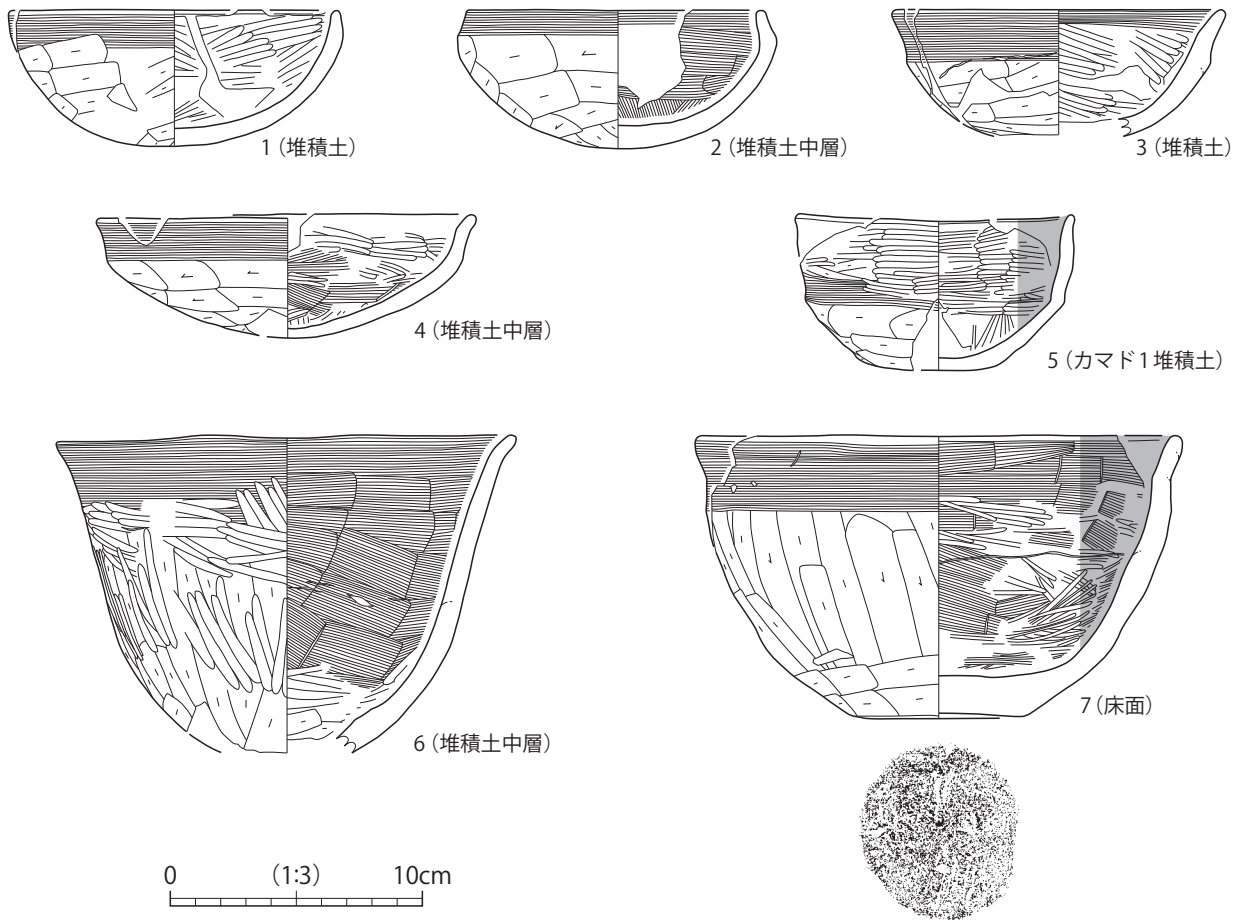
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	56×47	33	主柱穴
SK1	(円形)	60×(55)	26	貯蔵穴

第169図 SI435A 竪穴住居跡(2)

【掘り方】 深さ1～8cmを測る。底面はSI435Bの床面とほぼ同一で、わずかに起伏する。

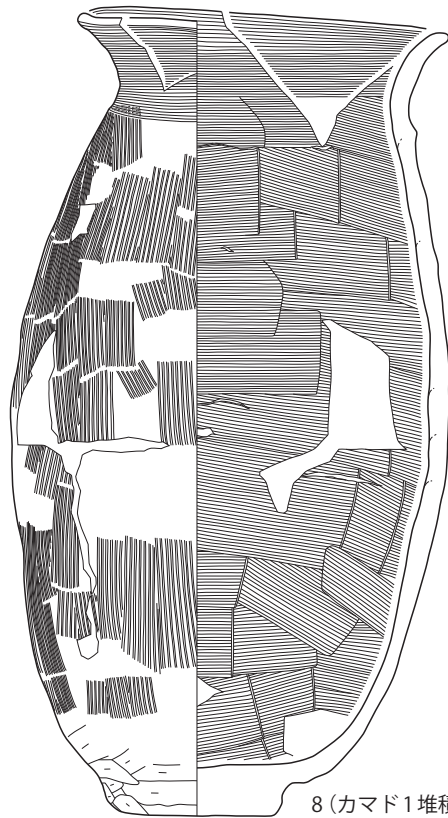
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品などが出土し、土師器環5点・鉢2点・甕3点・甌1点、須恵器壺類1点、石製品1点、金属製品1点、土製品1点を掲載した(第170～172図)。8と11はカマドの燃焼部に倒れた状態で出土した。

1～5は土師器環で、1～3は厚手で重量感のあるつくりである。いずれも半球形を呈し、1の口縁部は短く直立、2は短く内傾、3は外反する。2・3の内面はナデ調整が施されており、3は粗いヘラミガキがみられる。いずれも内面に黒色処理は認められない。1の色調は橙色～褐色、2は褐色、3はにぶい橙色を呈する。胎土はいずれもやや粗く、多量の5mm以下の砂礫を含み、3は海綿骨針が微量認められる。4は扁平な丸底から立ち上がり、緩い「S」字状



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-126	SI435A	堆積土	土師器	環	13.0	—	5.4	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内外面やや摩滅	331
2	C-127	SI435A	堆積土中層	土師器	環	11.6	—	5.5	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラデ	角閃石微量含む	331
3	C-130	SI435A	堆積土	土師器	環	(13.0)	—	(5.0)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラミガキ	骨針・角閃石微量含む	331
4	C-128	SI435A	堆積土中層	土師器	環	14.8	—	4.9	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラズリ	口縁：不明 体～底部：ヘラデ→ヘラミガキ	骨針・角閃石微量含む	331
5	C-129	SI435A カマド1	堆積土	土師器	環	(10.8)	(2.8)	6.2	口縁上～中位：ヘラズリ→ヘラミガキ 口縁下位：ヨナデ→ヘラミガキ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理	331
6	C-438	SI435A	堆積土中層	土師器	鉢 or 甌	18.0	—	(12.5)	口縁：ヨナデ 体部：ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁：ヨナデ 体上～中位：ヘラデ 体下位：ヘラズリ→ヘラミガキ	角閃石微量含む	331
7	C-131	SI435A	床面	土師器	鉢	(18.9)	(3.6)	11.2	口縁：ヨナデ 体～底部周縁：ヘラズリ	口縁：ヘラデ 体～底部：ヘラデ→ヘラミガキ	底部中央布目圧痕 内面黒色処理	331

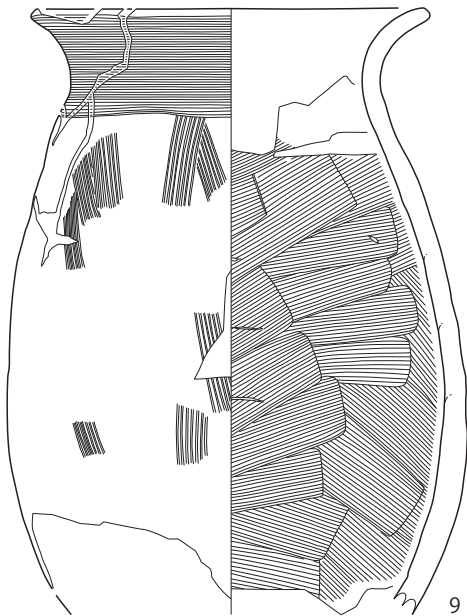
第170図 SI435A 竪穴住居跡出土遺物(1)



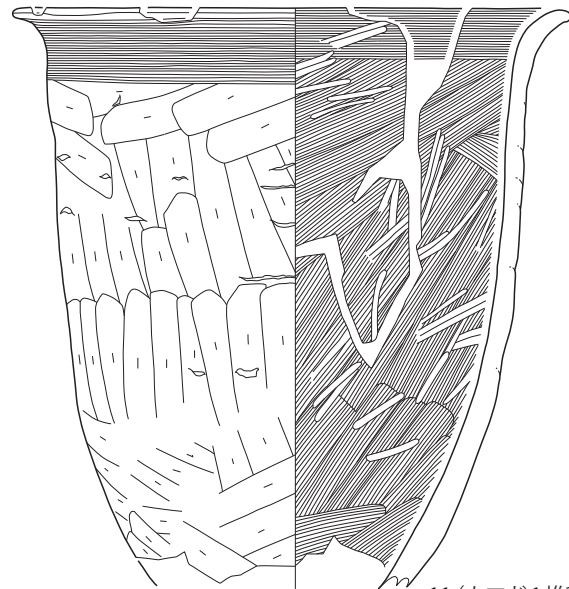
8 (カマド1 堆積土)



10 (カマド1 南脇床面)



9 (堆積土中層)

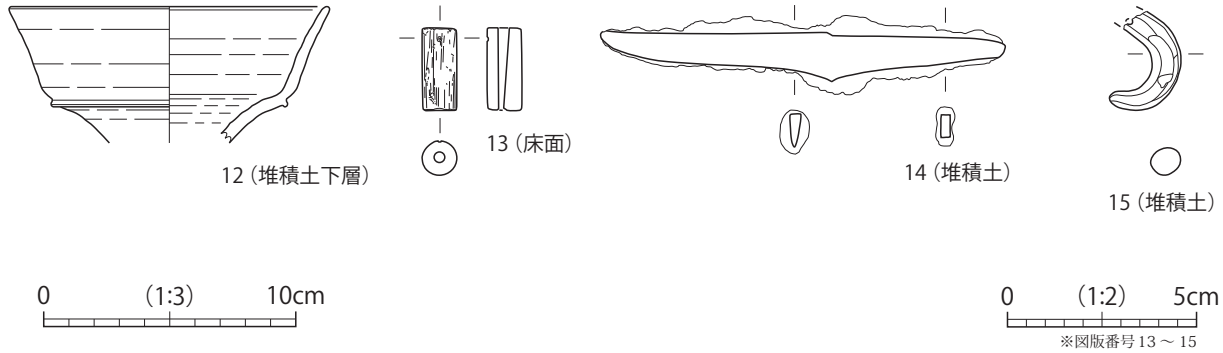


11 (カマド1 堆積土)

0 (1:3) 10cm

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
8	C-133	SI435A カマド1	堆積土	土師器	甕	14.2	6.0	32.0	口縁：ヨサデ 胴部：ハカメ 胴下端～底部：ハカスリ	口縁：ヨサデ 胴～底部：ハサデ		331
9	C-135	SI435A	堆積土中層	土師器	甕	15.3	—	(24.0)	口縁：ヨサデ 胴部：ハカメ	口縁：不明 胴部：ハサデ	角閃石少量含む 外面胴部・ 内面口縁部摩滅	331
10	C-132	SI435A カマド1 南脇	床面	土師器	甕	19.6	6.0	31.0	口縁：ヨサデ 胴～底部：ハカスリ	口縁：ヨサデ 胴～底部：ハサデ	骨針・角閃石微量含む 外面 二次被熱による赤色化・剥 離	331
11	C-134	SI435A カマド1	堆積土	土師器	甕	21.2	—	(23.0)	口縁：ヨサデ 胴部：ハカスリ	口縁：ヨサデ→ハサダキ 胴部：ハサデ→ハサダキ	角閃石少量含む	332

第171図 SI435A 竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
12	E-023	SI435A	堆積土下層	須恵器	甗 or 壺	(12.6)	—	(5.4)	叩調整	叩調整	内面灰かぶり	332
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
13	Kd-015	SI435A	床面	石製品	管玉	2.2	0.9	0.9	3.5	碧玉	片側穿孔孔径0.1～0.6cm 盲孔径0.1cm・深0.1cm	332
写真のみ	Kd-016	SI435A SK3	堆積土	石製品	棗玉	(1.6)	(1.0)	—	3.5	琥珀	未成品 片側穿孔(深1.2cmで停止) 孔径約0.2cm	332
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
14	N-011	SI435A	堆積土	金属製品	鉄製刀子	10.7	1.2	0.3	21.4	ほぼ完形 両関		332
15	P-014	SI435A	堆積土	土製品	勾玉	(2.6)	(1.9)	0.7	2.2	片側穿孔0.1cm		332

第172図 SI435A 竪穴住居跡出土遺物 (3)

の口縁部がやや外傾する。内面の体部上位を集中的にヘラミガキが施され、体部下位はヘラナデ後粗くヘラミガキが施されている。内面に黒色処理は認められない。色調は浅黄橙色～灰白色を呈し、胎土は粗く、多量の5mm以下の砂礫、微量の海綿骨針含む。器形や調整などから、いずれも関東系土師器が在地化したものと考えられる。5は深身の小型環で、平底風丸底から直線的に外傾し、口縁部で外反気味に直立する。内面に黒色処理が施されている。

6・7は土師器鉢で、6は内面の下端にヘラケズリが施されていることから甑の可能性も考えられる。体部はともに緩やかに内湾し、口縁部は6が緩く外反、7が短く直線的に外傾する。7の底部には目の細かい布目圧痕が認められ、その周辺にヘラケズリが粗く施されている。内面には黒色処理が施されている。

8～10は土師器甕である。8・9は胴部中位に最大径が位置する張りのある楕円形で、8は胴部下位が張り出す。10は胴部下位から底部に向かってすぼまる。8・9の口縁部は外反、10が外反気味に外傾する。8の頸部は段、10は稜を持つが、9は段が認められない。10の外面は縦方向のヘラケズリを基本とするが、胴部下端は横方向にヘラケズリが施されている。色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土は粗く5mm以下の砂礫を多量、海綿骨針を微量含む。11は土師器甑で、体部下位から底部にかけて丸くすぼまると考えられる。口縁部は外反し、頸部に段は認められない。外面の上位と下位は横方向、中位は縦方向の弱いヘラケズリが施されている。

12は須恵器甗もしくは壺の口縁部と考えられる。口縁部と頸部の境には突帯がめぐり、口縁部は直線的に外傾する。色調は灰色を呈し、胎土はやや精良で、少量の2mm以下の砂礫を含む。焼成は堅緻で、硬く締まる。

13は管玉で、片側から穿孔されたものと考えられる。また、側面には盲孔がある。石材は碧玉である。14は鉄製刀子である。切先にふくらを持ち、関部は両関で形状は撫関である。茎尻は栗尻である。15は土製の勾玉で、上端部が欠損している。外面にナデが施されている。写真図版332-4 (Kd-016)は棗玉の未成品で、下半部や裏面は風化のため破損している。孔径は0.2cmで、上面から1.2cmの深さで穿孔が中断されている。石材は琥珀である。

【時期】 床面とカマド1から出土した土師器環・甕など(第170・171図5・7・8・10・11)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI435B 竪穴住居跡(第173図)

【位置・確認】 調査区南東端部の116・123・124・132区に位置し、SI435Aの直下で入れ子状に重複する。南壁を除く壁はSI435Aの拡張時に失われ、周溝のみ残存する。

【重複】 SI434・435A・528、SB49より古く、Pit1753・1773より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸560cm、短軸543cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-45°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。土層番号はSI435Aからの連番である。17層は周溝堆積土、18・19層はカマド堆積土、20・21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 残存する南壁では外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で67cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で8基(P5～12)を検出した。遺構番号はSI435Aからの連番である。規模や位置から支柱穴と考えられるP5～8の規模は、残存値も含め長軸44～53cm、短軸31～51cm、深さ36～49cmを測る。P5で径11cm程度の底面の変色範囲を確認した。P9は壁柱穴、P10～12は南壁の中央部付近に配置されていることから入口施設に関連する柱穴と考えられる。

【周溝】 残存範囲では北壁東部、東壁中央、南東隅を除く壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ1～14cmを測る。また、西壁の南寄りから直交するかたちでSD1が伸び、規模は幅27cm、深さ7cmを測る。間仕切り溝と考えられる。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、土坑状に掘り込まれた燃烧部底面のみ残存する。燃烧部掘り込みは壁内に位置し、長さ88cm、幅48cmを測り、底面の焚口付近に長径42cm程度の焼面がみられる。

【その他の施設】 床面で2基(SK2・3)、掘り方で1基(SK4)の土坑を検出した。柱穴同様、遺構番号はSI435Aからの連番とした。SK2は南壁際の西寄り、SK3・4はカマド前に位置する。いずれも性格は不明である。

【掘り方】 深さ1～10cmを測り、底面は若干起伏する。

【出土遺物】 床面施設、掘り方から土師器・須恵器が出土し、床面から出土した土師器坏1点を掲載した(第173図)。鬼高系土師器の特徴を持ち、薄手で精巧なつくりである。直線的に外傾する体部から緩く屈曲し、口縁部で短く直立する。内外面は黒色漆仕上げされている。色調は橙色を呈し、胎土は粉のように細かく精良で、細砂と少量の赤色粒子を含む。

【時期】 床面から出土した土師器坏(第173図1)の特徴から、SI435Aとほぼ同時期の3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI436 竪穴住居跡(第174～176図)

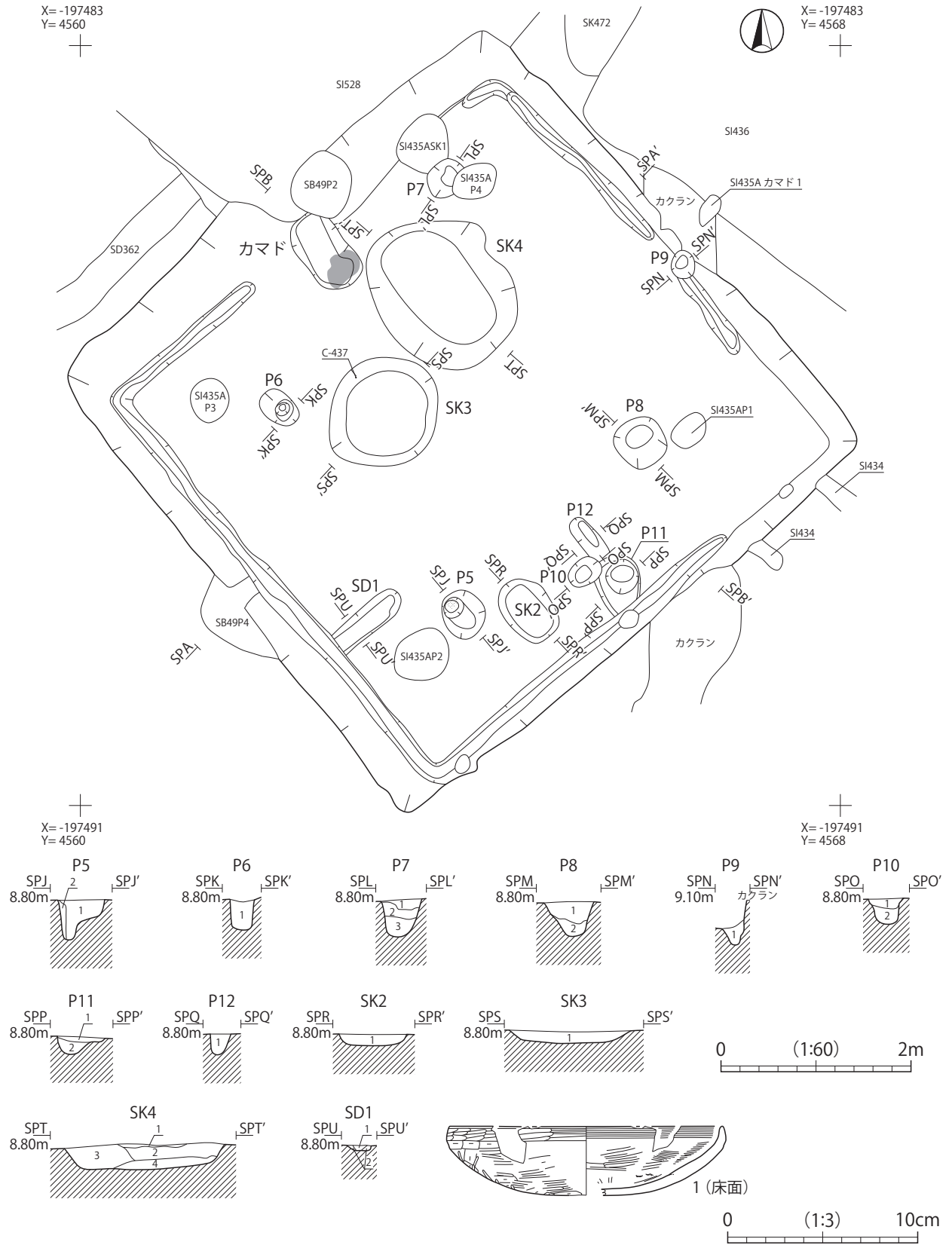
【位置・確認】 調査区南東部の116・117・124・125区に位置する。SD321の重複や攪乱により、壁上部の各所が失われている。

【重複】 SD321より古く、SI435Aより新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸483cm、短軸322cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-39°-Eを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～7層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8～15層はカマド堆積土である。16層はカマド袖構築土、17層はカマド掘り方埋土、19層は住居掘り方埋土である。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-437	SI435B	床面	土師器	环	(14.4)	—	(3.6)	口縁：ヨナデ→ヘラミガキ 体部：ヘラズリ→ヘラミガキ	口縁：ヨナデ 体部：ヘラデ→ヘラミガキ	関東系 内外面漆仕上げ	332

第173図 SI435B 竪穴住居跡・同出土遺物

S1435B 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
周溝堆積土	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド堆積土	18	10YR4/4 褐色	シルト	炭化物帯状、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒帯状に含む。
	21	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状・炭化物粒多量含む。

S1435B 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P6	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土・細砂斑状に少量含む。
P7	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土・黒褐色シルト斑状に少量含む。
P8	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。
P9	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量含む。
P10	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・黒褐色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P11	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に微量含む。
P12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)多量含む。
SK3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)・黒褐色シルトブロック(10～20mm程度)多量含む。
SK4	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(長10～60mm程度)板状に多量含む。
	3	10YR4/6 褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量、IV層土斑状に微量含む。
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
SD1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

S1435B 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	51×45	42	主柱穴
P6	楕円形	44×31	49	主柱穴
P7	楕円形	44×(34)	39	主柱穴
P8	隅丸方形	53×51	36	主柱穴
P9	円形	30×25	27	壁柱穴
P10	楕円形	37×27	27	補助柱穴(入口施設)

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P11	楕円形	(56)×47	22	補助柱穴(入口施設)
P12	楕円形	(53)×22	23	補助柱穴(入口施設)
SK2	楕円形	71×52	11	性格不明土坑
SK3	隅丸方形	129×115	14	性格不明土坑
SK4	楕円形	169×133	27	性格不明土坑

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で40cmを測る。

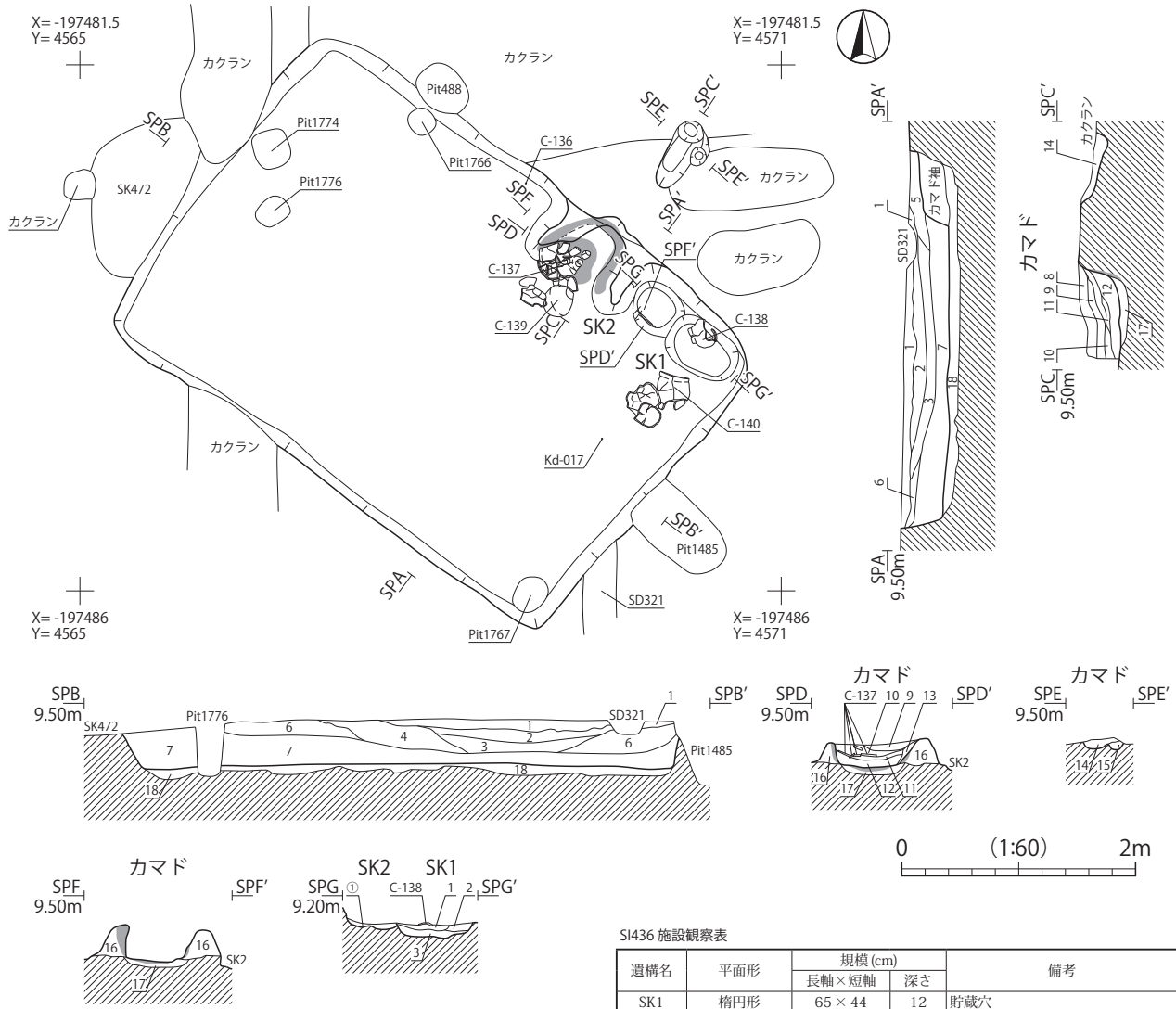
【床面】 概ね平坦で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、削平により燃焼部の奥壁上部から煙道部の前半にかけて失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ66cm、幅36cm、西袖は長さ58cm、幅21～39cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き63cm、幅45cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、中央部から焚口付近にかけて長径42cm程度の焼面がみられる。中央部には棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁はわずかに外反し、30cm程度が残存する。煙道部は残存値で長さ61cm、幅19～35cm、深さ10～16cmを測り、底面は先端部に向かって下がり、先端部はピット状を呈する。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。カマドと北東隅との間に、東西に並ぶようにして重複し、SK1が新しい。ともに、位置や形状から貯蔵穴と考えられる。SK1の平面形は楕円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸44cm、深さ12cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸43cm、短軸41cm、深さ5cmを測る。

【掘り方】 深さ1～12cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、土製品などが出土し、土師器1点・甕4点、石製品1点を掲載した(第175・176図)。3・5はカマド底面とカマド前の床面から、2・4は北東部の床面から出土した。1は土師器環で、厚手の半球形を呈し、口縁端部でわずかに外反する。内面に黒色処理は認められない。2～5は土師器甕である。2の胴部は球形、3は砲弾形、4・5は最大径が胴部上位に位置する算盤玉形を呈する。2の口縁部は直立後上位で外反、3は長く直線的に外傾、4・5は緩やかに外反する。頸部の段は明瞭なものは認められず、2・4・5に稜が認められる。いずれも外面胴部にヘラケズリが施されており、4の胴部上半と5は弱いへ



SI436 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	楕円形	65×44	12	貯蔵穴
SK2	(円形)	(43)×41	5	貯蔵穴

SI436 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10～20mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	3	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、焼土粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	10	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度)・灰多量含む。
	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度)・焼土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
15	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 多量含む。	
カマド袖構築土	16	10YR5/6 黄褐色	シルト	焼土ブロック (5～10mm程度)・炭化物ブロック (5mm程度) 微量含む。
カマド掘り方埋土	17	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒・細砂斑状に含む。
住居掘り方埋土	18	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土粒・細砂斑状に含む。

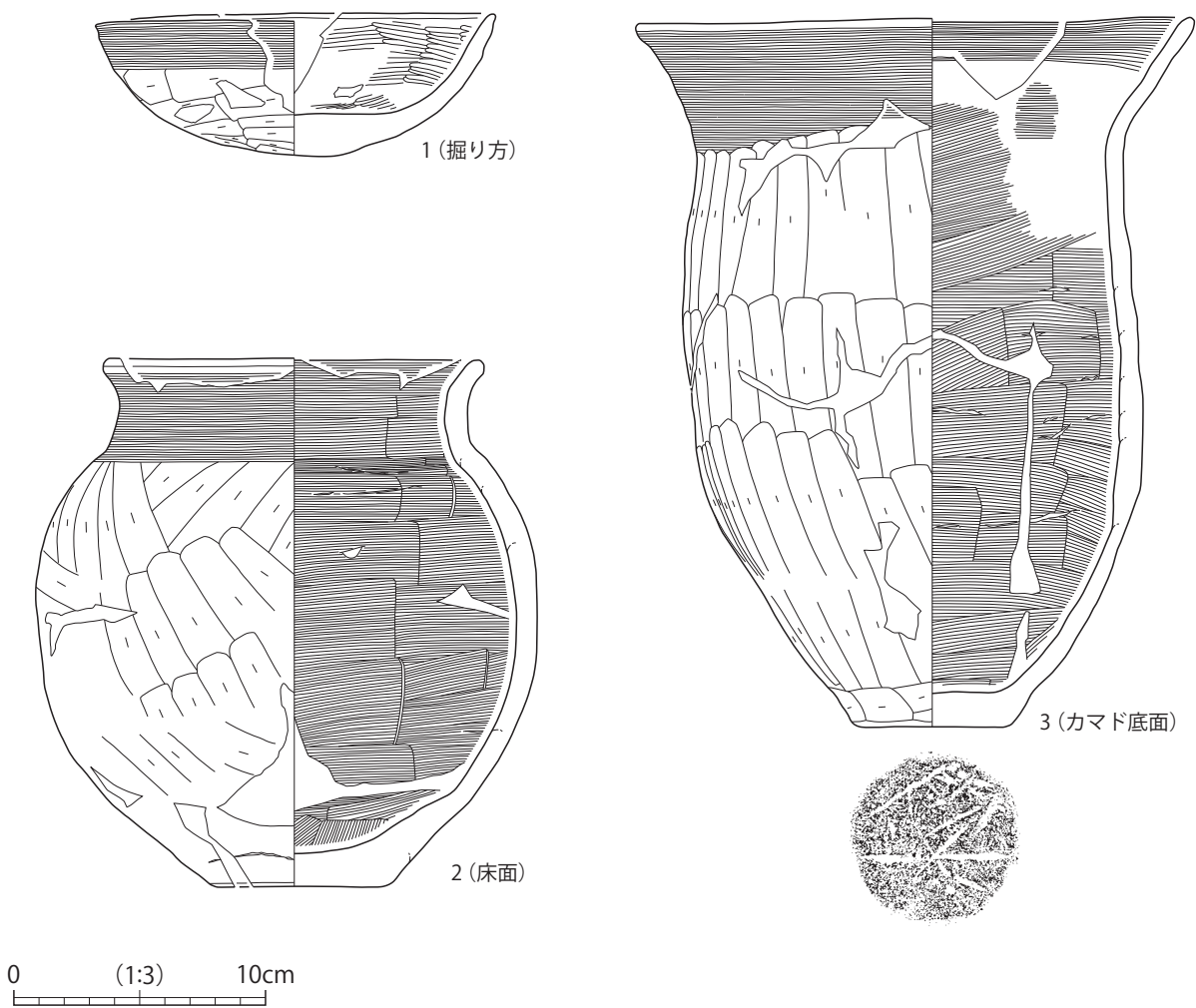
SI436 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
SK1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	焼土ブロック (5～10mm程度) 多量含む。
SK2	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量含む。

第174図 SI436 竪穴住居跡

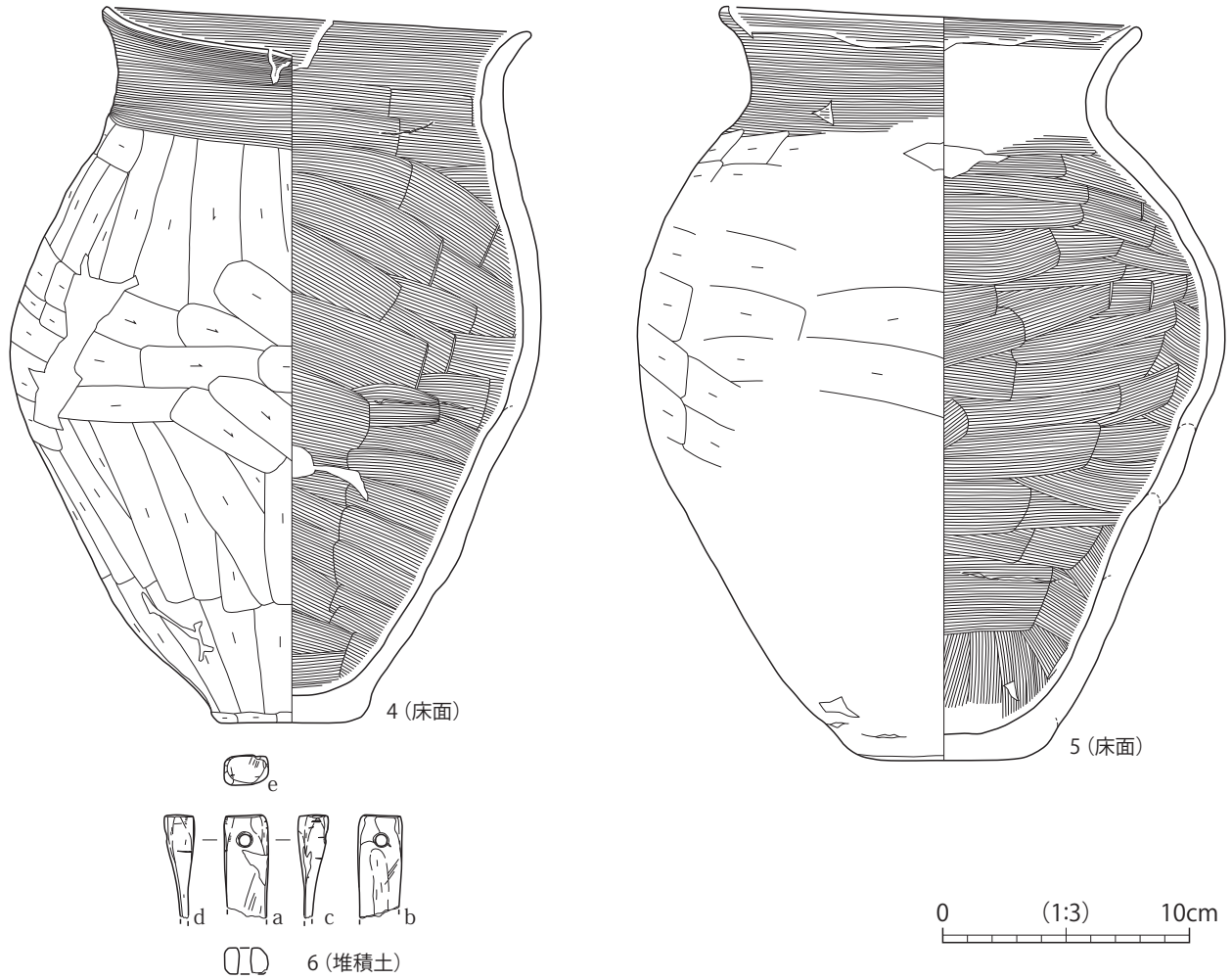
ラケズリで、また4は中位で横方向に施され、部分的に方向が異なる。2の色調は褐色、3は浅黄橙色～にぶい橙色、4は暗褐色～橙色、5は淡黄色～灰黄色を呈する。2・4の胎土はやや粗く、3・5は粗く、いずれも砂粒・海綿骨針を含み、3は少量の赤色粒子を含む。3は器形から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。6は砥石で、砥面が5面あり、c～e面に溝状痕、a～e面に線条痕がみられる。上端には両側から穿孔された貫通孔がある。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器甕(第175・176図2～5)の特徴から、4期(7世紀中頃～後半)～5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。なお、第176図5の土師器甕内部から採取した木炭について放射性炭素年代測定を実施したところ、西暦599～640年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-136	SI436	掘り方	土師器	坏	15.8	—	5.7	口縁：ヨナデ 体部：ハラスリ	ハミガキ	内外面摩滅 外面二次被熱による赤色化	332
2	C-138	SI436	床面	土師器	甕	14.8	6.6	21.0	口縁：ヨナデ 胴上半：ハラスリ 胴下半～底部：不明	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	骨針中量、角閃石少量含む	332
3	C-137	SI436 カマド	底面	土師器	甕	21.8	5.8	27.9	口縁：ヨナデ → ハラスリ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハナデ	底部木炭痕・線刻「×」骨針中量、角閃石微量含む 内面頸部摩滅	332

第175図 SI436 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
4	C-140	SI436	床面	土師器	甃	17.0	5.7	28.9	口縁：ヨコテ 胴～底部：ハラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ハコテ	骨針中量含む	333
5	C-139	SI436	床面	土師器	甃	16.7	7.3	30.5	口縁：ヨコテ 胴上半：ハラスリ 胴下半～底部：不明	口縁：ヨコテ 胴部：ハコテ	骨針中量、角閃石少量含む 外面胴～底部・内面口縁部 摩滅 外面胴下半二次被熱による赤色化	333

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
6	Kd-017	SI436	堆積土	石製品	砥石	(4.2)	1.8	1.2	10.7	凝灰岩	底面5面 溝状痕 (c～e面) 線条痕 (a～e面) 端部欠損 孔径 4.6～6.1mm	333

第176図 SI436 竪穴住居跡出土遺物 (2)

SI437 竪穴住居跡 (第177～179図)

【位置・確認】 調査区北西部の37・45区に位置する。壁面と床面の一部は重複遺構や攪乱により失われている。

【重複】 SB45、SD304・320、SK328、Pit855～857より古く、SD301・347、Pit1258・1259・1267～1269・1274・1275より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸534cm、短軸514cmを測り、平面形は東西に長い隅丸方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

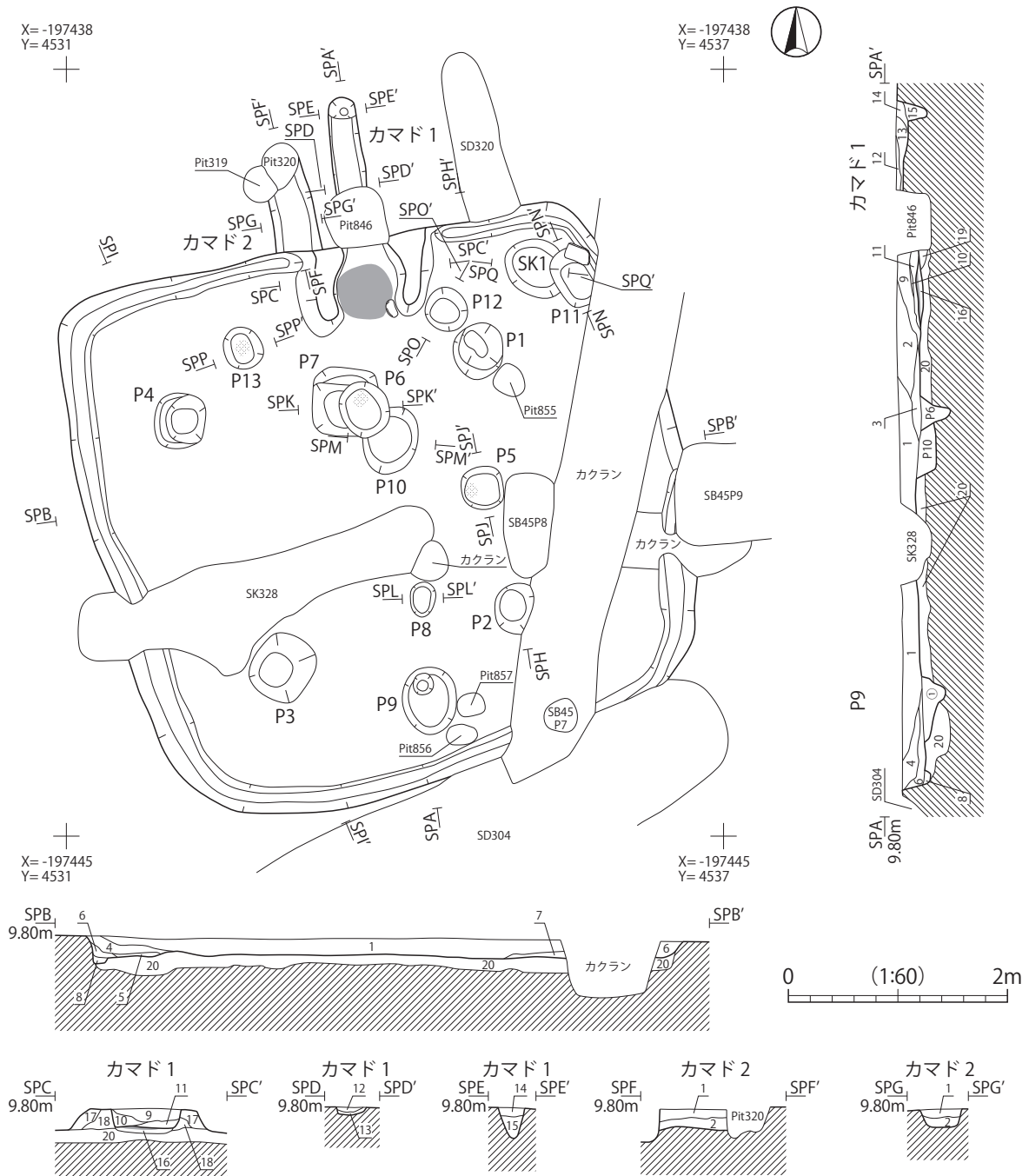
【堆積土】 20層に分層した。1～7層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1・2層は人為的な埋土、3～7層は自然堆積とみられる。8層は周溝堆積土、9～15層はカマド1堆積土である。16層はカマド1掘り方埋土、17・18層はカマド1袖構築土で、カマド1は袖の構築後に燃烧部底面を埋土している。19・20層は住居掘り方埋土である。また、カマド2は個別に層番を付し、2層に分層した。

【壁面】 外反して立ち上がり、壁高は最大で23cmを測る。

【床面】 わずかに起伏し、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で11基 (P1～9・11・13) を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸46～58cm、短軸34～54cm、深さ29～45cmを測る。P1の堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P5～9・11・13は補助柱穴と考えられるが、配置は不規則で、P6・13を除き土坑状で浅い。P13の堆積土下半で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。

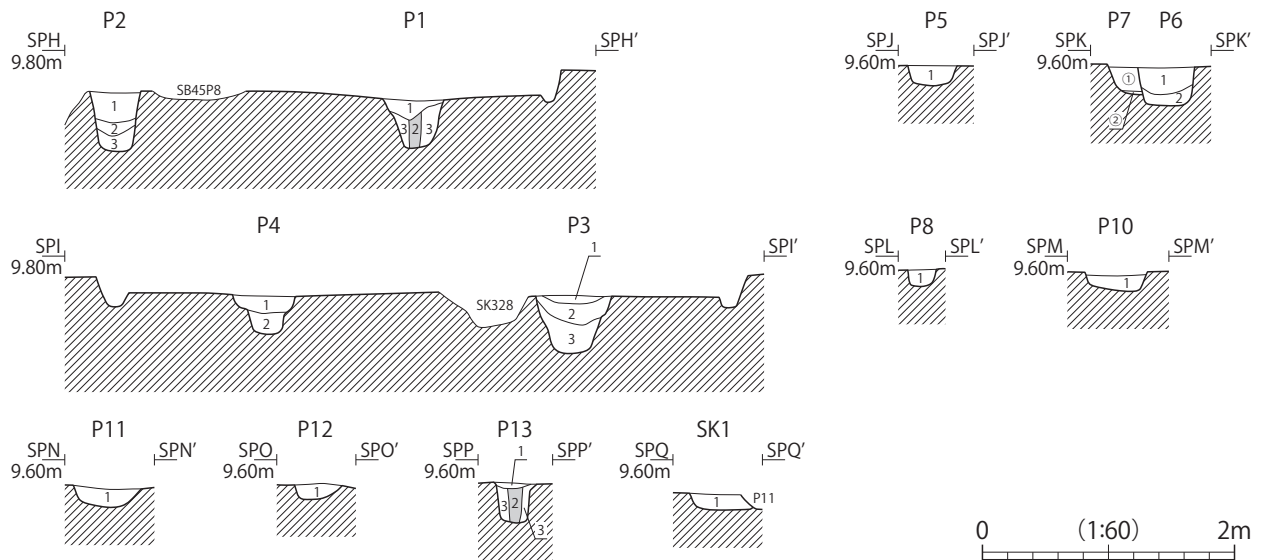
【周溝】 残存範囲では、カマド1部分を除き壁面に沿ってめぐる。断面形は方形ないし台形を呈し、規模は幅12～25cm、深さ2～11cmを測る。



第177図 SI437 竪穴住居跡(1)

SI437 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒少量、IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)・炭化物粒微量含む。
カマド1 堆積土	9	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	10	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	13	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~15mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	カマド1 掘り方埋土	16	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト
カマド1 袖構築土	17	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	18	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
住居掘り方 埋土	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。
カマド2 堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。



SI437 施設堆積土註記表

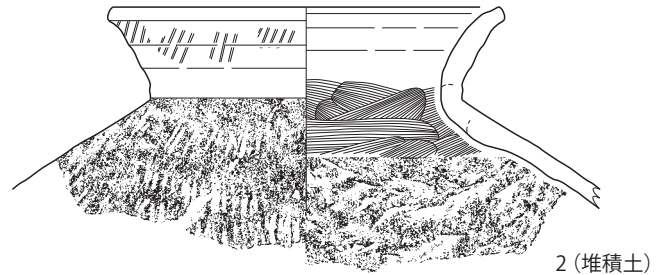
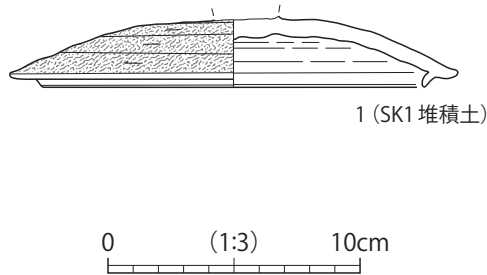
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(20~30mm程度)・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~40mm程度)少量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量含む。
P7	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P9	①	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P10	1	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量含む。
P11	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5~60mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P12	1	2.5YR4/2 灰赤色	砂質シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P13	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。

第178図 SI437 竈穴住居跡(2)

SI437 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	52×46	38	主柱穴 柱痕跡
P2	(楕円形)	46×(34)	45	主柱穴
P3	隅丸方形	58×54	44	主柱穴
P4	隅丸方形	50×46	29	主柱穴
P5	隅丸方形	39×38	14	補助柱穴
P6	円形	50×44	31	補助柱穴
P7	隅丸方形	(62)×59	25	補助柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	32×23	13	補助柱穴
P9	楕円形	61×49	24	補助柱穴
P10	楕円形	63×50	19	カマド関連土坑
P11	隅丸長方形	55×(36)	18	補助柱穴
P12	円形	39×38	12	カマド関連土坑
P13	円形	39×35	32	補助柱穴 柱痕跡
SK1	(楕円形)	(60)×50	13	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-024	SI437 SK1	堆積土	須恵器	蓋	(15.2)	—	(2.8)	口縁：叩調整 天井部：回転ハカスリ	叩調整	外面自然袖付着 骨針・角閃石微量含む	333
2	E-025	SI437	堆積土	須恵器	甕	(15.4)	—	(8.0)	口縁：平行斜→叩調整 胴部：平行斜	口縁：叩調整 頸部：ハカテ 胴部：77具痕	骨針少量含む	333

第179図 SI437 竪穴住居跡出土遺物

【カマド】 北壁中央部に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、Pit846の重複により燃烧部と煙道部の接続部付近が失われている。袖は壁面に対して馬蹄状に延び、東袖の規模は長さ76cm、幅28～44cm、西袖は長さ79cm、幅35～39cmを測る。東袖先端部付近から芯材の可能性がある棒状の自然礫が1点出土している。

燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き77cm、幅45～66cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、中央部から焚口付近にかけて長径50cm程度の焼面がみられる。煙道部は燃烧部底面から14cm程度の比高差が認められ、規模は残存値で長さ83cm、幅25～30cm、深さ8～28cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。カマド2はカマド1の西側に位置し、煙道部のみ残存するが、先端部はPit319・320の重複により失われている。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面から11cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ62cm、幅39～41cm、深さ15～18cmを測り、底面は緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で土坑1基(SK1)、ピット2基(P10・12)を検出した。SK1は北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸60cm、短軸50cm、深さ13cmを測る。P10・12は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマドに関連する土坑と考えられる。

【掘り方】 深さ6～16cmを測り、北東部および北西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、須恵器蓋1点・甕1点を掲載した(第179図)。

1はSK1から出土した須恵器蓋で、器形に歪みがあり、ツマミは中心からややずれた位置に付されていたと考えられる。天井部上半は丸味を持ち、下半は直線的に口縁部に至る。カエリは内傾し、口縁端部から内側に付く。カエ

りの端部は口縁端部より下方に突出する。天井部全体に回転ヘラケズリが施されている。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒や黒色粒子、微量の海綿骨針含む。2は須恵器甕である。口縁部は緩やかに外反し、口縁端部は面取りされ方形を呈し、口縁部内面が凹む。色調は灰色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針を含む。焼成はやや軟質である。

【時期】 SK1から出土した須恵器蓋(第179図1)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)と考えられる。

SI438 竪穴住居跡(第180図)

【位置・確認】 調査区北西部の36・44区に位置する。カマド煙道部の一部がSB46の重複により失われ、壁と床面も重複遺構により部分的に失われている。

【重複】 SB46・47、SK329より古く、SI439・440・458・460、Pit1173・1206・1209・1216・1217より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸408cm、短軸306cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-2°-Eを測る。

【堆積土】 22層に分層した。1～7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～7層は自然堆積とみられる。8層は堰板痕跡で、各周溝に伴う。9層は堰板背後の埋土、10～16層はカマド堆積土である。17～20層はカマド袖構築土、21・22層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で52cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～32cm、深さ1～8cmを測る。周溝からは幅1～9cm程度の堰板痕跡を断続的に検出した。断続部に堰板の固定材とみられる径6～9cm程度の柱痕跡が認められる。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は長さ72cm、幅28～32cm、西袖は長さ82cm、幅26～32cmを測る。両袖の先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。SB46の重複により、煙道部の一部が失われている。

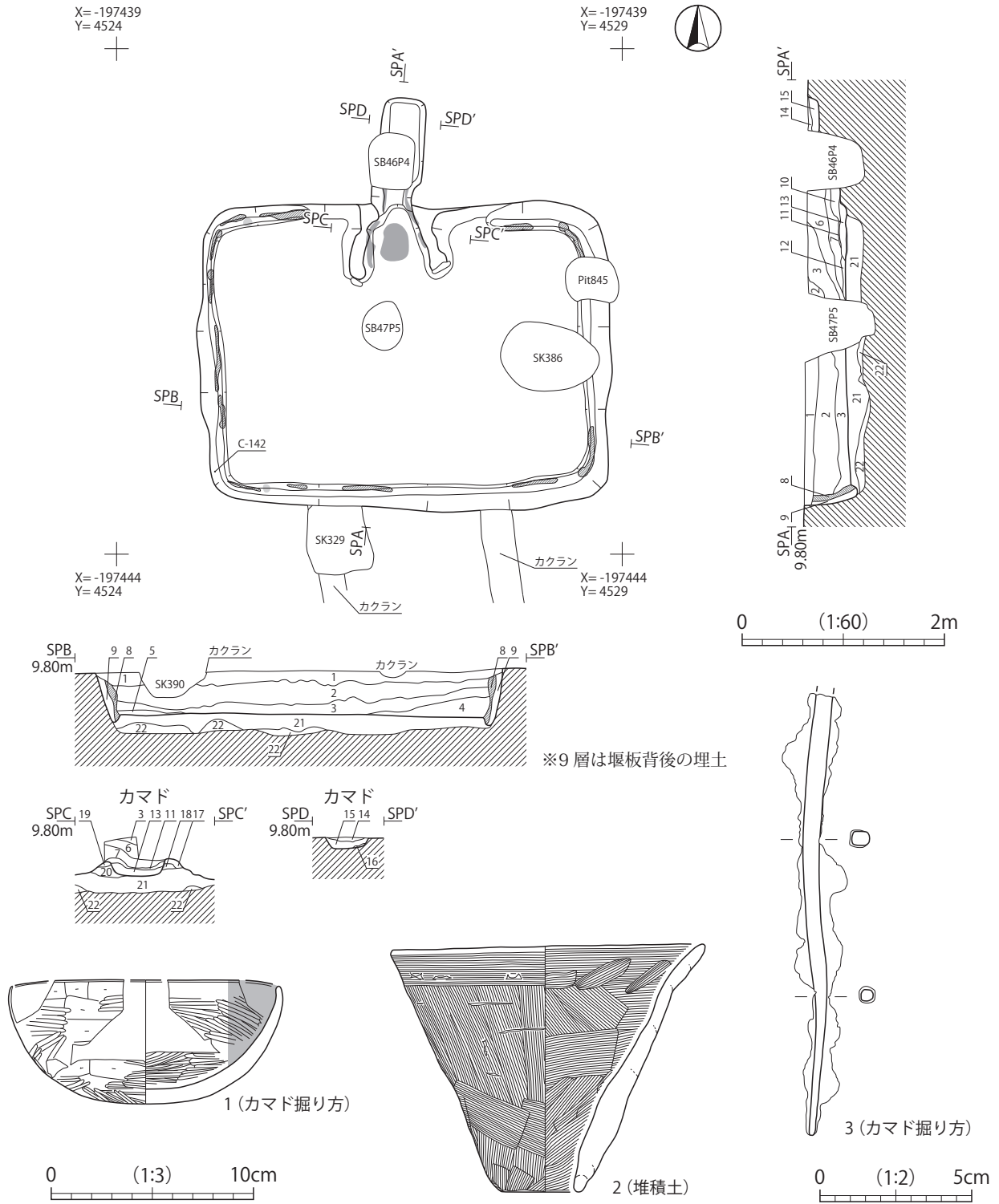
燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き79cm、幅66cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部に長径38cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に6cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ106cm、幅39～44cm、深さ9～30cmを測り、底面は先端部に向かって階段状に立ち上がると考えられ、前後で21cmもの比高差が認められる。

【掘り方】 深さ4～20cmを測り、カマド前付近と北西隅付近が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、カマド、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、土師器坏1点・甕1点、金属製品1点を掲載した(第180図)。1はカマド掘り方から出土した。

1は土師器坏で、半球形を呈し、口縁部でわずかに内傾する。内面に黒色処理が施されている。2は小型品の土師器甕である。孔部は比較的小さく、胴部は厚みを持って直線的に開き、口縁部は屈曲して直線的に外傾する。色調は橙色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。明瞭な使用痕跡が認められないため、置台として使用された可能性がある。3は棒状鉄製品である。断面形が隅丸方形を呈することから、紡錘車の軸棒と考えられる。

【時期】 カマド掘り方から出土した土師器坏(第180図1)の特徴およびSI439・440・458・460、SB46・47との新旧関係から、4期(7世紀中頃～後半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。なお、周溝から採取した堰板とみられる木炭について放射性炭素年代(1σ)測定を実施したところ、西暦704～825年という年代(1σ)が測定された(第6章第2節参照)。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-141	SI438 カマド	掘り方	土師器	环	(13.2)	—	6.1	ヘアスリ→ヘアミギキ	ヘアミギキ	内面黒色処理 骨針少量含む 内面口縁部摩滅	333
2	C-142	SI438	堆積土	土師器	甑	15.4	孔径 3.9	12.2	口縁：ヨチテ 体部：ヘアテ	口縁：ヨチテ→ヘアテ 体部：ヘアテ	単孔 骨針・角閃石微量含む	333
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
3	N-012	SI438 カマド	掘り方	金属製品	棒状鉄製品	(14.5)	0.6	0.5				28.4

第180図 SI438 竪穴住居跡・同出土遺物

SI438 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土塊状に少量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
堰板痕跡	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
堰板背後の埋土	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)多量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒斑状に含む。
	11	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	13	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
	14	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド袖構築土	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒多量、炭化物ブロック(10～30mm程度)微量含む。
	18	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	19	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒少量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	22	10YR5/6 黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック斑状に含む。

SI439 竪穴住居跡(第181図)

【位置・確認】 調査区北西部の36・44・52区に位置する。北側にはSI438が入れ子状に重複しているため、床面の北側2/3程度が失われている。

【重複】 SI438、SB46・47、SK329より古く、SI440・458・460、SK404、Pit1145・1173・1205・1206・1216・1217より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸453cm、短軸428cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-5°-Eを測る。

【堆積土】 11層に分層した。1～6層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～4層は人為的な埋土、5・6層は自然堆積とみられる。7層は周溝堆積土、8・9層はカマド堆積土である。10層はカマド掘り方埋土、11層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で41cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI438の重複範囲内で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸31～51cm、短軸26～45cm、深さ8～28cmを測る。P1の堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP2とP3の中間、P6はP2南西側の至近に配置されており、P5で柱の抜き取り痕を確認した。P7は大型で浅い土坑状を呈するため、規模と形状から柱穴以外の性格も考えられる。

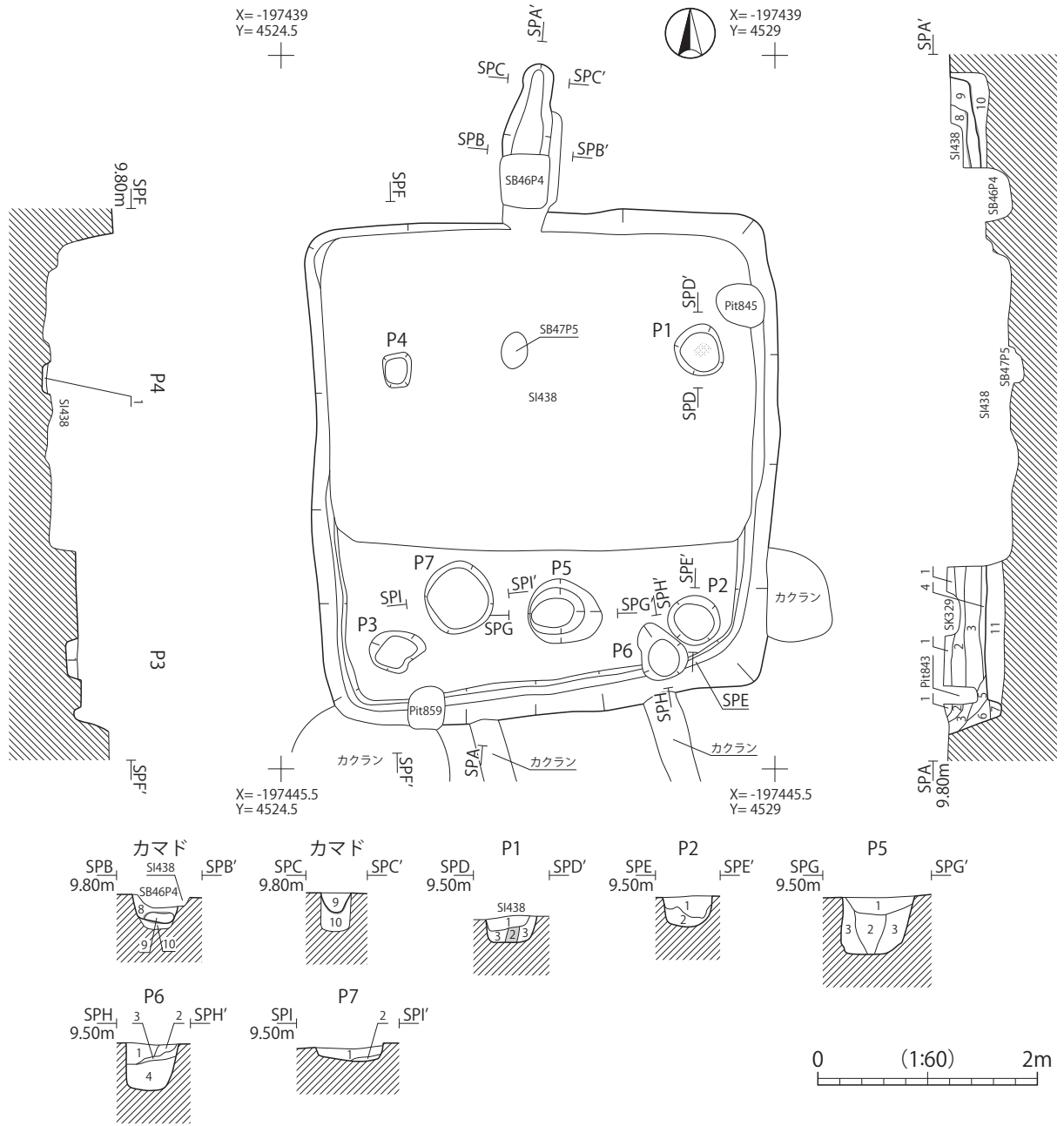
【周溝】 床面の残存する住居南東部から南西部にかけて、壁面に沿って検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は残存値で幅21～41cm、深さ4～13cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、SI438、SB46の重複により煙道部の中央付近から先端部のみ残存する。燃焼部は壁内に位置していたと考えられる。煙道部は壁面から8°東に振れて延び、規模は残存値で長さ88cm、幅27～43cm、深さ30～33cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【掘り方】 深さ4～13cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI438・440・458・460、SB46・47との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)の可能性がある。



SI439 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(47)×(45)	(25)	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	48×45	28	主柱穴
P3	楕円形	51×38	11	主柱穴
P4	(隅丸長方形)	(31)×(26)	(8)	主柱穴

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	円形	67×57	54	補助柱穴
P6	楕円形	54×44	44	補助柱穴
P7	円形	64×62	16	性格不明(土坑か)

SI439 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量含む。
	9	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。

第181図 SI439 竪穴住居跡

SI439 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～50mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～30mm程度)多量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、灰黄褐色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。

SI440 竪穴住居跡(第182～185図)

【位置・確認】 調査区北西部の21・27～29・35～37・44区に位置する。壁面および床面やカマドなどの各施設は、SD303をはじめとする重複遺構や攪乱により部分的に失われている。

【重複】 SI438・439、SB46・47、SD287・303・332、Pit310・311・1201・1209・1210・1301・1308より古く、SD301より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸911cm、短軸872cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。南壁の中央部には奥行き104cm、幅187cmの張り出し部を伴う。

【方向】 カマドを基準としてN-40°-Wを測る。

【堆積土】 大別で28層に分層した。1～7層は黒褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。9～17層はカマド堆積土である。18・19層はカマド袖構築土、20～23層はカマド掘り方埋土、24～28層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸69～94cm、短軸33～86cm、深さ35～63cmを測る。P1・2の堆積土下半で径14～27cm程度の柱痕跡を確認し、P4でも柱の抜き取り痕を確認した。P5～7は補助柱穴と考えられ、P5は張り出し部の手前、P6・7はカマドの左右に配置されている。P5は入口施設に関連する柱穴、P6・7はカマドに伴う施設の可能性もある。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、張り出し部を含む壁面に沿ってめぐる。北壁と南壁の一部では、壁面からやや内側に寄る。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅13～35cm、深さ8～21cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、西袖はSD303の重複により内壁を除く大部分が失われている。東袖の規模は長さ90cm、幅21～37cm、西袖は残存値で長さ65cm、幅9～13cmを測る。東袖先端部には棒状の自然礫による芯材が埋設されている。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き85cm、幅68cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径50cm程度の焼面がみられる。焼面の燃焼部奥壁側西寄りには、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら内湾気味に14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部の一部は、SB46の重複により失われている。規模は、長さ161cm、幅27～39cm、深さ21～33cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。カマドの掘り方は、住居掘り方掘削時にカマド部分を土台状に掘り残し、燃焼部に当たる箇所を土坑状に掘削することで東西両袖の基底部を削り出している。

【その他の施設】 床面で3基(SK1～3)の土坑を検出した。SK1はカマドと北東隅の間、SK2・3はカマドの西

側に東西に並んで位置する。いずれも位置や形状から貯蔵穴とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸121cm、短軸81cm、深さ41cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸57cm、深さ28cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形と考えられ、規模は残存値で長軸70cm、短軸55cm、深さ29cmを測る。

【掘り方】 深さ9～42cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器坏3点・壺1点・甕3点・ミニチュア土器1点、石製品1点を掲載した(第184・185図)。1・3・5は南西部の床面、2はカマド、4はSK1、8はカマド東袖から出土した。

1～3は土師器坏で、1・2は扁平な丸底、3が深身の丸底である。1の口縁部は直線的に、2は内湾気味とともに外傾する。3は外反気味に直立し、端部で短く外傾する。3の口縁部は端部に向かって薄くなる。口縁部と体部の境はいずれも明瞭な段を持つ。1・2の内面に黒色処理が施されているが、3は認められない。4は土師器壺で、算盤玉形を呈する。5～7は土師器甕で、いずれも頸部に段を持つ。6の胴部最大径は下位、7は中位に位置し、ともに張りの強い楕円形である。8は土師器ミニチュアの壺である。丸底から内湾して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。頸部には、対面する2箇所を外側から焼成前に穿孔されている。9は砥石で、砥面が5面あり、a・b・d・e面に溝状痕、a～e面に線条痕、a・c～e面に敲打痕が認められる。またc面には節理面がみられる。石材は砂岩である。

【時期】 床面とカマド、SK1から出土した土師器坏(第184図1～5)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI441 竪穴住居跡(第186図)

【位置・確認】 調査区中央部の62・71区に位置する。SI410の重複により大部分が失われ、カマドを含む北壁付近の床面と、北壁東半部の壁のみ残存する。

【重複】 SI410より古く、SI405・475より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸305cm、短軸159cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。

【堆積土】 14層に分層した。1～9層はカマド堆積土、10～13層はカマド袖構築土、14層はカマド掘り方埋土である。住居本体の堆積土・掘り方埋土は記録できなかった。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

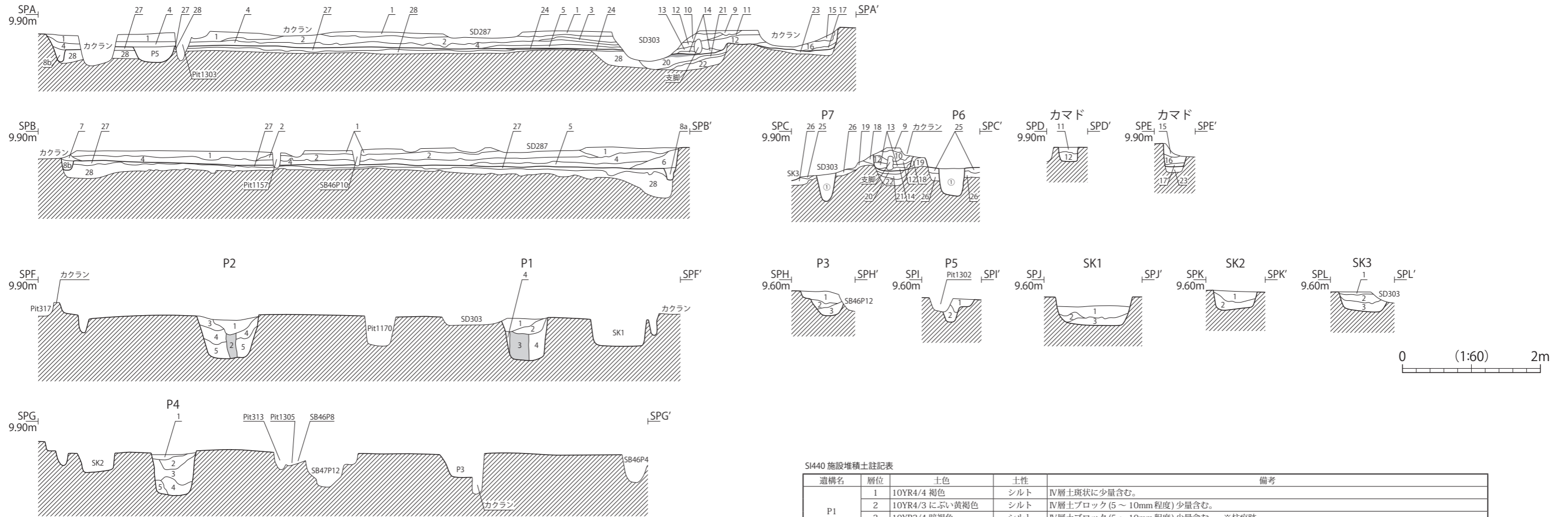
【床面】 形状・埋土状況ともに不明である。

【柱穴】 床面で2基(P1・2)を検出した。補助柱穴と考えられるP1・2は、カマドの西側で重複するため、建て替えられた可能性がある。

【周溝】 残存範囲では、カマドを除く北壁の壁面に沿って検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅8～11cm、深さ9cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は基部付近のみ残存するが、床面および掘り方から芯材の埋設穴とみられるP3・4を検出したため、ここまで袖が延びていた可能性がある。東袖の規模は残存値で長さ51cm、幅12cm、西袖は長さ24cm、幅23cmを測る。

燃烧部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。規模はP3・4の位置を含め奥行き76cm、幅55cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、中央部から焚口付近かけて長径43cm程度の焼面がみられる。奥壁はわずかに外反して14cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道先端部付近は、上部がSD305、Pit566・585の重複により失われているが、規模は残存値で長さ144cm、幅15～35cm、深さ14～49cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに下がり、先端部はピット状を呈する。



SI440 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)少量、焼土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR6/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・黒褐色シルト粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	8a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量含む。
	8b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒少量含む。 ※天井崩落土
	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・褐灰色シルト粒少量含む。 ※天井崩落土
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量含む。
	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(10~30mm程度)少量含む。
	13	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)・骨片(5mm程度)微量含む。 ※灰層
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量含む。
	15	10R3/1 暗赤灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
カマド袖構築土	16	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	17	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
	18	10R3/2 暗赤褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量含む。 ※被熱
カマド掘り方埋土	19	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	20	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	21	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	22	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
	23	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	24	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)に含む。
	25	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	26	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	27	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト粒多量含む。
	28	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。

SI440 施設堆積土註記表

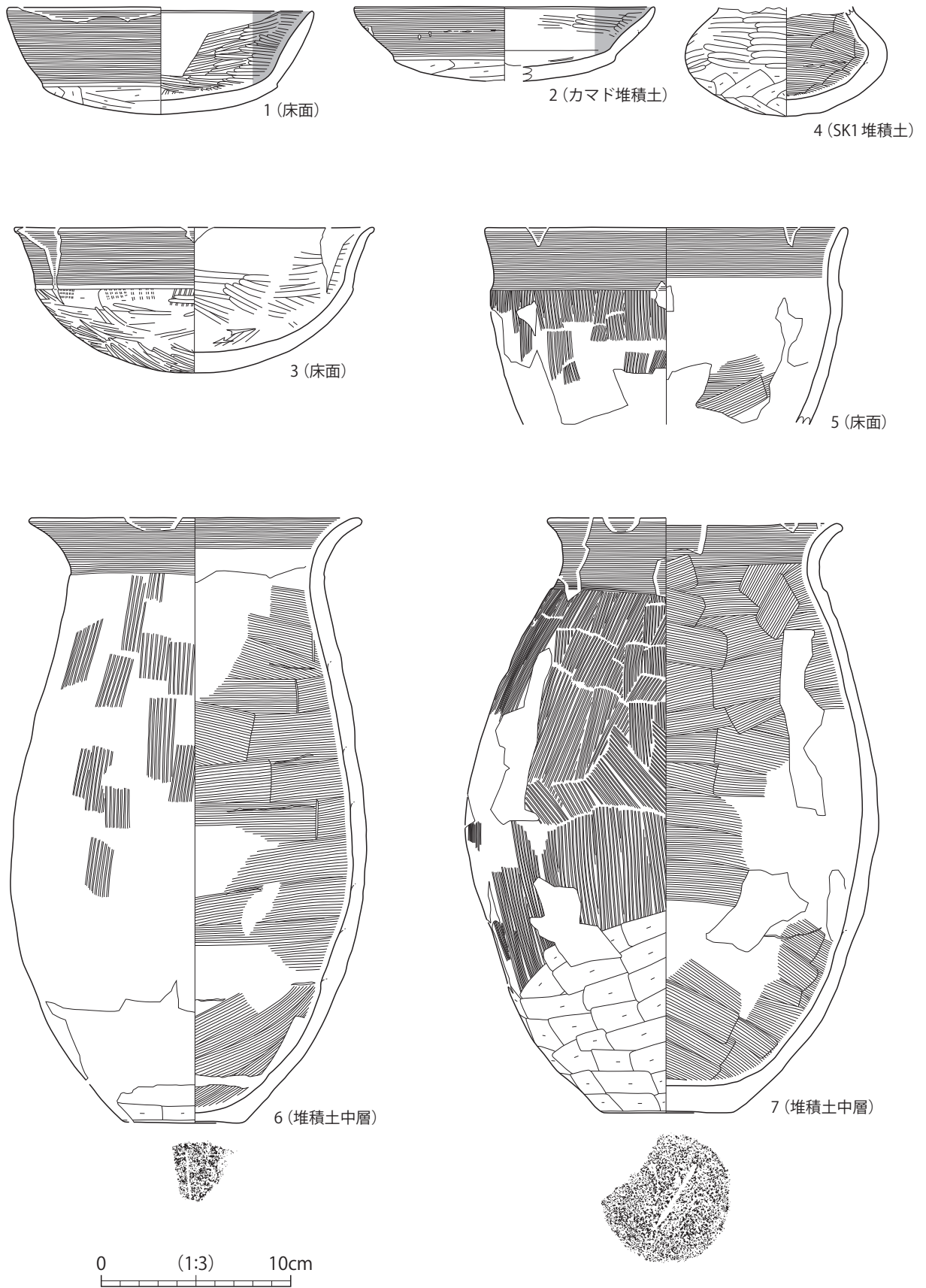
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	3	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルト斑状に少量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・暗褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、灰白色シルトブロック(5mm程度)微量含む。
P6	①	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、灰白色シルト粒・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	②	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(15mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5~30mm程度)多量、IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、暗褐色シルトブロック(5~40mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・灰白色シルトブロック(5~30mm程度)多量含む。
SK2	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/6 褐色	シルト	
SK3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	2	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・骨片(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI440 施設観察表

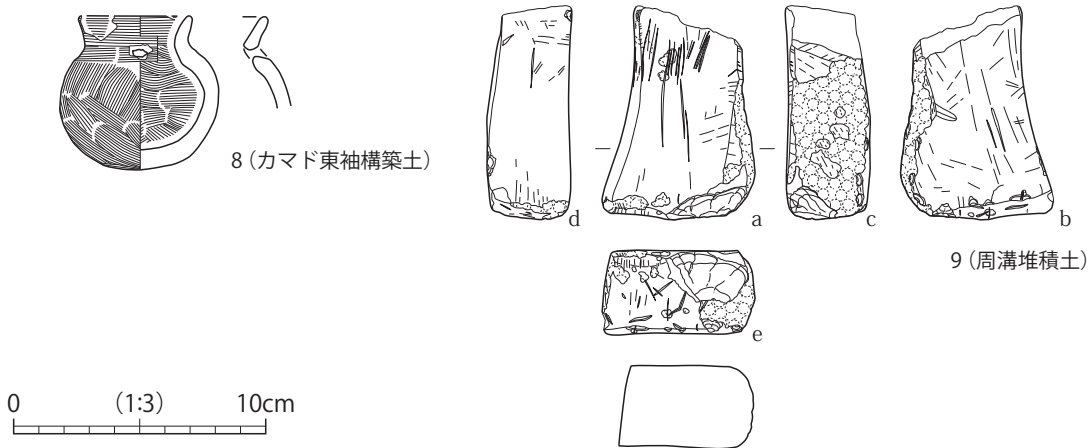
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(94) × 72	62	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	90 × 86	63	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(69) × (33)	35	主柱穴
P4	隅丸長方形	80 × 67	62	主柱穴
P5	隅丸長方形	67 × 65	34	補助柱穴(入口施設か)

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	楕円形	51 × 38	40	補助柱穴
P7	(楕円形)	(35) × (28)	(39)	補助柱穴
SK1	隅丸長方形	121 × 81	41	貯蔵穴
SK2	円形	64 × 57	28	貯蔵穴
SK3	(隅丸長方形)	(70) × (55)	29	貯蔵穴

第183図 SI440 竪穴住居跡(2)



第184図 SI440 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-143	SI440	床面	土師器	環	16.0	—	5.6	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理 外面やや摩滅	333
2	C-145	SI440 カマド	堆積土	土師器	環	(15.8)	—	(3.9)	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	ヘラミガキ	内面黒色処理(被熱により不明瞭) 内外面被熱による赤色化・摩滅	333
3	C-144	SI440	床面	土師器	環	(19.0)	—	7.6	口縁：ヨコテ 体部：ハマヘラズリ→ヘラミガキ 底部：ヘラミガキ	ヘラミガキ	内面やや摩滅 角閃石微量含む	333
4	C-146	SI440 SK1	堆積土	土師器	壺	—	—	(5.7)	胴上半：ヘラミガキ 胴下半～底部：ヘラズリ	胴～底部：ヘラテ	角閃石微量含む	334
5	C-457	SI440	床面	土師器	甗	(19.0)	—	(10.4)	口縁：ヨコテ 胴部：ハマ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石微量含む 内外面やや摩滅 外面二次被熱による赤色化	334
6	C-147	SI440	堆積土中層	土師器	甗	17.2	(6.2)	(31.9)	口縁：ヨコテ 胴部：ハマ 胴下端：ヘラズリ	口縁：ヨコテか 胴～底部：ヘラテ	底部木葉痕 角閃石微量含む 内外面やや摩滅	334
7	C-456	SI440	堆積土中層	土師器	甗	(10.2)	(6.8)	31.4	口縁：ヨコテ 胴上半：ハマ 胴下半～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 胴部～底部：ヘラテ	底部木葉痕 角閃石微量含む	334
8	C-148	SI440 カマド 東袖	構築土	土師器	ミチアケ壺	4.3	—	6.1	口縁：ヨコテ 体～底部：北テ	口縁：ヨコテ 体～底部：北テ	角閃石少量含む 頸部2箇所焼成前穿孔	334

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
9	Kd-018	SI440 周溝	堆積土	石製品	砥石	(8.4)	6.1	3.4	241.1	砂岩	砥面5面 溝状痕(a・b・d・e面) 線条痕(a～e面) 敲打痕(a・c～e面) 節理(c面) 端部欠損	334

第185図 SI440 竪穴住居跡出土遺物 (2)

【掘り方】 深さ1～10cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI405・410・475との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)の可能性はある。

SI442 竪穴住居跡 ※令和2年度の調査で報告・写真図版のみ掲載

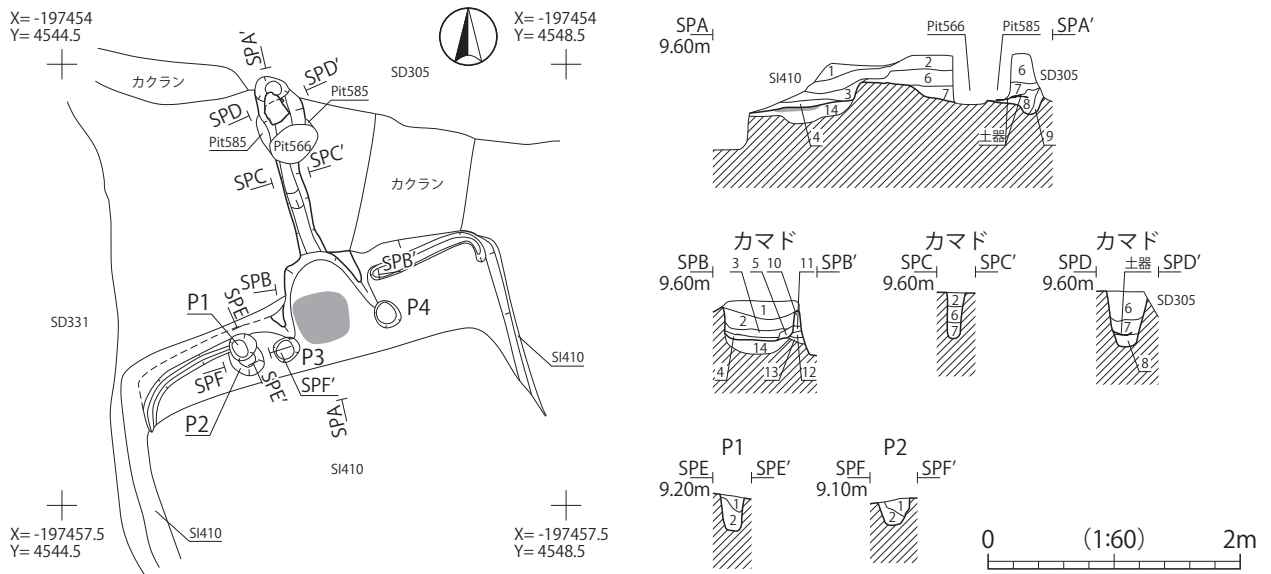
SI443 竪穴住居跡 (第187図)

【位置・確認】 調査区北西部の35・36・43・44区に位置する。北半部の壁と床面の一部が、SD287の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SB47、SD287・288、Pit875より古く、SI459より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸405cm、短軸400cmを測り、平面形は隅丸方形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。



SI441 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※下部が焼土化、天井崩落土か
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土粒・灰少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰多量、焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※灰層
	5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	焼土粒少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	9	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※内面被熱
	12	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
カマド掘り方埋土	13	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒少量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI441 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	—	—	—	※註記なし
P4	—	—	—	※註記なし

SI441 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	22×21	15	補助柱穴
P2	(楕円形)	(29)×25	11	補助柱穴
P3	円形	20×18	15	カマド袖芯材埋設穴
P4	円形	22×21	15	カマド袖芯材埋設穴

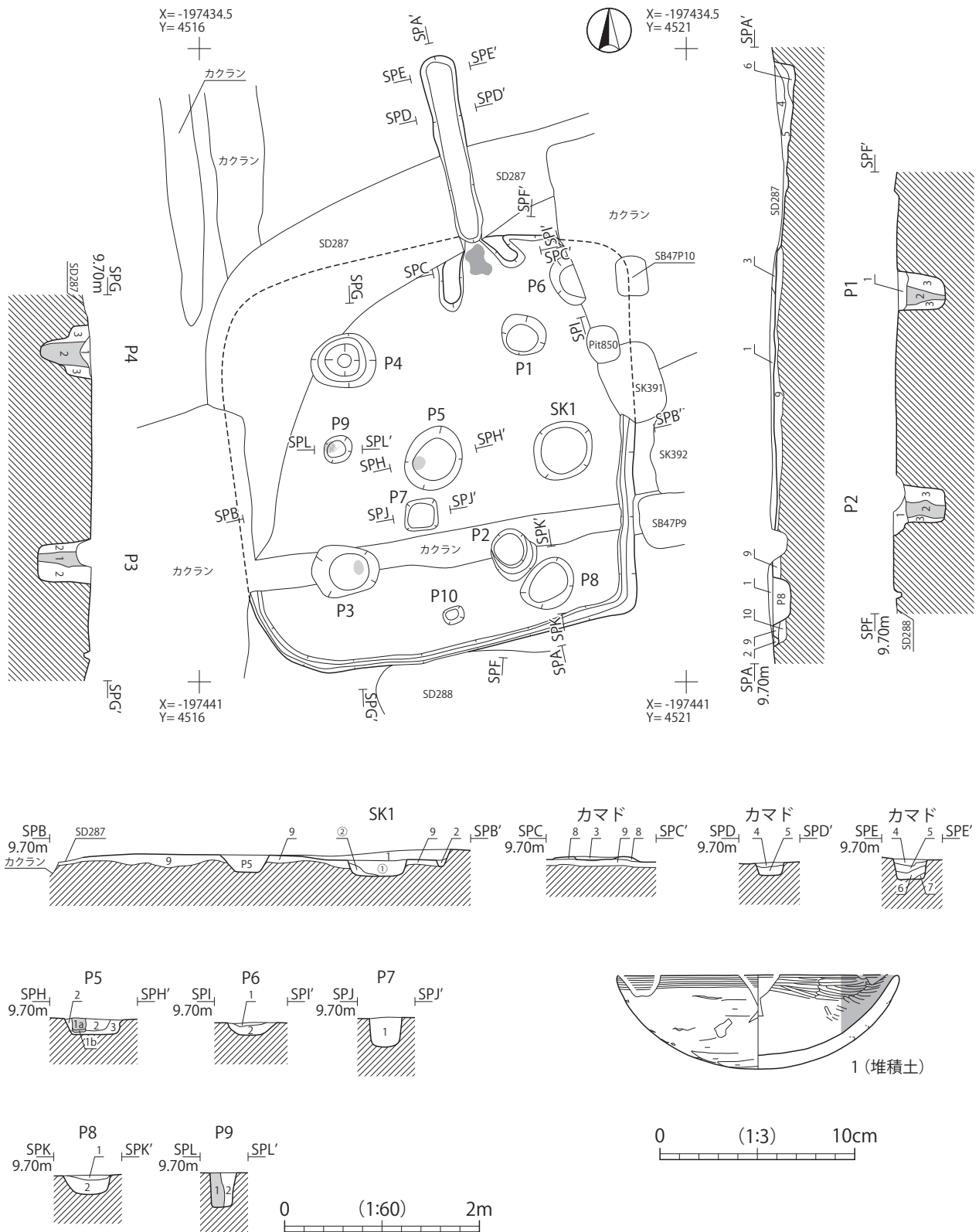
第186図 SI441 竪穴住居跡

【堆積土】 10層に分層した。1層は灰黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3～7層はカマド堆積土である。8層はカマド袖構築土、9・10層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で13cm残存するが、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基(P1～5・7～10)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸45～68cm、短軸40～56cm、深さ50～54cmを測る。P1・2・4の堆積土下半とP3の堆積土で、径15～26cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP5・7～10の配置は不規則である。P10は南壁中央部の手前に配置されるため、入口施設に関連する柱穴の可能性もある。P5・9で径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-149	SI443	堆積土	土師器	環	(14.4)	—	4.8	口縁：ヨリナリ 体部：アラカシ	ハラミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	334

第187図 SI443 竪穴住居跡・同出土遺物

SI443 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色シルトブロック斑状に含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	炭化物粒多量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	7	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量含む。
住居掘り方埋土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	10	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。

SI443 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
P5	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	5B6/1 青灰色	粘土質シルト	※底面変色範囲
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P6	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルト粒少量含む。
	2	5YR2/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK1	①	5YR2/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、IV層土斑状に少量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。

SI443 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	45×40	50	主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(54)×46	53	主柱穴 柱痕跡
P3	(楕円形)	(68)×54	54	主柱穴 柱痕跡
P4	楕円形	(67)×56	51	主柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	68×56	17	補助柱穴 柱痕跡
P6	(楕円形)	51×(27)	11	貯蔵穴か

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P7	隅丸方形	34×32	31	補助柱穴
P8	楕円形	59×47	21	補助柱穴
P9	円形	30×27	34	補助柱穴 柱痕跡
P10	楕円形	22×17	35	補助柱穴(入口施設か)
SK1	円形	60×59	19	カマド関連土坑

【周溝】 残存範囲では、壁面が残存する東壁中央付近から南西隅にかけて検出した。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅9～19cm、深さ3～9cmを測る。

【カマド】 北壁中央部からやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、燃烧部は基底付近のみ残存し、東袖の先端部も失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、東袖の規模は残存値で長さ40cm、幅22～23cm、西袖は長さ56cm、幅23～25cmを測る。

燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き65cm、幅47cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面が長軸31cm程度の範囲で見られる。奥壁は伴わない。煙道部は燃烧部底面から4cm程度一段下がった位置から延び、規模は長さ195cm、幅30～36cm、深さ8～23cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面から土坑1基(SK1)、ピット1基(P6)を検出した。SK1は東壁寄りの中央部に位置し、焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸59cm、深さ19cmを測る。P6は北東隅に配置され、土坑状で浅いことから貯蔵穴の可能性も考えられる。

【掘り方】 深さ2～14cmを測り、東壁際と南壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器、金属製品などが出土し、土師器環1点を掲載した(第187図)。半球形を呈し、体部から口縁部に向かって内湾する。内面に黒色処理が施されている。色調は淡橙色を呈し、胎土は精良で細砂と多量の赤色粒子を含む。関東系土師器が在地化したものと考えられる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SB47との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI444 竪穴住居跡 ※令和2年度の調査で報告・写真図版のみ掲載

SI445 竪穴住居跡(第188・189図)

【位置・確認】 調査区中央部の63・64・72・73区に位置する。東部は攪乱により失われている。

【重複】 SI447・449・450・482、SD343、Pit1415より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸435cm、短軸358cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。北壁の東半部は、やや外側に広がる。

【方向】 カマドを基準としてN-32°-Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～9層は黒褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。10層は周溝堆積土、11～17層はカマド堆積土である。18・19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で37cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、褐灰色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。カマド前から中央部にかけて炭化物範囲がみられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅8～15cm、深さ4～14cmを測る。北壁を除く各周溝の底面で、壁材の痕跡とみられるくぼみを検出した。西壁周溝内では、一定程度の間隔を空けて周溝全体に並ぶが、東・南壁周溝内では部分的な検出に留まっている。

【カマド】 北壁中央部から西寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。燃烧部は壁外に位置し、規模は奥行き62cm、幅55cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに下がり、焚口付近に長径32cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端部の手前がPit1020の重複により失われているが、規模は長さ164cm、幅26～32cm、深さ7～35cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面でピット3基(P1～3)を検出した。いずれも土坑状で浅く、P1はカマドの前方、P2・3はカマドの左右に配置されている。P1は焼土や炭化物を含むことからカマド関連の土坑、P2・3は形状からも貯蔵穴とみられる。

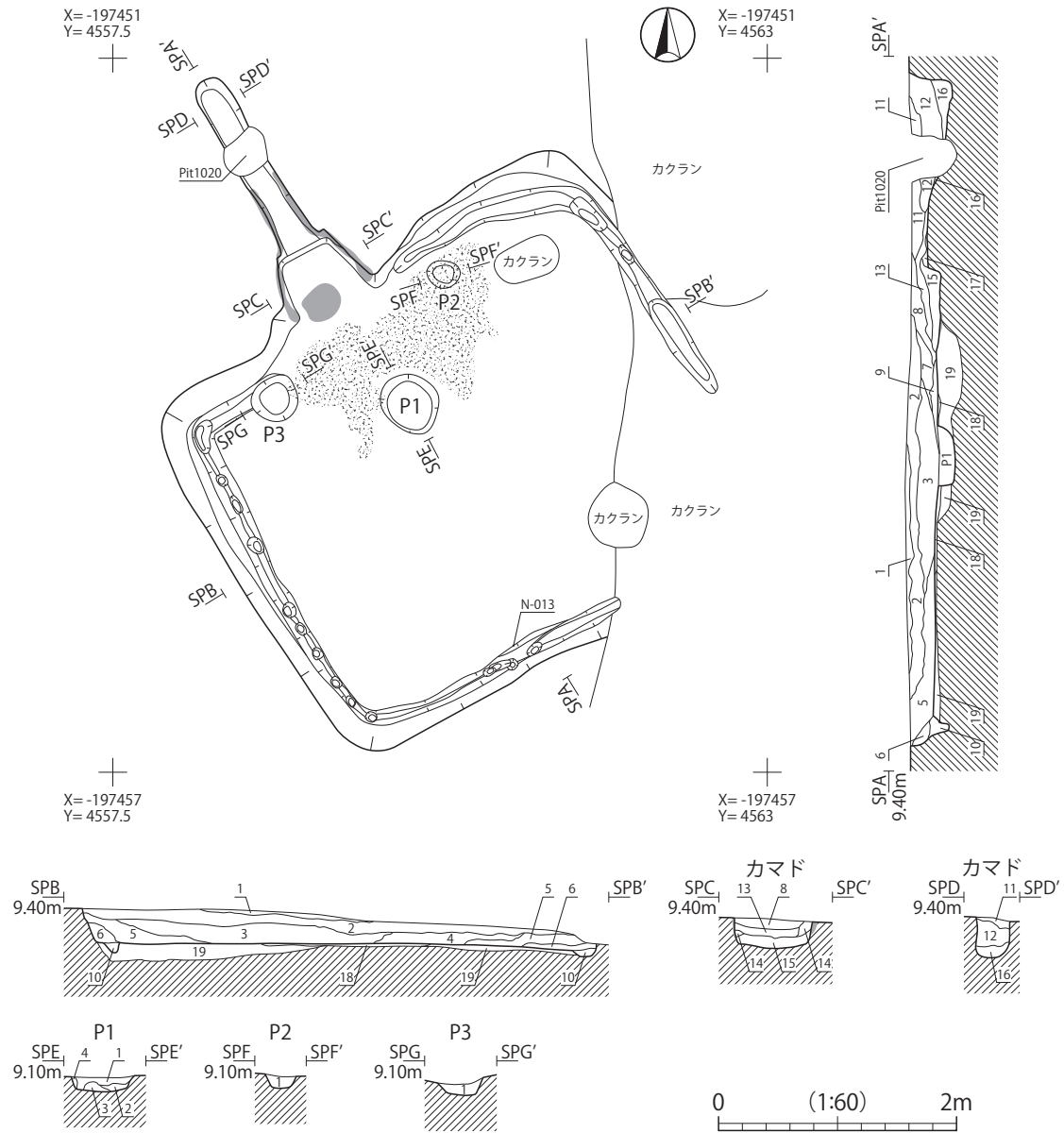
【掘り方】 深さ7～20cmを測り、西壁際と北半部が不規則に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第189図)。

1は浅身の土師器環である。体部は緩やかに内湾し、口縁部で外反気味に外傾する。口縁部と体部の境には幅の広い沈線状の段が粗く施されている。内面に黒色処理が施されている。

2は曲刃の鉄鎌である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI447・449・450・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以降と考えられる。



SI445 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒・黒褐色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。 ※一部グライ化
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	10	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	14	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	炭化物粒少量、焼土ブロック(5~20mm程度)微量含む。
	15	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)・灰少量含む。
	16	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	炭化物粒多量、IV層土粒少量含む。
	17	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰白色粘土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	18	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

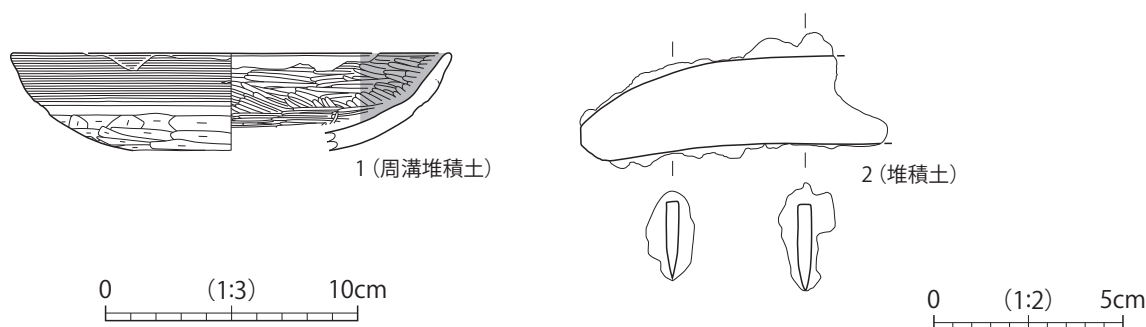
第188図 SI445 竪穴住居跡

SI445 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、IV層土ブロック(5～20mm程度)・焼土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土粒多量、IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR2/1 黒色	シルト	IV層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI445 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	53×47	15	カマド関連土坑
P2	楕円形	28×23	11	貯蔵穴
P3	円形	39×37	16	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-460	SI445 周溝	堆積土	土師器	環	(17.4)	—	(3.8)	口縁：ヨコジ 体部：アハズリ	ハマガキ	内面黒色処理	334
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版	
						全長	幅	厚さ				
2	N-013	SI445	堆積土	金属製品	鉄鎌	(8.1)	2.3	0.4	30.6	刃部 曲刃	334	

第189図 SI445 竪穴住居跡出土遺物

SI446 竪穴住居跡 (第190～192図)

【位置・確認】 調査区中央部の63・72区に位置する。全体的に残存状態が良好な住居跡である。

【重複】 SI405・452・482・483・486・490、SD343、Pit1083より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸442cm、短軸319cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-14°-Wを測る。

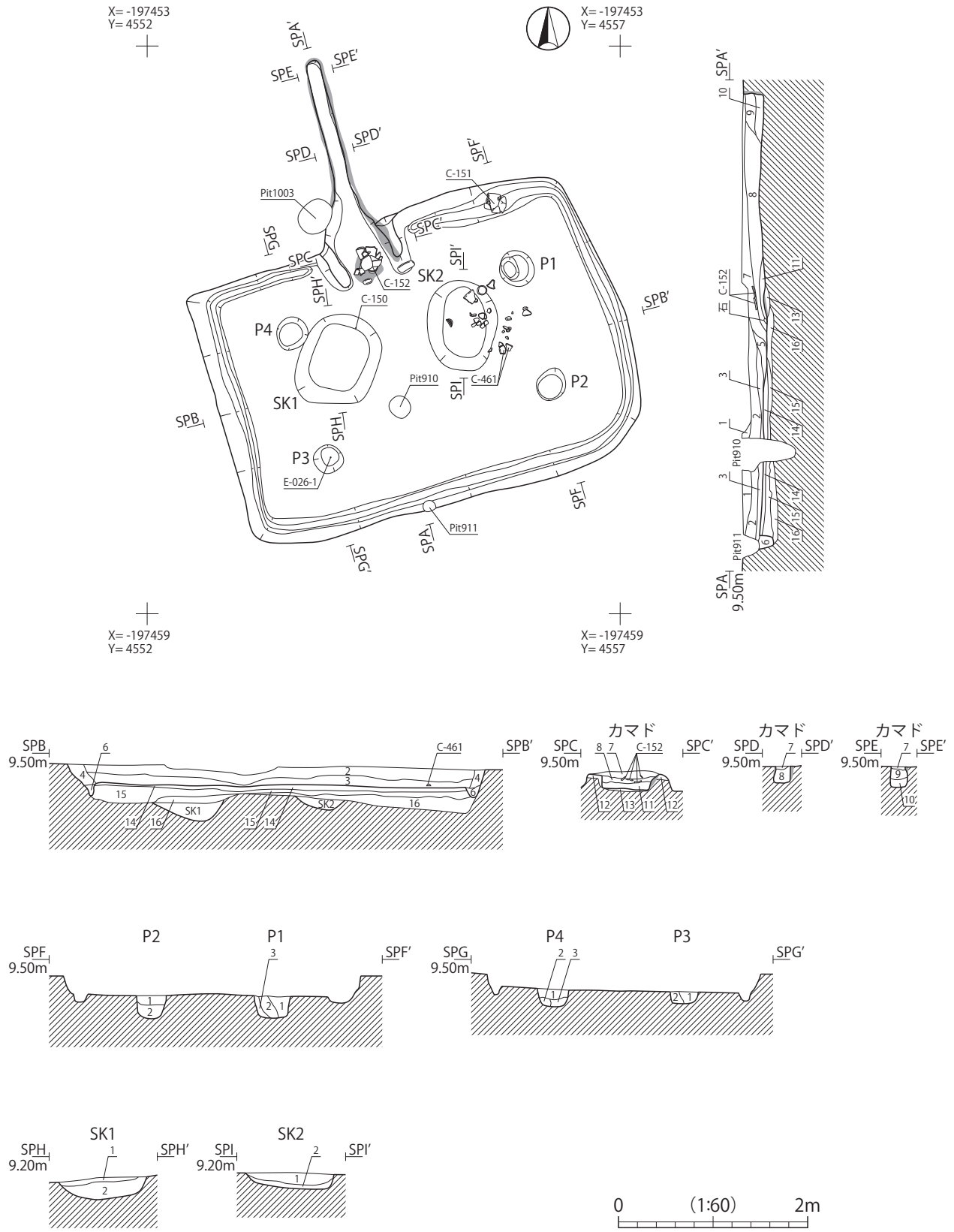
【堆積土】 16層に分層した。1～5層は暗褐色・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～11層はカマド堆積土である。12層はカマド袖構築土、13層はカマド掘り方埋土、14～16層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で26cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で4基(P1～4)を検出した。規模や位置からいずれも主柱穴と考えられ、規模は長軸30～39cm、短軸30～36cm、深さ12～28cmを測る。いずれも浅い柱穴で、西側のP3・4はP1・2の1/2程度の深さである。P1・3・4では柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅8～17cm、深さ7～13cmを測る。



第190図 S1446 竪穴住居跡

SI446 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	10	10YR2/1 黒色	シルト	炭化物粒多量、焼土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・灰多量、炭化物粒微量含む。 ※灰層
カマド袖構築土	12	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	13	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
住居掘り方埋土	14	10YR7/2 にぶい黄橙色	シルト	炭化物粒少量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、灰色シルトブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI446 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・灰白色粘土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y7/2 灰黄色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI446 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	39×36	28	主柱穴
P2	円形	36×32	21	主柱穴
P3	円形	30×30	12	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	36×33	14	主柱穴
SK1	隅丸長方形	99×82	27	性格不明土坑
SK2	楕円形	95×74	20	性格不明土坑

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ63cm、幅26cm、西袖は長さ50cm、幅23cmを測る。東袖の先端部には砂岩の加工礫による芯材が埋設されているが、上部は失われている。燃焼部は大部分が壁内に位置するが、奥壁側1/4程度が壁外に張り出す。規模は奥行き59cm、幅58cmを測る。底面は中央部がわずかに高まり、焚口付近に長径34cm程度の焼面がみられる。煙道部は長さ184cm、幅15~52cm、深さ20~23cmを測り、底面は燃焼部底面から水平に延び、中央部付近がわずかに高まる。

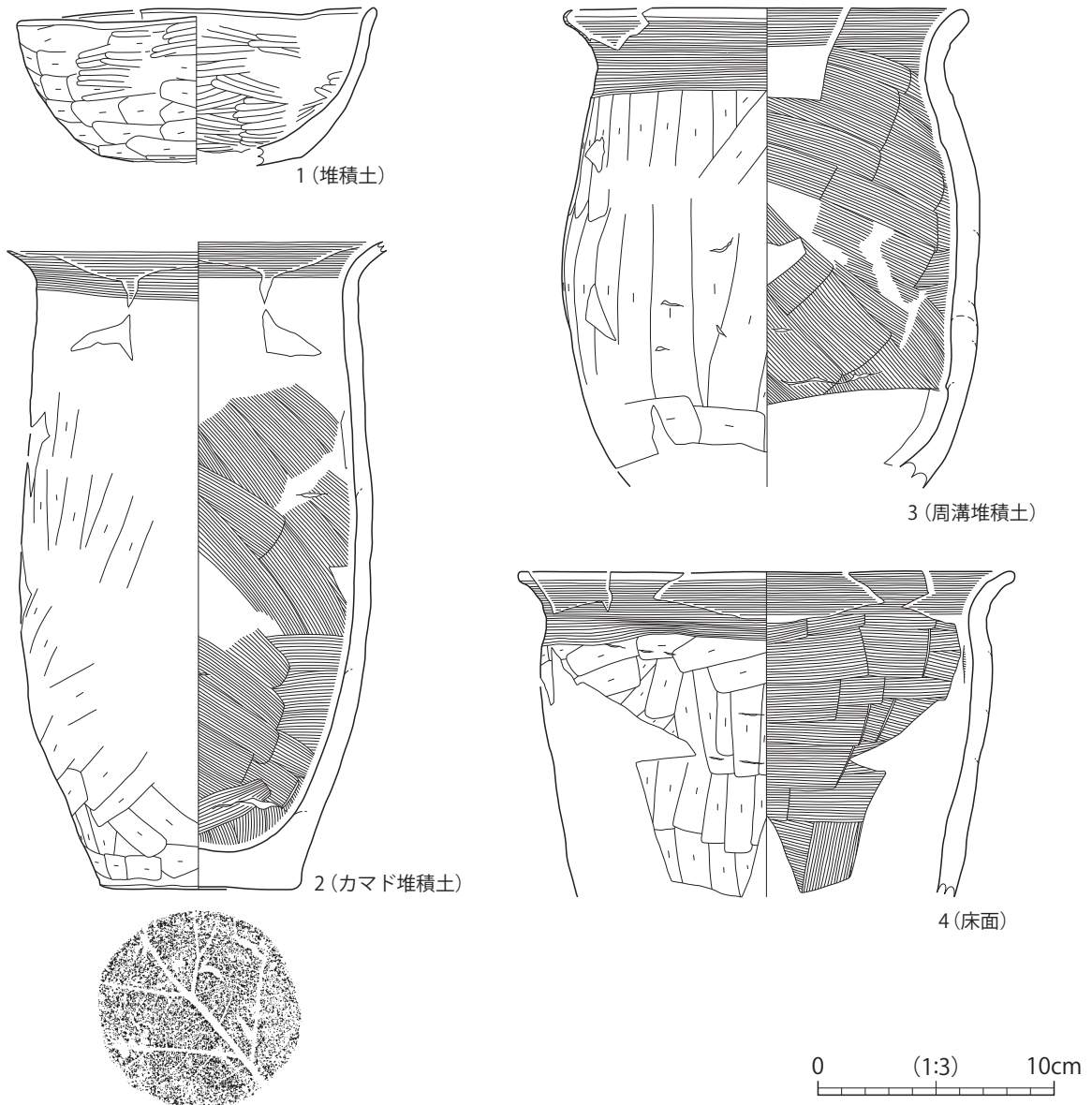
【その他の施設】 掘り方で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともにカマド前に位置し、東西に並ぶかたちで検出した。性格は不明である。

【掘り方】 深さ9~28cmを測り、南東部と南西部が土坑状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏1点・甕3点、須恵器甕1点を掲載した(第191・192図)。2はカマドから潰れた状態で出土した。1は土師器坏である。平底風丸底を呈すると考えられ、体部は緩やかに内湾し、口縁部で短く外傾する。内面の黒色処理は認められない。2~4は土師器甕である。2の胴部は円筒形、3は胴部中位に最大径が位置する張りの弱い楕円形を呈する。頸部はいずれも稜を持つ。外面はいずれも弱いヘラケズリが施され、3が胴部下位を、4が頸部の稜の下を横方向に施しており、部分的に調整の方向が異なる。2の色調はにぶい橙色~黄橙色、3はにぶい橙色~にぶい黄橙色、4は橙色を呈する。2・3の胎土は粗く、ともに3mm以下の砂礫と海綿骨針を含み、3は赤色粒子を含む。4は精良で、細砂と海綿骨針を微量含む。5-1と5-2は須恵器甕の同一個体と考えられ、把手が付されていたと考えられる。胴部は

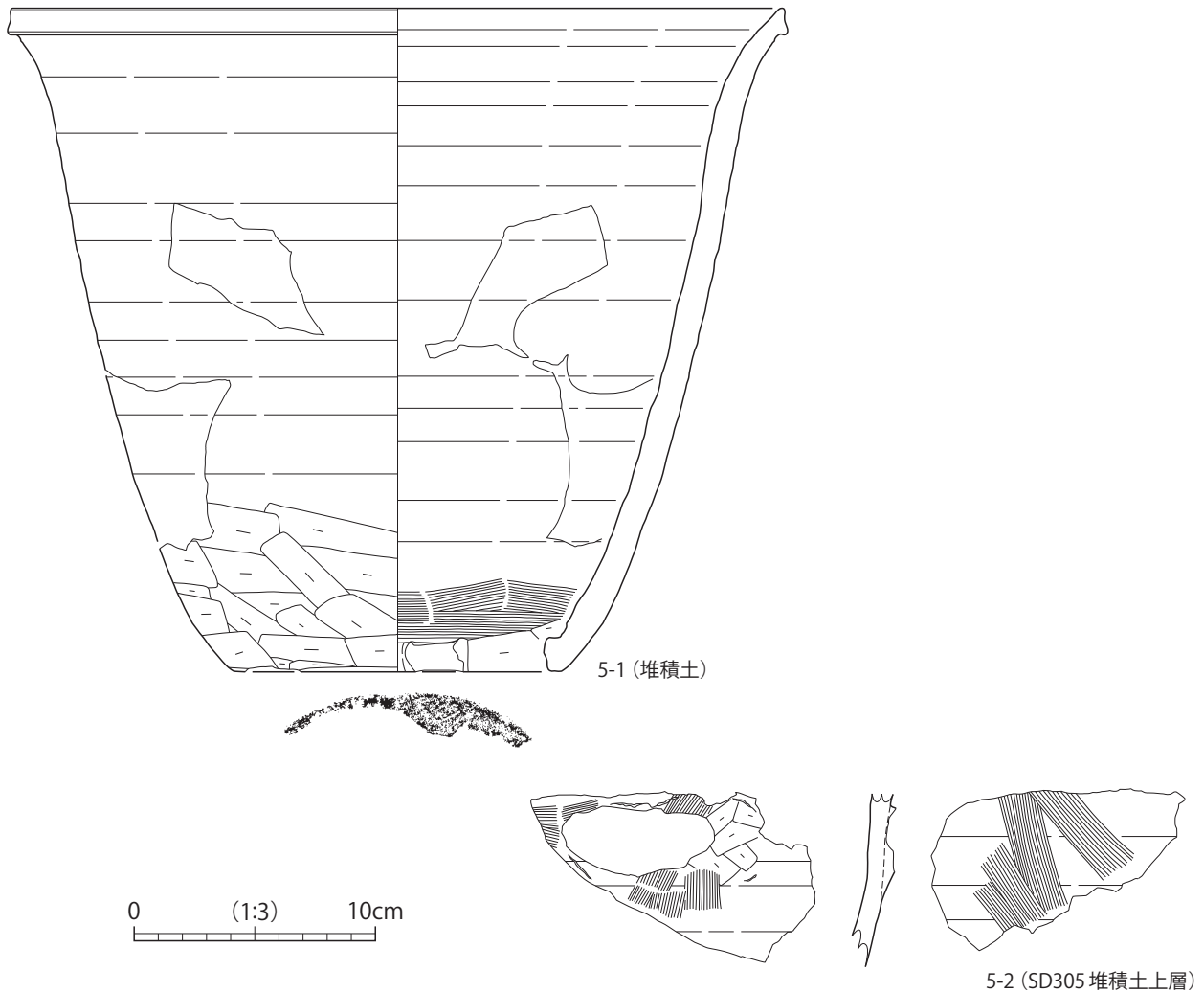
外傾し、口縁部は外反する。口縁端部は緩い凹面を持ち、下端は垂下する。底部は欠損しているが、2箇所以上の孔が確認されるため、多孔式とみられる。5-2は把手が剥離したもので、剥離の痕跡から扁平な把手が付されていたと考えられる。色調は灰白～灰色を呈し、胎土は精良で、砂粒と黒色粒子、少量の海綿骨針を含む。焼成はやや軟質である。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器甕(第191図2・4)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-150	SI446	堆積土	土師器	甕	14.9	—	6.7	口縁：ヘラスリ→ヘラミガキ 体～底部：ヘラスリ	ヘラミガキ	角閃石微量含む	335
2	C-152	SI446 カマド	堆積土	土師器	甕	(16.1)	8.4	27.4	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラスリ	口縁：ヨコテ 胴～底部：ヘラテ	底部木炭痕 骨針中量、角閃石少量含む 内外面摩滅	335
3	C-151	SI446 周溝	堆積土	土師器	甕	16.7	—	20.3	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	骨針中量、角閃石少量含む	335
4	C-461	SI446	床面	土師器	甕	(20.8)	—	(13.7)	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラスリ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	骨針微量含む	335

第191図 SI446 竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
5-1	E-026-1	SI446	堆積土	須恵器	甗	(32.0)	(13.8)	27.5	口縁～胴中位：叩調整 胴下位～底部：ハカスリ	口縁～胴中位：叩調整 胴下位：ヒナテ 底部：ハカスリ	多孔式穿孔2箇所 骨針少量、角閃石中量含む	335
5-2	E-026-2	SD305	堆積土上層	須恵器	甗 (把手)	—	—	(7.4)	叩調整→ハカスリ→ヒナテ	叩調整→ヒナテ	骨針少量、角閃石中量含む	335

第192図 SI446 竪穴住居跡出土遺物 (2)

SI447 竪穴住居跡 (第193・194図)

【位置・確認】 調査区北東部の55・56・63・64区に位置する。カマドを含む東壁の大部分と南東部が、攪乱により失われている。

【重複】 SI445より古く、SI448～450より新しい。

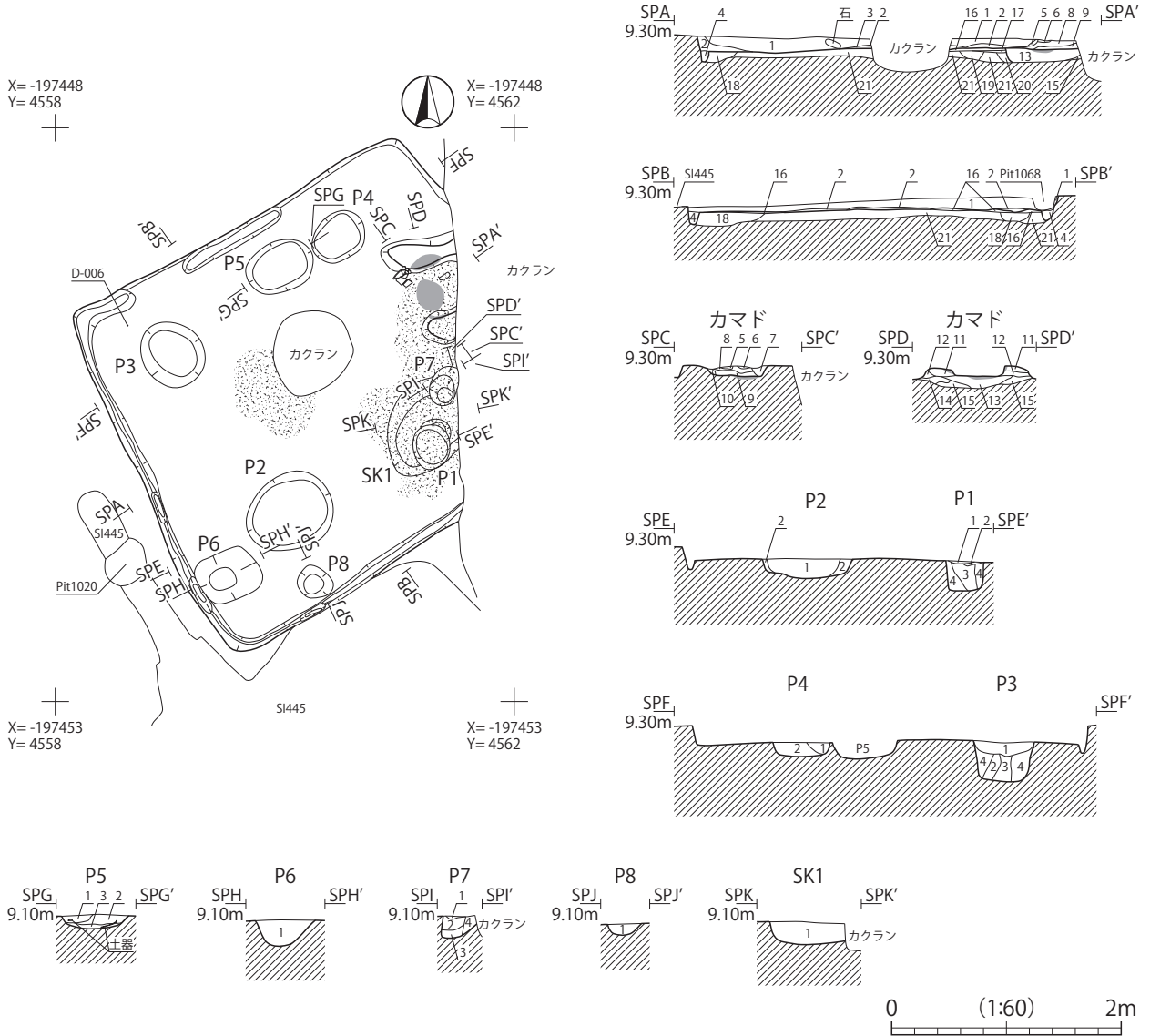
【規模・形態】 確認された規模は長軸348cm、短軸318cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-60°-Eを測る。

【堆積土】 21層に分層した。1～3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～10層はカマド堆積土である。11・12層はカマド袖構築土、13～15層はカマド掘り方埋土、16～21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



SI447 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒多量含む。
周溝堆積土	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド堆積土	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	6	5YR3/6 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック (5 ~ 10mm 程度) 多量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰多量、焼土ブロック (5mm 程度) 少量、骨片微量含む。 ※灰層
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック (5mm 程度) 少量、灰微量含む。
カマド軸構築土	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
住居掘り方埋土	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒帯状、炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5 ~ 20mm 程度) 少量含む。
	20	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック主体。

第193図 SI447 竪穴住居跡

SI447 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック(5～20mm程度)・炭化物ブロック(5～20mm程度)少量、灰・骨片微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。

SI447 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	37×33	25	主柱穴
P2	円形	78×66	15	主柱穴
P3	円形	60×53	36	主柱穴
P4	楕円形	50×40	12	主柱穴
P5	楕円形	61×44	13	補助柱穴か

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P6	隅丸長方形	53×43	27	補助柱穴
P7	楕円形	35×24	28	補助柱穴
P8	円形	31×28	16	補助柱穴か
SK1	楕円形	(82)×69	26	性格不明土坑

【柱穴】 床面で8基(P1～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸37～78cm、短軸33～66cm、深さ12～36cmを測る。P2・4は土坑状で浅く、P2は大型である。P1・3で柱の抜き取り痕を確認した。P5～8は補助柱穴と考えられるが、P5・8は土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P7で柱の抜き取り痕を確認した。

【周溝】 残存範囲では、西壁から南壁にかけてと、北壁の一部に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～19cm、深さ6～11cmを測る。南壁と西壁の底面では、壁材の痕跡とみられるくぼみを数箇所検出した。

【カマド】 東壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されているが、燃烧部の奥壁周辺と煙道部は攪乱により失われている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は残存値で長さ31cm、幅30cm、北袖は長さ65cm、幅28cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は残存値で奥行き48cm、幅48cmを測る。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径29cm程度の焼面がみられる。支脚の可能性のある自然礫が焼面の奥壁寄りから1点出土した。

【その他の施設】 掘り方で1基(SK1)の土坑を検出した。P1・7と重複するが、性格は不明である。

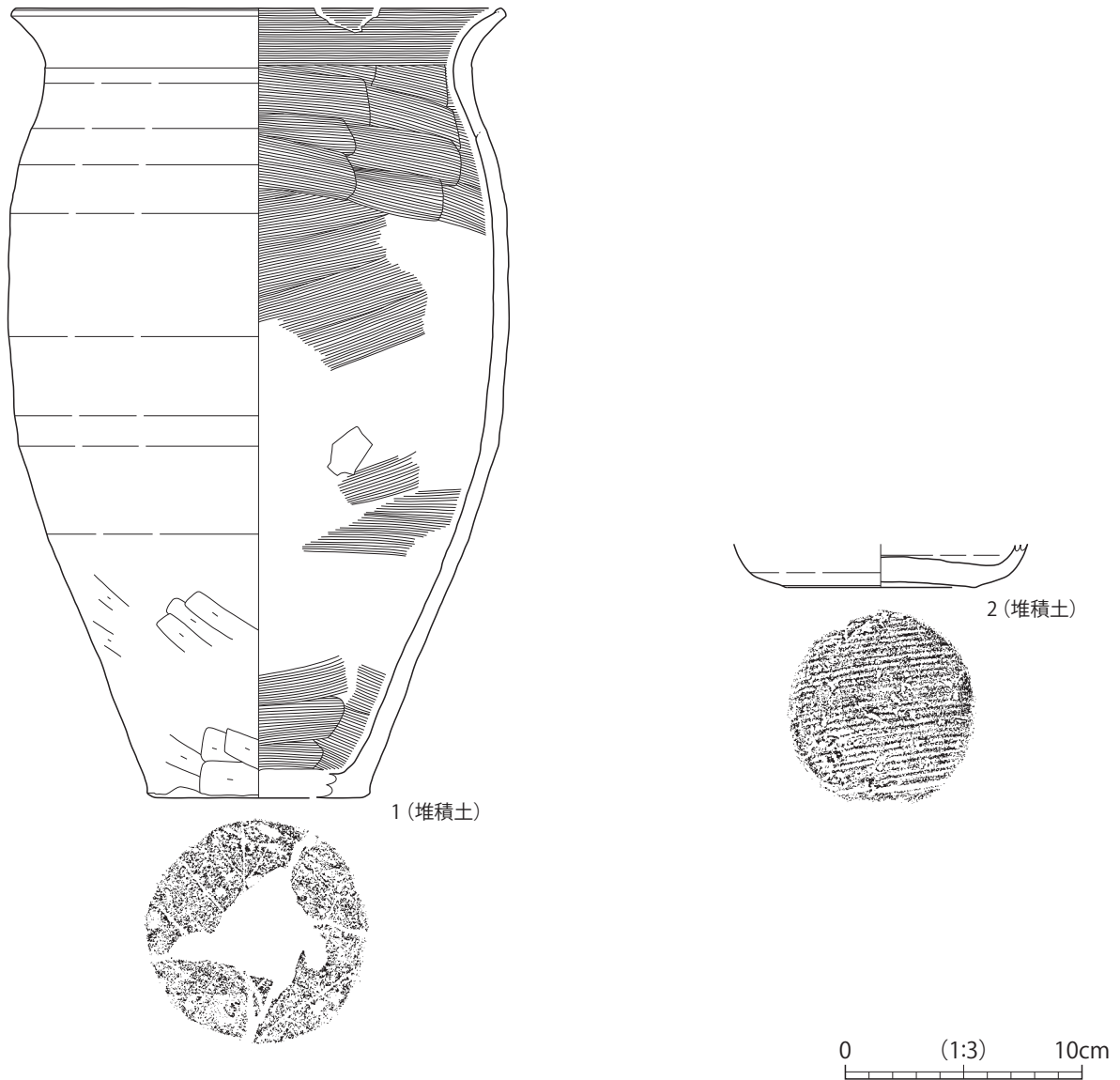
【掘り方】 深さ2～12cmを測り、南壁から西壁にかけての壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、鉄滓などが出土し、ロクロ土師器甕1点、須恵器環1点を掲載した(第194図)。

1はロクロ土師器甕である。胴部上位に最大径が位置し、中位から底部に向かってすぼまる。口縁部は緩やかに外反する。口縁端部は方形状を呈し、内側に折り返している。内面の胴部中位から下位にかけて炭化物が付着している。

2は須恵器環で、体部～口縁部は欠損している。底部の切り離しは静止糸切りで、再調整は認められない。色調はにぶい赤褐色～橙色を呈し、胎土はやや粗く、砂粒と2mm以下の赤色粒子、多量の海綿骨針を含む。焼成は軟質で、土師器の質感を持つ。

【時期】 堆積土から出土したロクロ土師器甕と須恵器環(第194図1・2)の特徴およびSI448～450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	D-006	SI447	堆積土	ロクロ 土師器	甃	(20.5)	(8.6)	33.4	口縁～胴中位：ㇿㇿ 胴下位～底部：ㇿㇿ	口縁：ㇿㇿ 胴～底部：ㇿㇿ	底部木葉痕 内面胴部中～下 位に炭化物付着 外面二次被 熱による赤色化	336
2	E-027	SI447	堆積土	須恵器	坏	—	(8.0)	(1.9)	ㇿㇿ調整 底部：静止糸切	ㇿㇿ調整	骨針多量、角閃石微量含む	336

第194図 SI447 竪穴住居跡出土遺物

SI448 竪穴住居跡 (第195・196図)

【位置・確認】 調査区北東部の55・56・64区に位置する。北西隅と、カマド前から北東・南東部にかけての床面、東壁は攪乱により、南壁はSI447の重複により失われている。

【重複】 SI406・447、SD296・319、Pit1064より古く、SK446より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸481cm、短軸468cmを測り、平面形は方形を呈する。

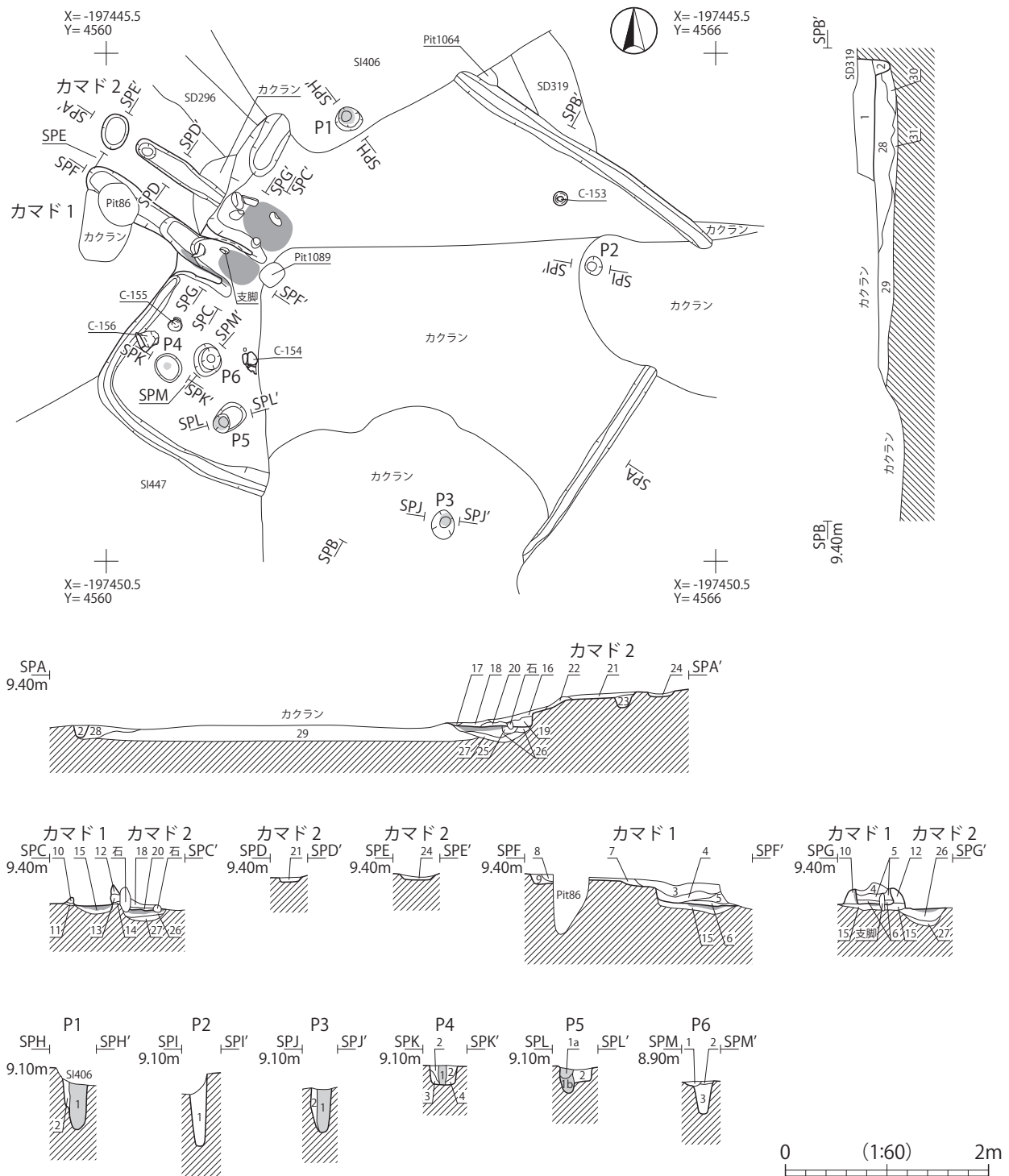
【方向】 カマド1を基準としてN-58°-Wを測る。

【堆積土】 31層に分層した。1層は黒褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3～9層はカマド1堆積土である。10～14層はカマド1袖構築土、15層はカマド1掘り方埋土である。16～24層はカマド2堆積土、25～27層はカマド2掘り方埋土、28～31層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で27cmを測る。

【床面】 残存範囲では概ね平坦である。褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で5基(P1～5)、掘り方で1基(P6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～3・6の規模は、残存値も含め長軸18～31cm、短軸17～27cm、深さ32～71cmを測る。P1・3で径14～18cm程度の柱痕跡を確認した。補助柱穴と考えられるP4・5は、P6の南側に寄って東西に並んで配置されている。ともに径8～13cm程度の柱痕跡を確認した。



第195図 SI448 竪穴住居跡

SI448 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(30mm程度)少量含む。
周溝堆積土	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
カマド1 堆積土	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒斑状に少量含む。
	6	10YR5/1 褐灰色	シルト	焼土粒・炭化物粒・骨片微量含む。 ※灰層
	7	10YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック(10～20mm程度)多量、IV層土粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
カマド1 袖構築土	10	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	12	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	13	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土粒少量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒、焼土粒微量含む。
カマド1 掘り方埋土	15	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
カマド2 堆積土	16	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	18	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	20	10YR5/1 褐灰色	灰層	焼土粒・炭化物粒・灰・骨片微量含む。
	21	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	22	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	24	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド2 掘り方埋土	25	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒、焼土粒微量含む。
	26	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
	27	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
住居掘り方 埋土	28	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック主体。
	29	10YR4/6 褐色	シルト	IV層土ブロック主体。
	30	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。
	31	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～20mm程度)少量含む。

SI448 施設堆積土註記表

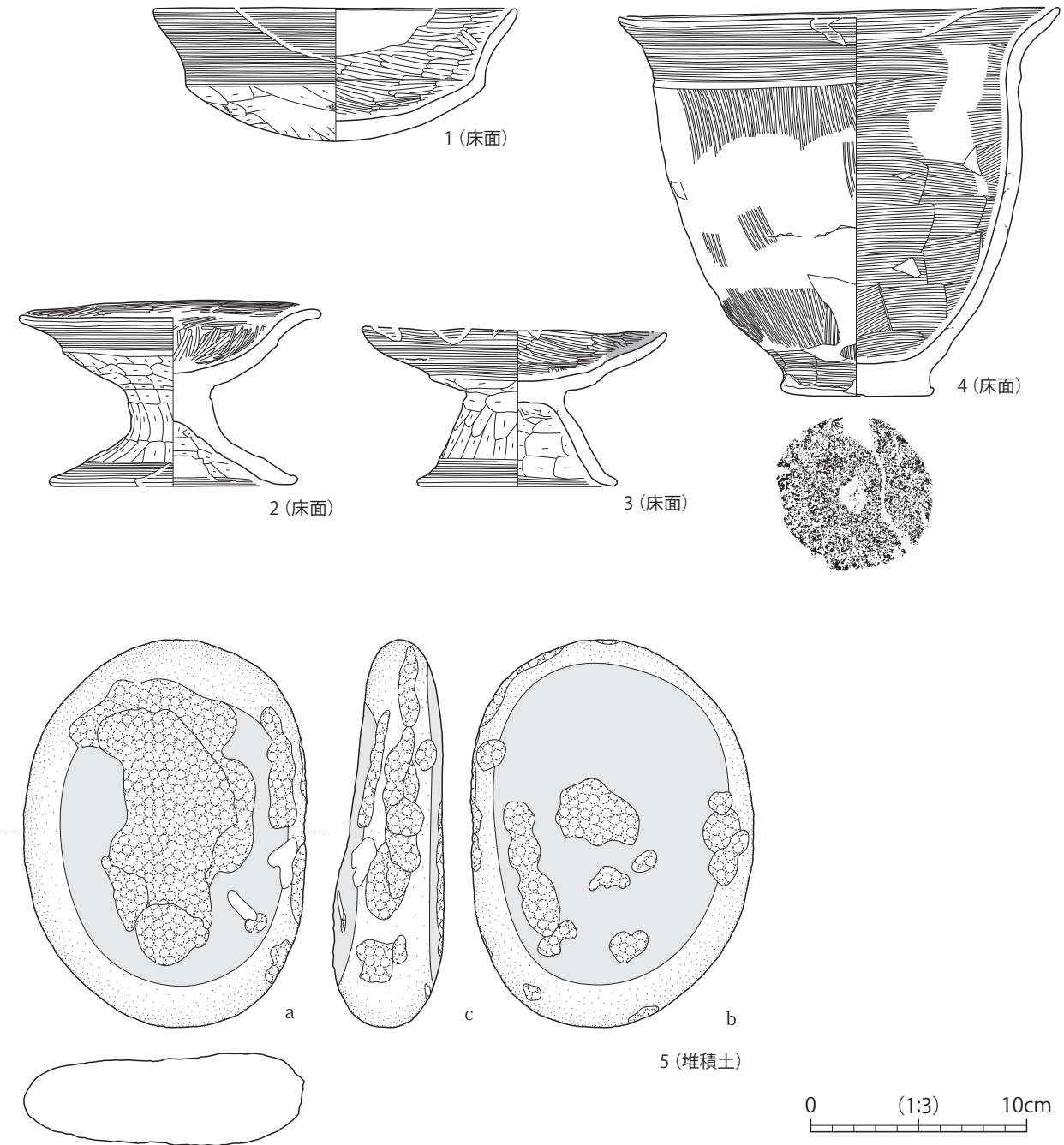
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P2	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P5	1a	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	1b	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
P6	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量含む。

SI448 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(25)×(24)	(51)	主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(18)×(17)	(71)	主柱穴
P3	(楕円形)	(29)×(22)	(42)	主柱穴 柱痕跡
遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	28×26	19	補助柱穴 柱痕跡
P5	楕円形	34×24	27	補助柱穴 柱痕跡
P6	楕円形	31×27	32	主柱穴

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐり。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～28cm、深さ5～11cmを測る。

【カマド】 西壁に並んだ状態で、カマド1・2を検出した。カマド1が新しい。カマド1は壁の中央部からやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ61cm、幅14cm、北袖は長さ68cm、幅17cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き71cm、幅35cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径40cm程度の焼面がみられる。焼面の奥壁側に棒状の自然礫による支脚が埋設されている。奥壁は直立気味に12cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道は先端部付近の一部がPit86の重複や攪乱により失われているが、規模は残存値で長さ125cm、幅22～27cm、深さ3～10cmを測る。底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がり、先端部でわずかに下がる。カマド2はカマド1の北側に接し壁面に直交して



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-154	SI448	床面	土師器	环	(16.6)	—	6.2	口縁：ヨナテ 体～底部：ハナメ→ハラズリ	ハラミガキ		336
2	C-153	SI448	床面	土師器	高环	13.7	11.1	8.6	口縁：ヨナテ 体～脚部：ハラズリ 裾部：ヨナテ	口縁：ヨナテ→ハラミガキ 体部：ハラミガキ(放射状) 脚部：ハラズリ 裾部：ヨナテ	外面～内面脚部漆仕上げか 角閃石微量含む 外面裾部火 ハ痕	336
3	C-155	SI448	床面	土師器	高环	14.0	9.0	7.4	口縁：ヨナテ 体～脚部：ハラズリ 裾部：ヨナテ	口縁～体部：ハラミガキ 脚部：ハラズリ 裾部：ヨナテ	坏部内面黒色処理 骨針少 量、角閃石微量含む 体部内 面に火ハ痕	336
4	C-156	SI448	床面	土師器	甕	20.3	6.6	18.0	口縁：ヨナテ 胴部：ハナメ 胴下端～底部：ハラテ	口縁：ヨナテ 胴～底部：ハラテ	底部輪台状	336
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
5	Kc-009	SI448	堆積土	礫石器	台石	18.0	13.0	5.1	1083.5	凝灰岩	磨2面(凸・やや凹) 敲(平坦・側面)	336

第196図 SI448 竪穴住居跡出土遺物

付設されているが、袖は失われ、奥壁と焼面のみ残存する。燃焼部は壁内に位置し、焼面範囲から推定される規模は、奥行き77cm前後、幅41cm以上である。底面は概ね平坦で、焚口付近に長径52cm程度の焼面がみられる。焼面からは袖の芯材や支脚に用いられた可能性がある自然礫が4点出土した。奥壁は直立気味に13cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は削平により先端部の手前が失われているが、規模は残存値で長さ140cm、幅17～22cm、深さ4～15cmを測る。底面は緩やかに立ち上がり、削平されている先端部手前がピット状に一段深く掘り込まれていることから、先端部もピット状を呈していたと考えられる。

【掘り方】 深さ5～24cmを測り、西壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、カマド1・2から土師器・須恵器、礫石器などが出土し、土師器坏1点・高坏2点・甕1点、礫石器1点を掲載した(第196図)。1・3・4は南西部の床面から、2の高坏は北東部の床面から出土した。

1は土師器坏である。丸底を呈し、口縁部は直立して立ち上った後、内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境の内外面に稜を持つ。内面に黒色処理は認められない。2・3は土師器高坏で、ともに口縁部と体部の境に段を持つ。坏部はともに内湾し、2の口縁部は外反して大きく開き、3は内湾気味に外傾する。2の脚部の上位は中実で、裾部は「ハ」字状に開く。3は中空で円錐形を呈し、裾端部で屈曲し短く開く。2は外面と内面の脚部を黒色漆仕上げしているものと考えられる。また、内面には放射状にヘラミガキがやや粗く施されている。3は坏部内面に黒色処理が施されている。2の色調はにぶい赤褐色、3は浅黄橙色を呈する。2の胎土は粉のように細かく精良で、砂粒と赤色粒子を含む一方、3はやや粗く3mm以下の砂礫、少量の赤色粒子と海綿骨針を含む。3は在地の胎土と考えられるが、2は在地産土師器と色調や胎土の様相が異なる。3の坏部内面の底面に火ハネ痕が認められる。4は土師器甕で、頸部に段を持つ。底部は輪台状を呈し、端部が張り出す。釣鐘型を呈し、口縁部は外反し端部でわずかに内湾する。5は台石で、磨石と敲石の機能を併せ持つ。磨面が2面あり、a～c面に敲打痕がみられる。石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土した土師器坏・高坏・甕(第196図1～4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI449 竪穴住居跡(第197図)

【位置・確認】 調査区北部の55・63区に位置する。SI411・445・447の重複や攪乱により大部分が失われ、西部から北壁際を中心に残存する。残存範囲および各住居跡の重複範囲内では、周溝・カマドなどの床面施設は確認されず、柱穴1基のみを検出した。

【重複】 SI411・445・447、Pit1088・1098より古く、SI450より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸373cm、短軸352cmを測り、平面形は方形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-30°-Wを測る。

【堆積土】 5層に分層した。1～3層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4・5層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で18cmを測る。

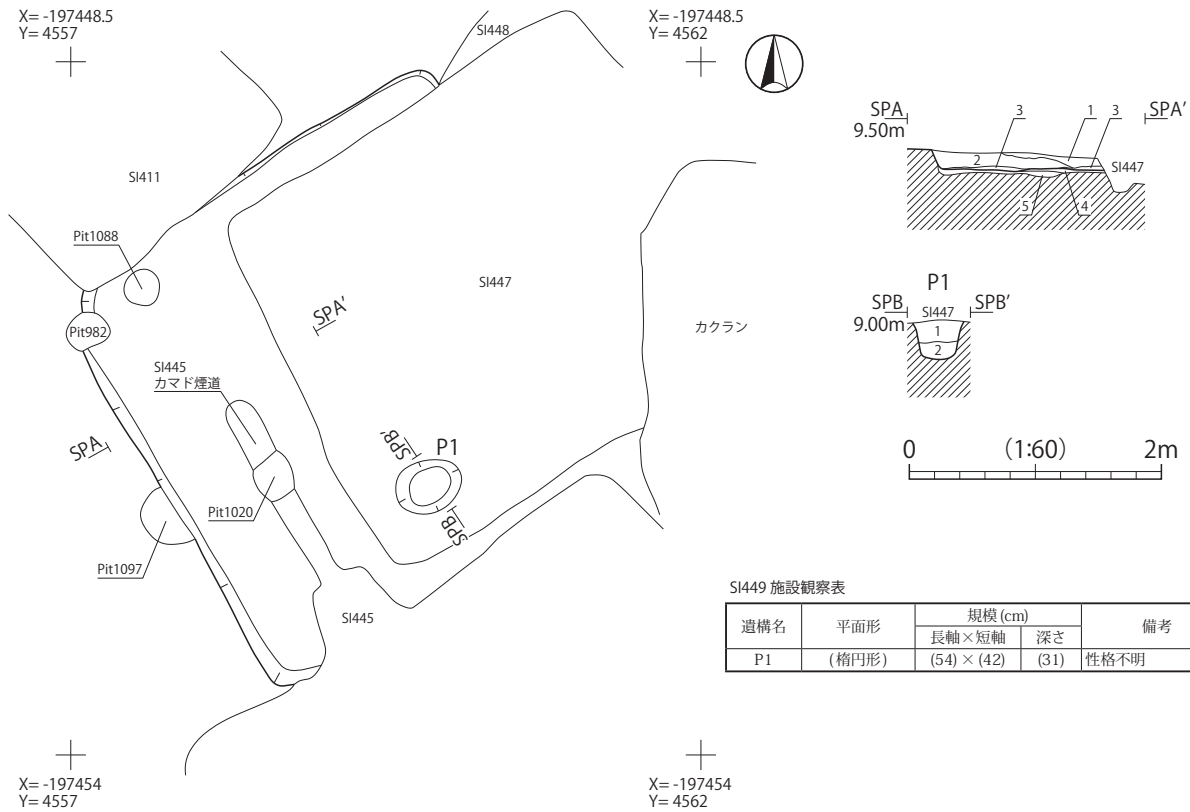
【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 SI447の重複範囲内で1基(P1)を検出したが、性格は不明である。

【掘り方】 深さ1～7cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI411・445・447・450との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。



SI449 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	(54)×(42)	(31)	性格不明

SI449 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒帯状に少量含む。
住居掘り方埋土	4	10YR4/4 褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルトブロック・IV層土斑状に多量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI449 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	2.5Y6/2 灰黄色	シルト	IV層土粒微量含む。

第197図 SI449 竪穴住居跡

SI450 竪穴住居跡 (第198図)

【位置・確認】 調査区中央部北東寄りの55・63区に位置する。SI411・445・447・449の重複により大部分が失われ、西半部が部分的に残存する。

【重複】 SI411・445・447・449、Pit1088・1098より古く、SI482、SK451、Pit1325・1415より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸585cm、短軸269cmを測り、平面形は南側に広がる台形と考えられる。

【方向】 西壁を基準としてN-8°-Eを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～3層は褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土、5～10層はカマド堆積土、11・12層は住居掘り方埋土である。

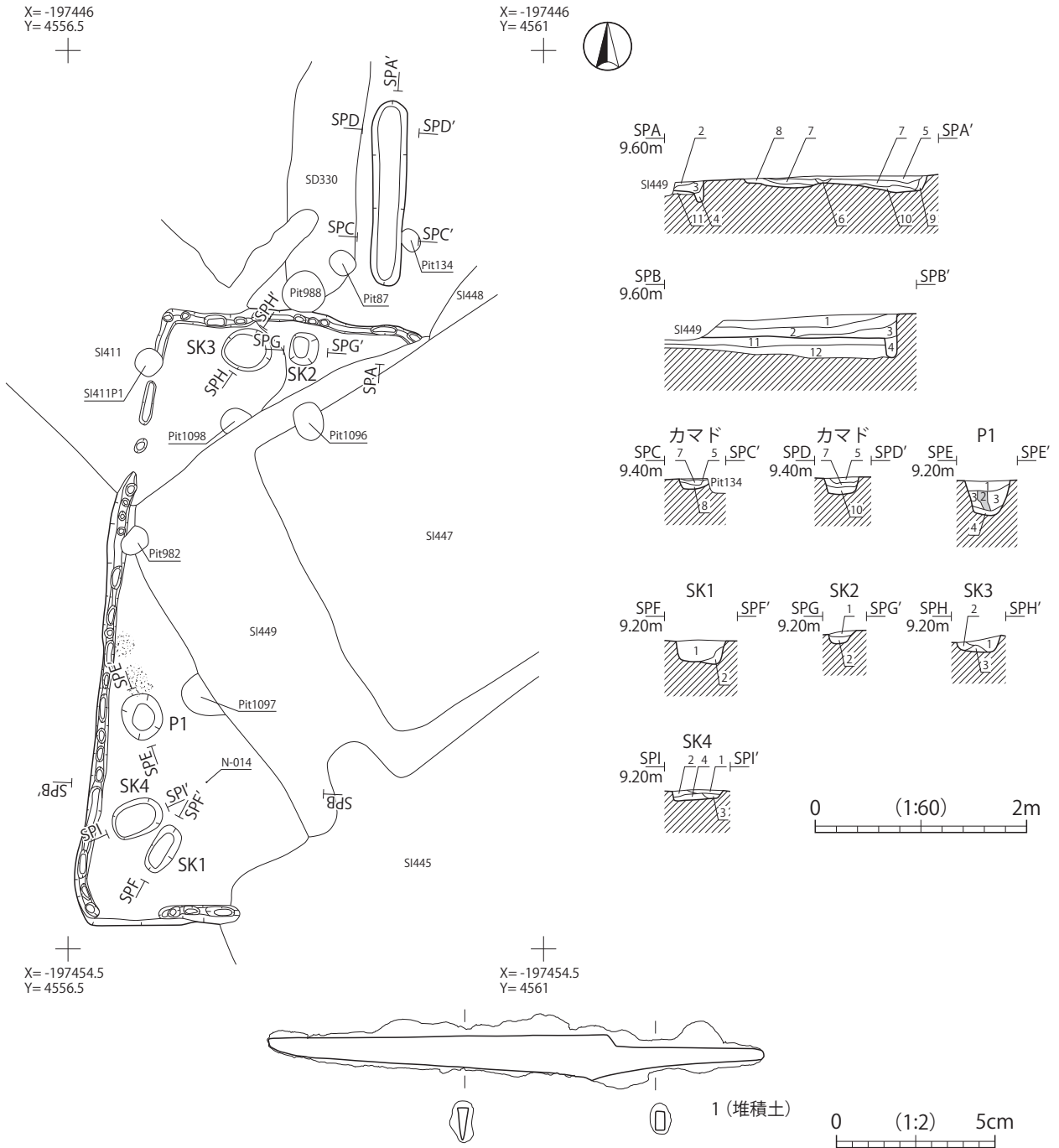
【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 掘り方で1基(P1)を検出した。西壁際の南寄りに配置されているが、性格は不明である。堆積土下半で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。南西隅付近には断続部がみられる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～18cm、深さ6～22cmを測る。各周溝の底面で、壁材の痕跡とみられる小規模なくぼみを多数検出した。

【カマド】 北壁に付設されているが燃焼部は失われ、北壁から38cm間隔を空けた地点に煙道部のみ残存する。燃焼部は壁内に位置していたと考えられるが、袖の痕跡や焼面などは確認できなかった。煙道部は壁面に直交して延び、住居床面と10cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ175cm、幅29～33cm、深さ8～16cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
1	N-014	SI450	堆積土	金属製品	鉄製刀子	15.7	1.4	0.3	36.0	完形 両関	336

第198図 SI450 竪穴住居跡・同出土遺物

SI450 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	4	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
カマド堆積土	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土斑状、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	焼土ブロック(10～30mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物粒多量、IV層土粒微量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。

SI450 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量、黒褐色シルト粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
SK4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(10～30mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。

SI450 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	43×38	35	性格不明 柱痕跡
SK1	楕円形	47×24	19	性格不明土坑
SK2	隅丸方形	31×27	16	貯蔵穴

遺構名	平面形	規模(cm)			備考
		長軸×短軸	深さ		
SK3	(円形)	(47)×(40)	10		貯蔵穴
SK4	隅丸長方形	49×33	3		性格不明土坑

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で2基(SK3・4)の土坑を検出した。SK1・4は南西隅、SK2・3はカマド西側に位置する。SK2・3は形状から貯蔵穴とみられる。SK2の平面形は隅丸方形を呈し、規模は長軸31cm、短軸27cm、深さ16cmを測る。SK3の平面形は円形と考えられ、規模は残存値で長軸47cm、短軸40cm、深さ10cmを測る。

【掘り方】 深さ5～40cmを測り、南部と北西隅周辺が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、掘り方から土師器・須恵器、金属製品などが出土し、金属製品1点を掲載した(第198図)。1は鉄製刀子である。切先にふくらを持ち、関部は両関で形状は撫関である。茎尻は栗尻である。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI411・445・449・482との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)以前の可能性がある。

SI451 竪穴住居跡(第199～201図)

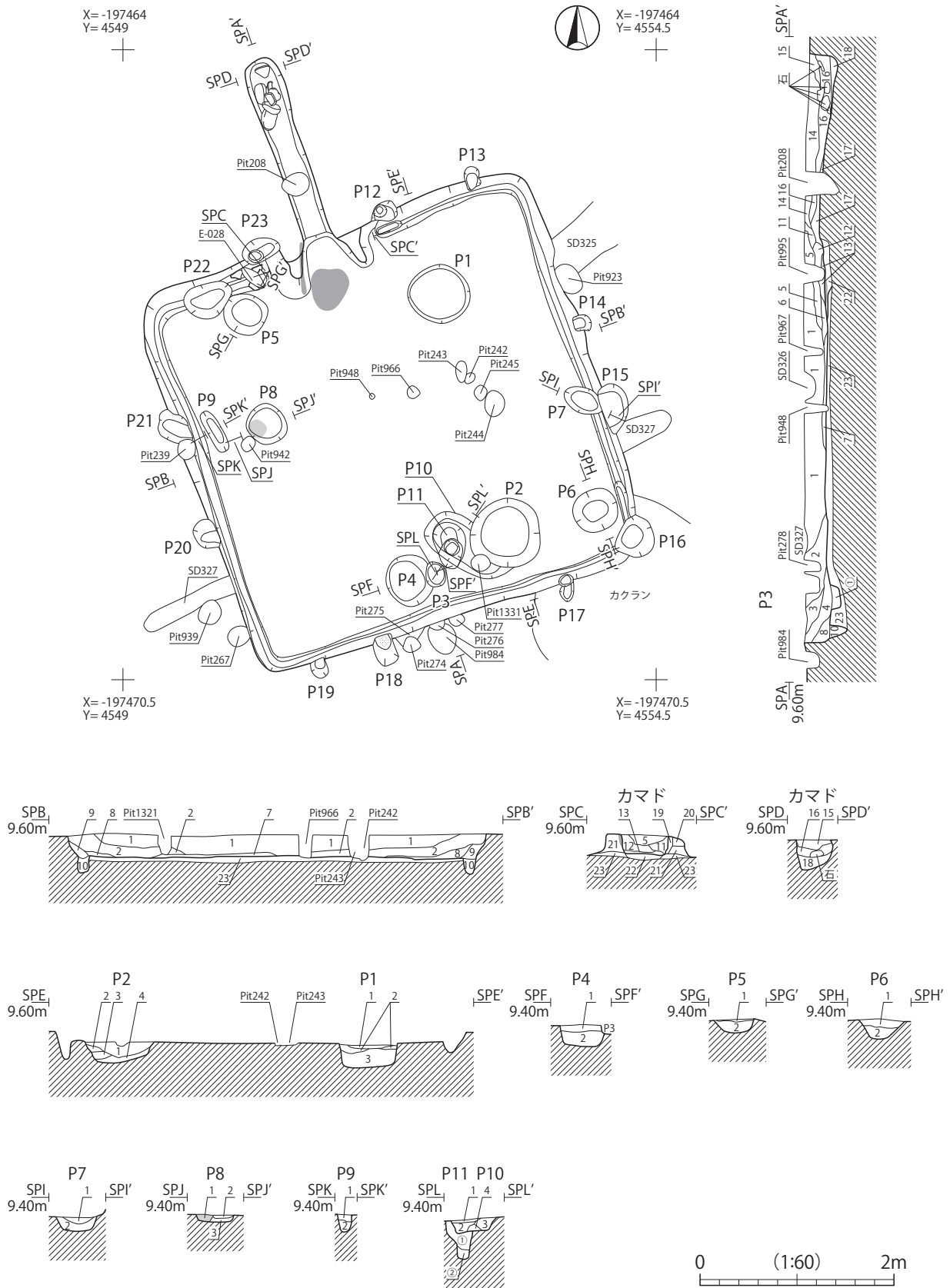
【位置・確認】 調査区中央部の81・89・90・99区に位置する。壁の上部は重複遺構や攪乱により、部分的に失われている。

【重複】 SD325～327、Pit968・980・981・1083より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸430cm、短軸426cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-19°-Wを測る。

【堆積土】 23層に分層した。1～9層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4～9層は自然堆積とみられる。10層は周溝堆積土、11～18層はカマド堆積土である。19～21層はカマド袖構築土、22層はカマド掘り方埋土、23層は住居掘り方埋土である。



第199図 SI451 竪穴住居跡

第5章 検出遺構と出土遺物

SI451 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度) 多量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度) 微量含む。
	5	10YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、IV層土粒微量含む。
	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒・灰微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度) 少量含む。
	9	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度) 少量含む。
周溝堆積土	10	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量含む。
カマド堆積土	12	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量、焼土ブロック(5~10mm程度) 微量含む。
	13	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰少量、焼土粒微量含む。
	14	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・灰少量、IV層土粒微量含む。
	15	10YR2/3 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5~10mm程度) 微量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	18	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド袖構築土	20	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	21	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
カマド掘り方埋土	22	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。

SI451 施設堆積土誌記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量、炭化物ブロック(5~10mm程度) 微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度) 多量含む。
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度) 多量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P3	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度) 多量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量含む。
P4	1	10YR5/6 黄褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~10mm程度) 微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
P8	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量、焼土粒微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P10	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量含む。
P12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P15	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P16	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
P18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒斑状に少量含む。
P20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度) 少量含む。
P21	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

SI451 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	63×61	26	カマド関連土坑
P2	円形	72×71	15	性格不明土坑
P3	楕円形	26×20	8	補助柱穴(入口施設か)
P4	円形	53×48	25	性格不明土坑か
P5	円形	45×42	17	貯蔵穴
P6	円形	47×43	18	補助柱穴か
P7	楕円形	43×27	14	補助柱穴か
P8	円形	42×40	7	支柱穴か 柱痕跡
P9	楕円形	47×15	18	性格不明土坑か
P10	隅丸長方形	95×47	13	性格不明土坑か
P11	(楕円形)	(48)×(33)	39	補助柱穴か
P12	(円形)	(29)×(20)	30	壁柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P13	(楕円形)	(23)×15	26	壁柱穴
P14	(隅丸方形)	(18)×16	17	壁柱穴
P15	(円形)	(49)×(26)	15	壁柱穴
P16	(円形)	(40)×(37)	37	壁柱穴
P17	(円形)	(25)×(11)	(31)	壁柱穴
P18	(隅丸長方形)	(31)×21	37	壁柱穴
P19	(楕円形)	(18)×17	35	壁柱穴
P20	(円形)	30×(23)	25	壁柱穴
P21	(隅丸長方形)	(26)×17	38	壁柱穴
P22	楕円形	50×38	38	壁柱穴
P23	楕円形	38×24	41	壁柱穴

【壁面】 内湾気味に直立して立ち上がり、壁高は最大で31cmを測る。

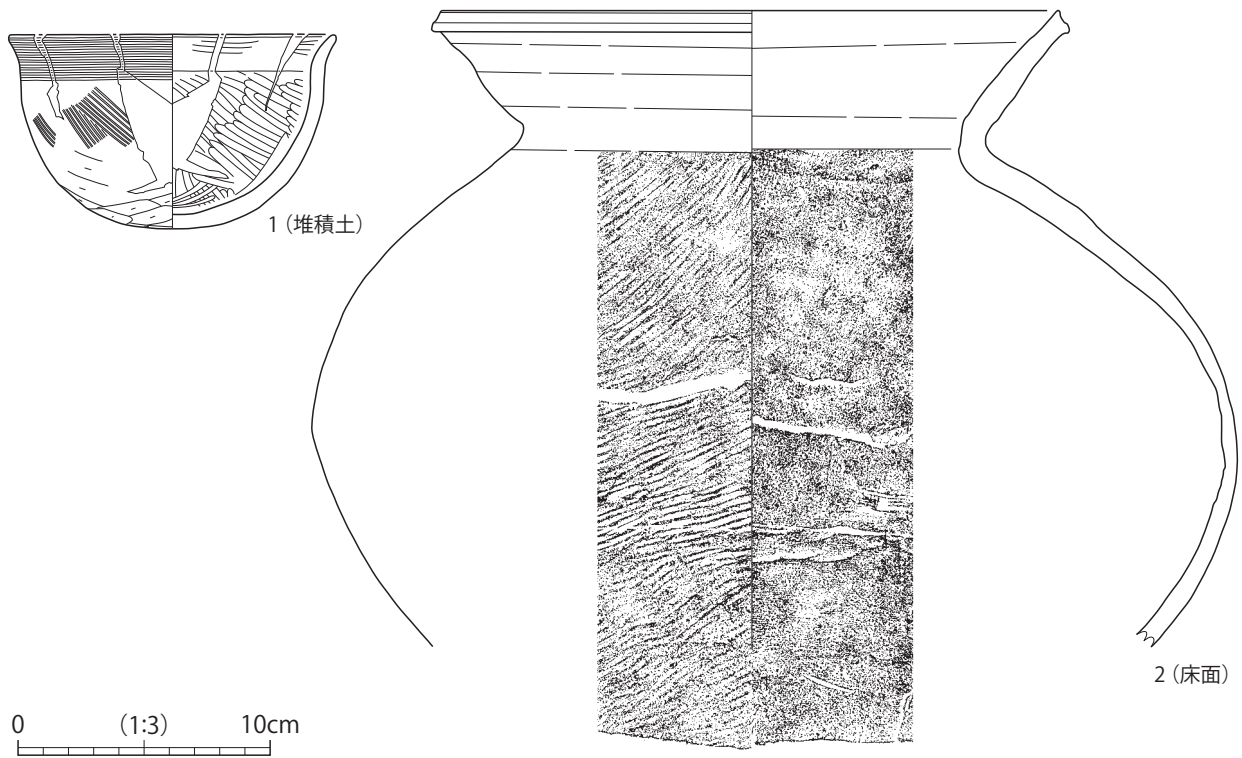
【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で9基 (P2～4・6～11)、各壁際で12基 (P12～23) を検出した。主柱穴と考えられる配置はみられず、全体的に不規則である。P8で径18cm程度の柱痕跡を確認した。また、土坑状で浅いものが多い。P3は位置から入口施設に関連する柱穴の可能性はある。P12～23は壁柱穴と考えられ、壁際を全周するように配置されている。

【周溝】 カマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅7～28cm、深さ9～20cmを測る。

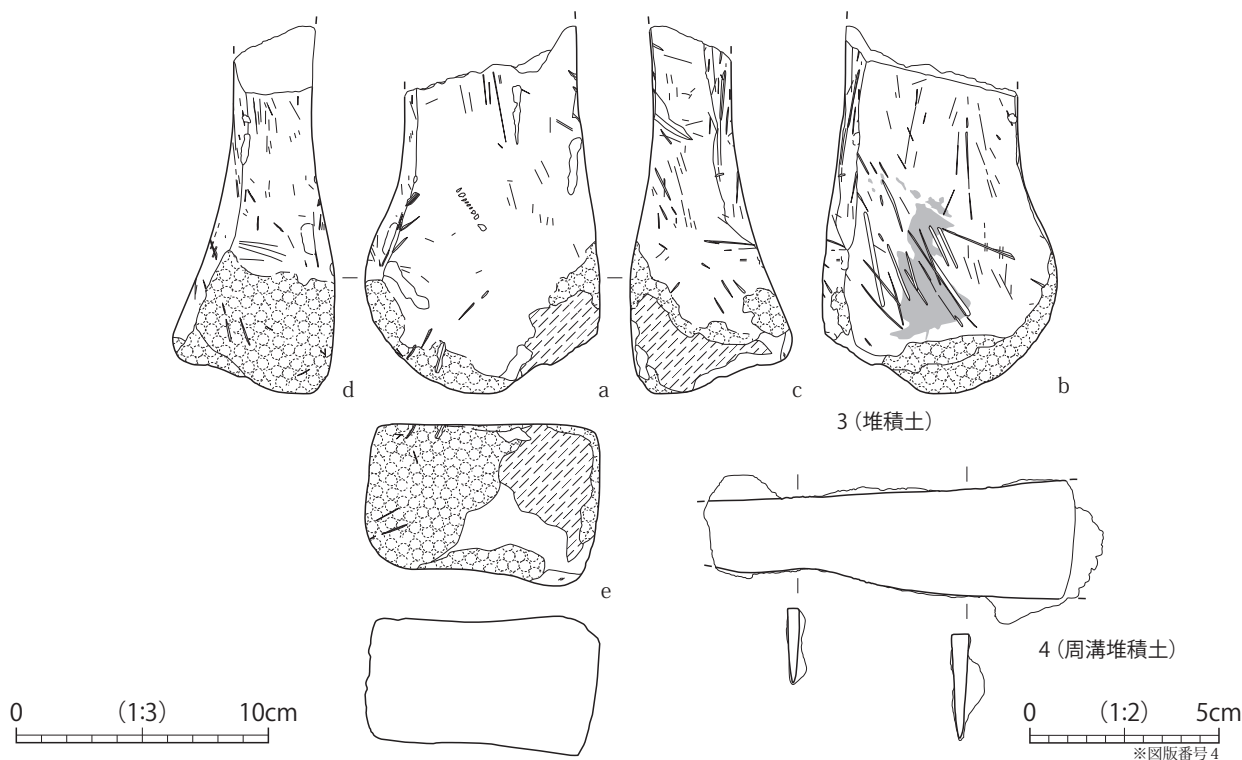
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して「ハ」字状に延びるが、焚口付近は失われている。東袖の規模は残存値で長さ40cm、幅30cm、西袖は長さ53cm、幅39cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は焼面の範囲から奥行き78cm前後と推定され、幅は残存値で57cmを測る。底面は煙道部側に向かって緩やかに立ち上がり、そのまま煙道部の底面につながる。焚口付近には、長径44cm程度の焼面がみられる。煙道部は長さ191cm、幅29～38cm、深さ13～32cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。自然礫が先端部から積み重なった状態で出土した。

【その他施設】 床面から2基 (P1・5) のピットを検出した。P1は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。P5はカマドと北西隅の間に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-157	SI451	堆積土	土師器	鉢	(12.8)	—	7.7	口縁：ヨナテ 体上半：ハメ 体下半：ハラスリ	ハミガキ	内外面に火の痕	336
2	E-028	SI451	床面	須恵器	甕	24.6	—	(25.3)	口縁：ヨコ調整 胴部：平行斜	口縁：ヨコ調整 胴部：アケ具痕→ナゲ	外面胴部・内面口縁部灰かぶり 骨針多量含む	337
写真のみ	C-742	SI451 P1	堆積土	土師器	坏	—	8.5	(4.9)	ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 外面やや摩滅	383

第200図 SI451 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
3	Kd-020	SI451	堆積土	石製品	砥石	(14.5)	9.3	6.5	842.5	細粒凝灰岩	砥面4面 溝状痕(a~e面) 線条痕(a~e面) 敲打痕(a~e面) 黑色付着物(b面) 端部欠損 節理(a・c・e面)	336
4	N-015	SI451 周溝	堆積土	金属製品	鉄鎌	(9.8)	3.1	0.4	59.4	刃部~基部 曲刃		337

第201図 SI451 竪穴住居跡出土遺物(2)

【掘り方】 深さ2～18cmを測り、壁際が溝状に一段低く掘り込まれている。

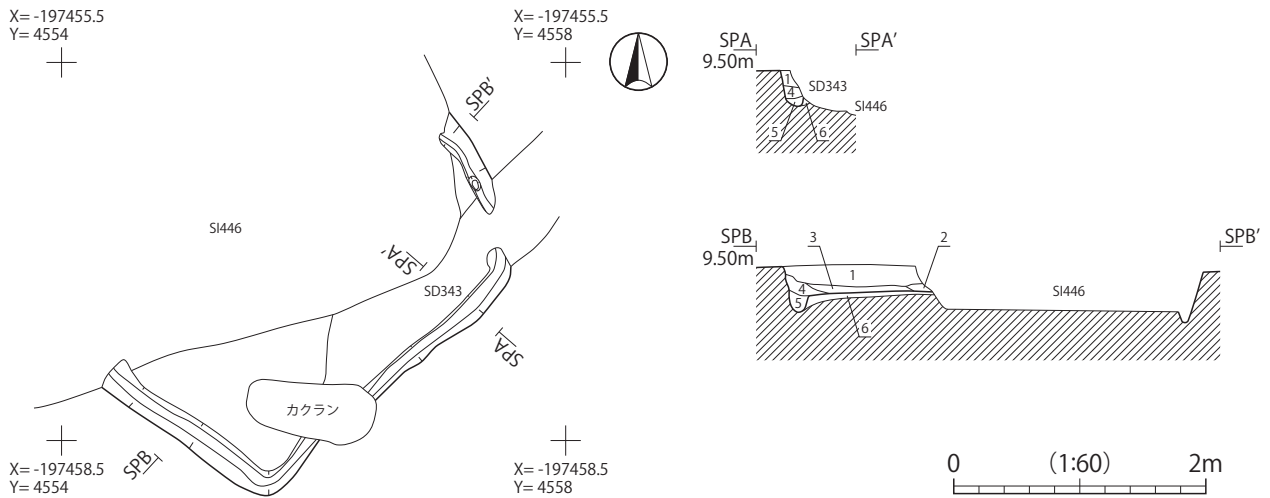
【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器鉢1点、須恵器甕1点、石製品1点、金属製品1点を掲載した(第200・201図)。また、P1から出土した土師器杯1点を写真で掲載した(写真図版383-6)。1は土師器鉢で、半球形を呈し、口縁部で短く直線的に外傾する。2は須恵器甕である。胴部中位に最大径が位置する算盤玉形と考えられ、口縁部は直線的に外傾する。口縁端部に凹面を持ち、下端は垂下する。色調は灰色を呈し、胎土は精良で、少量の3mm以下の砂礫と海綿骨針を多量含む。3は砥石で、砥面が4面あり、a～e面に溝状痕・線条痕、a～e面の下部を中心に敲打痕が認められる。またa・c・e面に節理面がみられ、b面に黑色付着物が認められる。石材は細粒凝灰岩である。4は曲刃の鉄鎌である。写真図版383-6(C-742)は土師器杯で、平底の底部から厚みを持って屈曲し、体部は緩やかに内湾する。内面に黑色処理が施されている。

【時期】 床面とP1から出土した土師器杯、須恵器甕(写真図版383-6、第200図2)の特徴から、6期(8世紀前半)～7期(8世紀中頃～後半)と考えられる。

SI452 竪穴住居跡(第202図)

【位置・確認】 調査区中央部の72区に位置する。SI446、SD343の重複により大部分が失われ、南半部の一部が残存する。残存範囲およびSI446、SD343の重複範囲内では、柱穴・カマドなど床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI446、SD343より古く、SI482・483・486・490より新しい。



SI452 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量、IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。

第202図 SI452 竪穴住居跡

【規模・形態】 確認された規模は長軸345cm、短軸186cmを測り、平面形は北側に広がる台形と考えられる。

【方向】 南壁を基準としてN-48°-Eを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～4層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、1～3層は人為的な埋土、4層は自然堆積とみられる。5層は周溝堆積土、6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅12～24cm、深さ4～18cmを測る。

【掘り方】 深さ5～10cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、周溝から土師器・須恵器、鉄滓が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI446・482・483・490との新旧関係から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

SI453 竪穴住居跡 (第203・204図)

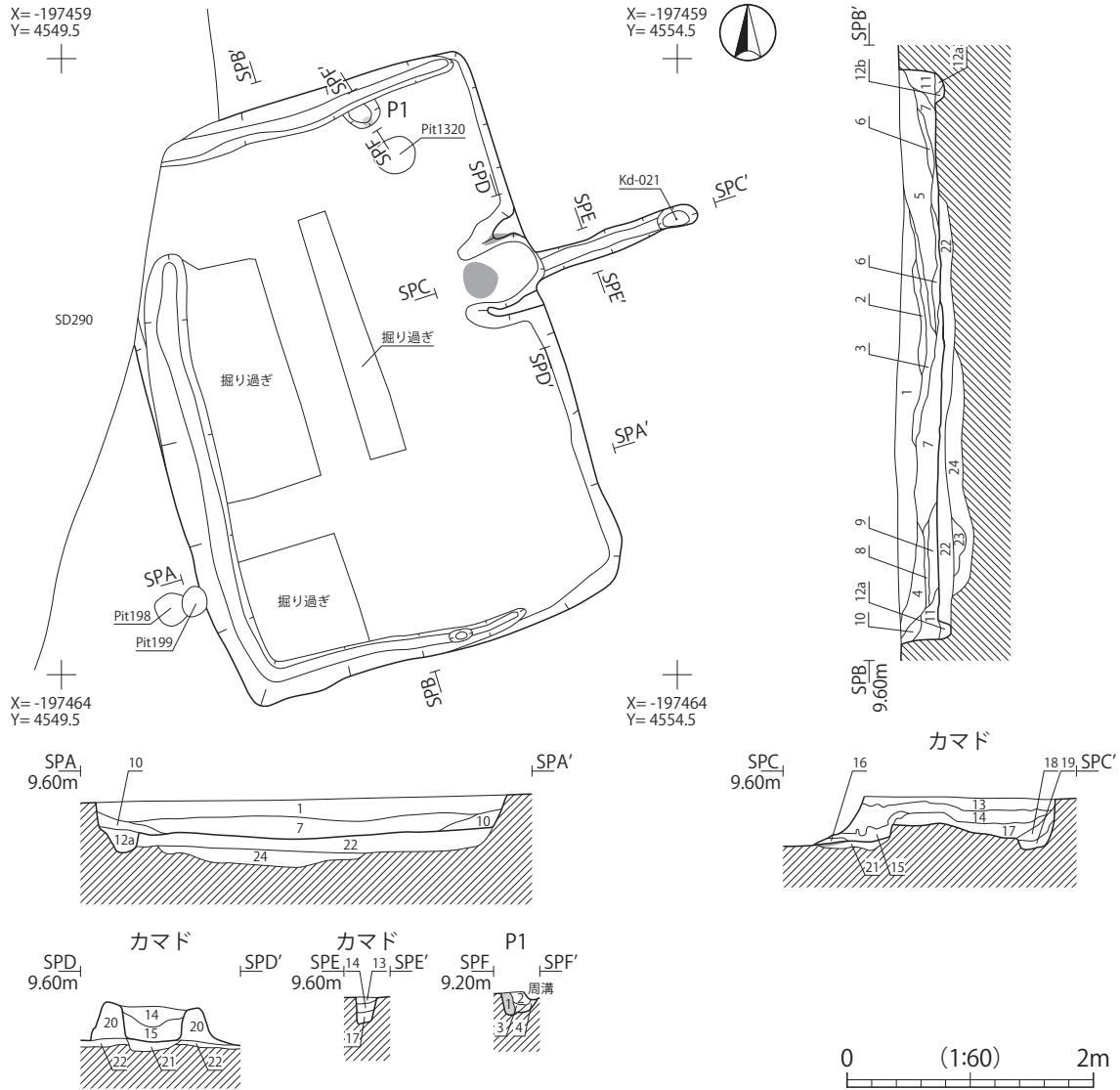
【位置・確認】 調査区中央部の72・81区に位置する。北西隅はSD290の重複により失われている。

【重複】 SI475・484・486・490、SK502より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸467cm、短軸334cmを測り、平面形は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-72°-Eを測る。

【堆積土】 大別で24層に分層した。1～11層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。12層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。13～19層はカマド堆積土である。20層はカマド袖構築土、21層はカマド掘り方埋土、22～24層は住居掘り方埋土である。



SI453 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	10	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	12a	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	12b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド堆積土	13	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	14	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	15	10YR3/2 黒褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	16	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・灰多量、炭化物粒少量含む。
	17	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒・焼土ブロック(5~30mm程度)微量含む。
カマド袖構築土	18	10YR3/4 暗褐色	シルト	焼土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	19	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
カマド掘り方埋土	20	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰黄褐色シルトとの互層。
住居掘り方埋土	21	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	22	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒・骨片微量含む。
	24	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

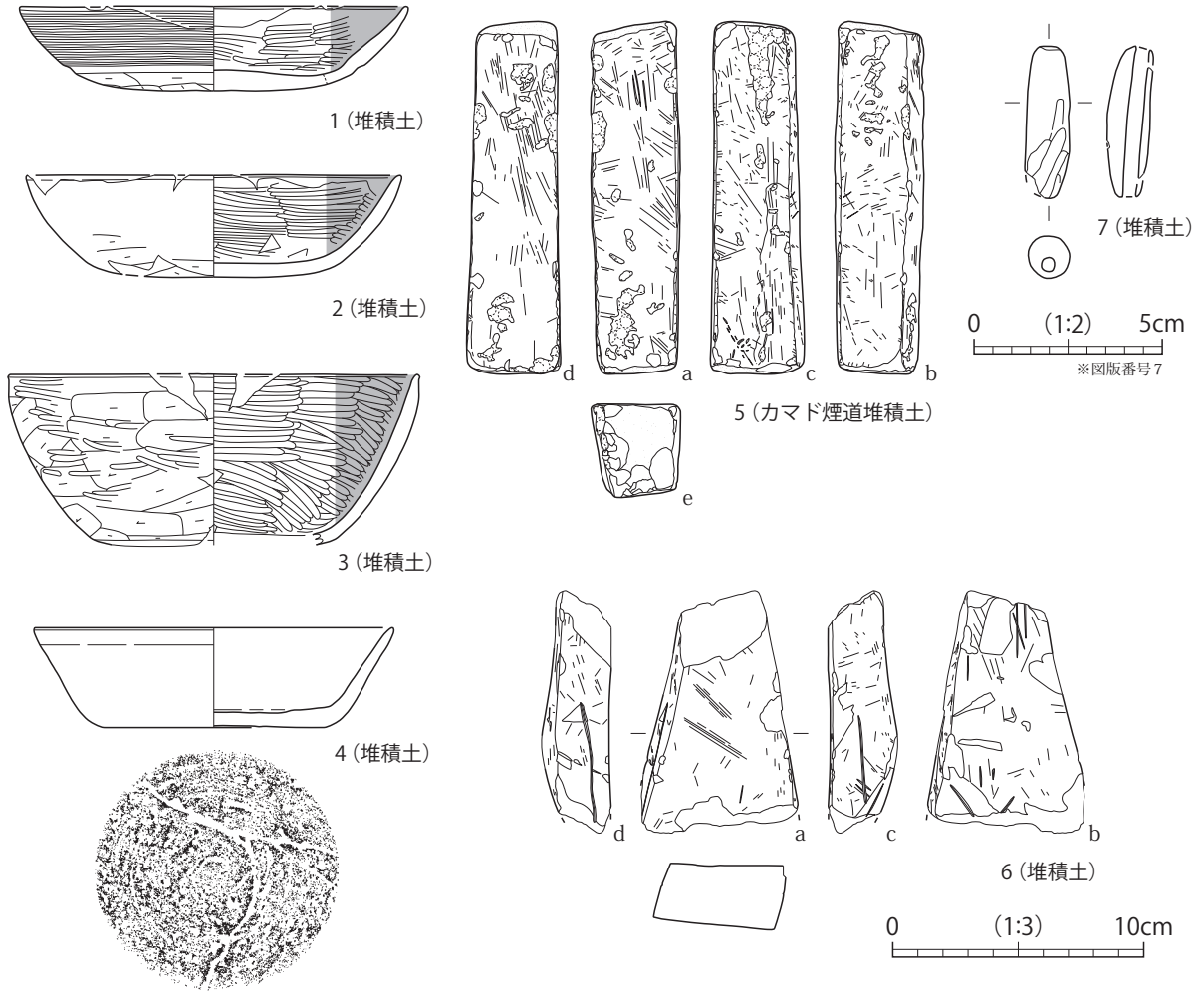
第203図 SI453 竪穴住居跡

SI453 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

SI453 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(30)×29	18	壁柱穴 柱痕跡



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-159	SI453	堆積土	土師器	环	(15.4)	—	3.3	口縁:ヨナゲ 体部:ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 内外面摩滅	337
2	C-158	SI453	堆積土	土師器	环	(14.8)	(7.8)	4.1	口縁:不明 体部:ハラスリ	ハミガキ	内面黒色処理 外面やや摩滅	337
3	C-160	SI453	堆積土	土師器	环	(16.2)	—	(6.8)	口縁~体部:ハラスリ→ハミガキ	ハミガキ	内面黒色処理	337
4	E-029	SI453	堆積土	須恵器	环	(14.2)	(9.0)	4.0	口調整 底部:回転ハラスリ	口調整	角閃石中量含む 内外面摩滅・火い痕	337

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	石材	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
5	Kd-021	SI453 カマド煙道	堆積土	石製品	砥石	14.0	3.5	3.7	359.0	安山岩	砥面4面 溝状痕(a~c面) 線条痕(a~d面) 敲打痕(a~e面) 自然礫面あり	337
6	Kd-022	SI453	堆積土	石製品	砥石	(9.7)	6.3	2.8	200.7	砂岩	砥面4面 溝状痕(a~d面) 線条痕(a~d面) 端部欠損	337

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版
						全長	幅	厚さ			
7	P-016	SI453	堆積土	土製品	土錘	4.0	1.2	1.1	4.5	ミガキ孔径0.4cm	337

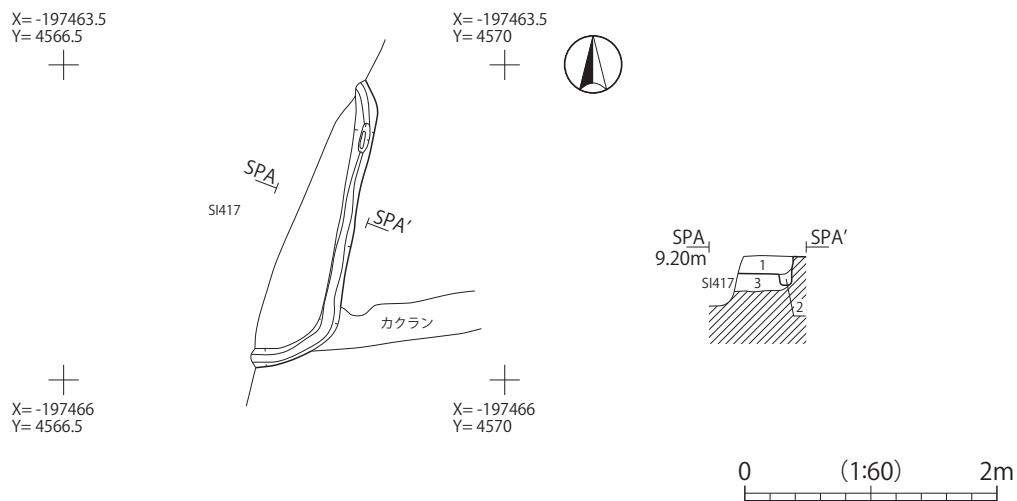
第204図 SI453 竪穴住居跡出土遺物

- 【壁面】 直立気味ないし外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で41cmを測る。
- 【床面】 中央部に向かってわずかに下がり、黒褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。
- 【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。北東部壁際に配置され、北壁周溝と一部重複する。その位置から、壁柱穴の可能性はある。堆積土で径8cm程度の柱痕跡を確認した。
- 【周溝】 残存範囲では東壁と南東・北西部を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅9～43cm、深さ1～19cmを測る。南壁以外は、幅広に掘り込まれている。
- 【カマド】 東壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して馬蹄状に延びるが、北袖は焚口付近が失われている。南袖の規模は長さ62cm、幅24cm、北袖は残存値で長さ56cm、幅32cmを測る。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き69cm、幅54cmを測る。底面は奥壁に向かってわずかに立ち上がり、焚口付近に長径31cm程度の焼面がみられる。奥壁は直立気味に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ132cm、幅15～20cm、深さ22～41cmを測り、底面はピット状を呈する先端部に向かって緩やかに下がる。
- 【掘り方】 深さ1～12cmを測り、南半部の西寄りが土坑状に一段低く掘り込まれている。
- 【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、鉄滓、土製品などが出土し、土師器坏3点、須恵器坏1点、石製品2点、土製品1点を掲載した(第204図)。1～3は土師器坏で、1は浅身である。平底風丸底の底部で、口縁部は内湾気味に外傾する。口縁部と体部の境は沈線状の段を持つ。2・3は段が認められない。2は浅身で、3は深身である。ともに体部から口縁部に向かって内湾気味に外傾する。1～3のいずれも内面に黒色処理が施されている。4は須恵器坏である。平底から屈曲して、直線的に外傾し口縁部に至る。底部の切り離しは、回転ヘラケズリによる再調整が施されているため不明である。色調は灰白色～淡黄色を呈し、胎土は粗く2mm以下の黒色が混じる砂礫が多量に含む。焼成は不良で、軟質である。外面体部下端から底部にかけて火ハネ痕が著しい。5・6は砥石である。5は砥面が4面あり、a～c面に溝状痕、a～d面に線条痕、a～e面に敲打痕が認められる。e面には自然面を残す。石材は安山岩と考えられる。6は砥面が4面あり、a～d面に溝状痕・線条痕がみられる。石材は砂岩である。7は管状の土錘で、外面はミガキが施されている。
- 【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI475・484・486との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)以降と考えられる。

SI454 竪穴住居跡(第205図)

- 【位置・確認】 調査区東部の82・91区に位置する。SI417の重複により大部分が失われ、東壁付近の一部が残存する。残存範囲およびSI417の重複範囲内では、柱穴・カマドなどの床面施設は確認できなかった。
- 【重複】 SI417より古く、SI419より新しい。
- 【規模・形態】 確認された規模は長軸240cm、短軸59cmを測り、平面形は不明である。
- 【方向】 東壁を基準としてN-10°-Wを測る。
- 【堆積土】 3層に分層した。1層は褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土、3層は住居掘り方埋土である。
- 【壁面】 直立気味に立ち上がり、壁高は最大で17cmを測る。
- 【床面】 全体の形状は不明で、褐色シルトの埋土上面を床面とする。
- 【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅11～12cm、深さ7～15cmを測る。
- 【掘り方】 深さ3～14cmを測り、底面の形状は不明である。
- 【出土遺物】 堆積土、周溝から土師器・須恵器、金属製品などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI417・SI419 との新旧関係から、3期（6世紀末頃～7世紀前半）～5期（7世紀末頃～8世紀初頭）と考えられる。



SI454 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒多量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
周溝堆積土	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。

第205図 SI454 竪穴住居跡

SI455 竪穴住居跡（第206～209図）

【位置・確認】 調査区北西部の22区に位置する。北壁はSD284の重複、南東隅と西壁中央付近は攪乱により失われている。

【重複】 SD284より古く、SD346、Pit1114より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸472cm、短軸405cmを測り、平面形は南側に広がる台形と考えられる。

【方向】 カマドを基準としてN-9°-Eを測る。

【堆積土】 18層に分層した。1～8層は黒褐色・褐灰色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10・11層はカマド堆積土である。12・13層はカマド掘り方埋土、14～18層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で42cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

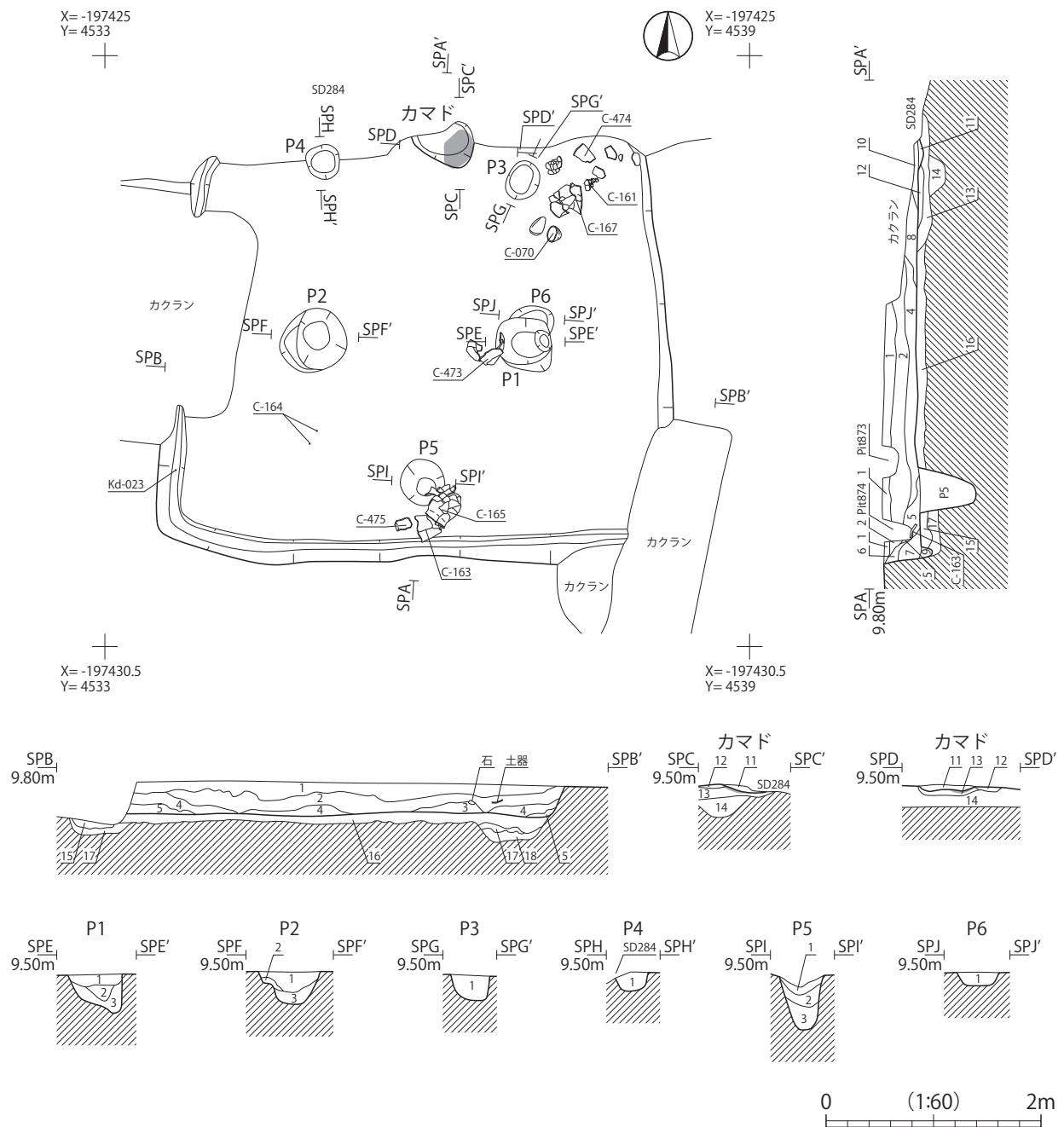
【柱穴】 床面で6基（P1～6）を検出した。規模や位置からP1～4が主柱穴と考えられるが、配置は住居の北側に寄る。規模は残存値も含め長軸33～63cm、短軸30～60cm、深さ17～34cmを測る。P2で柱の抜き取り痕を確認した。P5は南壁際の中央部付近に配置されているため、入口施設に関連する柱穴の可能性はある。P6はP1と重複し、大部分がP1に壊される。建て替え前の古い柱穴であった可能性がある。

【周溝】 南壁から西壁にかけての壁面に沿って検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅15～29cm、深さ2～8cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置するが、弧状に掘り込まれた燃焼部底面のみ残存する。大部分はSD284の重複により失われている。燃焼部の掘り込みは壁内に位置し、規模は残存値で長さ42cm、幅58cmを測り、底面の焚口付近に長径37cm程度の焼面がみられる。

【掘り方】 深さ12～29cmを測り、壁際が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器・須恵器、石製品、金属製品などが出土し、土師器環1点・鉢3点・甕5点・甌1点、石製品1点を掲載した(第207～209図)。1・3・6・10は北東部の床面から、5・8は南壁際とP5の間の床面から重なった状態で出土した。1は深身の土師器環で、厚手で重量感のあるつくりである。底部から体部にかけて緩く内湾し、口縁部で短く直立する。内面に黒色処理は認められない。色調は橙色～灰褐色を呈し、胎土は粗く、2mm以下の砂礫と微量の海綿骨針を含む。鬼高系土師器が在地化したものと考えられる。2～4は土師器鉢である。2・3は体部から口縁部まで直線的に外傾し、2は口縁部と体部の境に稜を持つ。4は体部中位に最大径が位置する球胴形を呈し、口縁部は外反する。4の外面に強いヘラズリが施されており、これにより底部と体部の境には稜が形成される。5～9は土師器甕である。5は砲弾形、7・8は最大径が中位に位置する楕円形、9は球



第206図 SI455 竪穴住居跡

SI455 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒微量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
カマド堆積土	10	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。 ※灰層
カマド掘り方埋土	12	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・白色粘土ブロック(5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルト粒少量含む。
住居掘り方埋土	14	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	15	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	16	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。
	17	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	18	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。

SI455 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5～50mm程度)・焼土ブロック(5～50mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～100mm程度)多量、炭化物ブロック(5～50mm程度)微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI455 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	51×50	34	主柱穴
P2	円形	63×60	34	主柱穴
P3	楕円形	37×30	24	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	(33)×(31)	17	主柱穴
P5	円形	43×41	51	補助柱穴(入口施設か)
P6	(楕円形)	(42)×(25)	12	旧主柱穴か

胴形と考えられる。5・6の口縁部は直立、7・8は外傾、9は外反する。8の外側は縦方向に弱いヘラケズリが施されている。8の色調は橙色～にぶい橙色を呈し、胎土はやや粗く、3mm以下の砂礫と少量の赤色粒子含む。10は土師器甕である。直線的に外傾する胴部で、頸部には明瞭な段を持ち、口縁部は直線的に外傾する。11は砥石で、砥面が4面あり、e面に溝状痕、a～e面に線条痕が認められる。またa～d面には節理面がみられ、a・c面に黒色付着物が認められる。石材は砂岩である。

【時期】 床面から出土した土師器杯・甕・甗(第207・208図1・3・5・6・8～10)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI456 竪穴住居跡(第210図)

【位置・確認】 調査区北部中央の38区に位置する。住居本体はSI408の重複により失われ、カマド煙道部の先端部付近のみが残存する。消失範囲内では、柱穴・周溝などの床面施設は確認できなかった。

【重複】 SI408A・408Bより古い。

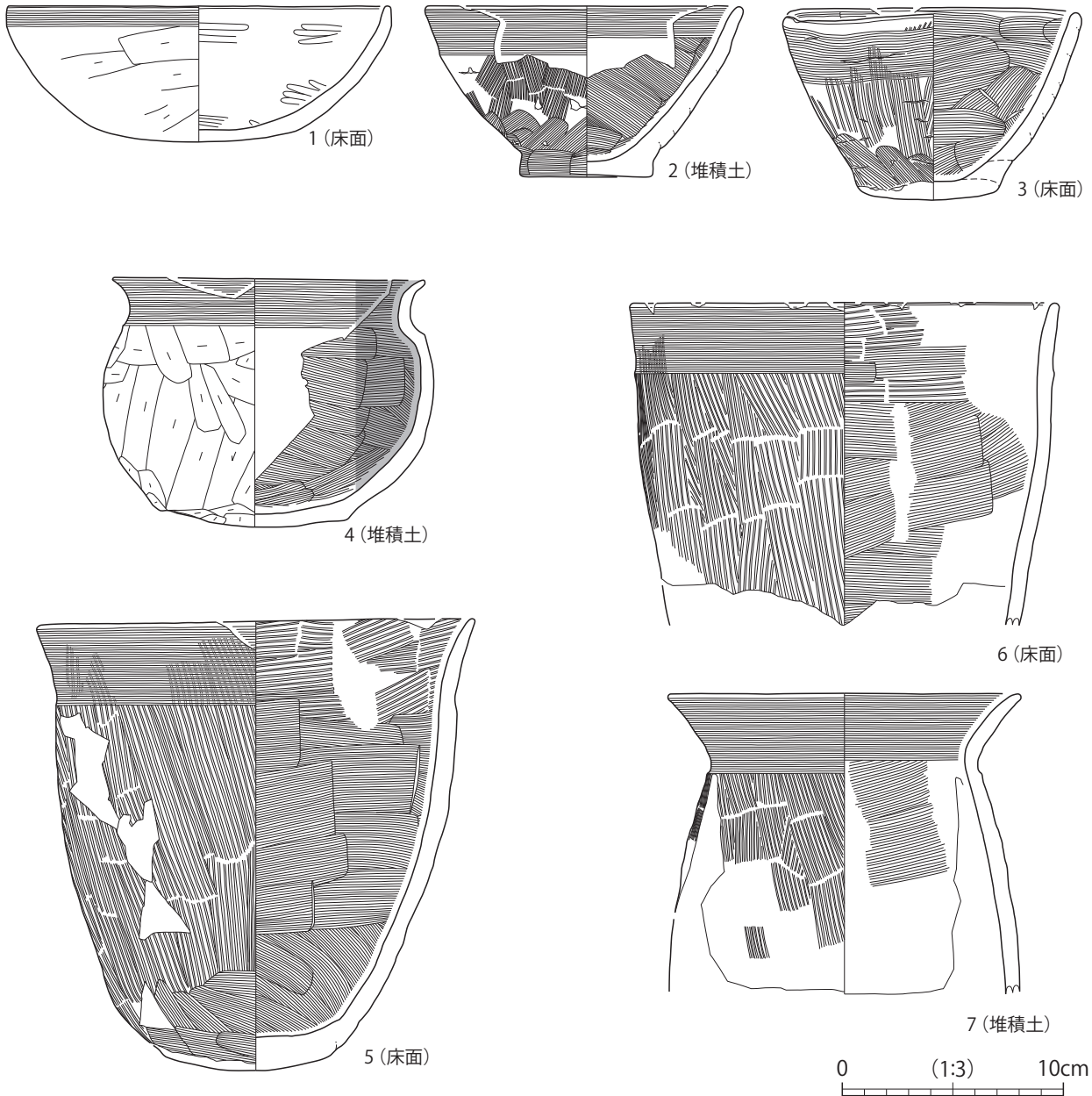
【方向】 N-9°-Wを測る。

【堆積土】 3層に分層した。にぶい黄褐色シルトを主体とする。

【カマド】 煙道部は残存値で長さ50cm、幅30cm、深さ18～39cmを測り、先端部はピット状を呈する。

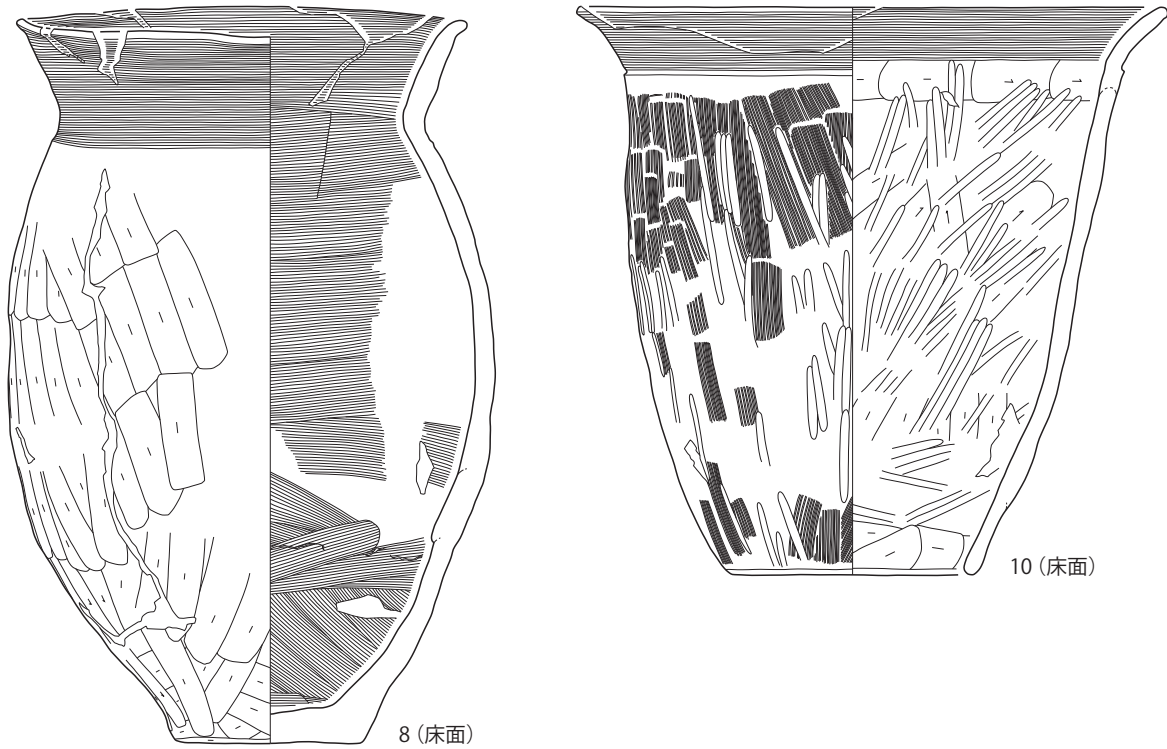
【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI408の新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。



図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真 図版
						口径	底径	器高				
1	C-161	SI455	床面	土師器	坏	17.2	—	6.1	口縁：ヨコテ か 体～底部：ヘラズリ	ヘラミカキ	骨針・角閃石微量含む 内外 面摩滅	337
2	C-162	SI455	堆積土	土師器	鉢	(14.2)	5.7	7.7	口縁：ヨコテ 体上半：ハマ 体下半：ハマ→ヘラテ 底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体部：ヘラテ		337
3	C-070	SI455	床面	土師器	鉢	13.3	6.2	8.7	口縁：ハマ→ヨコテ 体上～中位：ハマ 体下端：ハマ→ヘラテ 底部：ヘラズリ	ヘラテ		337
4	C-164	SI455	堆積土	土師器	鉢	14.0	8.6	11.2	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラズリ	口縁：ヨコテ 体～底部：ヘラテ	内面黒色処理	338
5	C-163	SI455	床面	土師器	甃	19.6	—	20.4	口縁：ハマ→ヨコテ 胴上～中位：ハマ 胴下位：ヘラテ 底部：不明	口縁：ハマ 胴部：ヘラテ	角閃石少量含む 外面二次被 熱による赤色化・剥離	338
6	C-474	SI455	床面	土師器	甃	(19.2)	—	(14.6)	口縁：ハマ→ヘラテ 胴部：ハマ	口縁：ハマ→ヘラテ 胴部：ヘラテ	角閃石少量含む 内面やや摩 滅 外面胴部中位二次被熱に よる赤色化	338
7	C-475	SI455	堆積土	土師器	甃	(15.8)	—	(13.6)	口縁：ヨコテ 胴部：ハマ	口縁：ヨコテ 胴部：ヘラテ	角閃石少量含む 内外面摩滅	338

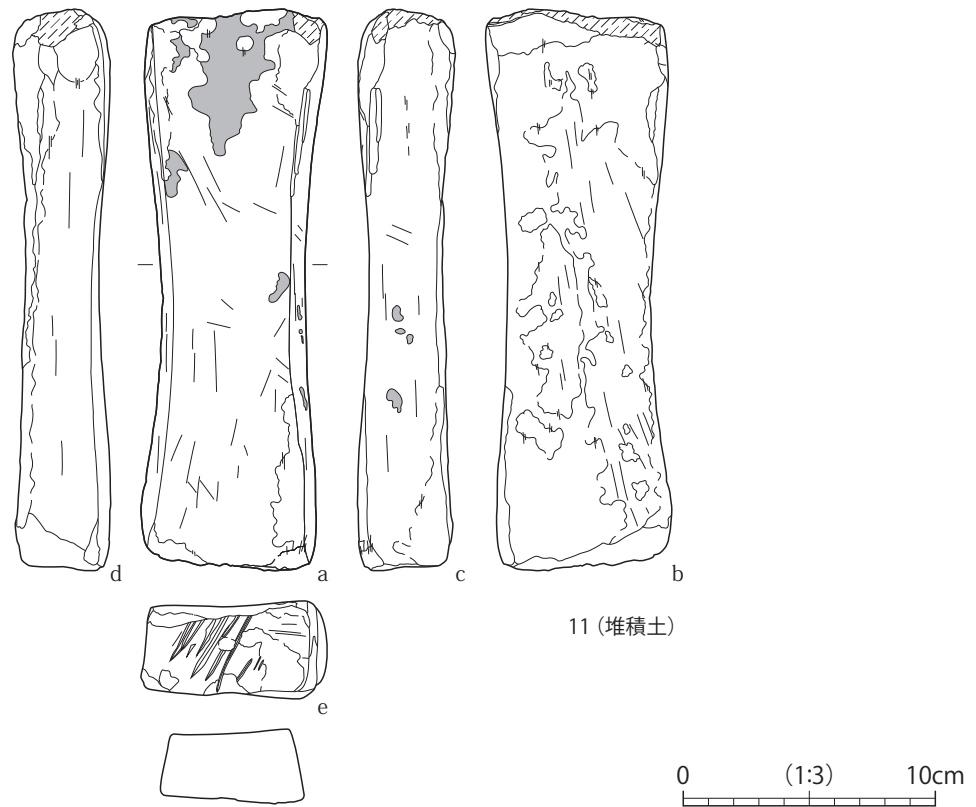
第207図 SI455 竪穴住居跡出土遺物 (1)



0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
8	C-165	SI455	床面	土師器	甕	17.5	7.0	29.2	口縁：ヨナデ 胴～底部：ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘナデ	角閃石少量含む 外面二次被熱による赤色化・剥離	338
9	C-473	SI455	床面	土師器	甕	(20.8)	—	(23.4)	口縁：ヨナデ 胴部：ナメ	不明	内外面摩滅	338
10	C-167	SI455	床面	土師器	甕	23.2	孔径 9.6	22.5	口縁：ヨナデ 胴部：ナメ→ヘラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘラスリ→ヘラスリ	単孔 角閃石微量含む	339

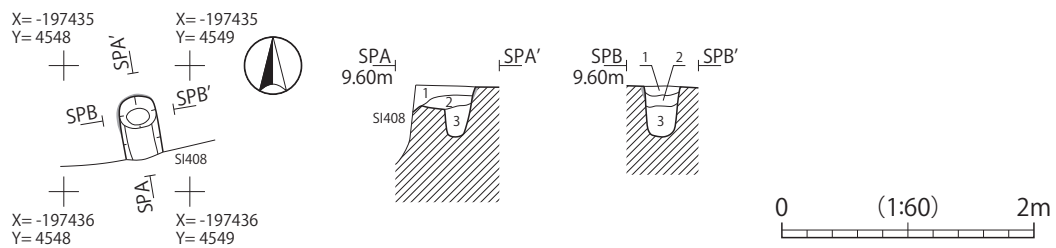
第208図 SI455 竪穴住居跡出土遺物 (2)



11 (堆積土)

図版 番号	登録 番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			重量 (g)	石材	備考	写真 図版
						全長	幅	厚さ				
11	Kd-023	SI455	堆積土	石製品	砥石	22.3	7.4	3.9	960.5	砂岩	砥面4面 溝状痕 (e面) 線条痕 (a~e面) 黒色付着物 (a・c面) 節理 (a~d面)	339

第209図 SI455 竪穴住居跡出土遺物 (3)



SI456 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
カマド堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量・IV層土ブロック (20mm程度) 微量含む。

第210図 SI456 竪穴住居跡

SI457 竪穴住居跡 (第211図)

【位置・確認】 調査区北部中央の29・37区に位置する。北壁東半部はSD332の重複により上部が、南東部は攪乱により失われている。柱穴・周溝・カマドなどの床面施設や掘り方は確認できなかった。

【重複】 SD332より古く、SD301、Pit1270より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸325cm、短軸250cmを測り、平面形は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-18°-Wを測る。

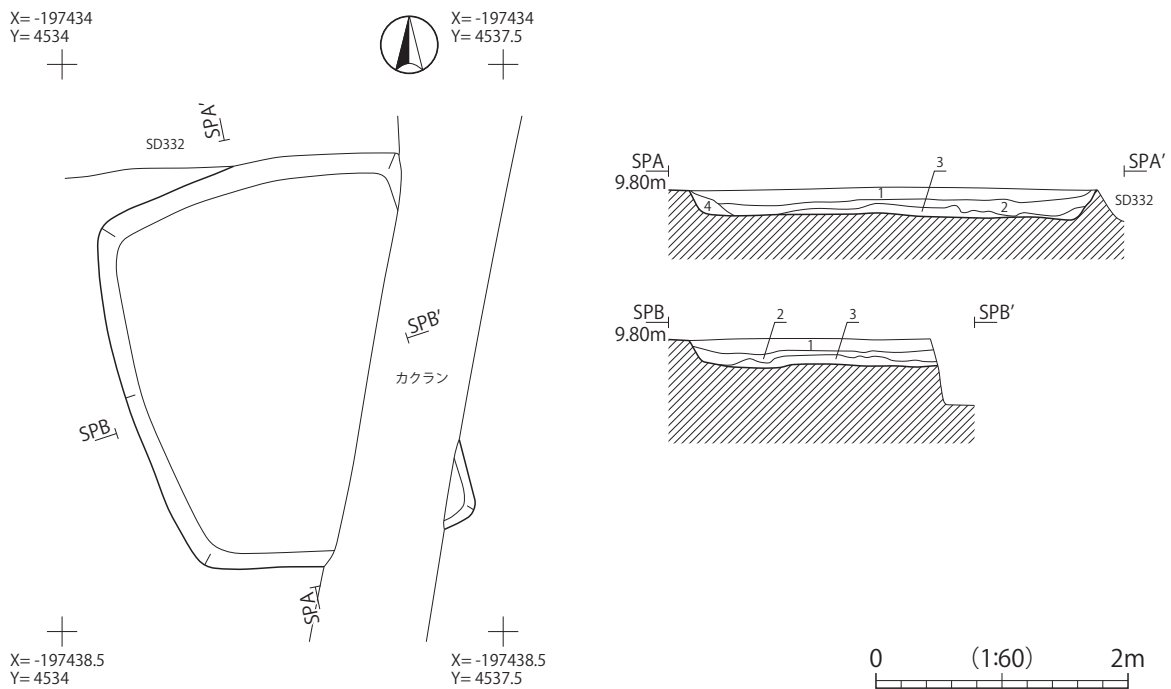
【堆積土】 4層に分層した。いずれも灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で24cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、基本層IV層を直接床面とする。

【出土遺物】 堆積土から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI457 堆積土誌記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(10~20mm程度)微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(20~30mm程度)多量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(30~50mm程度)多量含む。

第211図 SI457 竪穴住居跡

SI458 竪穴住居跡 (第212・213図)

【位置・確認】 調査区北西部の44・52区に位置する。中央部から北東部の大部分はSI438・439、南西隅付近はSD305の重複により失われている。

【重複】 SI438・439、SK404、Pit1145・1211・1213より古い。

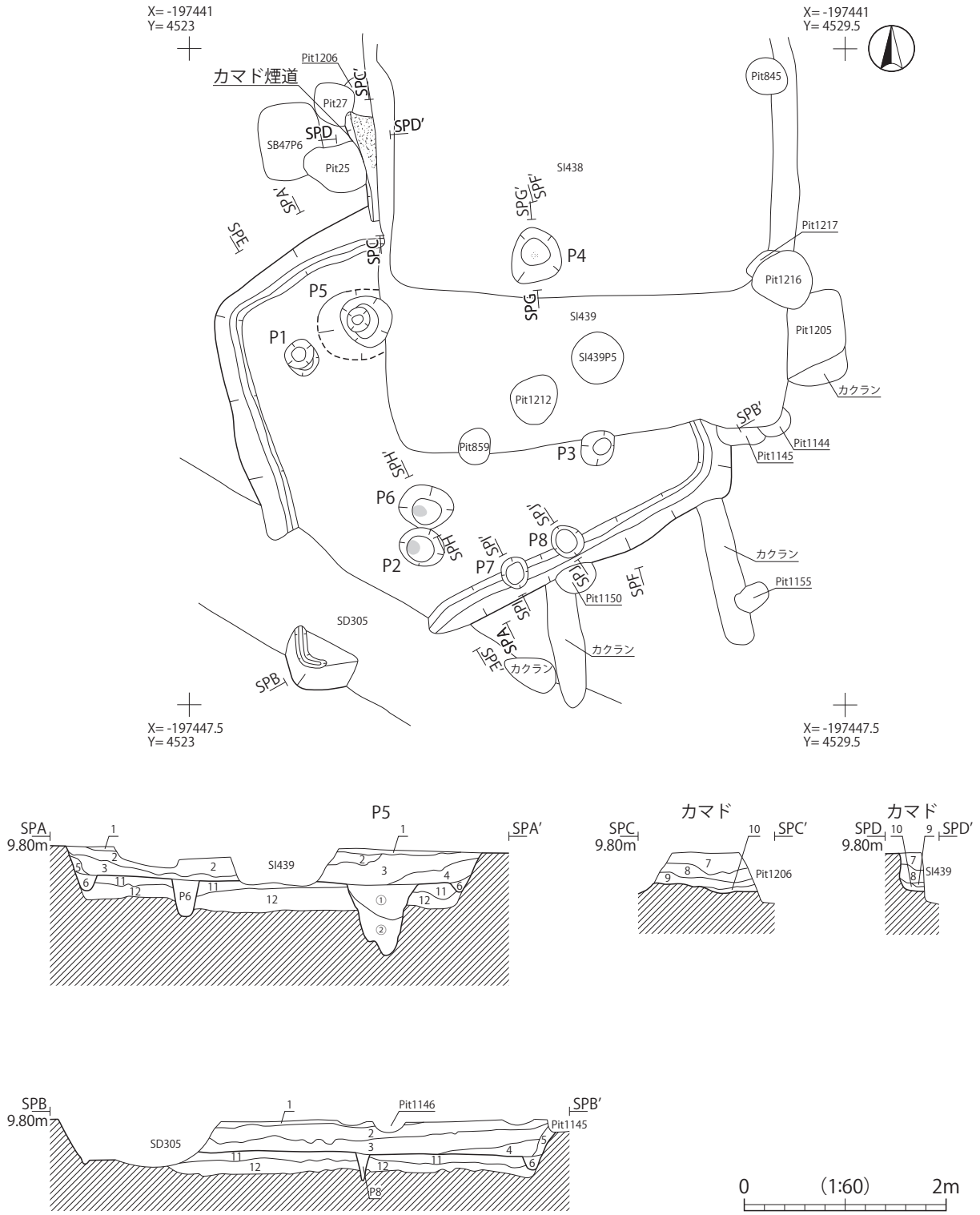
【規模・形態】 確認された規模は長軸488cm、短軸415cmを測り、平面形は南側に広がる台形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-13°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～5層はにぶい黄褐色・褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6層は周溝堆積土、7～10層はカマド堆積土、11・12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で40cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

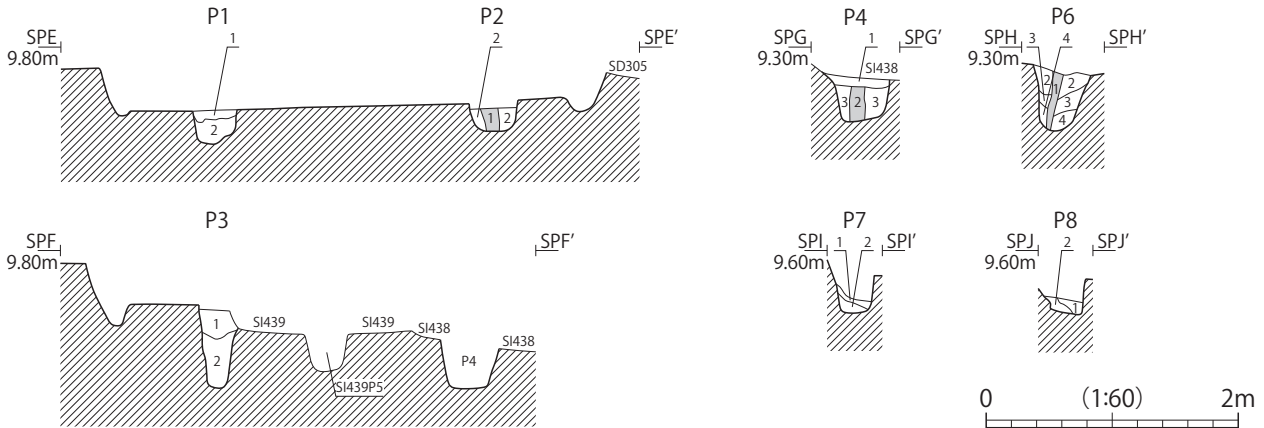


第212図 SI458 竪穴住居跡(1)

【柱穴】 床面およびSI458の重複範囲内で8基(P1～8)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸34～53cm、短軸31～50cm、深さ26～63cmを測る。P1・2は浅く、P3・4は深い柱穴である。P2の堆積土とP4の堆積土下半で、径11～14cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は建て替え前の古い主柱穴と考えられ、P5はP1東側の至近に位置し、P6はP2の北東側に重複する。P6で径15cm程度の柱痕跡を確認した。P7・8は、南壁の周溝と重複して東西に並んだ状態で検出した。位置と規模から、入口施設に関連する柱穴と考えられる。

SI458 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
	3	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒微量含む。
	5	10YR4/6 褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
周溝堆積土	6	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
	7	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5～10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	11	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。



SI458 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	2	10YR4/4 褐色	砂質シルト	
P2	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物ブロック(20mm程度)微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P5	①	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/4 褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、暗褐色シルトブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土粒少量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。

SI458 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	隅丸方形	34×31	28	主柱穴
P2	円形	45×38	26	主柱穴 柱痕跡
P3	(円形)	(34)×32	63	主柱穴
P4	(円形)	(53)×(50)	(38)	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(楕円形)	(74)×(69)	70	旧主柱穴
P6	楕円形	55×(44)	53	旧主柱穴 柱痕跡
P7	円形	31×28	29	補助柱穴(入口施設)
P8	円形	34×30	26	補助柱穴(入口施設)

第213図 SI458 竪穴住居跡(2)

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅10～34cm、深さ4～17cmを測る。

【カマド】 北壁中央部と推定される位置に付設されているが、SI438・439の重複により燃焼部は失われ、煙道部の一部のみ残存する。煙道部は壁面から直交して延び、住居床面と3cm程度の比高差が認められる。規模は残存値で長さ108cm、幅9～29cm、深さ31～40cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【掘り方】 深さ12～28cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、カマドから土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI438・439との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI459 竪穴住居跡(第214図)

【位置・確認】 調査区北西部の35・36区に位置する。SI443と入れ子状に重複しており、北東隅を除く大部分の壁上部が失われている。

【重複】 SI443、SD287、Pit875より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸333cm、短軸320cmを測り、平面形はやや東西に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-12°-Wを測る。

【堆積土】 12層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7・8層はカマド堆積土である。9層はカマド掘り方埋土、10・11層はカマド袖構築土である。12層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で17cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1・3・4の規模は、長軸36～49cm、短軸33～35cm、深さ32～43cmを測る。P1の堆積土下半とP4の堆積土で、径14～16cm程度の柱痕跡を確認した。P2は南壁際の中央部付近に配置されているため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P5はP1の北側の至近に配置されているが、土坑状で浅いため、柱穴以外の性格も考えられる。P6はP1の西側に重複するため、建て替え前の古い主柱穴か補助柱穴と考えられる。

【カマド】 北壁中央部から東寄りに位置し、壁面に直交して付設されているが、SI443の重複により煙道部は失われている。袖は壁面に対して直交するが、西袖は重複遺構により先端部と内壁の一部が失われている。東袖の規模は長さ47cm、幅31cm、西袖は残存値で長さ44cm、幅39cmを測る。燃焼部の大部分は壁内に位置するが、奥壁側1/3程度が壁外に張り出す。袖構築後に燃焼部を掘り込んで底面を構築している。規模は残存値で奥行き64cm、幅71cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径42cm程度の焼面がみられる。奥壁は直線的に外傾し、高さ8cm程度が残存する。

【掘り方】 深さ1～11cmを測り、底面は概ね平坦である。

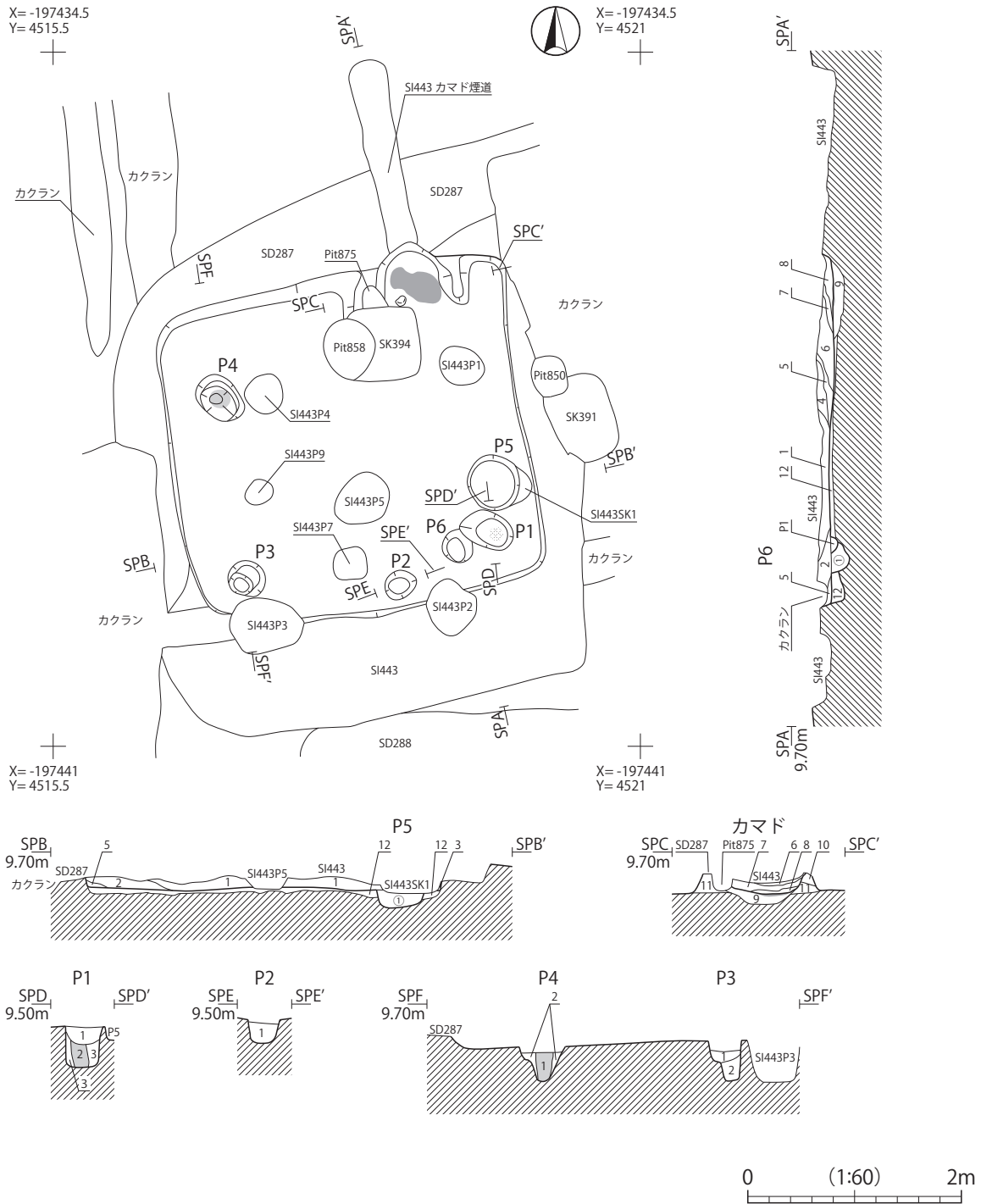
【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器などが出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、SI443との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI460 竪穴住居跡(第215図)

【位置・確認】 調査区北西部の44・45区に位置する。住居の大部分がSI438・439の重複により失われ、南東隅付近のみ残存する。

【重複】 SI438・439、SB47、Pit1205・1216より古い。



SI459 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
	5	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土斑状に少量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	7	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒微量含む。 ※一部被熱、天井崩落土
	8	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
カマド掘り方埋土	9	10YR5/6 黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。 ※一部被熱
カマド袖構築土	10	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	灰白色シルト粒多量含む。
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	灰黄褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	12	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。

第214図 SI459 竪穴住居跡

SI459 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P5	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。
P6	①	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。

SI459 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	49×33	43	主柱穴 柱痕跡
P2	円形	30×26	25	補助柱穴(入口施設)
P3	円形	36×33	39	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	楕円形	49×35	32	主柱穴 柱痕跡
P5	円形	53×(48)	16	性格不明(土坑か)
P6	円形	31×(28)	31	(旧主柱穴or補助柱穴)

【規模・形態】 確認された規模は長軸308cm、短軸245cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-38°-Wを測る。

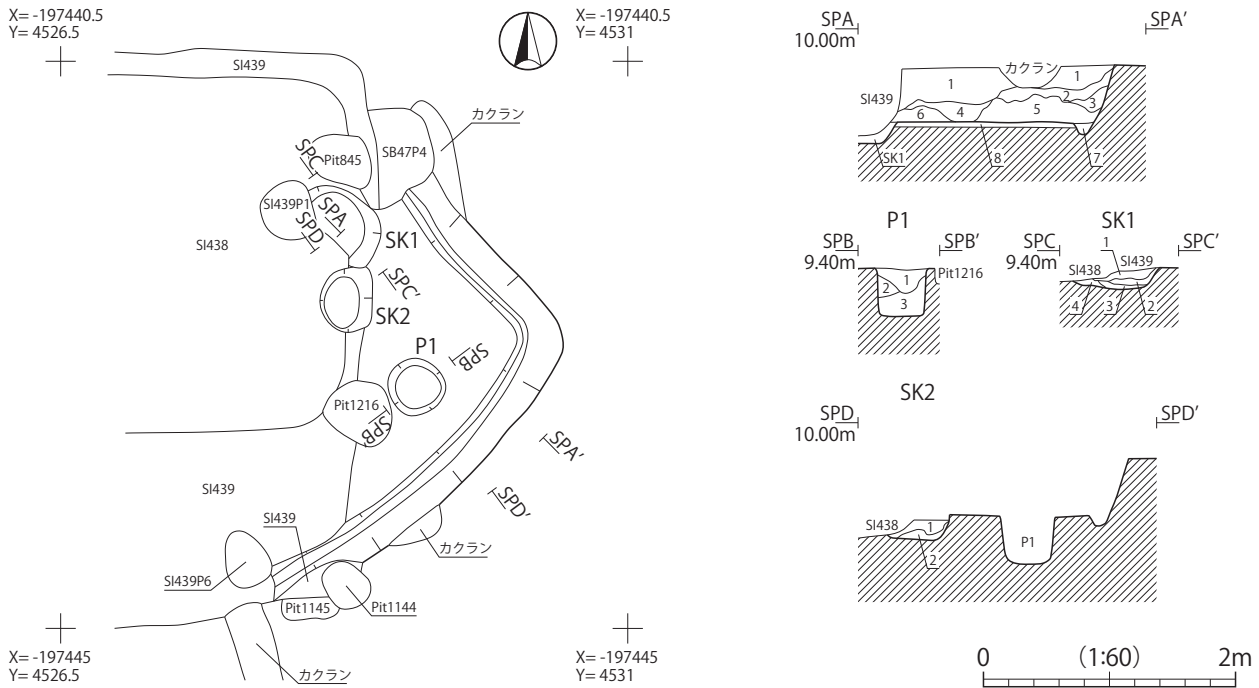
【堆積土】 8層に分層した。1～6層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土、8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら内湾気味に立ち上がり、壁高は最大で46cmを測る。

【床面】 全体の形状は不明で、にぶい黄褐色シルトの埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で1基(P1)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられ、規模は長軸45cm、短軸44cm、深さ39cmを測る。

【周溝】 残存範囲では、壁面に沿ってめぐる。断面形はU字形を呈し、規模は幅32～33cm、深さ7～14cmを測る。



第215図 SI460 竪穴住居跡

SI460 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒少量含む。
周溝堆積土	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
住居掘り方埋土	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI460 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
SK1	1	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR6/6 明黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。

SI460 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	45×44	39	支柱穴
SK1	(楕円形)	(73)×(38)	16	カマド関連土坑
SK2	(楕円形)	(52)×(41)	20	性格不明土坑

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。ともにP1の北側に位置し、SK1の南西側にSK2が重複する。新旧関係はSK1の方が新しい。SK1は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は楕円形と考えられ、規模は残存値で長軸73cm、短軸38cm、深さ16cmを測る。

【掘り方】 深さ3~5cmを測り、底面の形状は不明である。

【出土遺物】 堆積土、床面、掘り方から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI438・439、SB47との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI461 竪穴住居跡(第216・217図)

【位置・確認】 調査区北西部の51・52・59・60区に位置する。煙道部の先端付近はSB48の重複、東・南壁の一部は攪乱により失われている。

【重複】 SB48より古く、SI462・493・532より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸520cm、短軸468cmを測り、平面形はやや南北に長い方形を呈する。

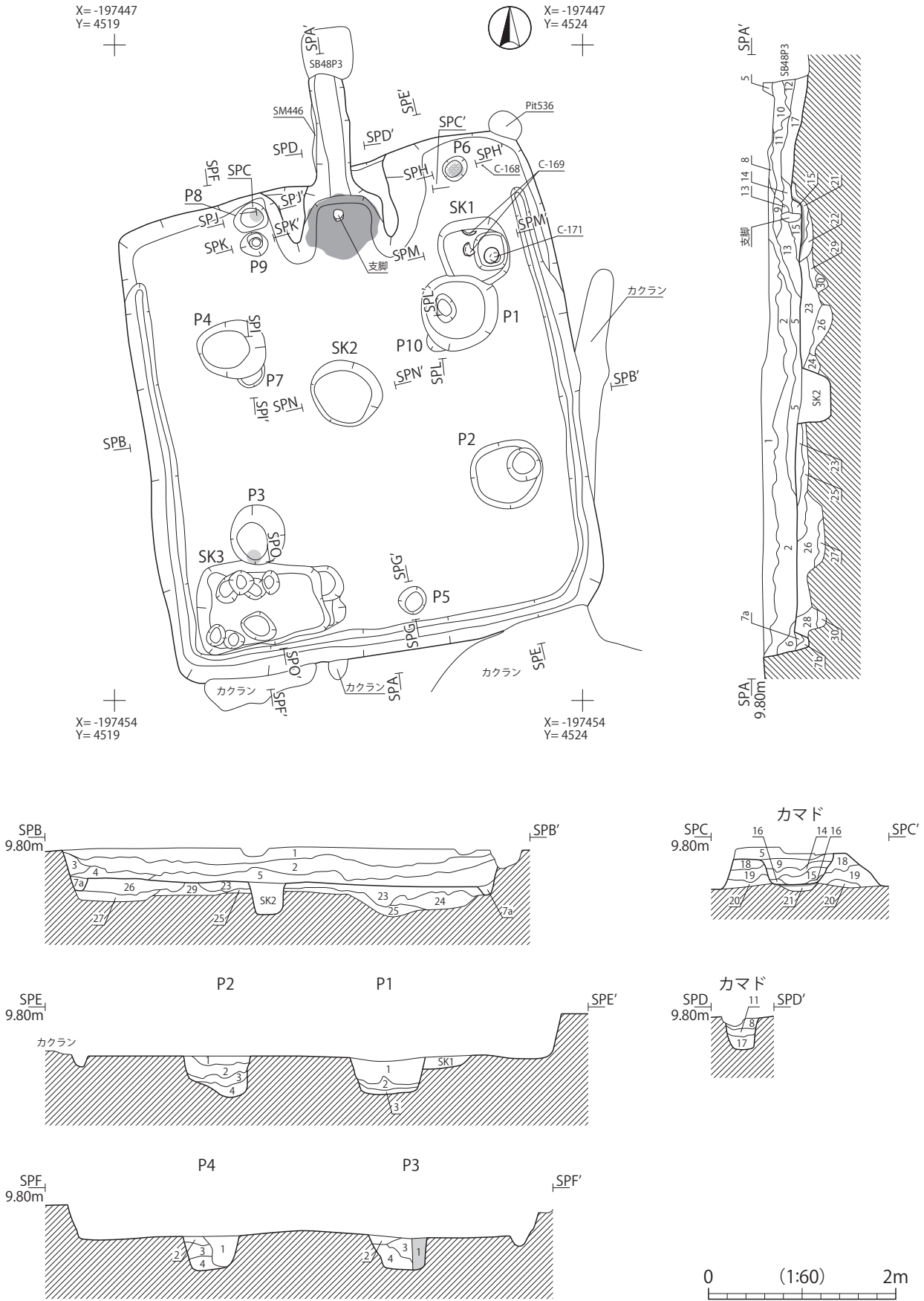
【方向】 カマドを基準としてN-8°-Wを測る。

【堆積土】 大別で30層に分層した。1~6層は暗褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。7層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。8~17層はカマド堆積土である。18~20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23~30層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で49cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、暗褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1~6)、掘り方で4基(P7~10)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1~4の規模は、長軸63~84cm、短軸58~81cm、深さ37~52cmを測る。P3で径16cm程度の柱痕跡、P4で柱の抜き取り痕を確認した。P5は南壁際の中央部付近に配置されるため、入口施設に関連する柱穴と考えられる。P6~10は補助柱穴と考えられ、P6とP8・9がカマドの左右に配置され、P7がP4と、P10がP1と重複する。P6・8の堆積土とP7・9の堆積土下半で、径8~17cm程度の柱痕跡を確認した。



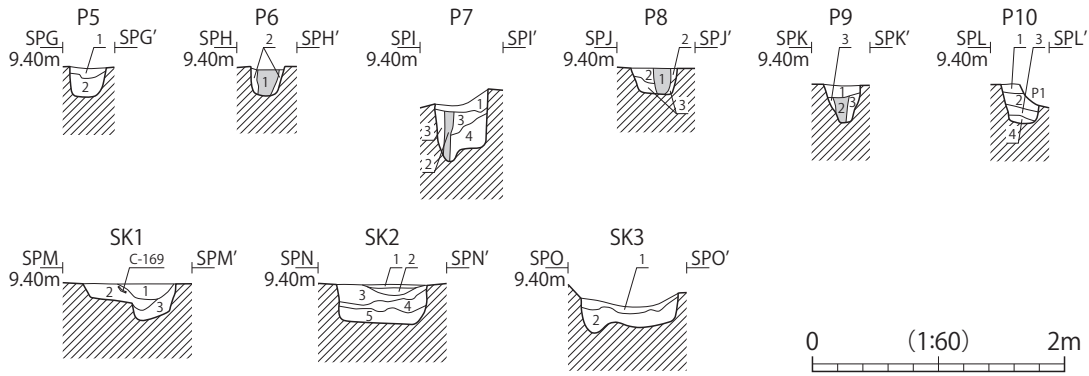
第216図 SI461 竪穴住居跡(1)

SI461 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※東側下位に炭化物10mm程度の厚さで堆積
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	6	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	7b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	8	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒微量含む。
	10	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)・炭化物ブロック(5~30mm程度)少量含む。
	11	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	12	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	13	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	14	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土層。
	15	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック・灰の混層。炭化物粒少量含む。
	16	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	17	5YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
カマド袖構築土	18	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	20	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	21	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)少量含む。
住居掘り方埋土	22	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	23	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	24	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	25	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	26	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~70mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	27	10YR4/4 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	28	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。
	29	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	30	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI461 施設堆積土註記表

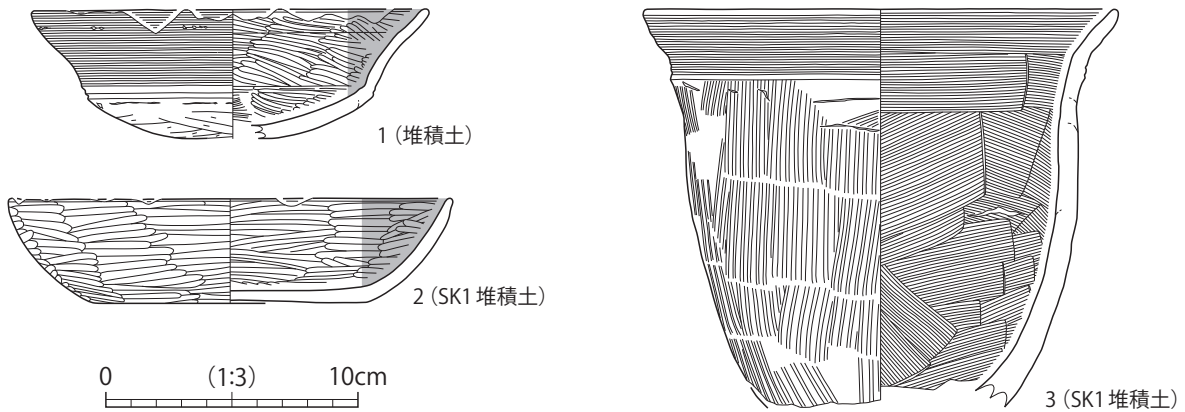
遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR6/4 にぶい黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	焼土ブロック(5~100mm程度)多量、IV層土ブロック(5~30mm程度)・灰白色シルトブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~10mm程度)微量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
P5	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	2	5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	4	7.5YR5/3 にぶい褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P8	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
P9	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰白色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
SK1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5~10mm程度)・焼土粒微量含む。
SK2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量、IV層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、下位に炭化物・灰が5mm程度の厚さで堆積。
SK3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	灰白色シルトブロック(5~30mm程度)少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。



SI461 施設観察表

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	84×81	45	主柱穴
P2	円形	78×72	52	主柱穴
P3	楕円形	63×58	38	主柱穴 柱痕跡
P4	楕円形	72×62	37	主柱穴
P5	円形	29×27	24	補助柱穴(入口施設)
P6	円形	27×23	27	補助柱穴 柱痕跡
P7	(楕円形)	(44)×(31)	58	補助柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P8	楕円形	37×29	22	補助柱穴 柱痕跡
P9	円形	27×26	31	補助柱穴 柱痕跡
P10	(円形)	(35)×(30)	43	補助柱穴
SK1	隅丸方形	(74)×(73)	30	貯蔵穴
SK2	円形	75×69	36	カマド関連土坑
SK3	隅丸長方形	158×90	38	性格不明土坑



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-168	SI461	堆積土	土師器	環	(15.6)	—	(5.1)	口縁：ヨナデ 体～底部：ヘラスリ	ヘミガキ	内面黒色処理	339
2	C-169	SI461 SK1	堆積土	土師器	環	17.4	10.8	4.1	ヘミガキ	ヘミガキ	内面黒色処理	339
3	C-171	SI461 SK1	堆積土	土師器	甕	18.6	—	(15.8)	口縁：ヨナデ 胴部：ルメ	口縁：ヨナデ 胴部：ヘミガキ		339

第217図 SI461 竪穴住居跡(2)・同出土遺物

【周溝】 残存範囲では北壁と北東・北西隅を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形を呈し、規模は幅15～33cm、深さ3～20cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ103cm、幅63cm、西袖は長さ82cm、幅49cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き70cm、幅82～91cmを測る。底面は概ね平坦で、長径77cm程度の焼面がみられる。焼面では奥壁側の中央部に、棒状の自然礫による支脚が設置されている。奥壁は外傾しながら直線的に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は先端付近がSB48の重複により失われているが、規模は残存値で長さ132cm、幅45cm、深さ49cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに下がる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)、掘り方で1基(SK3)の土坑を検出した。SK1はP1の北東側に重複し、SK2は中央部、SK3は南西隅に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、

カマド関連の土坑とみられる。SK3の性格は不明だが、壁面・底面ともに凹凸が激しく、採掘坑に似た形状を呈する。SK1の平面形は隅丸方形を呈し、規模は残存値で長軸74cm、短軸73cm、深さ30cmを測る。二段に掘り込まれ、内部には灰白色粘土が薄く貼られている。SK2の平面形は円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸69cm、深さ36cmを測る。SK3の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸158cm、短軸90cm、深さ38cmを測る。

【掘り方】 深さ7～33cmを測る。中央部を除き、一段ないし二段低く不規則に掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、金属製品、鉄滓などが出土し、土師器坏2点・甕1点を掲載した(第217図)。2・3はSK1から出土した。1・2は土師器坏である。1は扁平な丸底で、口縁部は直立気味に立ち上がった後外反気味に外傾する。口縁部と体部の境の外面には沈線状の段を2段、内面には稜を持つ。2は薄手で、平底から内湾し、口縁部でわずかに外反する。1・2はともに内面に黒色処理が施されている。1は器形から東北地方北部の影響を受けたものと考えられる。3は中型の土師器甕である。砲弾形と考えられ、口縁部は直線的に外傾する。頸部に段を持つ。外面に幅の広い粗めのハケメが施されている。

【時期】 SK1から出土した土師器坏・甕(第217図2・3)の特徴から、5期(7世紀末頃～8世紀初頭)～6期(8世紀前半)と考えられる。

SI462 竪穴住居跡(第218図)

【位置・確認】 調査区北西部の43・44・51・52区に位置する。北東部はSD305、床面の一部はSI461、SB48の重複や攪乱により失われている。

【重複】 SI461、SB48より古く、SI465・466・493、Pit1282より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸521cm、短軸425cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-17°-Wを測る。

【堆積土】 大別で23層に分層した。1～5層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。6・7層は周溝堆積土で、このうち6層は堰板痕跡である。8層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。9～12層はカマド堆積土である。13・14層はカマド袖構築土、15～18層はカマド掘り方埋土、19～23層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で33cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸37～57cm、短軸36～51cm、深さ28～32cmを測る。P2の堆積土下半とP3・4の堆積土で、径9～20cm程度の柱痕跡、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P5～7は補助柱穴と考えられ、P5がP2とP3の中間に、P6が中央部付近に配置されている。P5の堆積土で、径10cm程度の柱痕跡を確認した。P7は土坑状を呈し、堆積土がシルトと炭化物の互層であることから、柱穴以外の性格も考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形を呈し、規模は幅12～26cm、深さ4～11cmを測る。

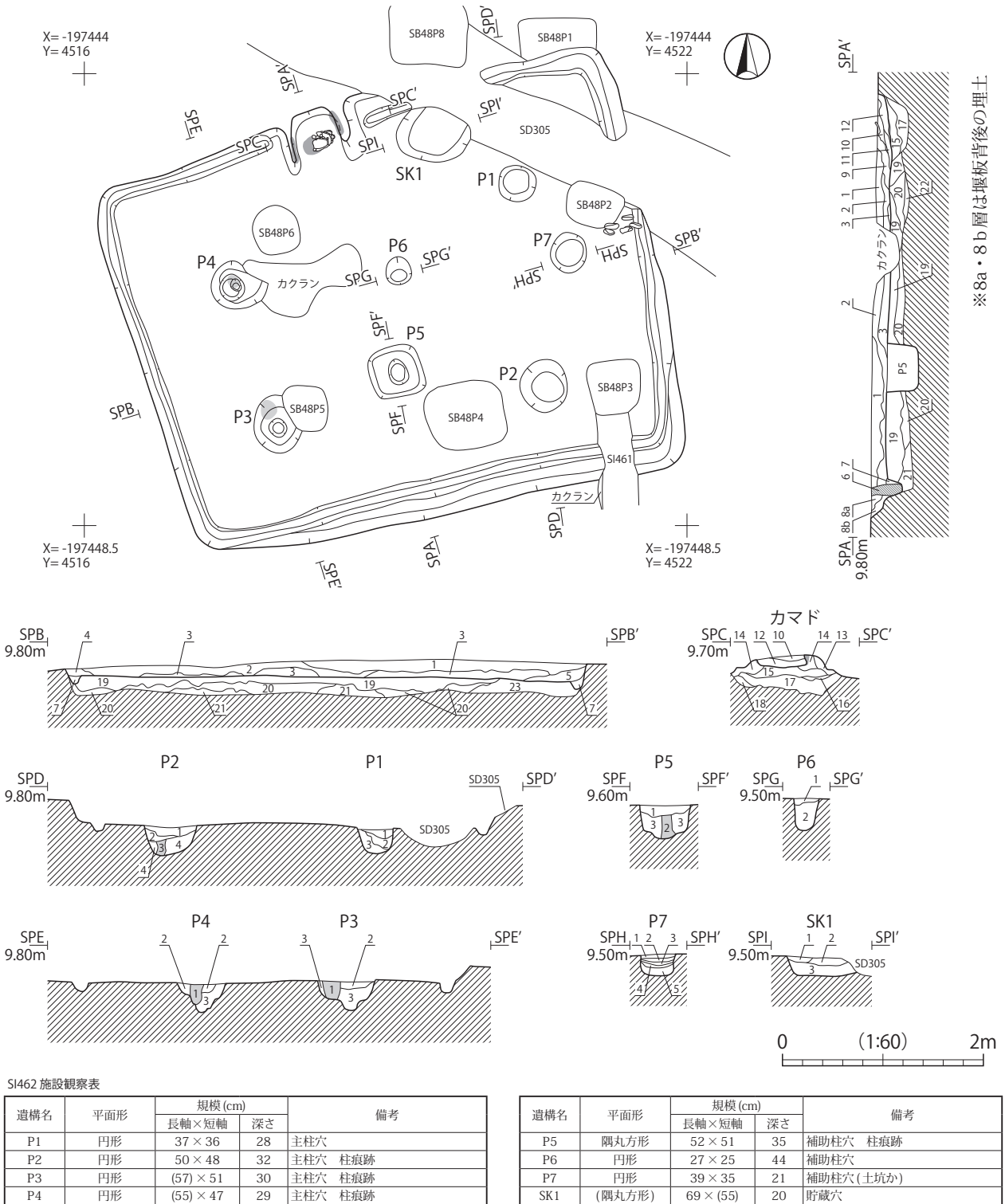
【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平やSD305の重複により失われている。袖は壁面に対して直交し、東袖の規模は長さ60cm、幅22cm、西袖は長さ52cm、幅15cmを測る。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き58cm、幅48cmを測る。底面は奥壁に向かって緩やかに立ち上がり、中央部付近に長径18cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら内湾気味に7cm程度立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。カマドの東側に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は隅丸方形と考えられ、規模は残存値で長軸69cm、短軸55cm、深さ20cmを測る。

【掘り方】 深さ1～23cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土したが図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI461・465・466・493との新旧関係から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)～6期(8世紀前半)と考えられる。



第218図 SI462 竪穴住居跡

SI462 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。
	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
堰板痕跡	6	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
堰板背後の埋土	8a	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	8b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	9	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量含む。
	11	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
カマド袖構築土	12	5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒・炭化物粒・灰多量含む。
	13	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	14	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量含む。
	17	7.5YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	18	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	19	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	20	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	21	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	22	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	23	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

SI462 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)微量含む。 ※柱痕跡
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)・焼土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P6	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	IV層土粒少量、礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	風化炭化物層。IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	4	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	風化炭化物層。IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	5	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、炭化物粒少量含む。
SK1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、IV層土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)微量含む。

SI463 竪穴住居跡(第219~221図)

【位置・確認】 調査区西部の86・95区に位置する。SD308の重複や攪乱により、壁・床面が部分的に失われている。

【重複】 SD308より古く、SI464・470・495より新しい。

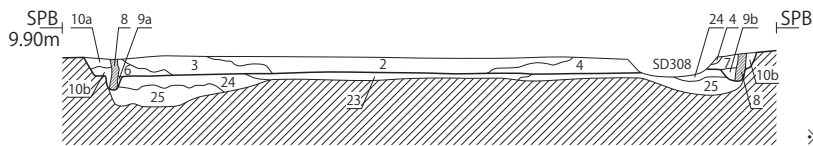
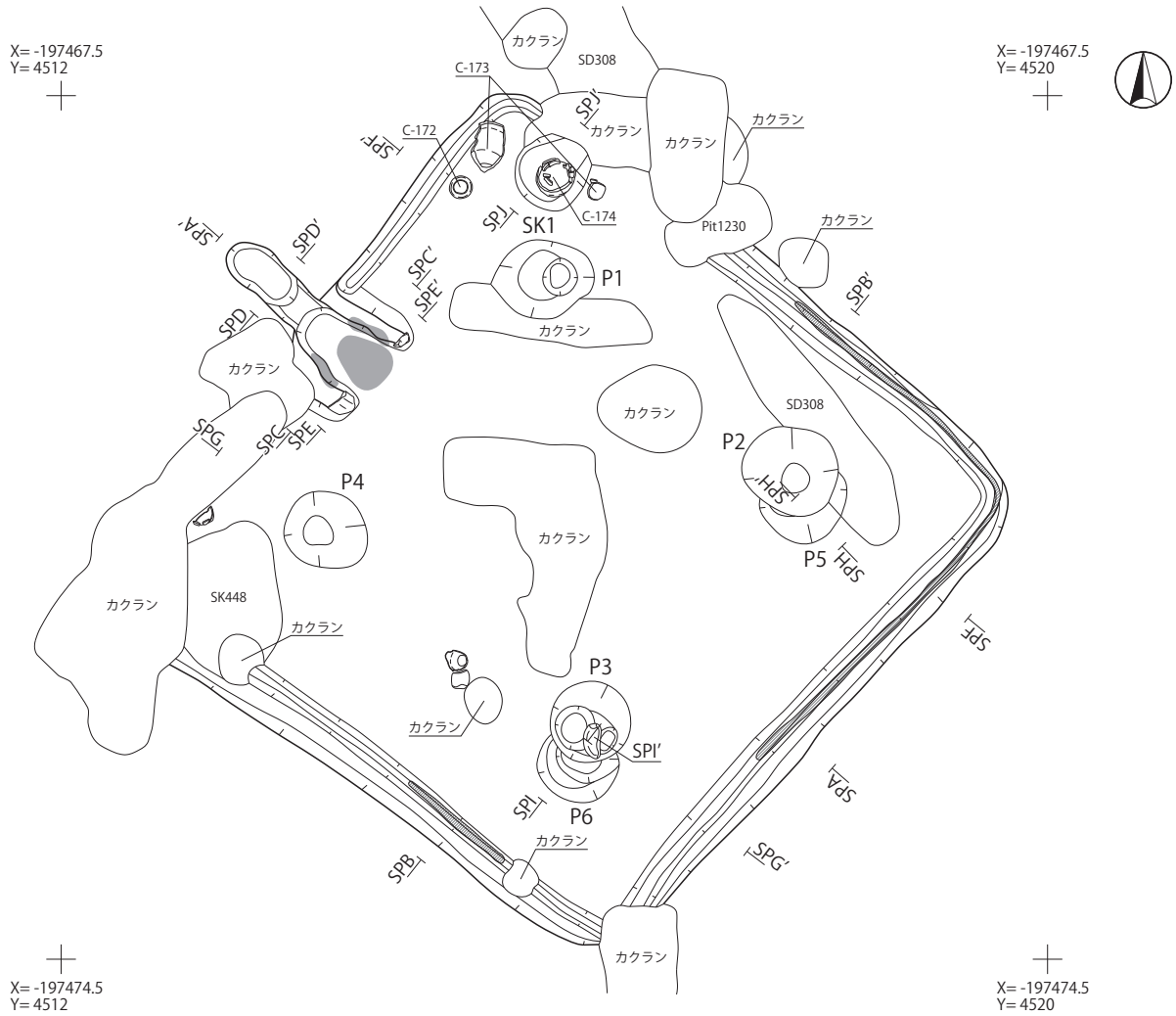
【規模・形態】 確認された規模は長軸549cm、短軸544cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-49°-Wを測る。

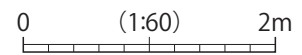
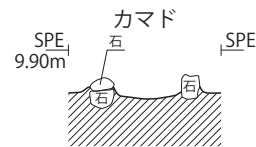
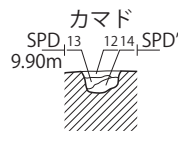
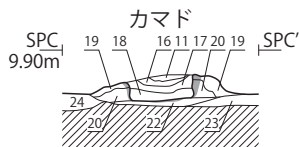
【堆積土】 大別で25層に分層した。1~7層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。8・9層は周溝堆積土で、このうち8層は堰板痕跡である。9層はa・bの2層に細別した。10層は堰板背後の埋土で、a・bの2層に細別した。11~18層はカマド堆積土である。19・20層はカマド袖構築土、21・22層はカマド掘り方埋土、23~25層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で21cmを測る。

【床面】 中央部がわずかに高まり、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。



※10a・10b層は堰板背後の埋土



SI463 施設観察表

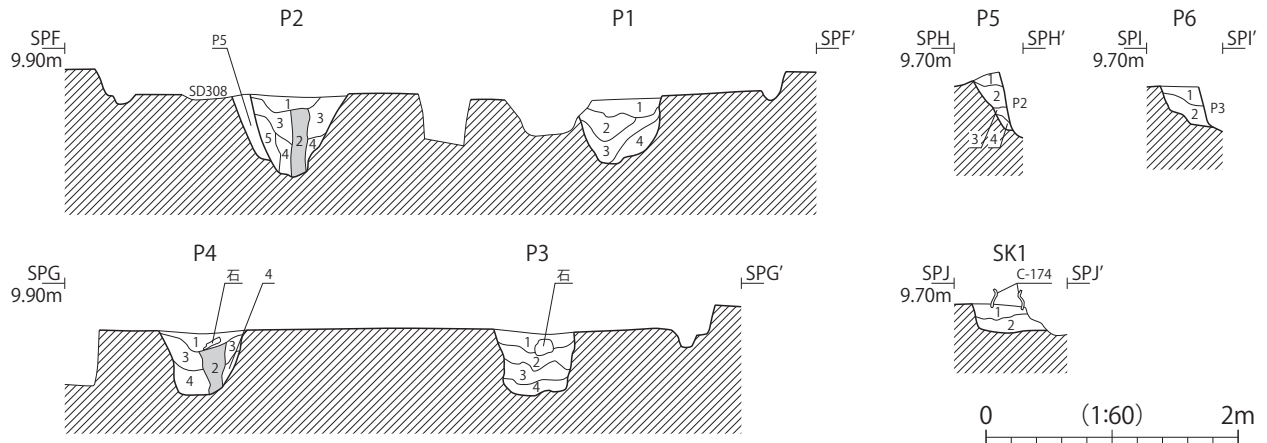
遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(楕円形)	83 × (63)	52	主柱穴
P2	(円形)	78 × (70)	65	主柱穴 柱痕跡
P3	円形	67 × 64	53	主柱穴
P4	円形	69 × 62	53	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模 (cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	(円形)	(70) × (59)	50	旧主柱穴か
P6	(円形)	64 × (43)	43	旧主柱穴か
SK1	円形	(61) × 58	27	貯蔵穴

第219図 SI463 竪穴住居跡 (1)

SI463 堆積土註記表

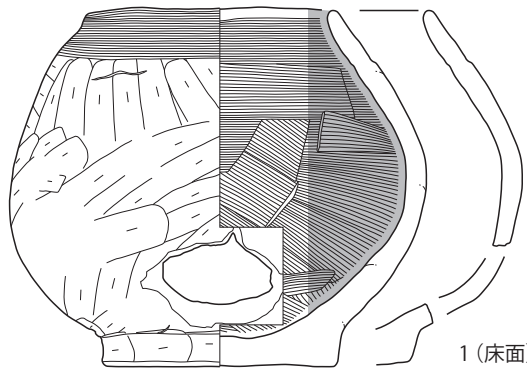
部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※大半グライ化
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
堰板痕跡	8	10YR3/1 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	9a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	9b	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
堰板背後の埋土	10a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	10b	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)少量含む。
カマド堆積土	11	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(10~40mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	13	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	14	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)・骨片少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
	17	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5~10mm程度)・骨片少量含む。
	18	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。 ※灰層
カマド袖構築土	19	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※内面被熱
	20	10YR6/4 にぶい黄褐色	シルト	褐灰色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
カマド掘り方埋土	21	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	22	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。 ※上面被熱
住居掘り方埋土	23	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※大半グライ化
	24	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	25	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。



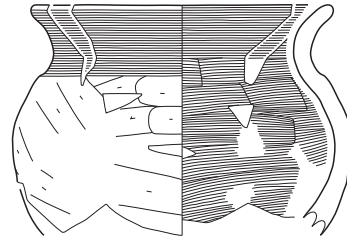
SI463 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5~20mm程度)少量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量含む。
P4	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土粒・灰白色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
P6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(10mm程度)微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~50mm程度)・粗砂多量含む。

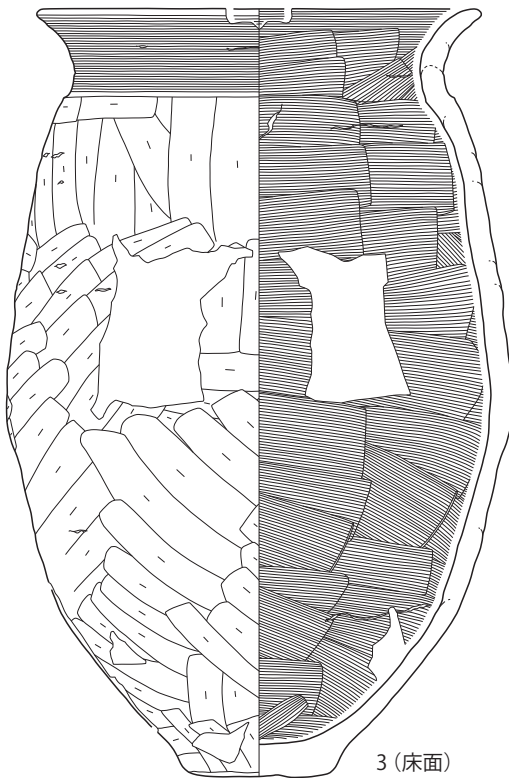
第220図 SI463 竪穴住居跡(2)



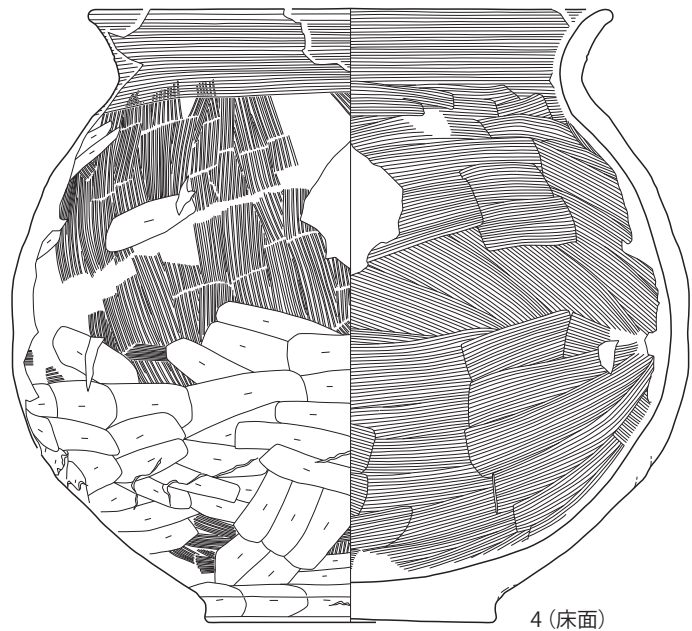
1 (床面)



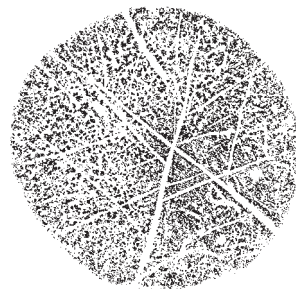
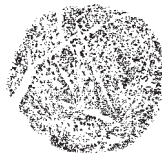
2 (カマド堆積土)



3 (床面)



4 (床面)



0 (1:3) 10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量 (cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-172	SI463	床面	土師器	鉢	9.7	9.0	14.2	口縁：ヨナデ 体～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体～底部：ハナデ	内面黒色処理 胴部下位焼成後穿孔	340
2	C-477	SI463 カマド	堆積土	土師器	甕	(11.7)	—	(9.1)	口縁：ヨナデ 胴部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴部：ハナデ	骨針少量含む 内外面やや摩滅	339
3	C-173	SI463	床面	土師器	甕	(17.3)	(5.6)	30.5	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	底部木葉痕 骨針少量含む	339
4	C-174	SI463	床面	土師器	甕	(20.2)	11.1	24.3	口縁：ハナメ→ヨナデ→沈線か 胴～底部：ハナメ→ハラスリ	口縁：ヨナデ 胴～底部：ハナデ	底部木葉痕 骨針少量含む	340

第221図 SI463 竪穴住居跡出土遺物

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸67～83cm、短軸62～70cm、深さ52～65cmを測る。P2・4の堆積土下半で径14～20cm程度の柱痕跡を、P1で柱の抜き取り痕を確認した。P3・4の堆積土上層から、扁平な自然礫が出土した。P5はP2と、P6はP3と重複し、その状況や規模から、建て替え前の古い支柱穴の可能性が考えられる。

【周溝】 残存範囲ではカマド部分を除き、壁面に沿ってめぐる。断面形は台形ないしU字形を呈し、規模は幅14～20cm、深さ3～12cmを測る。

【カマド】 西壁中央部に位置し、壁面に直交して付設されている。袖は壁面に対して直交し、南袖の規模は長さ74cm、幅33cm、北袖は長さ80cm、幅28cmを測る。両袖の先端部には扁平な自然礫による芯材が埋設されているが、ともに上部を欠損する。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き83cm、幅53～57cmを測る。底面は概ね平坦で、中央部から焚口付近にかけて長径48cm程度の焼面がみられる。奥壁は外傾しながら直線的に10cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は長さ80cm、幅31cm、深さ8～15cmを測り、底面は中央部で一段落ち込み、先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北東隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸61cm、短軸58cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】 深さ6～31cmを測り、カマド部分と中央部を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器が出土し、土師器鉢1点・甕3点を掲載した(第221図)。1・3・4は、北東隅からまとまって出土した。1は土師器鉢で、大きめの平底から内湾して立ち上がり、口縁部は直線的に内傾する。口縁部と体部の境に段を持つ。内面に黒色処理が施されている。外面は縦方向を基本とする弱いヘラケズリが施され、体部中位は斜方向、下端は横方向と部位によって方向が異なる。体部下位は焼成後に内側から穿孔されている。2～4は土師器甕で、2は小型品である。いずれも胴部中位に最大径が位置し、3は張りのある楕円形、2・4は球胴形を呈する。いずれも口縁部は緩やかに外反する。2・3の頸部は段を持つが、4には認められない。4の口縁部中位に沈線状の段が部分的に認められる。いずれも外面に弱いヘラケズリが施されており、3は調整の方向が上・中・下位で異なる。2の色調はにぶい橙色～灰褐色、3は暗褐色、4は浅黄橙色～暗褐色を呈する。2の胎土はやや粗く、砂粒と少量の海綿骨針含み、3・4は精良で、細砂と少量の海綿骨針を含む。3・4の内面の色調は黒褐色～暗褐色を呈し、胎土、焼成などが類似している。

【時期】 床面とカマドから出土した土師器鉢・甕(第221図1～4)の特徴から、3期(6世紀末頃～7世紀前半)と考えられる。

SI464 竪穴住居跡(第222・223図)

【位置・確認】 調査区西部の77・78・86・87区に位置する。西壁がSI463、SD308の重複、北東隅の壁上部と床面の一部が攪乱により失われている。

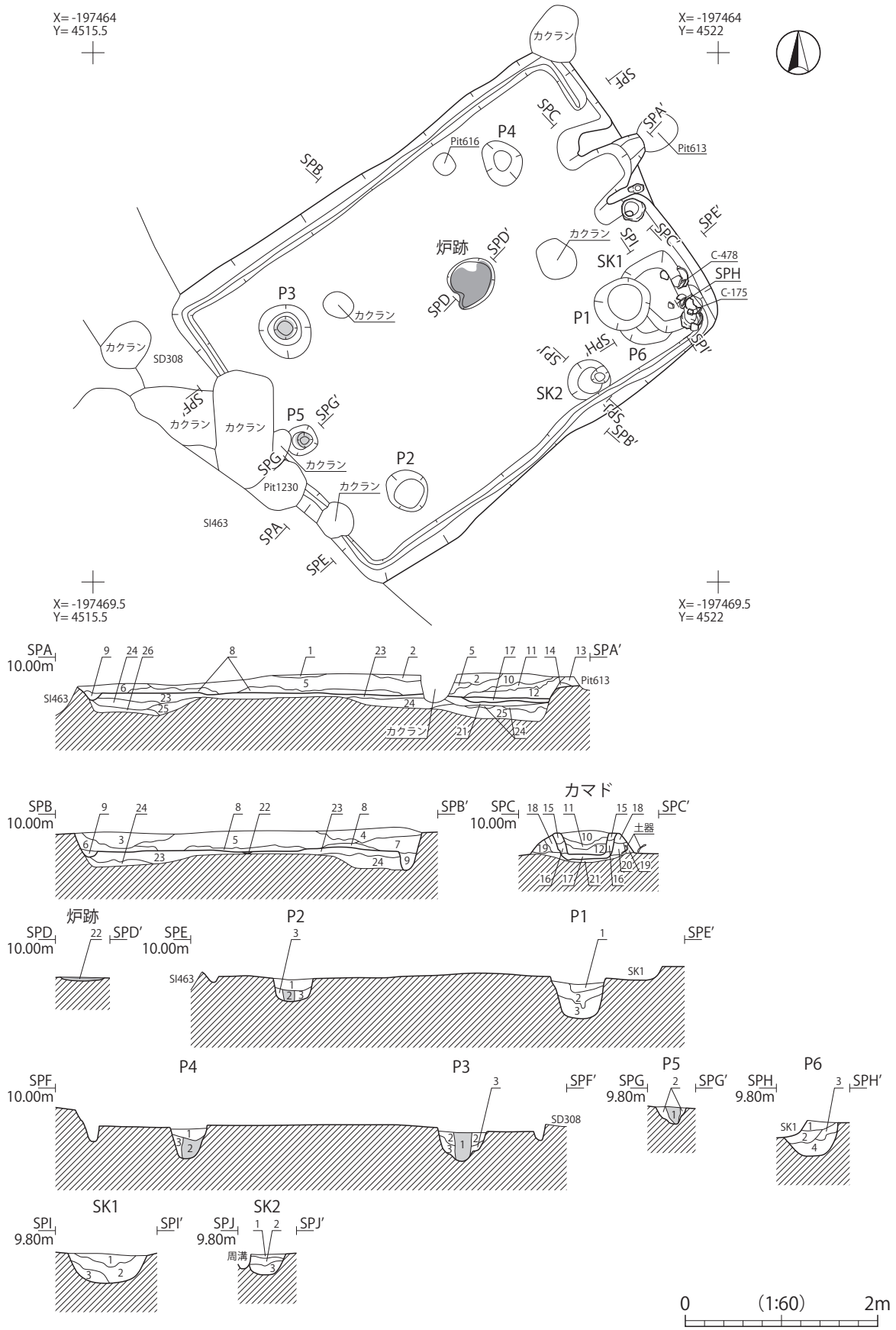
【重複】 SI463、SD308より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸489cm、短軸371cmを測り、平面形は東西に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN-53°-Eを測る。

【堆積土】 26層に分層した。1～8層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。9層は周溝堆積土、10～14層はカマド堆積土である。カマドは袖の補修が行われており、15・16層は補修時の構築土である。17層は補修前のカマド堆積土で、18～20層は補修前の袖構築土、21層はカマド掘り方埋土である。22層は炉の堆積土、23～26層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で30cmを測る。



第222図 SI464 竪穴住居跡

SI464 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	マンガン粒多量、IV層土粒・灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・酸化鉄少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	9	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
カマド堆積土(新)	10	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	12	5YR5/2 灰褐色	シルト	灰多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド袖構築土(新)	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
カマド堆積土(旧)	16	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※全体被熱
カマド袖構築土(旧)	17	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	18	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒少量含む。
	19	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、IV層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方埋土	20	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。
炉堆積土	22	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。 ※全体被熱
住居掘り方埋土	23	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～40mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	24	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	25	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	26	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、粗砂少量含む。

SI464 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
P3	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P4	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	1	10YR5/1 褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、礫(20mm程度)・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・粗砂少量含む。
	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土粒少量含む。
SK2	1	7.5YR6/2 灰褐色	シルト	灰白色シルトブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック(5～10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。
	3	7.5YR5/2 灰褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・粗砂少量、炭化物粒微量含む。

SI464 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考	遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ				長軸×短軸	深さ	
P1	円形	56×56	41	主柱穴	P5	隅丸方形	32×30	14	補助柱穴(入口施設か) 柱痕跡
P2	円形	46×42	25	主柱穴 柱痕跡	P6	(円形)	(61)×(59)	46	旧主柱穴か
P3	円形	57×52	33	主柱穴 柱痕跡	SK1	隅丸長方形	83×51	33	貯蔵穴
P4	楕円形	48×39	31	主柱穴 柱痕跡	SK2	円形	44×(38)	15	カマド関連土坑

【床面】 概ね平坦で、灰黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基(P1～6)を検出した。規模や位置から主柱穴と考えられるP1～4の規模は、長軸46～57cm、短軸39～56cm、深さ25～41cmを測る。P2・4の堆積土下半とP3の堆積土で、径12～21cm程度の柱痕跡を確認した。P5は西壁際の中央部付近に配置されるため、入口施設に関連する柱穴の可能性はある。堆積土で径15cm程度の柱痕跡を確認した。P6はP1の東側に重複しているため、建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。

【周溝】 カマド部分から東壁の南半部を除き、壁面に沿ってめぐり。断面形はU字形を呈し、規模は幅11～28cm、深さ6～18cmを測る。

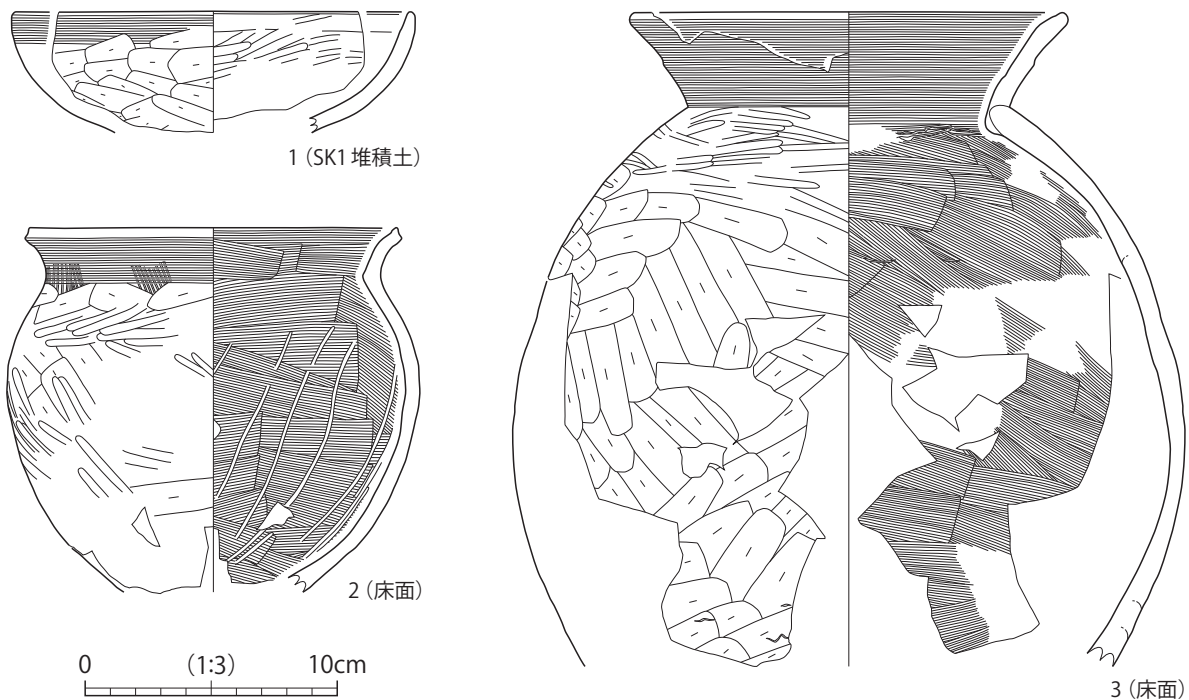
【カマド】 東壁中央部からやや北寄りに位置し、壁面に直交して付設されている。煙道部は削平やPit613の重複により大部分が失われ、燃烧部との接続部付近のみ残存する。袖は壁面に対して「ハ」字状に延び、南袖の規模は長さ62cm、幅27cm、北袖は長さ67cm、幅36cmを測る。袖の内壁は5～10cm程度の厚さで補修が施されている。燃烧部は壁内に位置し、規模は奥行き64cm、幅49cmを測る。底面は概ね平坦で、焼面はみられない。奥壁は外傾しながら緩やかに11cm程度立ち上がり、煙道部へつながる。煙道部は残存値で長さ21cm、幅32cm、深さ10cmを測り、底面は先端部に向かって緩やかに立ち上がる。

【炉】 中央部付近に位置し、弧状に掘り込まれた地床炉である。平面形は不整な円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸46cm、深さ4cmを測る。底面全体に焼面がひろがる。

【その他の施設】 床面で2基(SK1・2)の土坑を検出した。SK1は南東隅、SK2は南東部壁際に位置する。SK1は位置や形状から貯蔵穴、SK2は堆積土に焼土や炭化物を含むことから、カマド関連の土坑とみられる。SK1の平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸83cm、短軸51cm、深さ33cmを測る。SK2の平面形は円形を呈し、規模は残存値で長軸44cm、短軸38cm、深さ15cmを測る。

【掘り方】 深さ4～28cmを測り、中央部を除く壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設、掘り方から土師器・須恵器、土製品などが出土し、土師器坏1点・甕1点・壺1点を掲載した(第223図)。1はSK1から、2・3はSK1の直上の床面から出土した。1は土師器坏で、体部から口縁部に向かって内湾し、口縁部の内面下位に稜を持つ。色調は橙色を呈する。2は中型の土師器甕である。胴部上



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-480	SI464 SK1	堆積土	土師器	坏	(15.8)	—	(4.8)	口縁：ヨナデ 体部：ハラスリ	ハミガキ	内面やや摩滅	340
2	C-175	SI464	床面	土師器	甕	(14.6)	—	(14.4)	口縁：ハメ→ヨナデ 胴部：ハラスリ→ハミガキ	口縁：ヨナデ→ハナデ 胴部：ハナデ→ハミガキ(暗文風)	角閃石微量含む 外面胴部下 半二次被熱による赤色化・ 剥離	340
3	C-478	SI464	床面	土師器	壺	(17.0)	—	(26.0)	口縁：ヨナデ 体上位：ハミガキ 体中～下位：ハラスリ	口縁：ヨナデ 体部：ハナデ	角閃石少量含む	340

第223図 SI464 竪穴住居跡出土遺物

位に最大径が位置する球胴形で、頸部は「く」字状に屈曲する。口縁部は外反気味に外傾し、端部で上方につまみ出される。胴部の内面にはヘラナデ後細いヘラミガキが放射状に間隔をあけて施されている。色調は浅黄橙色～橙色を呈する。3は土師器壺である。胴部中位に最大径が位置する張りの強い楕円形で、頸部は強く屈曲する。口縁部は直線的に外傾し、端部で稜を持って外傾し開く。口縁部中位の内外面に段が形成される。色調は明赤褐色～灰褐色を呈する。

【時期】 床面から出土した土師器坏・壺・甕(第223図1～3)の特徴から、1期(5世紀後半)と考えられる。

SI465 竪穴住居跡(第224・225図)

【位置・確認】 調査区北西部の43・44・52区に位置する。大部分がSI462、SB48、SD305の重複により失われ、北・東壁際周辺が残存する。

【重複】 SI462、SB48より古く、SI466、Pit1280・1287より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸427cm、短軸421cmを測り、平面形は方形と考えられる。

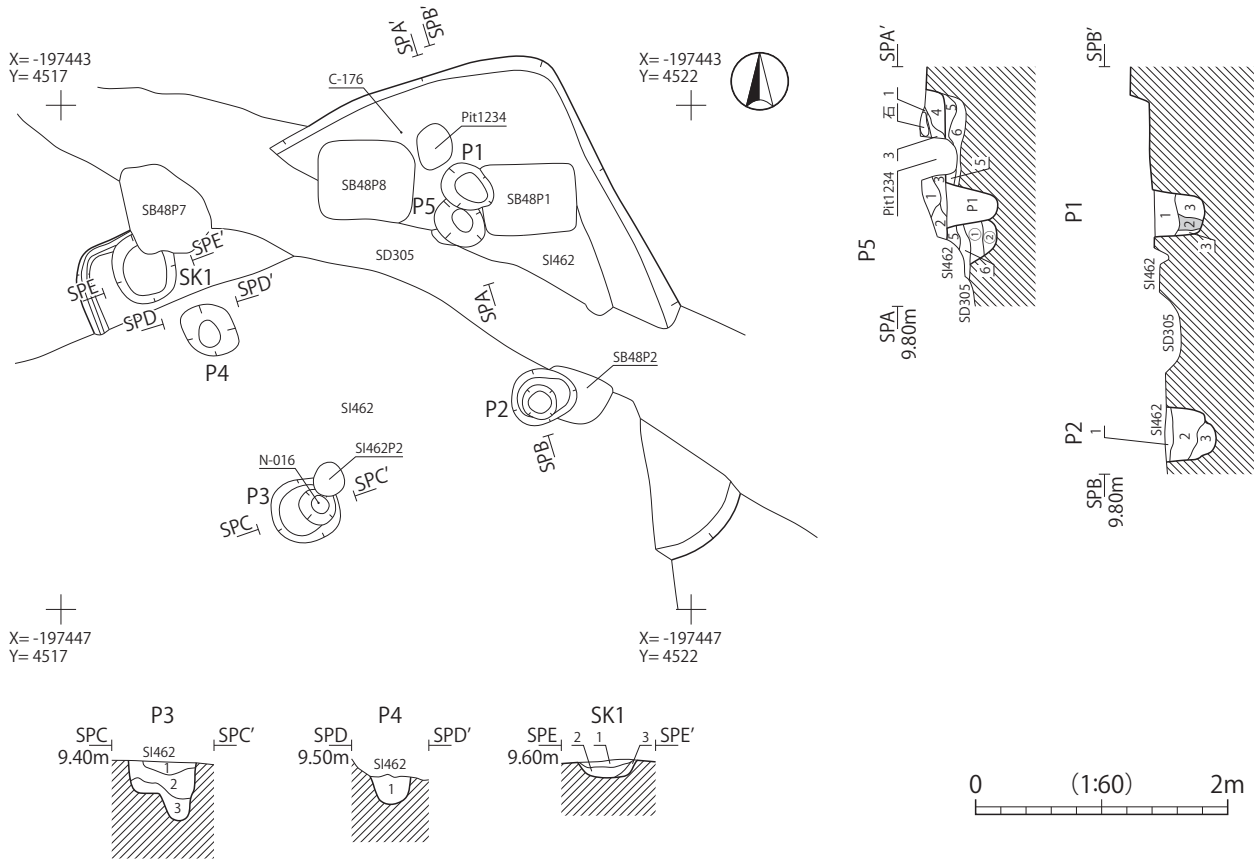
【方向】 東壁を基準としてN-28°-Wを測る。

【堆積土】 6層に分層した。1～4層はにぶい黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。5・6層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、灰褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI462の重複範囲内で4基(P1～4)、掘り方で1基(P5)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸43～54cm、短軸35～51cm、深さ24～49cmを測る。P1の



第224図 SI465 竪穴住居跡

SI465 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	炭化物粒少量、IV層土ブロック(5~10mm程度)微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	5	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、焼土ブロック(5~10mm程度)・炭化物ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。

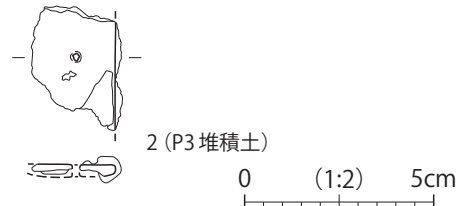
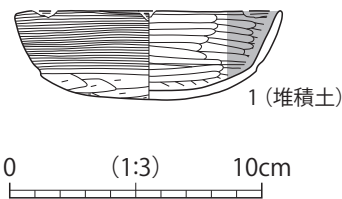
SI465 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、粗砂少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P5	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
	2	5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。

SI465 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	(43)×(35)	42	主柱穴 柱痕跡
P2	(楕円形)	(52)×(43)	40	主柱穴
P3	(円形)	(54)×(51)	49	主柱穴

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P4	(楕円形)	(43)×(38)	(24)	主柱穴
P5	(楕円形)	(43)×(33)	25	旧主柱穴か
SK1	円形	56×49	13	貯蔵穴



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			外面調整	内面調整	備考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-176	SI465	堆積土	土師器	環	10.4	—	3.5	口縁：ヨナリ 体～底部：ハカズリ	ハミガキ	内面黒色処理 角閃石多量含む	340
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量(cm)			重量(g)	備考	写真図版	
2	N-016	SI465 P3	堆積土	金属製品	鉄製小札	全長	幅	厚さ				3.6

第225図 SI465 竪穴住居跡出土遺物

堆積土下半で、径12cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP1の南西側に重複し、その状況や規模などから建て替え前の古い主柱穴であった可能性がある。

【周溝】 残存範囲では、北西隅の壁際のみで検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅9~12cm、深さ3~9cmを測る。

【その他の施設】 床面で1基(SK1)の土坑を検出した。北西隅に位置し、形状からも貯蔵穴とみられる。平面形は円形を呈し、規模は長軸56cm、短軸49cm、深さ13cmを測る。

【掘り方】 深さ6~15cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設、掘り方から土師器、金属製品などが出土し、土師器環1点、金属製品1点を掲載した(第225図)。2はP3から出土した。1は小型品の土師器環で、扁平な丸底を呈し、口縁部は直線的に外傾する。口縁部と体部の境には段を持つ。内面に黒色処理が施されている。2は鉄製小札で、穿孔が認められる。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI462との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI466 竪穴住居跡(第226図)

【位置・確認】 調査区西部の43・51区に位置する。北東部はSI462の重複により失われ、西半部も削平により壁の上部や床面が失われている。

【重複】 SI462・465より古い。

【規模・形態】 確認された規模は長軸421cm、短軸400cmを測り、平面形は方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN-38°-Eを測る。

【堆積土】 大別で5層に分層した。1層は灰黄褐色シルトの住居堆積土である。2層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。3～5層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 壁高は最大で7cmが残存するが、形状は不明である。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面およびSI462の重複範囲内で7基(P1～7)を検出した。規模や位置から支柱穴と考えられるP1～4の規模は、残存値も含め長軸33～51cm、短軸32～44cm、深さ44～63cmを測る。

P1の堆積土で径17cm程度の柱痕跡、P4の堆積土下層で径24cm程度の柱痕跡を確認した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P5はP1と北壁の間、P6はP3とP4の間に配置されている。P6の底面で径10cm程度の変色範囲を確認した。P7はP3の北側で重複することから、建て替え前の古い支柱穴であった可能性がある。径14cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 残存範囲では西壁の中央部付近を除き、壁面に沿ってめぐり、断面形はU字形ないしV字形に近い形状を呈し、規模は幅8～14cm、深さ7～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はないが、SI462との新旧関係から、6期(8世紀前半)以前と考えられる。

SI467 竪穴住居跡(第227図)

【位置・確認】 調査区西部の95・103区に位置する。壁および床面全体は削平により失われ、掘り方のみ残存する。残存する掘り方のうち、北半部は攪乱により大部分が失われている。

【重複】 SI469より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸457cm、短軸332cmを測り、平面形は東側に広がる台形を呈する。

【方向】 東壁を基準としてN-33°-Wを測る。

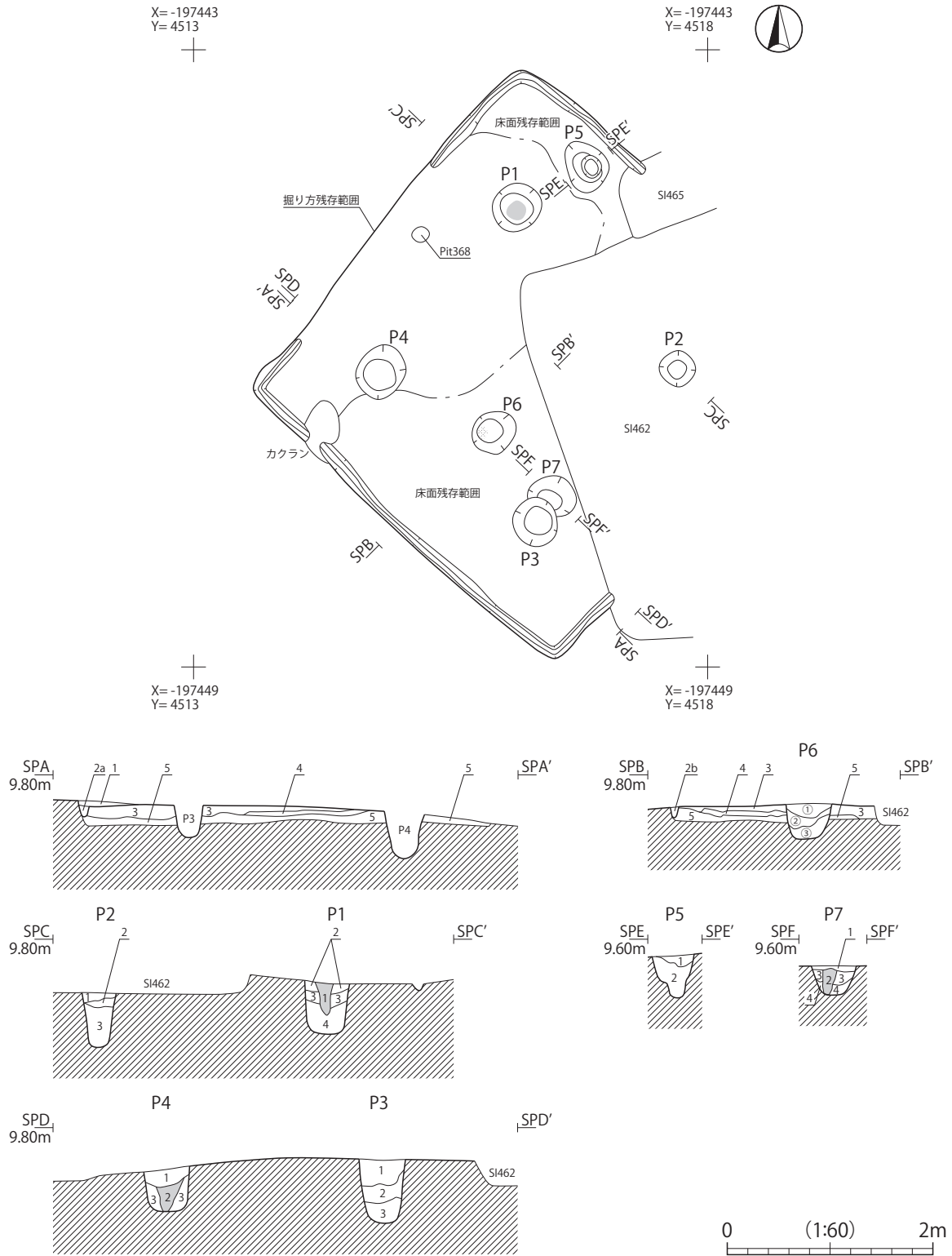
【堆積土】 3層に分層した。いずれも住居掘り方埋土である。

【柱穴】 掘り方底面で3基(P1～3)を検出した。規模や位置からいずれも支柱穴と考えられ、P1が北東、P2が南東、P3が南西の各隅に配置されている。規模は残存値も含め長軸47～54cm、短軸35～48cm、深さ32～45cmを測る。

【掘り方】 残存値で深さ5～25cmを測り、壁側が一段低く掘り込まれている。

【出土遺物】 土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。



SI466 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5mm程度) 少量、炭化物粒微量含む。
	2b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 少量含む。
住居掘り方埋土	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック (5～30mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック (5～10mm程度) 多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第226図 SI466 竪穴住居跡

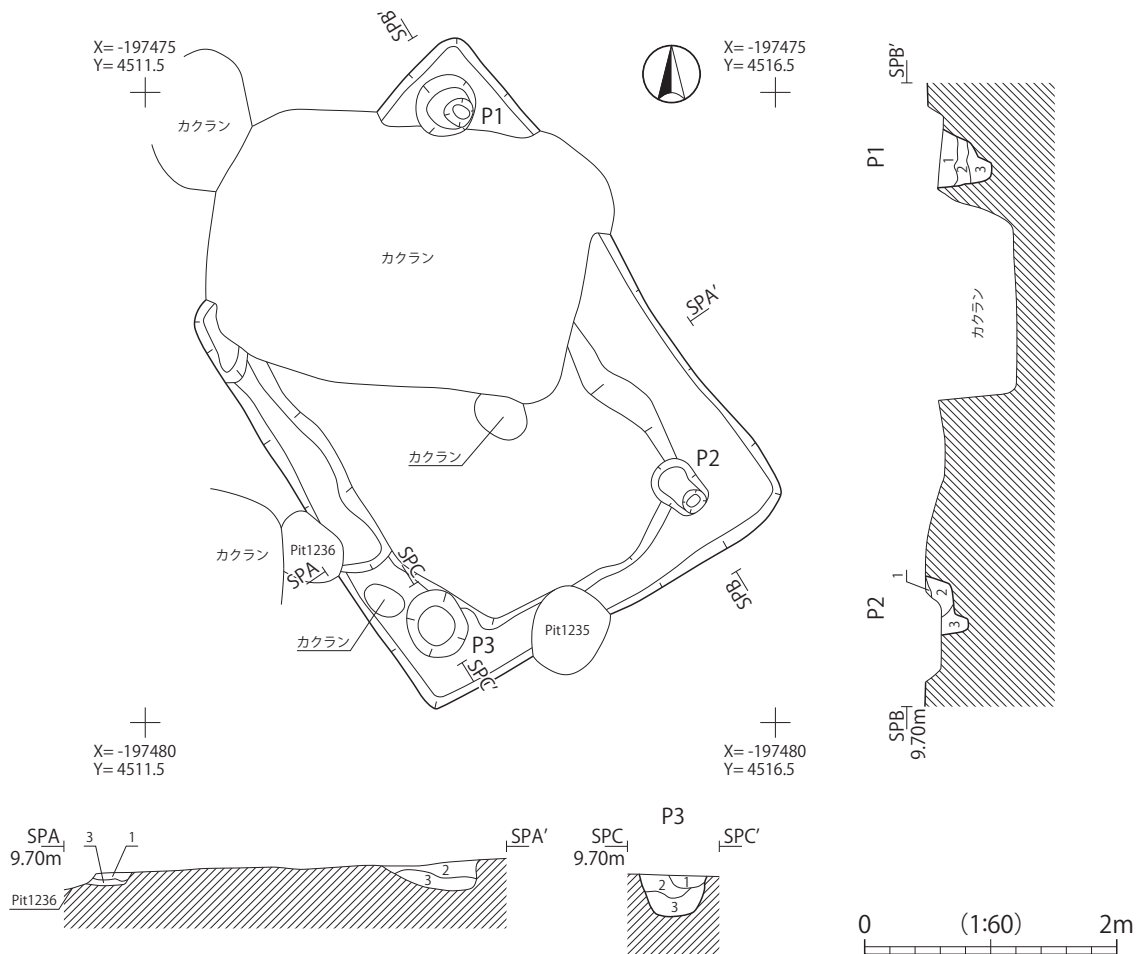
SI466 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒多量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量含む。
P4	1	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P6	①	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR5/1 褐灰色	シルト	IV層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	③	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
P7	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。 ※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。

SI466 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	(円形)	(48)×(44)	(51)	主柱穴 柱痕跡
P2	(円形)	(33)×(32)	(52)	主柱穴
P3	円形	48×43	63	主柱穴
P4	(円形)	(51)×(44)	44	主柱穴 柱痕跡

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P5	楕円形	49×41	43	補助柱穴
P6	円形	45×41	31	補助柱穴
P7	円形	(47)×(40)	47	旧主柱穴か 柱痕跡



第227図 SI467 竪穴住居跡

SI467 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居掘り方埋土	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量含む。

SI467 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、粗砂少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)多量、灰白色シルトブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5~10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。

SI467 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	50×48	45	主柱穴
P2	楕円形	47×35	34	主柱穴
P3	楕円形	54×45	32	主柱穴

SI468 竪穴住居跡(第228図)

【位置・確認】 調査区西部の94・95・102・103区に位置する。西半部と南東部は攪乱により失われている。

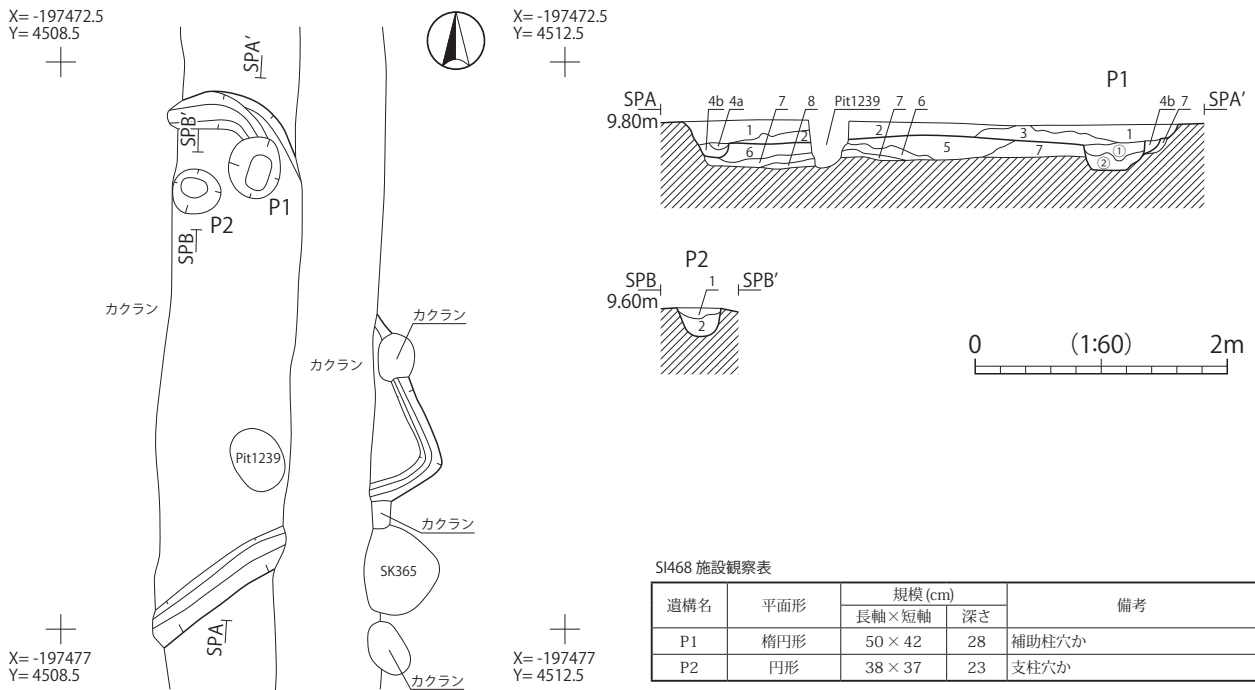
【重複】 SI469より新しい。

【規模・形態】 確認された規模は長軸358cm、短軸267cmを測り、平面形は方形ないし長方形と考えられる。

【方向】 東壁を基準としてN-25°-Wを測る。

【堆積土】 大別で8層に分層した。1~3層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、堆積状況から人為的な埋土とみられる。4層は周溝堆積土で、a・bの2層に細別した。5~8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 外傾しながら直線的に立ち上がり、壁高は最大で20cmを測る。



SI468 施設観察表

遺構名	平面形	規模(cm)		備考
		長軸×短軸	深さ	
P1	楕円形	50×42	28	補助柱穴か
P2	円形	38×37	23	支柱穴か

第228図 SI468 竪穴住居跡

SI468 堆積土註記表

部位	層位	土色	土性	備考
住居堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
周溝堆積土	4a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)多量含む。
	4b	10YR3/2 黒褐色	シルト	IV層土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方埋土	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	7	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。
	8	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～20mm程度)多量含む。

SI468 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土色	土性	備考
P1	①	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	IV層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～30mm程度)多量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	IV層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒少量含む。

【床面】 概ね平坦で、にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で2基(P1・2)を検出した。ともに北東隅付近に配置されるため、支柱穴や補助柱穴の可能性はある。

【周溝】 残存範囲では、南壁から南東隅と北東隅で部分的に検出した。断面形はU字形を呈し、規模は幅14～30cm、深さ9～16cmを測る。

【掘り方】 深さ6～18cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】 堆積土、床面施設から土師器が出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 時期決定できる遺物はなく、詳細な時期は不明である。

仙台市文化財調査報告書第512集
長町駅東遺跡第14次調査(1)
—総合店舗建設に伴う令和元年度発掘調査報告書—
[第1分冊]

2024年3月

発行 仙台市教育委員会
〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉1丁目
5番12号 上杉分庁舎10階
TEL022-214-8899 (文化財課)

印刷 株式会社 仙台紙工印刷
〒983-0036 宮城県仙台市宮城野区苦竹3丁目1-14
TEL022-231-2245
